

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第217集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第44集

# 南蛇井増光寺遺跡 V

C区・縄文・弥生時代  
(本文編)

1 9 9 7

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第217集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第44集

# 南蛇井増光寺遺跡 V

C区・縄文・弥生時代  
(本文編)

1 9 9 7

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団





C170号住居



C363号住居



土偶 (C148号住居出土)



硬玉製大珠 (C 5号住居出土)



板状土偶 (C97号土坑出土)



石棒 (C q50グリッド出土)

## 序

長野県との境に源を発する簗川が流れる簗の谷は、古くから群馬県と長野県を結ぶ交通の要路として栄えて来ました。この谷に最新の土木技術を持って上信越自動車道が開設され、沿線住民にとって生活上、経済活動上大きな動脈道路として利用されています。

この上信越自動車道建設に伴い、富岡市南蛇井において昭和63年から平成3年3月にかけて、大規模な集落遺跡である南蛇井増光寺遺跡が調査されました。

本遺跡については、平成3年度より6年計画で報告書作成のための整理作業に入りましたが、調査成果の一部については、既に南蛇井増光寺遺跡ⅠからⅣまでの4冊の報告書を刊行しています。今回報告します『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』はC区の縄文・弥生時代の報告で、敷石住居を含む25軒の縄文時代の住居、弥生時代後期の住居117軒等が検出されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京第2建設局、同富岡工事事務所、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会並びに地元関係者の方々から種々、ご指導を賜りました。今回、本報告書を上梓するに際し、これら関係者のみなさまに心より感謝を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で広く活用されることを願い序といたします。

平成9年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之



## 例 言

1. 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「南蛇井増光寺遺跡」の発掘調査報告書第Ⅴ分冊、南蛇井増光寺遺跡C区（縄文・弥生時代編）である。
2. 遺跡は群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺165、166－1、167、168、169、170－1に所在する。
3. 発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
4. 調査期間および担当者は以下のとおりである。

- (1) 発掘調査 期間 昭和63年9月（試掘）～平成3年3月31日

調査担当者（C区）

昭和63年度 津金澤吉茂、大木紳一郎、小野和之、若林正人  
飯塚 聡

平成元年度 小野和之、飯塚 聡、桜井美枝  
飯塚卓二、新井 仁、高島英之

平成2年度 小野和之、飯塚 聡、高島英之  
飯塚卓二、飛田野正佳、亀山幸弘

- (2) 整 理 期間 平成7年4月1日～平成9年3月31日

- (3) 事 務

常務理事 白石保三郎（昭和61～63年度） 邊見長雄（平成元～5年度）

中村英一（平成6・7年度） 菅野 清（平成8年度～）

事務局長 松本浩一（昭和63～平成3年度） 近藤 功（平成4・5年度）  
原田恒弘（平成7年度～）

管理部長 田口紀雄（昭和62～平成2年度） 佐藤 勉（平成3～5年度）  
蜂巢 実（平成6年度～）

調査研究部長 上原啓巳（昭和63年度） 神保侑史（平成元年度～）

庶務課 課長 岩丸大作（平成3年度） 斎藤俊一（平成4～平成6年度）  
小淵 淳（平成7年度～）

係長 国定 均、笠原秀樹、主任 須田朋子、吉田有光

主事 船津 茂、柳岡良宏、高橋定義、宮崎忠司

関越道上越線調査事務所

所 長 井上 信（昭和61～63年度） 高橋一夫（平成元・2年度） 阿部千明（平成3年度）  
吉田 肇（平成4・5年度）

総括次長 片桐光一（昭和61～平成元年度） 大沢友治（平成2・3年度）

次 長 原田恒弘（昭和61・62年度） 徳江 紀（昭和63～平成2年度）

課 長 鬼形芳夫（昭和62～平成2年度） 依田治雄（平成3～5年度）

庶務課 係長代理 黒沢重樹（昭和61～63年度） 宮川初太郎（平成元・2年度）

主任 国定 均（昭和63・平成元年度） 笠原秀樹（平成2・3年度）

吉田有光（平成4・5年度）

## 5. 報告書作成関係者

編 集 小野和之、大木紳一郎、桜井美枝

本文執筆 小野和之 第1～3章、第4章 第1節、第5章 第1節

大木紳一郎 第5章 第2節、観察表編（弥生土器）

桜井美枝 第5章 第3節、観察表編（石器）

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 技師 佐藤元彦

保存処理 技師 関 邦一 嘱託員 土橋まり子 補助員 小材浩一、萩原妙子

整理補助員 宇佐美征子、高橋順子、田中富子、吉沢やよい、山口早苗、新井千恵子、小久保トシ子

飯田文子、坂庭常盤、高橋フジ子、六本木弘子、小林幸枝、高柳哲子、小久保ヒロミ、

飯野睦美、関 正江、渡辺フサ枝、馬場信子、小菅優子、武永いち、福島和恵、

斉藤ひろみ、高橋里佳、田村恭子

機械実測 長沼久美子、岩渕節子、光安文子、萩原光枝、南雲富子、立川千栄子

6. 石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会）にお願いした。

7. 弥生土器胎土分析と顔料分析は（株）パレオ・ラボに依頼した。

8. 出土遺物・図面・写真類は群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

9. 報告書作成にあたり下記の諸機関、諸氏にご教示・ご指導をいただいた。記して感謝いたします。

（敬称略）

富岡市教育委員会、糸魚川市教育委員会、糸魚川市フォッサマグナミュージアム、安斎正人、磯貝基一、井上 太、木島 勉、小山岳夫、陣内主一、大工原 豊、田口一郎、角田真也、宮島 宏、横田公男、若狭 徹、

また、事業団職員諸氏より多くのご教示を得た、記して感謝いたします。

## 凡 例

1. 各遺構実測図の縮尺は次の通りである。

住居・集石…… 1/60、炉…… 1/30、方形周溝墓…… 1/80、配石・土坑…… 1/40、これら以外については個々に縮尺を記した。

2. 遺構実測図に記した標高値は海拔標高を表す。

3. 遺構実測図の方位記号は、座標北を示す（国土座標第IX系）。

4. 遺物実測図の縮尺は次の通りである。

土器 縄文・弥生土器…… 1/4 または 1/3 土製品…… 1/2、その他のものについては図中に記した。

石器 石鏃・楔形石器…… 4/5 小型の石匙…… 1/2

大形の石匙・打製石斧・磨製石斧・石鍬・石核・二次加工ある剥片・石棒…… 1/3

磨石・敲石・凹石・石皿・多孔石・砥石…… 1/5

5. 遺構および遺物図中のスクリーン・トーン、シンボルマークは下記のことを示す。

遺構		焼土		炭化物・灰		粘土	
土器		繊維土器					

6. 石器実測図中の表示は以下のことを示す。











磨石・砥石等の研磨部分範囲		敲打部分範囲	
使用による磨耗部分範囲			

7. 遺物垂直分布図に用いたシンボルマークは下記のことを示す。

● 土器・土製品    ■ 石器・石製品    ▲ ガラス小玉    ○ 骨

8. 石材組成グラフについては複数の石材を以下のグループにまとめて表示してある。また、各石材グループは、以下のトーンで示してある。石材の略称については観察表編の凡例を参照されたい。

- ・安山岩（細粒）：黒安、細安      ・安山岩（粗粒）：粗安、角安、輝安、変安
- ・流紋岩等：流紋、デイ、砥沢      ・閃緑岩類：閃緑、変閃、石閃
- ・凝灰岩類：凝灰、溶凝、緑凝、デ凝、安凝、流凝
- ・塩基性岩類：輝緑、変輝、玄武、変玄、変質玄、かん、蛇紋、変蛇、変は、角閃、輝凝、はん
- ・砂・泥岩（細粒）：珪頁、硬頁、硬泥、黒頁、砂頁、頁岩、珪粘
- ・砂・泥岩（粗粒）：泥岩、砂岩、牛砂、礫岩、凝砂      ・片岩類：雲片、黒片、緑片、珪準、砂準
- ・黒曜石
- ・その他：チャ、赤珪、褐珪、緑珪、黄珪、ひす、ひん、ホル、石英、玉髓、滑石、珪変、不明

安山岩（細粒）		安山岩（粗粒）		流紋岩等	
閃緑岩類		凝灰岩類		塩基性岩類	
砂・泥岩（細粒）		砂・泥岩（粗粒）		結晶片岩類	
黒曜石		その他			

9. 石器実測図および写真図版のナンバーは、観察表の遺物ナンバーに一致する。
10. 第3図 遺跡位置図は国土地理院発行20万分の1「長野」を、第5図 周辺の遺跡は5万分の1「富岡」を使用した。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
抄 録	

## 第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯と調査の経過	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 南蛇井増光寺遺跡の調査経過	2
第2節 調査の方法	2

## 第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3節 基本土層	10

## 第3章 遺 構

第1節 縄文時代	11
1. 住居跡	11
2. 集石、配石、埋甕	42
3. 土 坑	48
4. ピ ッ ト	104
第2節 弥生時代	109
1. 住居跡	109
2. 方形周溝墓	314
3. 土 坑	317

## 第4章 出土遺物

第1節 縄文土器	321
1. 住居跡出土遺物	321
2. 集石・配石・埋甕	362
3. 土 坑	365
4. 遺 構 外	392
第2節 弥生土器	430
第3節 装身具	545
第4節 石 器	546
1. 縄文時代遺構出土の石器	546
2. 弥生時代遺構出土の石器	567
3. 遺構外出土の石器	613
南蛇井増光寺遺跡住居跡一覧表	624
補 遺 編	638

## 第5章 ま と め

第1節 縄文時代	643
第2節 弥生時代の遺構と遺物	680
第3節 石 器	727
付編1 南蛇井増光寺遺跡出土弥生土器の 胎土分析	737
付編2 南蛇井増光寺遺跡出土の赤色顔料 および赤色物質について	761
発掘調査報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第 1 図	調査区域図	2	第 61 図	土坑(8)	64
第 2 図	グリッド設定図	3	第 62 図	土坑(9)	66
第 3 図	遺跡位置図	4	第 63 図	土坑(10)	67
第 4 図	周辺の地形	5	第 64 図	土坑(11)	69
第 5 図	周辺の遺跡	7	第 65 図	土坑(12)	71
第 6 図	基本土層図	10	第 66 図	土坑(13)	73
第 7 図	C30号住居跡	12	第 67 図	土坑(14)	75
第 8 図	C30号住居跡炉	13	第 68 図	土坑(15)	77
第 9 図	C37号住居跡	13	第 69 図	土坑(16)	79
第 10 図	C77号住居跡	14	第 70 図	土坑(17)	80
第 11 図	C79号住居跡(1)	15	第 71 図	土坑(18)	82
第 12 図	C79号住居跡(2)	16	第 72 図	土坑(19)	84
第 13 図	C79号住居跡炉	17	第 73 図	土坑(20)	86
第 14 図	C88号住居跡(1)	18	第 74 図	土坑(21)	88
第 15 図	C88号住居跡(2)	19	第 75 図	土坑(22)	90
第 16 図	C88号住居跡炉	19	第 76 図	土坑(23)	92
第 17 図	C89号住居跡	20	第 77 図	土坑(24)	95
第 18 図	C96号住居跡	20	第 78 図	土坑(25)	98
第 19 図	C100号住居跡	21	第 79 図	土坑(26)	101
第 20 図	C101号住居跡	22	第 80 図	土坑(27)	104
第 21 図	C115号住居跡	22	第 81 図	土坑・ビット分布図	105
第 22 図	C118号住居跡	23	第 82 図	ビット(1)	106
第 23 図	C152号住居跡	24	第 83 図	ビット(2)	107
第 24 図	C152号住居跡炉	25	第 84 図	ビット(3)	108
第 25 図	C165号住居跡	26	第 85 図	C2号住居跡	110
第 26 図	C169号住居跡	27	第 86 図	C2号住居跡炉	111
第 27 図	C170号住居跡	28	第 87 図	C3号住居跡	112
第 28 図	C170号住居跡炉	28	第 88 図	C6号住居跡	113
第 29 図	C172号住居跡	29	第 89 図	C6号住居跡炉	114
第 30 図	C174号住居跡	30	第 90 図	C8号住居跡	115
第 31 図	C176号住居跡	30	第 91 図	C8号住居跡炉	116
第 32 図	C178号住居跡	31	第 92 図	C9号住居跡	117
第 33 図	C178号住居跡炉	31	第 93 図	C9号住居跡炉	118
第 34 図	C202号住居跡	32	第 94 図	C10号住居跡(1)	119
第 35 図	C203号住居跡	32	第 95 図	C10号住居跡(2)	120
第 36 図	C206号住居跡	33	第 96 図	C10号住居跡炉	121
第 37 図	C206号住居跡炉	34	第 97 図	C13号住居跡	122
第 38 図	C362号住居跡	35	第 98 図	C13号住居跡炉	122
第 39 図	C362号住居跡炉	36	第 99 図	C14号住居跡(1)	123
第 40 図	C363号住居跡(1)	37	第100図	C14号住居跡(2)	124
第 41 図	C363号住居跡(2)	38	第101図	C14号住居跡(3)	125
第 42 図	C363号住居跡炉	39	第102図	C14号住居跡炉	125
第 43 図	C363号住居跡(3)	39	第103図	C15号住居跡(1)	126
第 44 図	C368号住居跡(1)	40	第104図	C15号住居跡(2)	127
第 45 図	C368号住居跡(2)	41	第105図	C18号住居跡(1)	128
第 46 図	C368号住居跡炉	42	第106図	C18号住居跡(2)	129
第 47 図	C2号集石(1)	43	第107図	C18号住居跡炉	129
第 48 図	C2号集石(2)	44	第108図	C20号住居跡	130
第 49 図	C1号配石	44	第109図	C20号住居跡炉	131
第 50 図	C3号配石	45	第110図	C21号住居跡	132
第 51 図	C4号配石	45	第111図	C21号住居跡炉	133
第 52 図	C5号配石	46	第112図	C22号住居跡(1)	134
第 53 図	C1号埋壺	47	第113図	C22号住居跡(2)	135
第 54 図	土坑(1)	49	第114図	C22号住居跡炉	135
第 55 図	土坑(2)	51	第115図	C23号住居跡	136
第 56 図	土坑(3)	53	第116図	C25号住居跡	137
第 57 図	土坑(4)	55	第117図	C25号住居跡炉	137
第 58 図	土坑(5)	57	第118図	C27号住居跡	138
第 59 図	土坑(6)	59	第119図	C27号住居跡炉	139
第 60 図	土坑(7)	62	第120図	C28号住居跡	140

第121図	C 28号住居跡炉	141
第122図	C 31号住居跡	142
第123図	C 31号住居跡炉	142
第124図	C 33号住居跡	143
第125図	C 33号住居跡炉	144
第126図	C 34号住居跡	145
第127図	C 34号住居跡炉	146
第128図	C 38号住居跡(1)	147
第129図	C 38号住居跡(2)	148
第130図	C 38号住居跡炉	150
第131図	C 39号住居跡	151
第132図	C 44号住居跡	152
第133図	C 44号住居跡炉	152
第134図	C 46号住居跡	153
第135図	C 46号住居跡炉	154
第136図	C 47号住居跡	155
第137図	C 47号住居跡炉	156
第138図	C 50号住居跡(1)	157
第139図	C 50号住居跡(2)	158
第140図	C 50号住居跡炉	158
第141図	C 52号住居跡	159
第142図	C 52号住居跡炉	160
第143図	C 53号住居跡	161
第144図	C 53号住居跡炉	162
第145図	C 54号住居跡	163
第146図	C 54号住居跡炉	164
第147図	C 56号住居跡(1)	165
第148図	C 56号住居跡(2)	166
第149図	C 56号住居跡炉	166
第150図	C 57号住居跡(1)	167
第151図	C 57号住居跡(2)	168
第152図	C 57号住居跡(3)	169
第153図	C 57号住居跡炉	170
第154図	C 59号住居跡(1)	171
第155図	C 59号住居跡(2)	172
第156図	C 59号住居跡炉	173
第157図	C 60号住居跡	174
第158図	C 60号住居跡炉	174
第159図	C 64号住居跡	175
第160図	C 64号住居跡炉	175
第161図	C 65号住居跡	176
第162図	C 65号住居跡炉	177
第163図	C 68号住居跡	178
第164図	C 68号住居跡炉	179
第165図	C 71号住居跡(1)	180
第166図	C 71号住居跡(2)	181
第167図	C 71号住居跡炉	182
第168図	C 72号住居跡(1)	183
第169図	C 72号住居跡(2)	184
第170図	C 72号住居跡炉	185
第171図	C 73号住居跡(1)	186
第172図	C 73号住居跡(2)	187
第173図	C 73号住居跡炉	187
第174図	C 75号住居跡	188
第175図	C 75号住居跡炉	188
第176図	C 76号住居跡	189
第177図	C 76号住居跡炉	190
第178図	C 80号住居跡(1)	191
第179図	C 80号住居跡炉	192
第180図	C 80号住居跡(2)	折込み
第181図	C 81号住居跡	195
第182図	C 81号住居跡炉	195
第183図	C 82号住居跡	196

第184図	C 83号住居跡	197
第185図	C 83号住居跡炉	197
第186図	C 86号住居跡(1)	198
第187図	C 86号住居跡(2)	199
第188図	C 86号住居跡(3)	200
第189図	C 86号住居跡炉	201
第190図	C 87号住居跡	201
第191図	C 91号住居跡	202
第192図	C 91号住居跡炉	202
第193図	C 93号住居跡	203
第194図	C 94号住居跡	204
第195図	C 94号住居跡炉	205
第196図	C 95号住居跡	206
第197図	C 95号住居跡炉	207
第198図	C 97号住居跡	208
第199図	C 97号住居跡炉	208
第200図	C 104号住居跡(1)	209
第201図	C 104号住居跡(2)	210
第202図	C 104号住居跡(3)	211
第203図	C 108号住居跡(1)	212
第204図	C 108号住居跡(2)	213
第205図	C 108号住居跡(3)	214
第206図	C 108号住居跡炉	214
第207図	C 114号住居跡	215
第208図	C 114号住居跡炉	215
第209図	C 116号住居跡(1)	216
第210図	C 116号住居跡(2)	217
第211図	C 116号住居跡(3)	218
第212図	C 116号住居跡炉	218
第213図	C 148号住居跡(1)	219
第214図	C 148号住居跡(2)	220
第215図	C 149号住居跡	221
第216図	C 149号住居跡炉	221
第217図	C 150号住居跡	222
第218図	C 163号住居跡(1)	223
第219図	C 163号住居跡(2)	224
第220図	C 163号住居跡炉	224
第221図	C 164号住居跡	225
第222図	C 164号住居跡炉	226
第223図	C 166号住居跡	226
第224図	C 173号住居跡	227
第225図	C 173号住居跡炉	227
第226図	C 180号住居跡(1)	228
第227図	C 180号住居跡(2)	229
第228図	C 180号住居跡炉	230
第229図	C 185号住居跡(1)	231
第230図	C 185号住居跡(2)	232
第231図	C 185号住居跡炉	233
第232図	C 186号住居跡	234
第233図	C 187号住居跡	234
第234図	C 192号住居跡	235
第235図	C 194号住居跡	236
第236図	C 197号住居跡	237
第237図	C 198号住居跡	238
第238図	C 199号住居跡	238
第239図	C 200号住居跡(1)	239
第240図	C 200号住居跡(2)	240
第241図	C 200号住居跡炉	240
第242図	C 201号住居跡	241
第243図	C 201号住居跡炉	241
第244図	C 204号住居跡	242
第245図	C 205号住居跡	243
第246図	C 205号住居跡炉	243

第247图	C 207号住居跡……………	244	第309图	C 353号住居跡(1)……………	293
第248图	C 207号住居跡炉……………	244	第310图	C 353号住居跡(2)……………	294
第249图	C 208号住居跡……………	245	第311图	C 353号住居跡炉……………	295
第250图	C 208号住居跡炉……………	245	第312图	C 354号住居跡(1)……………	296
第251图	C 213号住居跡……………	246	第313图	C 354号住居跡(2)……………	297
第252图	C 218号住居跡……………	246	第314图	C 354号住居跡炉……………	298
第253图	C 224号住居跡……………	247	第315图	C 361号住居跡(1)……………	298
第254图	C 224号住居跡炉……………	247	第316图	C 361号住居跡(2)……………	299
第255图	C 225号住居跡……………	248	第317图	C 361号住居跡(3)……………	300
第256图	C 225号住居跡炉……………	248	第318图	C 361号住居跡炉……………	301
第257图	C 227号住居跡……………	249	第319图	C 364号住居跡……………	302
第258图	C 227号住居跡炉……………	250	第320图	C 364号住居跡炉……………	303
第259图	C 231号住居跡……………	251	第321图	C 365号住居跡……………	304
第260图	C 231号住居跡炉……………	252	第322图	C 366号住居跡……………	304
第261图	C 232号住居跡……………	253	第323图	DS 103号住居跡(1)……………	305
第262图	C 232号住居跡炉……………	253	第324图	DS 103号住居跡(2)……………	306
第263图	C 234号住居跡……………	254	第325图	DS 103号住居跡(3)……………	307
第264图	C 234号住居跡炉……………	255	第326图	DS 103号住居跡炉……………	307
第265图	C 240号住居跡……………	255	第327图	DS 109号住居跡……………	308
第266图	C 240号住居跡炉……………	255	第328图	DS 110号住居跡……………	309
第267图	C 246号住居跡……………	256	第329图	DS 111号住居跡(1)……………	310
第268图	C 261号住居跡(1)……………	257	第330图	DS 111号住居跡(2)……………	311
第269图	C 261号住居跡(2)……………	258	第331图	DS 111号住居跡(3)……………	312
第270图	C 261号住居跡炉……………	258	第332图	DS 111号住居跡炉……………	312
第271图	C 262号住居跡……………	259	第333图	DS 112号住居跡……………	313
第272图	C 262号住居跡炉……………	259	第334图	C 1号方形周溝墓……………	315
第273图	C 263号住居跡……………	260	第335图	C 2号方形周溝墓……………	316
第274图	C 267号住居跡(1)……………	261	第336图	土坑(1)……………	318
第275图	C 267号住居跡(2)……………	262	第337图	土坑(2)……………	320
第276图	C 267号住居跡(3)……………	263	第338图	C 30号住居跡出土遺物(1)……………	322
第277图	C 267号住居跡炉……………	264	第339图	C 30号住居跡出土遺物(2)……………	323
第278图	C 270号住居跡(1)……………	265	第340图	C 30号住居跡出土遺物(3)……………	324
第279图	C 270号住居跡(2)……………	266	第341图	C 37号住居跡出土遺物(1)……………	326
第280图	C 270号住居跡炉……………	266	第342图	C 37号住居跡出土遺物(2)……………	327
第281图	C 275号住居跡……………	267	第343图	C 77号住居跡出土遺物……………	329
第282图	C 275号住居跡炉……………	268	第344图	C 79号住居跡出土遺物(1)……………	330
第283图	C 277号住居跡……………	268	第345图	C 79号住居跡出土遺物(2)……………	331
第284图	C 297号住居跡……………	269	第346图	C 79号住居跡出土遺物(3)……………	332
第285图	C 297号住居跡炉……………	269	第347图	C 88号住居跡出土遺物(1)……………	334
第286图	C 300号住居跡(1)……………	270	第348图	C 88号住居跡出土遺物(2)……………	335
第287图	C 300号住居跡(2)……………	271	第349图	C 89号住居跡出土遺物……………	335
第288图	C 300号住居跡(3)……………	272	第350图	C 86号住居跡出土遺物……………	337
第289图	C 300号住居跡炉……………	273	第351图	C 100号住居跡出土遺物……………	337
第290图	C 303号住居跡(1)……………	274	第352图	C 101号住居跡出土遺物……………	337
第291图	C 301号住居跡(2)……………	275	第353图	C 115号住居跡出土遺物……………	337
第292图	C 301号住居跡炉……………	276	第354图	C 118号住居跡出土遺物(1)……………	338
第293图	C 324号住居跡……………	折込み	第355图	C 118号住居跡出土遺物(2)……………	339
第294图	C 324号住居跡炉……………	279	第356图	C 152号住居跡出土遺物(1)……………	折込み
第295图	C 332号住居跡……………	280	第357图	C 152号住居跡出土遺物(2)……………	343
第296图	C 336号住居跡(1)……………	281	第358图	C 165号住居跡出土遺物……………	345
第297图	C 336号住居跡(2)……………	282	第359图	C 169号住居跡出土遺物(1)……………	345
第298图	C 336号住居跡炉……………	283	第360图	C 169号住居跡出土遺物(2)……………	346
第299图	C 338号住居跡(1)……………	283	第361图	C 170号住居跡出土遺物……………	347
第300图	C 338号住居跡(2)……………	284	第362图	C 172号住居跡出土遺物……………	347
第301图	C 338号住居跡炉……………	285	第363图	C 174号住居跡出土遺物……………	349
第302图	C 339号住居跡……………	286	第364图	C 176号住居跡出土遺物(1)……………	350
第303图	C 339号住居跡炉……………	287	第365图	C 176号住居跡出土遺物(2)……………	351
第304图	C 344号住居跡……………	288	第366图	C 176号住居跡出土遺物(3)……………	352
第305图	C 345号住居跡……………	289	第367图	C 178・202号住居跡出土遺物……………	352
第306图	C 347号住居跡(1)……………	290	第368图	C 203号住居跡出土遺物……………	354
第307图	C 347号住居跡(2)……………	291	第369图	C 206号住居跡出土遺物……………	354
第308图	C 347号住居跡炉……………	292	第370图	C 362号住居跡出土遺物(1)……………	356

第371图	C 362号住居跡出土遺物(2) .....	357
第372图	C 363号住居跡出土遺物(1) .....	357
第373图	C 363号住居跡出土遺物(2) .....	358
第374图	C 368号住居跡出土遺物(1) .....	360
第375图	C 368号住居跡出土遺物(2) .....	361
第376图	C 2号集石出土遺物(1) .....	363
第377图	C 2号集石出土遺物(2) .....	364
第378图	C 1・3号配石出土遺物 .....	364
第379图	C 4号配石出土遺物 .....	366
第380图	C 1号埋壘出土遺物 .....	367
第381图	土坑出土遺物(1) .....	369
第382图	土坑出土遺物(2) .....	370
第383图	土坑出土遺物(3) .....	372
第384图	土坑出土遺物(4) .....	373
第385图	土坑出土遺物(5) .....	375
第386图	土坑出土遺物(6) .....	377
第387图	土坑出土遺物(7) .....	379
第388图	土坑出土遺物(8) .....	380
第389图	土坑出土遺物(9) .....	382
第390图	土坑出土遺物(10) .....	384
第391图	土坑出土遺物(11) .....	385
第392图	土坑出土遺物(12) .....	387
第393图	土坑出土遺物(13) .....	388
第394图	遺構外出土遺物(1) .....	390
第395图	遺構外出土遺物(2) .....	391
第396图	遺構外出土遺物(3) .....	393
第397图	遺構外出土遺物(4) .....	394
第398图	遺構外出土遺物(5) .....	397
第399图	遺構外出土遺物(6) .....	398
第400图	遺構外出土遺物(7) .....	400
第401图	遺構外出土遺物(8) .....	401
第402图	遺構外出土遺物(9) .....	403
第403图	遺構外出土遺物(10) .....	404
第404图	遺構外出土遺物(11) .....	406
第405图	遺構外出土遺物(12) .....	407
第406图	遺構外出土遺物(13) .....	409
第407图	遺構外出土遺物(14) .....	410
第408图	遺構外出土遺物(15) .....	412
第409图	遺構外出土遺物(16) .....	413
第410图	遺構外出土遺物(17) .....	415
第411图	遺構外出土遺物(18) .....	416
第412图	遺構外出土遺物(19) .....	418
第413图	遺構外出土遺物(20) .....	419
第414图	遺構外出土遺物(21) .....	421
第415图	遺構外出土遺物(22) .....	422
第416图	遺構外出土遺物(23) .....	424
第417图	遺構外出土遺物(24) .....	425
第418图	遺構外出土遺物(25) .....	427
第419图	遺構外出土遺物(26) .....	428
第420图	遺構外出土遺物(27) .....	429
第421图	C 2号住居跡出土遺物 .....	430
第422图	C 3号住居跡出土遺物 .....	430
第423图	C 6号住居跡出土遺物 .....	430
第424图	C 8号住居跡出土遺物 .....	431
第425图	C 9号住居跡出土遺物 .....	432
第426图	C 10号住居跡出土遺物(1) .....	433
第427图	C 10号住居跡出土遺物(2) .....	434
第428图	C 10号住居跡出土遺物(3) .....	435
第429图	C 13号住居跡出土遺物 .....	435
第430图	C 14号住居跡出土遺物(1) .....	436
第431图	C 14号住居跡出土遺物(2) .....	437
第432图	C 14号住居跡出土遺物(3) .....	438

第433图	C 14号住居跡出土遺物(4) .....	439
第434图	C 15号住居跡出土遺物 .....	439
第435图	C 18号住居跡出土遺物 .....	440
第436图	C 20号住居跡出土遺物(1) .....	440
第437图	C 20号住居跡出土遺物(2) .....	441
第438图	C 21号住居跡出土遺物 .....	442
第439图	C 22号住居跡出土遺物(1) .....	442
第440图	C 22号住居跡出土遺物(2) .....	443
第441图	C 25号住居跡出土遺物 .....	444
第442图	C 23号住居跡出土遺物 .....	444
第443图	C 27号住居跡出土遺物 .....	444
第444图	C 28号住居跡出土遺物(1) .....	445
第445图	C 28号住居跡出土遺物(2) .....	446
第446图	C 28号住居跡出土遺物(3) .....	447
第447图	C 31号住居跡出土遺物 .....	447
第448图	C 33号住居跡出土遺物 .....	448
第449图	C 34号住居跡出土遺物(1) .....	449
第450图	C 34号住居跡出土遺物(2) .....	450
第451图	C 34号住居跡出土遺物(3) .....	451
第452图	C 34号住居跡出土遺物(4) .....	452
第453图	C 38号住居跡出土遺物(1) .....	452
第454图	C 38号住居跡出土遺物(2) .....	453
第455图	C 39号住居跡出土遺物(1) .....	453
第456图	C 39号住居跡出土遺物(2) .....	454
第457图	C 44号住居跡出土遺物 .....	455
第458图	C 46号住居跡出土遺物 .....	455
第459图	C 47号住居跡出土遺物 .....	456
第460图	C 50号住居跡出土遺物(1) .....	456
第461图	C 50号住居跡出土遺物(2) .....	457
第462图	C 52号住居跡出土遺物 .....	457
第463图	C 53号住居跡出土遺物 .....	458
第464图	C 54号住居跡出土遺物 .....	458
第465图	C 56号住居跡出土遺物 .....	458
第466图	C 60号住居跡出土遺物 .....	458
第467图	C 57号住居跡出土遺物(1) .....	459
第468图	C 57号住居跡出土遺物(2) .....	460
第469图	C 57号住居跡出土遺物(3) .....	461
第470图	C 57号住居跡出土遺物(4) .....	462
第471图	C 59号住居跡出土遺物(1) .....	463
第472图	C 59号住居跡出土遺物(2) .....	464
第473图	C 59号住居跡出土遺物(3) .....	465
第474图	C 59号住居跡出土遺物(4) .....	466
第475图	C 64号住居跡出土遺物 .....	467
第476图	C 65号住居跡出土遺物 .....	467
第477图	C 68号住居跡出土遺物 .....	467
第478图	C 71号住居跡出土遺物(1) .....	468
第479图	C 71号住居跡出土遺物(2) .....	469
第480图	C 71号住居跡出土遺物(3) .....	470
第481图	C 72号住居跡出土遺物 .....	471
第482图	C 73号住居跡出土遺物 .....	471
第483图	C 75号住居跡出土遺物 .....	471
第484图	C 76号住居跡出土遺物 .....	471
第485图	C 80号住居跡出土遺物(1) .....	472
第486图	C 80号住居跡出土遺物(2) .....	473
第487图	C 81号住居跡出土遺物 .....	474
第488图	C 83号住居跡出土遺物 .....	474
第489图	C 86号住居跡出土遺物 .....	474
第490图	C 91号住居跡出土遺物 .....	475
第491图	C 93号住居跡出土遺物 .....	475
第492图	C 94号住居跡出土遺物(1) .....	475
第493图	C 94号住居跡出土遺物(2) .....	476
第494图	C 95号住居跡出土遺物 .....	476

第495図	C 97号住居跡出土遺物	477	第557図	C 297号住居跡出土遺物	515
第496図	C 104号住居跡出土遺物(1)	477	第558図	C 300号住居跡出土遺物(1)	516
第497図	C 104号住居跡出土遺物(2)	478	第559図	C 300号住居跡出土遺物(2)	517
第498図	C 104号住居跡出土遺物(3)	479	第560図	C 300号住居跡出土遺物(3)	518
第499図	C 104号住居跡出土遺物(4)	480	第561図	C 303号住居跡出土遺物(1)	519
第500図	C 108号住居跡出土遺物(1)	481	第562図	C 303号住居跡出土遺物(2)	520
第501図	C 108号住居跡出土遺物(2)	482	第563図	C 324号住居跡出土遺物(1)	521
第502図	C 114号住居跡出土遺物	483	第564図	C 324号住居跡出土遺物(2)	522
第503図	C 116号住居跡出土遺物(1)	483	第565図	C 324号住居跡出土遺物(3)	523
第504図	C 116号住居跡出土遺物(2)	484	第566図	C 332号住居跡出土遺物	524
第505図	C 116号住居跡出土遺物(3)	485	第567図	C 336号住居跡出土遺物(1)	524
第506図	C 116号住居跡出土遺物(4)	486	第568図	C 336号住居跡出土遺物(2)	525
第507図	C 116号住居跡出土遺物(5)	487	第569図	C 338号住居跡出土遺物	526
第508図	C 116号住居跡出土遺物(6)	488	第570図	C 339号住居跡出土遺物	526
第509図	C 116号住居跡出土遺物(7)	489	第571図	C 344号住居跡出土遺物(1)	527
第510図	C 116号住居跡出土遺物(8)	490	第572図	C 344号住居跡出土遺物(2)	528
第511図	C 148号住居跡出土遺物(1)	491	第573図	C 345号住居跡出土遺物	528
第512図	C 148号住居跡出土遺物(2)	492	第574図	C 347号住居跡出土遺物(1)	529
第513図	C 149号住居跡出土遺物(1)	492	第575図	C 347号住居跡出土遺物(2)	530
第514図	C 149号住居跡出土遺物(2)	493	第576図	C 353号住居跡出土遺物(1)	530
第515図	C 149号住居跡出土遺物(3)	494	第577図	C 353号住居跡出土遺物(2)	531
第516図	C 150号住居跡出土遺物	494	第578図	C 353号住居跡出土遺物(3)	532
第517図	C 164号住居跡出土遺物	494	第579図	C 354号住居跡出土遺物	532
第518図	C 173号住居跡出土遺物	494	第580図	C 361号住居跡出土遺物	533
第519図	C 163号住居跡出土遺物(1)	495	第581図	C 364号住居跡出土遺物	533
第520図	C 163号住居跡出土遺物(2)	496	第582図	C 366号住居跡出土遺物	534
第521図	C 163号住居跡出土遺物(3)	497	第583図	DS 103号住居跡出土遺物(1)	534
第522図	C 180号住居跡出土遺物	498	第584図	DS 103号住居跡出土遺物(2)	535
第523図	C 185号住居跡出土遺物(1)	498	第585図	DS 103号住居跡出土遺物(3)	536
第524図	C 185号住居跡出土遺物(2)	499	第586図	DS 103号住居跡出土遺物(4)	537
第525図	C 186号住居跡出土遺物	500	第587図	DS 109号住居跡出土遺物	538
第526図	C 192号住居跡出土遺物(1)	500	第588図	DS 111号住居跡出土遺物(1)	539
第527図	C 192号住居跡出土遺物(2)	501	第589図	DS 111号住居跡出土遺物(2)	540
第528図	C 194号住居跡出土遺物	502	第590図	DS 111号住居跡出土遺物(3)	541
第529図	C 197号住居跡出土遺物	502	第591図	DS 112号住居跡出土遺物	541
第530図	C 199号住居跡出土遺物	502	第592図	C 1号方形周溝墓出土遺物	542
第531図	C 200号住居跡出土遺物(1)	502	第593図	C 2号方形周溝墓出土遺物	542
第532図	C 200号住居跡出土遺物(2)	503	第594図	土坑出土遺物(C 38・79・87号土坑)	542
第533図	C 201号住居跡出土遺物	504	第595図	遺構外出土遺物(1)	543
第534図	C 204号住居跡出土遺物	504	第596図	遺構外(2)・トレンチ出土遺物、金属器	544
第535図	C 207号住居跡出土遺物	504	第597図	装身具	545
第536図	C 208号住居跡出土遺物	504	第598図	縄文時代遺構出土石器石材組成	548
第537図	C 225号住居跡出土遺物	504	第599図	C 30号住居跡出土石器(1)	549
第538図	C 227号住居跡出土遺物(1)	505	第600図	C 30号住居跡出土石器(2)	550
第539図	C 227号住居跡出土遺物(2)	506	第601図	C 37号住居跡出土石器	550
第540図	C 231号住居跡出土遺物	507	第602図	C 77号住居跡出土石器(1)	550
第541図	C 232号住居跡出土遺物	507	第603図	C 77号住居跡出土石器(2)	551
第542図	C 234号住居跡出土遺物	507	第604図	C 79号住居跡出土石器(1)	551
第543図	C 240号住居跡出土遺物	508	第605図	C 79号住居跡出土石器(2)	552
第544図	C 246号住居跡出土遺物	508	第606図	C 88号住居跡出土石器	553
第545図	C 261号住居跡出土遺物(1)	508	第607図	C 96号住居跡出土石器(1)	553
第546図	C 261号住居跡出土遺物(2)	509	第608図	C 96号住居跡出土石器(2)	554
第547図	C 262号住居跡出土遺物(1)	510	第609図	C 100号住居跡出土石器	554
第548図	C 262号住居跡出土遺物(2)	511	第610図	C 101号住居跡出土石器	555
第549図	C 267号住居跡出土遺物(1)	511	第611図	C 115号住居跡出土石器	555
第550図	C 267号住居跡出土遺物(2)	512	第612図	C 118号住居跡出土石器(1)	555
第551図	C 270号住居跡出土遺物(1)	512	第613図	C 118号住居跡出土石器(2)	556
第552図	C 270号住居跡出土遺物(2)	513	第614図	C 152号住居跡出土石器(1)	556
第553図	C 275号住居跡出土遺物(1)	513	第615図	C 152号住居跡出土石器(2)	557
第554図	C 275号住居跡出土遺物(2)	514	第616図	C 165号住居跡出土石器	557
第555図	C 275号住居跡出土遺物(3)	515	第617図	C 169号住居跡出土石器	558
第556図	C 277号住居跡出土遺物	515	第618図	C 170号住居跡出土石器	558

第619圖	C 174号住居跡出土石器(1) .....	558
第620圖	C 174号住居跡出土石器(2) .....	559
第621圖	C 176号住居跡出土石器 .....	560
第622圖	C 202号住居跡出土石器 .....	560
第623圖	C 203号住居跡出土石器 .....	560
第624圖	C 206号住居跡出土石器 .....	560
第625圖	C 362号住居跡出土石器 .....	561
第626圖	C 363号住居跡出土石器 .....	562
第627圖	C 368号住居跡出土石器 .....	563
第628圖	C 2 号集石出土石器 .....	563
第629圖	C 1 配石出土石器 .....	564
第630圖	土坑出土石器(1) .....	564
第631圖	土坑出土石器(2) .....	565
第632圖	土坑出土石器(3) .....	566
第633圖	弥生時代遺構出土石器石材組成 .....	568
第634圖	C 2 号住居跡出土石器 .....	569
第635圖	C 6 号住居跡出土石器 .....	569
第636圖	C 8 号住居跡出土石器 .....	569
第637圖	C 13号住居跡出土石器 .....	569
第638圖	C 10号住居跡出土石器 .....	570
第639圖	C 14号住居跡出土石器(1) .....	570
第640圖	C 14号住居跡出土石器(2) .....	571
第641圖	C 15号住居跡出土石器 .....	571
第642圖	C 18号住居跡出土石器 .....	571
第643圖	C 20号住居跡出土石器(1) .....	571
第644圖	C 20号住居跡出土石器(2) .....	572
第645圖	C 21号住居跡出土石器 .....	572
第646圖	C 22号住居跡出土石器 .....	572
第647圖	C 28号住居跡出土石器 .....	573
第648圖	C 31号住居跡出土石器 .....	573
第649圖	C 33号住居跡出土石器(1) .....	573
第650圖	C 33号住居跡出土石器(2) .....	574
第651圖	C 34号住居跡出土石器(1) .....	574
第652圖	C 34号住居跡出土石器(2) .....	575
第653圖	C 38号住居跡出土石器 .....	575
第654圖	C 39号住居跡出土石器(1) .....	575
第655圖	C 39号住居跡出土石器(2) .....	576
第656圖	C 44号住居跡出土石器(1) .....	576
第657圖	C 44号住居跡出土石器(2) .....	577
第658圖	C 46号住居跡出土石器 .....	577
第659圖	C 47号住居跡出土石器 .....	577
第660圖	C 50号住居跡出土石器(1) .....	577
第661圖	C 50号住居跡出土石器(2) .....	578
第662圖	C 56号住居跡出土石器 .....	578
第663圖	C 52号住居跡出土石器 .....	578
第664圖	C 57号住居跡出土石器(1) .....	579
第665圖	C 57号住居跡出土石器(2) .....	580
第666圖	C 59号住居跡出土石器(1) .....	580
第667圖	C 59号住居跡出土石器(2) .....	581
第668圖	C 64号住居跡出土石器 .....	581
第669圖	C 65号住居跡出土石器(1) .....	581
第670圖	C 65号住居跡出土石器(2) .....	582
第671圖	C 68号住居跡出土石器 .....	582
第672圖	C 71号住居跡出土石器 .....	583
第673圖	C 73号住居跡出土石器 .....	584
第674圖	C 75号住居跡出土石器 .....	574
第675圖	C 76号住居跡出土石器 .....	584
第676圖	C 80号住居跡出土石器 .....	585
第677圖	C 81号住居跡出土石器 .....	585
第678圖	C 83号住居跡出土石器 .....	586
第679圖	C 86号住居跡出土石器 .....	586
第680圖	C 91号住居跡出土石器 .....	586

第681圖	C 93号住居跡出土石器 .....	586
第682圖	C 94号住居跡出土石器(1) .....	586
第683圖	C 94号住居跡出土石器(2) .....	587
第684圖	C 95号住居跡出土石器 .....	587
第685圖	C 97号住居跡出土石器 .....	587
第686圖	C 104号住居跡出土石器 .....	588
第687圖	C 108号住居跡出土石器 .....	588
第688圖	C 114号住居跡出土石器 .....	589
第689圖	C 116号住居跡出土石器 .....	589
第690圖	C 148号住居跡出土石器(1) .....	589
第691圖	C 148号住居跡出土石器(2) .....	590
第692圖	C 149号住居跡出土石器 .....	590
第693圖	C 163号住居跡出土石器 .....	591
第694圖	C 166号住居跡出土石器 .....	591
第695圖	C 180号住居跡出土石器(1) .....	591
第696圖	C 180号住居跡出土石器(2) .....	592
第697圖	C 185号住居跡出土石器(1) .....	592
第698圖	C 185号住居跡出土石器(2) .....	593
第699圖	C 186号住居跡出土石器 .....	593
第700圖	C 192号住居跡出土石器 .....	594
第701圖	C 200号住居跡出土石器 .....	594
第702圖	C 201号住居跡出土石器 .....	594
第703圖	C 207号住居跡出土石器 .....	594
第704圖	C 205号住居跡出土石器 .....	595
第705圖	C 213号住居跡出土石器 .....	595
第706圖	C 227号住居跡出土石器 .....	595
第707圖	C 231号住居跡出土石器 .....	596
第708圖	C 246号住居跡出土石器 .....	596
第709圖	C 261号住居跡出土石器 .....	596
第710圖	C 262号住居跡出土石器 .....	596
第711圖	C 267号住居跡出土石器 .....	597
第712圖	C 270号住居跡出土石器 .....	597
第713圖	C 275号住居跡出土石器 .....	597
第714圖	C 277号住居跡出土石器 .....	597
第715圖	C 297号住居跡出土石器 .....	598
第716圖	C 300号住居跡出土石器 .....	598
第717圖	C 303号住居跡出土石器(1) .....	598
第718圖	C 303号住居跡出土石器(2) .....	599
第719圖	C 324号住居跡出土石器(1) .....	599
第720圖	C 324号住居跡出土石器(2) .....	600
第721圖	C 332号住居跡出土石器 .....	600
第722圖	C 336号住居跡出土石器(1) .....	600
第723圖	C 336号住居跡出土石器(2) .....	601
第724圖	C 336号住居跡出土石器(3) .....	602
第725圖	C 338号住居跡出土石器(1) .....	602
第726圖	C 338号住居跡出土石器(2) .....	603
第727圖	C 339号住居跡出土石器 .....	603
第728圖	C 344号住居跡出土石器 .....	604
第729圖	C 345号住居跡出土石器 .....	604
第730圖	C 347号住居跡出土石器(1) .....	604
第731圖	C 347号住居跡出土石器(2) .....	605
第732圖	C 353号住居跡出土石器 .....	605
第733圖	C 354号住居跡出土石器 .....	605
第734圖	C 361号住居跡出土石器 .....	606
第735圖	C 364号住居跡出土石器 .....	606
第736圖	C 365号住居跡出土石器 .....	607
第737圖	DS103号住居跡出土石器(1) .....	607
第738圖	DS103号住居跡出土石器(2) .....	608
第739圖	DS103号住居跡出土石器(3) .....	609
第740圖	DS109号住居跡出土石器 .....	609
第741圖	DS110号住居跡出土石器 .....	609
第742圖	DS111号住居跡出土石器(1) .....	610

第743図	DS111号住居跡出土石器(2) .....	611	第782図	土器分類図(5) .....	668
第744図	DS111号住居跡出土石器(3) .....	612	第783図	土器分類図(6) .....	669
第745図	DS112号住居跡出土石器 .....	612	第784図	土器分類図(7) .....	672
第746図	C79号土坑出土石器 .....	612	第785図	土器分類図(8) .....	673
第747図	遺構外出土石器石材組成 .....	613	第786図	土器分類図(9) .....	674
第748図	遺構外出土石器(1) .....	614	第787図	土器分類図(10) .....	675
第749図	遺構外出土石器(2) .....	615	第788図	土器分類図(11) .....	676
第750図	遺構外出土石器(3) .....	616	第789図	土器分類図(12) .....	677
第751図	遺構外出土石器(4) .....	617	第790図	器種の分類 .....	682
第752図	遺構外出土石器(5) .....	618	第791図	器種組成グラフ .....	686
第753図	遺構外出土石器(6) .....	619	第792図	赤彩土器比率グラフ .....	688
第754図	遺構外出土石器(7) .....	620	第793図	I群土器の分類(1) .....	691
第755図	遺構外出土石器(8) .....	621	第794図	I群土器の分類(2) .....	692
第756図	遺構外出土石器(9) .....	622	第795図	I群土器の分類(3) .....	695
第757図	遺構外出土石器(10) .....	623	第796図	I群土器の分類(4) .....	696
第758図	出土獣骨 .....	623	第797図	II群土器の分類 .....	698
第759図	補遺(1) .....	639	第798図	III群土器の分類 .....	700
第760図	補遺(2) .....	640	第799図	主要器種の型式組列 .....	702
第761図	補遺(3) .....	641	第800図	1・2期の土器 .....	704
第762図	補遺(4) .....	642	第801図	3期(古)の土器 .....	705
第763図	C区遺構変遷図(縄文～平安時代) .....	643	第802図	3期(新)の土器 .....	706
第764図	住居数変遷グラフ .....	644	第803図	4期の土器 .....	707
第765図	縄文時代住居跡分布図 .....	645	第804図	器種別胎土比率 .....	715
第766図	住居変遷図 .....	647	第805図	集落範囲推定図 .....	720
第767図	土坑分布図(I～IV期) .....	648	第806図	集落の変遷 .....	722
第768図	遺構変遷図(1) .....	649	第807図	南蛇井増光寺遺跡出土の石棒 .....	729
第769図	遺構変遷図(2) .....	650	第808図	凹石・磨石・敲石時期別石材組成 .....	730
第770図	グリッド出土土器分布図(1) .....	652	第809図	「の」字状石製品とその出土遺跡 .....	733
第771図	グリッド出土土器分布図(2) .....	653	第810図	南蛇井増光寺遺跡出土の磨石E類 .....	735
第772図	グリッド出土土器分布図(3) .....	654	第811図	鍋川流域胎土分析資料 .....	739
第773図	グリッド出土土器分布図(4) .....	655	第812図	土器胎土および河川砂・土壌中の粒子組成図 .....	742
第774図	グリッド出土土器分布図(5) .....	656	第813図	第1～第2主成分散布図 .....	747
第775図	敷石住居分布図 .....	657	第814図	蛍光X線スペクトル図(1) .....	764
第776図	敷石住居跡(1) .....	659	第815図	蛍光X線スペクトル図(2) .....	764
第777図	敷石住居跡(2) .....	660	第816図	蛍光X線スペクトル図(3) .....	765
第778図	土器分類図(1) .....	664	第817図	蛍光X線スペクトル図(4) .....	765
第779図	土器分類図(2) .....	665	第818図	蛍光X線スペクトル図(5) .....	766
第780図	土器分類図(3) .....	666	第819図	蛍光X線スペクトル図(6) .....	766
第781図	土器分類図(4) .....	667			

## 表 目 次

表1	周辺の主な遺跡 .....	8	表11	C・DS区弥生時代遺構出土石器器種組成表 .....	732
表2	縄文時代遺構出土石器器種組成表 .....	548	表12	「の」字状石製品一覧 .....	733
表3	弥生時代遺構出土石器器種組成表 .....	568	表13	磨石E類の県内出土遺跡一覧 .....	735
表4	遺構外出土石器器種組成表 .....	613	表14	検討した土器および河原砂、土壌、岩石 .....	738
表5	南蛇井増光寺遺跡住居跡一覧表 .....	624	表15	土器胎土および河川砂・土壌中の粒子組成 .....	741
表6	器種別分類表 .....	686	表16	土器胎土および河川砂・土壌中の 粒子組成を対象とした主成分分析結果 .....	746
表7	C・DS区縄文時代遺構出土石器器種組成表 .....	727	表17	土器胎土の粘土材料と砂粒組成 .....	749
表8	縄文時代遺構出土打製石斧類型組成表 .....	728	表18	分析試料一覧表 .....	761
表9	C・DS区出土石棒一覧 .....	729			
表10	縄文時代遺構出土凹石・磨石・敲石型式組成表 .....	730			

## 写真図版目次

図版1	南蛇井増光寺遺跡切断面実体顕微鏡写真 .....	751	図版6	土器胎土中の粒子の顕微鏡写真 .....	756
図版2	南蛇井増光寺遺跡切断面実体顕微鏡写真 .....	752	図版7	土器胎土中の粒子の顕微鏡写真 .....	757
図版3	南蛇井増光寺遺跡切断面実体顕微鏡写真 .....	753	図版8	河原砂付着珪藻の顕微鏡写真 .....	758
図版4	南蛇井増光寺遺跡切断面実体顕微鏡写真 .....	754	図版9	礫の顕微鏡写真 .....	759
図版5	土器胎土中の粒子の顕微鏡写真 .....	755			

抄 録

1. 遺跡の概略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺165、166―1、167、168外に所在する。発掘調査は昭和63年11月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、鎭川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置し、調査前の地目は桑、こんにゃく等であった。発掘調査により縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代にわたる各時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝等を多数検出、鎭川上流域における有数の複合遺跡である。

2. 遺構数量（A～E区）

区	竪穴住居	掘立柱建物	溝	方形周溝墓	土坑	井戸	配石	集石	埋甕	その他
A区										
B区	178	8			26			2		
C区	383	6	9	2	263	1	5	2	1	古墓1
DS区	87		5		832	6				
DN区	37	9	8		67	1				
E区	77	19	5		210	1	1			列石1
計	762	42	27	2	1,398	9	6	4	1	2

・C区検出の遺構（一部DS区を含む）

住居跡	縄文	25軒	縄文時代前期～後期
	弥生	117軒	いずれも後期
	古墳～平安	231軒	時期不明10軒
	欠番	3軒	
掘立柱建物		6棟	古墳～中世
方形周溝墓		2基	弥生時代末
土坑（井戸）		191基	縄文～近代
埋甕		1基	縄文
溝		9条	古墳～近代
古墓		1基	中世
道状遺構		1条	中世～近世

◎ 本報告書は上記の内縄文・弥生時代の遺構、遺物について記載、説明を行っている。

3. ま と め

- 縄文時代 ・前期黒浜期から後期堀之内期にかけての住居跡。敷石住居3軒を含む。
- ・前期黒浜期から後期曾谷（高井東）期の土坑・集石・配石遺構。
- 弥生時代 ・後期樽式期の住居跡。該期の集落としては県内最大級のものであることが判明。
- ・方形周溝墓2基の他、土坑。



# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯と調査の経過

### 1. 発掘調査に至る経過

関越自動車道（上越線）は首都圏と上信越地方とを結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団東京第二建設局によって建設が進められている。起点を東京都練馬区として、新潟県上越市までの総延長280.0km（内練馬～藤岡間は関越自動車道新潟線と併用）である。今回建設される藤岡ICから佐久IC間は約67kmで、各市町の通過距離は群馬県多野郡藤岡市（5.6km）、多野郡吉井町（6.3km）、甘楽郡甘楽町（4.3km）、甘楽郡妙義町（2.5km）、碓氷郡松井田町（19.5km）、甘楽郡下仁田町（5.3km）、長野県佐久市（11.9km）である。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣より日本道路公団が施工命令を受けている。同56年、群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市（東部）・松井田町（東部）、同57年、松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い、および調査経過は以下のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し、文化財保護法の遵守、国、県、市町村の指定文化財を避けること、文化財に関する事項は県教育委員会文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教育委員会文化財保護課は、路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県企画部交通対策課より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財について、発掘調査の依頼が道路公団より群馬県教育委員会にあり、県文化財保護課は包蔵地の詳細な分布調査を行った。

昭和60年度 群馬県教育委員会は、分布調査の結果を受け、発掘調査の必要な面積を約100万㎡と算定して、55遺跡を認定（その後の試掘調査により52遺跡に変更）した。そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和66年度末（平成2年度末）とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分については調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の調査事務所として、多野郡吉井町南陽台に関越自動車道上越線調査事務所を開設し、整理作業を併せて行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりである。

事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

昭和61年度 4月、群馬県埋蔵文化財調査事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足する。以降、（昭和62年）6班22人体制、（昭和63年）9班36人体制、（平成元年）12班45人体制、（平成2年）12班45人体制。平成2年度までに一部を残し、発掘調査を終了した。

## 第1章 調査の概要

### 2. 南蛇井増光寺遺跡の調査経過

本遺跡は鎭川の下位段丘上に在り、南は鎭川を望む段丘崖で、比高差は約30mを測る。北は中沢平賀界戸遺跡となる。

本遺跡の調査総面積は約29,000m<sup>2</sup>にわたり、調査地域前面に濃密な遺跡の存在が認められた。

昭和62年に入ると、本遺跡南端部分の鎭川橋梁部分にかかる埋蔵文化財の先行調査の問題が持ち上がり、文化財保護課・日本道路公団・事業団との協議の結果、10月より国道254号線と鎭川に挟まれた（B区）約4,000m<sup>2</sup>を調査、昭和63年2月19日をもって終了した。

昭和63年度には国道以北の本格的な調査が計画され、中沢平賀界戸遺跡を含めた南蛇井増光寺遺跡の試掘調査を9月より実施した。

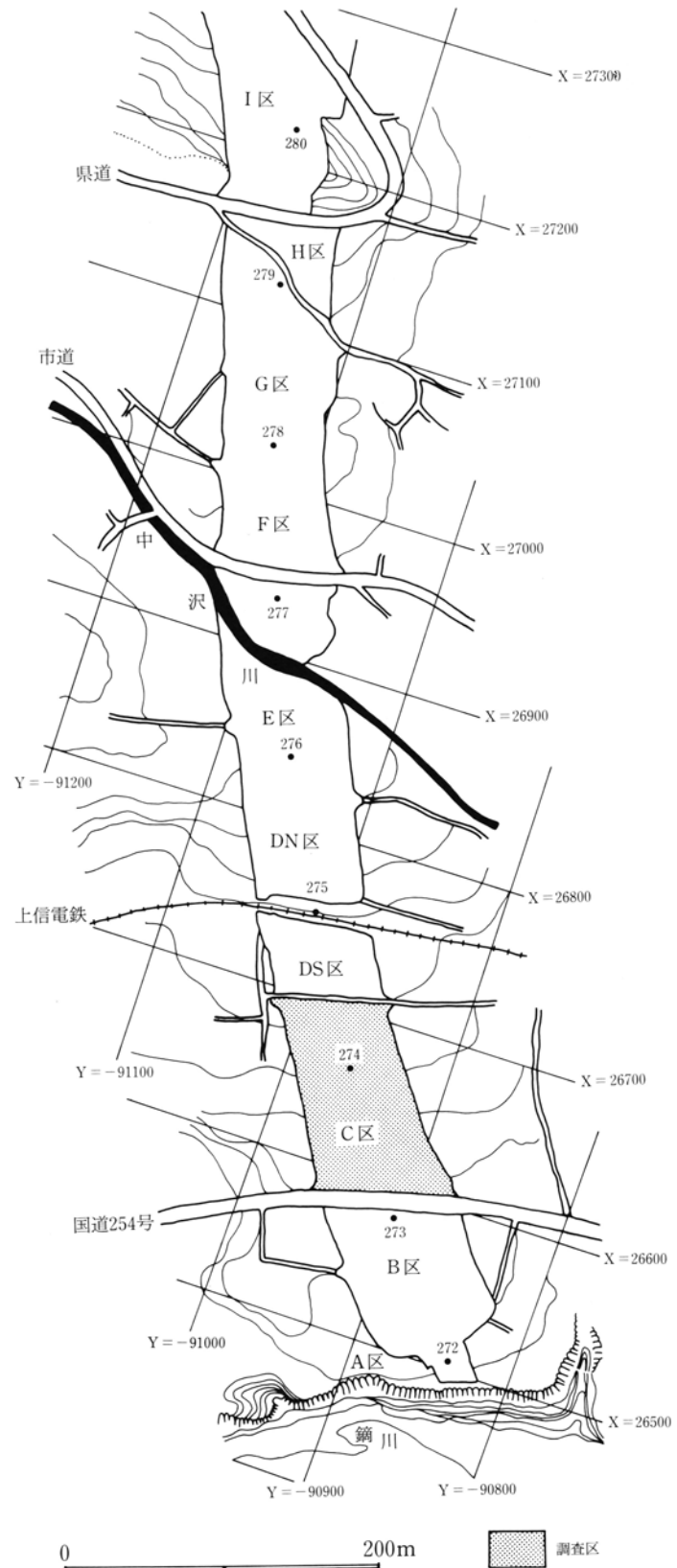
続いて国道北側のC区より本調査に入ることとなった。翌平成元年度にはI、II、III、IV班が編成され調査を行うこととなり、I班は国道南（B区）の残り部分、および中沢川の南（E区）を、II班は国道北側（C区）を、III班はC区側道部分、および上信電鉄南側（DS区）を、IV班は上信電鉄の北側（DN区）の調査をそれぞれ行った。

平成2年度は、最終的に残った大堀の南側、DS区の一部とC区の調査を2班体制で行った。

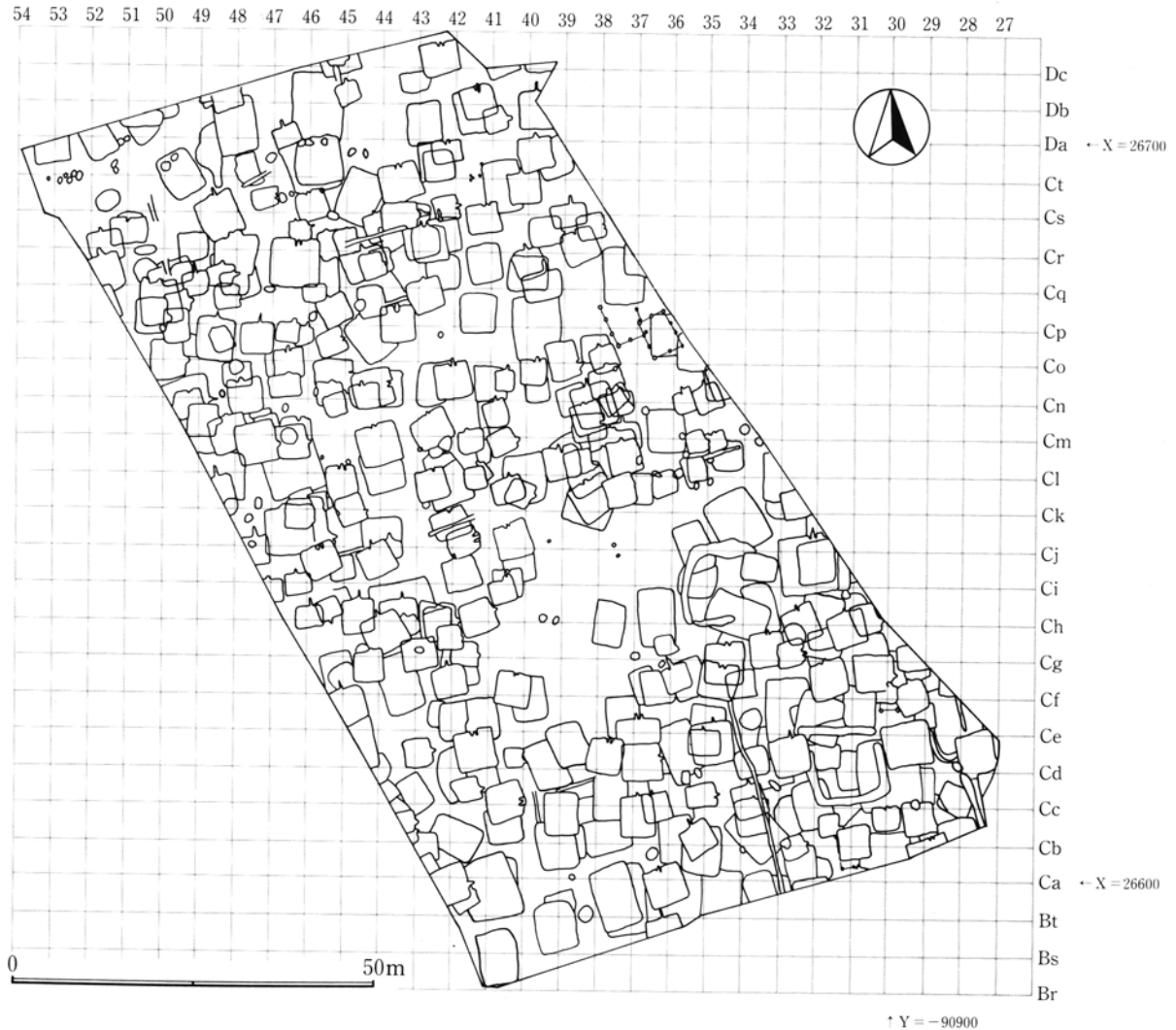
### 第2節 調査の方法

南蛇井増光寺遺跡は鎭川左岸の下位段丘上に位置している。鎭川右岸を西進してきた上信越自動車道が鎭川を渡河した場所に本遺跡は位置している。

路線幅約70mで、STA No.272からNo.280までを井出遺跡（事業名称）として調査を行った。



第1図 調査区域図



第2図 グリッド設定図

調査区は南から100m毎にA～Hまで8区に区切り、それぞれA区、B区……I区とした。各区は国道、農道、川などにより比較的都合良く区分されたが、D区については、ほぼ中央を上信電鉄が通っていたため、やむを得ず南側をDS区、北側をDN区と2区に分けて調査を行った（第1図）。

また、遺跡の記号名をKJ-24（KJは関越自動車道上越線の略、24は藤岡より24番目の遺跡であることを示す）とし、後ろにA～Iまでの区の名称を付し、図面、遺物等の注記に用いた。その後、井出遺跡は、ほぼ中央を流れる中沢川を境に南側を「南蛇井増光寺遺跡」北側を「中沢平賀界戸遺跡」とそれぞれ主要な小字名をとって正式遺跡名とした。

#### 南蛇井増光寺遺跡C区の調査

南蛇井増光寺遺跡は南北におよそ500mと細長く、調査は国家座標に併せて南から100m毎に、AからE区に分け、調査区の全域を覆う形でグリッドを設定した。原点は南蛇井増光寺遺跡南東部、国家座標のX=26500、Y=-90800を交点とし、ここを起点に5m四方のグリッド方眼を設定した（第2図）。南北ラインは5m毎に、C区についてはCa、Cb、Cc……Ctとし、東西ラインは同じく5m毎に1、2、3……とした（C区は27～54ラインまで）。また各5mグリッドの名称は、南東隅の交点をもって表すものとした。

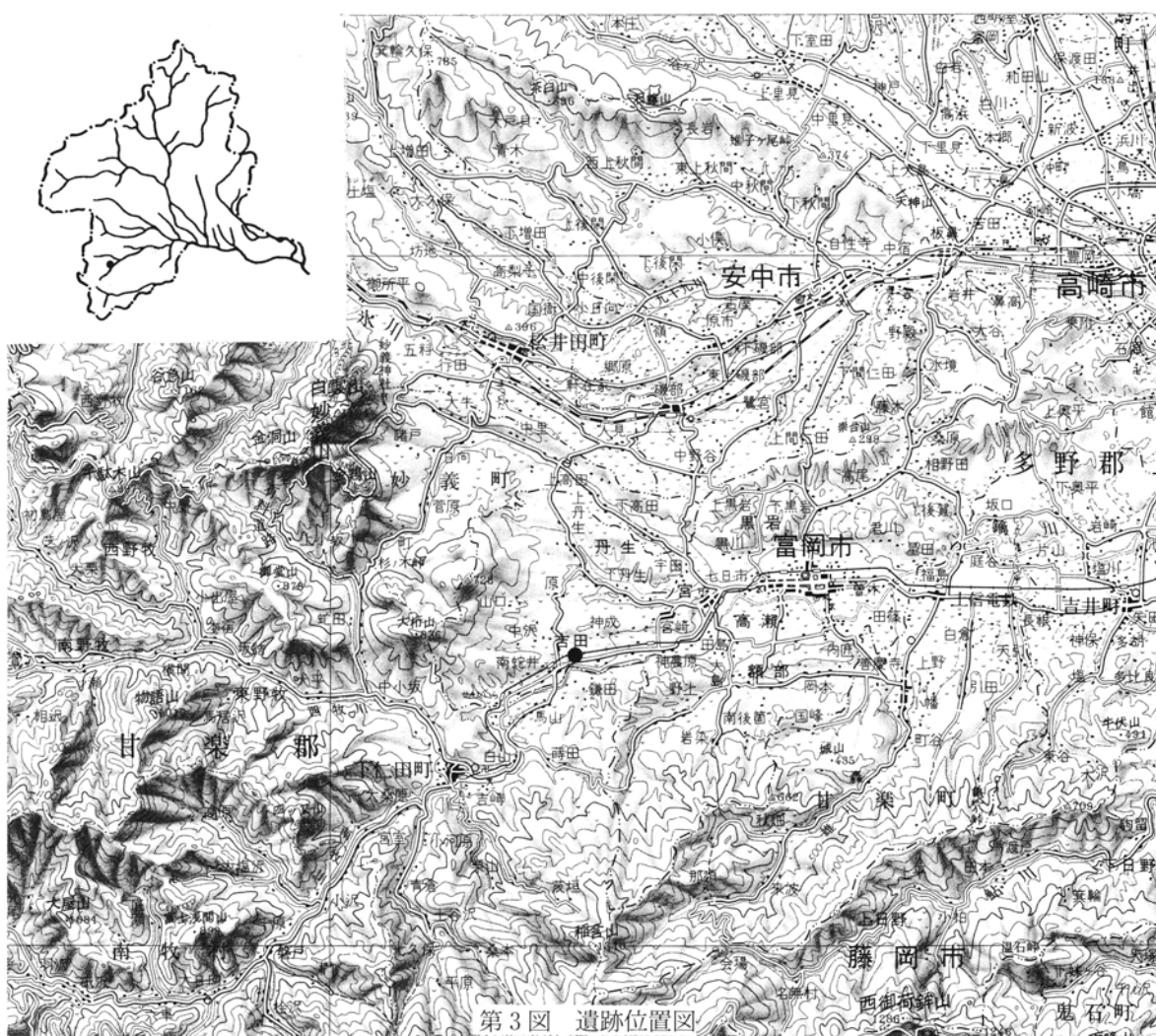
## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

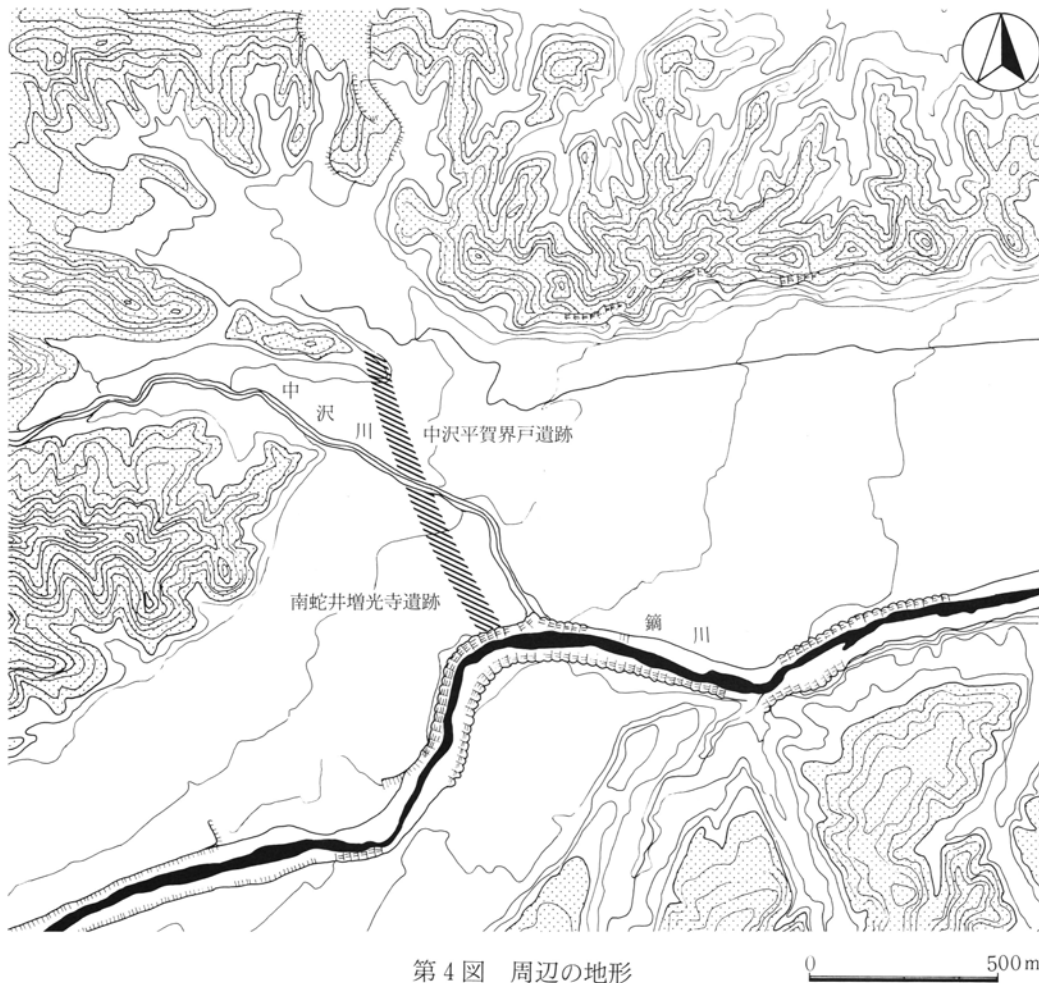
南蛇井増光寺遺跡の所在する富岡市は、群馬県の南西部に位置し、東西約16km、南北約14kmでその面積は93.63km<sup>2</sup>である。市のほぼ中央を鎭川が西から東に流れ、高さ20～30mの河岸段丘を形成している。その北側には国道254号線が走り、市街地はその両側に広がる。また、山間部に入ると今日でものどかな山村風景も見られ、少なくともはなったものの養蚕、蒟蒻、葱などの生産が行われている。

遺跡の所在する南蛇井地区は、南西は鎭川を挟み下仁田町と接し、北側は妙義町に接している。この地域はかつては、甘楽郡吉田村の一部であったが、昭和30年に富岡市に編入され現在に至っている。

上信越自動車道は、群馬県藤岡市で関越自動車道(新潟線)と分岐し、「かぶらの谷」と呼ばれる鎭川に沿った台地上を西に走る。この地域は、富岡市の西に接する下仁田町馬山から藤岡市上落合まで、上下2段の河岸段丘が良く発達しており、とくに南側で顕著である。これは、地殻の傾動運動による鎭川南岸の相対的な隆起に起因し、徐々に鎭川が北に移動しつつ起こされた浸食作用の結果、形成されたものと考えられている。



第3図 遺跡位置図



第4図 周辺の地形

北岸の上位段丘上には市立西中学校、貫前神社などがある高台で、標高は210～240mで、下位段丘との比高差は30～40mである。中高瀬観音山遺跡の南から内匠、岡本にかけての平坦面も上位段丘である。標高は200～240mで、南から北に向かって緩やかに傾斜している。下位段丘との比高差は40～50mである。

上位段丘が形成されたのは、数万年前から十数万年前の洪積世紀末とされ、その後火山による上部ローム層が堆積する頃には、下位段丘面には鍋川が流れていたと考えられる。従って、下位段丘面にはロームの堆積は見られない。下位段丘は、南蛇井、神農原、七日市、富岡市街地、高瀬、田篠、星田など鍋川に沿った地域となっており、国道254号線、上信電鉄などの主要交通路が通り、主要な生活の舞台となっている。

下位段丘面の標高は西部の千平地区で230m、東部の星田地区で130mを測り、緩やかに東に下る連続した比較的平坦な面を形成している。この段丘面の南北幅は南蛇井付近では約600mであるが、上高瀬、一の宮付近では急激に広くなりおよそ、3,000mとなる。さらに東方では、2,500m前後幅の段丘面が続いている。

この下位段丘面を削り込んで鍋川が流れているが、南蛇井から上高瀬までは下位面の南端を、七日市、富岡ではほぼ中央を流れるようになり、東部の星田から下流では、北端近くを流れる。

本遺跡は前述したように、南端で鍋川の急崖と接し、北端は中沢川で切られている。この中沢川に沿った東側は水田が作られており、遺跡の存在する部分は、やや高くなっている。また、現在では確認できないが、小さな谷地が入り込んでおり、遺構の存在する地山を構成する土には、かなりの変化が窺われる。

調査区は道路幅約60mで南北に長い形を呈し、北に徐々に上がって行く地形である。多くの住居跡が重複する状況はさらに東西に広がっているものと思われる。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の遺跡については「南蛇井増光寺遺跡Ⅰ～Ⅳ」の中で各時代の遺跡について触れており、本節では遺跡の所在する南蛇井地区周辺における、旧石器、縄文、弥生時代の遺跡について概観しておきたい。

### 旧石器時代

対岸の下鎌田遺跡において黒曜石製のナイフ型石器、チャート製有舌尖頭器が出土している。また、野上塩之入遺跡（42）でローム層中よりスクレイパーが1点出土している。このほかには該期の資料の出土は見られない。

### 縄文時代

草創期 周辺部においてはほとんど見られないが、本遺跡出土の笥状石器はこの時期の所産と考えられる。

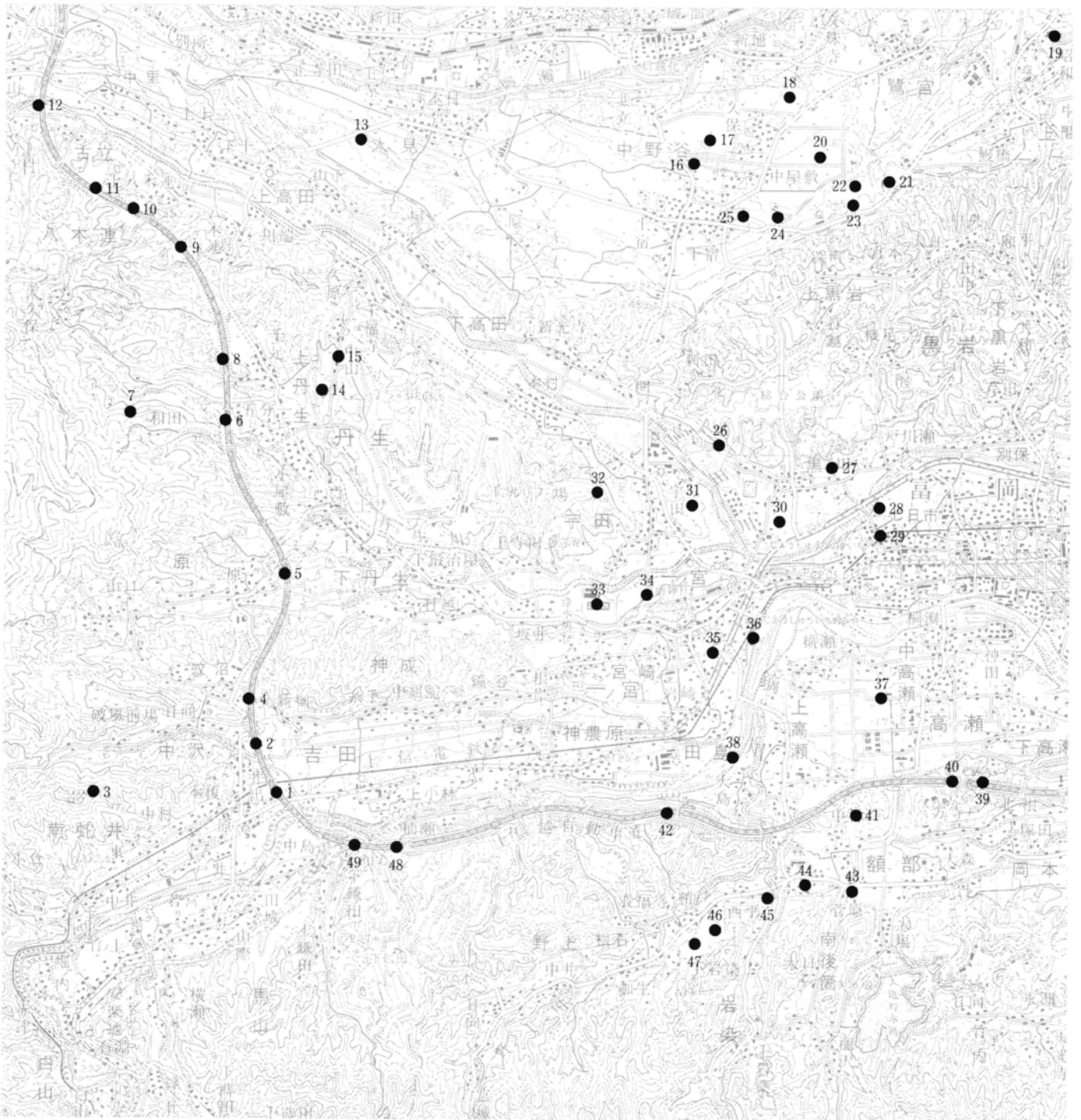
早期に入ると鎭川を隔てた対岸の杣瀬遺跡（48）で押型文、捺糸文土器、さらには沈線線文土器が出土している。また北方に位置する和田遺跡（7）でも捺糸文、押型文土器が出土している。丹生川、高田川の2本の谷筋を越えた安中市の金井谷戸遺跡（24）は押型文期の集落遺跡であり、住居跡と集石土坑が検出されている。さらに同じ台地上の中原遺跡（20）でもこの段階の土坑が検出されている。杣瀬遺跡（48）では早期末の貝殻条痕文土器が見られる。

前期に入ると遺跡数は急増し、周辺を見ても杣瀬遺跡では関山期から諸磯期の住居跡、土坑が検出されている。内出Ⅰ遺跡（5）上丹生市子塚・山ノ上遺跡（14）一ノ宮押出遺跡（33）では黒浜期の住居が、西平原遺跡（45）鞆戸原Ⅰ遺跡（47）鞆戸原Ⅱ遺跡（46）では関山期～諸磯期の住居跡が、和田遺跡（7）一ノ宮本宿・郷土遺跡（35）でも関山期の住居跡が検出されている。また、安中市においては、関山期の集落遺跡として中原遺跡（20）東畑遺跡（25）下宿東・吉田原遺跡（22）下塚田・北下原遺跡があげられ住居跡が検出されている。中原遺跡・東畑遺跡は比較的規模が大きい、それ以外の遺跡は住居1～2軒程度の小規模な遺跡である。大下原遺跡（23）と松原遺跡（17）は中央広場を有するかなり大きな規模の集落で、黒浜期から諸磯c、十三菩提期まで継続する拠点集落である。

中期に入ると対岸の下鎌田遺跡（49）において住居件数200軒を越える規模の大きな集落が形成される。また、中沢川を隔て北に位置する中沢平賀界戸遺跡（2）でも、住居跡が1軒検出されている。上丹生市子塚・山ノ上遺跡でも勝坂期の住居跡が検出されている。さらに七日市観音前遺跡（28）では勝坂期、加曽利E式期の住居、土坑が検出されている。また、本宿・郷土遺跡では敷石住居1軒も確認されている。

隣接する安中市では前期に比べて遺跡数が大幅に減少する。中期中葉までは、特にこの傾向が顕著である。五領ヶ台期の遺跡としては大下原遺跡（23）が存在するが、この遺跡では土坑が数基検出されているのみである。中葉段階までは、はっきりした集落遺跡は存在しない。加曽利E式期になると、集落遺跡の存在が見られるようになる。東畑遺跡（25）松原遺跡（17）天神原遺跡（16）の各遺跡がそれである。いずれも加曽利E式期でも新しい時期に該当し、遺跡の規模も小さく、継続性に乏しい。この中で天神原遺跡（16）は後期まで継続する集落遺跡である。

後期の遺跡も周辺ではほとんど見られない。隣接する安中市においても同様な状況であるが中野谷天神原遺跡（16）は後期から晩期まで継続する大規模な集落遺跡である。住居跡以外に配石墓、環状列石などが存在しており、集団領域の中心的位置を占める拠点集落とみられる。下宿東遺跡は後期前半の堀之内期の小規模な集落で、敷石を伴う住居跡が検出されている。道前久保遺跡（19）は前期・中期・後期の集落遺跡であり、多数の住居跡が検出されている。



第5図 周辺の遺跡

### 弥生時代

前・中期の遺跡は少ないが、七日市観音前遺跡 (28) では中期前半の竪穴1棟と土坑が検出されている。また、隣接する松井田町上人見遺跡 (13)、安中市の注連引原遺跡 (21)、中原遺跡 (20)、落合遺跡、下原遺跡で中期初頭の遺構、遺物が検出されている。さらに高田川左岸の下位段丘上に位置する小塚遺跡 (30) では中期後半に位置づけられる7軒の住居跡の他、貯蔵用の土坑、環濠などが検出されている。また、小塚遺跡の西には、高田川を挟んで阿曾岡・権現堂遺跡 (31) があり、住居跡、方形周溝墓等が、さらにその北側

## 第2章 遺跡の環境

の高田川を挟んだ黒川東八木遺跡（26）でも住居跡が検出されている。貫前神社の裏側、丹生川の右岸河岸段丘上には後期の住居跡10軒が検出された一ノ宮押出遺跡（33）が位置する。また、上越線関連で調査を行い、平成6年に国の指定を受けた中高瀬観音山遺跡（39）は、高瀬山丘陵上に営まれた集落で、後期の住居跡100軒が検出されており、約3分の1が焼失しているという状況を示している。

本遺跡の周辺に目を移してみると、西方三笠山の中腹に位置する三笠山岩陰遺跡（3）では、後期中葉の土器類に伴い焼人骨が検出されている。また、中沢平賀界戸遺跡においても後期の住居跡15軒が検出されている。

以上、本遺跡周辺における縄文・弥生時代を中心とした遺跡について概観したが、縄文時代に関しては早期にはかなり標高の高い上位段丘上に点在して遺跡が見られ、前期以降中位・下位段丘上にその居住域を移し、集落の規模も大きくなる。そして中期後半になり集落数の減少傾向が見られるが、これは集落の統合が進んだ結果と見ることができ、下鎌田遺跡に見られるような大規模集落の発生につながるものと考えられる。

後期に入ると遺跡数の減少傾向が窺え、また集落と呼べるような規模のものも見られなくなる。晩期にはこうした傾向がさらに顕著となり、本地域では住居跡をはじめ、遺構はほとんど見られなくなる。

弥生時代に入ると西からの影響で、土器に変化が生じ、墓制にも前代の縄文時代には見られなかった再葬墓などの出現を見るが、土器は縄文時代の文様要素を色濃く残したものも多く、過渡的な状況を見せている。しかしながら、この時期の住居跡等の検出例などはきわめて少なく、人々の生活の様子などはまだまだ未解決の部分が多い。中期後半になると小塚遺跡をはじめ、集落の検出も見られ、水田耕作を取り入れた人々の、定着の跡が見られるようになる。後期には、集落の数、規模ともに増加し、河川の段丘上に居住域が求められるようになり、後背湿地を利用した水田耕作が行われる。現在の所富岡市内においては弥生時代の水田跡は確認されていないが、近い将来発見されることは想像に難くない。

表1 周辺の遺跡

No	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 内 容	文献等
1	南蛇井増光寺遺跡	富岡市南蛇井	縄文時代から平安時代の堅穴住居多数検出。住居総数785軒を数える。その他土坑多数。方形周溝墓、中世の方形に走る大溝などが検出されている。	⑫⑬⑳㉑
2	中沢・平賀界戸遺跡	富岡市中沢	中沢川を境に本遺跡の北に位置する。堅穴住居158軒（縄文1、弥生15、古墳～平安時代142軒）その他中世墳墓、近世の墓坑、礎石建物跡等を調査。	㉒
3	三笠山岩陰遺跡	富岡市南蛇井	三笠山の岩壁にあり、北東に開口。弥生後期の土器、焼人骨、歯などが出土。	③④
4	前畑遺跡	富岡市蚊沼	鍋川左岸下位段丘上。中沢平賀界戸遺跡の北に位置する。古墳時代中期の住居跡18軒奈良・平安時代の住居跡8軒、中・近世の溝、土坑等を検出。	⑩
5	内出Ⅰ遺跡	富岡市原	縄文時代前期4軒、弥生～古墳時代初頭4軒、古墳～奈良時代9軒の他、古墳2基。	⑩
6	五分一遺跡	富岡市上丹生	遺構は見られなかったが、縄文～中・近世の土器、陶磁器片などが検出されている。	⑩
7	和田遺跡	富岡市上丹生	大桁山の東側中腹に立地。縄文時代前期の住居跡4軒、古墳時代初頭の住居跡。	⑬
8	千足遺跡	富岡市上丹生	縄文時代前期2軒、弥生～古墳時代前期4軒、古墳～平安時代12軒、古墳等を検出。	⑩
9	八木連荒畑遺跡	妙義町八木連	縄文～平安時代 集落跡	⑨
10	八木連狸沢遺跡	妙義町八木連	弥生～平安時代 集落跡	⑨
11	古立中村遺跡	妙義町古立	縄文～平安時代 集落跡	⑨
12	古立東山遺跡	妙義町古立	縄文～平安時代 集落跡	⑨
13	上人見遺跡	松井町人見	弥生時代中期初頭の再葬墓	①
14	上丹生市子塚山ノ上遺跡	富岡市上丹生	縄文時代の住居跡（前期1、中期8、後期1）弥生時代後期の尾根を馬蹄形に巡ると思われる溝を検出。	㉔
15	早道場遺跡	富岡市上丹生	縄文時代前期から中期の土器、石器。埴輪等が採集されている。	㉔
16	天神原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期～後期の集落跡。配石墓、柄鏡形敷石住居等検出。	⑮
17	中野谷松原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期～後期の集落跡。	
18	北東堤下遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期後半～中期の集落跡。	
19	道前久保遺跡	安中市上間仁田	縄文時代前期後半～後期期の集落跡。	
20	中原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期前半の集落跡。	⑮
21	注連引原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前～後期の住居跡。弥生時代中期初頭の住居跡等を検出。	⑥
22	吉田原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期の住居跡5軒、その他集石、土坑等を検出。	⑭
23	大下原遺跡	安中市中野谷	縄文時代前期17軒、弥生時代後期3軒、平安時代1軒の住居跡を検出。	⑭

## 第2節 歴史的環境

No.	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 内 容	文献等
24	金井谷戸遺跡	安中市中野谷	押形文期の住居跡、集石を検出。	⑬
25	東畑遺跡	安中市中野谷	中期後半の敷石住居跡を検出。	⑬
26	黒川東八木遺跡	富岡市黒川	弥生時代後期～平安時代にかけての集落。中世の堀跡も検出されている。	④
27	辻平遺跡	富岡市黒川	包蔵地。縄文土器、弥生土器、土師器等が散布する。	④
28	七日市観音前遺跡	富岡市七日市 字観音前	縄文時代中期の住居跡2軒、土坑30基。弥生時代中期初頭の竪穴状遺構1。古墳～奈良・平安時代の住居跡35軒。その他土坑、溝等を検出。	⑬
29	七日市遺跡	富岡市七日市	縄文時代の包蔵地。	④
30	小塚遺跡	富岡市黒川	高田川左岸に立地。縄文時代前期～後期の集落跡。弥生時代中期後半の環濠集落跡。	⑤
31	阿曾岡・権現堂遺跡	富岡市宇田	高田川と丹生川に挟まれた残丘上に立地。弥生から平安時代にかけての複合集落跡。住居跡300軒以上を検出。その他前方後円墳2基、円墳1基。	④
32	恵下原遺跡	富岡市宇田	神守寺の南に位置する。縄文時代から古墳時代にかけての遺物が多く散布する。石鏃、ガラス小玉、石製模造品等が採集されている。	④
33	一ノ宮押出遺跡	富岡市一ノ宮	一ノ宮から丹生へ抜ける県道と丹生川右岸の間に位置している。工業団地造成工事に伴い調査が行われ、古墳時代の住居跡(前期7、中期7、後期1)。弥生時代の住居跡10軒、縄文時代の住居跡2軒を検出。	⑭
34	貫前神社遺跡	富岡市一ノ宮	縄文時代 包蔵地	④
35	本宿・郷土遺跡	富岡市一ノ宮	国道のバイパス建設に伴い調査。縄文から平安時代の住居跡200軒以上の他、土坑、掘立柱建物跡、堀、井戸、古墳時代の首長居宅跡を検出。	②
36	生田遺跡	富岡市一ノ宮	縄文時代の包蔵地。	④
37	中高瀬遺跡	富岡市中高瀬	弥生時代の包蔵地。	④
38	神農原遺跡	富岡市神農原	縄文時代の包蔵地。	④
39	中高瀬観音山遺跡	富岡市中高瀬	比高60mの丘陵上に立地。縄文時代7軒、弥生時代後期の住居跡96軒を検出。弥生時代の住居は焼失したものが多く。古墳～中・近世にかけての建物跡、土坑等も検出。	⑳
40	中高瀬庚申山遺跡	富岡市中高瀬	急峻な尾根上に立地。縄文時代の埋甕、弥生時代の竪穴住居跡6軒、奈良・平安時代の住居跡5軒を検出。平安時代の住居跡から須恵器の水瓶出土。	㉑
41	中村遺跡	富岡市額部	弥生時代の包蔵地。	④
42	野上塩之入遺跡	富岡市野上	昭和63年調査。竪穴住居7軒(縄文前期1、中期2基、奈良・平安時代4軒)土坑溝を調査。縄文土器、石器、土師器、須恵器等出土。	⑦
43	菅原遺跡	富岡市額部	縄文・古墳時代の包蔵地。	④
44	原遺跡	富岡市額部	縄文時代の包蔵地。	④
45	西平原遺跡	富岡市野上	縄文時代前期、黒浜期の住居跡10軒、諸磯期の住居跡1軒が検出されている。	⑪
46	鞘戸原Ⅱ遺跡	富岡市野上	縄文時代前期、黒浜期の住居跡15軒、諸磯期の住居跡13軒が検出されている。	⑪
47	鞘戸原Ⅰ遺跡	富岡市野上	縄文時代前期、黒浜期の住居跡10軒、諸磯期の住居跡19軒が検出されている。	⑪
48	杣瀬遺跡	下仁田町馬山	縄文時代の住居・土坑、弥生時代の土坑・集石および古墳、中世城郭を調査。昭和62・63年度下仁田町遺跡調査会調査。	⑮
49	下鎌田遺跡	下仁田町馬山	台地端部に営まれた縄文中期の集落跡。住居跡200軒、土坑多数、集石、埋甕等、弥生時代の住居4軒、古墳11基、方形周溝墓、平安時代住居跡等検出。	

### 文献

- ①『弥生式土器集成一本編2』東京堂出版 1968
- ②『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』富岡市教育委員会 1981
- ③『日本先史時代におけるヒトの骨および歯の穿孔について―八束脛洞窟遺跡資料を中心に―』群馬県立歴史博物館紀要第6号 1985
- ④『富岡市史 自然編・原始・古代・中世編』富岡市市史編纂委員会 1987
- ⑤『小塚・六反田・久保田遺跡』富岡市教育委員会 1987
- ⑥『注連引原遺跡』安中市教育委員会 1987
- ⑦『野上塩之入遺跡・塩之入城跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- ⑧『注連引原遺跡Ⅱ』安中市教育委員会 1988
- ⑨『古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連狸沢遺跡・八木連荒畑遺跡』妙義町遺跡調査会 1990
- ⑩『前畑遺跡・内出Ⅰ遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡』富岡市遺跡調査会 1992
- ⑪『鞘戸原Ⅰ・鞘戸原Ⅱ・西平原遺跡』富岡市教育委員会 1992
- ⑫『南蛇井増光寺遺跡Ⅰ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- ⑬『南蛇井増光寺遺跡Ⅱ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- ⑭『大下原遺跡・吉田原遺跡』安中市教育委員会 1993
- ⑮『杣瀬Ⅰ遺跡・杣瀬Ⅱ遺跡・杣瀬Ⅲ遺跡』下仁田町遺跡調査会・下仁田町教育委員会 1994
- ⑯『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会 1994
- ⑰『一ノ宮押出遺跡』富岡市教育委員会 1994
- ⑱『七日市観音前遺跡』富岡市教育委員会 1994
- ⑲『和田遺跡』和田山遺跡調査会・富岡市教育委員会 1994
- ⑳『南蛇井増光寺遺跡Ⅲ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- ㉑『中高瀬観音山遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
- ㉒『南蛇井増光寺遺跡Ⅳ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996
- ㉓『中沢平賀界戸遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996
- ㉔『上丹生市子塚・山ノ上遺跡』富岡市教育委員会 1996

### 第3節 基本土層

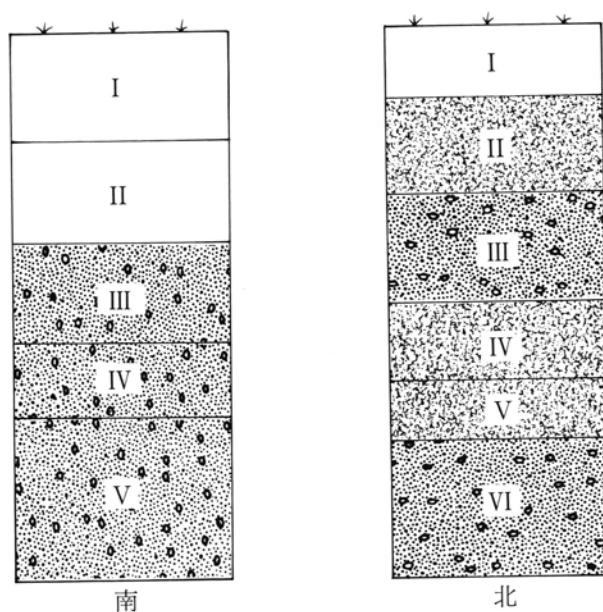
本遺跡は鍋川左岸の段丘上に位置している。調査区内の地形は比較的平坦であるが、北から南に向かって緩やかに下っており、調査区（C区）の北と南端との高低差はおよそ3mである。C区の南端は国道254号線に接している。その約150m先が鍋川の段丘崖となり、川面までの高さは約30mを測る。また遺跡の約200m北には南東流する中沢川がある。本遺跡の地山土を形成する砂礫層は、この中沢川により谷あいから押し出されてきたものである。

C区の基本的な層序は、表土層（耕作土）、粘質褐色土、黒褐色砂礫層、茶褐色土、暗黄褐色粘質土、黄褐色粘質土層、礫層となる。表土の褐色土は現状での厚さはさほどなく、その下には褐色の粘土層が見られる。この粘質土層の発達には調査区南東部分で著しく、礫の混入はほとんど見られない。

これに対し、南東部分を除く北側部分は小礫の混入が多くなり、この傾向は北に行くにつれ顕著となり、逆に粘土の混入が少なくなる。また、西側は礫を多く含む粘質土の地山が上面近くにまで及んでいるが、東部分は砂礫主体の土で覆われている。

以上のように、調査区内では層序にかなりの変化が見られることから、こうした堆積土は河川の影響を十分に受けて形成されたものと考えられる。

- 第Ⅰ層 茶褐色土。小礫を多量に含む耕作土、締まりは弱い。
- 第Ⅱ層 褐色土。粘質土で小礫を含む。厚さは30cm程である。  
(調査区南部分においては深耕によりⅠ、Ⅱ層の区別は困難)
- 第Ⅲ層 黒褐色土。3～5cmの礫を含む砂礫層、厚さは10～70cmと場所により異なる。
- 第Ⅳ層 暗黄褐色の粘質土。厚さは5～30cmである。
- 第Ⅴ層 黄褐色の粘質土。厚さは10～20cmである。
- 第Ⅵ層 褐色土。かなり大きな礫を含む。



第6図 基本土層図

## 第3章 遺構

### 第1節 縄文時代

#### 1. 住居跡

本調査区内で検出された縄文時代の住居跡は25軒（2号集石、1号配石も住居跡であるが本節ではそれぞれ集石、配石で報告する。）である。時期は、前期から後期にかけてあり、その内訳は前期14軒、中期9軒、後期3軒である。ただし、これら縄文の住居跡は後世の遺構による切り合いが著しく、遺存状態のきわめて悪いものが多く、住居としたものの内何軒かは土坑、単なる落ち込み、土器集積等の可能性もあることを断っておく。

検出した住居の時期は上述のとおりであるが、形状がはっきり検出できたものは数軒で、その他は壁の一部、あるいは床、炉部分のみの検出であった。出土遺物もきわめて少ないものもあり、時期の判断についてははっきりとしないものがある。

住居の分布を見ると、前期のものは南東部分に集中し、国道を挟んで南側のB区に続いている。前期末に帰属するものはC362号住居跡1軒のみで、南蛇井増光寺遺跡全体を見ても他には見られない。中期初頭の五領ヶ台期の住居が2軒見られたが、1軒は住居とするには疑問も残る。C152号住居跡は中期中葉、勝坂期の住居で1軒のみ検出されている。ほぼ完形の土器が出土している。中期後半の加曽利E期の住居は6軒検出したが、このうち明確なものは3軒である。また、2軒の敷石住居を含む。さらに、後期堀之内期の柄鏡形敷石住居も1軒検出されている。

#### C30号住居跡（第7・8・338～340図 PL. 8・96・97・218）

**位置** Cb・c-32 **形状** 隅丸長方形か **規模** 長辺(7.50)m、短辺(5.0)m、壁高0.2m

**重複** 上部はかなり削平されており、南部分には、C58号住居跡（古墳時代）及びC65号住居跡（弥生時代）が重複。また、西側部分はC86号住居跡（弥生時代）に、さらに東側は大きくC57号住居跡（弥生時代）に床面下まで壊された状況であった。 **埋没土** やや粘質を持ち、砂礫混じりの暗褐色土で、締まりの良い土で埋まる。 **床面** 粘質のある地山を掘り込み、床面としているが、あまり平坦ではなく、使用面として明確でない部分も見られた。 **柱穴** 主柱穴ははっきりしない。

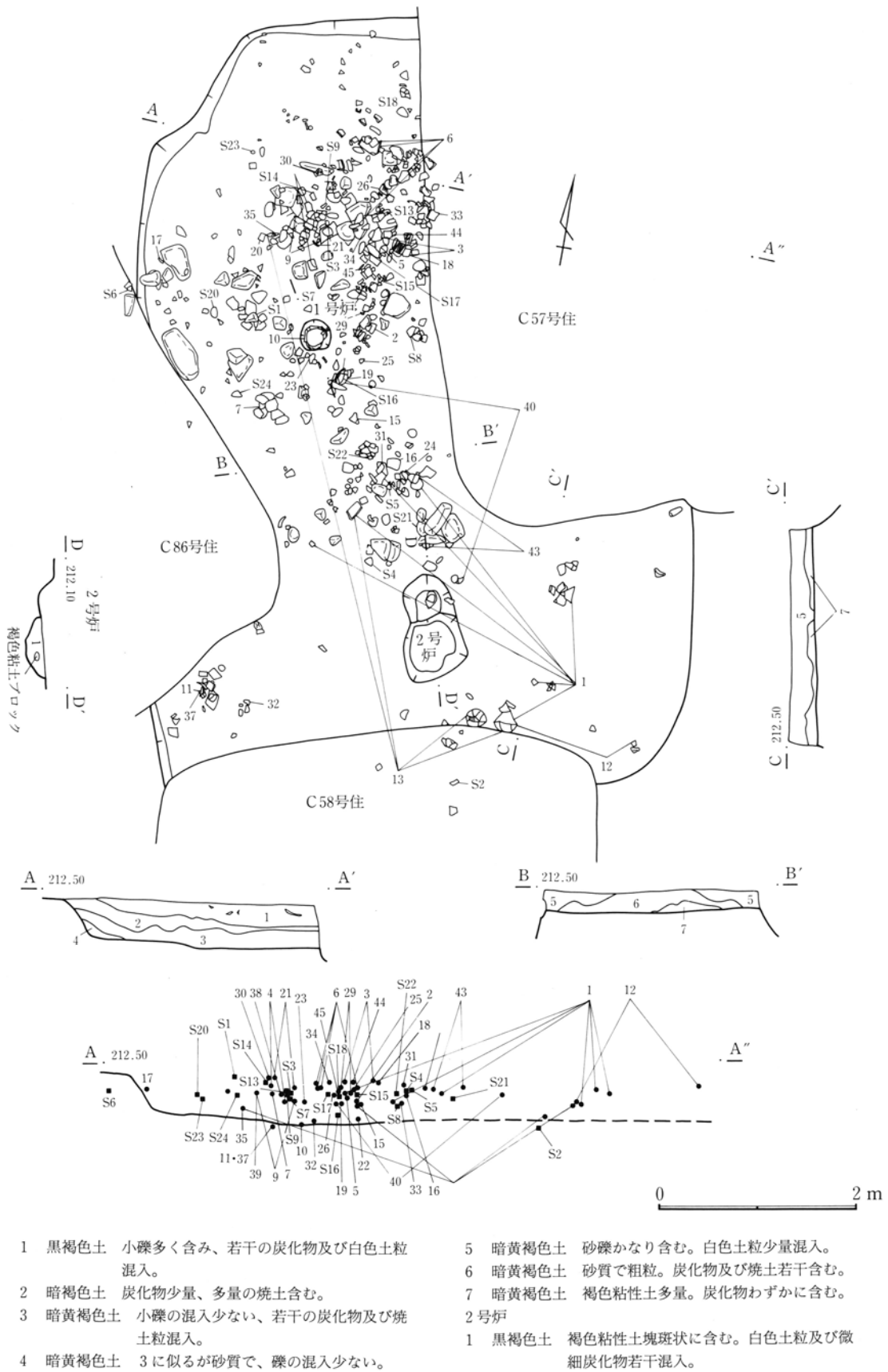
**炉** 2カ所検出した。

1号炉 中央やや西寄りに作られた埋甕炉である。胴下半部を欠いた深鉢10が据えられ、土器の内部には若干の焼土が認められた。

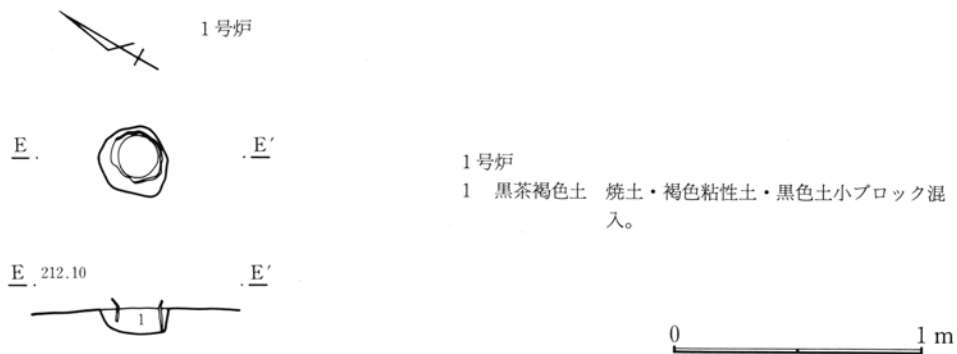
2号炉 住居南寄りに作られている。2つの穴が連結した状態で、覆土には炭化物が混入している。

**出土遺物** 遺物は北側部分に多く見られ、土器の他に多くの石器、石片が出土している。土器はほとんどが深鉢で、大形の波状口縁部を持つものを中心に、やや小形の平縁のものなどが見られたが、摩滅したものが多。石器は石匙、スクレイパー、凹石、磨石、敲石等が見られた。

**調査所見** 大きく北東部分は切られており、南側についても上部は削られ、遺存状態はあまり良くないが、およその住居形態はつかむことができた。



第7図 C30号住居跡



第8図 C30号住居跡炉

C37号住居跡 (第9・341・342図 PL. 9・10・98・99・218)

位置 Ce-42 形状 長円形 規模 長辺3.7m、短辺(2.5)m、壁高0.15m

重複 東側半分をC21号住居跡(弥生時代)に切られている。 埋没土 礫を多く含む粗粒土。

床面 中央がややくぼむ。 柱穴 壁際を廻るようにP1～5が検出された。

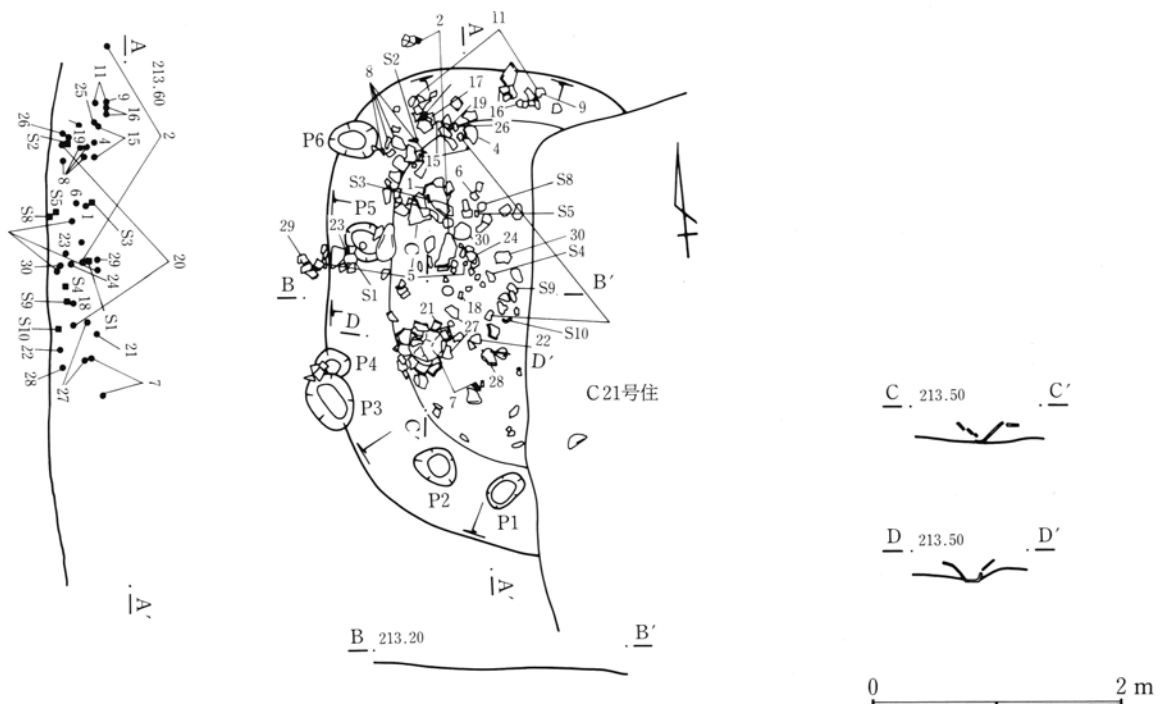
炉 検出されなかった。 出土遺物 深鉢型土器の破片類を中心に出土している。7は深鉢型土器の底部であるが、床面に接して出土している。

調査所見 やや南北に長い形状を呈す。掘り込みはほとんど確認できず、おおよそ緩やかな落ち込みとして捉えられる。住居跡としたが、やや疑問もある。

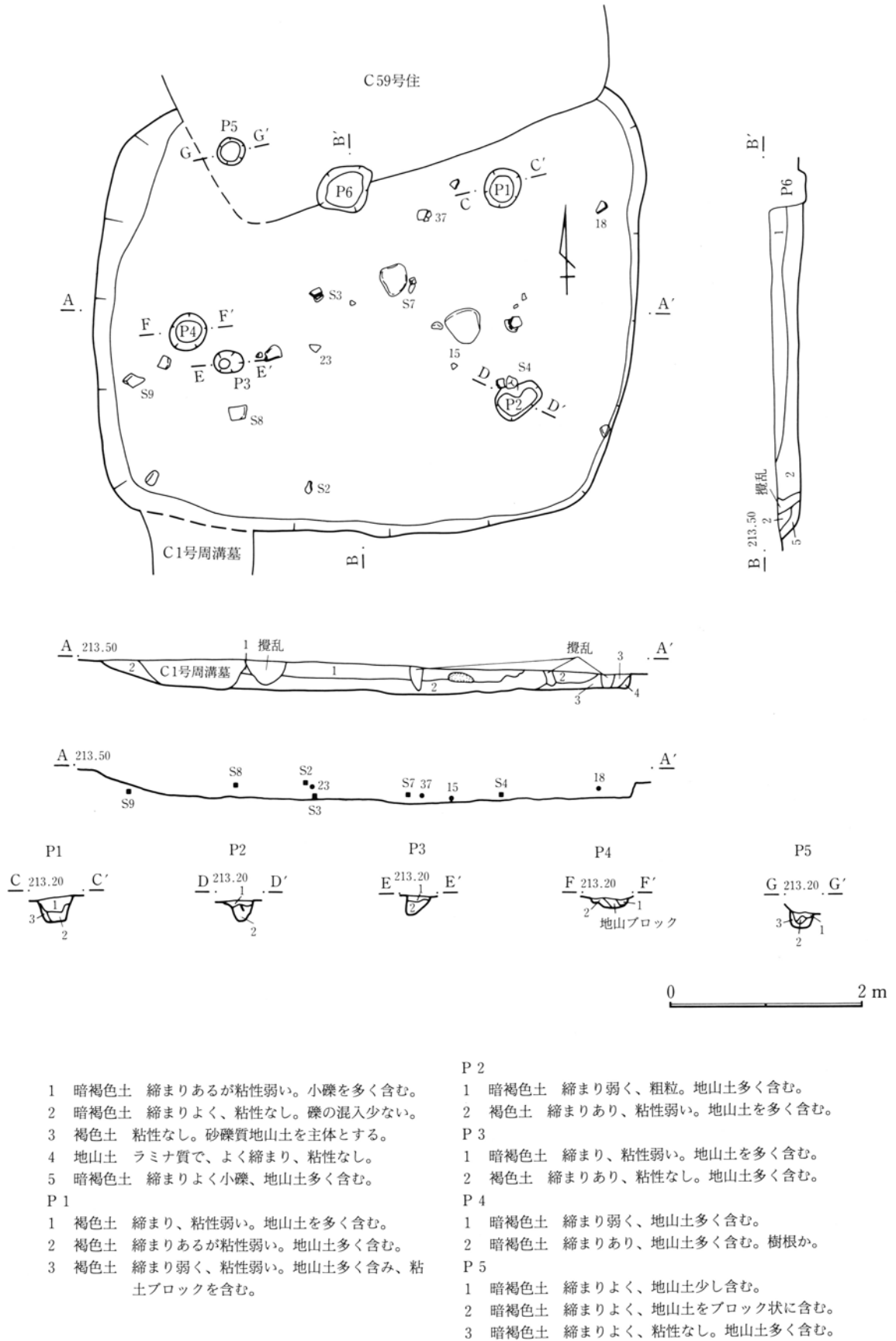
C77号住居跡 (第10・343図 PL. 21・99・219)

位置 Ch-i-34・35 形状 隅丸方形 規模 長辺5.54m、短辺(4.78)m、壁高0.34m

重複 北側をC59号住居跡(弥生時代)に切られ、さらにC1号方形周溝墓が西側部分を縦断する形で重複



第9図 C37号住居跡



第10図 C77号住居跡

している。 **埋没土** 礫を含む粗粒土で埋まる。 **床面** 中央部がわずかに低く、やや凹凸があり、かなり軟質である。 **柱穴** ピットは6本を検出、主柱穴は4本と思われ、P1・2・3・5が対応するものと思われる。深さはいずれも20cm前後である。 **炉** 明確なものは検出できなかった。

**出土遺物** 土器は小破片のみである。石器はスクレイパー、打製石斧、磨石、砥石、台石等が出土している。

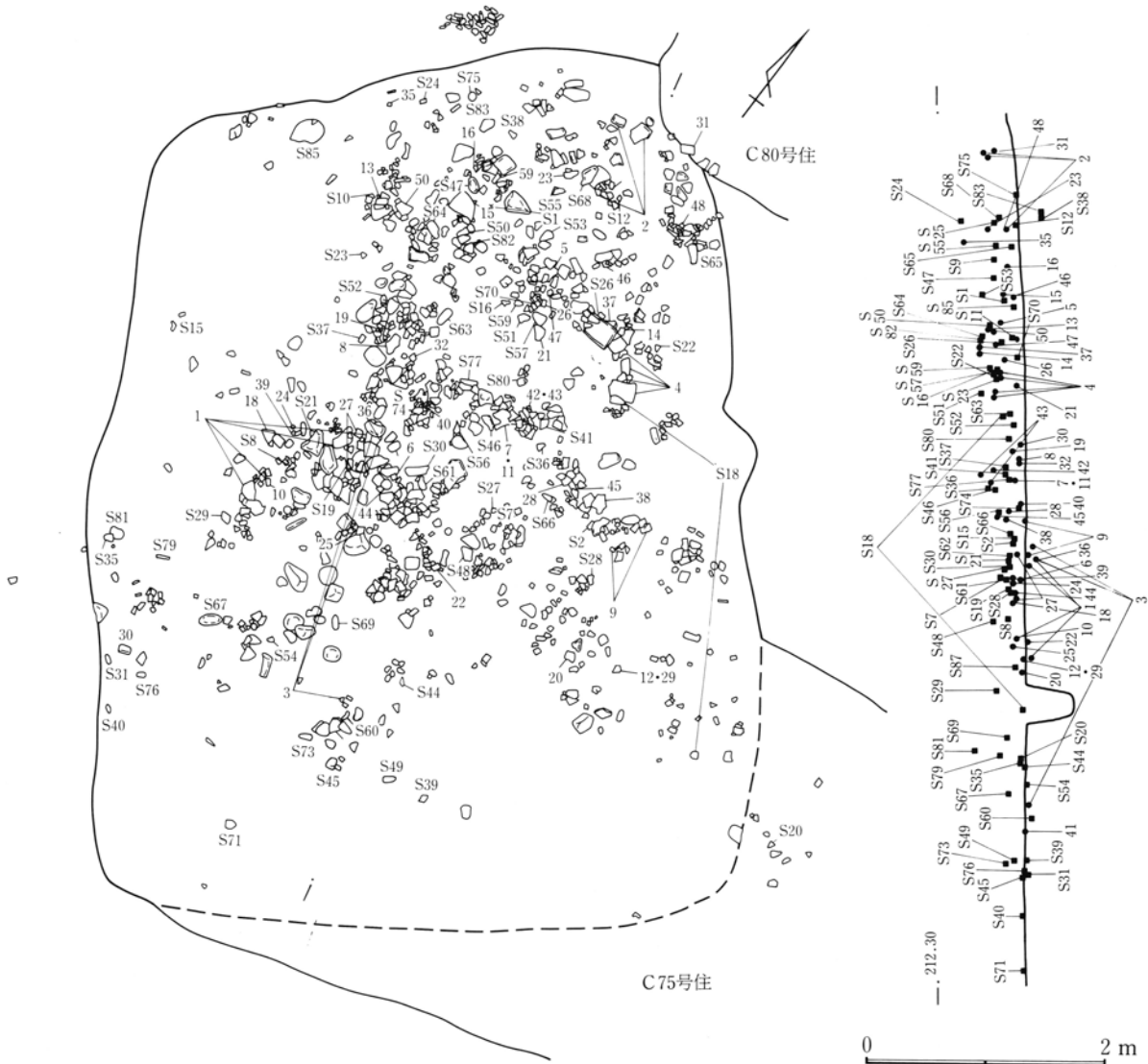
**調査所見** 切られた部分はあるものの、比較的遺存状態の良い住居である。形状は隅丸の正方形に近く、壁はやや斜めに立ち上がる。炉は確認できず、床面の状態などからもあまり生活痕の見られない住居である。

C79号住居跡 (第11～13・344～346図 PL. 21・22・100・101・220～223)

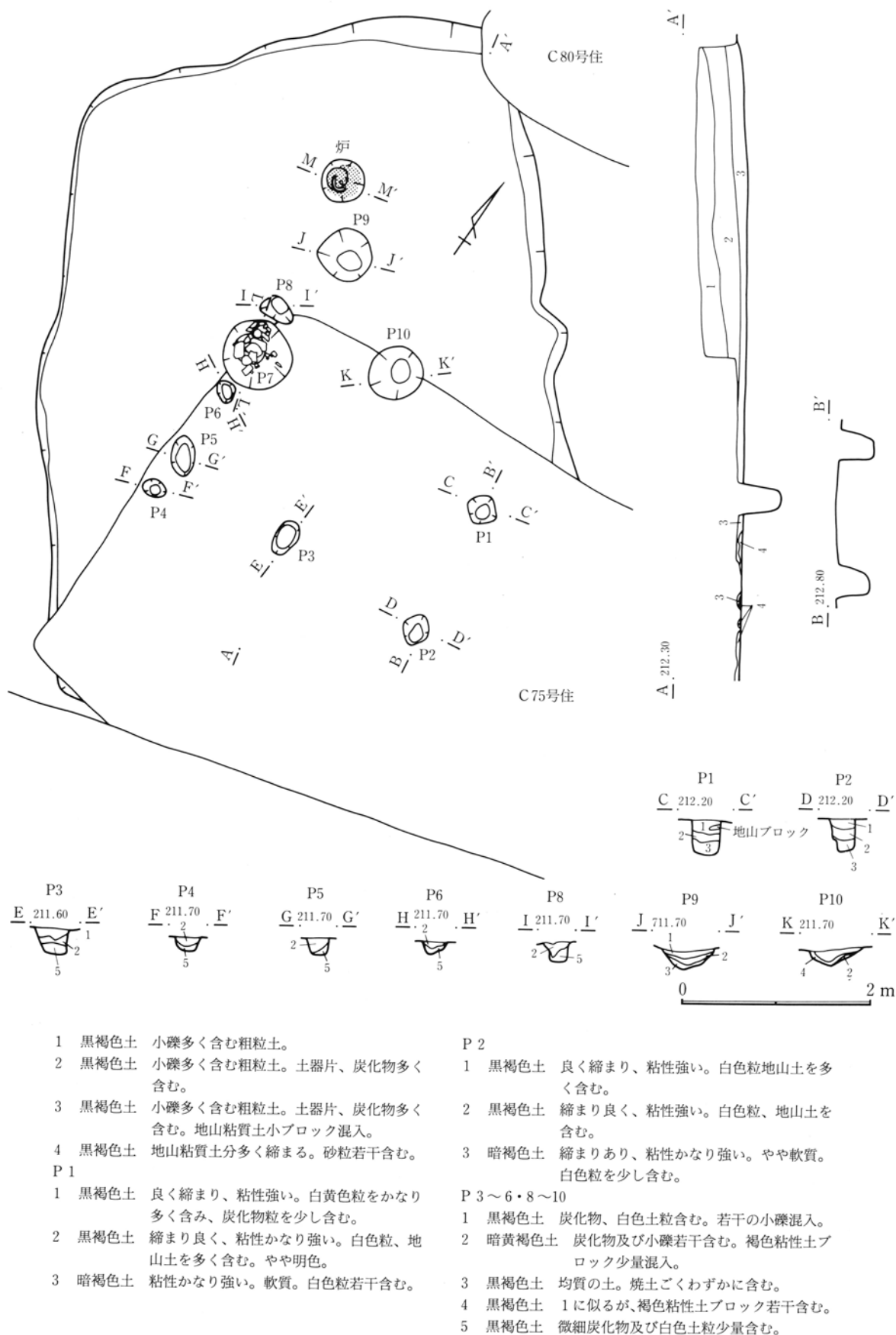
**位置** Ca・b-29・30 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(7.11)m、短辺5.1m、壁高0.52m

**重複** 南側の大部分をC75号住居跡(弥生時代)、C48・78号住居跡(古墳時代)によって壊されており、きわめて残りの悪い住居である。 **埋没土** かろうじて残った覆土は、かなり粘性の強い黄褐色土が主体で砂粒を含む。

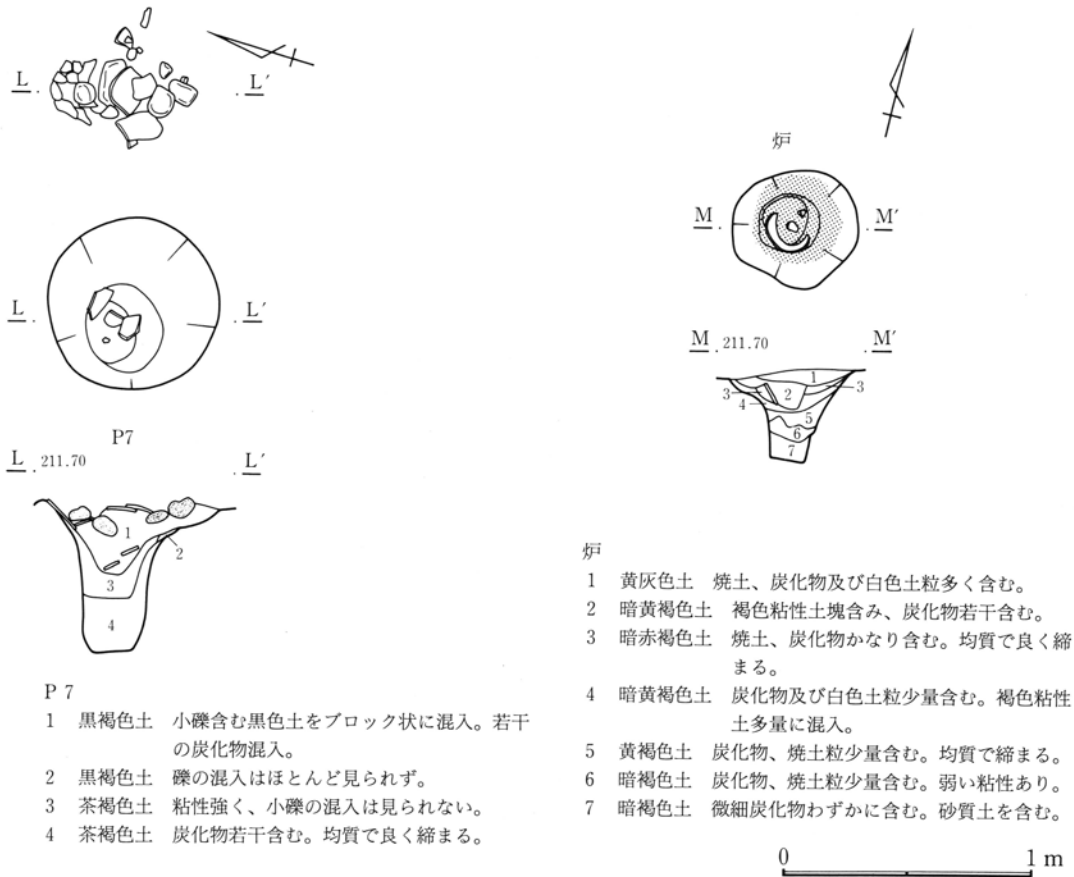
**床面** 重複部分も住居下位から床面は比較的残っていた。かなり凹凸を持った粘質土で、掘り下げた地山をそのまま床面としている。 **柱穴** 10本程を検出したが、明確な柱穴は確認できなかった。



第11図 C79号住居跡(1)



第12図 C79号住居跡(2)



第13図 C79号住居跡炉

た。P7は上層部分に礫と土器が重なって出土している。

**炉** 中央北寄りに作られる。かなり深く掘り込まれたピットの上部に深鉢が据えられ、周辺部に焼土が検出されている。

**出土遺物** 床面近くから比較的多くの土器、石器が混在して出土している。土器は波状口縁を持つ大形のもの、平縁のやや小形の深鉢等が見られる。石器もかなりの点数出土しており、石鏃、石匙、スクレイパー、磨製石斧、凹石、敲石、磨石、石皿、台石などが見られる。

**調査所見** 重複が著しく、壁等の残りは悪いが、下部はかなり残っており遺物も比較的多く見られた。住居の形状は隅丸長方形と思われる。

C88号住居跡 (第14～16・347・348図 PL. 25・102・103・224・225)

**位置** Cb・c—35・36 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(6.70)m、短辺(5.12)m、壁高0m

**重複** 南側をC20号住居跡(弥生時代)、C43号住居跡(古墳時代)に、東壁をC55号住居跡(古墳時代)に北東隅をC56号住居跡(弥生時代)に、北西隅をC35号住居跡(古墳時代)に壊されている。

**埋没土** ほとんど覆土は残っていない状況であった。 **床面** 北側は比較的平坦で比較的締まっているが、南部分は凹凸が見られる。 **柱穴** 検出されなかった。

**炉** 中央やや南寄りに検出された。不定形な長円形の浅い落ち込みに伴って焼土が検出されている。南東側にやや大形の礫が数点検出されている。

**出土遺物** 土器片、石器類がほぼ全面より検出されている。土器はほとんど破片で器形を復元し得るものは

### 第3章 遺 構

なかった。石器は石匙、スクレイパー、打製石斧、凹石、敲石、磨石、台石等が出土している。また直径約4 cmの、穿孔を持つ球状土製品が1点見られる。

**調査所見** 上部は削平されており、四方を後世の住居に切られ遺存状態は悪かった。壁の立ち上がりも不明瞭である。柱穴は検出することができなかった。

#### C 89号住居跡 (第17・349図 PL. 25・103)

**位置** Cb—38 **形状** 不明 **規模** 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.45m

**重複** 東側をC 44号住居跡(弥生時代)に切られ、南側をC 25号住居跡(弥生時代)に切られ、さらに西側はC 33号住居跡(弥生時代)に切られる。 **埋没土** 小礫含む黒褐色土でやや軟質である。

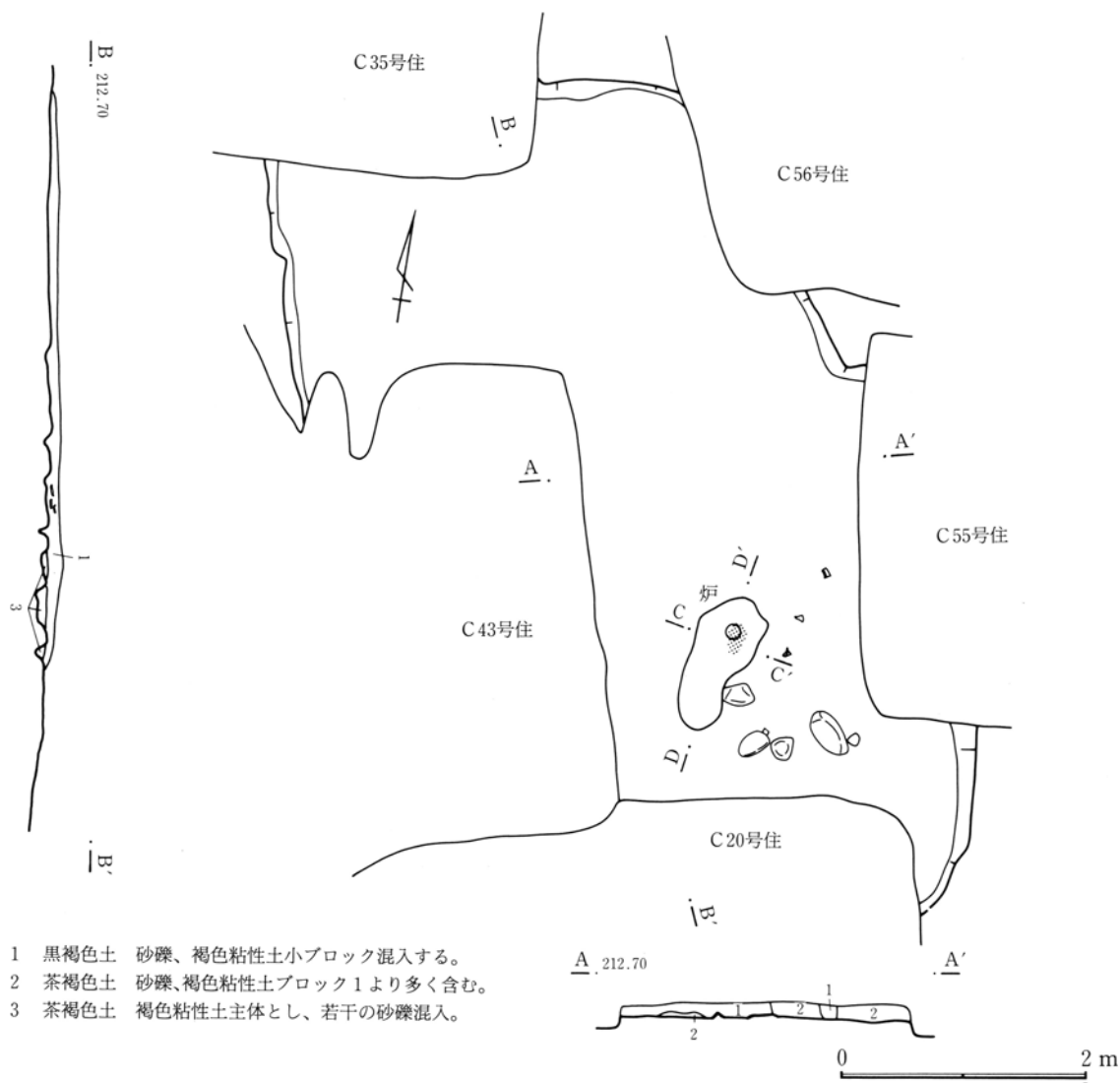
**床面** 平坦であり締まりはない。 **柱穴** 1カ所のみ検出した。 **炉** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器、石器ともにほとんど検出されなかった。

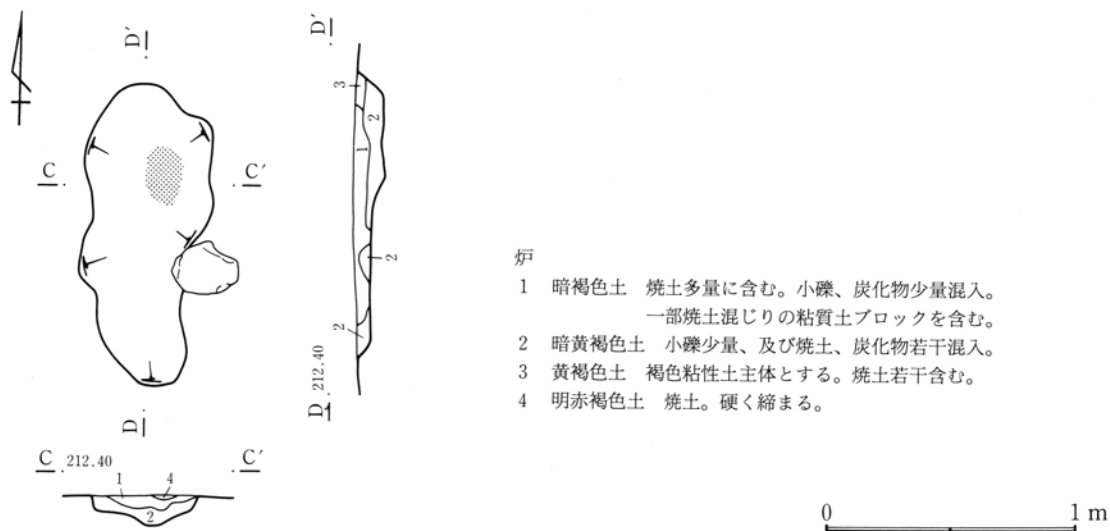
**調査所見** 北側を除き3方を切られており、北壁側のわずかな部分のみを検出したに過ぎない。壁の立ち上がりは約50cmである。



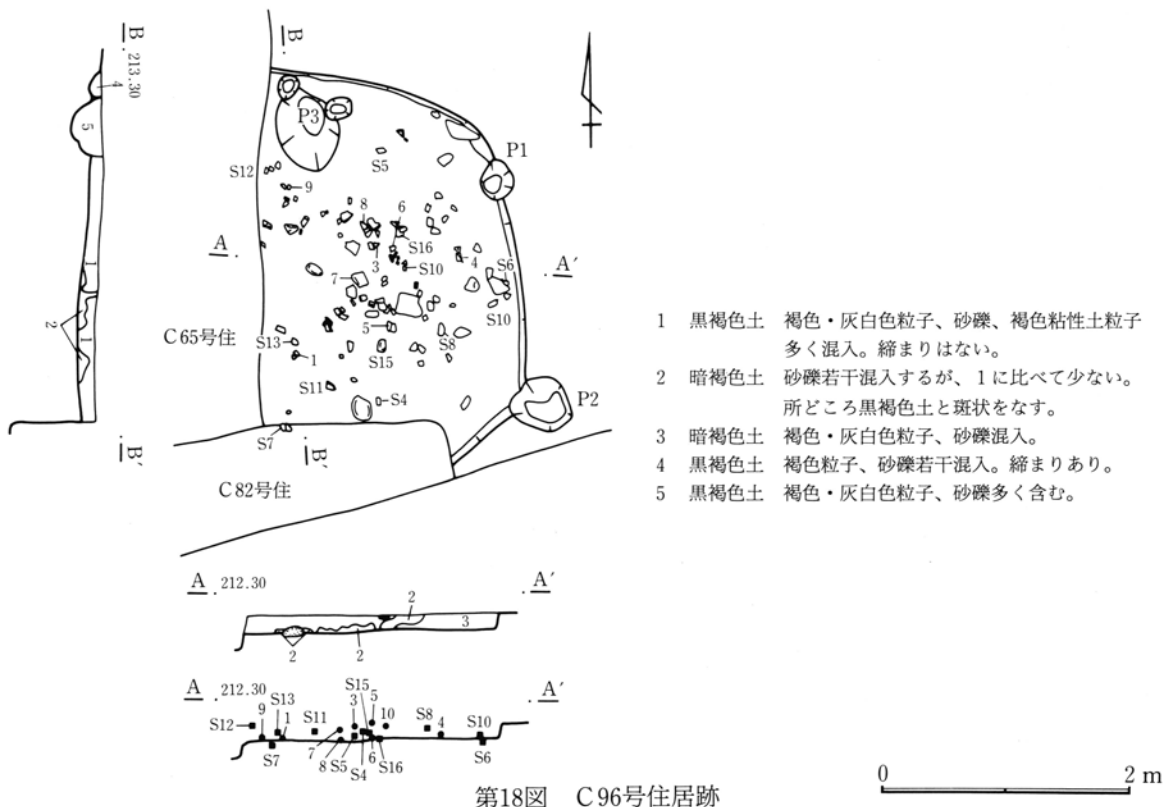
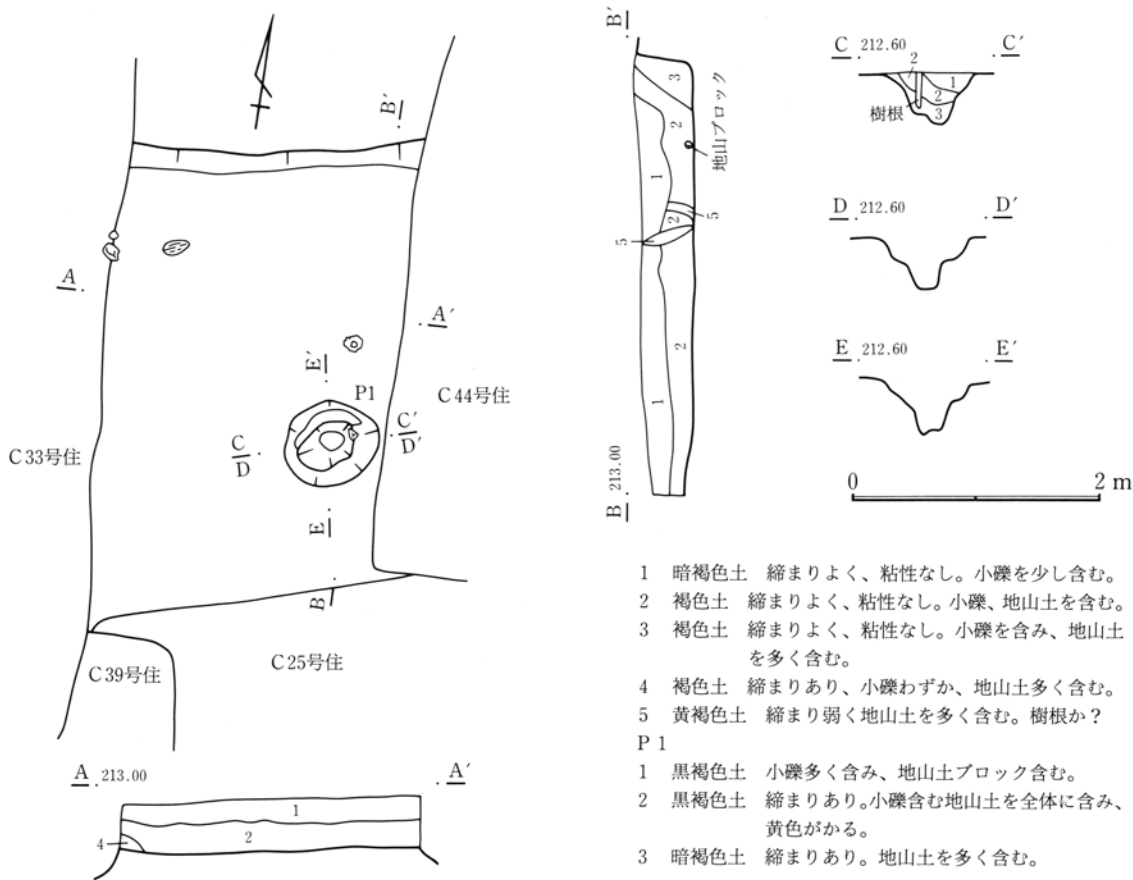
第14図 C 88号住居跡(1)



第15図 C88号住居跡(2)



第16図 C88号住居跡炉



C96号住居跡 (第18・350図 PL. 27・28・103・225)

位置 Ca-31 形状 ほぼ円形 規模 長辺(3.5)m、短辺(2.0)m、壁高0.13m

重複 西側、南側をC65・82号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 小礫含む粘性土で埋まる。

床面 平坦で比較的締まる。 柱穴 壁寄りに3本が検出された。

炉 検出されなかった。 出土遺物 中央部分に若干の土器片、石器類が見られた。

調査所見 遺存状態は悪く、壁高は10cmとかなり浅い。住居としたが、土坑の可能性もある。

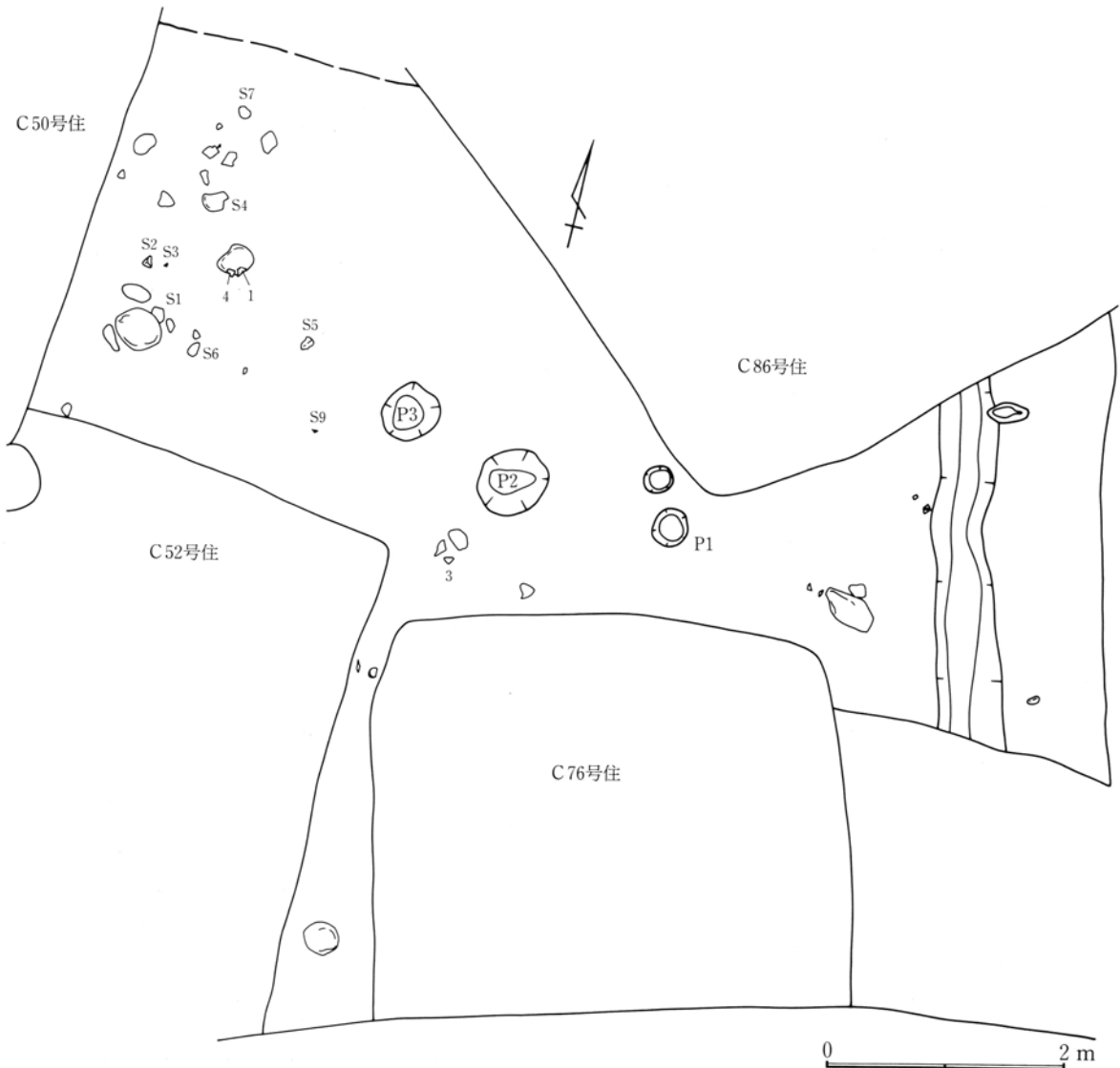
C100号住居跡 (第19・351図 PL. 28・103・226)

位置 Ca-32・33・34 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0m

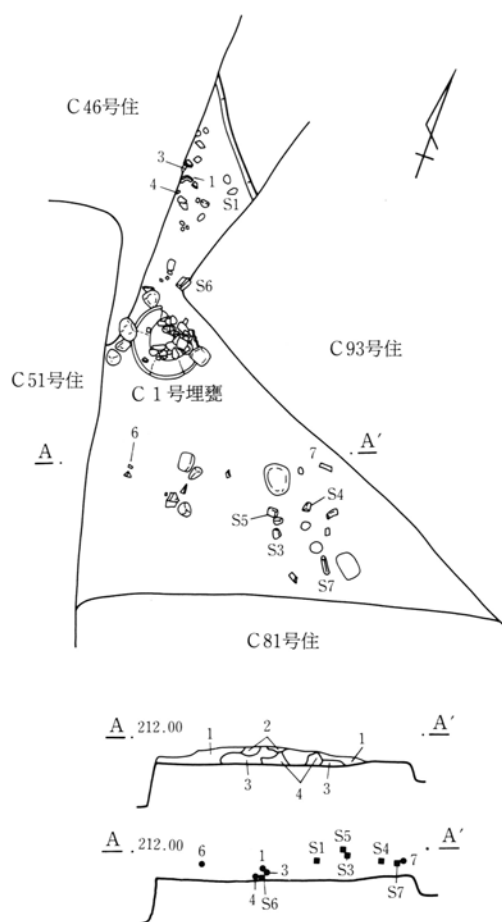
重複 南をC52・76号住居跡(弥生時代)に、北側をC86号住居跡(弥生時代)にさらに、西側はC50号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 ほとんど確認できなかった。 床面 明確な面として認定できなかった。

柱穴 不明。 炉 検出されなかった。 出土遺物 ほとんど検出されなかった。

調査所見 若干の遺物の散布、土色の変化から住居としたが範囲、床面ともにはっきりとしない。

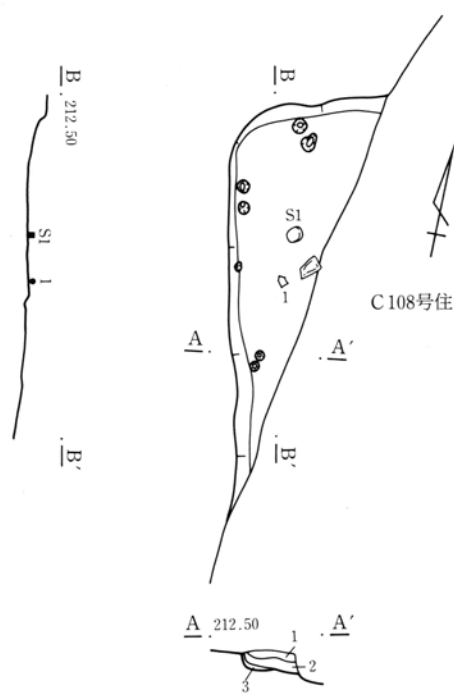


第19図 C100号住居跡



- 1 黄褐色土 多量の黄褐色粒子、微砂粒含み、やや粗粒。
- 2 黄褐色土 1を基調とするが、焼土を含む。
- 3 明茶褐色土 地山褐色粘性土主体とし、若干の砂粒含む。
- 4 明茶褐色土 地山褐色粘性土。粘性強く、ブロック状を呈す。

第20図 C101号住居跡



- 1 黒色土 締まり悪く、粘性なし。小礫かなり含み、炭化物若干混入。
- 2 黒褐色土 粘性なし。小礫、黄色土粒若干混入。
- 3 黒褐色土 2に比べ黄色味強く、褐色粘性土若干混入。

第21図 C115号住居跡

C101号住居跡（第20・352図 PL. 29・103・226）

位置 Cb-28 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0 m

重複 南側をC81号住居跡（弥生時代）に、西側はC51号住居跡（古墳時代）、C46号住居跡（弥生時代）に、東側にはC93号住居跡（弥生時代）が重複する。またC1号埋甕が住居内に位置している。

埋没土 砂粒混入する粗粒土。 床面 平坦であるが、はっきりした生活面は確認できなかった。

柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

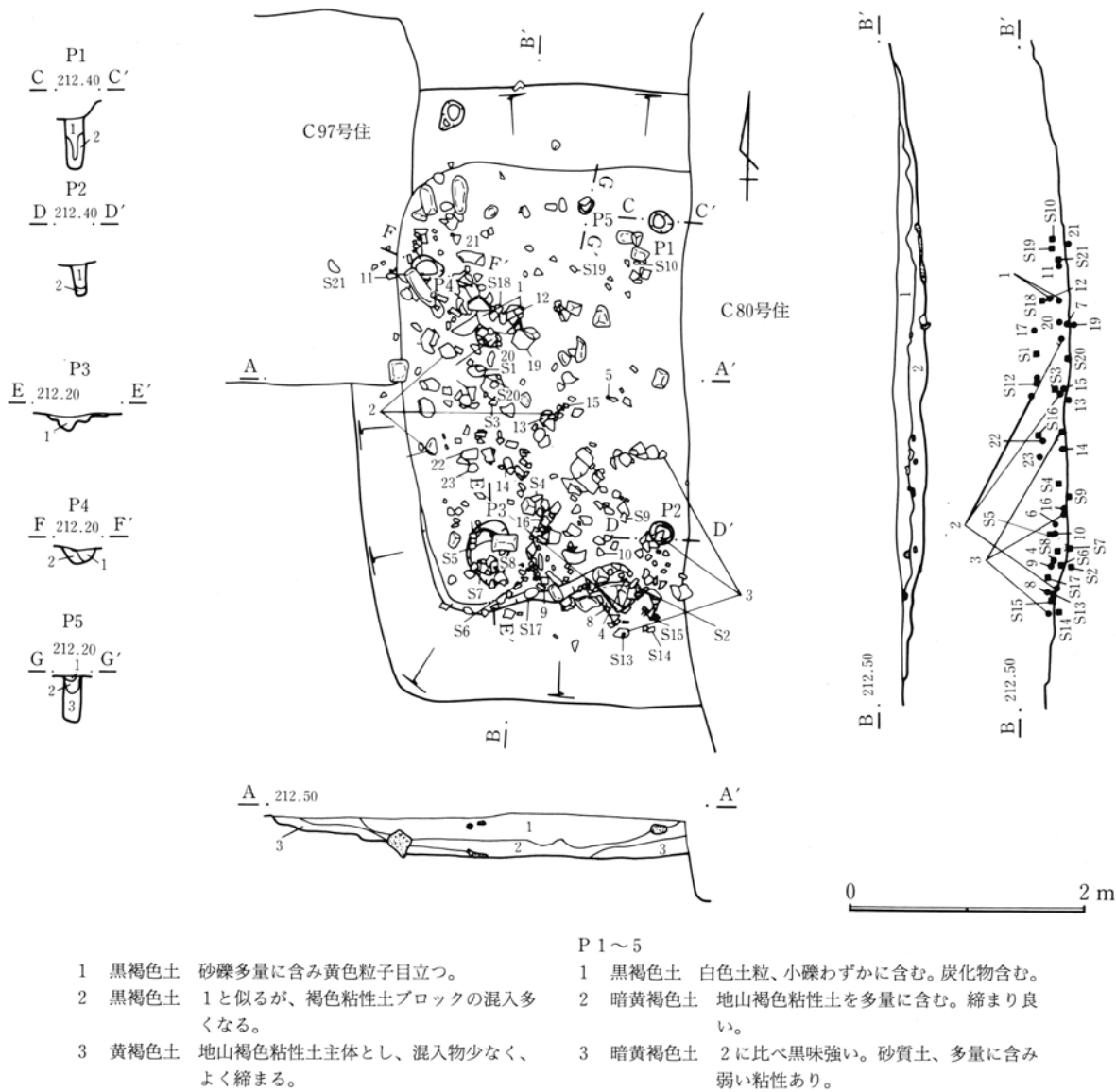
出土遺物 わずかな土器片と石匙、磨製石斧2点が出土している。

調査所見 北東の壁の一部分が確認できたのみである。範囲、形状ともに不明である。

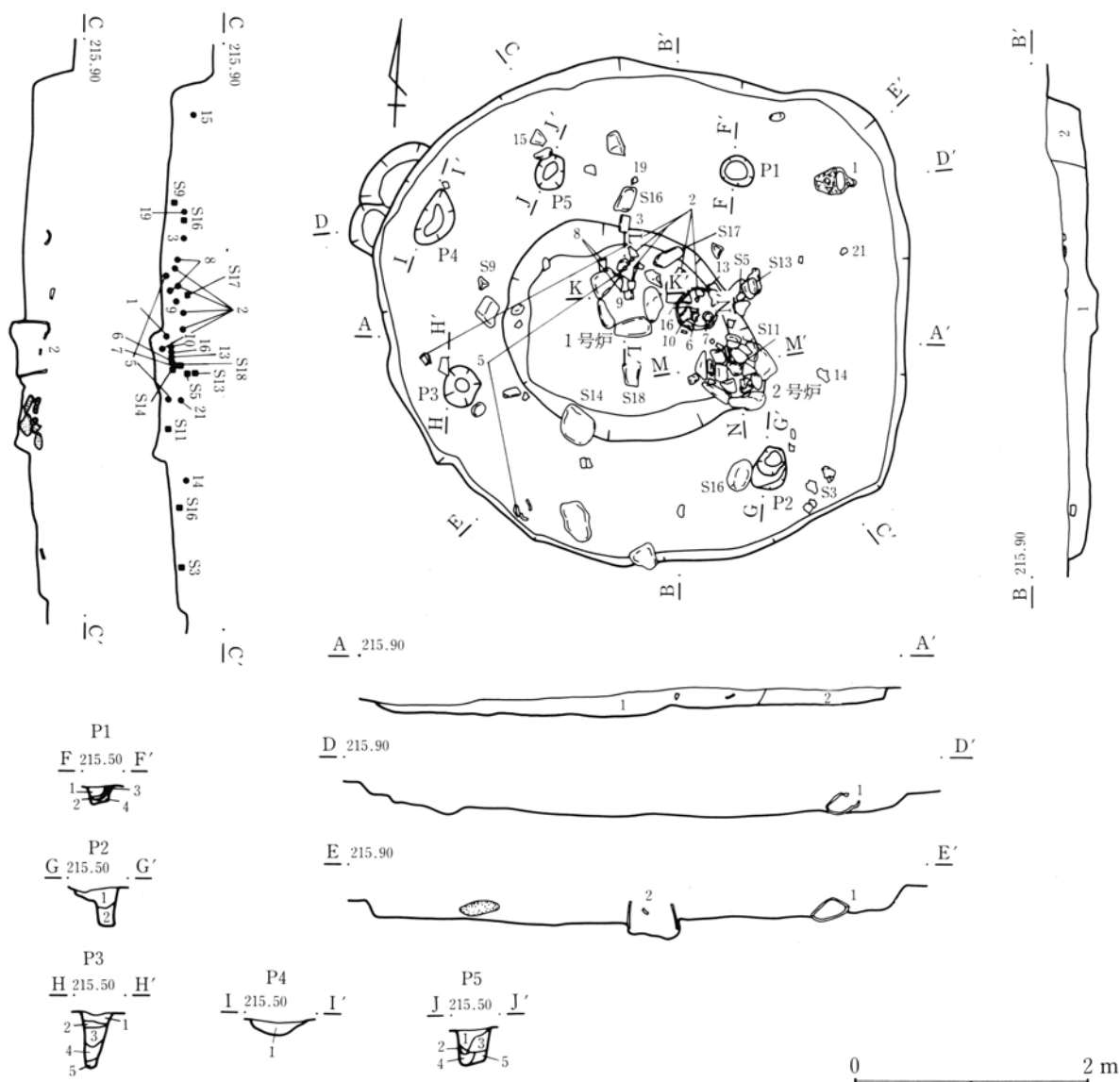
C115号住居跡（第21・353図 PL. 31・103・226）

位置 Ce-32 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.15m

重複 C108号住居跡（弥生時代）にほとんど切られている。 埋没土 砂礫含む黒褐色土。



第22図 C118号住居跡



- 1 黒褐色土 炭化物、焼土粒子を微量、砂礫を少量含む。  
2 暗褐色土 砂礫を少量含む。

P 1

- 1 暗褐色土 褐色粘性土粒子多量に、砂礫を微量含む。  
2 明褐色土 褐色粘性土ベースとし、砂礫を微量含む。  
3 暗褐色土 きめの粗い土をベースとし、黄色粒子、及び白色粒子を少量含む。  
4 暗褐色土 細粒土をベースとし、橙色粒子微量含む。

P 2

- 1 暗褐色土 細粒土をベースとし、黄色粒子少量含む。  
2 黒褐色土 黄色・白色粒子を少量含む。

P 3

- 1 暗褐色土 黄色・白色粒子を少量含む。  
2 明褐色土 褐色粘性土ベースとし、砂礫を少量含む。  
3 暗褐色土 細粒土をベースとし、黄色・白色・橙色粒子微量含む。  
4 明褐色土 褐色粘性土、砂粒、橙色粒子少量含む。  
5 黒褐色土 細粒土をベースとし、褐色粘性土を少量含む。

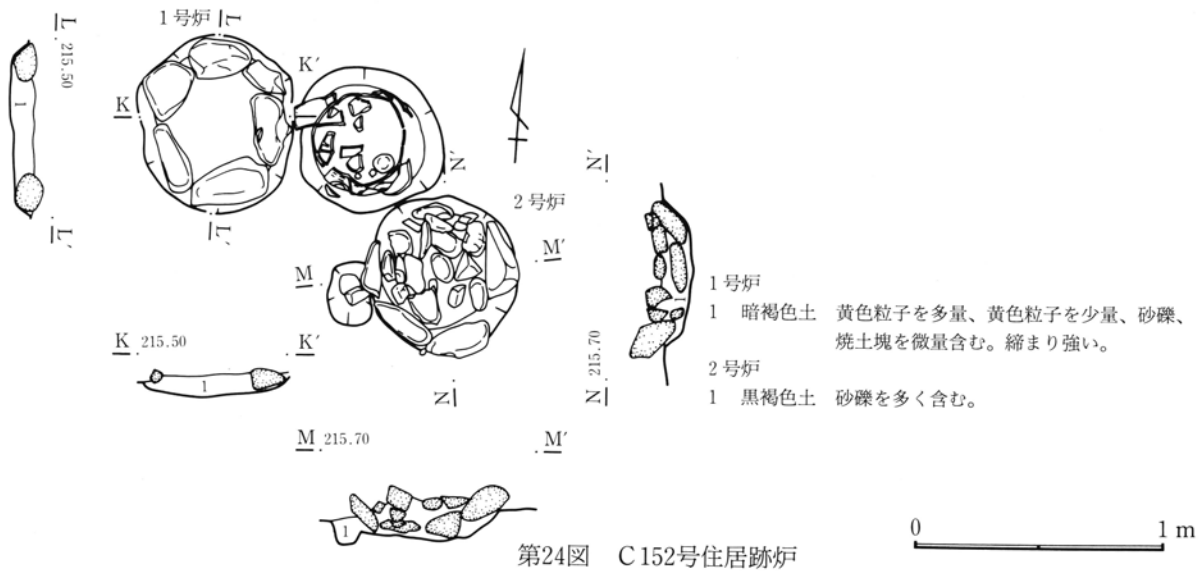
P 4

- 1 暗褐色土 粗粒土をベースとし、黄色、白色粒子を多く含む。粘性弱く、締まり強い。

P 5

- 1 暗褐色土 礫を少量含む。  
2 暗褐色土 黄色粒子、礫をごく微量、黄色粒子を少量含む。全体的にやや明るい色調。  
3 暗褐色土 黄色粒子を多く、砂粒をごく微量、黄色粒子やや多く含む。  
4 暗褐色土 暗い色調を呈し、黄色及び白色粒子少量含む。  
5 黒褐色土 細かい土を基調とし、黄色粒子を微量含む。

第23図 C152号住居跡



床面 面ははっきりしない。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 ほとんど見られない。

調査所見 北西の隅部分のみの検出であるため、全容は不明である。

#### C118号住居跡 (第22・354・355図 PL. 33・104・227)

位置 Cc-d-30・31 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.20m、短辺(3.8)m、壁高0.35m

重複 東側はC80号住居跡(弥生時代)に切られ、北西部分にC97号住居跡(弥生時代)が重複する。

埋没土 小礫含む粘性土で埋まる。 床面 中央部分がやや低くなる。全体的に緩やかな凹凸が見られる。

柱穴 5本を検出した。 炉 はっきりしたものは検出されなかった。

出土遺物 比較的多くの土器片及び石器類が出土している。土器は器形を復元できた1・2・3の他破片類が見られ、石器はスクレイパー、打製石斧、磨製石斧、凹石、磨石等が見られる。

調査所見 住居の形状は主軸を南北にとる隅丸長方形で、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかである。

#### C152号住居跡 (第23・24・356・357図 PL. 34・105~107・227・228)

位置 Cr-50・51 形状 円形 規模 長辺4.53m、短辺4.20m、壁高0.39m

重複 南側に大きくC120号住居跡(平安時代)が重複、上面は削平されている。

埋没土 小礫、粘質土ブロックを混入。 床面 やや凹凸が見られるが、比較的平坦で全体に良く締まっている。 柱穴 壁に沿って5本検出されている。深さは20~40cmとばらつきが見られる。

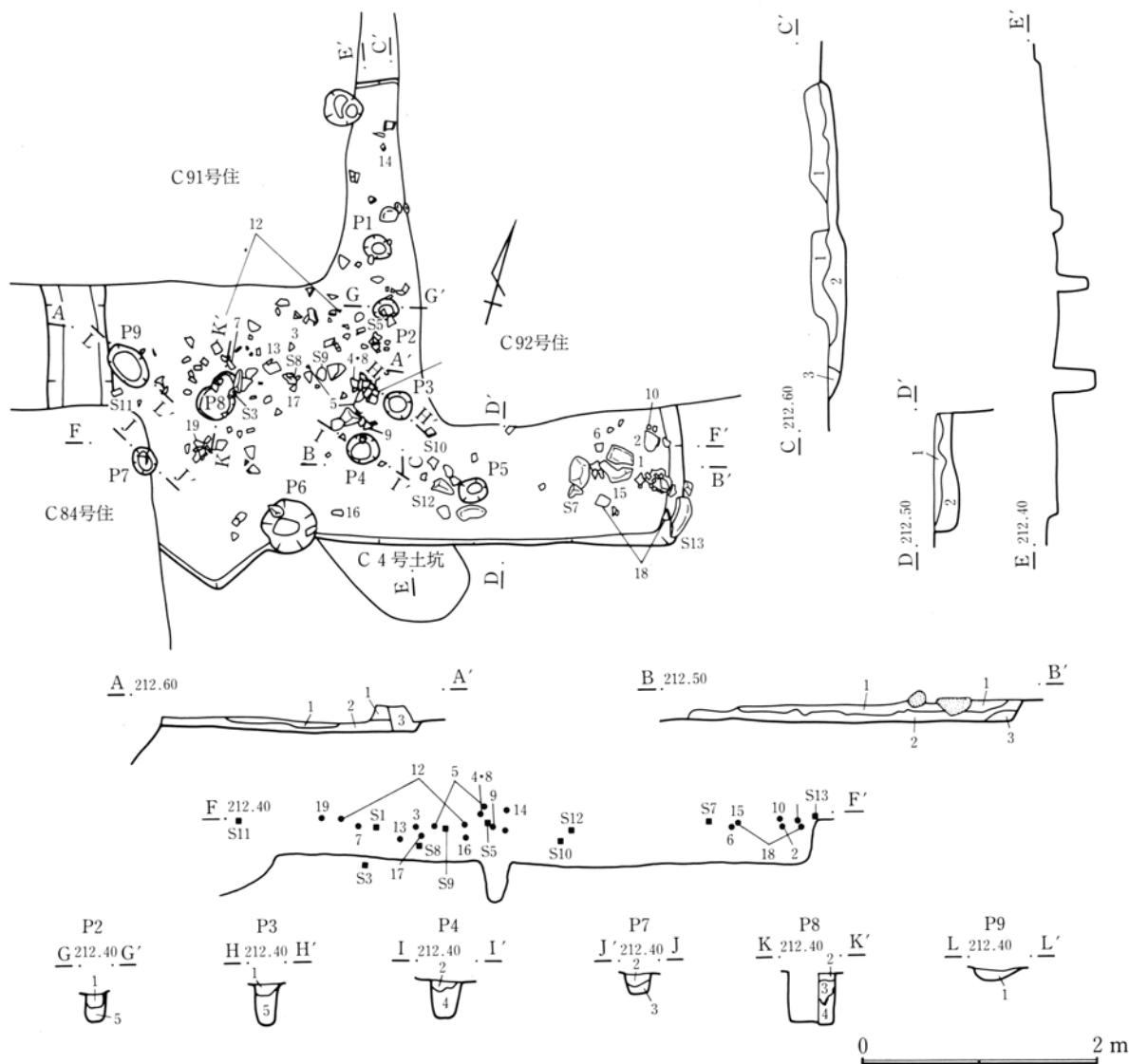
炉 2カ所検出されている。

1号炉 ほぼ中央に作られている。河原石6個で囲んだ石囲炉である。床を円形に掘り下げ縁辺に礫を据えている。内部には焼土塊が見られる。また、炉の東側には口縁部、底部を欠いた深鉢2が、浅い掘り込みの中に据えられた状態で出土している。

2号炉 1号炉の南東にあり同様な作りである。河原石で囲まれた中にも、礫が検出されている。

出土遺物 点数は少ないが、ほぼ完形の1が北東部分で横倒しに出土している他、2が中央の炉に近接して出土している。石器は石鏃、スクレイパー、打製石斧、敲石、台石、多孔石等が出土している。

**調査所見** 住居の規模はそれ程大きくはない。上面が削られているものの、比較的遺存状態は良く、壁、床面、炉などもしっかり残る。炉のある住居中央は一段低くなっている。



A-A', B-B'

- 1 黒褐色土 小礫多量に混入。炭化物、白色土粒少量含む。
  - 2 黒褐色土 1に比べ黄色味強い。小礫、炭化物を少量含む。褐色粘性土をブロック状に含む。
  - 3 黒褐色土 1に似るが、炭化物ほとんど含まず。
- C-C', D-D'
- 1 暗褐色土 小礫、及び炭化物若干混入。よく締まる。
  - 2 暗黄褐色土 炭化物、及び白色土粒少量含む。褐色粘性土多量に含む。
  - 3 暗黄褐色土 2に似るが、より黄色味強く均質。

P2~4・7~9

- 1 暗褐色土 褐色粘性土かなり含み、硬くよく締まる。
- 2 黒褐色土 小礫少量、及び炭化物わずかに含む。
- 3 暗褐色土 褐色粘性土ブロック状に含む。弱い粘性あり。
- 4 暗褐色土 褐色粘性土少量含む。基盤砂質土多量に含む。炭化物ごくわずかに混入。
- 5 暗黄褐色土 褐色粘性土及び砂質土をモザイク状に含む。締まり弱い。

第25図 C165号住居跡

C165号住居跡（第25・358図 PL. 36・107・108・229）

位置 Cc・d-32・33 形状 隅丸長方形 規模 長辺(4.80)m、短辺3.85m、壁高0.18m

重複 北東部分をC92号住居跡（古墳時代）に、北西部分をC91号住居跡（弥生時代）に切られる。また、南壁中央にC4号土坑が重複する。

埋没土 小礫多く含み、若干の炭化物、粘土ブロックを混入する。  
床面 明確な生活面は確認できなかった。 柱穴 ピット9本を検出したが、明確な対応関係はつかめなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 やや床面より浮いた状態のものが多く、土器は小片がほとんどである。石器は凹石、敲石、石皿、磨石、台石等が出土している。

調査所見 住居の形態は、主軸を東西方向にとる隅丸長方形を呈すものと思われる。重複等により遺存状態はあまり良くない。上部もかなり削平されている。各壁のラインについてもやや明確さに欠けるところがある。

C169号住居跡（第26・359・360図 PL. 36・108・109・229）

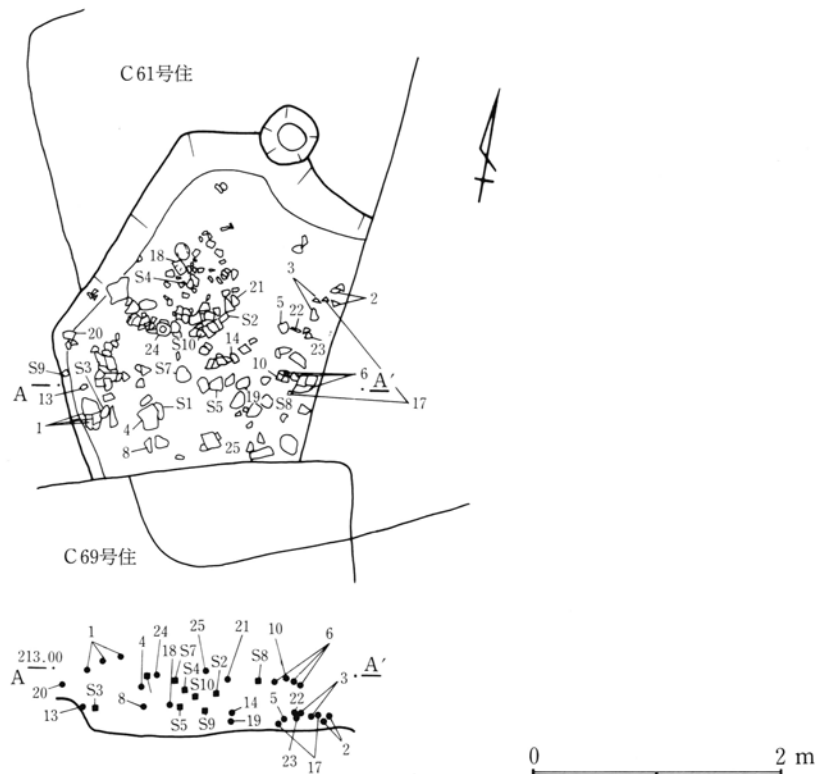
位置 Cg-32 形状 不定形 規模 長辺(3.0)m、短辺(2.0)m、壁高0.29m

重複 南側はC69号住居跡（平安時代）に切られ、C61号住居跡（古墳時代）が載る形で重複している。

埋没土 砂粒含む粗粒土。 床面 かなり軟質で明確さに欠ける。 柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。 出土遺物 比較的床面から浮いた状態のものが多い。

調査所見 形状ははっきりせず、規模もかなり小さい。住居内の施設も検出されていないことなどから、土坑の可能性も否定できない。



第26図 C169号住居跡

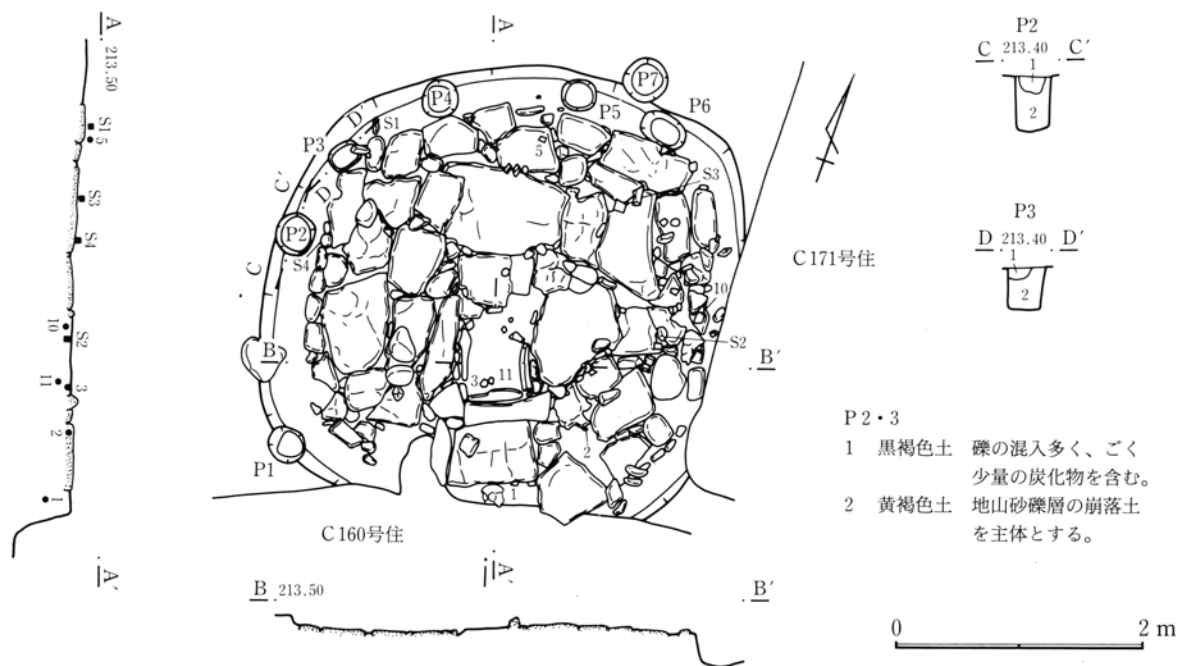
C170号住居跡 (第27・28・361図 PL. 36・37・109・230)

位置 Cf-44・45 形状 柄鏡形 規模 長辺(3.50)m、短辺3.65m、壁高0m

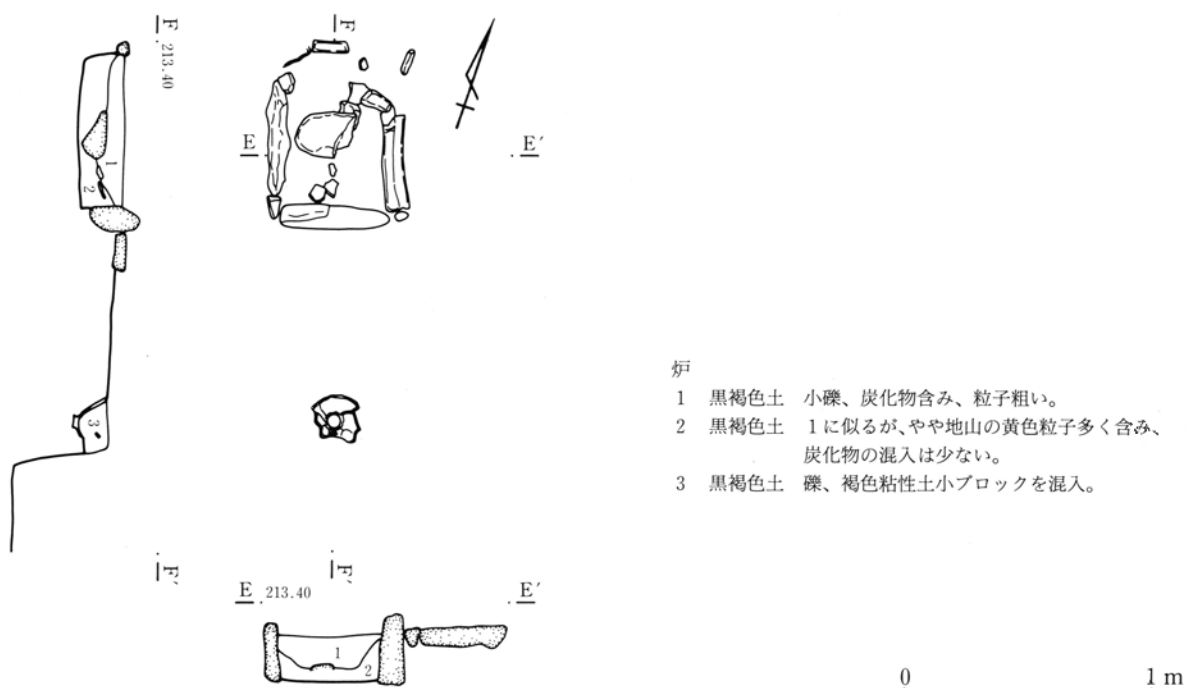
重複 南側はC160号住居跡(古墳時代)に切られ、上を覆う形でC173号住居跡(弥生時代)が重複する。

埋没土 覆土はほとんど確認できなかった。 床面 敷石面はほぼ平坦であるが、中央部がわずかに下がっている。 柱穴 敷石の外縁に6本を検出している。規模は径25~30cmで、深さは30~40cmである。

炉 ほぼ中央部分に作られている。扁平なやや細長い礫を四角に配している。北側はやや崩れた状態である。



第27図 C170号住居跡



第28図 C170号住居跡炉

縦60cm、横40cmで長方形を呈す。深さ20cmで、覆土中には焼土はほとんどなく、若干の炭化物が認められた。

**出土遺物** 住居覆土および敷石面からの、土器の出土はほとんど見られなかったが、南側の敷石縁辺下より埋設された深鉢の底部が出土している。石器は磨製石斧、敲石が敷石面より出土している。

**調査所見** 本住居は柄鏡形の敷石住居跡と考えられる。柄の部分は壊されていたが、主体部は良好な状態で検出された。敷石は扁平な砂岩を炉を中心に、囲むように丁寧に敷き詰めており、石の隙間には小振りの円礫を詰め、外周部にも同様な礫を巡らしている。

#### C172号住居跡 (第29・362図 PL. 37・109・230)

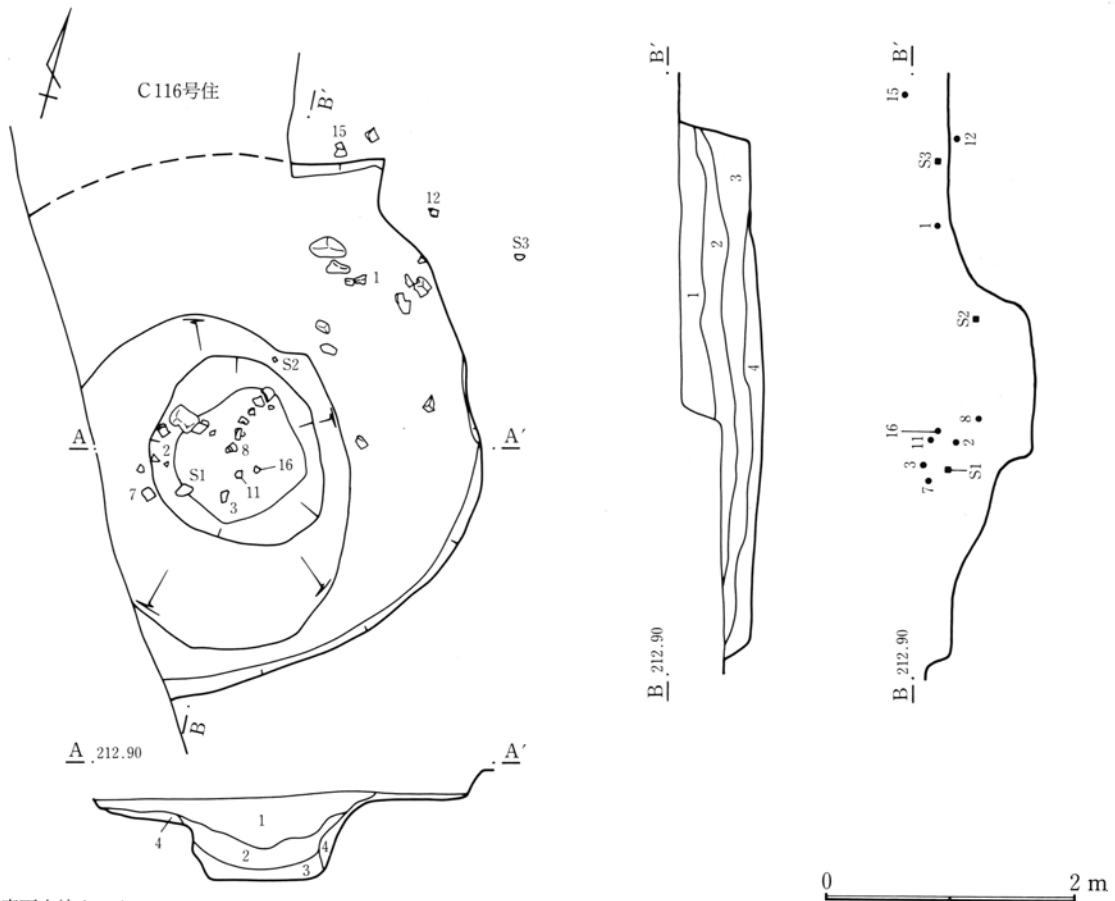
**位置** Cc・d-43 **形状** 円形 **規模** 長辺4.0m、短辺(2.0)m、壁高0.32m

**重複** 北側をC116号住居跡(弥生時代)に切られ、西側は一部調査区外となる。 **埋没土** 小礫含みかなり軟質の粗粒土である。 **床面** 中央部分が下がり、面的にははっきりしない。

**柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器については若干の破片が検出されている。石器も製品類の出土はなかった。

**調査所見** 規模は小さく、中央の土坑は本址に伴わない可能性もある。住居としたが、土坑の可能性もある。



床下土坑A-A'

- 1 黒褐色土 礫多量に含む。炭化物若干混入。
- 2 黒褐色土 1に似るが、礫の混入少なく、褐色粘性土粒混じる。
- 3 黒褐色土 礫の混入わずかで、炭化物多い。
- 4 黒褐色土 砂質土かなり含む。黄色味強い。

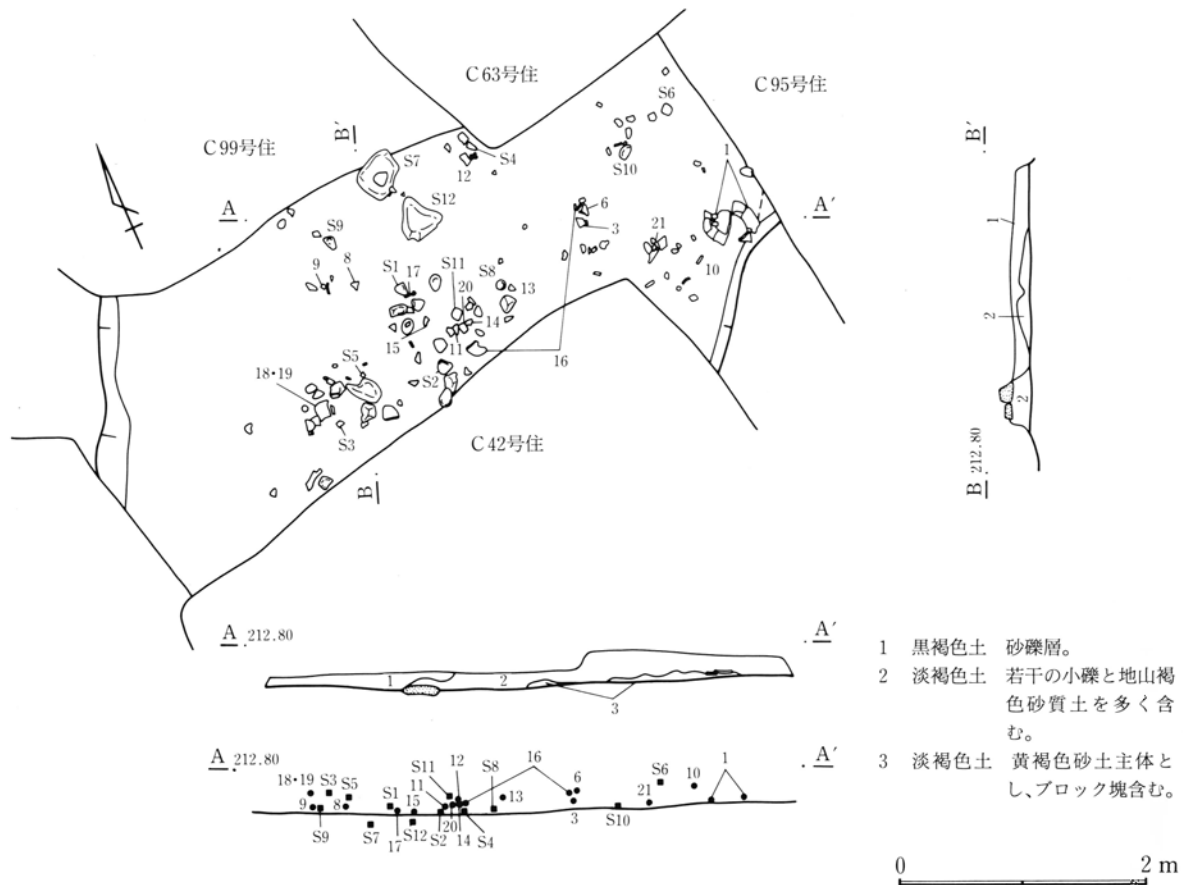
- 1 黒色土 砂礫多く含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 砂礫含み、1に比べ、やや細粒となる。
- 3 黒褐色土 礫の混入は少なくなり、地山黄褐色土を含む。
- 4 黄褐色土 地山の黄色砂土を多く含む。

第29図 C172号住居跡

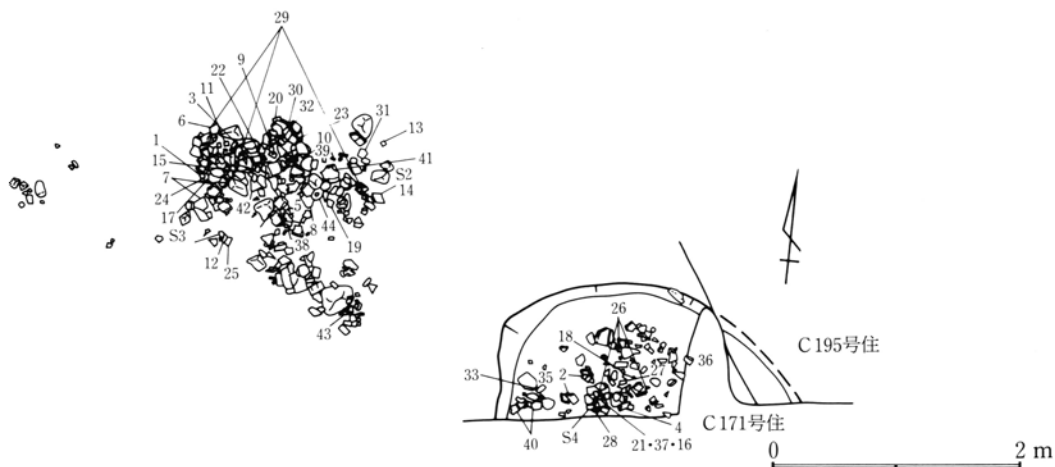
C174号住居跡 (第30・363図 PL. 38・110・230・231)

位置 Cf-31 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.2m

重複 南側をC42号住居跡(古墳時代)に切られ、北側はC68号住居跡(弥生時代)に切られており、きわめて遺存状態は悪い。 埋没土 砂粒多く含む粗粒土で、やや軟質である。 床面 平坦で部分的に締まった所が見られる。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。



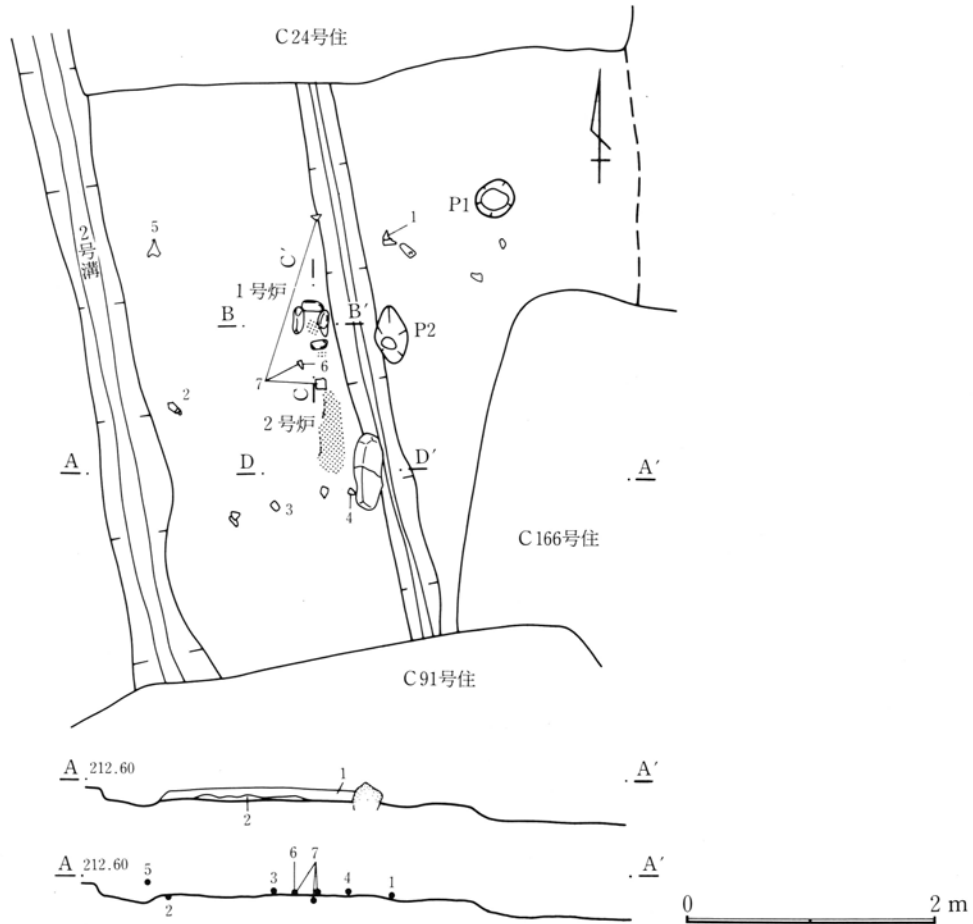
第30図 C174号住居跡



第31図 C176号住居跡

**出土遺物** 深鉢1は東壁際で出土している。石器は凹石、磨石、石皿、台石が床面より出土している。

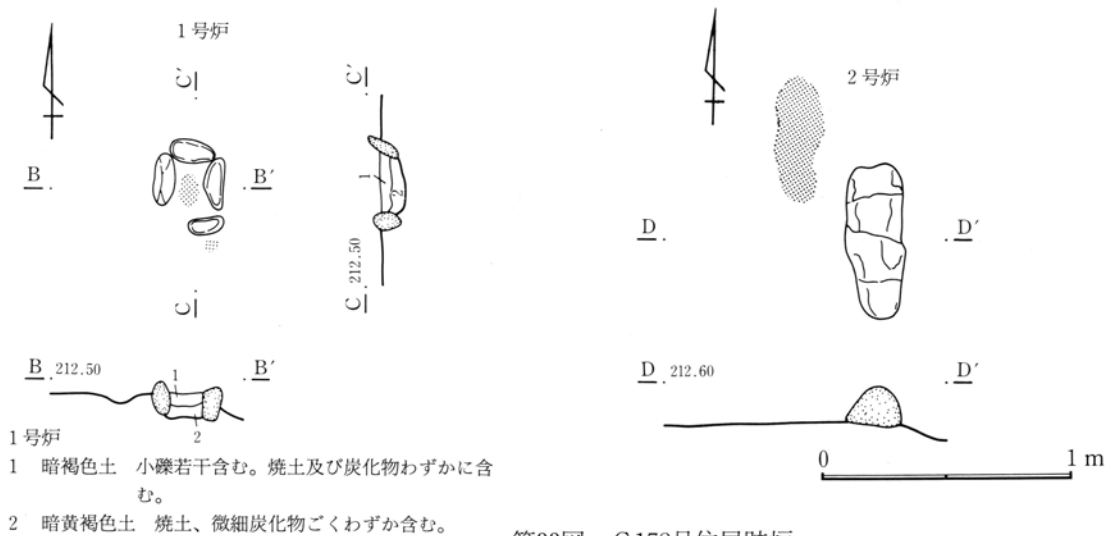
**調査所見** 重複により遺存状態は悪い。形状等もはっきりせず、柱穴、炉も確認できなかった。



1 暗黄褐色土 小礫少量、炭化物若干含む。白色土粒少量混ざり、一部焼土含む部分あり。

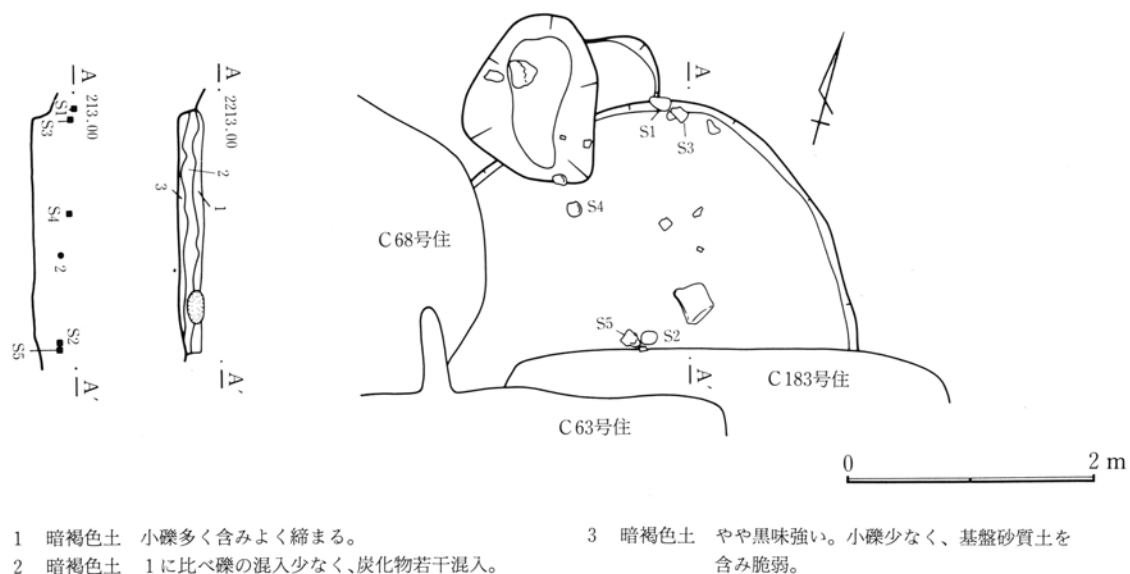
2 暗黄褐色土 褐色粘性土ブロック含む。礫の混入少ない。炭化物わずかに含む。

第32図 C178号住居跡



1号炉  
1 暗褐色土 小礫若干含む。焼土及び炭化物わずかに含む。  
2 暗黄褐色土 焼土、微細炭化物ごくわずかに含む。

第33図 C178号住居跡炉



第34図 C202号住居跡

C176号住居跡 (第31・364～366図 PL. 38・110～112・231)

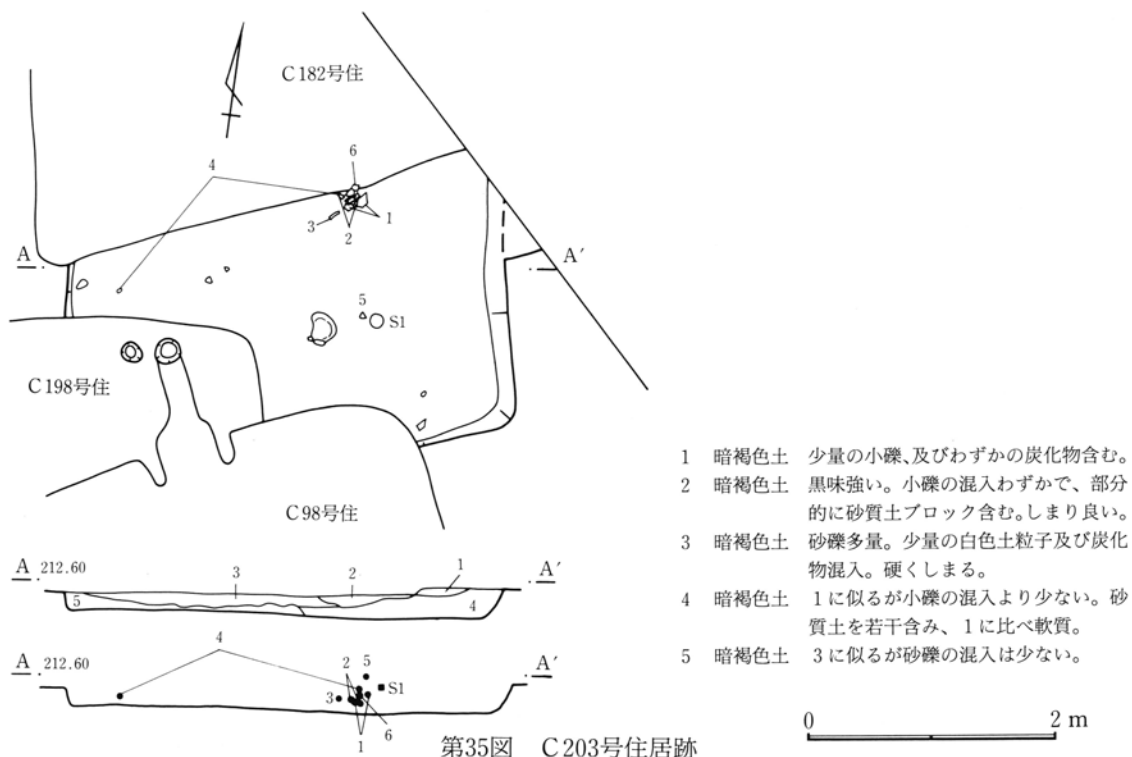
位置 Cg-44 形状 円形 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.2m

重複 南側をC171号住居跡(奈良時代)によって壊されている。埋没土 砂粒含む粗粒土で埋まる。

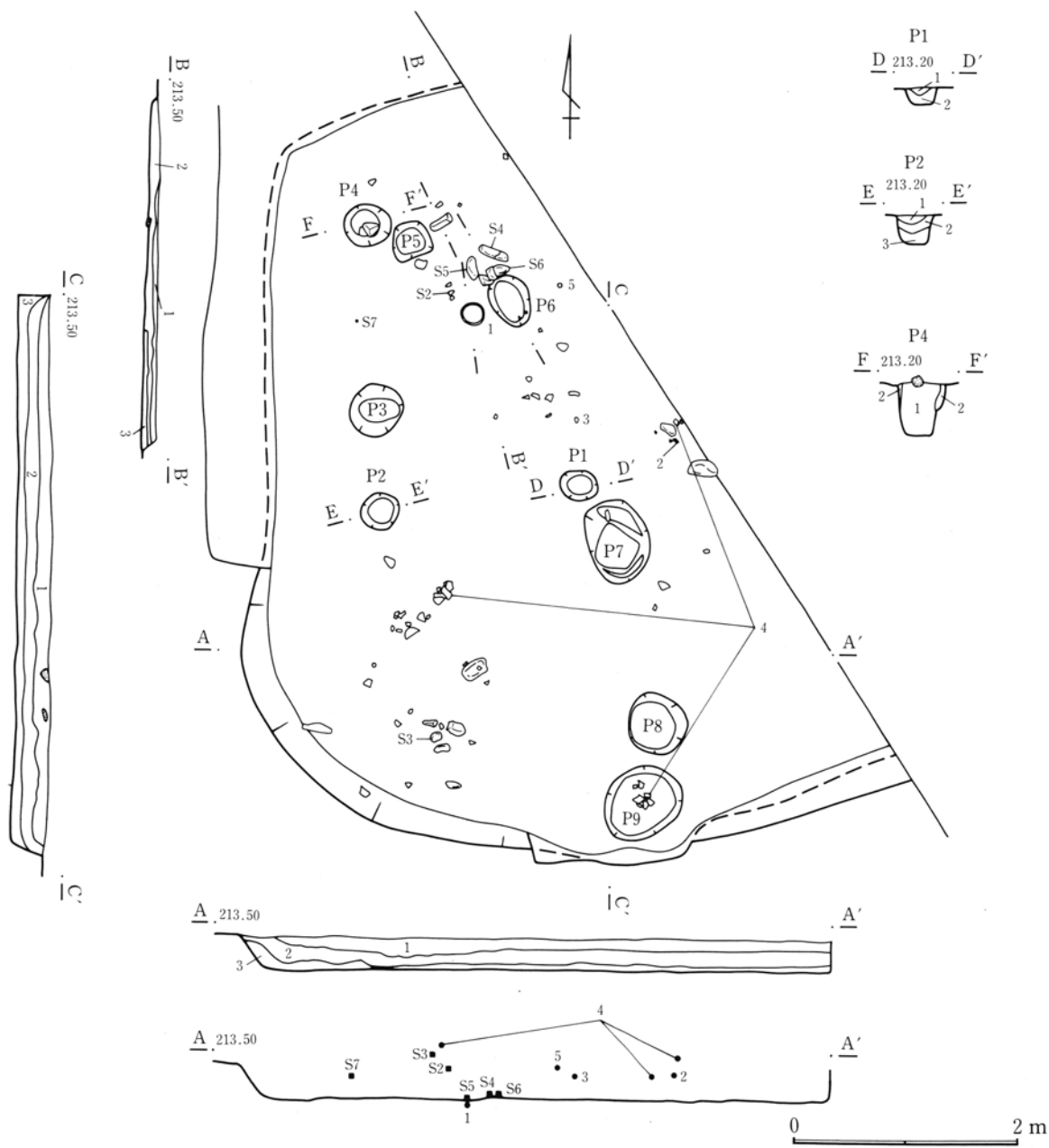
床面 細かな凹凸があり、面としては一定でない。柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。出土遺物 若干の土器片が浮いた状態で出土している。また、北西約2m程離れた場所でも土器の集中が見られる。

調査所見 円形で、規模も小さく住居としたが疑問もある。土器は遺構内およびやや離れた場所で集中して出土している。別遺構の可能性もあるが同一の遺構として処理した。



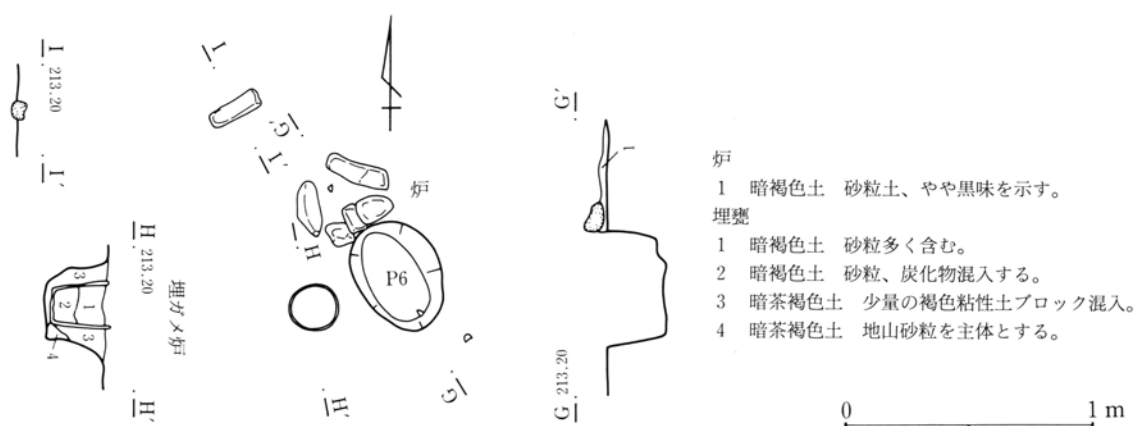
第35図 C203号住居跡



- 1 黒褐色土 砂礫多量に含み、硬く締まる。炭化物わずかに混入。
- 2 暗褐色土 1 に比べ砂礫の混入少ない、褐色粘性土若干含む。
- 3 暗褐色土 砂礫の混入少ない。均質で軟質、微細炭化物わずかに含む。

- P 1
  - 1 黒褐色土 砂礫多く含む。
  - 2 黄褐色土 地山砂礫土主体とする。
- P 2
  - 1 黒褐色土 砂礫混入し粗粒。
  - 2 黒褐色土 地山砂礫土多く混入。
  - 3 黒褐色土 地山砂礫混入、2 より細粒。
- P 4
  - 1 黒褐色土 砂礫、若干の炭化物含み黒味あり。
  - 2 淡褐色土 地山砂礫土を主体とする。

第36図 C206号住居跡



第37図 C206号住居跡炉

C178号住居跡 (第32・33・367図 PL. 39・112)

位置 Cd・e-33 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0m

重複 近世の溝が南北に炉部分を通る。周辺部は範囲がはっきりしないために、重複関係も明確でない。

埋没土 覆土はほとんど確認できなかった。 床面 明確な使用面として捉えられなかったが、炉周辺は平坦である。 柱穴 検出されなかった。

炉 2カ所検出した。

1号炉 河原石4個で不正方形な石囲炉が作られている。内部に若干の焼土が検出されている。

2号炉 1号炉の南に近接して位置する、細長い焼土の広がり、東側に長さ60cm、幅23cmの大形の礫が据えられている。

出土遺物 土器片がわずかに見られたのみである。

調査所見 掘り込みがなく、形状、範囲は確認できなかった。

C202号住居跡 (第34・367図 PL. 42・112・231)

位置 Ch-30 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.19m

重複 南側はC63号住居跡(古墳時代) C183号住居跡(平安時代)に切られ、西側はC68号住居跡(弥生時代)が切っている。 埋没土 砂粒土で、かなり締まる。 床面 平坦で良く締まっている。

柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 土器はほとんど見られない。石器は敲石、磨石、台石が各1点出土している。

調査所見 小形、円形で掘り込みも浅い。炉、柱穴も確認されず、住居とする積極的な要素は乏しい。

C203号住居跡 (第35・368図 PL. 43・112・231)

位置 Cf-29 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺(3.82)m、壁高0.18m

重複 調査区東壁寄りで検出。北側はC182号住居跡(平安時代)、東側にC187号住居跡(弥生時代)、南側はC98号住居跡(古墳時代)、C198号住居跡(弥生時代)に切られている。

埋没土 若干の小礫、炭化物を含む粗粒土。 床面 やや凹凸が見られるが、締まりは比較的良い。

柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。 出土遺物 若干の土器片と、磨石が出土している。

調査所見 遺存状態はきわめて悪い。掘り込みは確認されたものの、形状、規模は不明である。

C206号住居跡 (第36・37・369図 PL. 43・44・112・232)

位置 Cj・k-32・33 形状 楕円形 規模 長辺6.96m、短辺5.50m、壁高0.40m

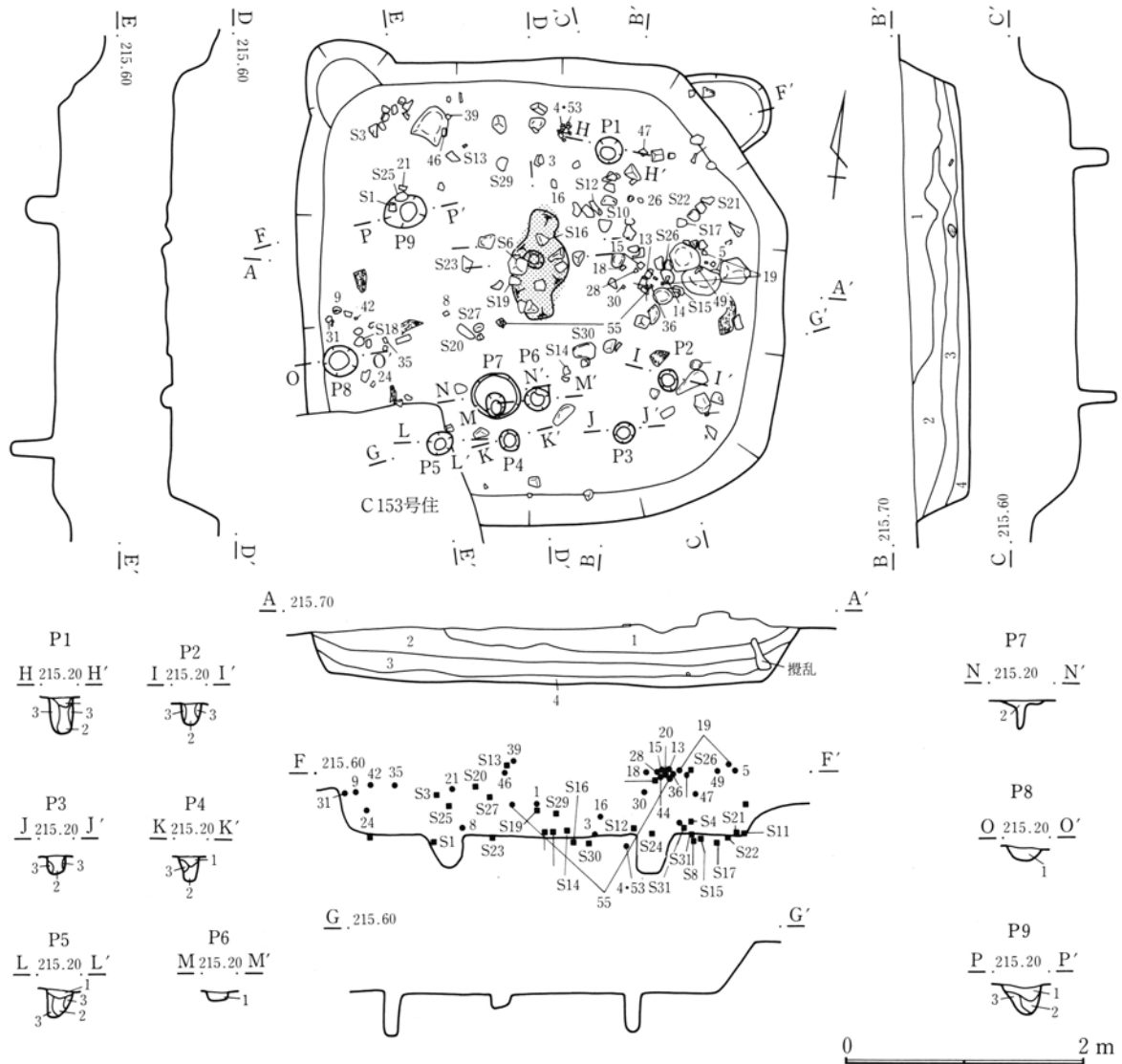
重複 調査区の東端に位置し、東側半分は調査区外となる。北側および南東部分にはC200・186号住居跡(弥生時代)が重複するが、重複部分は遺構の上位のみで床面を含む下位部分は比較的良好な状態で検出された。

埋没土 砂礫を多く含み、締まりが良い。若干の炭化物も見られる。

床面 ほぼ平坦で、中心部はかなり良く締まっている。

柱穴 西側で南北に並んで3本、南壁寄りにP8・9の2本が検出されている。また、ほぼ中央にP1・7の2本が掘り込まれている。

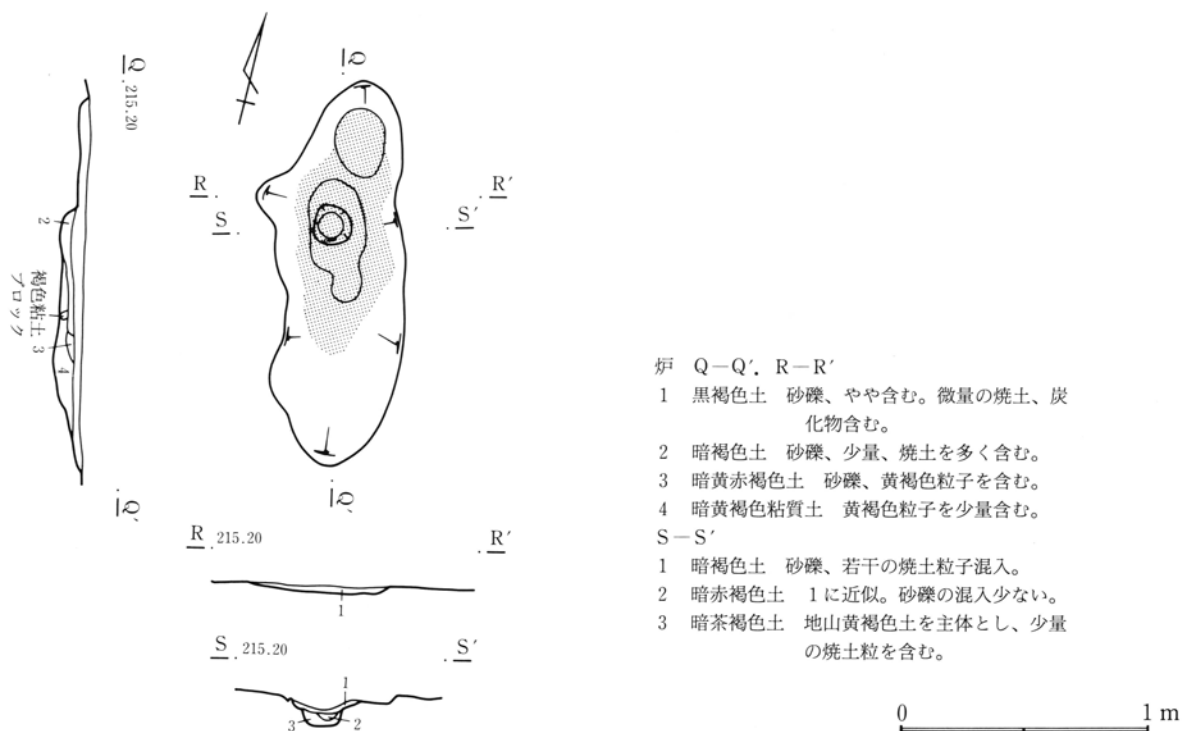
炉 中央北寄りに作られている。長さ20cm程の河原石を三角形に組んだ石囲炉と、南側には口縁部を欠く円



- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 1に似るが砂礫はやや細粒。地山黄褐色砂粒をブロック状に少量混入。
- 3 暗褐色土 2よりさらに細粒となり、黒色土ブロックをまだらに混入。
- 4 暗褐色土 砂粒土で地山黄褐色砂粒を多く含み、炭化物若干混入。

- P1～9 1 黒褐色土 砂礫をやや多く含む。ベースとなる土はきめ細かく、締まりは強い。
- 2 暗茶褐色土 砂礫、黄褐色、白色粒子を少量含む。きめの細かい黄褐色粘質土を基調とする。
- 3 暗褐色土 砂礫、同大の黄褐色粒子を少量含む。

第38図 C362号住居跡



第39図 C362号住居跡炉

筒状の深鉢1が埋設されている。また、炉の南に接してピットが掘り込まれている。炉の内部および土器の内部にはほとんど焼土は見られず若干の炭化物が認められた。

**出土遺物** 土器は埋設土器の他には、わずかな小破片が見られたにすぎない。石器は凹石、敲石、磨石等が出土している。

**調査所見** 上部が削られているが遺存状態は良好である。壁高も最大40cmを測る。形状は小判形に近い楕円形と思われる。時期は中期初頭と考えられ、本遺跡では該期のものとしては唯一の住居である。

#### C362号住居跡 (第38・39・370・371図 PL. 56・113・232・233)

**位置** Cq・r-48・49 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺4.03m、短辺3.84m、壁高0.50m

**重複** 南西隅をC153号住居跡(奈良時代)に切られる。

**埋没土** 砂礫多く含む、黄褐色ブロック含む。また、下層には炭化物が点在する。

**床面** 掘り下げた地山をそのまま床としている。細かな凹凸が見られ、西側がやや荒れている。

**柱穴** 壁に沿う様に6本のピットが検出されている。径は15~30cmで深さは30~40cmである。

**炉** 中央に作られている。焼土、炭化物を伴う南北に細長い不定形な落ち込みがあり、中央部分には径20cm程の円形の掘り込みが見られ、埋設土器の底部片と思われるものが出土している。

**出土遺物** 覆土上層から下層にかけて、比較的多くの土器片が出土している。石器はスクレイパー、礫器、凹石、敲石、磨石、台石などが出土している。

**調査所見** 一部重複が見られるものの遺存状態は良好である。壁高も50cmで立ち上がりもしっかりしている。出土土器は小片のみである。

C363号住居跡（第40～43・372・373図 PL. 57・58・114・233～236）

位置 Ct・Da—48 形状 柄鏡形 規模 長辺7.0m、短辺(2.8)m、壁高0.20m

重複 東側を DS103号住居跡（弥生時代）によって切られている。

埋没土 礫が多く含まれた砂礫土で埋まる。

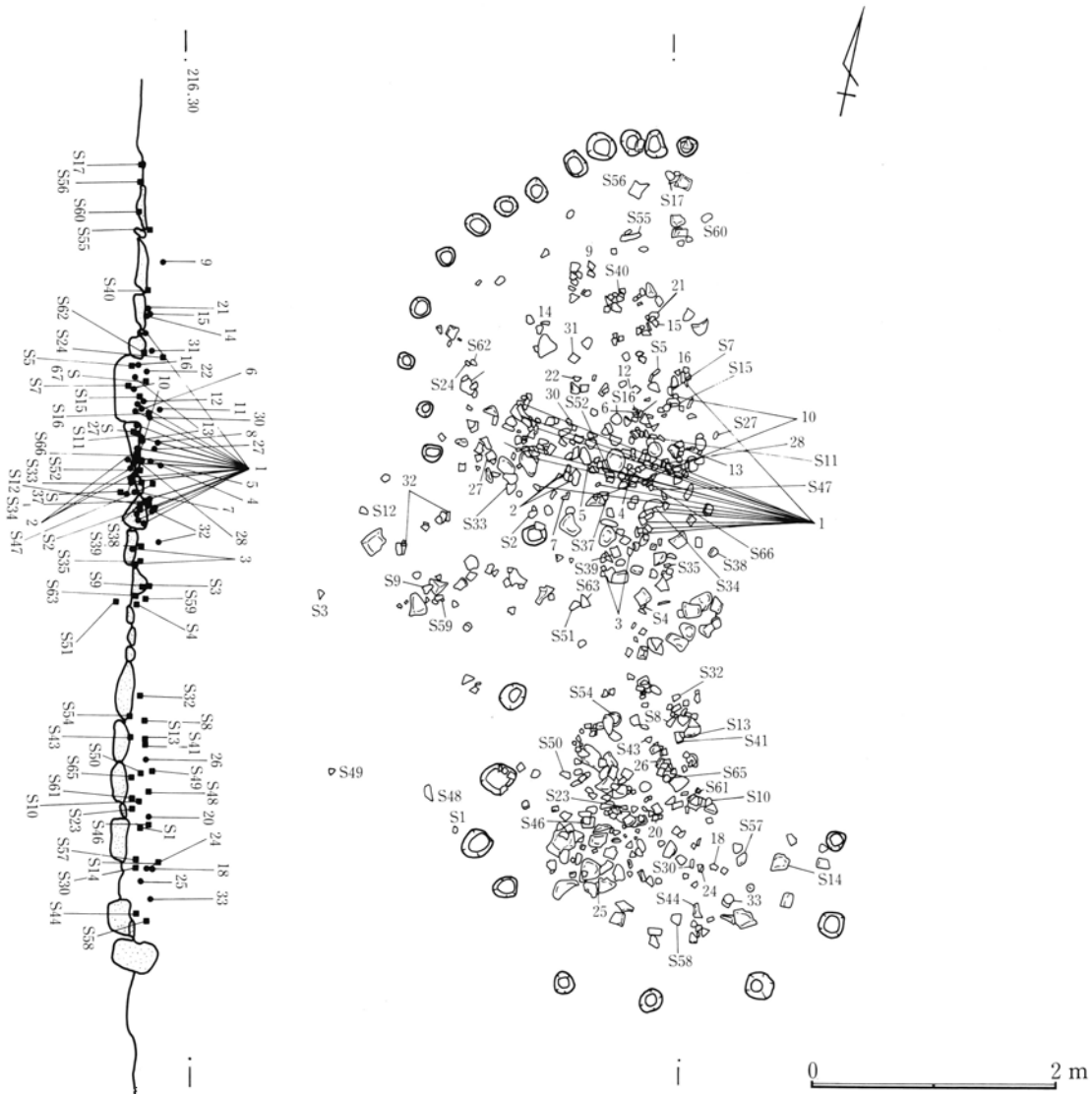
床面 敷石面は平坦で、扁平な河原石をほぼ全面に敷き詰めている。敷石部の周縁には小振りの河原石が配されている。

柱穴 敷石の外周に沿って配される。重複部分もあり、はっきりしないものもあったが、およそ径15～20cm、深さは20cm前後である。主体部のものは間隔が狭く、張り出し部のものは若干間隔が広い。

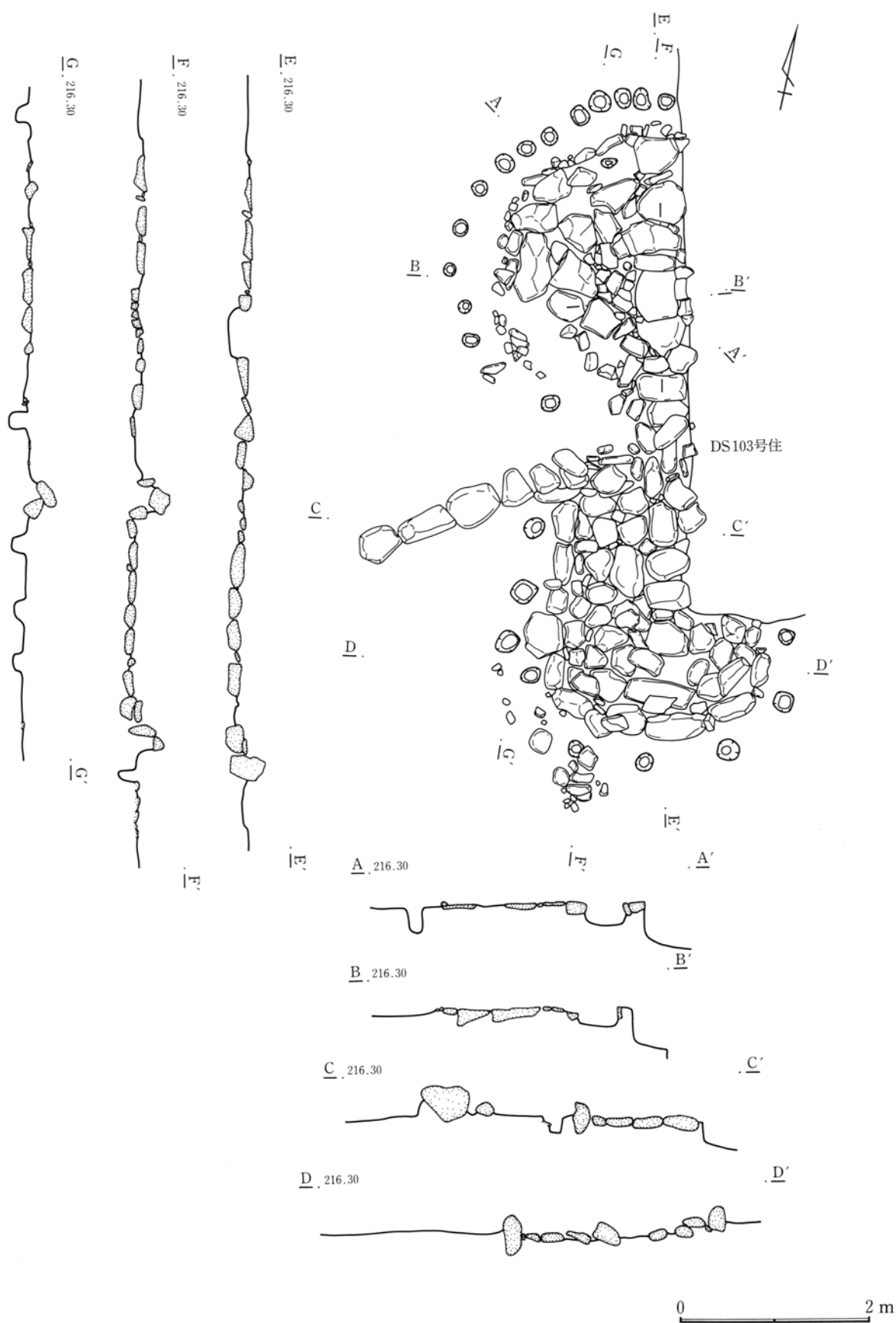
炉 主体部中央に作られている。ほぼ方形で深さはおよそ15cmで、土器片、焼土粒を含む砂礫土で埋まる。

出土遺物 主体部中央に集中して土器片が出土している。器形を復元した1以外は小片が多い。石器はスクレイパー、打製石斧、磨製石斧、石棒、凹石、敲石、磨石、多孔石、砥石等が出土している。

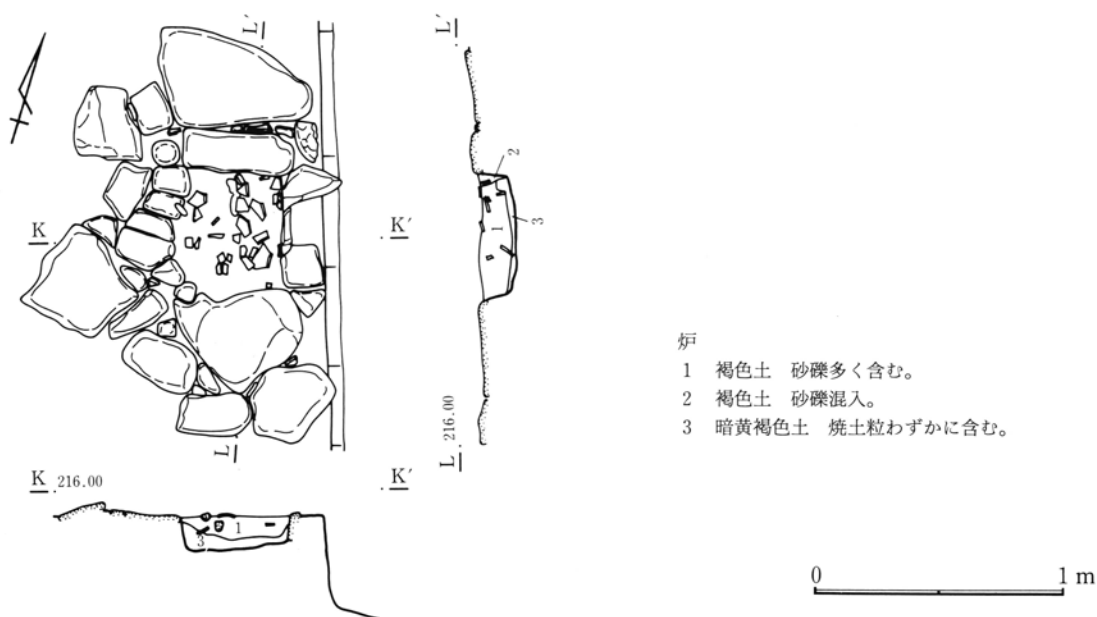
調査所見 柄鏡形の敷石住居である。ほぼ円形の主体部と長方形の張り出し部とからなり、接合部から腕を伸ばすように、長さ2.5mの列石がわずかなカーブを持って延びている。敷石面は張り出し部が主体部に比し



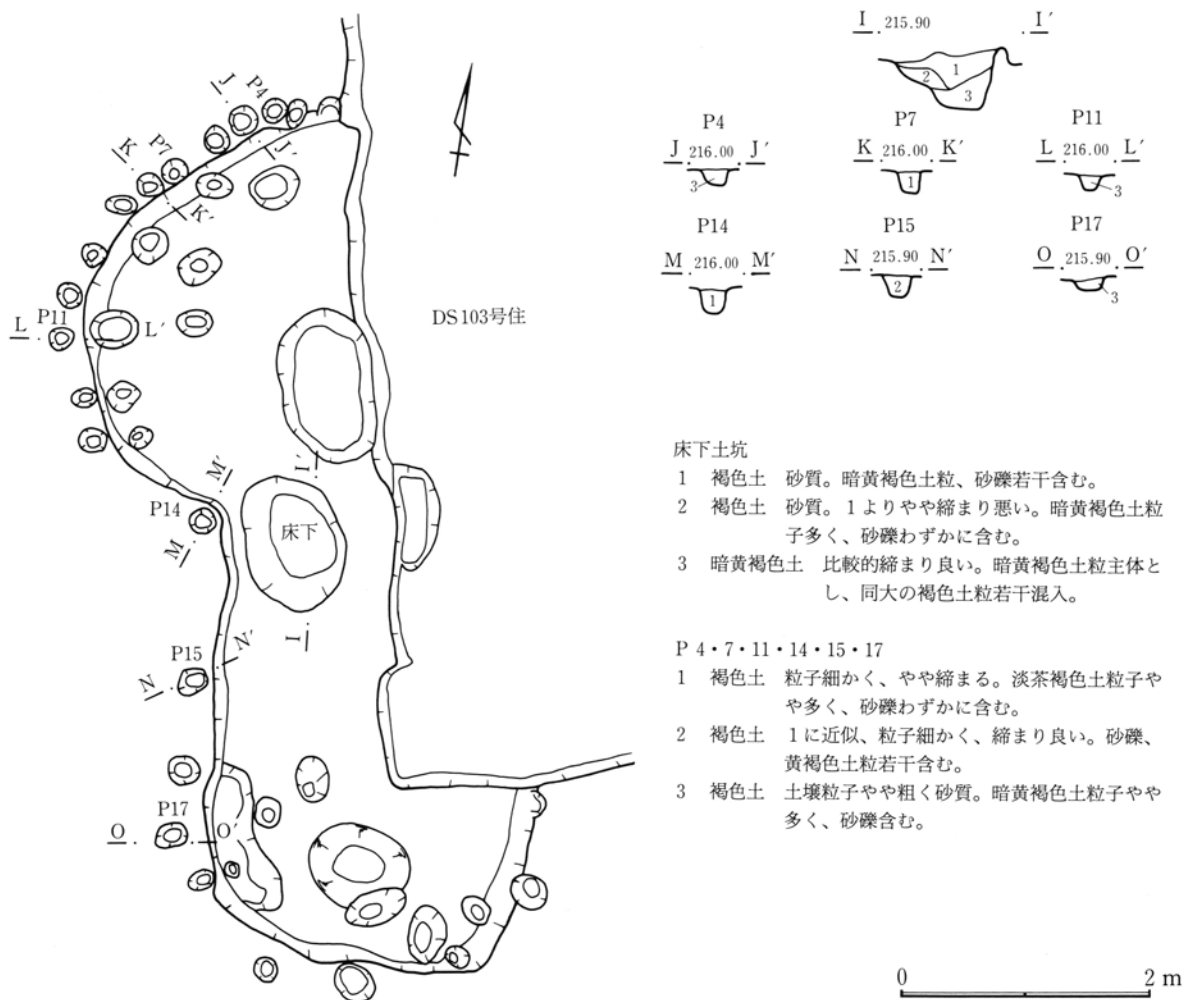
第40図 C363号住居跡(1)



第41図 C363号住居跡(2)



第42図 C363号住居跡炉



第43図 C363号住居跡(3)

### 第3章 遺 構

て、レベル的にわずかに下がる。また、敷かれた石は張り出し部の方がやや丸みを持ったものが多いように思える。外縁の石は横向きに立てられ、敷石面から20～25cmの高さをもって巡らされている。時期は堀之内Ⅰ式期と思われる。

C368号住居跡（第44～46・374・375図 PL. 59・60・115・236・237）

位置 Ct-48 形状 柄鏡形 規模 長辺7.0m、短辺(2.0)m、壁高0.20m

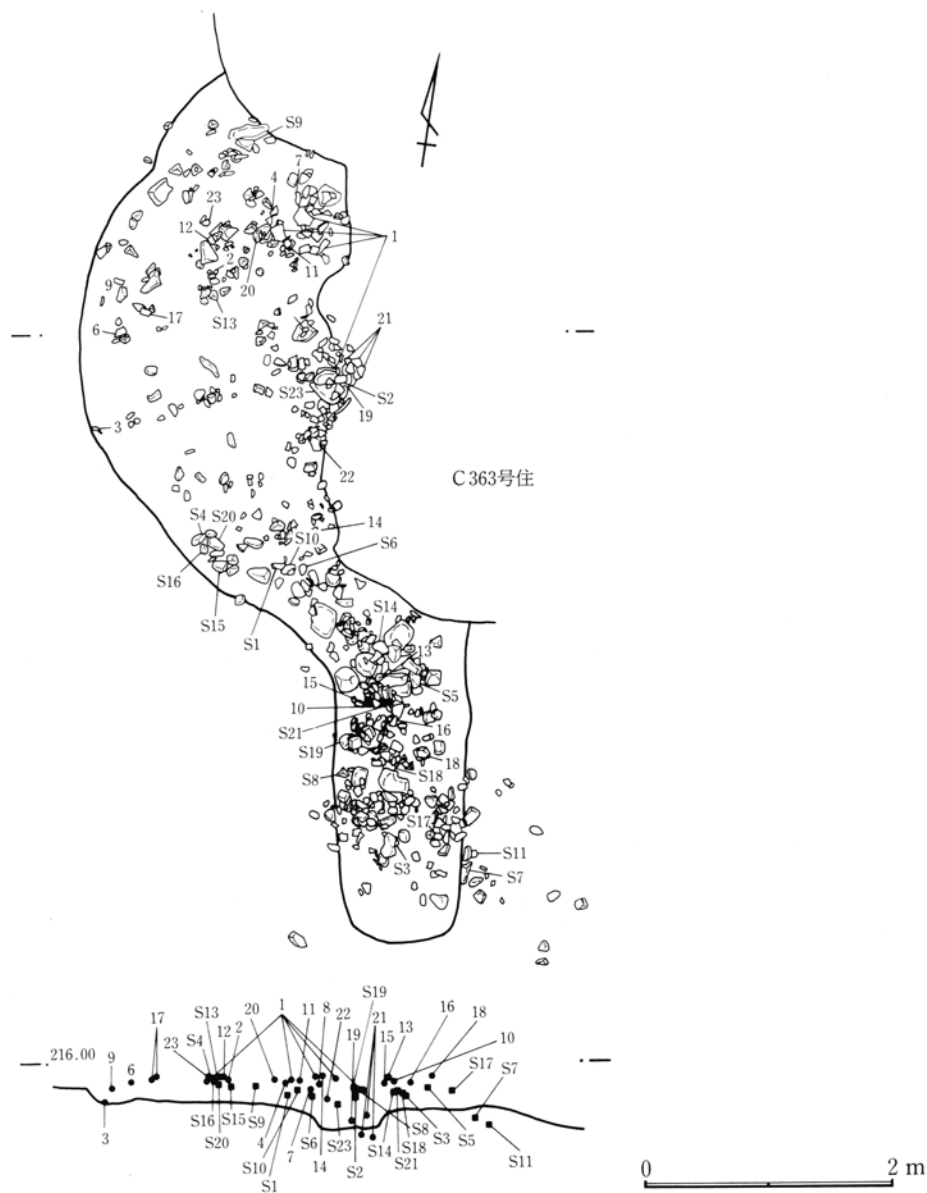
重複 C363号住居跡（縄文時代）に主体部の東半分を切られる。

埋没土 砂礫の混入多く、地山の黄褐色粘土ブロックが混在する。

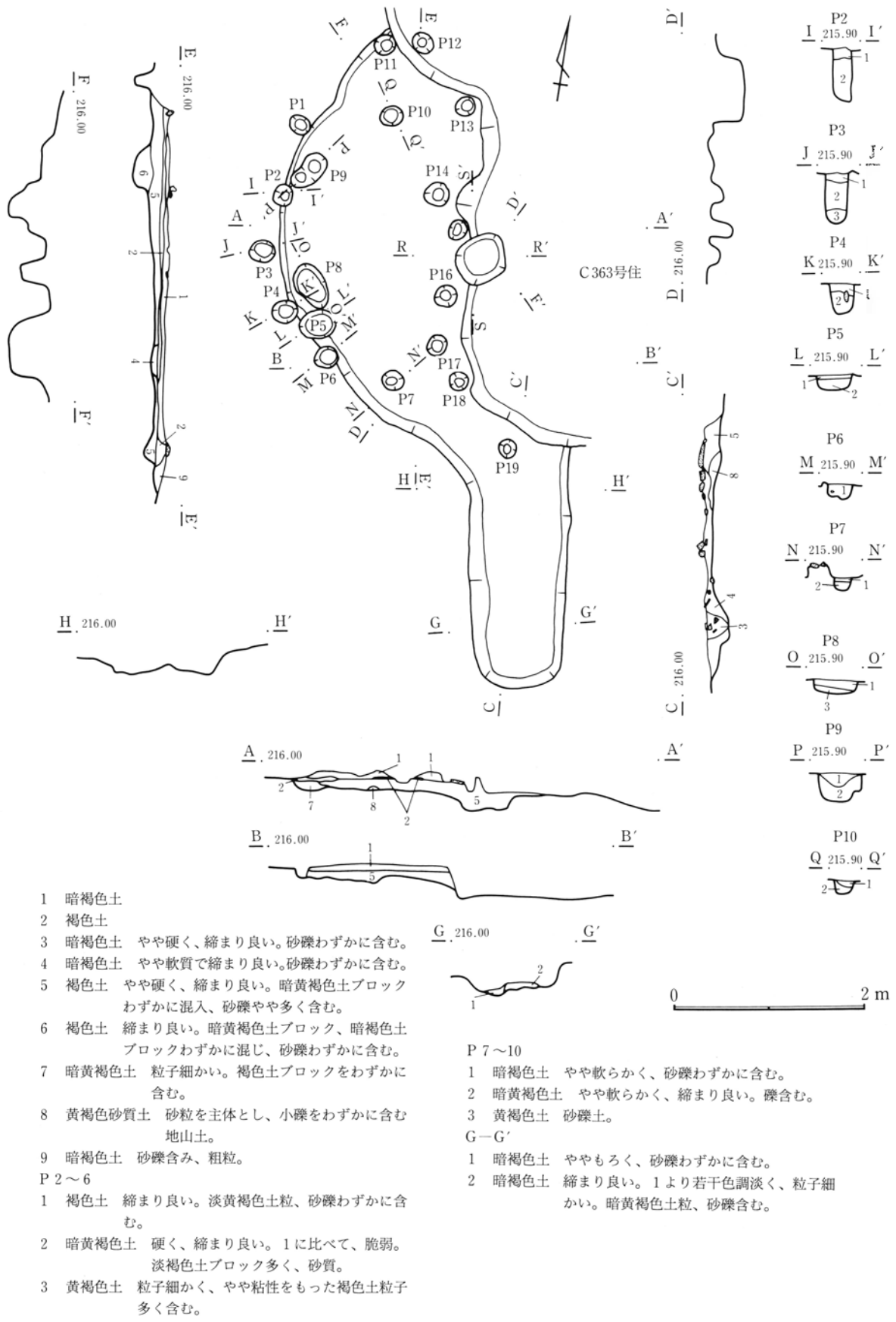
床面 平坦な面は認められず、かなり凹凸が顕著で、やや軟質である。

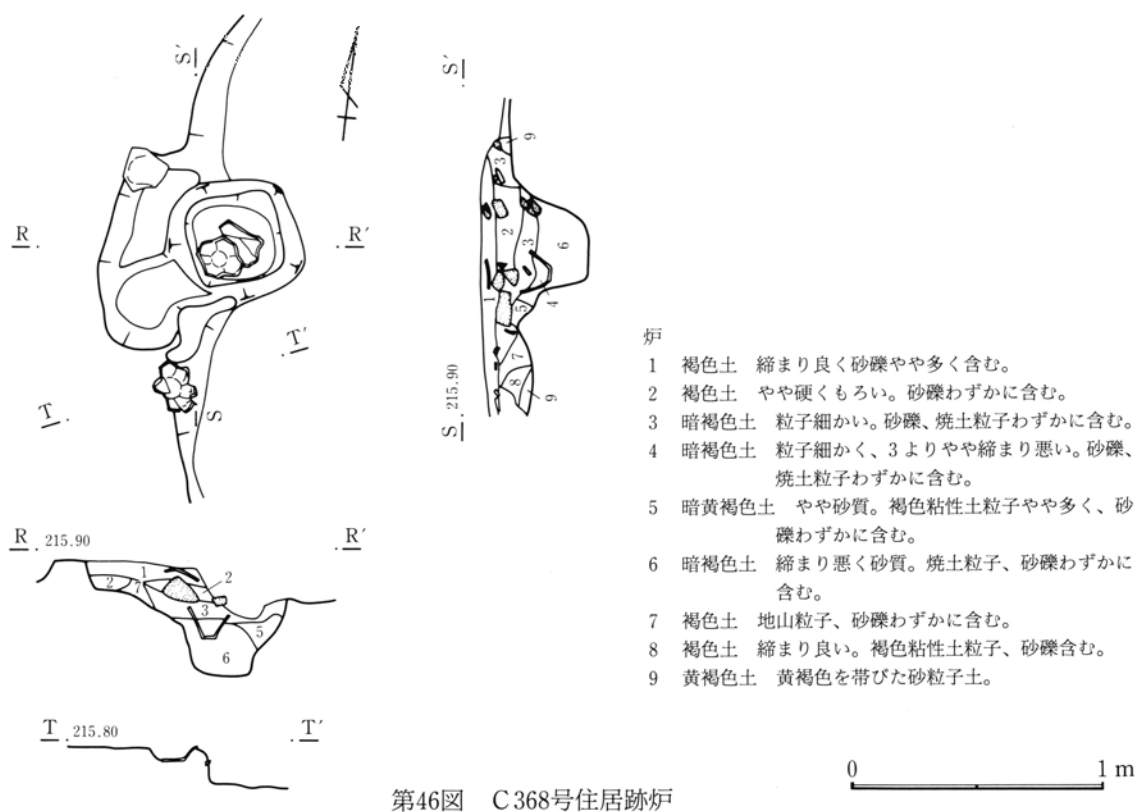
柱穴 壁に沿って検出されている。径20～30cmで、深さは15～50cmとばらつきが見られる。

炉 主体部中央に作られている。上部は重複により壊されている。石は無く、ほぼ方形に掘り込まれた一



第44図 C368号住居跡(1)





辺約50cmの落ち込みが検出されている。中からは深鉢の底部片22が出土している。下層には砂礫混じりの焼土が見られる。

**出土遺物** 遺存部分において土器片、石器等が出土している。その他、蓋形土器23が1点見られる。石器は打製石斧、敲石、磨石、多孔石、砥石などが出土している。

**調査所見** C363号住居跡（敷石住居）に半分が壊されている。柄鏡形を呈し、遺存状態はあまり良くない、石が敷かれていたと思われ、主体部と柄部分の接合部付近には敷石がわずかに残る。時期は称名寺式～堀之内Ⅰ式と思われる。

## 2. 集石・配石・埋甕

ここで報告する集石、配石、埋甕は最終的に住居跡と判断されたもの（2号集石、1号配石）もあるが、呼称は調査時に付した区分名称をそのまま用いた。

### C2号集石（敷石住居）（第47・48・376・377図 PL. 62・63・116・237）

**位置** Cd・e-43・44 **形状** 柄鏡形か **規模** 長辺 不明、短辺 不明、壁高0m

**重複** 東側をC38号住居跡（弥生時代）に、北側をC171号住居跡（古墳時代）に、西側はC160号住居跡（古墳時代）に切られている。 **埋没土** 確認されなかった。 **床面** 敷石面は、動いておりやや凹凸が見られる。 **柱穴** 検出されなかった。

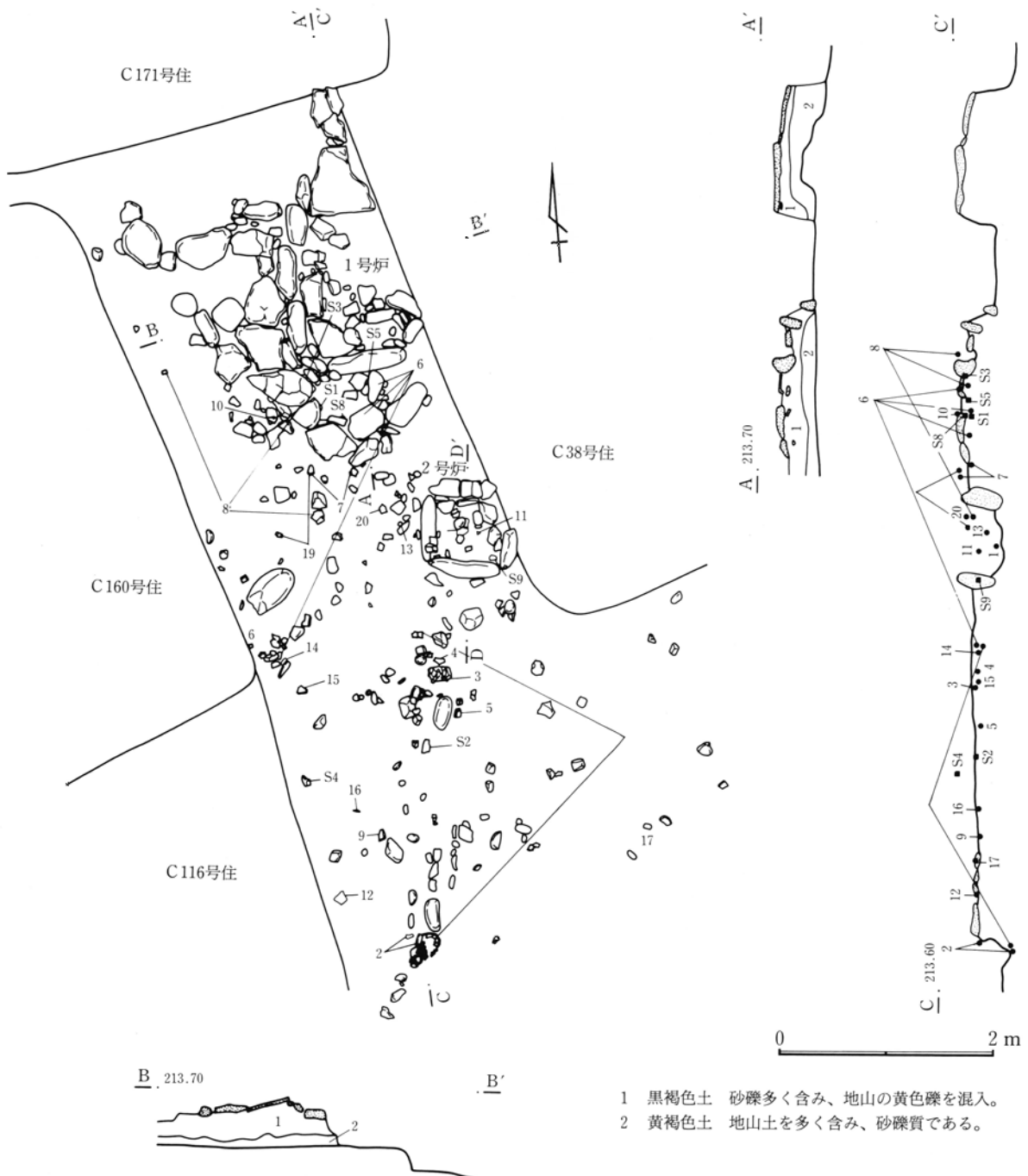
**炉** 2カ所検出された。

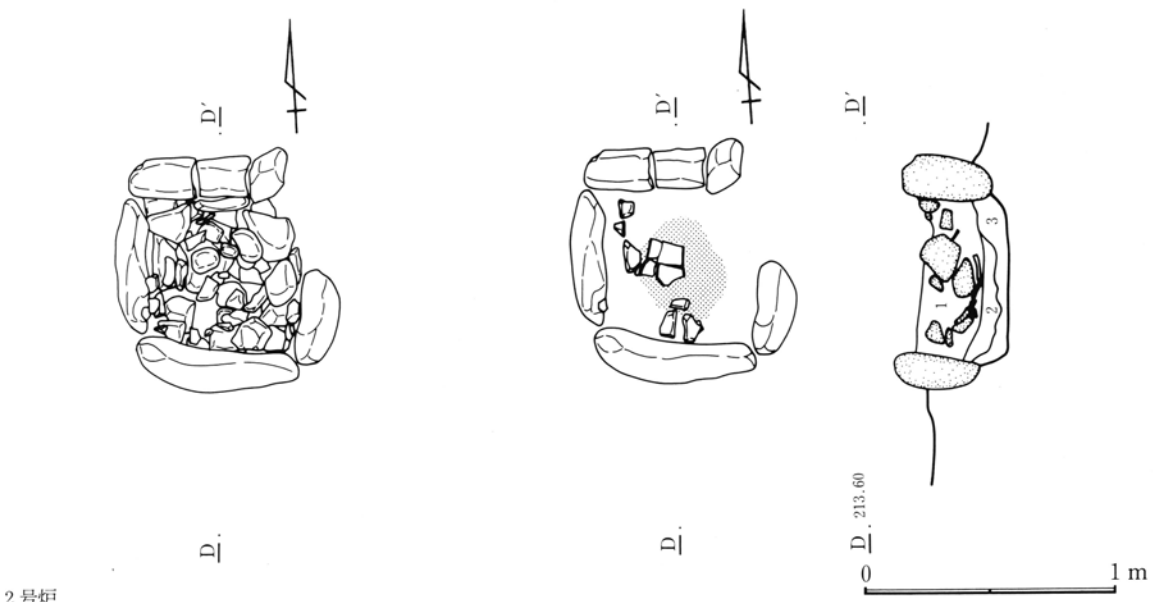
1号炉 主体部にあり、大形の礫で組まれた、長方形を呈す、東側は重複で壊されている。規模は長辺約1.2m、短辺1.0mである。

2号炉 1号炉の南1.5m程離れて位置する。やはり河原石を方形に組んでいる。規模は一辺約60cmで、深さは約40cmである。中には礫に伴って土器片が混入している。また、炉の底面には焼土が検出されている。

出土遺物 敷石部分、炉の南側部分に土器片が散在する。深鉢3が2号炉の南3.5m程離れて正立した状態で出土している。

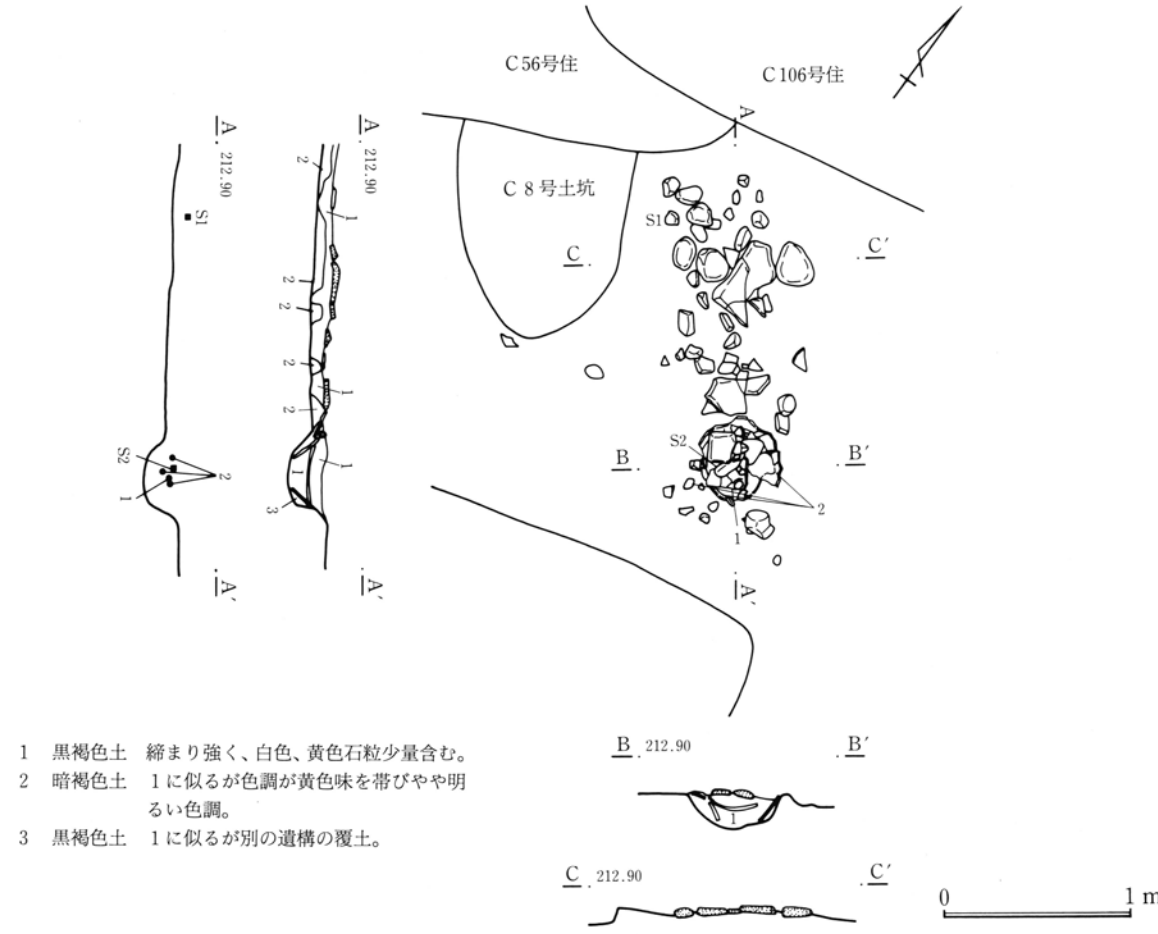
調査所見 かなり壊れているが、敷石住居（柄鏡形）と思われる。敷石は扁平な大形の砂岩、河原石が使われている。炉も大形で、かなり規模の大きい住居であったと考えられる。2基の炉が検出されているが、重複は考えられず、手前の炉は張り出し部との接合部分に位置していたものと思われる。





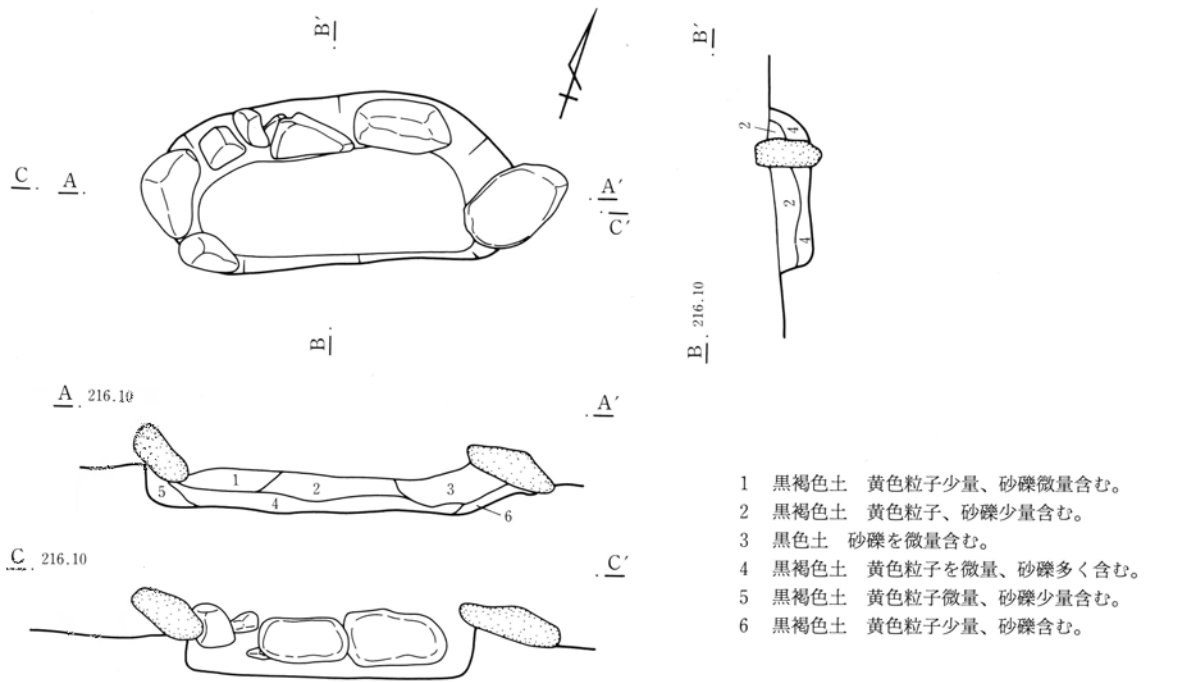
- 2号炉
- 1 黒褐色土 砂礫多く含み、粗粒、多くの角礫、砂炭礫を混入。
  - 2 赤茶褐色土 粗粒で若干の焼土塊を含む。
  - 3 黒褐色土 地山の黄色砂礫を若干含み、上層に比べやや細粒となる。

第48図 C 2号集石(2)

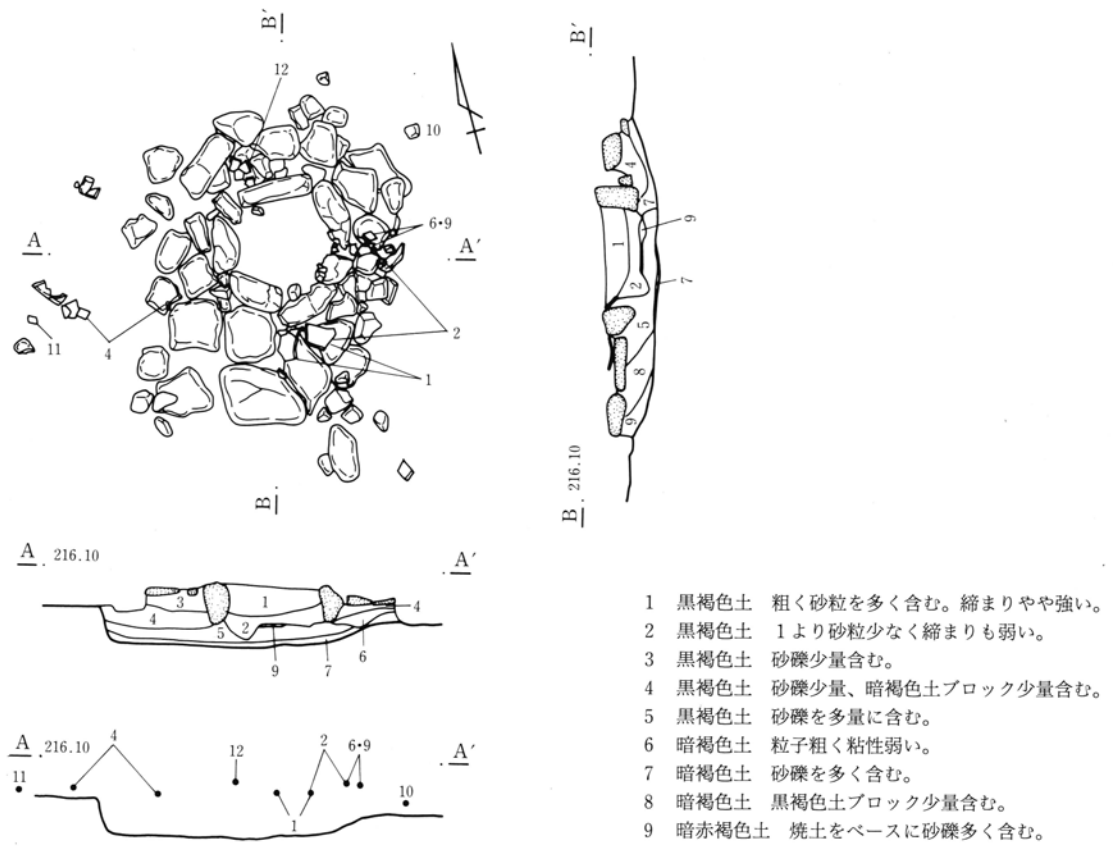


- 1 黒褐色土 締め強く、白色、黄色石粒少量含む。
- 2 暗褐色土 1に似るが色調が黄色味を帯びやや明るい色調。
- 3 黒褐色土 1に似るが別の遺構の覆土。

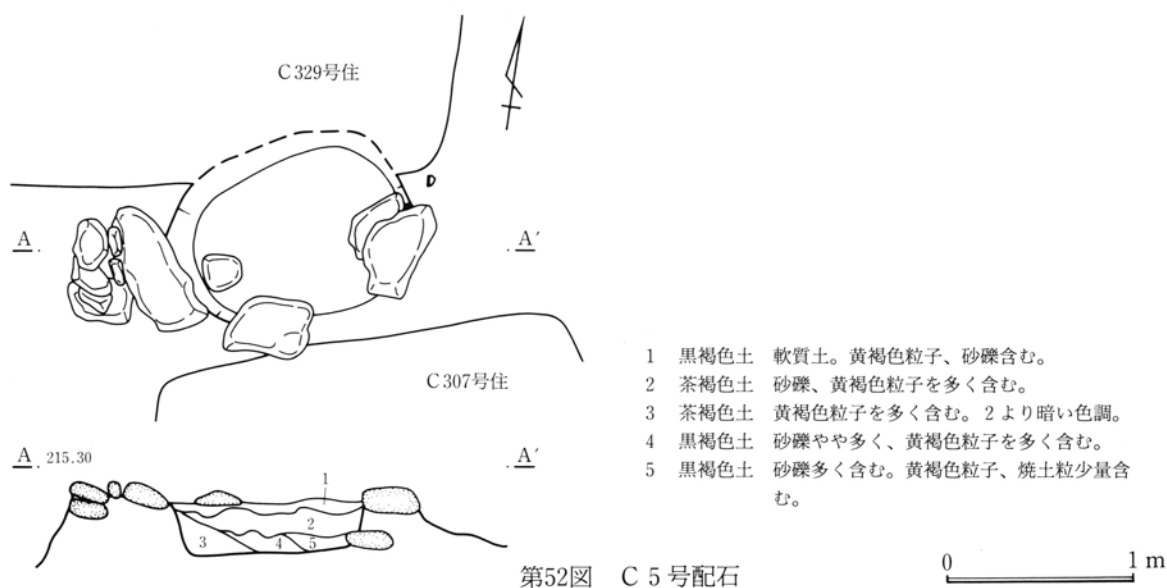
第49図 C 1号配石



第50図 C 3号配石



第51図 C 4号配石



#### C 1号配石（敷石住居）（第49・378図 PL. 63・64・117・238）

位置 Cc—34 形状 不明 規模 長辺(2.0)m、短辺(0.8)m、壁高0m

重複 北側の大部分をC56号住居跡（弥生時代）に切られる。 埋没土 ほとんど確認できなかった。

床面 わずかに検出された敷石面は比較的平坦である。 柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。 出土遺物 南端に埋設土器1が検出されている。その他若干の石器類が見られる。

調査所見 柄鏡形敷石住居の一部分と思われる。大部分は壊されており、検出された部分も遺存状態は良くない。敷石は扁平な砂岩と、円形の河原石が見られる。埋設された深鉢1は大形で、底部を欠いている。口縁部分が中に落ち込んだ状態で検出されている。焼土はほとんど見られなかった。時期は中期後半である。

#### C 3号配石（第50・378図 PL. 64・117）

位置 Cq—50 形状 長円形 規模 長辺2.0m、短辺0.9m、壁高0.4m

重複 南側の石は検出されなかったが、調査時点では重複は確認されなかった。

埋没土 砂礫を多く含む粗粒土で埋まる。 出土遺物 土器片がわずかに見られたのみである。

調査所見 掘り方は長円形で、北壁側に4石、東西に1石ずつ配され、南側は西側に1石が据えられている。東西の石はレベル的にやや高い位置にある。時期は後期中葉と思われる。

#### C 4号配石（第51・379図 PL. 64・117・118）

位置 Cs—51 形状 円形 規模 長辺1.7m、短辺1.3m、壁高0m

重複 なし。 埋没土 覆土は見られない。

床面 敷石部分は凹凸が見られ、周辺部分は平坦であるが、床面とは認定できなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 7個の礫がほぼ円形に巡らされている。欠け口部を上にして据えられ、周りに平坦面を上にした礫を配している。炉の底部に若干の焼土が検出されている。

出土遺物 礫の上に土器片が検出されている。

**調査所見** 屋外炉と思われるが、周辺部には柱穴や掘り込み等は検出されなかった。時期は後期後半と思われる。

### C 5号配石 (第52図 PL. 64)

**位置** Cm-47 **形状** 長円形 **規模** 長辺1.5m、短辺1.0m、壁高0.3m

**重複** 北側をC 329号住居跡(古墳時代)に壊されている。 **埋没土** 礫を混入した粗粒土。

**出土遺物** 出土遺物は見られない。

**調査所見** 4個の石が掘り込みの縁辺に沿って検出されているが、やや動いているものと思われる。掘り込みは深さ30cmで底部はほぼ平坦である。

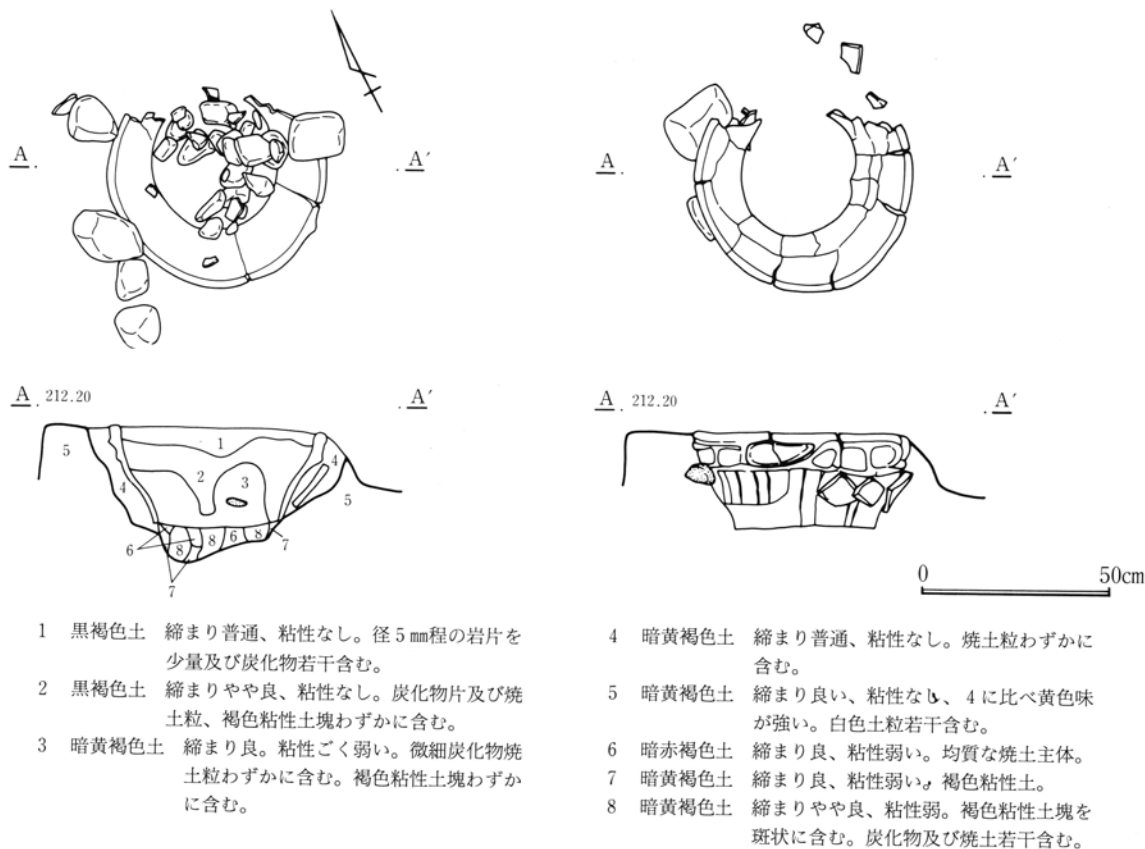
### C 1号埋甕 (第53・380図 PL. 64・118・238)

**位置** Cb-28 **規模** 径56.0cm、高さ25.0cm

**重複** 土器の東側1部分をC 93号住居跡(弥生時代)に壊される。

**埋没土** 下位に礫を含み、やや粘質のある褐色土。 **出土遺物** 埋甕は口縁部分で径約50cm、高さは25cmで、正立している。土器の内部、周辺から若干の土器片が出土している。

**調査所見** 土器は口縁部分で、確認時数点の礫が周囲より検出されている。掘り込みは、土器よりもわずかに大きい程度で、土器面との間に固定材としての礫、土器片が検出されている。時期は中期後半である。



第53図 C 1号埋甕

### 3. 土 坑

調査区内において検出した土坑は総数198基（DS区分も含む）であるが、ここでは遺物出土の有無を問わず、切り合いの状況、埋没土の状況などから縄文時代と判断されたものすべてを記載した。

大きさ、形状については様々なものが見られ、重複により削られたものが多かった。時期は前期から後期まで見られるが、その分布を見ると調査区北側に多く検出されており、その傾向は北に位置する DS 区に続く。

#### C 9号土坑（第54・381図 PL. 65・119）

位置 Cf-36 形状 長円形 規模 長径1.20m、短径0.95m、深さ0.23m

重複 切り合いはない。 埋没土 礫を含む粗粒土で埋まる。 出土遺物 土器の小片がわずかに見られる。

調査所見 底部は小さく、不定形な掘り方を呈す。時期は前期後半である。

#### C10号土坑（第54図 PL. 65）

位置 Cg-38 形状 隅丸長方形 規模 長径2.30m、短径1.40m、深さ0.90m

重複 重複なし。 埋没土 砂礫多く含む粗粒土。 出土遺物 ほとんど見られなかった。

調査所見 不定長方形を呈し、深さは1 m弱である。地山が砂礫土であるためにかなり壁は崩れた状況を呈す。形状等から陥穴の可能性はある。

#### C13号土坑（第54・381図 PL. 65・119）

位置 Ce-34 形状 長円形 規模 長径1.05m、短径0.85m、深さ0.45m

重複 東側をC 2号溝に切られ、西側はC114号住居跡（弥生時代）にわずかに切られる。 埋没土 小礫を多く含み、上層に礫が混入。 出土遺物 若干の土器片と石核が1点見られたのみである。

調査所見 配石土坑である。ほぼ円形で深さは45cmを測る。上層で礫が出土しており、壁に沿って礫が縦方向に並べられている。時期は中期後半か。

#### C14号土坑（第54・381図 PL. 65・119・238）

位置 Ca-32 形状 長方形 規模 長径(1.2)m、短径1.0m、深さ0.10m

重複 C58号住居跡（古墳時代）が上に載っており、北側はC86号住居跡（弥生時代）に切られる。

埋没土 礫をわずかに含む、粘性土。 出土遺物 礫に混じり若干の土器片、石核が出土している。

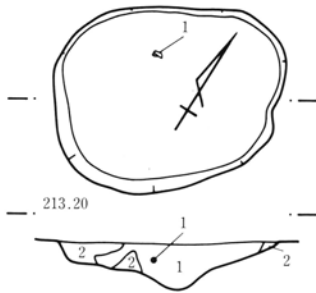
調査所見 長方形を呈す。上部を削られているためか、深さは約10cmと浅く、底は平坦である。時期は前期中葉である。

#### C15号土坑（第54図 PL. 65）

位置 Cl-47 形状 長円形 規模 長径1.0m、短径0.60m、深さ0.20m

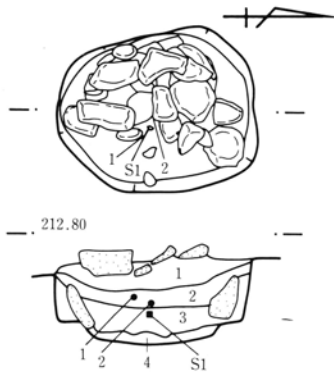
重複 C127号住居跡（古墳時代）の床下に位置する。 埋没土 礫を多く含み、下層に若干の焼土が見られる。 出土遺物 ほとんど見られなかった。

調査所見 上面が削られており、底面は平坦をなす。



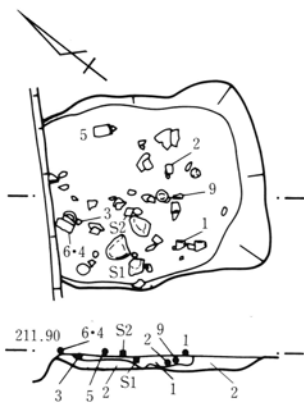
C 9号土坑

- 1 黒褐色土 砂利質で締りはない。
- 2 黒褐色土 地山土主体の砂礫土。



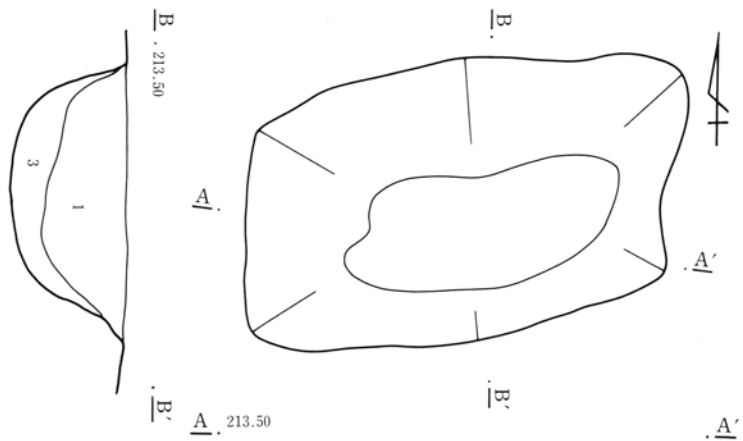
C13号土坑

- 1 黒色土 小礫混入、不均質だが固く良く締る。
- 2 黒色土 1に似るが礫の混入少なく、黄褐色粘質土若干混入。
- 3 黒褐色土 黄褐色粘質土塊を斑状に含む。均質である。
- 4 明褐色土 地山黄褐色粘質土を主体とし、砂粒含む黒褐色土ブロックまばらに混入。



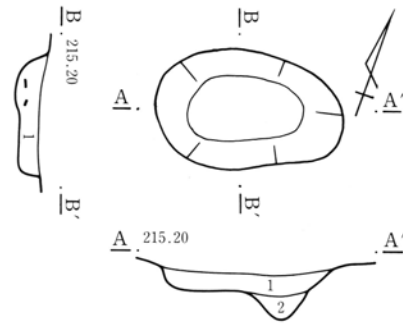
C14号土坑

- 1 暗黄褐色土 微細炭化物かなり混入。焼土若干含む。
- 2 暗黄褐色土 微細炭化物若干含む。白色土粒わずかに含む。1に比べ黄色味強い。



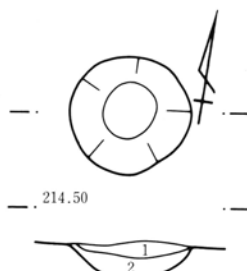
C10号土坑

- 1 黒褐色土 礫、褐色土粒、土塊、小礫混入。締りはない。
- 2 黒褐色土 小礫、褐色土粒少量混入。1で見られた礫は点在する程度。締りなし。
- 3 黒褐色土 砂利、小礫が多く混入。角礫点在する。締りはない。



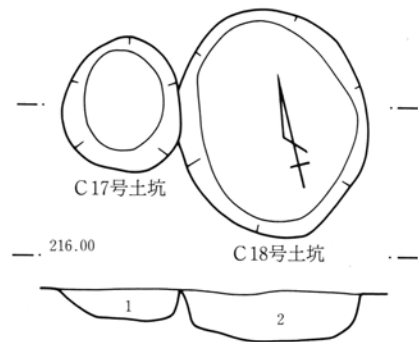
C15号土坑

- 1 黒褐色土 焼土粒を多く含み、黄色粒子、砂粒少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土、黄色粒子、砂粒を少量含む。



C16号土坑

- 1 黒褐色土
- 2 褐色土 粘土、焼土、暗褐色土の混土。



C17・18号土坑

- 1 暗褐色土 暗褐色土をベースとし、赤色粒子をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒子、砂礫をやや多く含む。1より暗い色調を呈し粗粒。

0 1 m

第54図 土坑(1)

C16号土坑（第54図 PL. 66）

位置 Cl-47 形状 円形 規模 長径0.60m、短径0.60m、深さ0.15m

重複 C127号住居跡（古墳時代）の床下に位置する。 埋没土 粘土、焼土の混土。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 円形で断面は鍋底状を呈す。C127号住居跡の床下土坑の可能性もある。

C17号土坑（第54図 PL. 66）

位置 Cs-52 形状 円形 規模 長径0.62m、短径0.60m、深さ0.15m

重複 C18号土坑の西に接する。 埋没土 砂礫を多く含む。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 遺物の出土はなく、時期は不明。

C18号土坑（第54図 PL. 66）

位置 Cs-52 形状 長円形 規模 長径1.25m、短径1.0m、深さ0.25m

重複 C17号土坑の東に接する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 遺物の出土は見られなかった。

C19号土坑（第55図 PL. 66）

位置 Cs-52 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.15m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 円形で底部は平坦をなす。

C20号土坑（第55図 PL. 66）

位置 Cs-53 形状 円形 規模 長径0.50m、短径0.40m、深さ0.10m

重複 なし。 埋没土 砂礫、黒色土ブロック含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。

C21号土坑（第55図 PL. 66）

位置 Cs-52 形状 円形 規模 長径0.50m、短径0.40m、深さ0.22m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

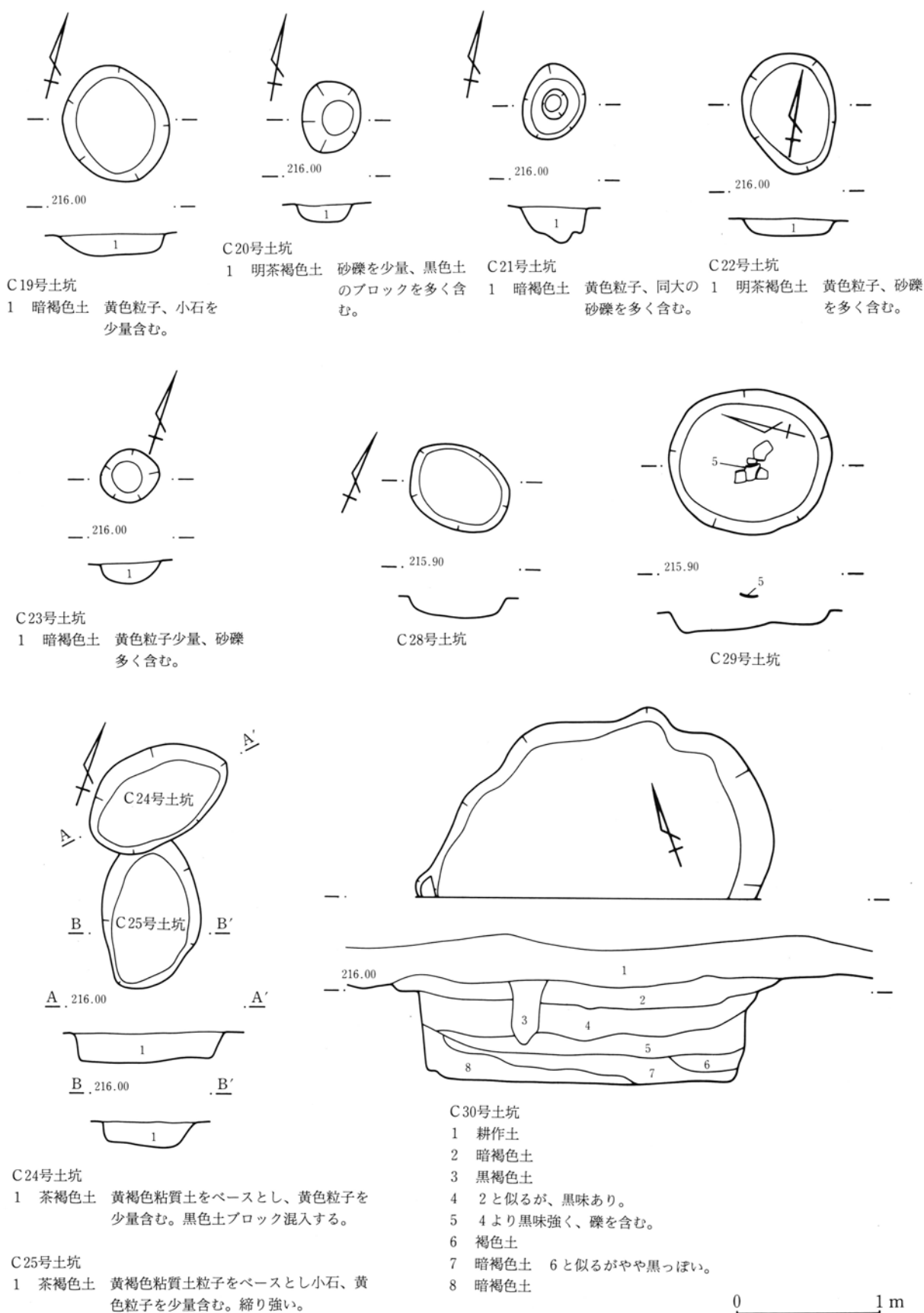
調査所見 小形の土坑である。2段の掘り方を持つ。

C22号土坑（第55図 PL. 66）

位置 Cs-52 形状 長円形 規模 長径0.85m、短径0.65m、深さ0.12m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 底部平坦。



第55図 土坑(2)

C23号土坑（第55・381図 PL. 66・119）

位置 Ct-52 形状 円形 規模 長径0.40m、短径0.35m、深さ0.14m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 若干の土器片が出土。

調査所見 小形で断面鍋底状を呈す。時期は中期前半である。

C24号土坑（第55図 PL. 67）

位置 Ct-51 形状 長円形 規模 長径1.05m、短径0.65m、深さ0.20m

重複 C25号土坑と接する。 埋没土 礫の混入多い。 出土遺物 なし。

調査所見 長円形で底面は平坦をなす。

C25号土坑（第55図 PL. 67）

位置 Ct-51 形状 長円形 規模 長径1.0m、短径0.65m、深さ0.15m

重複 C24号土坑に北端を切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 形状はC24号土坑に近似している。

C27号土坑（第56・381図 PL. 67・119・238）

位置 Ck-47 形状 不定形 規模 長径5.5m、短径(2.7)m、深さ0.4m

重複 東側はC324号住居跡（弥生時代）に、北側はC127号住居跡（古墳時代）に切られている。さらにC78号土坑が南側に重複する。 埋没土 礫を混入し、粗粒。 出土遺物 やや浮いた状態で、若干の土器片が見られた他、打製石斧2点、石核1点が出土している。

調査所見 北、および東側を切られている上に、全体に遺存状態は悪い。大形の土坑で、住居の可能性も考慮して調査を行ったが炉、床面、柱穴は確認できなかったために土坑として扱った。時期は中期後半である。

C28号土坑（第55図 PL. 67）

位置 Cr-51 形状 長円形 規模 長径0.75m、短径0.55m、深さ0.15m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 長円形を呈す小形の土坑である。

C29号土坑（第55・381・382図 PL. 67・119）

位置 Cs-50 形状 円形 規模 長径1.1m、短径1.0m、深さ0.15m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 覆土上位で深鉢片が出土している。

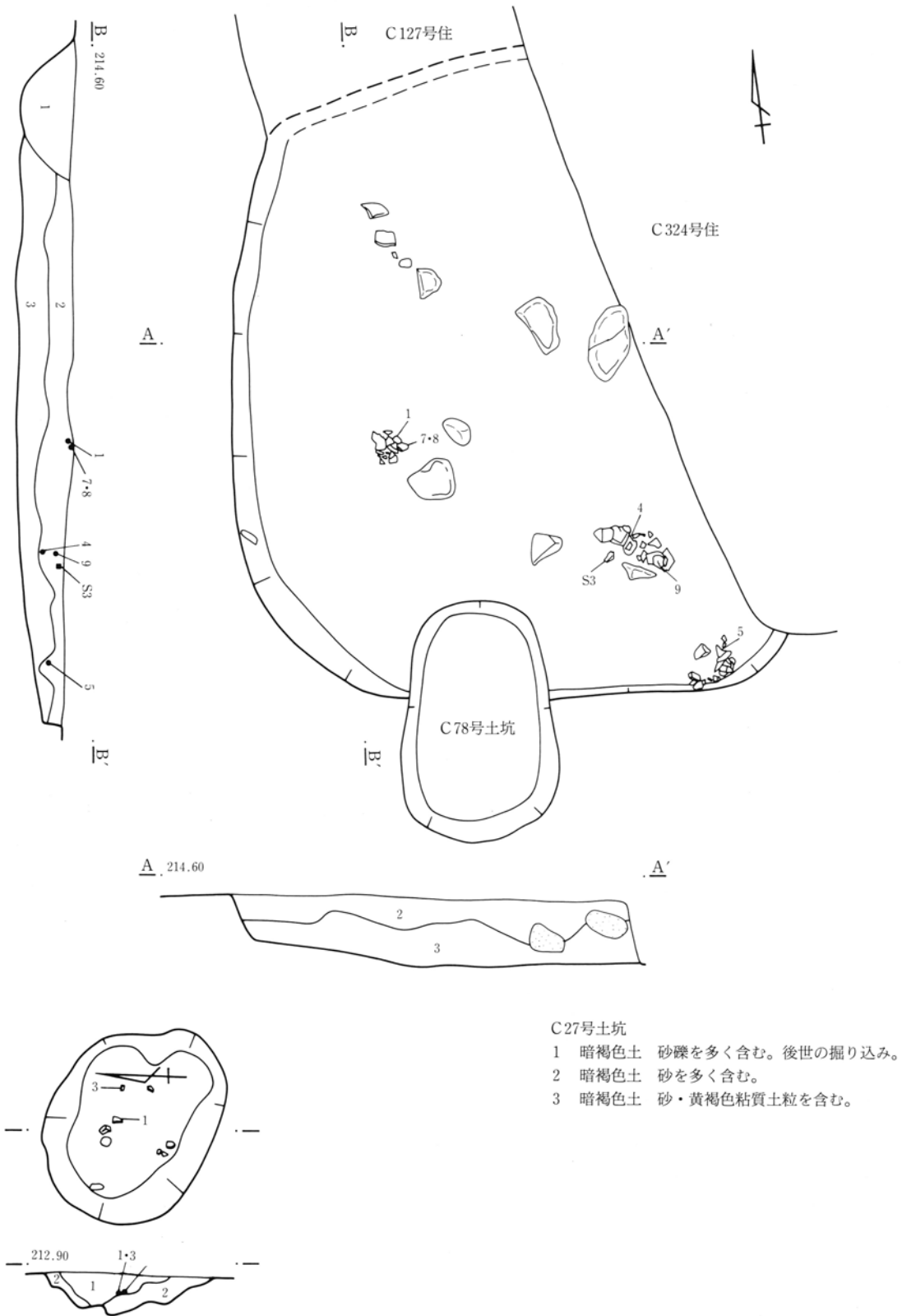
調査所見 土器はかなり浮いて出土している。出土土器から時期は中期前半と思われる。

C30号土坑（第55・382図 PL. 67・120・238）

位置 Cr-52 形状 不定円形 規模 長径2.5m、短径(1.2)m、深さ0.60m

重複 調査区の西端に位置し、約半分は調査区外となる。 埋没土 礫を混入し締まる。 出土遺物 若干の土器片が出土している他、凹石が1点出土している。

調査所見 比較的大形の土坑で、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。時期は前期後半である。



第56図 土坑(3)

C32号土坑（第56・382図 PL. 67・120）

位置 Ce-35 形状 長円形 規模 長径1.35m、短径1.05m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む粗粒土と若干の炭化物を含む。 出土遺物 土器の小片がわずかに出土している。

調査所見 長円形で掘り込み面は凹凸が目立つ。時期は前期中葉である。

C33号土坑（第57・382図 PL. 67・120・238）

位置 Ca-35 形状 不定円形 規模 長径1.30m、短径1.20m、深さ0.25m

重複 C20号住居跡（弥生時代）の床下に位置する。 埋没土 砂礫、粘土ブロック、炭化物を含む。

出土遺物 土器片の他、打製石斧、凹石が見られる。

調査所見 住居により、上部を失っている。掘り方は凹凸が見られる。時期は前期中葉である。

C34号土坑（第57図 PL. 68・238）

位置 Cc-29 形状 不定長円形 規模 長径1.60m、短径0.80m、深さ0.22m

重複 C51号住居跡（古墳時代）の上部を切られる。 埋没土 粘土ブロックの混入目立つ。

出土遺物 土器の出土はほとんどなかった。

調査所見 不定形で掘り方も凹凸が目立つ。土器の出土もほとんど見られず時期は不明である。

C36号土坑（第57・382図 PL. 68・120・238）

位置 位置不明 形状 長円形 規模 長径0.90m、短径0.57m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 小礫、粘土ブロック、若干の焼土を含む。 出土遺物 器形復元可能な深鉢が2点出土している。また、敲石1点が出土している。

調査所見 時期は前期中葉である。

C39号土坑（第57・383図 PL. 68・120・239）

位置 Cd-28 形状 不定形 規模 長径(1.0)m、短径(0.9)m、深さ0.30m

重複 C9号溝に南側を切られ、北側、東側も住居により切られている。 埋没土 砂礫含むやや粘性土で埋まる。 出土遺物 若干の土器片と、磨製石斧1点が出土している。

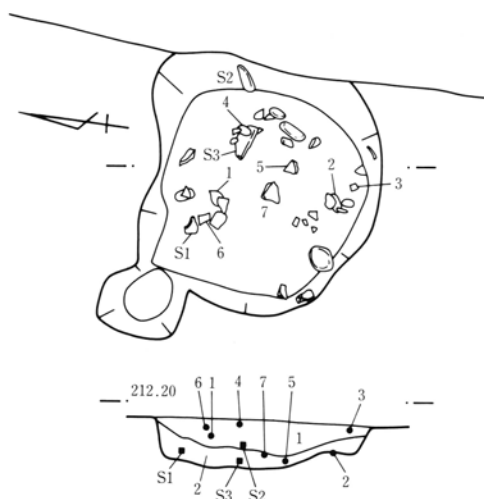
調査所見 壁は切られており形状は不明である。時期は前期中葉である。

C40号土坑（第57・383図 PL. 68・120・238）

位置 Ci-36 形状 円形 規模 長径1.14m、短径1.05m、深さ0.40m

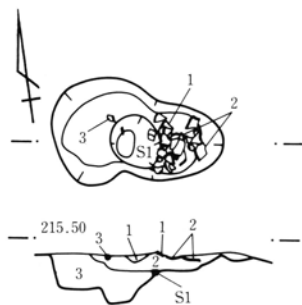
重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 わずかな土器片が出土した他、底面近くで台石が1点検出されている。

調査所見 ほぼ円形で、垂直に掘り込まれている。時期は前期中葉である。



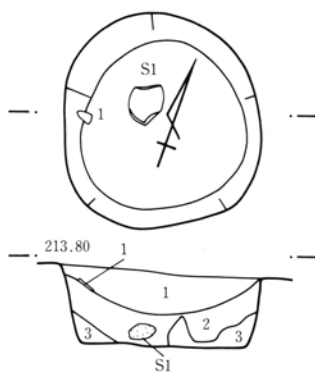
C33号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を多量に含む。黄褐色粘質土ブロック、炭化物少量含む。
- 2 暗黄褐色土 黄褐色粘質土ブロック少量含む。礫、炭化物少量含む。



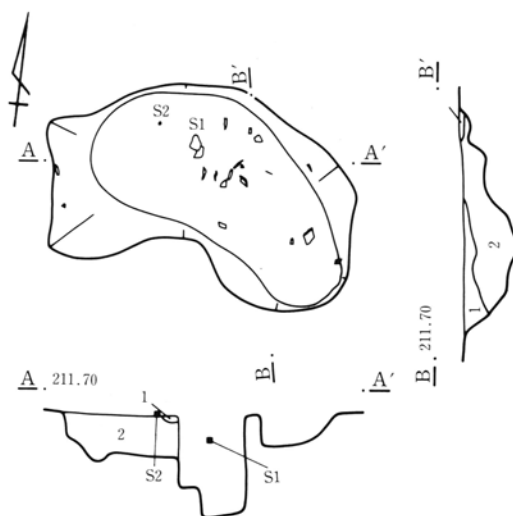
C36号土坑

- 1 暗褐色土 焼土若干含む。小礫若干混入。
- 2 暗褐色土 1に比べ黒味強い。砂礫少量及び褐色粘性土若干含む。
- 3 黄褐色土 砂礫多量に含む。若干の黄褐色粘質土ブロック混入。



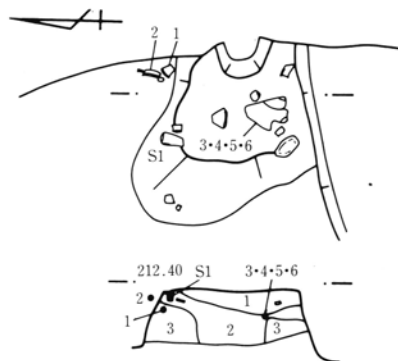
C40号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫多く含む、粗粒。
- 2 黒褐色土 1と似るが、少量の地山砂粒土含み、粒子細かい。
- 3 明黄褐色土 地山黄色粒子多く含む砂粒土。



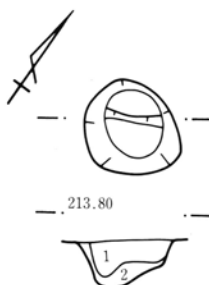
C34号土坑

- 1 黄褐色土 黄褐色粘質土ブロック主体とする。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロック混入、白色土粒及び微細炭化物少量含む。



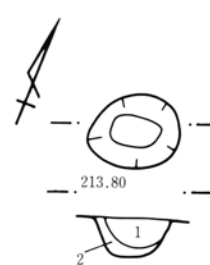
C39号土坑

- 1 黒褐色土 小礫含む。灰白色、褐色粒子多量、全体に粒は粗い。
- 2 暗褐色土 小礫若干含む。褐色土混入し、黒褐色土、暗褐色土と縞状を呈す。
- 3 褐色土 灰白色粒子多量、ところどころ黒褐色土、暗褐色土混入、粗粒。



C41号土坑

- 1 黒色土 若干の砂礫含む。
- 2 黄褐色土 地山砂礫を含む。



C42号土坑

- 1 黒色土 砂粒を多く含む軟質。
- 2 黄褐色土 地山砂礫を多く混入。

0 1 m

第57図 土坑(4)

C41号土坑（第57図）

位置 Ch-37 形状 円形 規模 長径0.55m、短径0.50m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 小形で、掘り込み面も凹凸が見られる。

C42号土坑（第57図）

位置 Ch-37 形状 円形 規模 長径0.47m、短径0.40m、深さ0.21m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。

C44号土坑（第58図 PL. 68）

位置 Ci-39 形状 不定長円形 規模 長径2.10m、短径1.30m、深さ0.90m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 不定形で比較的大形である。底面は小さく掘り込まれている。

C45号土坑（第58図 PL. 68）

位置 Cm-33 形状 円形 規模 長径1.30m、短径1.30m、深さ0.13m

重複 なし。 埋没土 礫、粘土ブロック混入する。 出土遺物 見られなかった。

調査所見 円形で掘り込みは浅く、底は平らである。

C46号土坑（第58図 PL. 69）

位置 Cl-33 形状 円形 規模 長径1.10m、短径(0.80)m、深さ0.15m

重複 調査区の東端に位置し、一部壁に掛かる。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 円形で掘り込みは浅く、底は平らである。C45号土坑と類似している。

C47号土坑（第58図 PL. 69）

位置 Ck-36 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.12m

重複 なし。

埋没土 礫を含む。

出土遺物 なし。

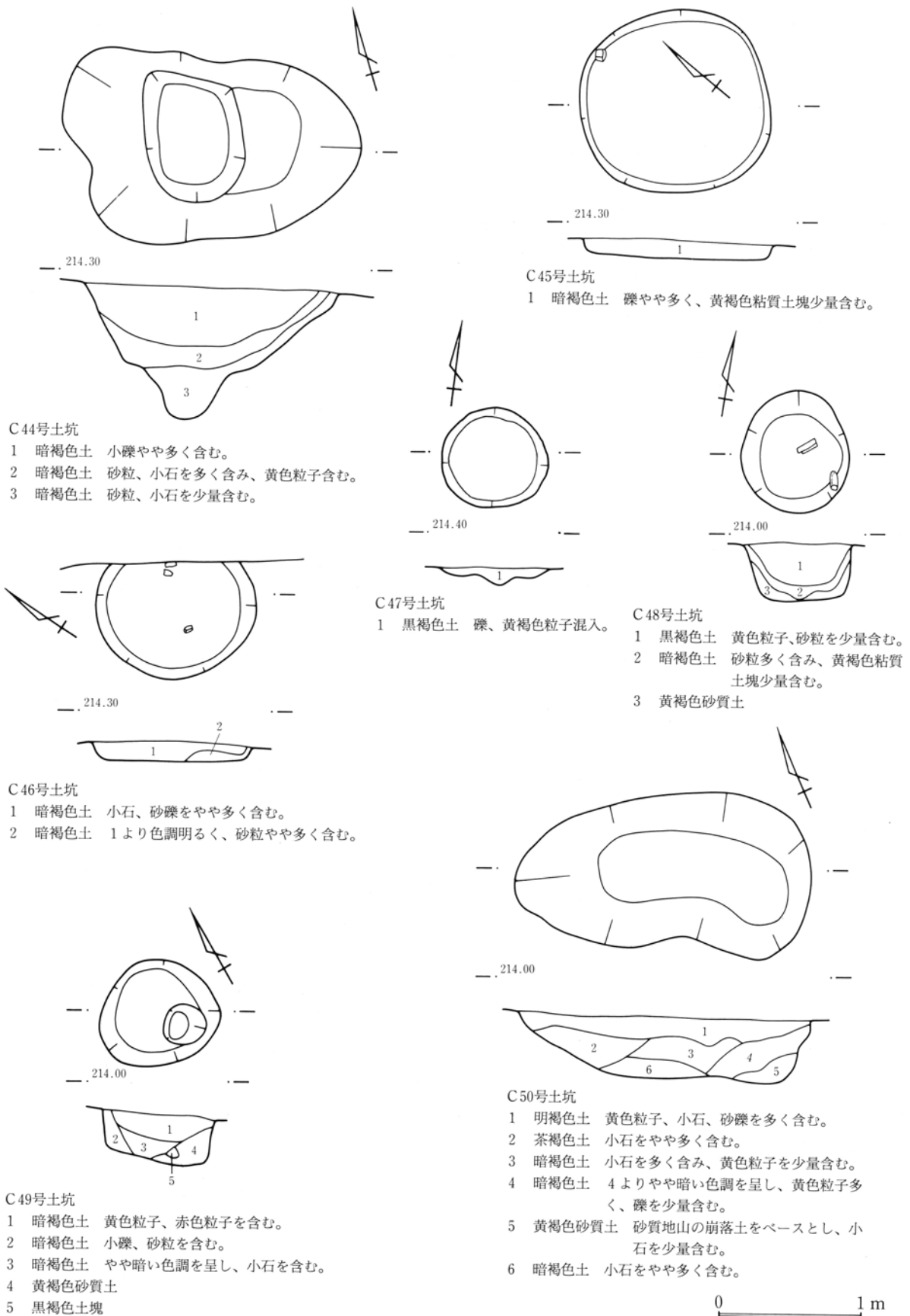
調査所見 円形で、時期は不明。

C48号土坑（第58図 PL. 69）

位置 Ck-35 形状 円形 規模 長径0.85m、短径0.75m、深さ0.40m

重複 C64号土坑を切る。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 自然礫が若干出土しているのみである。

調査所見 掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。



第58図 土坑(5)

0 1 m

C 49号土坑 (第58図 PL. 69)

位置 Ck-35 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.35m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 ほぼ円形で、底は東側がやや深くなる。

C 50号土坑 (第58図 PL. 69)

位置 Ci-37 形状 不正長円形 規模 長径2.05m、短径1.10m、深さ0.40m

重複 なし。 埋没土 砂礫多く混入する。 出土遺物 なし。

調査所見 やや中央がくびれる長円形を呈す。出土遺物は全く検出されなかった。

C 52号土坑 (第59図 PL. 69)

位置 Cg-39 形状 円形 規模 長径1.15m、短径1.10m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 砂礫多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 円形で底部の凹凸が著しい。

C 54号土坑 (第59図)

位置 Ch-37 形状 円形 規模 長径0.50m、短径0.45m、深さ0.15m

重複 なし。 埋没土 砂礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形で底面は凹凸が見られる。

C 55号土坑 (第59図 PL. 69)

位置 Ci-43 形状 不正長円形 規模 長径0.90m、短径0.60m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 底面に礫が検出されている。

C 56号土坑 (第59図 PL. 69)

位置 Ch-41 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.75m、深さ0.24m

重複 C 90号住居跡(平安時代)に切られる。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 垂直に掘り込まれ、底は平らである。

C 57号土坑 (PL. 70)

位置 不明 形状 円形 規模 長径0.40m、短径0.35m、深さ0.25m 重複 なし。

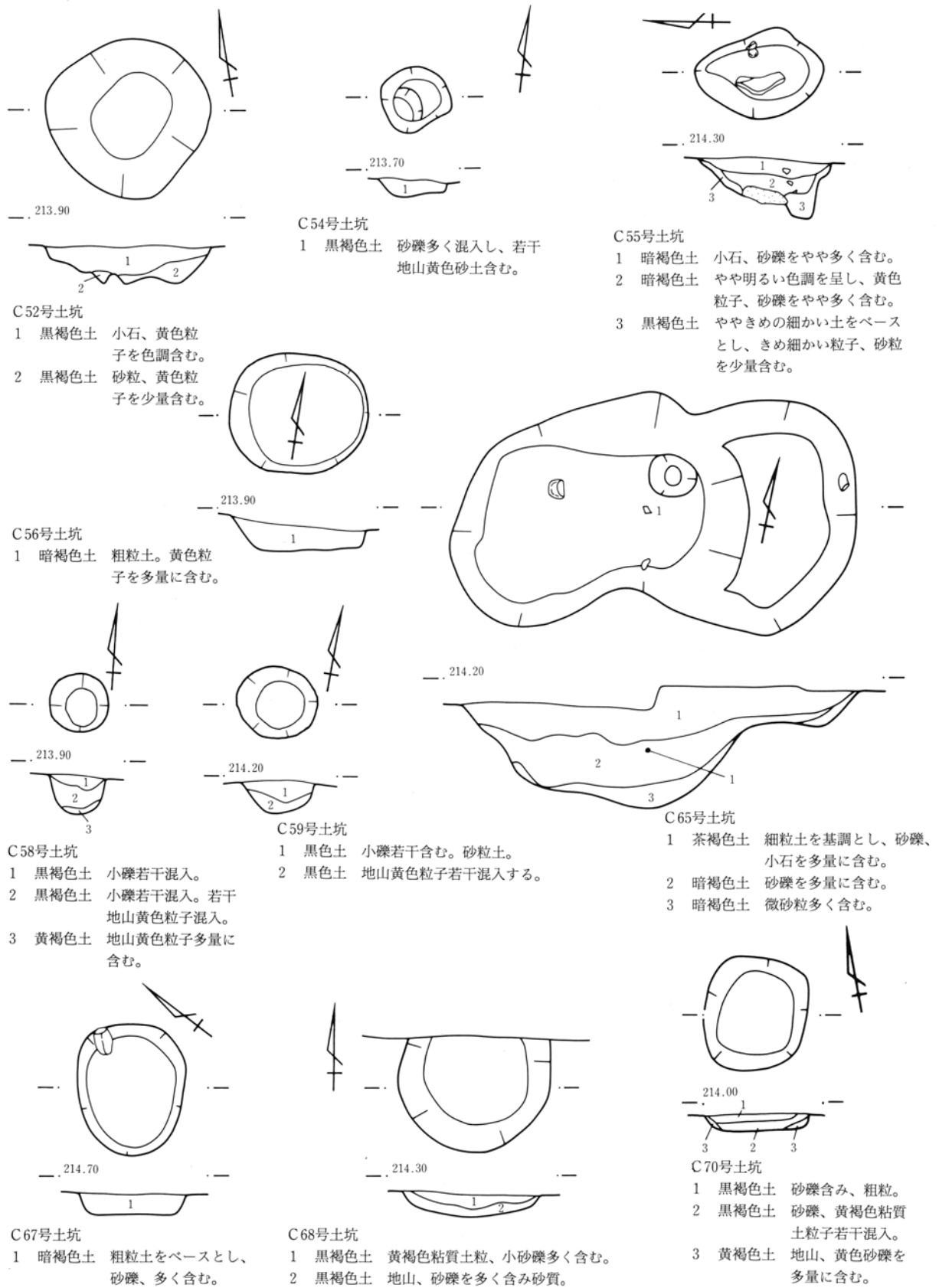
埋没土 礫を含む粗粒土。 出土遺物 なし。 調査所見 円形で小形の土坑である。平面図なし。

C 58号土坑 (第59図 PL. 70)

位置 Ci-37 形状 円形 規模 長径0.40m、短径0.35m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑。



0 1 m

第59図 土坑(6)

### 第3章 遺 構

#### C59号土坑（第59図 PL. 70）

位置 Ck—39 形状 円形 規模 長径0.40m、短径0.40m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 断面鍋底状を呈す。

#### C65号土坑（第59・383図 PL. 70・120）

位置 Cl—35 形状 不正長円形 規模 長径2.85m、短径1.60m、深さ0.85m

重複 C218号住居跡（弥生時代）の下に検出された。 埋没土 砂礫、地山ブロックの混入目立つ。

出土遺物 若干の土器片が出土している。

調査所見 形状は不定形で、掘り方は凹凸が著しい。時期は中期後半か。

#### C67号土坑（第59図 PL. 70）

位置 Cl—42 形状 長円形 規模 長径0.90m、短径0.75m、深さ0.15m

重複 東側をC242号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 土器の出土は見られなかった。

調査所見 浅い掘り込みで底は平らである。

#### C68号土坑（第59図 PL. 70）

位置 Cl—36 形状 円形 規模 長径1.05m、短径(0.80)m、深さ0.15m

重複 北側をC231号住居跡（弥生時代）に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 浅い掘り込みである。

#### C70号土坑（第59図 PL. 70）

位置 Ck—34 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.12m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 浅く、底は平らである。

#### C71号土坑（第60図 PL. 70）

位置 Cl—35 形状 円形 規模 長径0.75m、短径0.65m、深さ0.08m

重複 C217号住居跡（平安時代）の下に検出された。 埋没土 礫を多く含み、炭化物の混入が見られる。

出土遺物 礫が3点ほど検出されているが土器の出土は見られなかった。

調査所見 浅く、底の凹凸が著しい。縄文時代としたが、住居床下土坑の可能性もある。

#### C72号土坑（第60図 PL. 71）

位置 Ck—35 形状 円形 規模 長径0.45m、短径0.40m、深さ0.06m

重複 C217号住居跡（平安時代）の下に検出された。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 きわめて浅い掘り込みである。

C73号土坑（第60図 PL. 71）

位置 Ck—36 形状 長円形 規模 長径1.35m、短径0.80m、深さ0.12m

重複 C210号住居跡（平安時代）が南側に重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 なすび形を呈し浅い掘り込みである。

C74号土坑（第60図 PL. 71）

位置 Ck—37 形状 長円形 規模 長径0.70m、短径0.50m、深さ0.10m

重複 C260号住居跡（古墳時代）の下に検出された。 埋没土 小礫、若干の炭化物を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 浅い掘り込みである。

C76号土坑（第60図 PL. 71）

位置 Cm—41 形状 長円形 規模 長径0.65m、短径0.55m、深さ0.50m

重複 C240号住居跡（弥生時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 南側は大きく切られている。比較的掘り込みは深い。

C78号土坑（第60図 PL. 71）

位置 Ck—47 形状 長円形 規模 長径1.40m、短径0.95m、深さ0.40m

重複 C27号土坑と重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 長円形で、垂直に掘り込まれる。底は平らである。

C81号土坑（第60・383図 PL. 71・120・239）

位置 Ck—43 形状 円形 規模 長径1.00m、短径0.85m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 やや大形の礫を含む。 出土遺物 円礫に伴い、若干の土器片が出土している。

調査所見 円形で壁はほぼ垂直に掘り込まれている。礫および深鉢片がわずかに出土している。時期は中期後半である。

C82号土坑（第60図 PL. 72）

位置 Cl—44 形状 長円形 規模 長径(0.90)m、短径0.85m、深さ0.30m

重複 東側の一部をC243号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 礫が1点見られたのみである。

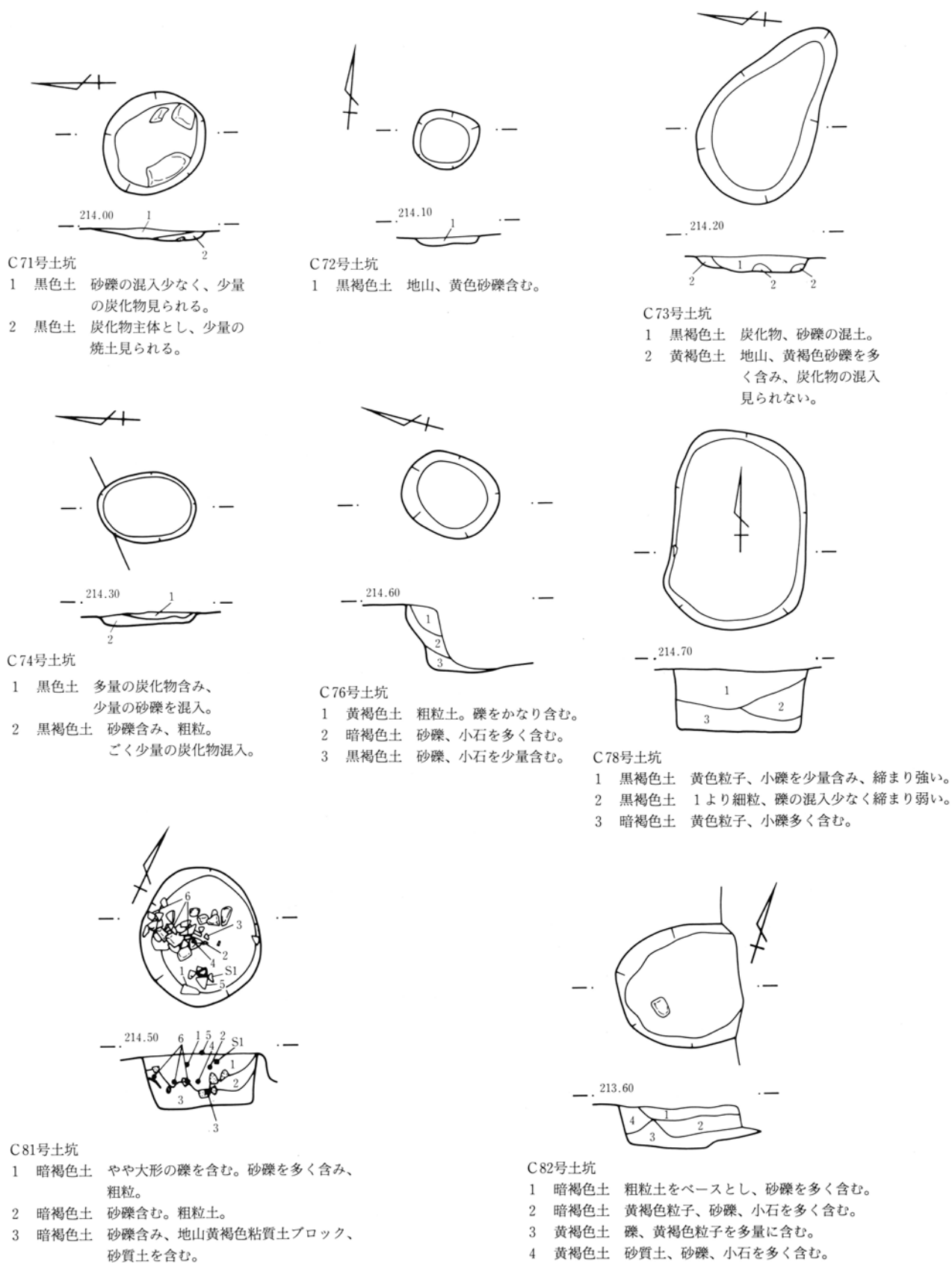
調査所見 掘り込みはほぼ垂直である。時期は不明。

C83号土坑（第61・383図 PL. 72・120）

位置 Cl—44 形状 長円形 規模 長径1.55m、短径1.20m、深さ0.70m

重複 C243号住居跡（古墳時代）に東側を切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 上層に深鉢の胴部片、下位には礫および土器片が出土している。

調査所見 西側に中段を持つ。時期は中期後半である。



0 1 m

第60図 土坑(7)

C84号土坑 (第61・383図 PL. 72・120)

位置 Cm-38 形状 円形 規模 長径0.55m、短径0.50m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 上層で土器が出土している。

調査所見 深鉢片が出土している。時期は中期前半である。

C85号土坑 (第61図 PL. 72)

位置 Cl-42 形状 円形? 規模 長径0.50m、短径(0.35)m、深さ0.10m

重複 C66号土坑と重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 遺存状態はきわめて悪く、掘り込みも浅い。

C86号土坑 (第61図 PL. 72)

位置 Ci-47 形状 円形 規模 長径0.90m、短径0.80m、深さ0.32m

重複 C132号住居跡(古墳時代)の下に検出された。 埋没土 礫を含み、上層に炭化物が混入する。

出土遺物 土器の出土はなかった。

調査所見 礫が数個検出されている。住居床下土坑の可能性はある。

C90号土坑 (第61図 PL. 73)

位置 Cr-39 形状 不正長円形 規模 長径1.10m、短径0.80m、深さ0.30m

重複 C274号住居跡(奈良時代)に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 C274号住居跡の貯蔵穴に一部切られる。時期は不明である。

C91号土坑 (第61・383図 PL. 73・121)

位置 Cl-44 形状 長円形 規模 長径0.60m、短径(0.55)m、深さ0.15m

重複 南側をC269号住居跡(古墳時代)に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 ほぼ半周する鉢の口縁部が出土している。

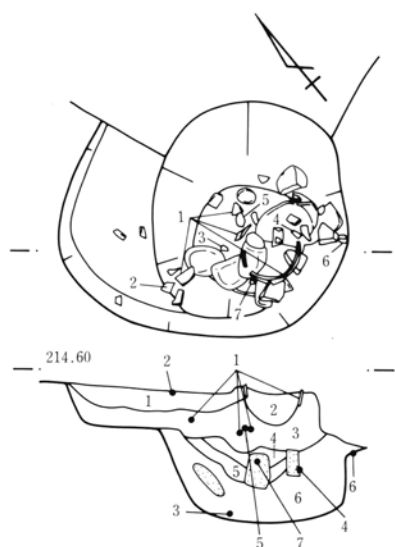
調査所見 小形の土坑で、上層で鉢が出土。時期は中期後半である。

C97号土坑 (第63・383・384図 PL. 73・121・239)

位置 Co-42 形状 円形 規模 長径3.20m、短径2.90m、深さ0.45m

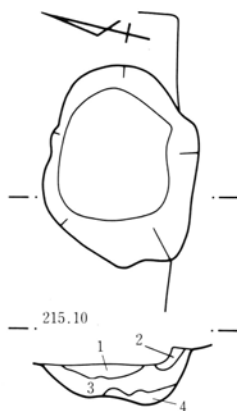
重複 北側をわずかにC305号住居跡(古墳時代)に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 礫に混じり土器片が出土している。石器はスクレイパー1点、打製石斧4点、石錐1点等が出土している。また、板状土偶が1点見られる。

調査所見 比較的大形の土坑である。壁はややなだらかな落ち込みを見せる。出土土器から、時期は中期前半と思われる。



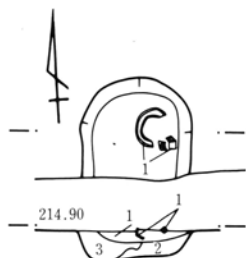
C83号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫混入し、粗粒。
- 2 黒褐色土 砂礫多量に含む。
- 3 黒褐色土 砂礫多量に含む少量の炭化物混入。
- 4 黒褐色土 砂礫多量に含む。砂礫やや大粒で粗粒。
- 5 黒褐色土 砂礫多量に含む。地山土、少量の炭化物含む。
- 6 黒褐色土 砂礫、黄褐色粘質土ブロック混入。



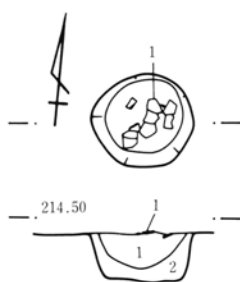
C90号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫多く、褐色土粒若干含む。
- 2 暗褐色土 砂礫点在。褐色土やや多い。
- 3 黒褐色土 砂礫、褐色、灰白色粒子多く、褐色土粒点在。
- 4 褐色土 砂礫若干、褐色土、黒褐色土やや多い。



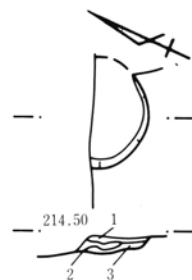
C91号土坑

- 1 黒褐色土 軟質。砂礫を含む。
- 2 黄褐色土 砂質、若干の小石を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。



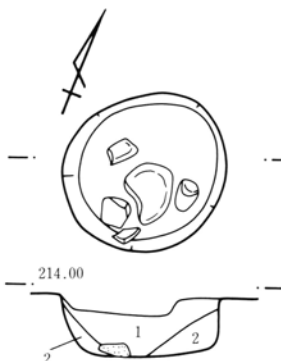
C84号土坑

- 1 暗褐色土 小礫、黄褐色粘質土ブロックの混土。
- 2 暗褐色土 地山黄色礫を多く含む、良く締る。



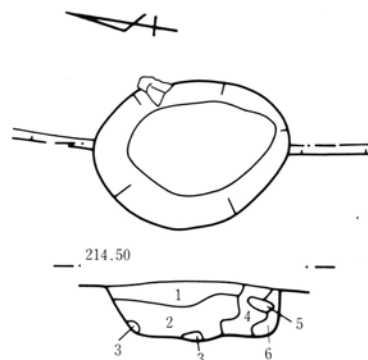
C85号土坑

- 1 黒褐色土 礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 礫を多く含む、地山黄色礫混入。
- 3 黄褐色土 地山黄色礫を主体とする。



C86号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物を多く、砂礫少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を含まず、地山ブロックを少量含む、締まりやや強い。



C98号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫多く含む。
- 3 黄褐色粘質土塊
- 4 黄褐色砂質土 砂質土。崩落土。
- 5 黒褐色土塊
- 6 暗褐色土 砂礫を少量含む。

0 1 m

第61図 土坑(8)

C98号土坑 (第61図 PL. 73)

位置 Cn-45 形状 長円形 規模 長径1.15m、短径0.75m、深さ0.30m

重複 東側をC317号住居跡(古墳時代)に切られる。 埋没土 砂礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物は見られず時期は不明である。

C100号土坑 (第62・384図 PL. 73・74・121・239・240)

位置 Cl-45 形状 長円形 規模 長径1.70m、短径1.20m、深さ0.65m

重複 C101号土坑と接する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 わずかに土器片が出土している他、石核、凹石、砥石等が見られた。

調査所見 配石土坑である。長円形を呈し、壁に沿って河原石が長方形に組まれる。石は長さ30～50cm、幅20cmでいずれも横置きにした状態で据えられている。掘り方面は凹凸が見られ、礫が出土している。時期は後期初頭か。

C101号土坑 (第62・384図 PL. 74・121・240)

位置 Cl-45 形状 円形 規模 長径1.10m、短径1.10m、深さ0.60m

重複 C100号土坑と接する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 若干の土器片が出土している。

調査所見 配石土坑と思われる。ほぼ円形を呈す。底面に礫が見られたが、組まれた状況は窺えなかった。出土土器から時期は後期初頭と思われる。

C102号土坑 (第63図 PL. 74)

位置 Cm-40 形状 長円形 規模 長径1.90m、短径1.10m、深さ0.50m

重複 北側をC241号住居跡(古墳時代)に、南側をC251号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 出土遺物は見られなかった。

調査所見 長円形を呈し底部は不定形に狭くなる。

C105号土坑 (第63図 PL. 74)

位置 Cp-36 形状 長円形 規模 長径1.30m、短径(0.40)m、深さ0.20m

重複 西側半分をC267号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 東側半分が確認されたのみである。時期は不明である。

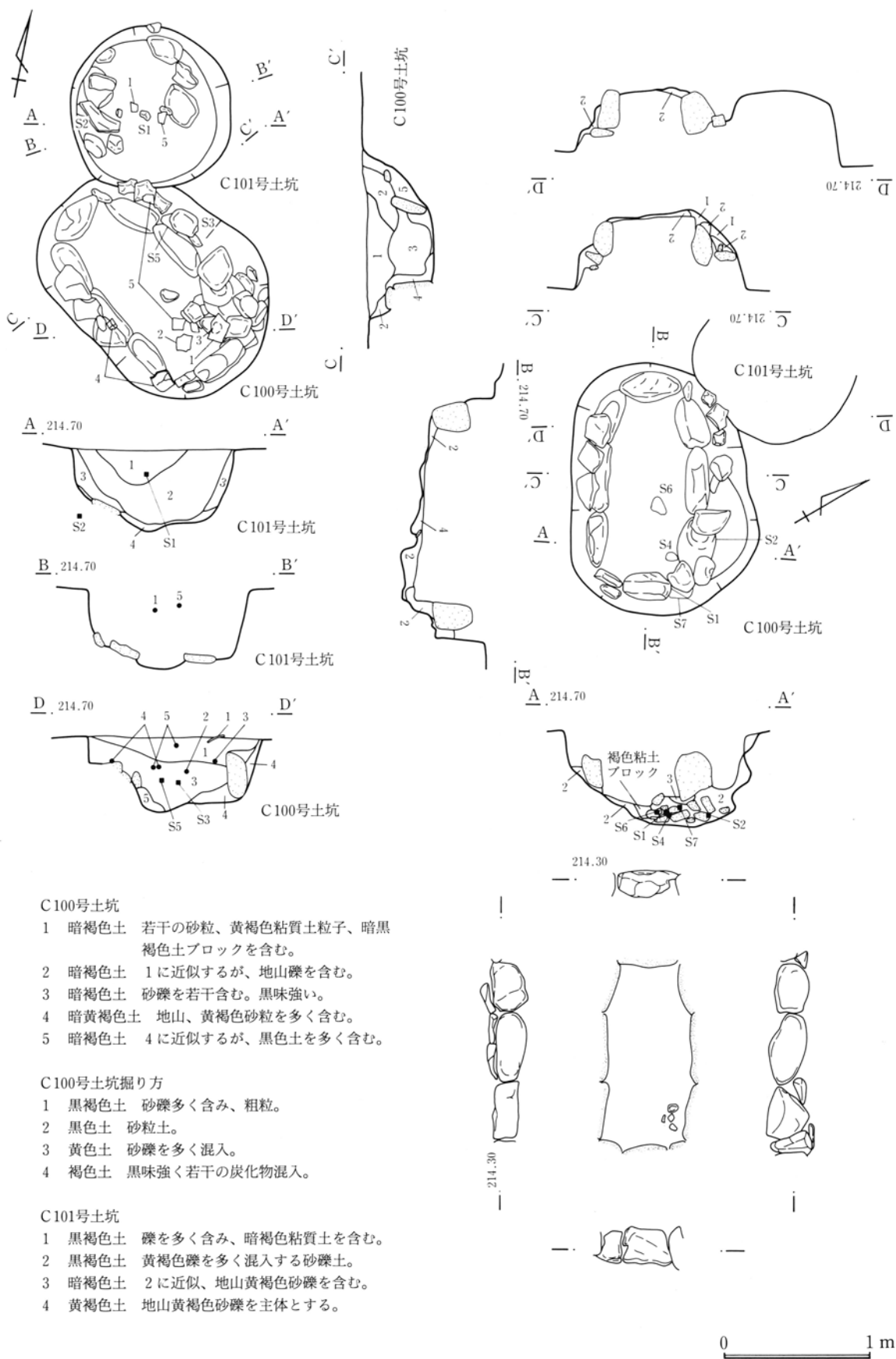
C107号土坑 (第64・385図 PL. 74・121)

位置 Cr-41 形状 円形 規模 長径1.10m、短径(0.70)m、深さ0.25m

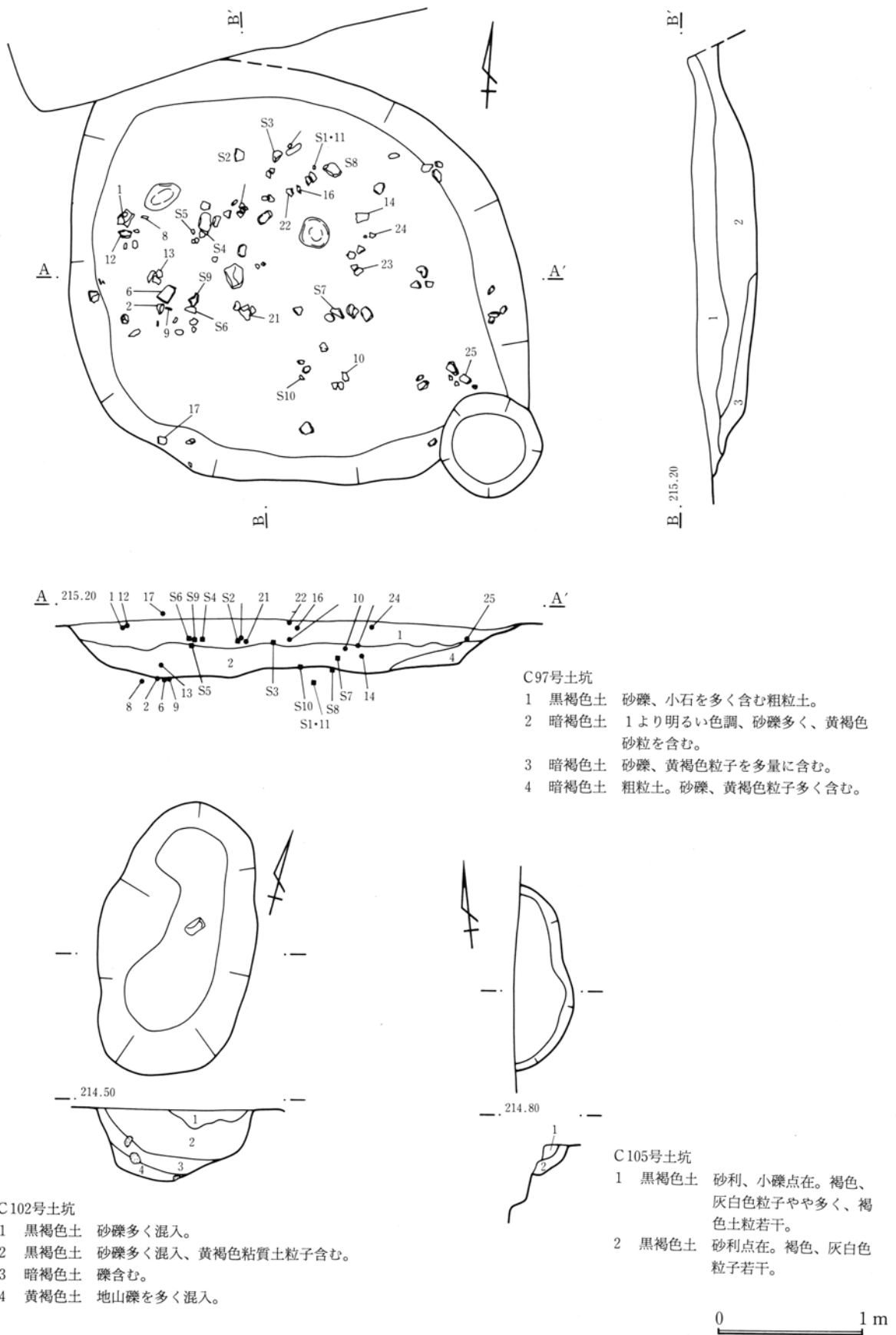
重複 南側をC303号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 やや大粒の礫を多く含む。

出土遺物 わずかに土器片が見られたのみである。

調査所見 半分は切られて失われている。時期は後期か。



第62図 土坑(9)



第63図 土坑(10)

### 第3章 遺 構

#### C108号土坑 (第64・385図 PL. 75・122・240)

位置 Cr-39 形状 円形 規模 長径0.75m、短径底1.00m、深さ0.50m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 器形復元可能な深鉢1が、底面近くで礫と伴に出土している。

調査所見 円形で断面フラスコ状を呈す。時期は中期前半である。

#### C109号土坑 (第64・385図 PL. 75・122)

位置 Co-38 形状 長円形 規模 長径0.95m、短径0.70m、深さ0.45m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 底面近くで土器片がわずかに出土している。

調査所見 垂直に掘り込まれ、底はほぼ平らである。時期は中期前半か。

#### C110号土坑 (第64図 PL. 75)

位置 Cq-37 形状 不定長円形 規模 長径(1.40)m、短径0.60m、深さ0.15m

重複 東側をC267号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 礫、地山土の混土。 出土遺物 なし。

調査所見 不定形であるが、底はかなり平坦である。時期は不明。

#### C112号土坑 (第64図 PL. 75)

位置 Cp-45 形状 長円形 規模 長径1.45m、短径1.15m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 底面は凹凸が顕著である。時期は不明。

#### C113号土坑 (第64図 PL. 75)

位置 Cn-48 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.80m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 断面鍋底状を呈す。時期は不明。

#### C114号土坑 (第64・385図 PL. 75・122・240)

位置 Co-44 形状 円形 規模 長径1.30m、短径1.25m、深さ0.45m

重複 南西部をわずかにC311号住居跡(平安時代)に切られる。 埋没土 礫を含む。

出土遺物 大小の礫が多く検出されているが、土器は1点見られたのみである。多孔石2点、石核2点が出土している。

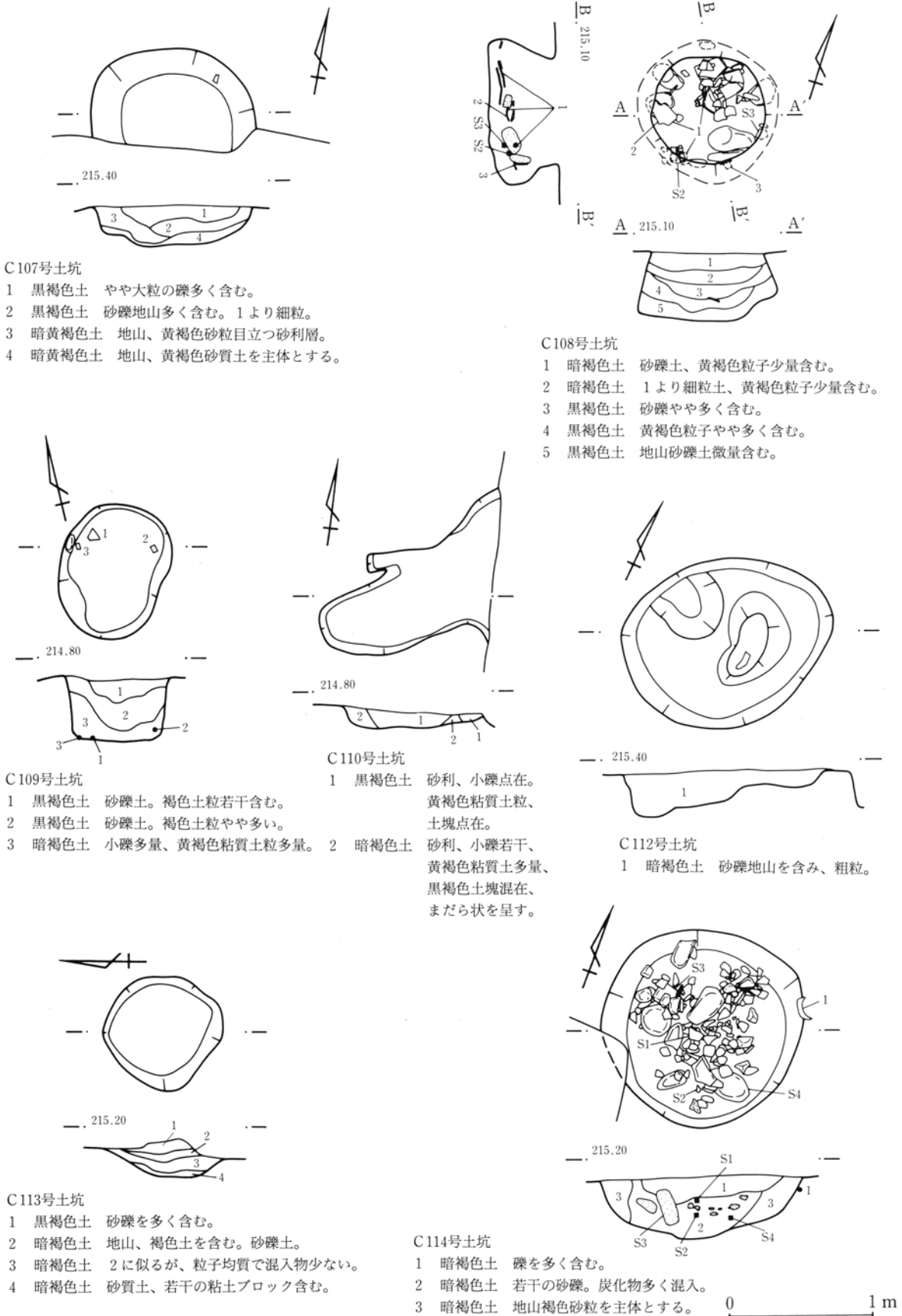
調査所見 断面鍋底状を呈す。検出された礫は、やや大形のものが周辺にあり、小さいものが中央部分に集まる状況が窺えた。時期は中期前半か。

#### C115号土坑 (第65・385図 PL. 76・122・240)

位置 Cq-40 形状 不定形 規模 長径2.20m、短径(0.90)m、深さ0.45m

重複 北側をC303号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 礫、地山土ブロックを含む。

出土遺物 やや浮いた状態で深鉢片が出土している。磨製石斧、凹石が出土している。



第64図 土坑(11)

**調査所見** 不定形で底面はやや凹凸が見られるものの、ほぼ平坦をなす。時期は中期後半である。

**C116号土坑** (第65・385図 PL. 76・122)

**位置** Cl-45 **形状** 長円形 **規模** 長径2.20m、短径(1.10)m、深さ0.18m

**重複** 西側をC324号住居跡(弥生時代)に切られる。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 土器片出土。

**調査所見** 時期は後期前半か。

**C117号土坑** (第65図 PL. 76)

**位置** Cp-38 **形状** 長円形 **規模** 長径1.90m、短径1.15m、深さ0.40m

**重複** なし。 **埋没土** 礫を多く含む。 **出土遺物** なし。

**調査所見** 長円形で掘り方面は凹凸が見られる。

**C118号土坑** (第65・385図 PL. 76・122)

**位置** Cr-40 **形状** 円形 **規模** 長径0.75m、短径底0.85m、深さ0.45m

**重複** なし。 **埋没土** 礫を多く含む。 **出土遺物** 若干の土器片が出土している。

**調査所見** 断面フラスコ状を呈す。出土遺物から時期は中期前半と思われる。

**C119号土坑** (第65・385・758図 PL. 76・122・240)

**位置** Cr-39 **形状** 不定円形 **規模** 長径1.50m、短径1.0m、深さ0.45m

**重複** 南側をC274号住居跡(奈良時代)に切られる。 **埋没土** 礫、および褐色粘土ブロックを含む。

**出土遺物** わずかの土器片と、石核1点および火を受けた獣骨片数点が出土している。

**調査所見** 不定形で2基の土坑が連結したような形状を呈す。掘り方面に凹凸が目立つ。時期は中期後半と思われる。

**C120号土坑** (第65図 PL. 76)

**位置** Cq-40 **形状** 円形 **規模** 長径1.0m、短径0.85m、深さ0.25m

**重複** 東端の一部をC287号住居跡(古墳時代)に切られる。 **埋没土** 礫を多く含む。 **出土遺物** ほとんど見られなかった。

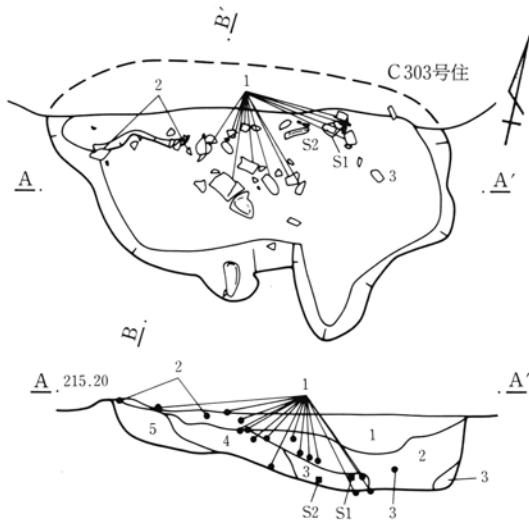
**調査所見** 断面鍋底状を呈す。時期は不明。

**C121号土坑** (第66・385図 PL. 76・122)

**位置** Cr-40 **形状** 長円形 **規模** 長径0.85m、短径0.55m、深さ0.20m

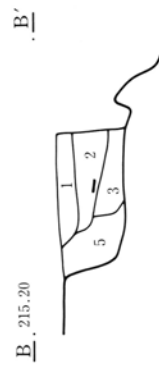
**重複** なし。 **埋没土** 砂礫土主体、やや大形の礫が検出されている。 **出土遺物** 土器片1点、磨石が1点出土している。

**調査所見** 径20～30cmの礫が数個やや浮いた状態で検出されている。時期は中期後半か。



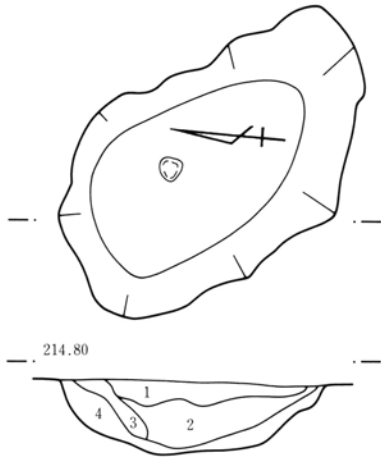
C115号土坑

- 1 黒褐色土 礫を多く混入。
- 2 黒褐色土 小礫を含むが量は少ない。
- 3 黒褐色土 地山、黄褐色粘質土を含む。
- 4 黒褐色土 地山、砂礫を多く混入。
- 5 黒褐色土 地山、砂礫を主体とし、粗粒。



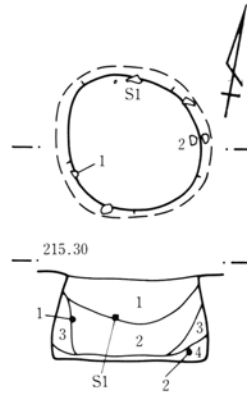
C116号土坑

- 1 暗褐色土 地山、砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 地山、砂礫を多く含む。黄色味を呈す。
- 3 明黄褐色土 地山、砂礫含む。



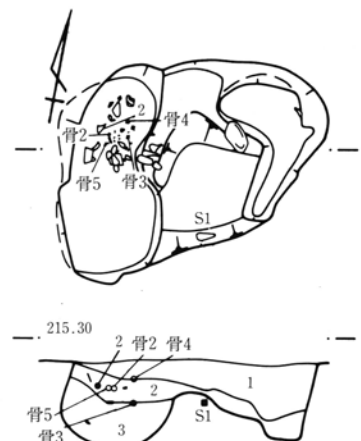
C117号土坑

- 1 暗褐色土 若干の砂礫含み、黄褐色粒子多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、黄褐色粒子を少量、炭化物、焼土若干含む。
- 3 暗黄褐色土 黄褐色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粒子をやや多く含む。



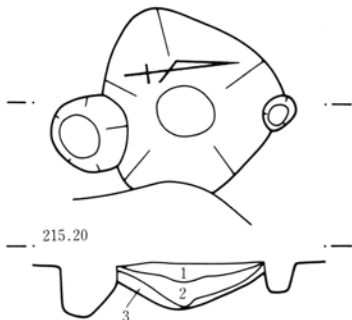
C118号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫含みが1より量は少ない。
- 3 暗褐色土 地山砂礫を混入。
- 4 暗褐色土 地山粘土ブロックを含む。



C119号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫、黄褐色粘質土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 1と似るが、礫の混入やや少ない。
- 3 暗褐色土 砂礫の混入少なく、黄褐色粘質土の混入多い。



C120号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫多量に含む。
- 2 暗褐色土 1と近似、砂礫やや細く黄色礫目立つ。
- 3 暗黄褐色土 地山、黄褐色粘質土多く含む。

0 1 m

第65図 土坑(12)

C123号土坑（第66・385図 PL. 77・122・241）

位置 Co-44 形状 不明 規模 長径2.35m、短径(0.50)m、深さ0.30m

重複 西側をC341号住居跡（平安時代）に、東側をC344号住居跡（弥生時代）に切られている。

埋没土 礫を多く含む粗粒土。 出土遺物 中央に扁平な礫が見られた他、若干の土器片と石鏃、打製石斧が出土している。

調査所見 前期後半。西と東を切られているために、検出できたのはベルト状に残った中央部分のみである。時期は前期後半である。

C124号土坑（第66・386図 PL. 77・122）

位置 Co-45 形状 円形 規模 長径0.95m、短径0.90m、深さ0.25m

重複 C129号土坑を切る。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 わずかに土器片が出土している。

調査所見 丸底状の底の部分が確認されている。壁部分は切られており、形状ははっきりつかめなかった。時期は前期後半と思われる。

C125号土坑（第66・386図 PL. 77・122）

位置 Cq-49 形状 不定形 規模 長径1.10m、短径0.90m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が1点のみである。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれる。時期は中期前半と思われる。

C126号土坑（第66・386図 PL. 77・122）

位置 Cr-46 形状 長円形 規模 長径(1.70)m、短径1.38m、深さ0.55m

重複 北側をC321号住居跡（平安時代）に切られる。 埋没土 砂礫を多く含む。 出土遺物 土器片1点のみである。

調査所見 やや大形である。壁の立ち上がりは緩やかで、底は凹凸が顕著である。時期は後期か。

C127号土坑（第66・386図 PL. 77・123・241）

位置 Cr-46 形状 長円形 規模 長径1.70m、短径1.30m、深さ0.85m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 わずかに土器片および打製石斧1点、石核1点が出土している。

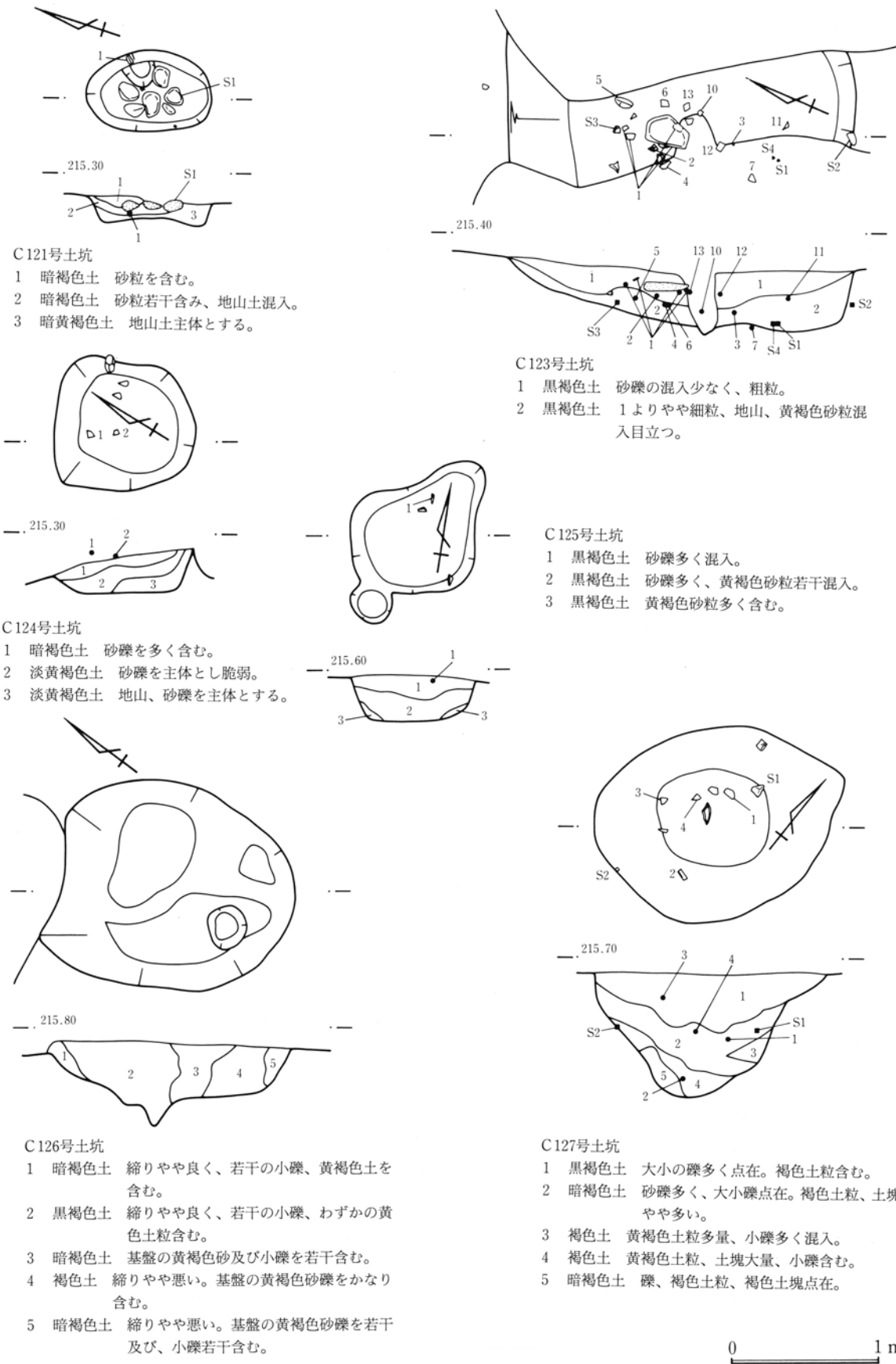
調査所見 壁は緩やかに立ち上がり、中央部分はかなり深く掘り込まれている。時期は前期後半である。

C128号土坑（第67図 PL. 77）

位置 Cr-47 形状 不正円形 規模 長径1.20m、短径0.80m、深さ0.55m

重複 C177号土坑と重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 不定形で、掘り方も凹凸が顕著である。



第66図 土坑(13)

C129号土坑 (第67・386図 PL. 123)

位置 Co-44 形状 長円形 規模 長径(1.10)m、短径(0.70)m、深さ0.25m

重複 南側をC344号住居跡(弥生時代)に切られ、C124号土坑が重複する。 埋没土 礫を多く含む。

出土遺物 土器片1点のみである。

調査所見 断面鍋底状を呈す。時期は前期後半か。

C130号土坑 (第67図 PL. 77)

位置 Ct-46 形状 円形 規模 長径1.10m、短径1.10m、深さ0.20m

重複 C337号住居跡(古墳時代)、DS107号住居跡(古墳時代)、DS111号住居跡(弥生時代)に上部壊されている。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 土器、石器類の出土はなく、礫が数点検出されている。

調査所見 円形を呈し、掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。時期は不明。

C131号土坑 (第67図 PL. 78)

位置 Ct-40 形状 円形 規模 長径0.90m、短径0.85m、深さ0.25m

重複 東側にC156号住居跡(奈良時代)が重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 円形でほぼ垂直に掘り込まれる。

C132号土坑 (第67図 PL. 78・241)

位置 Ct-46 形状 長円形 規模 長径1.30m、短径0.65m、深さ0.30m

重複 C337号住居跡(古墳時代)の北側床面下に検出された。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 自然の角礫が数点見られたのみである。

調査所見 長円形で、土器、石器の出土はなかった。

C133号土坑 (第67・386図 PL. 78・123)

位置 Cs-39 形状 円形 規模 長径0.60m、短径0.60m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 深鉢の口縁部片を含む土器片がわずかに出土している。

調査所見 円形でほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物から時期は後期前半と思われる。

C134号土坑 (第67図 PL. 78)

位置 Cs-39 形状 長円形 規模 長径1.00m、短径0.70m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

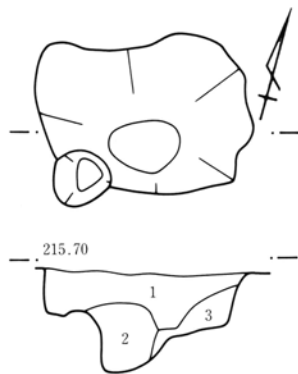
調査所見 長円形で底は平らである。時期は不明。

C135号土坑 (第67図 PL. 78)

位置 Cs-38 形状 円形 規模 長径0.70m、短径0.60m、深さ0.50m

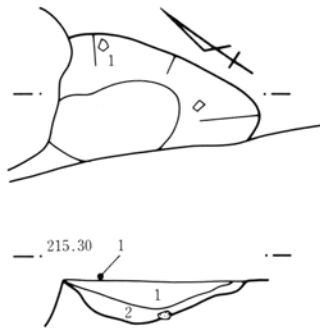
重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形で、底部は狭まる。



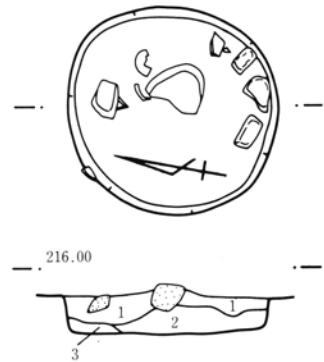
C128号土坑

- 1 暗褐色土 締り良く、若干の小礫、ブロック状の黄褐色土含み、不均質。
- 2 黄褐色土 締り良く、地山砂を多く含む部分と粘性持つ部分をモザイク状に含む。
- 3 黄褐色土 締り悪い。地山の砂をかなり含む。



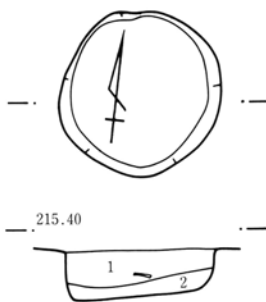
C129号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 地山の砂礫を主体とする。



C130号土坑

- 1 暗褐色土 固く良く締る。砂礫ごくわずかに含む。
- 2 黒褐色土 やや締り、粘性あり、砂礫わずかに含む。
- 3 暗黄褐色土 粘性あり、粒子細かく黄褐色粒子主体とし、褐色土粒子やや多く混入する。



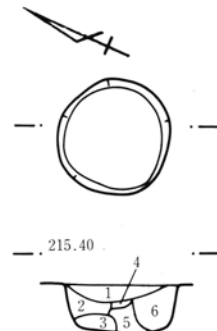
C131号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、黄褐色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色粘質土粒、黄褐色粘質土小ブロック含む。1より黄色味がかかる。



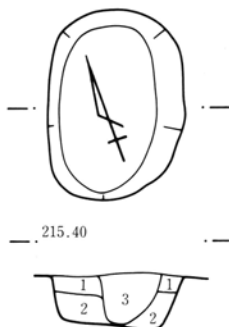
C132号土坑

- 1 褐色土 締りやや弱い。砂礫わずかに含む。
- 2 暗褐色土 土壌粒子細かい。砂礫ごくわずかに含む。



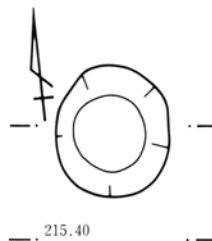
C133号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色粘質土粒、砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 砂礫多く含み、黄褐色粘質土粒若干含む。
- 4 暗褐色土 砂粒をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘質土と暗褐色土の混土。
- 6 暗褐色土 2に近似。



C134号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫を多く含み、ざらざらしている。黄褐色粘質土少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。黄褐色粘質土粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を多く含む。



C135号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色粘質土粒を少量含む。

0 1 m

第67図 土坑(14)

C136号土坑 (第68・386図 PL. 78・123)

位置 Ct—51 形状 円形 規模 長径1.00m、短径1.00m、深さ1.00m

重複 南西部分をわずかにC149号住居跡(弥生時代)に切られ、東側にC137号土坑が接する。

埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 礫と土器片がわずかに出土している。

調査所見 円形を呈し、南西部分が深く掘り込まれる。時期は中期前半か。

C137号土坑 (第68・386図 PL. 78・123)

位置 Ct—51 形状 円形 規模 長径1.00m、短径0.95m、深さ0.30m

重複 西側がC136号土坑と接する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 若干の土器片が出土している。

調査所見 円形で、断面鍋底状を呈す。時期は前期後半と思われる。

C140号土坑 (第68図 PL. 79)

位置 Cs—47 形状 方形 規模 長径2.00m、短径2.00m、深さ0.20m

重複 C1号竪穴状遺構と重複し、さらに中央を近世の耕作溝が横断している。 埋没土 礫を多く含む。

出土遺物 自然礫が若干出土している他、土器、石器類の出土はなかった。

調査所見 方形で掘り込みは浅く、底はほぼ平らである。時期ははっきりしない。

C143号土坑 (第68・386図 PL. 79・123)

位置 Cq—50 形状 不定円形 規模 長径3.20m、短径(2.00)m、深さ0.20m

重複 南側をC147号住居跡(奈良時代)に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器の小片が出土している。

調査所見 比較的大形で掘り込みはやや浅い。底は緩やかな起伏が見られる。時期は中期前半か。

C146号土坑 (第69・386図 PL. 79・123)

位置 Ct—50 形状 長円形 規模 長径1.10m、短径0.90m、深さ1.40m

重複 C146・148号土坑と接する。 埋没土 礫を含み、下層はかなり粘性を帯びた土で埋まる。

出土遺物 かなり上層において礫および土器片が出土している。

調査所見 かなり深く掘り込まれた土坑である。時期は前期後半である。

C147号土坑 (第69・387図 PL. 80・123)

位置 Ct—50 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.80m、深さ0.37m

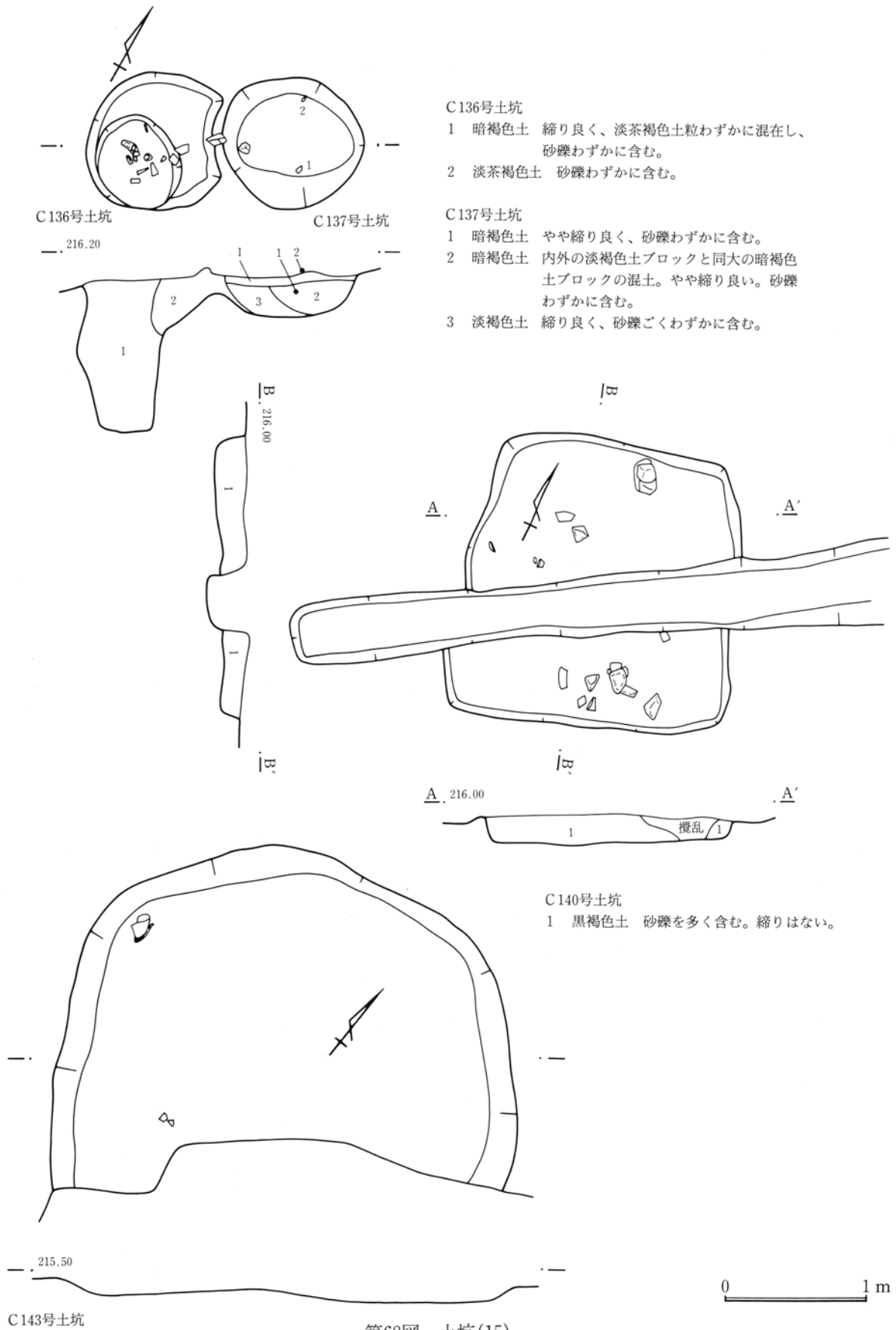
重複 C146・148号土坑と接する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器の小片が出土している。

調査所見 円形でほぼ垂直に掘り込まれる。時期は前期後半である。

C148号土坑 (第69・387図 PL. 80・123・124)

位置 Ct—50 形状 長円形 規模 長径1.82m、短径1.25m、深さ0.45m

重複 C146・147号土坑と接する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 上層で礫が出土し、比較的下層で若干の土器片が出土している。



第68図 土坑(15)

調査所見 底は起伏が見られる。時期は前期後半である。

C150号土坑 (第69図 PL. 80)

位置 Ct-50 形状 長円形 規模 長径0.80m、短径(0.20)m、深さ0.20m

重複 C147号土坑と重複する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 ほとんどC147号土坑に切られており全容、時期は不明である。

C153号土坑 (第69図 PL. 80)

位置 不明 形状 長円形 規模 長径1.20m、短径0.90m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 長円形で東側がやや深くなる。時期は不明。

C154号土坑 (第69図 PL. 80)

位置 Cs-47 形状 長円形 規模 長径0.80m、短径0.75m、深さ0.35m

重複 C160号土坑に南側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 遺物の出土は見られない。

調査所見 上層で礫が検出されている。平面形は長円形で底部は円形である。

C156号土坑 (第70図 PL. 81)

位置 Cr-50 形状 (長円形) 規模 長径(0.80)m、短径0.70m、深さ0.20m

重複 東側を耕作溝によって壊されている。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 底部に礫が検出されている。

調査所見 小形の土坑で底はほぼ平らである。礫が2点出土しているが、時期は不明である。

C157号土坑 (第70・387・388図 PL. 81・124・241)

位置 Ct-50 形状 円形 規模 長径2.30m、短径2.10m、深さ0.45m

重複 なし。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 土器片および打製石斧4点、スクレイパー1点、磨石、石核等が出土している。

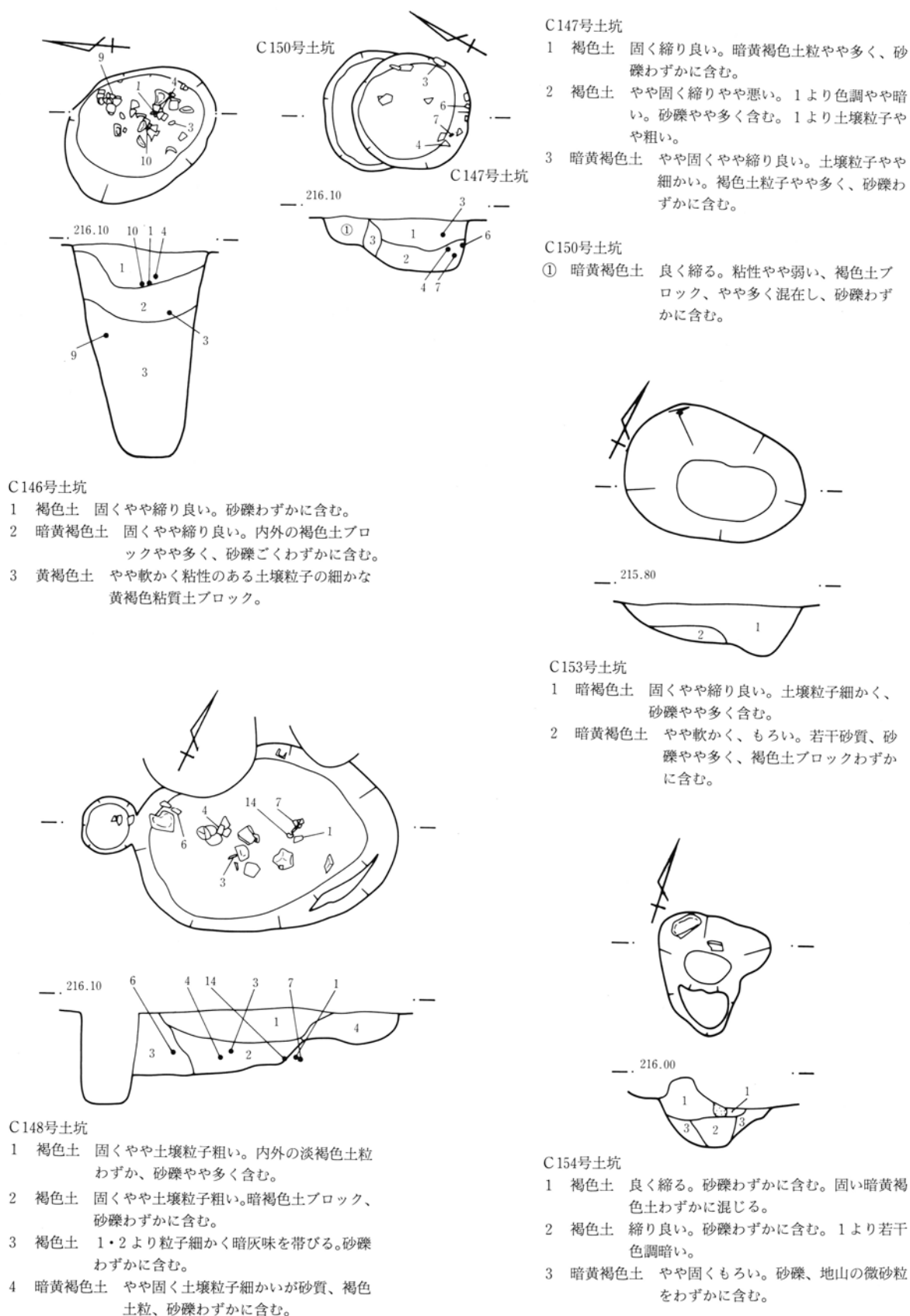
調査所見 比較的大形の土坑で底は平らである。出土遺物は礫に混じり土器片、石器類が出土している。時期は中期前半である。

C158号土坑 (第70・388図 PL. 81・124)

位置 Cs-48 形状 円形 規模 長径0.90m、短径(0.70)m、深さ0.25m

重複 C310号住居跡(古墳時代)に南側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 鉢がかなり上層で検出されている。

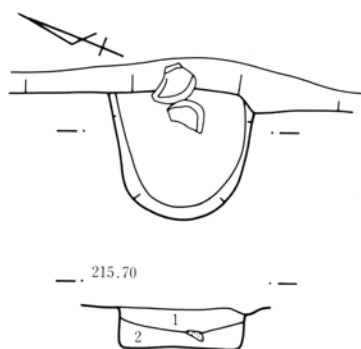
調査所見 上部を削平されているが、遺物が出土していることから、土坑と判断された。出土土器から時期は中期中葉と思われる。



0 1 m

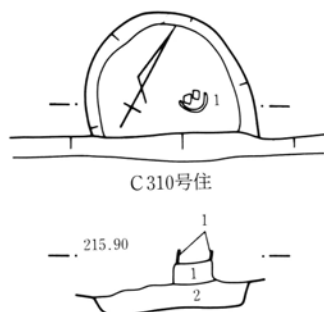
第69図 土坑(16)

### 第3章 遺 構



C156号土坑

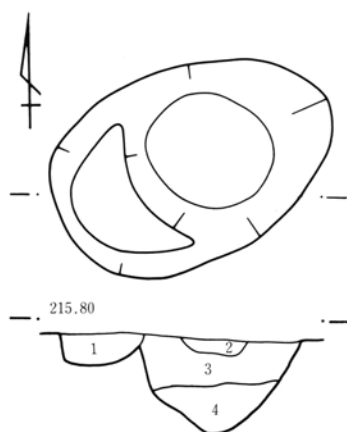
- 1 褐色土 締り良く、砂礫多く含む。
- 2 褐色土 締り良い。暗黄褐色土粒、砂礫若干含む。



C310号住

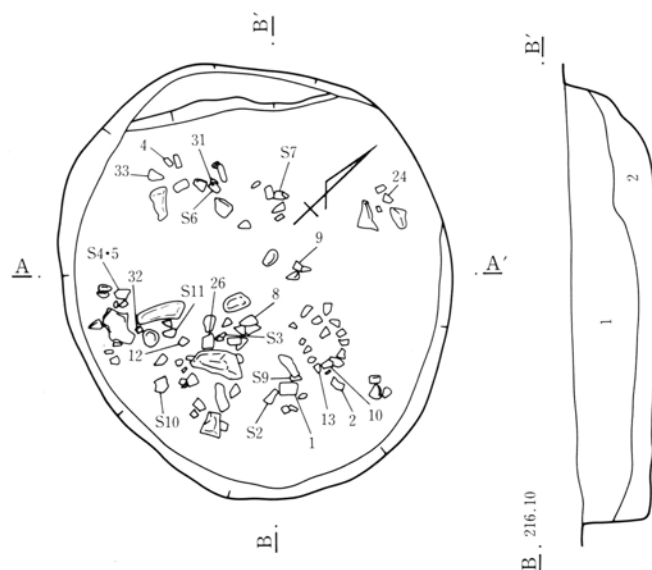
C158号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒を若干含む。
- 2 暗褐色土 1を基調とするが、より黄色味がかる。



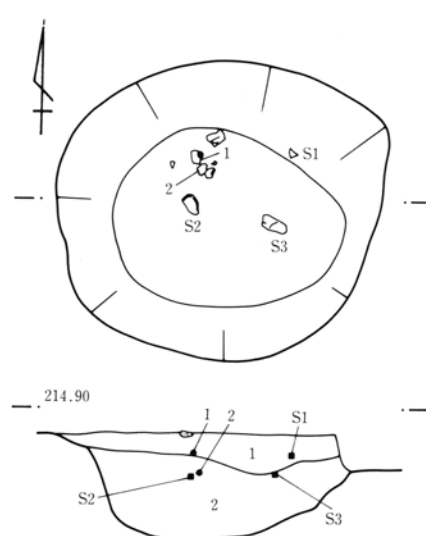
C159号土坑

- 1 黒色土 少量の砂礫を含む。
- 2 黒褐色土 少量の砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 4 暗褐色土 砂礫を3より多く含む。



C157号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫を全体に含む。
- 2 黄暗褐色土 砂礫及び黄褐色粘質土粒を全体に含む。



C160号土坑

- 1 黒褐色土 礫点在。褐色土粒多い。
- 2 黒褐色土 小礫多く点在。褐色土粒、暗褐色土塊点在。

0 1 m

第70図 土坑(17)

C159号土坑（第70図 PL. 81・241）

位置 Cs-46 形状 長円形 規模 長径1.50m、短径1.05m、深さ0.50m

重複 東側はC366号住居跡（弥生時代）に、西側はC185号土坑に接する。 埋没土 礫を多く含む。

出土遺物 土器の出土は見られなかったが、欠損した磨製石斧が1点出土している。

調査所見 長円形であるが、西側に中段を持つ、重複の可能性もある。時期は不明。

C160号土坑（第70・388図 PL. 81・124・241）

位置 Cs-47 形状 円形 規模 長径1.80m、短径1.60m、深さ0.55m

重複 C154号土坑を切る。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 若干の土器片、二次加工の見られる剥片が出土している。

調査所見 やや大形で底は丸く鍋底状を呈す。時期は中期後半と思われる。

C162号土坑（第71・388図 PL. 82・124）

位置 Cr-49 形状 長円形 規模 長径1.60m、短径1.30m、深さ0.30m

重複 東側をC310号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が若干出土している。

調査所見 長円形で底は比較的平らである。時期は前期後半である。

C164号土坑（第71図 PL. 82）

位置 Cp-47 形状 長円形 規模 長径1.25m、短径0.95m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器、石器の出土は見られなかった。

調査所見 底は平らである。時期は不明。

C165号土坑（第71図 PL. 82）

位置 Cp-44 形状 円形 規模 長径0.70m、短径(0.45)m、深さ0.30m

重複 南をC344号住居跡（弥生時代）に切られ、C328号住居跡（平安時代）の南東隅が掛かる。

埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

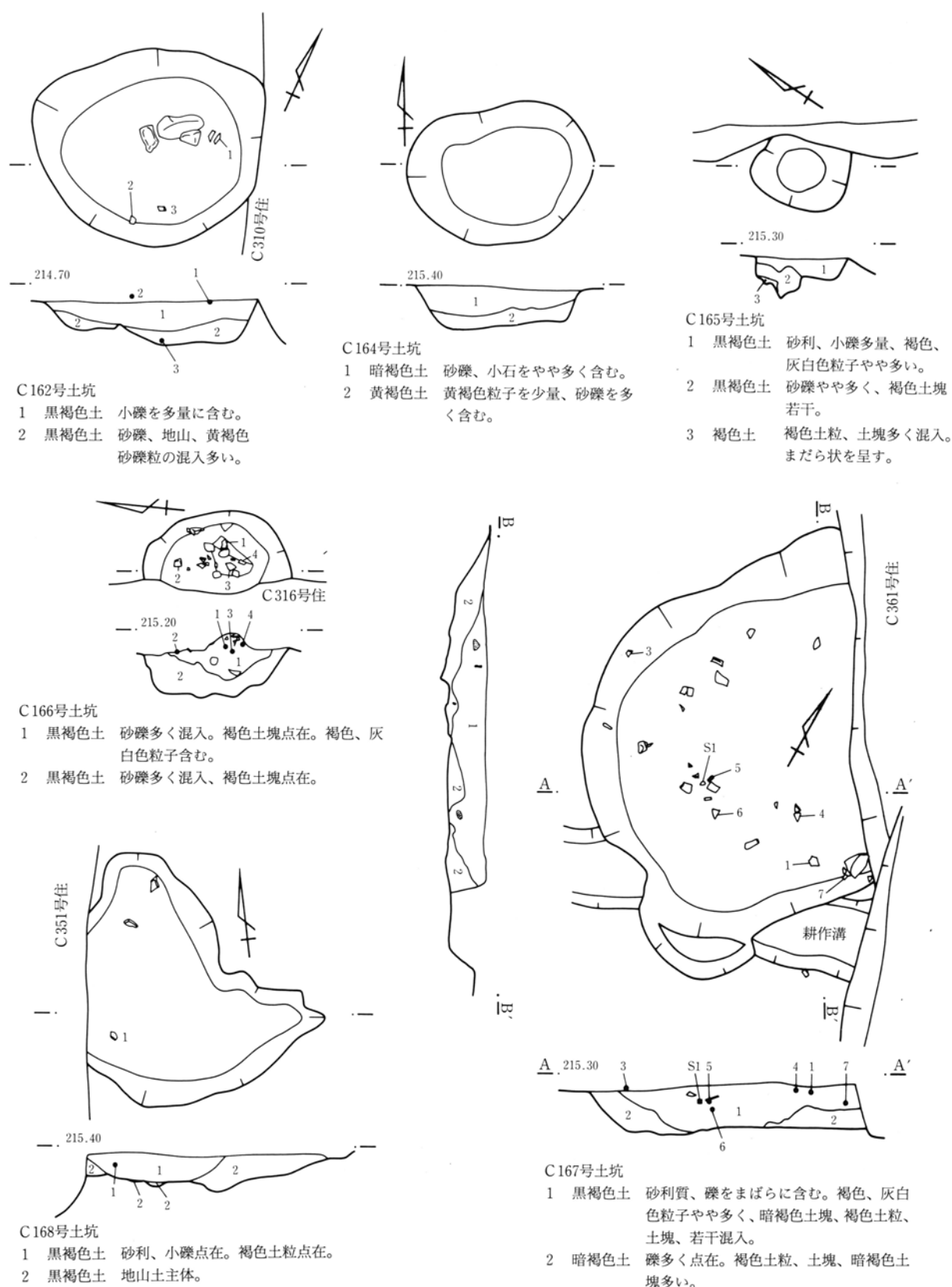
調査所見 小形で掘り方は凹凸が著しい。時期は不明である。

C166号土坑（第71・388図 PL. 82・124）

位置 Cp-43 形状 長円形 規模 長径1.00m、短径(0.55)m、深さ0.40m

重複 西側半分をC316号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 土器の出土はほとんど見られなかったが、やや浮いた状態で礫片が検出されている。

調査所見 小形の土坑で、遺存状態はあまり良くない。時期は後期か。



第71図 土坑(18)

C167号土坑（第71・388図 PL. 82・124・241）

位置 Cp-43 形状 不定円形 規模 長径3.00m、短径(2.20)m、深さ0.30m

重複 東側をC361号住居跡(弥生時代)に切られ、南側に耕作溝が走る。 埋没土 礫を多く含む。

出土遺物 土器片が出土している。

調査所見 かなり大形の土坑である。底面は凹凸が著しい。時期は中期前半。

C168号土坑（第71・388図 PL. 82・125）

位置 Cq-47 形状 不定形 規模 長径1.70m、短径(1.60)m、深さ0.25m

重複 C351号住居跡(古墳時代)に西側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が1片出土している。

調査所見 形状は不定形で掘り方面も凹凸が著しい。時期は後期か。

C169号土坑（第72・388図 PL. 82・125・241）

位置 Cq-47 形状 円形 規模 長径1.20m、短径1.15m、深さ0.70m

重複 西側をC354号住居跡(弥生時代)に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片がわずかに出土している。

調査所見 断面は鍋底状を呈す。時期は中期前半と思われる。

C170号土坑（第72・389図 PL. 83・125）

位置 Ct-50 形状 長円形 規模 長径1.20m、短径1.00m、深さ0.80m

重複 なし。 埋没土 礫、粘土ブロックを含む。 出土遺物 土器片がわずかに出土している。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底は平らである。時期は前期後半と思われる。

C171号土坑（第72・389図 PL. 83・125・242）

位置 Ct-50 形状 円形 規模 長径1.00m、短径1.00m、深さ0.60m

重複 東側をC148号土坑に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器がわずかに出土している他、スクレイパーが1点出土している。

調査所見 ほぼ垂直に掘り込まれている。時期は中期前半か。

C172号土坑（第72図 PL. 83）

位置 Ct-49 形状 円形 規模 長径1.00m、短径1.00m、深さ0.45m

重複 南側はC180号土坑と重複している。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 上層で礫が出土しているが、土器等の出土は見られなかった。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれている。時期は不明である。

C173号土坑（第72図 PL. 83）

位置 Ct-44 形状 長円形 規模 長径1.15m、短径0.95m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 上層で礫が出土している。

### 第3章 遺 構



第72図 土坑(19)

**調査所見** 周囲が削平されており、礫はかなり浮いた状態で検出されている。

**C175号土坑（第72・389図 PL. 83・125・242）**

**位置** Cn-47 **形状** 長円形 **規模** 長径1.70m、短径(1.00)m、深さ0.35m

**重複** 東側をC364号住居跡(弥生時代)に切られる。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 土器の破片および敲石が1点出土している。

**調査所見** 壁は緩やかに立ち上がる。時期は後期である。

**C176号土坑（第72図 PL. 83）**

**位置** Cq-49 **形状** 長円形 **規模** 長径1.50m、短径(0.85)m、深さ0.20m

**重複** 西側にC153号住居跡(平安時代)が、C327号住居跡(平安時代)の煙道部分が掛かる。また北側はC362号住居跡(縄文時代)と重複する。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 出土遺物は見られなかった。

**調査所見** 底は平らで壁は緩やかに立ち上がる。時期は不明である。

**C177号土坑（第72・389図 PL. 83・125・242）**

**位置** Cr-47 **形状** 円形 **規模** 長径0.95m、短径0.85m、深さ0.40m

**重複** C128号土坑と重複する。 **埋没土** 砂礫を含む。 **出土遺物** 土器片はわずかに見られたのみである。石器は磨石が1点出土している。

**調査所見** ほぼ垂直に掘り込まれ、底は平らである。時期は前期後半である。

**C178号土坑（第73・389図 PL. 83・125）**

**位置** Cs-45 **形状** 円形 **規模** 長径0.70m、短径0.70m、深さ0.40m

**重複** C336号住居跡(弥生時代)に東側を切られる。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 底部の締まる深鉢と若干の破片が出土している。

**調査所見** 小形の土坑である。土器1は横倒しの状態で出土している。時期は前期後半である。

**C179号土坑（第73図 PL. 84）**

**位置** Ct-49 **形状** 長円形 **規模** 長径1.15m、短径0.80m、深さ0.30m

**重複** C338・339号住居跡(弥生時代)の北側床下に位置する。 **埋没土** 礫、地山土ブロックの混土。 **出土遺物** 土器、石器の出土はなかった。

**調査所見** 北側壁寄り、やや扁平な礫が横置き状態で検出されている。

**C180号土坑（第73図 PL. 84・242）**

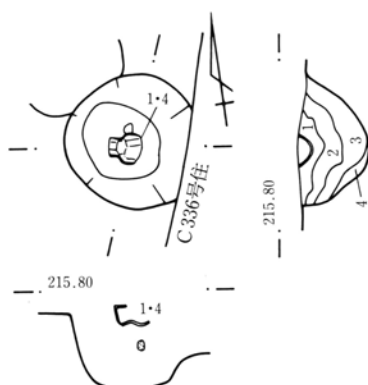
**位置** Ct-49 **形状** 長円形 **規模** 長径1.30m、短径1.00m、深さ0.60m

**重複** 西側はC338号住居跡、C339号住居跡(弥生時代)に切られ、北側はC172号土坑に切られる。

**埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 土器の出土は見られなかったが、凹石が1点出土している。

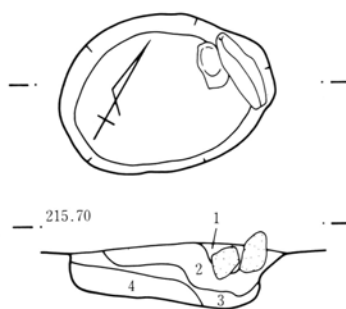
**調査所見** 壁の掘り込みはほぼ垂直で、底も平らである。時期は不明。

### 第3章 遺 構



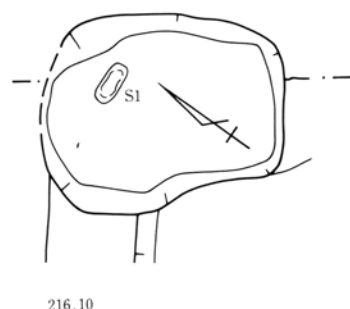
C178号土坑

- 1 黒褐色土 ややきめの粗い土をベースとし、砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 きめの細かい土をベースとし、砂礫を少量含む。
- 4 暗褐色土 粗粒土、砂礫を多く、黄褐色粒子若干含む。



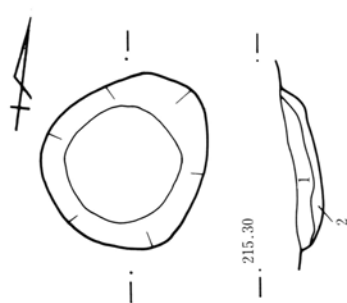
C179号土坑

- 1 褐色土 締り良い。砂礫わずかに含む。
- 2 黄褐色土 固く、大変締り良い。粘質の黄褐色土を主体とする。砂礫をわずかに含む。
- 3 褐色土 固くやや締り良い。砂礫やや多く含む。
- 4 淡褐色土 締り良い。砂質である淡褐色土壌中に、粘質の黄褐色土ブロック、砂礫若干含む。



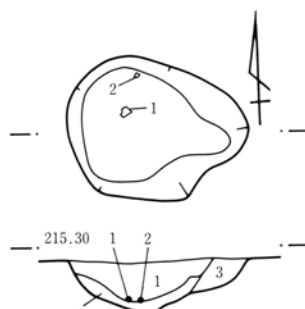
C180号土坑

- 1 褐色土 やや締り、砂礫わずかに含む。
- 2 褐色土 砂礫多く含み脆弱。
- 3 暗黄褐色土 砂質土。砂礫、黄褐色土ブロック若干含む。



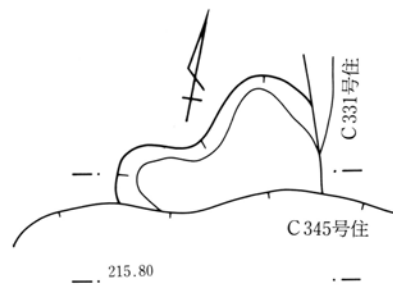
C181号土坑

- 1 褐色土 砂礫多く含み、砂質で締りやや悪い。炭化物粒子わずかに含む。
- 2 淡褐色土 締り良く黄褐色土粘質土ブロック、わずかに含む。



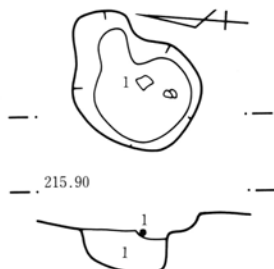
C182号土坑

- 1 暗黒褐色土 砂礫質、褐色粒子多く、褐色土塊点在。
- 2 暗褐色土 砂礫多く、黒褐色土まだら状を呈す。
- 3 暗褐色土 砂礫、褐色土多量、黒褐色土若干混在。



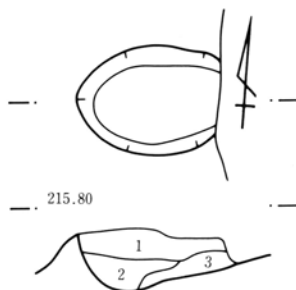
C184号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫多量、褐色土粒、土塊やや多量。
- 2 暗褐色土 砂礫多量、暗褐色土と黒褐色土とが混在。



C186号土坑

- 1 褐色土 締り良い。暗褐色土ブロック、砂礫多く含む。



C187号土坑

- 1 褐色土 締り良く、砂礫やや多く含む。
- 2 褐色土 やや固く締まり、1より粒子細かい。
- 3 淡茶褐色土 締り弱く細粒、礫わずかに含む。

0 1 m

第73図 土坑(20)

C181号土坑（第73・389図 PL. 84・125）

位置 Ct-46 形状 円形 規模 長径0.90m、短径0.90m、深さ0.15m

重複 C337号住居跡（古墳時代）の下に検出された。 埋没土 礫、若干の炭化物粒子含む。

出土遺物 わずかに土器片が出土している。

調査所見 時期は中期前半か。

C182号土坑（第73・389図 PL. 84・125）

位置 Cp-48 形状 長円形 規模 長径0.95m、短径0.75m、深さ0.25m

重複 ピット7と接する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 わずかに土器片が出土している。

調査所見 出土土器から時期は中期後半と思われる。

C184号土坑（第73図 PL. 84）

位置 Cr-46 形状 不定形 規模 長径1.15m、短径(0.60)m、深さ0.30m

重複 南側をC345号住居跡（弥生時代）に、東側をC331号住居跡（古墳時代）に切られる。

埋没土 砂礫多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 大きく切られており、全容は不明である。底面は凹凸が見られる。出土遺物はなく時期は不明。

C186号土坑（第73・389図 PL. 84・125）

位置 Ct-48 形状 不定円形 規模 長径0.80m、短径0.60m、深さ0.30m

重複 C363号住居跡（縄文時代）の床下に位置する。 埋没土 礫を含む。

出土遺物 若干の土器片が出土している。

調査所見 形状、掘り込みとも明確でない。周辺部分はかなり荒れた状態である。時期は中期前半である。

C187号土坑（第73図 PL. 84）

位置 Cs-48 形状 長円形 規模 長径(0.80)m、短径0.60m、深さ0.30m

重複 C368号住居跡（縄文時代）の張り出し部分に接する。 埋没土 礫を多く含む。

出土遺物 遺物は見られない。

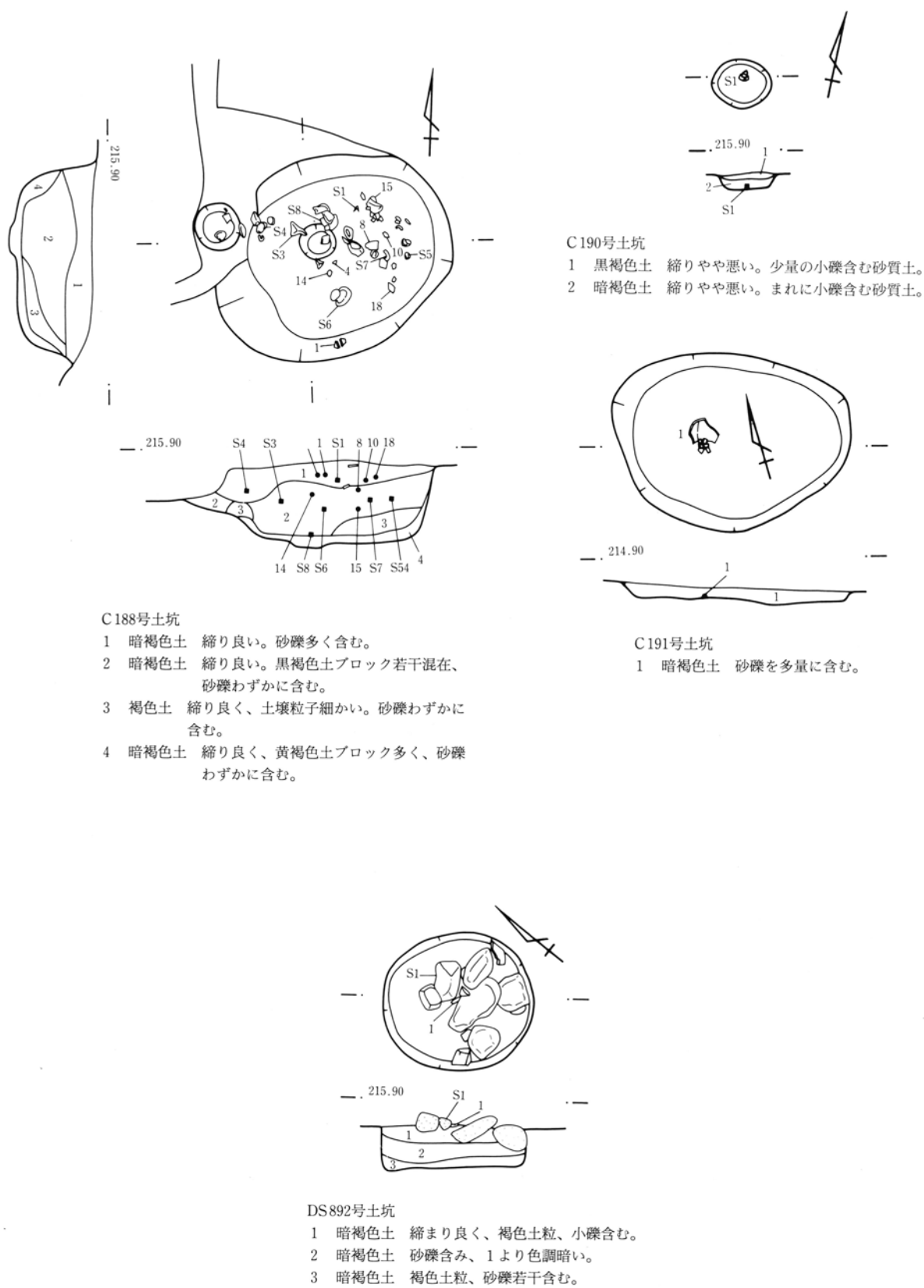
調査所見 時期は不明である。

C188号土坑（第74・389図 PL. 85・125・242）

位置 Cs-48 形状 円形 規模 長径1.70m、短径1.50m、深さ0.60m

重複 C310号住居跡（古墳時代）の北東隅に接する。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 やや浮いた状態であるが、土器片が20点ほど出土している。また石器は、石鏃2点、敲石1点、磨石2点、砥石1点が見られた。

調査所見 西側は削られており壁は明確ではないが、遺存状態はかなり良い。時期は前期後半である。



第74図 土坑(21)

C189号土坑（第389図 PL. 125）

位置 Cs—48 形状 不明 規模 長径不明、短径不明、深さ不明

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片。

調査所見 調査時図面を作成できなかったために平面図を掲載できなかった。時期は後期か。

C190号土坑（第74図 PL. 85・242）

位置 Cq—50 形状 円形 規模 長径0.40m、短径0.32m、深さ0.10m

重複 なし。 埋没土 少量の小礫混入。 出土遺物 土器の出土はなかったが覆土中位より、石剣の頭部片が出土している。

調査所見 時期は後期と思われる。

C191号土坑（第74・389図 PL. 85・125）

位置 Cm—49 形状 長円形 規模 長径1.60m、短径1.20m、深さ0.10m

重複 C148号住居跡（弥生時代）の下に検出。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 深鉢が1点出土している。

調査所見 上部は削られており、土坑の下位部分が残ったものと思われる。時期は後期初頭と考えられる。

DS892号土坑（第74・390図 PL. 85・126・242）

位置 Da—43 形状 円形 規模 長径1.00m、短径1.00m、深さ0.40m

重複 DS100号住居跡（古墳時代）の下に検出した。 埋没土 上層に大形の礫が検出され、覆土には礫、地山土ブロックを混入する。 出土遺物 わずかな土器片が出土している。

調査所見 円形の土坑で、やや大形の礫が入り込んでいる。時期は後期と思われる。

DS893号土坑（第75・390図 PL. 85・126・242）

位置 Da—43 形状 長方形 規模 長径(3.78)m、短径1.24m、深さ0.15m

重複 東側をDS100号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片がわずかに見られた他、打製石斧が2点出土している。

調査所見 大形の長方形を呈す、掘り込みは浅く底はほぼ平らである。出土土器は縄文時代中期のものであるが、土の状況、形状などから新しくなる可能性もある。

DS894号土坑（第75・390図 PL. 85・86・126・242）

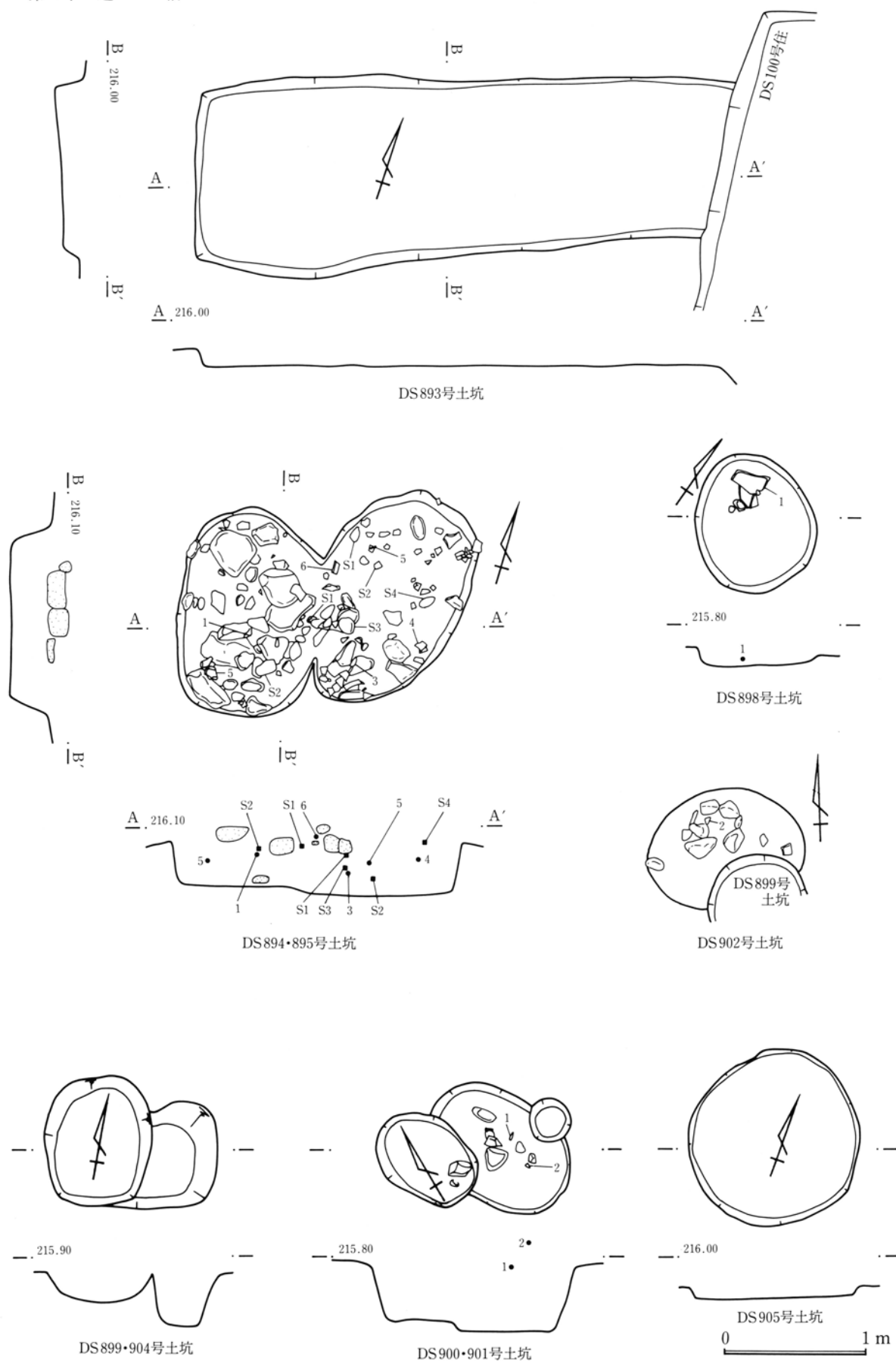
位置 Da—46 形状 長円形 規模 長径1.45m、短径1.00m、深さ0.30m

重複 DS107号住居跡（古墳時代）の下に検出。東側にDS895号土坑が重複する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 上層に大きさ20～30cmの礫が検出されている他、若干の土器片が見られる。

調査所見 検出された礫はやや扁平な丸みを持ったものと、角礫が見られる。時期は中期後半から後期初頭。

DS895号土坑（第75・390図 PL. 86・126・242・243）

位置 Da—46 形状 長円形 規模 長径1.46m、短径1.10m、深さ0.35m



第75図 土坑(22)

**重複** DS107号住居跡（古墳時代）の下に検出された。DS894号土坑とわずかに重複する。 **埋没土** 礫および砂礫混入。 **出土遺物** 10cm前後の礫が多く見られ、若干の土器片、打製石斧が出土している。  
**調査所見** 規模、形状が DS894号土坑と近似している。時期は中期中葉と思われる。

DS896号土坑（PL. 86）

**位置** Da-48 **形状** 長方形 **規模** 長径(1.8)m、短径(0.60)m、深さ0.20m

**重複** 東側を DS104号住居跡（古墳時代）に、北側は溝によって切られる。 **埋没土** 礫および砂礫混入。  
**出土遺物** なし。

**調査所見** 長方形を呈すものと思われるが、北側および東側を切られており全容、時期は不明である。

DS898号土坑（第75・390図 PL. 86・126）

**位置** Db-41 **形状** 円形 **規模** 長径0.93m、短径0.88m、深さ0.15m

**重複** なし。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 甕の口縁部片が出土している。

**調査所見** 掘り込みは浅く、底はやや凹凸が見られる。縄文時代で扱ったが、出土土器は弥生時代中期に比定されるものである。

DS899号土坑（第75図 PL. 86）

**位置** Da-42 **形状** 長円形 **規模** 長径0.91m、短径0.72m、深さ0.24m

**重複** DS904号土坑と重複する。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 土器、石器の出土はなかった。

**調査所見** 時期は不明。

DS900号土坑（第75図 PL. 86）

**位置** Db-43 **形状** 長円形 **規模** 長径0.75m、短径0.63m、深さ0.44m

**重複** 東側に DS901号土坑が重複する。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** なし。

**調査所見** ほぼ垂直に掘り込まれる。

DS901号土坑（第75・390図 PL. 86・126）

**位置** Db-43 **形状** 長円形 **規模** 長径1.10m、短径0.79m、深さ0.50m

**重複** DS900号土坑と重複する。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** 土器片がわずかに出土している。

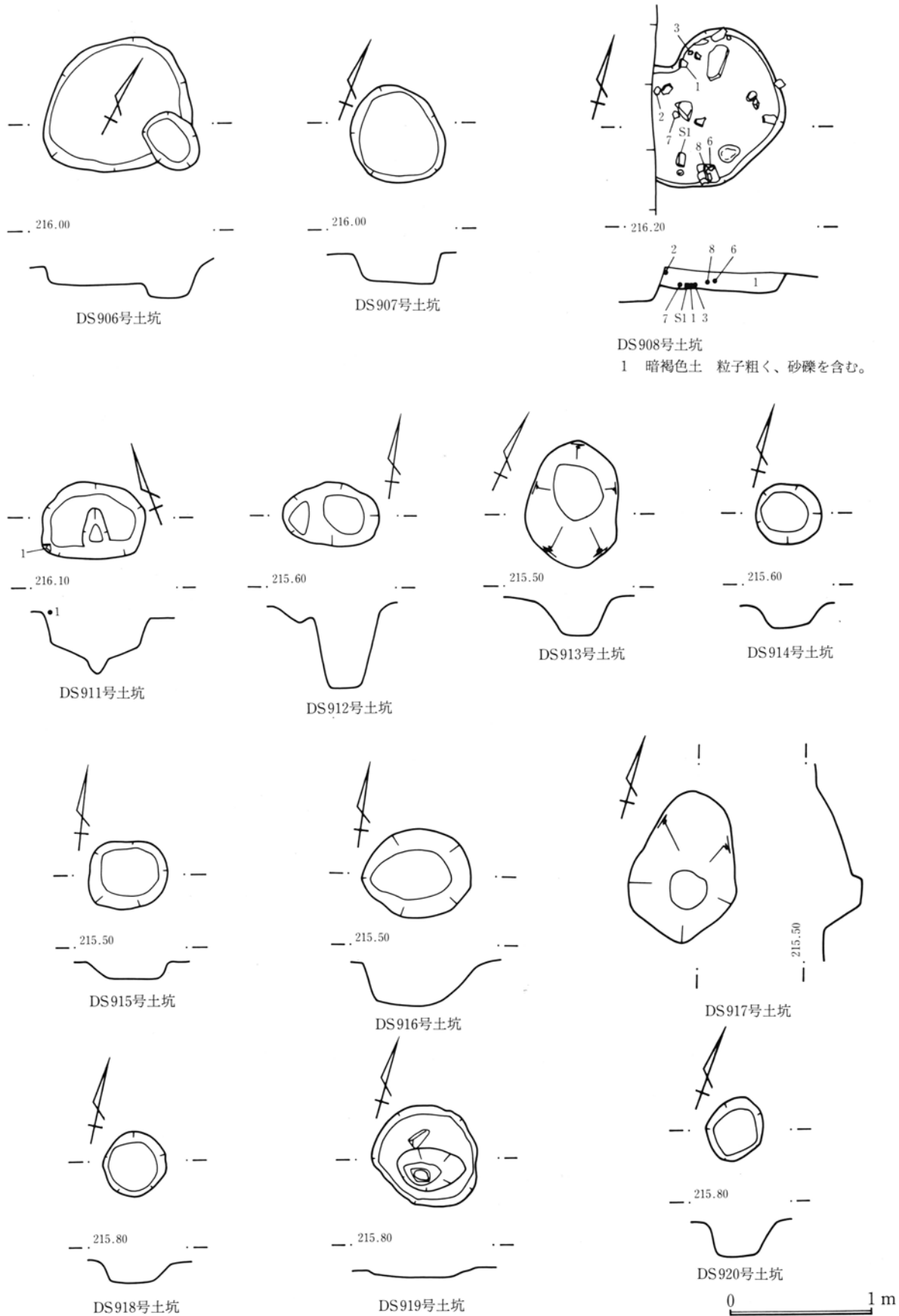
**調査所見** 壁の掘り込みはほぼ垂直である。底は平らで、中央に径20cm程の小ピットが見られる。時期は中期中葉か。

DS902号土坑（第75・390図 PL. 87・126）

**位置** Da-42 **形状** 長円形か **規模** 長径(1.10)m、短径(0.80)m、深さ0m

**重複** DS899号土坑に切られる。 **埋没土** 礫を含む。 **出土遺物** わずかに土器片が出土している。

**調査所見** 掘り込みほとんど削られており、埋土中の礫が残存。時期は中期中葉か。



第76図 土坑(23)

DS904号土坑（第75・390図 PL. 87・126）

位置 Da—42 形状 長円形 規模 長径(0.80)m、短径0.68m、深さ0.40m

重複 西側をDS899号土坑に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が1点のみである。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれている。時期は中期前半か。

DS905号土坑（第75・390図 PL. 87・126）

位置 Da—43 形状 円形 規模 長径1.26m、短径1.18m、深さ0.09m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片数点が出土している。

調査所見 掘り込みがきわめて浅く、底は平らである。時期は中期前半か。

DS906号土坑（第76図 PL. 87）

位置 Da—43 形状 円形 規模 長径1.20m、短径0.95m、深さ0.16m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 覆土はやや荒れた感じで、時期は新しい可能性もある。

DS907号土坑（第76図 PL. 87）

位置 Db—44 形状 円形 規模 長径0.74m、短径0.63m、深さ0.24m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。

DS908号土坑（第76・391図 PL. 87・126・243）

位置 Da—46 形状 不定円形 規模 長径1.10m、短径(0.90)m、深さ0.15m

重複 DS111号住居跡（弥生時代）の下に位置し、DS107号住居跡（古墳時代）に西側を切られている。

埋没土 ほとんど残っていない。 出土遺物 礫に混じり若干の土器片と、基部を欠く磨製石斧が1点検出されている。

調査所見 掘り込み部分は削られた状態で、形状ははっきりしない。時期は中期前半と思われる。

DS911号土坑（第76・391図 PL. 87・126）

位置 Da—49 形状 長円形 規模 長径0.73m、短径0.53m、深さ0.43m

重複 DS953土坑が重複する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が1点出土している。

調査所見 中央部に小ピットが見られる。時期は出土土器から前期中葉と思われる。

DS912号土坑（第76図 PL. 87）

位置 Da—40 形状 長円形 規模 長径0.65m、短径0.45m、深さ0.60m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り込みが深い。時期は不明。

### 第3章 遺 構

#### DS913号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Da-40 形状 長円形 規模 長径0.90m、短径0.63m、深さ0.26m

重複 なし。 埋没土 礫、粘土ブロック含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り方面に凹凸が目立つ。時期は不明。

#### DS914号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Da-40 形状 円形 規模 長径0.45m、短径0.43m、深さ0.16m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

#### DS915号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Da-40 形状 円形 規模 長径0.60m、短径0.47m、深さ0.10m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

#### DS916号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Da-40 形状 長円形 規模 長径0.77m、短径0.62m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

#### DS917号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Da-40 形状 長円形 規模 長径1.00m、短径0.64m、深さ0.31m

重複 南東部分がC156号住居跡（平安時代）に接する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 北側の立ち上がりは緩く、底部南側が深くなる。時期は不明。

#### DS918号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Dc-42 形状 円形 規模 長径0.45m、短径0.40m、深さ0.13m

重複 調査区北端に位置する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

#### DS919号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Dc-42 形状 円形 規模 長径0.75m、短径0.70m、深さ0.08m

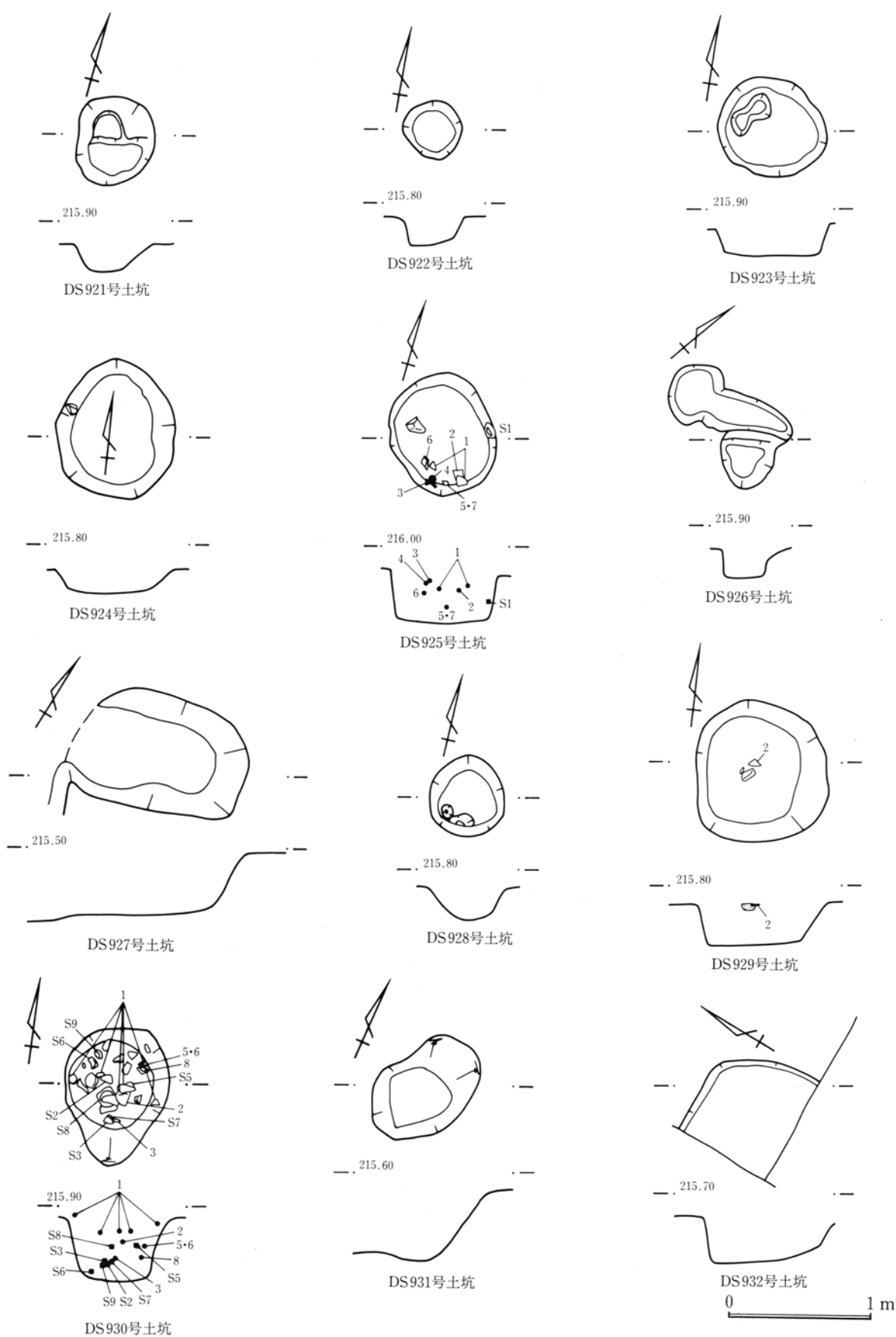
重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 自然礫2個が検出されているが、土器の出土はない。

調査所見 南側に深く掘り込まれた部分が見られる。時期は不明。

#### DS920号土坑（第76図 PL. 88）

位置 Dc-41 形状 円形 規模 長径0.45m、短径0.40m、深さ0.23m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。



第77図 土坑(24)

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

DS921号土坑 (第77図 PL. 89)

位置 Dc-43 形状 長円形 規模 長径0.63m、短径0.52m、深さ0.21m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。底部に凹凸が見られる。時期は不明。

DS922号土坑 (第77図 PL. 89)

位置 Dc-43 形状 円形 規模 長径0.42m、短径0.40m、深さ0.27m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

DS923号土坑 (第77図 PL. 89)

位置 Dc-43 形状 円形 規模 長径0.77m、短径0.68m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 壁の掘り込みは比較的しっかりしている。底も平坦である。時期は不明。

DS924号土坑 (第77図 PL. 89)

位置 Dc-43 形状 長円形 規模 長径1.00m、短径0.82m、深さ0.15m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り方面は凹凸が見られる。時期は不明。

DS925号土坑 (第77・391図 PL. 89・126・243)

位置 Dc-43 形状 長円形 規模 長径0.85m、短径0.75m、深さ0.38m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 若干の土器片の他に、下層より打製石斧が1点出土している。

調査所見 壁の掘り込みはほぼ垂直で、底も平らである。時期は中期前半である。

DS926号土坑 (第77図 PL. 89)

位置 Dc-43 形状 不定形 規模 長径0.90m、短径0.45m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 不定形で時期は不明。

DS927号土坑 (第77・391図 PL. 89・126)

位置 Db-40 形状 長円形 規模 長径(1.30)m、短径0.80m、深さ0.44m

重複 DS106号住居跡(古墳時代)に西側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片1点。

調査所見 主軸をほぼ東西にとる長円形を呈す。底は平らである。時期は中期後半か。

DS928号土坑（第77図 PL. 89）

位置 Db—42 形状 規模 長径0.55m、短径0.55m、深さ0.24m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

DS929号土坑（第77・391図 PL. 90・126・243）

位置 Da—42 形状 円形 規模 長径0.95m、短径0.95m、深さ0.32m

重複 DS100号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片がわずかに出土している他、磨石が見られる。

調査所見 土器は浮いた状態で出土している。時期は中期前半である。

DS930号土坑（第77・391図 PL. 90・127・243）

位置 Db—44 形状 円形 規模 長径0.95m、短径0.73m、深さ0.4m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片および、打製石斧4点、磨石2点、敲石1点が出土している。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれる。時期は前期後半である。

DS931号土坑（第77図 PL. 90）

位置 Db—41 形状 円形 規模 長径0.85m、短径0.55m、深さ0.52m

重複 DS106号住居跡（古墳時代）に西側を切られる。 埋没土 砂礫含む。 出土遺物 なし。

調査所見 時期は不明。

DS932号土坑（第77図 PL. 90）

位置 Da—42 形状 円形か 規模 長径(0.80)m、短径(0.70)m、深さ0.30m

重複 南側はC159号住居跡（古墳時代）に、西側はDS100号住居跡（古墳時代）、DS943号土坑に切られる。

埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 なし。

調査所見 南側と西側を切られており、扇状に残る。底はほぼ平坦である。時期は不明。

DS933号土坑（第78・391図 PL. 90・127・243）

位置 Da—42 形状 円形 規模 長径1.80m、短径(1.60)m、深さ0.30m

重複 西側をDS100号住居跡（古墳時代）に切られ、DS933号土坑と重複する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 浮いた状態で土器片および、石鏃、スクレイパー等が出土している。

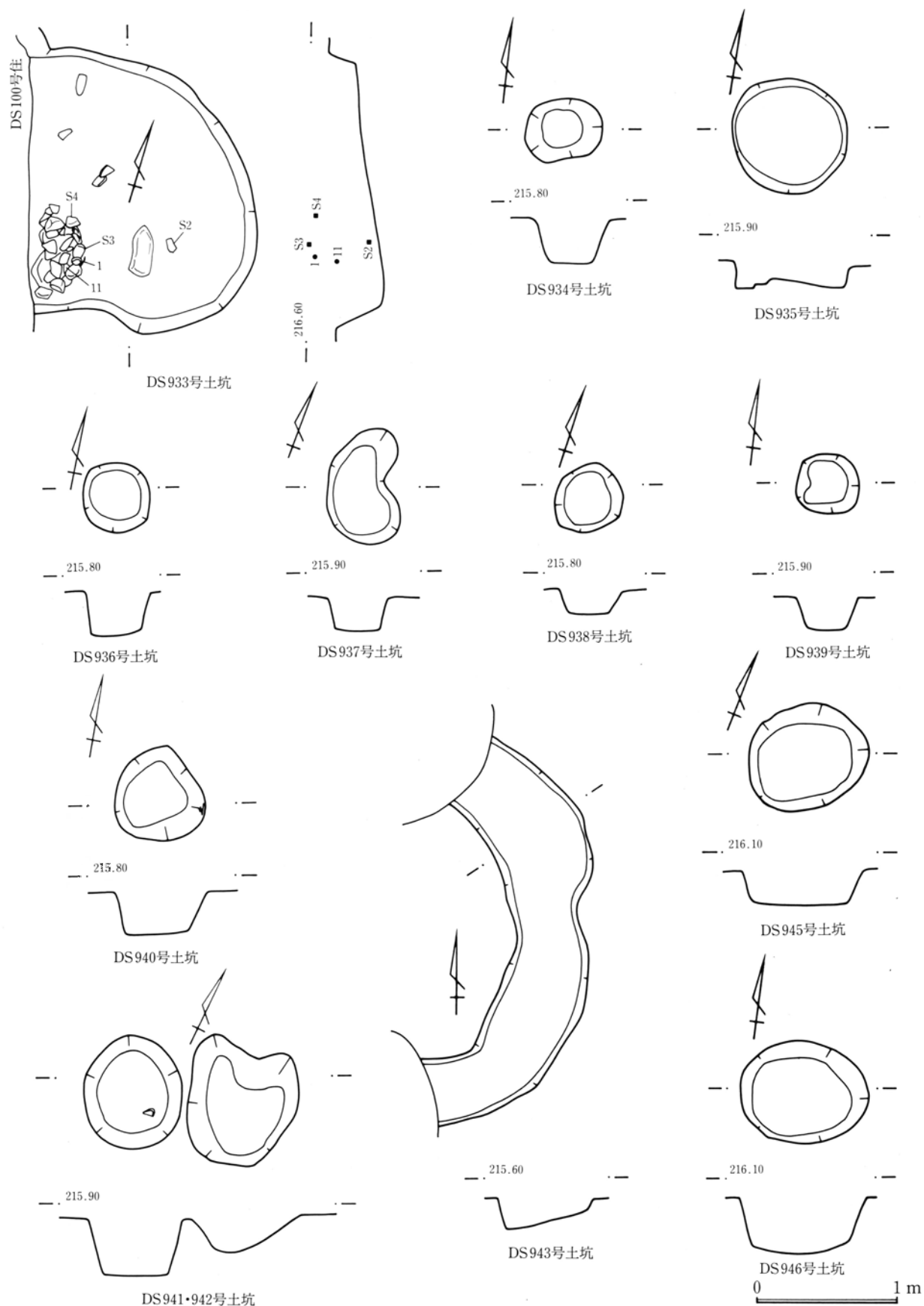
調査所見 底面には凹凸が目立つ。時期は中期前半と思われる。

DS934号土坑（第78図 PL. 90）

位置 Db—42 形状 円形 規模 長径0.55m、短径0.43m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。



第78図 土坑(25)

DS935号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Db-42 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.80m、深さ0.22m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 底面の凹凸が著しい。時期は不明。

DS936号土坑（第78図 PL. 91・243）

位置 Db-42 形状 円形 規模 長径0.50m、短径0.50m、深さ0.31m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器の出土は見られなかったが、磨石が1点出土している。

調査所見 小形の土坑である。掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。時期は不明。

DS937号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Db-42 形状 不定長円形 規模 長径0.80m、短径0.40m、深さ0.27m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り込みは垂直である。2基の土坑が重複したものか。時期は不明。

DS938号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Db-42 形状 円形 規模 長径0.50m、短径0.50m、深さ0.17m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

DS939号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Db-42 形状 円形 規模 長径0.45m、短径0.40m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。底面に凹凸が見られる。時期は不明。

DS940号土坑（第78・392図 PL. 91・127）

位置 Db-42 形状 円形 規模 長径0.65m、短径0.60m、深さ0.30m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 小片がわずかに出土している。

調査所見 時期は前期後半か。

DS941号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Da-44 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.40m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。時期は不明。

DS942号土坑（第78図 PL. 91）

位置 Da-44 形状 不定形 規模 長径0.90m、短径0.75m、深さ0.27m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り方にかかなりの凹凸が見られる。時期は不明。

DS943号土坑（第78図 PL. 92）

位置 Da-42 形状 溝状 規模 長径(2.7)m、短径(1.4)m、深さ0.25m

重複 溝状を呈し、西側はDS100号住居跡（古墳時代）に切られ、DS933号土坑と重複する。

埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 土坑としたが、溝が環状に巡る遺構である。覆土はやや新しい様相を呈し、弥生時代以降の可能性もある。

DS945号土坑（第78図 PL. 92）

位置 Da-46 形状 長円形 規模 長径0.85m、短径0.70m、深さ0.25m

重複 DS107号住居跡（古墳時代）に切られ、DS962号土坑が重複する。 埋没土 礫を含む。

出土遺物 なし。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底は比較的平坦である。時期は不明。

DS946号土坑（第78図 PL. 92）

位置 Da-46 形状 長円形 規模 長径0.90m、短径0.75m、深さ0.40m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 下層に地山の礫がかなり入り込む。時期は不明。

DS947号土坑（第79図 PL. 92）

位置 Da-47 形状 円形 規模 長径0.75m、短径0.70m、深さ0.40m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 時期は不明。

DS948号土坑（第79図 PL. 92）

位置 Da-46 形状 円形 規模 長径0.97m、短径0.95m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

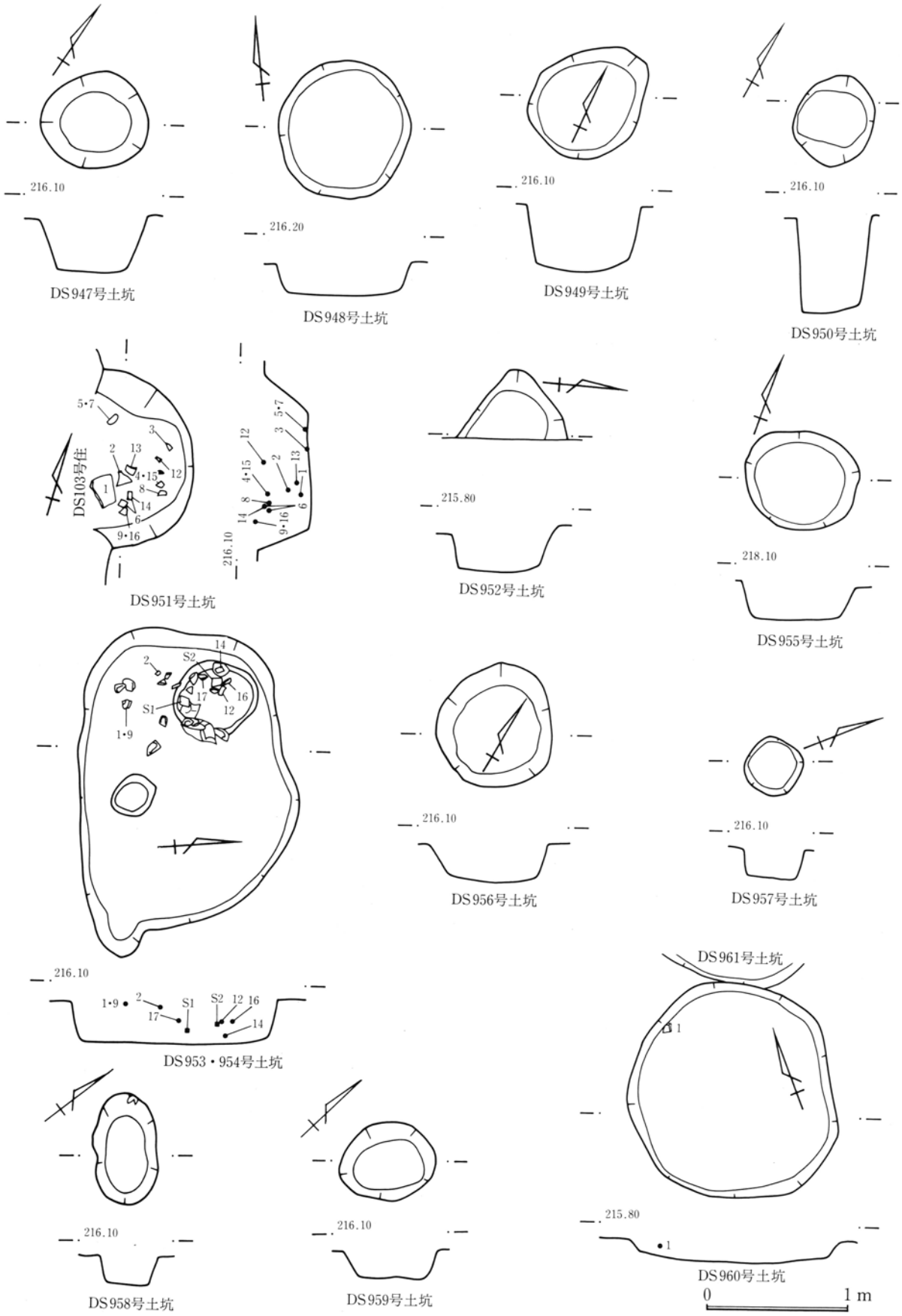
調査所見 ほぼ垂直に掘り込まれる。時期は不明。

DS949号土坑（第79図 PL. 92）

位置 Da-46 形状 長円形 規模 長径0.90m、短径0.70m、深さ0.50m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 垂直に掘り込まれる。時期は不明。



第79図 土坑(26)

DS950号土坑（第79図 PL. 92）

位置 Da-47 形状 円形 規模 長径0.65m、短径0.55m、深さ0.70m

重複 なし。 埋没土 礫、粘土ブロック含む。 出土遺物 なし。

調査所見 径は小さいが掘り込みは深い。時期は不明。

DS951号土坑（第79・392図 PL. 92・127）

位置 Da-47 形状 円形か 規模 長径1.20m、短径(0.60)m、深さ0.35m

重複 西側をDS103号住居跡（弥生時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 土器片が出土している。

調査所見 時期は前期後半である。

DS952号土坑（第79図 PL. 93）

位置 Db-42 形状 長円形か 規模 長径0.80m、短径(0.50)m、深さ0.26m

重複 東側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 東側半分を失っている。時期は不明。

DS953号土坑（第79・392図 PL. 93・128・243）

位置 Da-49 形状 不定形 規模 長径2.30m、短径1.50m、深さ0.3m

重複 DS954号土坑（東側）を切って作られる。 埋没土 礫を多く含む。 出土遺物 土器片、凹石、敲石が出土している。

調査所見 遺物は西側に集中して検出されている。時期は前期後半である。

DS954号土坑（第79図 PL. 93）

位置 Da-49 形状 不明 規模 長径 不明、短径 不明、深さ 不明

重複 DS953号土坑、DS911号土坑に西側を切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 底は平らで、壁は垂直に掘り込まれる。時期は不明。

DS955号土坑（第79図 PL. 93）

位置 Ct-51 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.27m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。時期は不明。

DS956号土坑（第79図 PL. 93）

位置 Da-51 形状 円形 規模 長径0.90m、短径0.85m、深さ0.25m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 ほぼ垂直に掘り込まれる。時期は不明。

DS957号土坑（第79図 PL. 93）

位置 Da-49 形状 円形 規模 長径0.42m、短径0.40m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 小形の土坑である。時期は不明。

DS958号土坑（第79図 PL. 94）

位置 Da-49 形状 長円形 規模 長径0.80m、短径0.40m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 時期は不明。

DS959号土坑（第79図 PL. 94）

位置 Da-49 形状 長円形 規模 長径0.70m、短径0.60m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 長円形を呈す、底面には凹凸が見られる。

DS960号土坑（第79・392図 PL. 94・128）

位置 Db-46 形状 円形 規模 長径1.55m、短径1.40m、深さ0.15m

重複 DS111号住居跡（弥生時代）の下に検出された。DS961号土坑が北側に重複する。 埋没土 礫を含む。

出土遺物 土器片1点のみである。

調査所見 掘り込みは浅く、底は平らである。時期は中期前半か。

DS961号土坑（第80・392図 PL. 94・128）

位置 Db-46 形状 円形 規模 長径1.40m、短径1.20m、深さ0.30m

重複 南側でDS111号住居跡（弥生時代）に切られ、DS960号土坑と重複する。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 深鉢の胴部片が出土しているが、縁片での出土であり、本址に伴うものかは、はっきりしない。

調査所見 壁の掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。時期は中期前半か。

DS962号土坑（第80図 PL. 94）

位置 Da-46 形状 円形か 規模 長径1.10m、短径(0.45)m、深さ0.20m

重複 南側をDS107号住居跡（古墳時代）に切られる。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

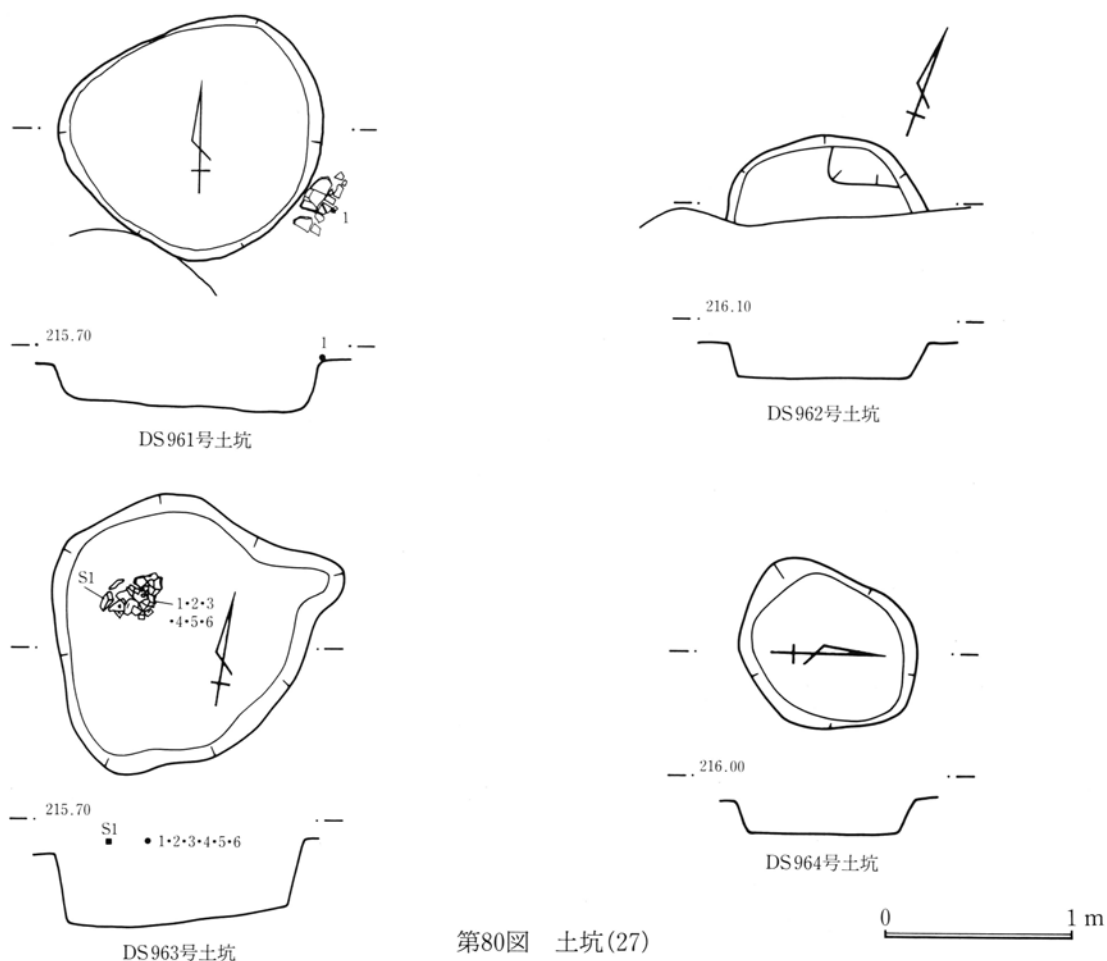
調査所見 南側半分を切られる。時期は不明。

DS963号土坑（第80・393図 PL. 94・128・243）

位置 Da-45 形状 不定円形 規模 長径1.55m、短径1.40m、深さ0.42m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 かなり上層で土器片の他、石核1点が出土している。

調査所見 壁はほぼ垂直に掘り込まれる。時期は前期後半である。



第80図 土坑(27)

#### DS 964号土坑 (第80図 PL. 95)

位置 Da-49 形状 長円形 規模 長径1.05m、短径0.75m、深さ0.20m

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 時期は不明。

#### DS 965号土坑 (PL. 95)

位置 不明 形状 不明 規模 不明

重複 なし。 埋没土 礫を含む。 出土遺物 なし。

調査所見 時期は不明。平面図なし。

### 4. ピット

総数500基以上が検出されている。時期は縄文から近世にわたるものと思われるが、本項で扱ったのは出土遺物、覆土の状況などから縄文時代と判断されたもののみを掲載した。また、土坑との違いは規模の大小を基準としているが、必ずしも明確に分けられていない。このため、調査時点でピットとして調査したものをそのまま記載している。また、出土遺物については、土器は遺構外遺物として記載して番号を明記してある。

分布図を第81図に示したが、これを見る限りでは北側に多く見られるが、南側に関しては黒色土の堆積が厚く、検出が困難であった。さらに、遺構の重複が極めて多く、遺構の掘り込みも深かったために、検出で

きなかったものがかなり存在していたものと思われる。

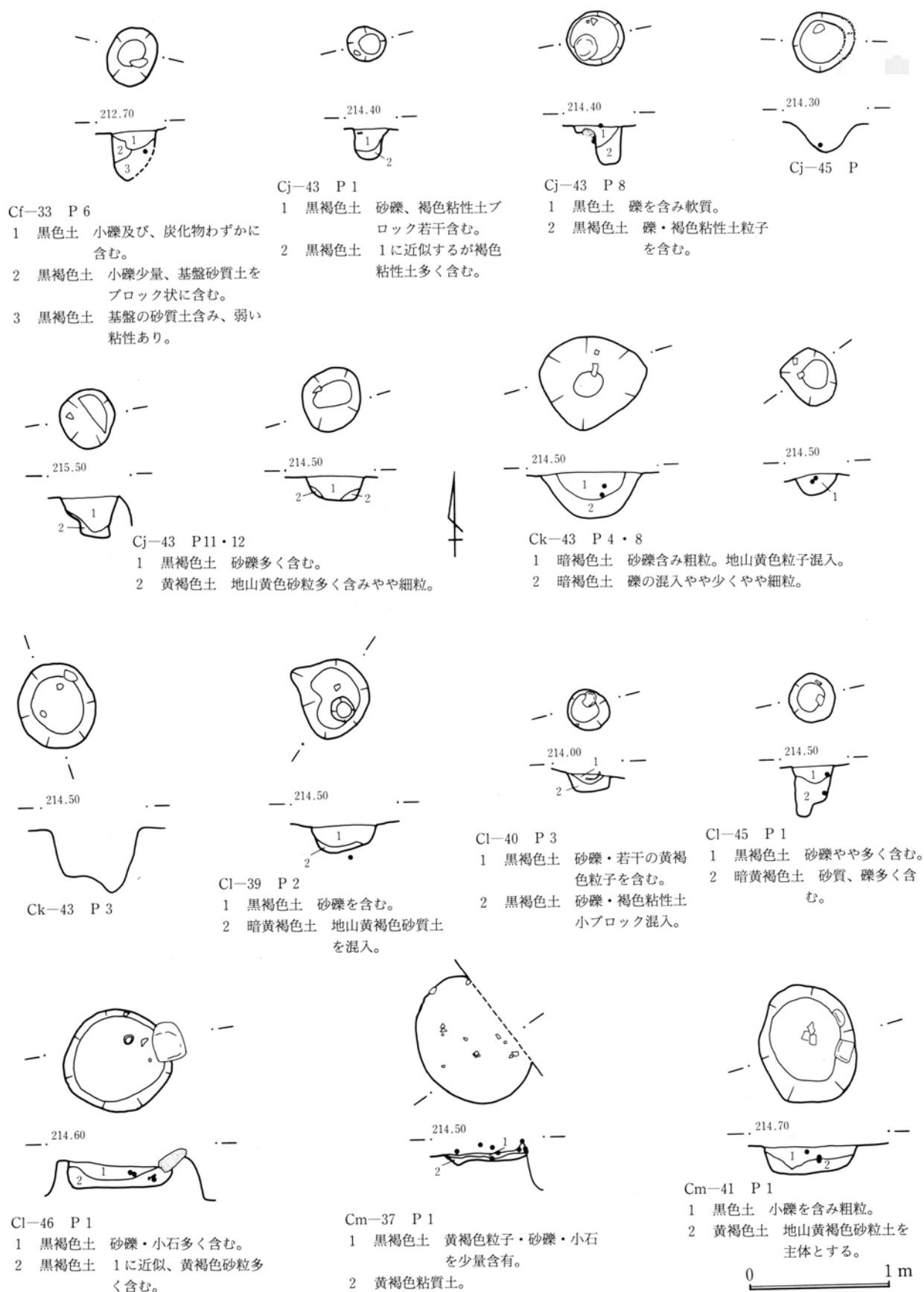
第82～84図に示したものは縄文土器の出土が見られたもの、あるいは重複関係、覆土の状況から縄文時代と思われるものを掲載した。このため、検出したピットのごく一部であることを了解願いたい。

その他のものについては住居の柱穴、掘立柱建物跡の一部、中・近世の掘り込み、近・現代の掘り込み耕作坑などさまざま考えられるが、性格の確定できなかったものがほとんどであった。

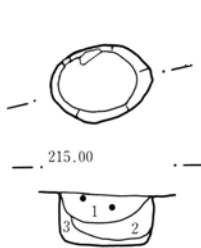


第81図 土坑・ピット分布図

# 第3章 遺 構



第82図 ピット(1)



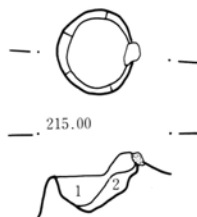
Cm-46 P 3・4

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を多く含む。地山粒子を混入。
- 3 暗褐色土 地山黄褐色砂礫粒を多量に混入。



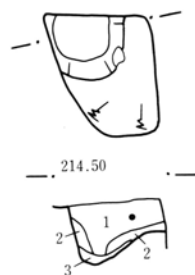
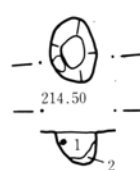
Cm-46 P 6

- 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 地山砂礫ブロック状に含む。



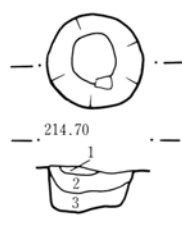
Cn-35 P 8

- 1 暗褐色土 砂礫多く、褐色、灰白色土粒多く混入。
- 2 黒褐色土 褐色・灰白色粒子点在。



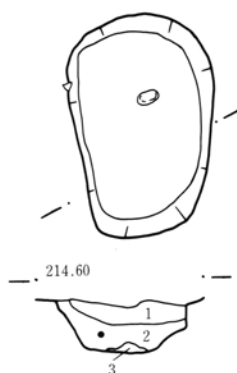
Cn-35 P 9

- 1 暗褐色土 砂礫混入。灰白色・褐色粒子多量。
- 2 黒褐色土 褐色・灰白色粒子多い。褐色土塊混入。
- 3 暗褐色土 褐色・灰白色粒子やや多い。褐色土塊多くまだら状を呈す。



Cn-36 P 5

- 1 黒褐色土 砂礫点在。褐色・灰白色粒子多量。
- 2 淡褐色土 大小礫多量に混入。褐色土やや多い。
- 3 暗褐色土 砂礫やや多い。褐色・灰白色粒子多量。褐色土点在。



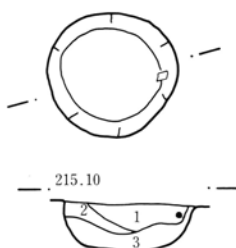
Cn-36 P 8

- 1 暗褐色土 親指大の礫多く含む。
- 2 暗褐色土 小礫多量。褐色土多く、黒褐色土とまだらをなす。
- 3 褐色土 砂利・褐色土粒多量に混在。



Cn-45 P 1

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗茶褐色土 地山黄褐色土を多く含む、細粒。



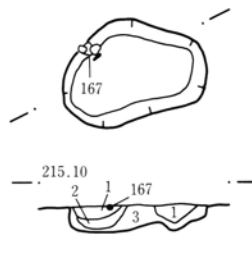
Cn-47 P 2

- 1 黒褐色土 砂礫・小石・黄褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫・黄褐色粒子をやや多く含む。
- 3 茶褐色土 黄褐色粒子を多く含む。



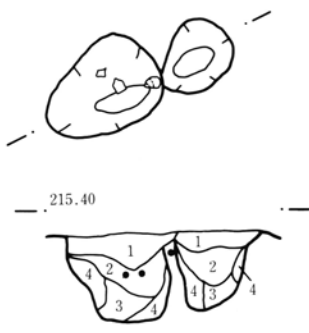
Co-39 P 1

- 1 暗褐色土 砂礫点在。暗褐色土粒・土塊多量。
- 2 暗褐色土 砂礫、褐色土粒多量に含む。
- 3 黒褐色土 小礫点在。褐色・灰白色粒子やや多い。



Co-42 P 6

- 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 3 黄褐色土 砂礫をやや多く含む。



Co-45 P 1・2

- 1 黒褐色土 礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 礫、地山砂粒を多く含む。
- 3 黄褐色土 地山砂礫を多く混入。黒色土ブロック状に含む。
- 4 黄褐色土 地山層を主体とする。

0 1 m

第83図 ピット(2)



第84図 ピット(3)

## 第2節 弥生時代

### 弥生時代の遺構と遺物

南蛇井増光寺遺跡C区において検出された弥生時代の遺構は、住居跡117軒(一部DS区分の4軒を含む)・方形周溝墓2基・土坑11基である。

住居跡は国道南側のB区からの続きで検出されており、北側のDS区にまで分布範囲は広がるが、このC区部分において最も濃密な分布状況が見られる。土坑は11基を検出した。出土土器、覆土の状況等から時期の判断を行った。

### 1. 住居跡

本調査区において検出された弥生時代の住居跡は117軒にのぼる。時期は、ほとんどが後期後半で、一部に古墳時代初頭に掛かると考えられるものも見られる。住居の分布を見ると調査区南東部分において特に濃密で、中央部はやや薄く、北側で再び増加が見られる。

住居の形状はいわゆる隅丸長方形が多く、規模は長辺5～6m、短辺3～4mのものがもっとも多い。隅丸正方形のものも見られ、これらは時期的に新しいものと考えられる。主軸は南北方向にとるものがほとんどであるが、若干東西方向のものも見られる。

住居跡は古墳時代以降の住居等との重複が著しく、完全な形で検出されたものは少ない。また、弥生時代どうしでの重複もあり、比較的短期の間に居住が行われたことが窺われる。

### C2号住居跡(第85・86・421図 PL.2・244)

**位置** Cf・g—35・36 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺8.0m、短辺4.8m、壁高0.4m

**重複** 南東端をC1号住居跡(平安時代)に切られる。 **埋没土** 砂礫多く含む粗粒土が主体をなす。

**床面** やや起伏を持ち、かなり軟質である。 **貯蔵穴** 南壁寄りに2カ所検出。 **柱穴** 4本

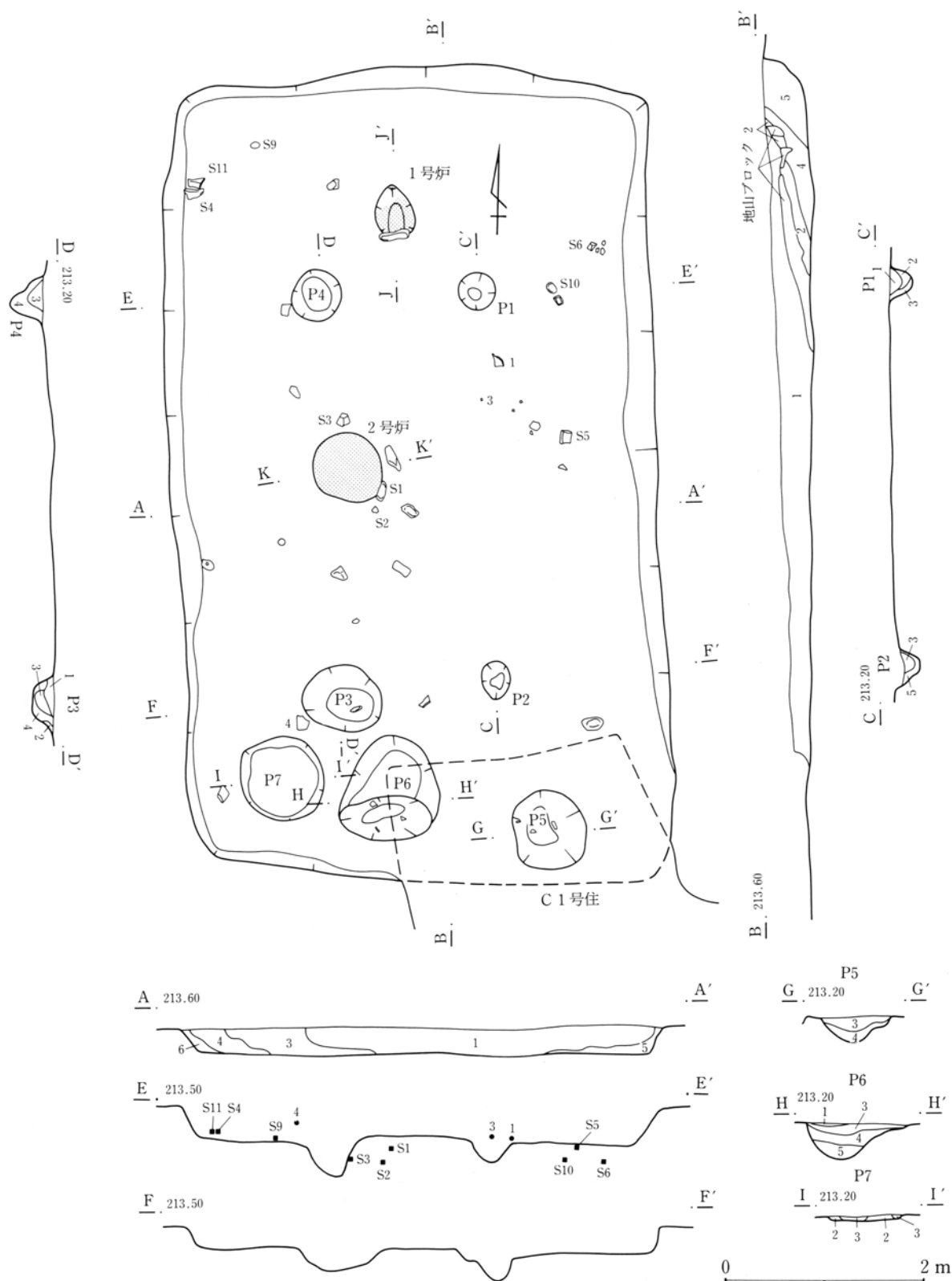
**炉** 2カ所検出した。

1号炉 中央北寄りに位置する。南端に長さ30cm程の河原石を炉石として据えている。10cm程の浅い落ち込みを持ち、厚さ5cm程の焼土がレンズ状に堆積。

2号炉 中央やや西寄りに位置する。径70cmの範囲に焼土、灰の広がりが見られ、東側に河原石2石がややずれて検出された。

**出土遺物** 土器類は破片のみで少ない。

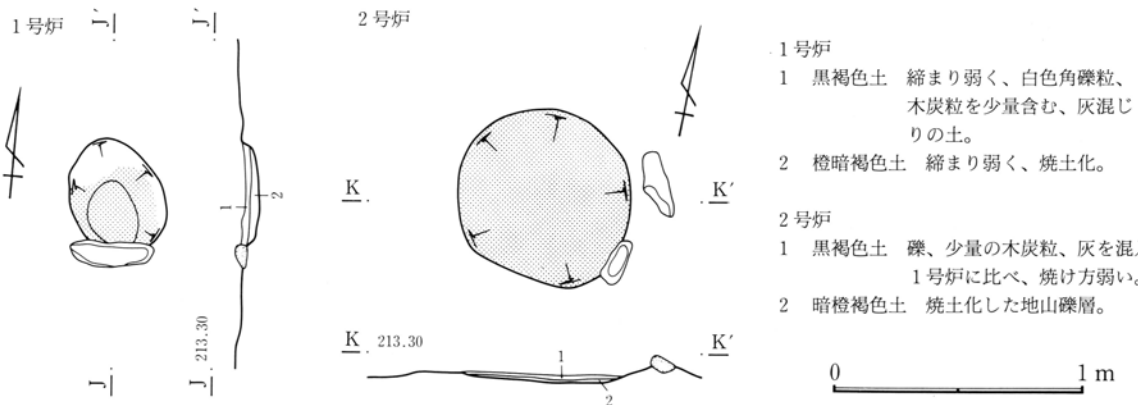
**調査所見** 平面形は南北に細長い形状で、主軸をほぼ南北にとる。南側は重複もあり遺存状態は良くない。



- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 褐色土 粘性なく、礫、白色粒子を多く含む。 | 4 黒褐色土 締りあり。礫多く含む。      |
| 2 褐色土 1と近似、礫を多く含む。      | 5 黒褐色土 4より砂質。           |
| 3 黄褐色土 礫を少量含む。砂質の地山土。   | 6 黒褐色土 地山土主体とし、礫の混入少ない。 |

第85図 C 2号住居跡

- P 1  
 1 暗茶褐色土 細砂粒、礫を少量含む粗粘土。  
 2 黒茶褐色土 1に似るが、黒味を増す。  
 3 明茶褐色土 1に似るが、やや黄味を帯びる。  
 P 2～4  
 1 黒茶褐色土 礫を含み、やや締まる。  
 2 黒茶褐色土 礫の混入やや少ない。  
 3 黒褐色土 黄褐色小礫まばらに含み、締まり弱い。  
 4 暗褐色土 地山土と、褐色粘質土ブロックの混土。  
 5 暗褐色土 4に近似、褐色粘質土の混入少ない。  
 P 5～7  
 1 黒褐色土 固く締まる。貼床面。  
 2 暗黄褐色土 汚れた砂礫層。  
 3 黒褐色土 締まり弱く黄色角礫を含む。  
 4 黒褐色土 黄褐色土、焼土ブロック少量含みや粘性を示す。  
 5 黄褐色土 汚れた黄褐色土。



第86図 C 2 号住居跡炉

### C 3 号住居跡 (第87・422図 PL. 2・147)

位置 Cg・h-37 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.6m、短辺4.0m、壁高0.2m

重複 なし。 埋没土 小砂礫多く含む砂礫土。 床面 砂礫混じりの黄褐色土で作られ、やや凹凸を持ち軟質である。 貯蔵穴 南東隅に検出した。ほぼ円形で径40cm、深さは17cmで、上部より甕の破片が出土している。

炉 2カ所に検出した。住居北側と、西側柱穴間にある。

1 号炉 北側中央やや壁寄りに作られる。長さ35cmの河原石が据えられている。その北側に径40cmの焼土の広がりが見られる。

2 号炉 西側柱穴間にあり、長さ25cm程の河原石が据えられている。西側に若干の焼土が見られる。

出土遺物 比較的少ない。炉の周辺部、貯蔵穴において壺、小型の片口等が出土している。

調査所見 後世の重複も無く遺存状態は比較的良い。

### C 6 号住居跡 (第88・89・423図 PL. 2・147・244)

位置 Cd・e-40・41 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.60m、短辺4.40m、壁高0.45m

重複 南側はC 7 号住居跡 (古墳時代) に切られ、西側はC 21 号住居跡 (弥生時代) が重複する。

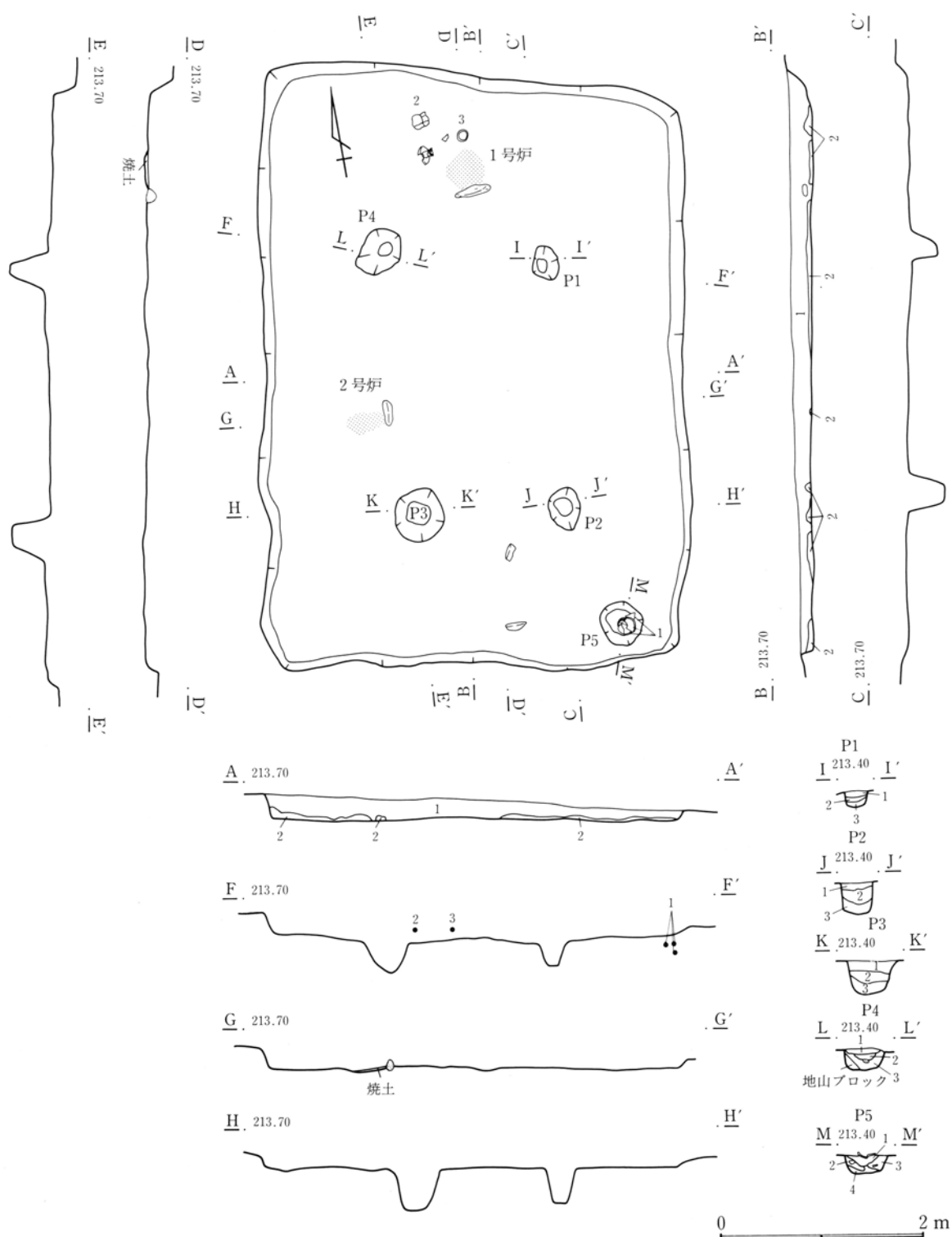
埋没土 砂礫多く含む。 床面 やや凹凸が見られ、部分的に地山の砂礫土が露出している。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 北側の2本を検出したが、南側は検出されなかった。

炉 中央北壁寄りに作られる。長さ40cm程の砂岩が据えられ、周辺部に若干の焼土が見られる。

出土遺物 あまり多くはないが、壺、甕、高坏、鉢等が出土している。また床に据えられた状態で台石3点も出土している。

調査所見 重複により南壁、西壁が不明瞭。特に西に接するように切りあうC 21 号住居跡との前後関係は、はっきりしない。また、古墳時代の住居が重複しており、壁の遺存状態は良くない。



1 黒褐色土 微小礫を多く含む。

2 黄赤褐色土 地山砂礫土。

P1~4

1 褐色土 締まりなく、砂質。白色粒・礫を含む。

2 褐色土 砂質だが、礫を多く含む。

3 黄褐色土 砂質で締まり弱い。地山土多く含む。

P5

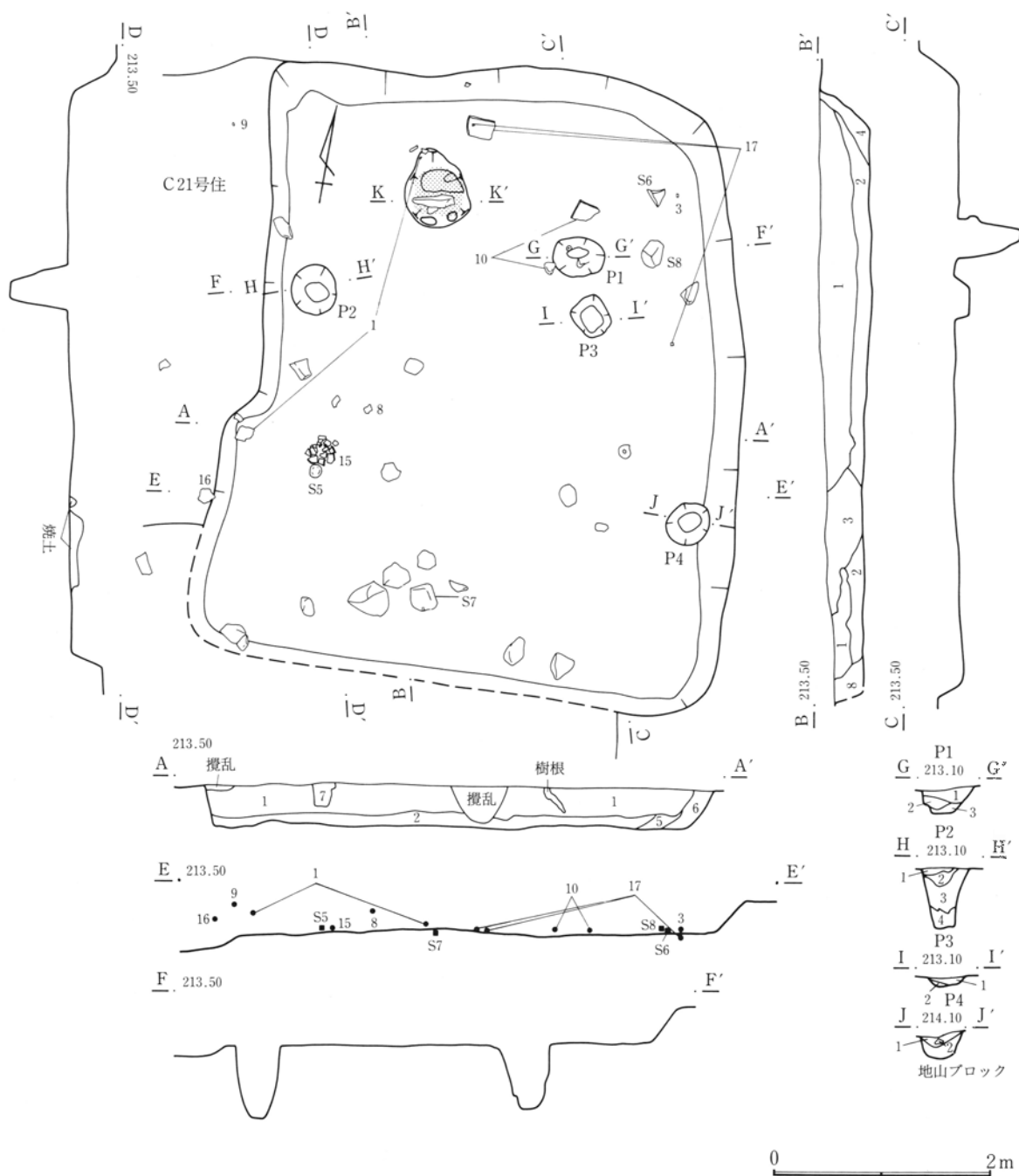
1 黒褐色土 締まり弱く、砂質で小礫少量含む。

2 黄褐色土 砂質だが、よく締まる。

3 黒褐色土 締まり良く砂質。小礫を含む。

4 砂質の地山土。

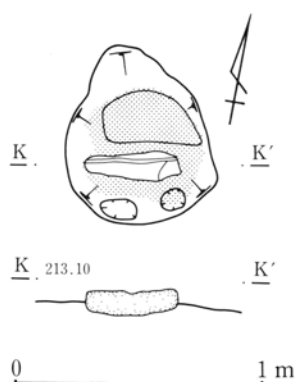
第87図 C3号住居跡



- 1 黒褐色土 砂質で小礫を多く含む。
  - 2 黒褐色土 締まり弱く、砂質。礫をわずかに含む。
  - 3 黒褐色土 砂質で礫・焼土・粘土ブロック含み締まる。
  - 4 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。砂礫質。
  - 5 褐色土 砂質で小礫を多く含む。
  - 6 黒褐色土 締まりあり、礫を多く含み砂質。
  - 7 黒褐色土 小礫、焼土を多く含み、赤色を呈す。
  - 8 黒褐色土 締まりあり、砂質で、小礫を多く含む。
- P 1
- 1 黒色土 締まり弱く、小礫多く含む。
  - 2 黒褐色土 締まり弱い砂質土主体とし、小礫をわずかに含む。

- 3 暗褐色土 砂を主体とし、小礫を若干含む。  
P 2  
1 黒色土 締まり、粘性なし。礫を多く含む。  
2 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。微砂粒含む。  
3 黒褐色土 砂を主体とし、微小礫少量含む。  
4 黄褐色土 砂質の地山土多く含む。  
P 3  
1 黒色土 小礫を多く含む。  
2 黒色土 締まり弱く、小礫多く含む。  
P 4  
1 黒褐色土 粘性なく小礫多く含む。  
2 黒褐色土 微小礫・地山土含む。

第88図 C 6号住居跡



第89図 C 6号住居跡炉

C 8号住居跡 (第90・91・424図 PL. 3・148・245)

位置 Cb-40 形状 隅丸方形 規模 長辺5.20m、短辺4.88m、壁高0.44m

**重複** 北側部分に、C 5号住居跡（奈良時代）が重複する。 **埋没土** 礫を多く含み、粗粒。下層は地山土を混入する。 **床面** 全体にやや緩やかな凹凸が見られ、あまり締まりはない。 **貯蔵穴** 南東隅に掘り込まれている。径80cm程で深さは50cmを測る。 **柱穴** 4本を検出した。北側の2本はかなり壁寄りに掘り込まれている。平面形状はほぼ円形であるが、底面の形状は不定形である。深さは25～30cm程である。 **炉** 北側の壁寄りに検出した。4片に割れた状態の長さ30cm、幅10cm程の砂岩が置かれ、その北側に、焼土、粘土、炭化物がやや乱雑な広がりをもって検出されている。

**出土遺物** 住居南寄りに集中して出土している。壺、甕、高坏等が見られ、多くは床面近くより検出されている。

**調査所見** 隅丸方形を呈す住居で、北側に重複するC 5号住居跡は掘り込みが浅く、各壁ともかなり遺存状態の良い住居である。

C 9号住居跡 (第92・93・425図 PL. 3・147・245)

位置 Bs・t-38・39 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.81m、短辺4.65m、壁高0.35m

**重複** 無し。 **埋没土** 礫を多く含む砂礫土を主体とし、全体に黒味を呈す。

**床面** 平坦な部分は少なく、全体に緩やかな起伏を示す。硬化した面は見られない。

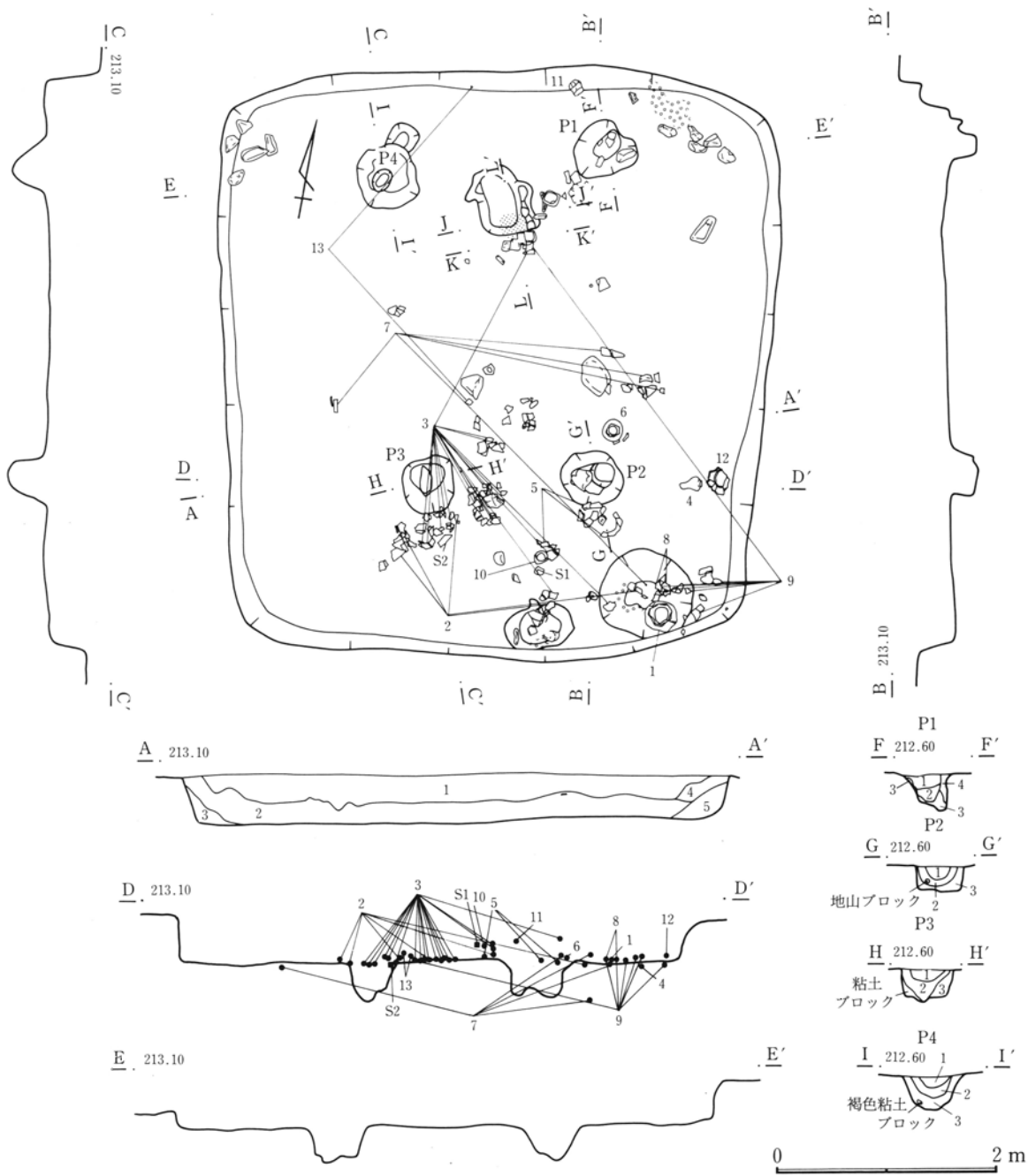
**貯蔵穴** 南壁際に2穴を認めたが、貯蔵穴かどうかは判断し難い。

**柱穴** 南列の2穴を検出、また中央部にも径50cmの掘り込みを検出したが、北側については検出できなかった。南列側の2本はやや不定形で径は約30cmである。

**炉** 住居のやや北寄りに検出された。長さ35cm程の砂岩が据えられ、南側および北側に焼土が認められた。北側の焼土層は厚さ約10cmを計測した。また、炉の周囲部分は凹凸が顕著である。

**出土遺物** 比較的北側に多く出土している。壺、甕、高坏、鉢等が見られ、紡錘車も1点出土している。

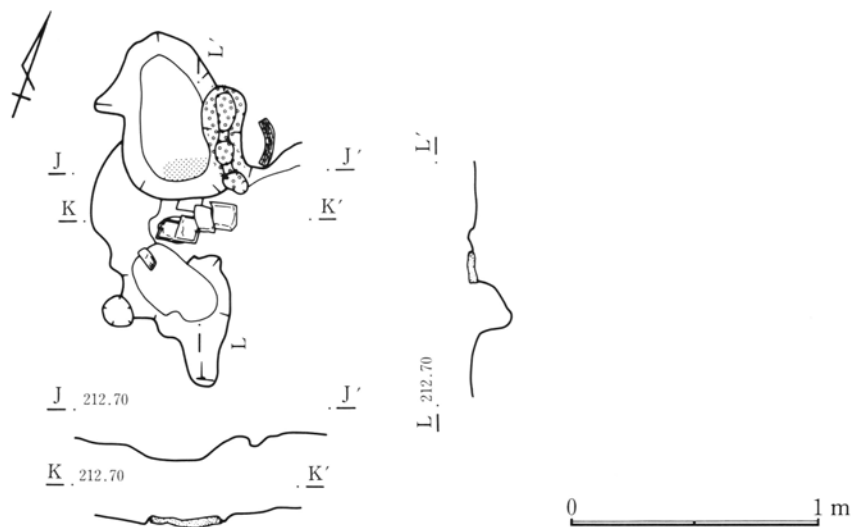
**調査所見** 南側の壁については、比較的明瞭に検出されたが、東壁、北壁はきわめて不明瞭であった。他の遺構が重複している状況は認められず、攪乱、削平によるものと判断された。



- 1 黒褐色土 微小礫を多く含む。  
2 褐色土 砂質で、小礫を多く含む。  
3 褐色土 砂質で礫多く含む。地山土混入。  
4 暗褐色土 締まり、粘性なし。小礫多く含む。  
5 褐色土 砂質で、礫・地山土多く含む。
- P 1  
1 暗褐色土 やや粘性あり。微小礫・粘土を多く含む。  
2 黒褐色土 小礫・粘土ブロック若干含む。  
3 褐色土 微小礫・粘土を多く含む。  
4 暗褐色土 小礫多く含む。

- P 2  
1 暗褐色土 よく締まり、小礫を含む。  
2 暗褐色土 小礫わずかに含む。  
3 砂質地山土を主体とする。
- P 3  
1 褐色土 よく締まり、小礫を多く含む。  
2 暗褐色土 締まりあり、小礫やや多く含む。  
3 黄褐色土 砂質地山土を多く含む。
- P 4  
1 暗褐色土 砂質で、微小礫を含む。  
2 黒褐色土 締まりよく、小礫を少し含む。  
3 黒褐色土 砂質地山土主体。小礫わずかに含む。

第90図 C 8号住居跡



第91図 C 8号住居跡

C10号住居跡 (第94～96・426～428図 PL. 3・4・149・150・245)

位置 Ce・f—39 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.12m、短辺4.55m、壁高0.45m

重複 北西部分をC11号住居跡(古墳時代)が切る。 埋没土 礫を多く混入し、粗粒な土で埋まる。

床面 地山の礫が部分的に露出しており、凹凸が顕著。貼り床は認められなかった。

貯蔵穴 南壁際のやや西に寄った所に検出。円形で径65cm、深さは約20cmである。

柱穴 基本は4本柱と思われるが、南東および北西に検出したもの以外は、掘り形が不明瞭であった。また、2カ所の炉に近接してピットが見られたが、柱穴とは認定し難い。

炉 2カ所検出した。

1号炉 住居中央のやや北に寄った所に作られる。中央がやや落ち込む径50cm程の範囲に、焼土の広がりが見られた。

2号炉 住居ほぼ中央に検出した。長さ30cm、幅15cmの範囲で焼土が見られた。やや高まりを持ち、若干の灰を混入。南に接してピットが掘り込まれている。

出土遺物 かなり多くの土器類が見られた。中央部分に集中しており、大形の礫なども混じっていた。土器は壺、甕、台付き甕、高坏、鉢などが見られる。

調査所見 遺物は中央部の床面近くからも多く出土している。炉はいずれも炉石がなく、2号炉は焼土の量も少ない。また、柱穴もやや偏った位置に検出されている。

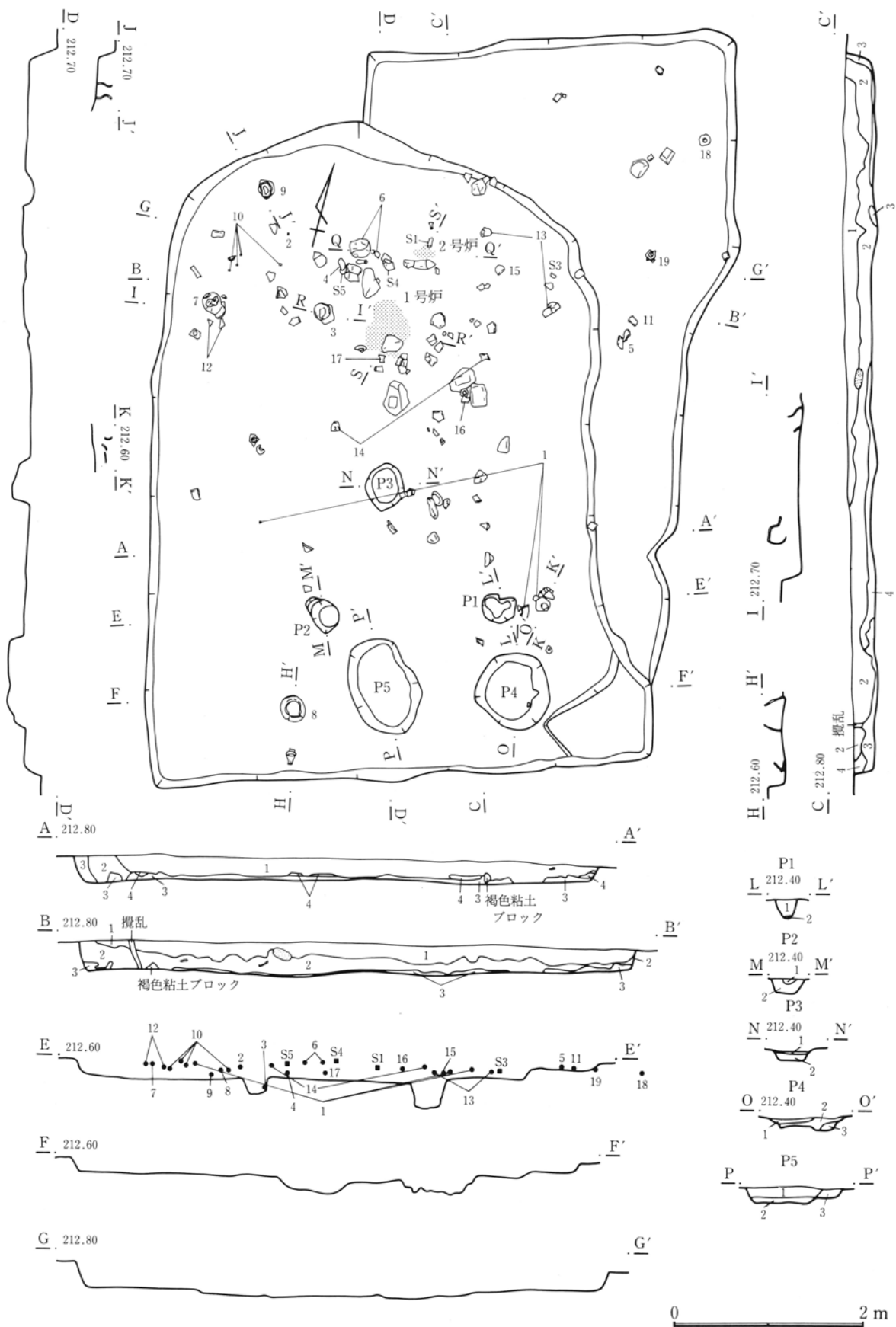
C13号住居跡 (第97・98・429図 PL. 4・150・245)

位置 Ce・f—36 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.87m、短辺3.37m、壁高0.30m

重複 C19号住居跡(古墳時代)に東側の半分を壊されている。 埋没土 礫を含む砂礫土で埋まる。

床面 重複するC19号住居跡の床面は、本址よりレベル的にわずかに高く、削平等の影響もほとんど見られず、床面の遺存状態は比較的良好であった。 貯蔵穴 明確なものは検出されなかった。

柱穴 西側に1本、東側列は3本を確認した。西側のものは、径約20cm程である。東側のものは径30cm、深さはP1・P2が50～60cm、P3は15cmである。



第92図 C 9号住居跡

### 第3章 遺 構

- 1 褐色土 白色・黄色・褐色粒子、小礫含み、硬質。
- 2 黒褐色土 砂礫質、黄色・褐色粒子混入。褐色土ブロック塊含む。
- 3 黄褐色土 粒子細かい砂礫土。
- 4 黄褐色土 小砂礫含み、若干の粘土ブロック含む。

#### P 1

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。微小礫含む。
- 2 暗褐色土 地山土主体とする。

#### P 2

- 1 褐色土 締まりなく、小礫・地山土多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりよく、砂礫質地山土多く含む。

#### P 3

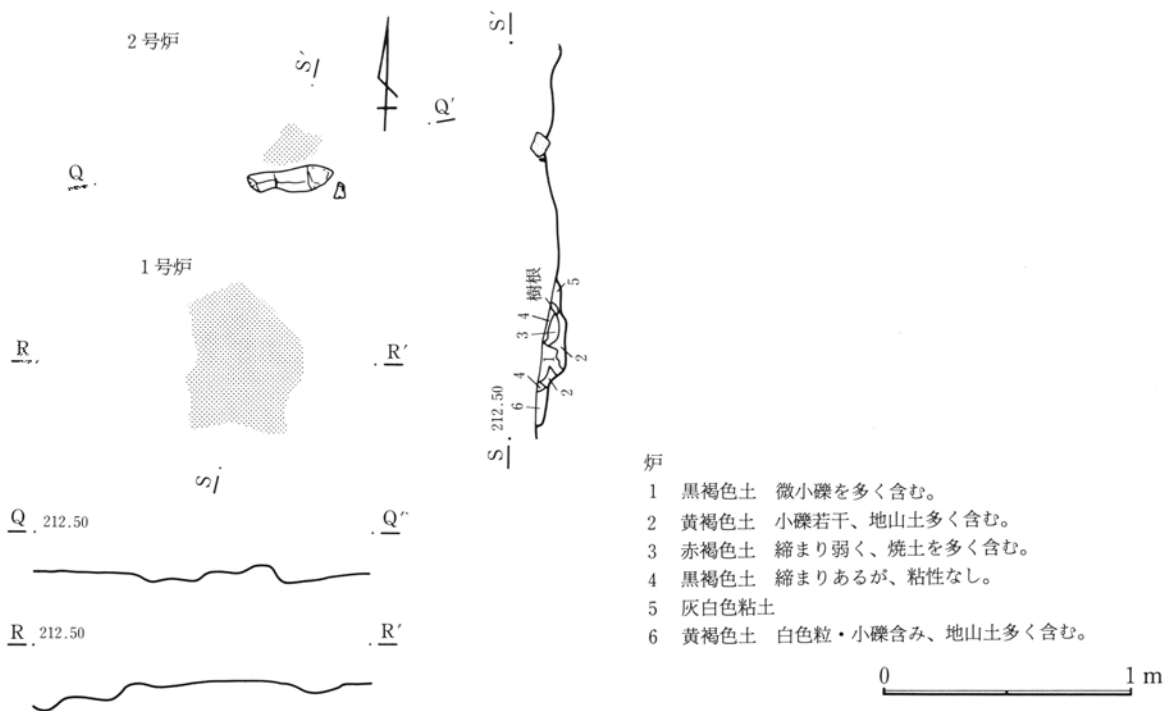
- 1 黒褐色土 締まりなく、粗粒。
- 2 褐色土 粘性なく。砂礫質地山土多く含む。

#### P 4

- 1 黒褐色土 小礫を含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 小礫・地山土を多く含む。
- 3 暗褐色土 締まりなく、地山土若干含み粗粒。

#### P 5

- 1 黄褐色土 粘性なし。微小礫・地山土多く含む。
- 2 暗褐色土 粘性なく小礫を少量、地山土多く含む。
- 3 褐色土 微小礫・地山土多く含む。



第93図 C 9号住居跡炉

炉 2カ所作られている。

1号炉 北壁寄りにある。およそ50cmの範囲をわずかに掘りくぼめ、やや偏平な長方形の砂岩が据えられ、中央部分に焼土が検出されている。

2号炉 P 3の東に接して、焼土のみの広がりを確認した。甕型土器の胴上部片が出土している。

出土遺物 少ない。壺、甕が散在して検出されている。

調査所見 東壁および南壁のほとんどが、重複により失われていた。比較的小形の住居で、出土遺物も少なかった。

C14号住居跡（第99～102・430～433図 PL. 4・151・152・246・247）

位置 Bs・t・Ca-36・37 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.53m、短辺5.50m、壁高0.80m

重複 C15号住居跡（弥生時代）と大部分が重なる。 埋没土 礫の混入多く、粗粒の土で埋まる。

床面 地山の粘質土を掘り込んで床面としている。平坦で比較的しっかりしている。

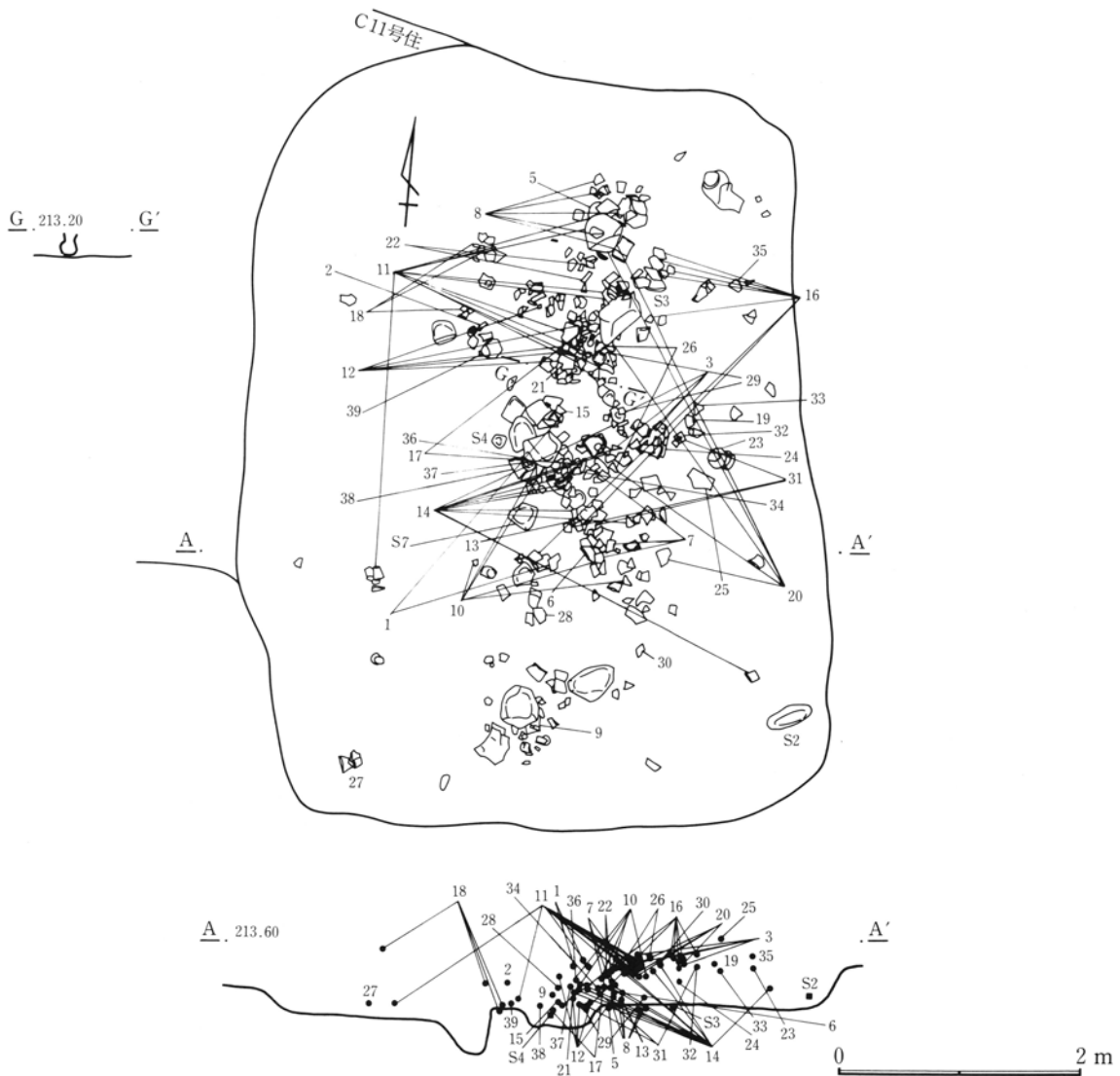
貯蔵穴 南壁際の、やや東に寄って掘り込まれている。南北に長い長円形を呈し、長径約90cm、短径約60cmで、深さは30cm程である。中央部分がやや高まり、2穴が繋がった状況を呈す。

柱穴 主柱穴は、中央の2穴がやや南に偏した形の6本と推定されたが、南西部に位置すると思われる2本については、検出できなかった。それぞれの、柱穴の大きさは、径が30cm前後で、深さは30～35cmである。

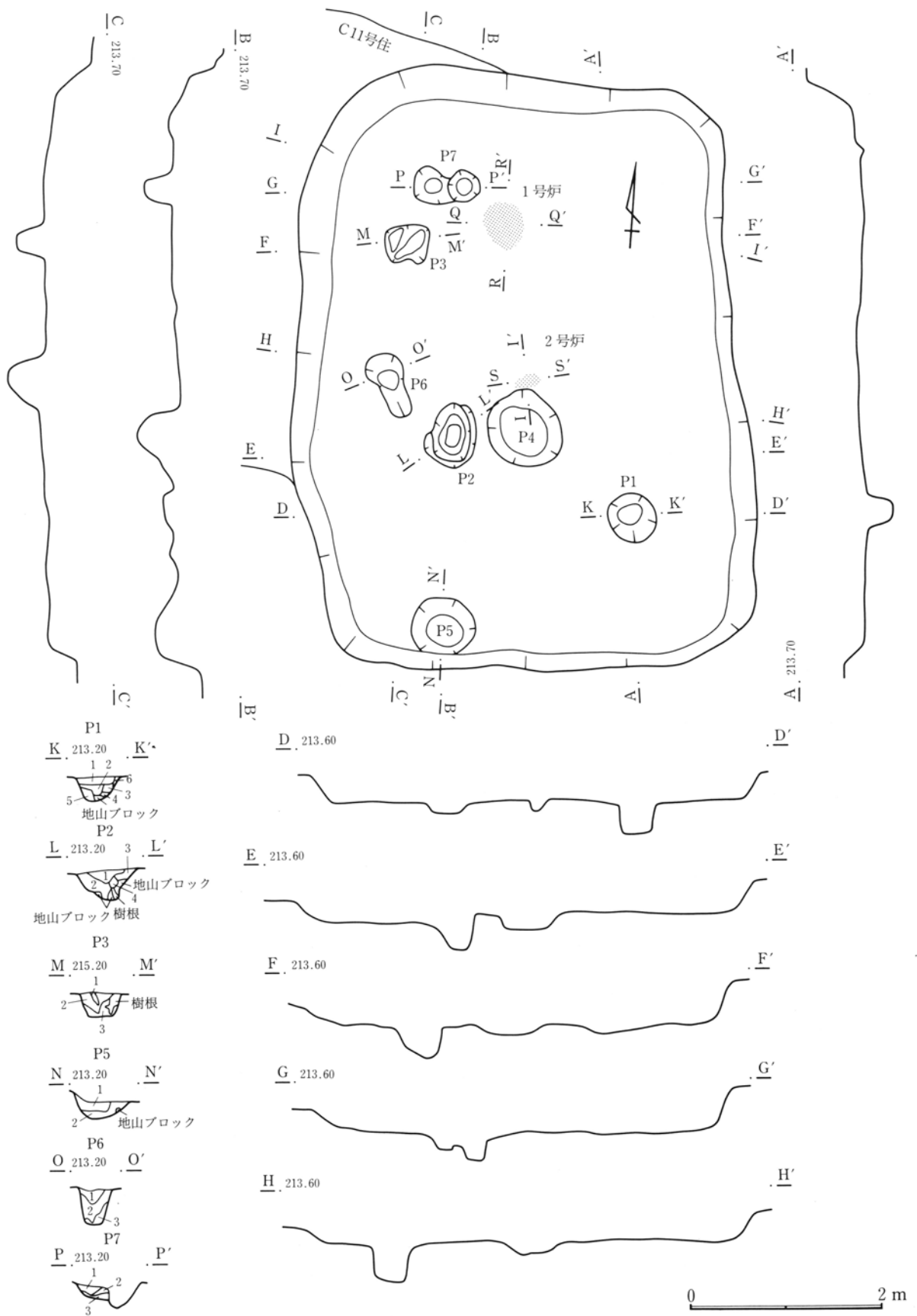
炉 中央北に寄った場所で検出した。地床炉で長さ70cm、幅50cm程に浅く掘りくぼめられている。焼土は、南側部分においてわずかに検出されている。

出土遺物 土器、礫が多く出土している。土器は完形品も多く、壺、甕、高坏、鉢、甑等が見られ、床面よりかなり浮いた状況で出土したものが多かった。

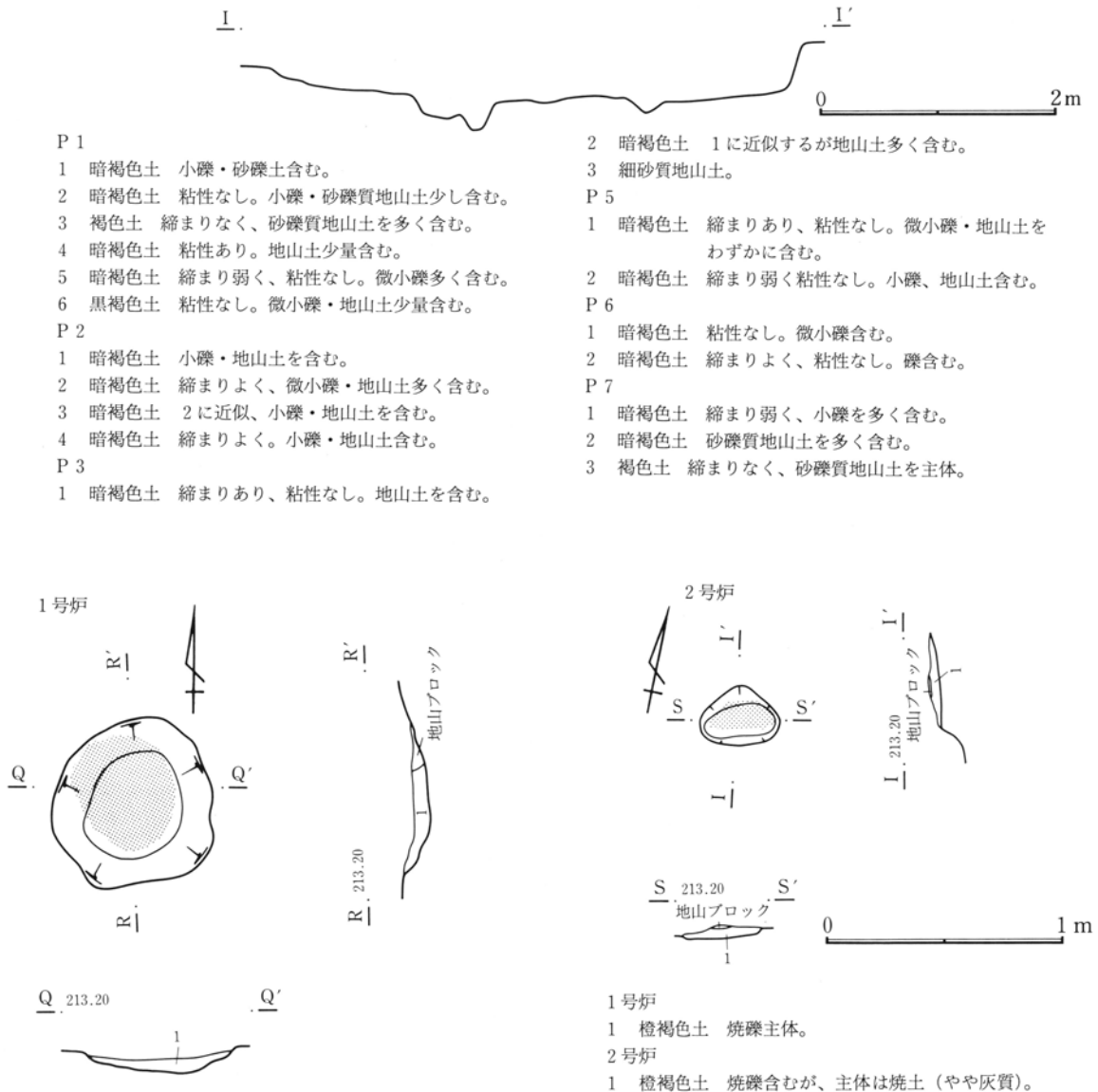
調査所見 C15号住居跡を切って構築されている。大形の住居でC15号住居跡とほぼ同規模である。



第94図 C10号住居跡(1)



第95図 C10号住居跡(2)



第96図 C10号住居跡炉

C15号住居跡 (第103・104・434図 PL. 5・248)

位置 Bs・t・Ca-36・37 形状 隅丸長方形 規模 長辺9.54m、短辺(5.98)m、壁高0.63m

重複 C14号住居跡(弥生時代)に大きく西側部分を切られる。 埋没土 礫の混入多く、粗粒の土で埋

まる。 床面 平坦で、比較的締まる。 貯蔵穴 南西隅に検出された。長円形を呈し、径80cm、深さ

は35cmである。 柱穴 主柱穴は、4本と思われるが、南西の柱穴は、確認されなかった。各柱穴は径50～60

cm、深さは50～60cmを測る。また、東壁下に小ピットがやや間隔をもって配される。

炉 検出されなかった。 出土遺物 遺存部分がわずかであったために少なかった。

調査所見 西側大部分をC14号住居跡によって切られているために、遺存状態は良くない。両住居跡はほぼ同時期と判断される。ともに大型の住居で規模も近似している。

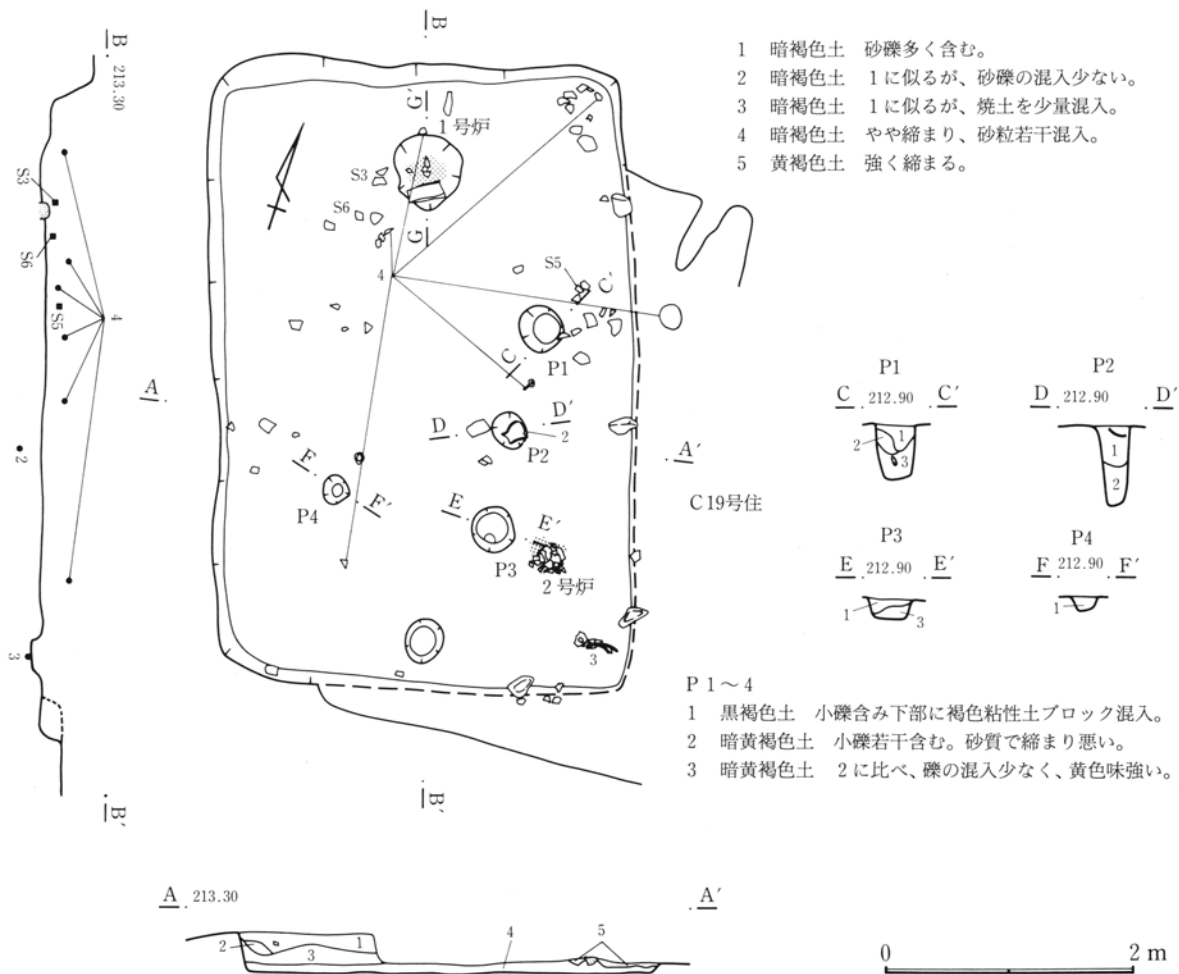
C18号住居跡 (第105～107・435図 PL. 5・153・248)

位置 Cg・h-33・34 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.62m、短辺5.25m、壁高0.30m

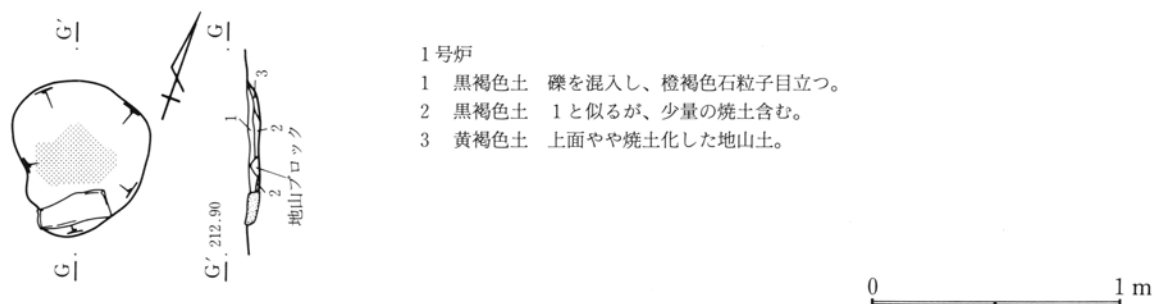
重複 C64号住居跡・C164号住居跡 (弥生時代) を切り、南東隅をC67号住居跡 (古墳時代) に切られ、南西隅にC1号方形周溝墓が掛かる。 埋没土 礫、地山粘質土ブロックを含む砂礫土で埋まる。

床面 比較的平坦であるが、やや軟質な部分が多く、地山の礫層が、かなり露出している。

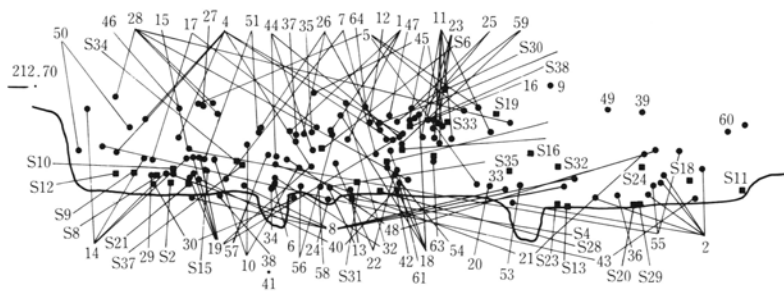
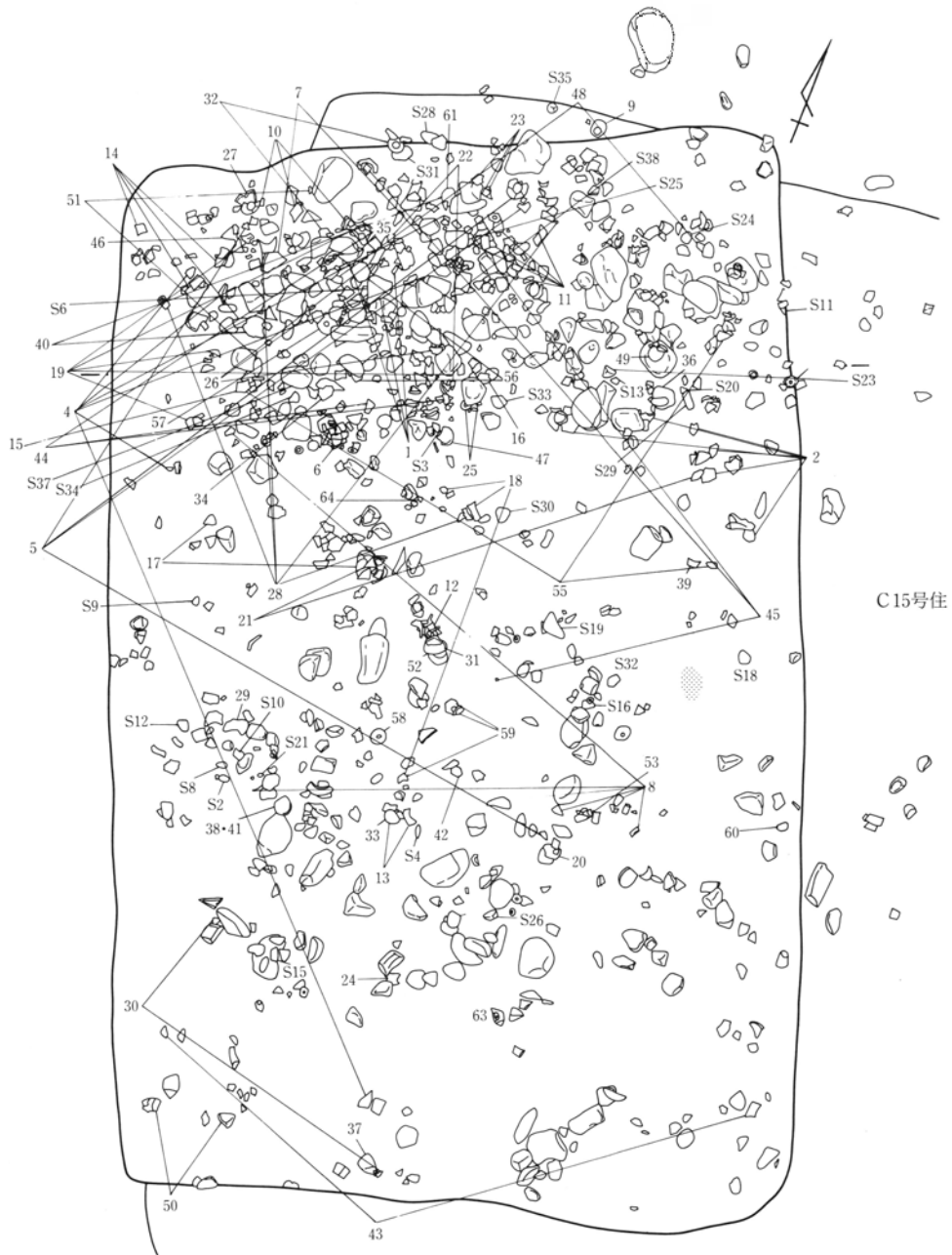
貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 1号炉の両側、およびやや東に寄った所に、2本検出したが、P3は南に寄りすぎており、不確定である。おそらく、主柱穴は6本と考えられるが、東側においては、床面の



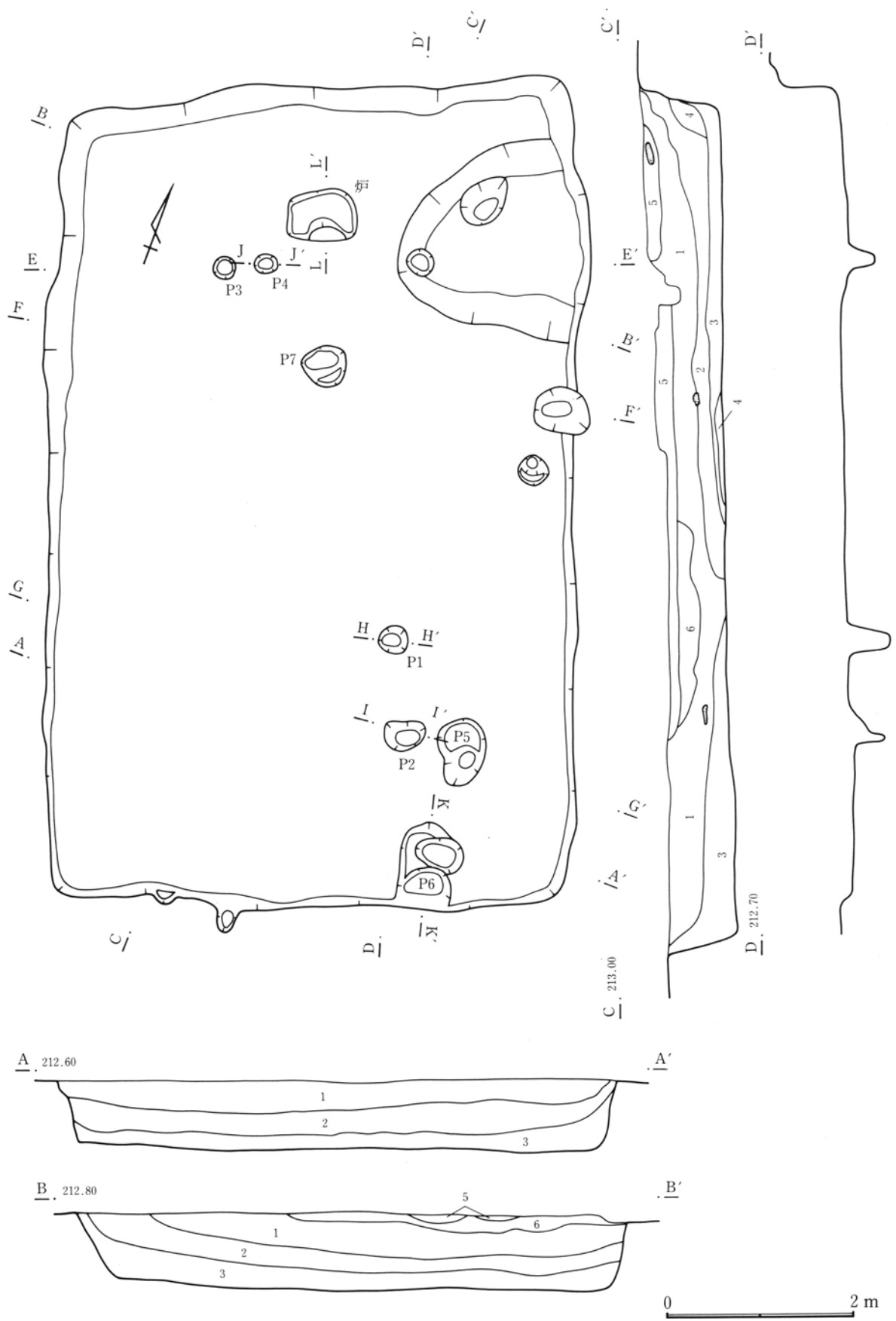
第97図 C13号住居跡



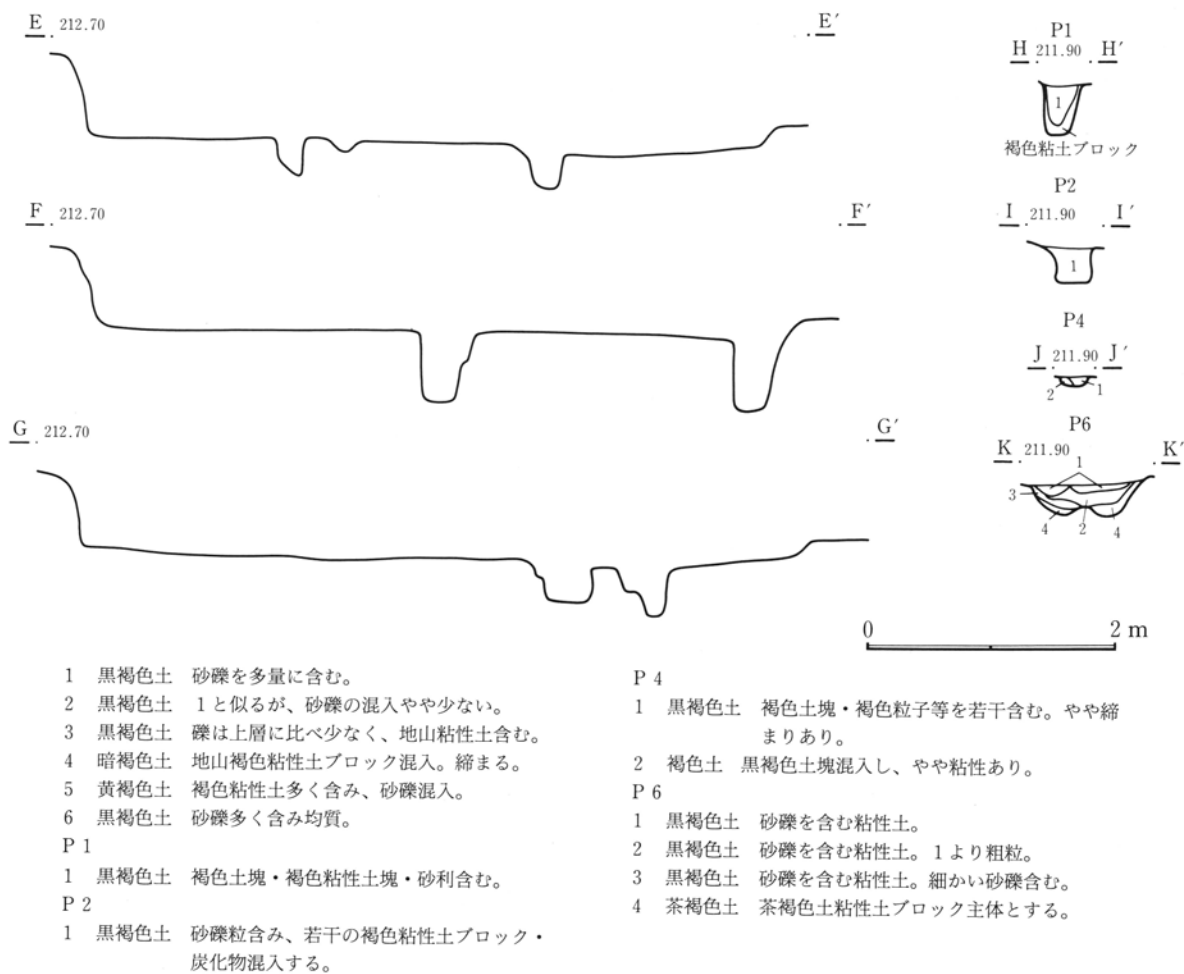
第98図 C13号住居跡炉



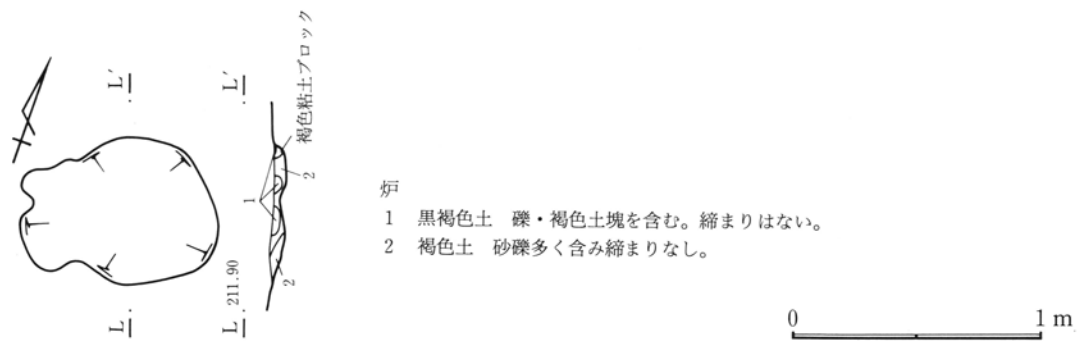
第99図 C14号住居跡(1)



第100図 C14号住居跡(2)



第101図 C14号住居跡(3)



第102図 C14号住居跡炉

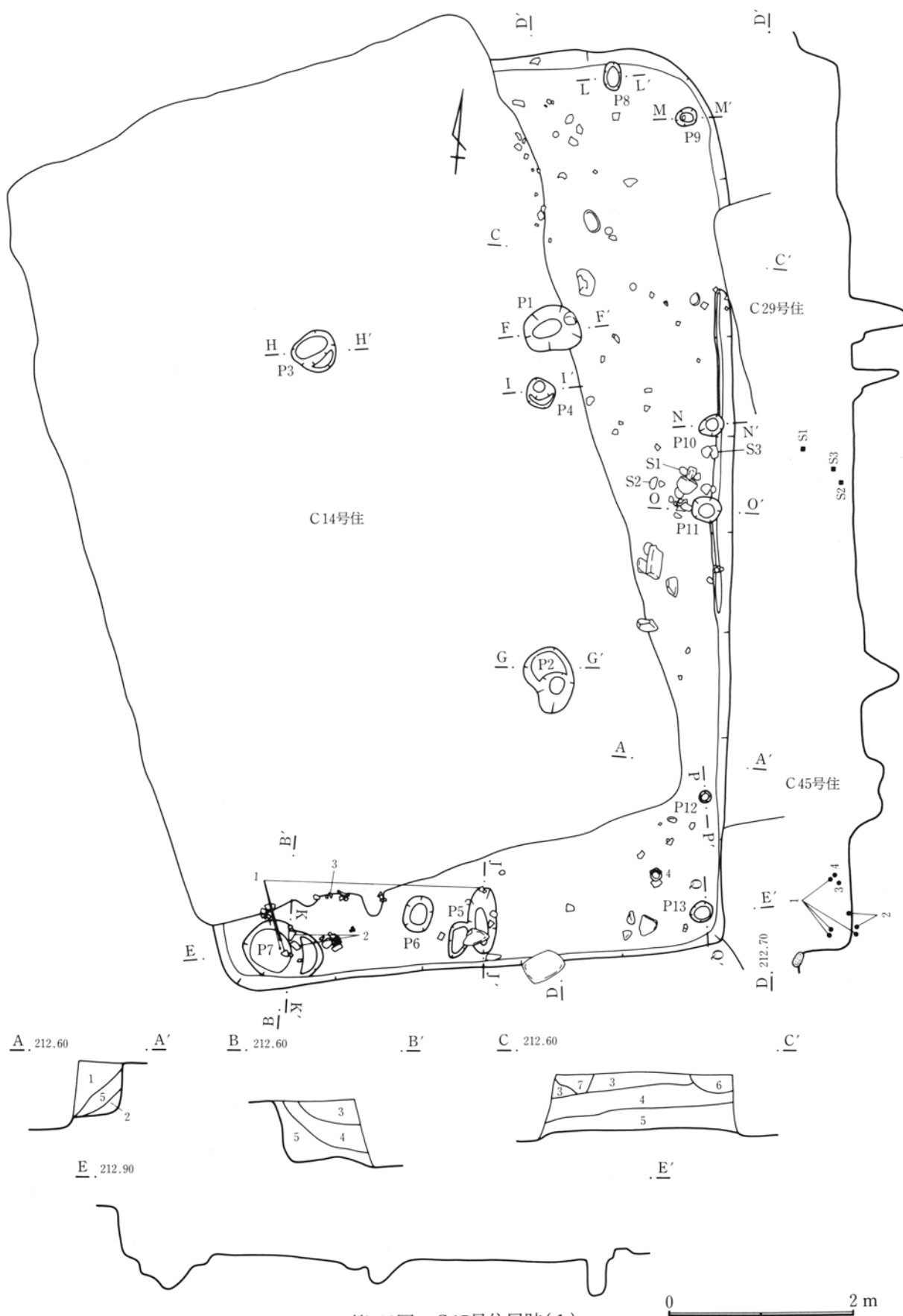
精査を行ったが、重複等もあり、検出できなかった。

炉 3カ所検出した。

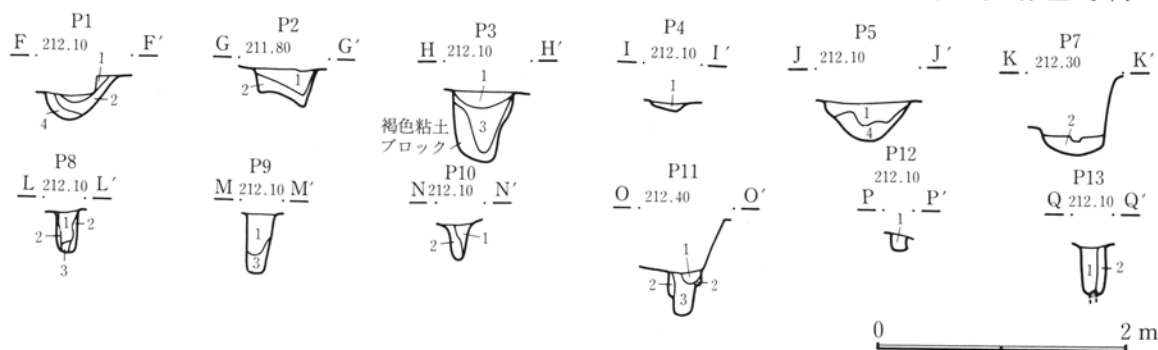
- 1号炉 中央やや北にあり、長さ40cmの砂岩が据えられており、これを囲んで焼土が長円形に広がる。
- 2号炉 地床炉である。住居のほぼ中央に検出、径40cm程に焼土が検出された。
- 3号炉 2号炉の東側1m程の所にあり、50cm程の範囲に広がった焼土が検出されている。

出土遺物 住居東側部分に比較的多く出土している。

調査所見 主軸方向を、ほぼ東西に取るやや大型の住居である。東側がC64号住居跡(弥生時代)に重なる状態で、遺物に関しては一部混乱したところもある。



第103図 C15号住居跡(1)



- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 1 褐色土 細礫、粘土塊が目立つ。               | 3 黒褐色土 灰白色・褐色細礫混入。締めりあり。                       |
| 2 黒褐色土 黄褐色・灰白色粒子の混入目立つ。         | 4 黒褐色土 2と近似、褐色土塊やや多く混入。                        |
| 3 黄褐色土 褐色粘性土、細礫多く含む。            | P 2・7  |
| 4 黒褐色土 礫、灰白色粒子・黄褐色粒子・褐色の礫を多く含む。 | 1 黒褐色土 灰白色・褐色粒子含む、黒褐色、褐色粘性土塊及び、少量の砂利塊が、まだらをなす。 |
| 5 黒褐色土 4と近似するが、大きな礫は含まれない。      | 2 褐色粘性土 地山粘土層。                                 |
| 6 黒褐色土 近世の耕作溝か。褐色粒子多く含む。        | P 5・8～13                                       |
| 7 黒褐色土 砂礫・褐色粒子混入。               | 1 黒褐色土 粘性の強い黒褐色土ブロックを混入する砂礫土。                  |
| P 1・3・4                         | 2 茶褐色土 きめの細かい粘性土。                              |
| 1 黒褐色土 灰白色細礫、粒子多く含む。粗粒で褐色土塊混入。  | 3 黒褐色土 砂礫を混入する黒褐色の粘性土。                         |
| 2 黒褐色土 細礫の混入なく締まる、褐色土塊混入。       | 4 黒褐色土 褐色土塊・褐色・灰白色粒子含む。やや締めりあり。                |

第104図 C15号住居跡(2)

#### C20号住居跡 (第108・109・436・437図 PL. 5・153・154・248・249)

位置 Ca・b—35 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.34m、短辺4.67m、壁高0.45m

重複 北西隅にC43号住居跡(古墳時代)がわずかに掛かり、東側にC50号住居跡(弥生時代)が、さらにC49号住居跡(古墳時代)が重複している。 埋没土 礫を含み、かなり粗粒な黒褐色土で埋まる。

床面 平坦で良く締まる。 貯蔵穴 南壁際に検出された。壁に接して掘り込まれており、不定形で深さは25cm程で、斜めに掘り込まれている。

柱穴 4本中3本を検出した。南東に位置するものは、C49号住居(古墳時代)によって削られている。径はそれぞれ、25～30cmで深さはいずれも50cmで、ほぼ垂直に掘り込まれる。

炉 北側柱穴間に検出された。炉石は見られず、やや高まりをもった焼土が2カ所、近接して認められた。

出土遺物 やや大型の礫に混じり壺、甕類が見られた。

調査所見 東側約3分の1をC49号住居(古墳時代)に、北壁はC43・88号住居跡によって削平されているが、西壁は約40cmを測る。

#### C21号住居跡 (第110・111・438図 PL. 6・154・249)

位置 Cd・e—41・42 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.88m、短辺3.84m、壁高0.48m

重複 南壁をC7号住居跡(古墳時代)に切られる。また、東側にはC6号住居跡(弥生時代)が、横並びに重複しているが前後関係は判断できなかった。 埋没土 礫を多く含む砂礫土で埋まる。

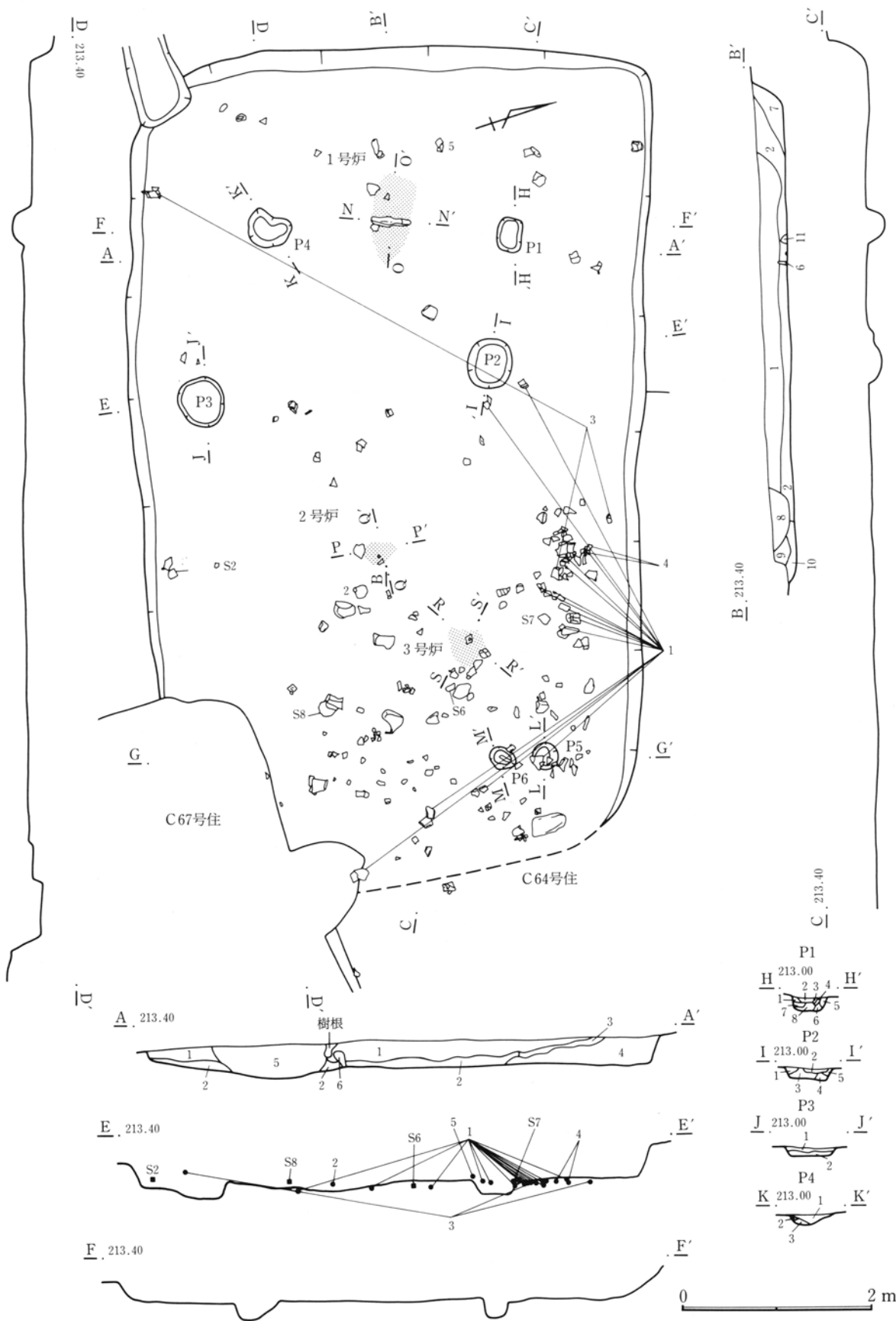
床面 凹凸が顕著で、あまりしっかりしない。部分的に地山土が露出している。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 対角線上に4本検出された。径30～40cmで、深さは40～50cmである。

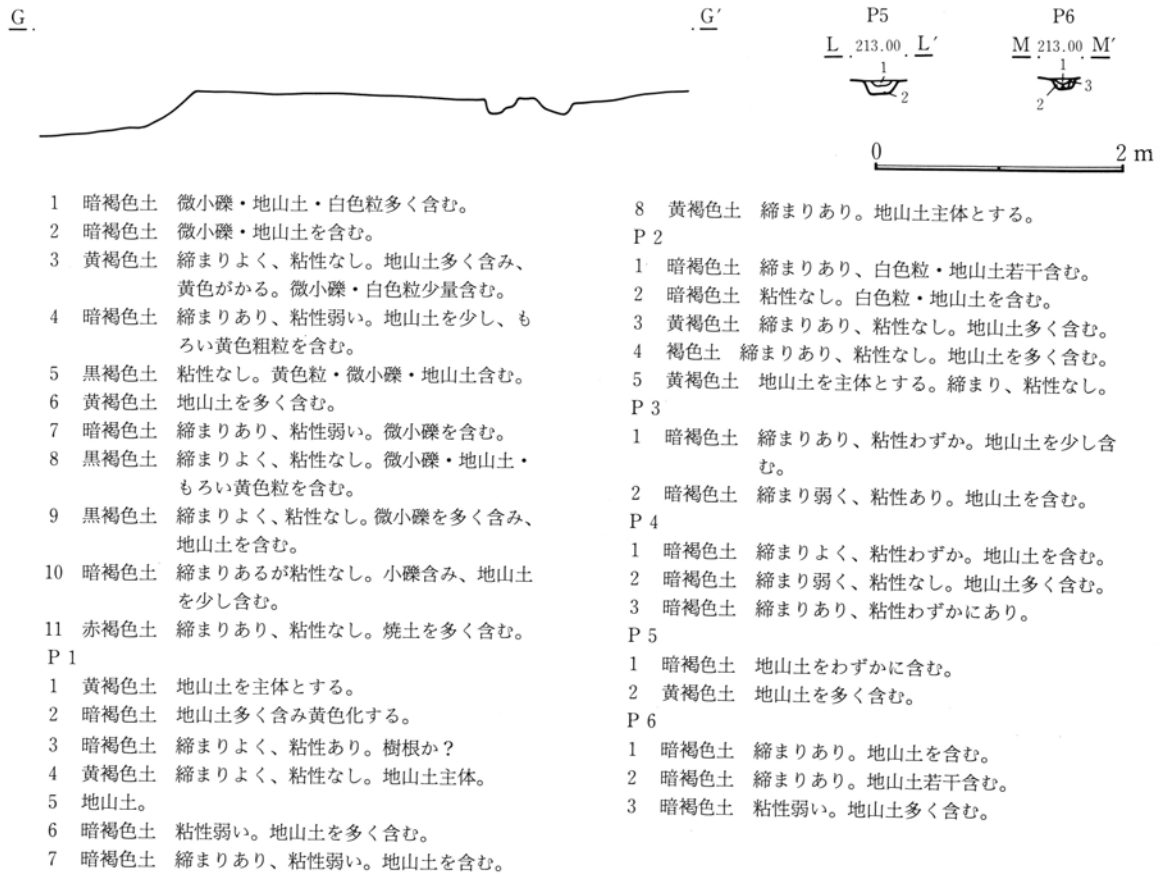
炉 3カ所検出した。

1号炉 北側柱穴間に長さ35cm程の石を据え、その北側に若干の焼土が認められた。

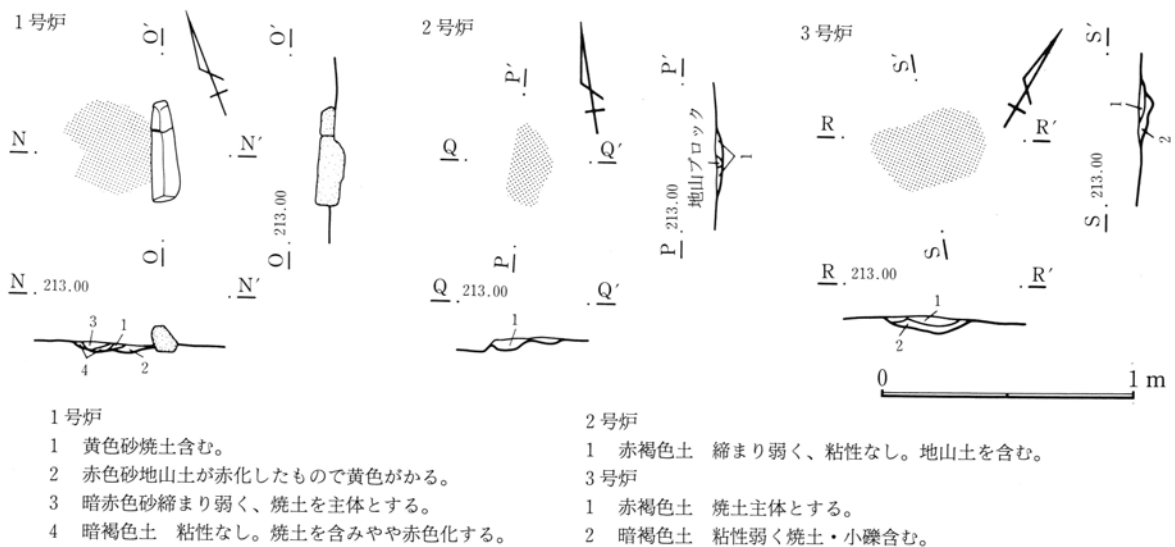
2号炉 西側柱穴間に不定形な焼土の広がりが見られた。厚さは約5cmである。



第105図 C18号住居跡(1)



第106図 C18号住居跡(2)

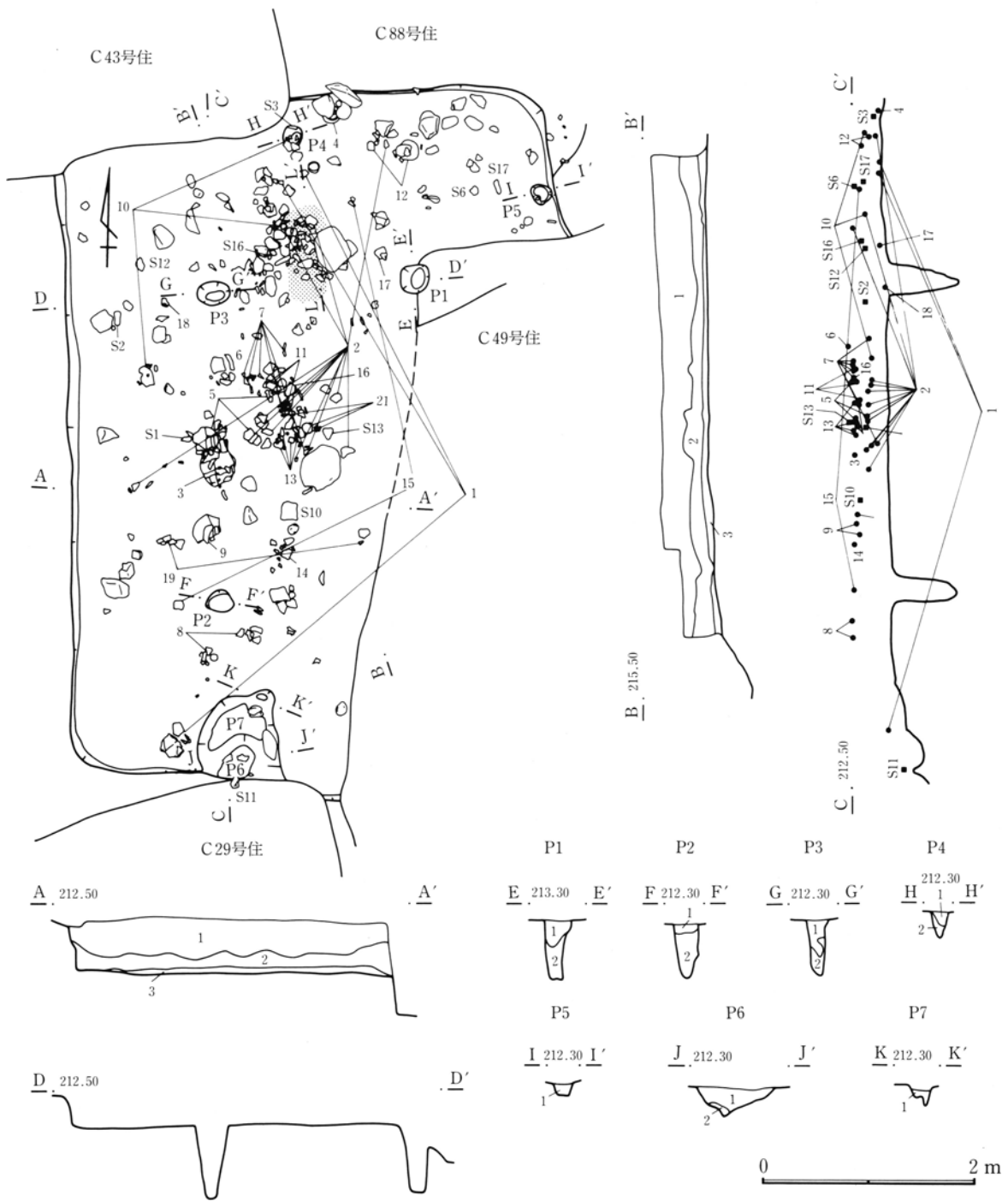


第107図 C18号住居跡炉

3号炉 2号炉の南1mの所に径20cmの焼土の広がりを検出した。厚さ5cm程で、断面はレンズ状を呈す。

出土遺物 少ない。壺、甕、鉢、蓋等が出土している。

調査所見 東側にC6号住居跡(弥生時代)が壁を接する様に重複する。床面の高さはC21号住居のほうがやや低く、東壁の掘り込みを僅かに認めた。両者の前後関係ははっきりしない。

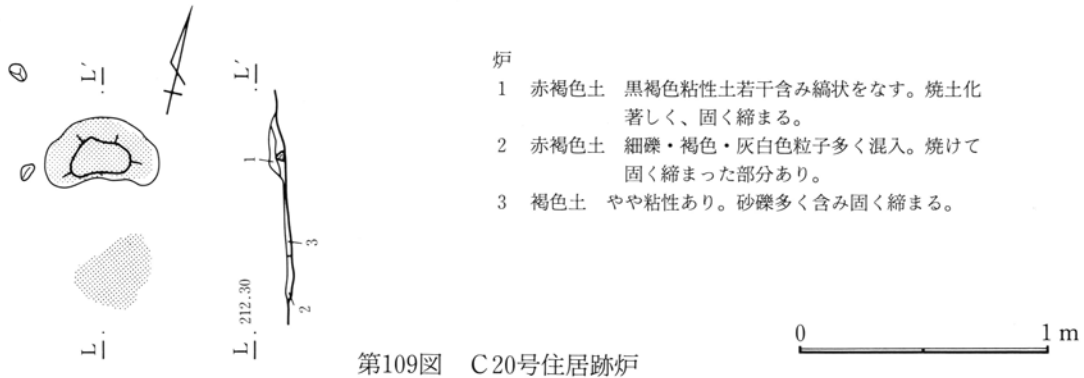


- 1 黒褐色土 砂礫多量に混入。粒子は均一ではなく、全体に粗くこぶし大の礫混入。
- 2 黒褐色土 砂礫及び褐色土粒子混入。
- 3 黒褐色土 砂礫、褐色土粒子若干混入。粒は細かく締まっている。

P 1 ~ 5

- 1 黒褐色土 砂礫・灰白色粒子・褐色土粒・褐色粘性土を含み、一部褐色土と斑状をなす。
  - 2 黒褐色土 砂礫、褐色粘性土若干混入。締まりあり。
- P 6・7
- 1 黒褐色土 砂礫・砂利・褐色土粒・土塊等混入。炭も若干混じる。
  - 2 褐色土 粒子は粗く締まっている。

第108図 C20号住居跡



C22号住居跡（第112～114・439・440図 PL. 6・155・249）

位置 Bt・Ca—40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺8.46m、短辺7.68m、壁高0.60m

重複 西壁部分にC102号住居跡（平安時代）、C111号住居跡（古墳時代）が重複する。またC23号住居跡（弥生時代）の一部が、北東部分に掛かる。また、覆土上層中には近世の洋梨子型土坑が2基掘り込まれていた。

埋没土 礫を多く含む。床面 凹凸が顕著で、軟質。貯蔵穴 南壁のやや東寄りに作られる。中段を持ち、不定形で深さは約20cmである。柱穴 東側の南北列は3本が検出されたが、西列については検出されなかった。

炉 中央北よりに作られる。不定形な焼土の広がりが検出され、周辺部は凹凸が顕著である。

出土遺物 ほぼ全面から多くの土器類が出土している。壺、甕、高坏、鉢、ミニチュア土器、紡錘車等が見られる。

調査所見 調査工程の都合で、2回に分けて調査を行った。西壁が東壁に比べ短く、台形を呈すやや不定形な形状である。出土遺物は比較的多かった。

C23号住居跡（第115・442図 PL. 6）

位置 Ca—40 形状 不明 規模 不明

重複 C22号住居跡（弥生時代）にほとんど壊され、北東隅部分がわずかに残るのみである。

埋没土 礫を含む。床面 面的には検出できなかった。貯蔵穴 不明。柱穴 不明。

炉 不明。出土遺物 数点の甕類が出土している。

調査所見 北東隅のごく一部を検出したのみで、全容は不明である。

C25号住居跡（第116・117・441図 PL. 7・156）

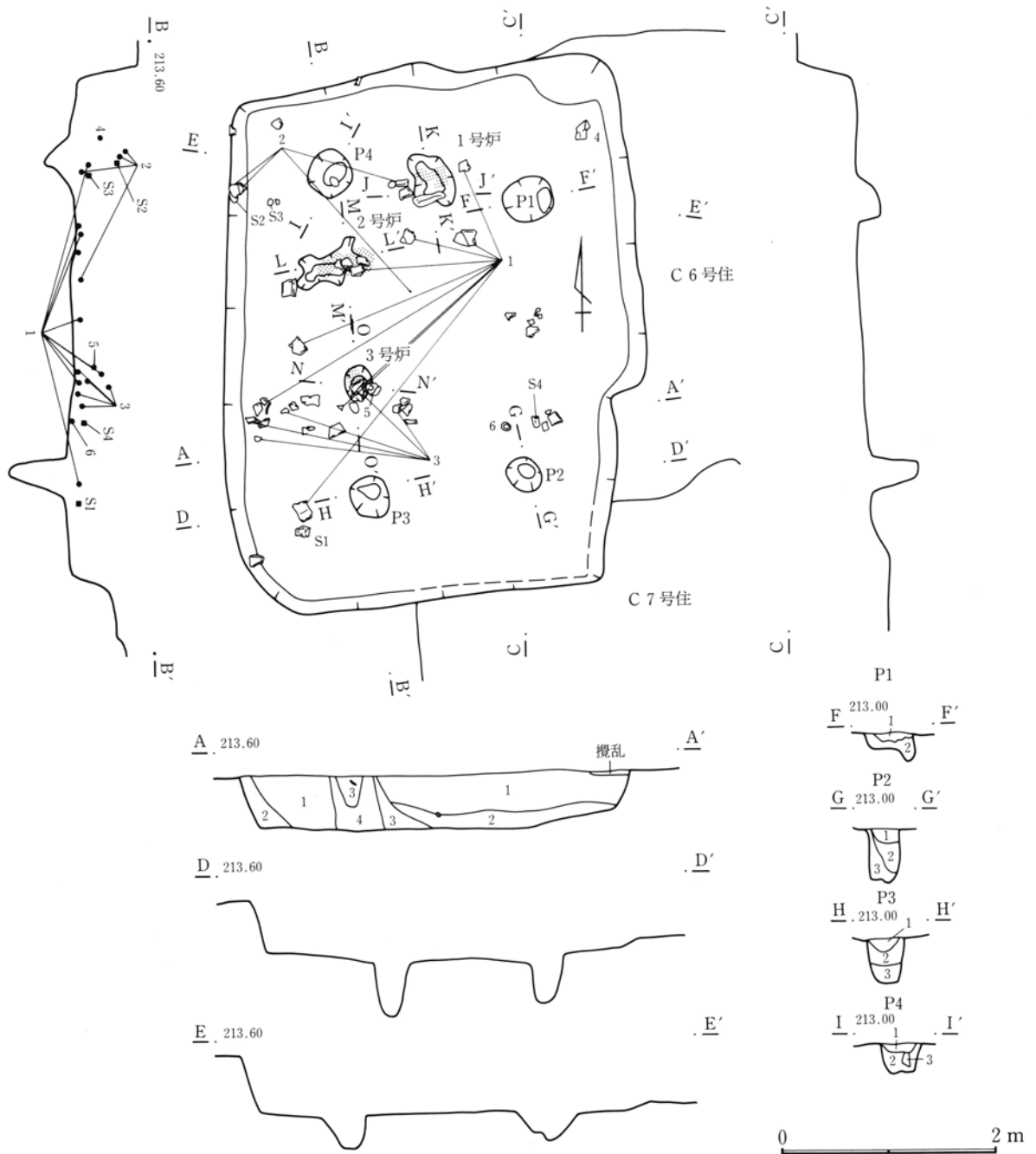
位置 Ca・b—37・38 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.40m、短辺4.58m、壁高0.26m

重複 東側の一部をC26号住居跡（古墳時代）に壊される。また西壁にはC39号住居跡（弥生時代）が、北壁をC44号住居跡（弥生時代）がわずかに本住居を切る。埋没土 砂礫多く含み、粗粒。地山の黄褐色粘質土を部分的に含む。床面 平坦であり締まりは良くない。

貯蔵穴 明確なものは検出されなかった。

柱穴 東側壁寄りに2本を検出し、さらに南西側に1本検出したが、北西部については検出されなかった。

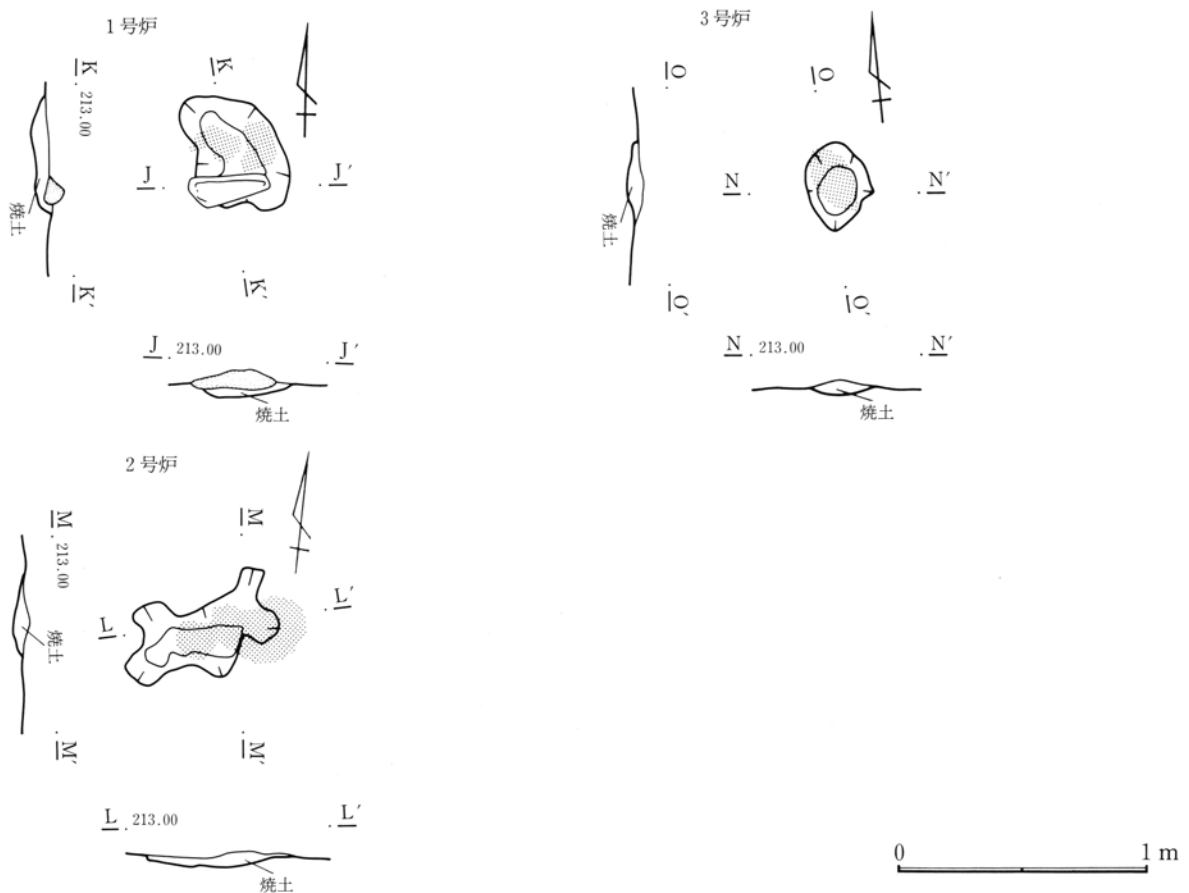
炉 東側やや北寄りに検出した。長さ30cm程の角柱状の石が据えられ、周囲に若干の炭化物を含む焼土が認められた。



- 1 黒褐色土 締まりあり、砂質で砂礫の混入少ない。
- 2 黒褐色土 締まり弱く、砂質、小礫わずかに含む。
- 3 黒褐色土 締まりあり、砂質で小礫多く含む。
- 4 褐色土 締まり弱く砂質で砂礫多く含む。
- P 1
- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。小礫多く含む。
- 2 黄褐色土 砂質地山土を主体とする。
- P 2
- 1 暗褐色土 締まり弱く、小礫を含む。
- 2 暗褐色土 粘性なく、砂質で微小礫を多く含む。

- 3 褐色土 締まり弱く、粘性なし。砂礫質地山土含む。
- P 3
- 1 黒褐色土 締まり弱く、砂礫質地山土を含む。
- 2 褐色土 締まりあり、砂質地山土を多く含む。
- 3 褐色土 締まり弱く、粘性なし砂礫質地山土を含む。
- P 4
- 1 暗褐色土 粘性なく締まる。小礫多く含む砂質土。
- 2 暗褐色土 締まり弱く砂礫質、地山粘土多く含む。
- 3 黄褐色土 締まり、粘性なし。砂質地山土ブロック。

第110図 C21号住居跡



第111図 C21号住居跡炉

**出土遺物** 点数は少ない。住居の南西寄りに集中している。1は大形の赤彩壺で、潰れた状態で出土している。

**調査所見** 主軸方向をほぼ東西に取る住居である。南壁部分を除き、重複が著しく各壁の遺存状況は悪い。住居内の施設も、炉以外は明確には検出できなかった。また、住居中央に試掘トレンチの跡が掛かる。

#### C27号住居跡 (第118・119・443図 PL. 7・156・250)

**位置** Cc・d-41 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺7.43m、短辺(5.50)m、壁高0.51m

**重複** 東側にC4号住居跡(平安時代)、C7号住居跡(古墳時代)、C28号住居跡(弥生時代)が重複しており、およそ半分は壊されている。 **埋没土** 礫を多量に含む黒褐色土で埋まる。

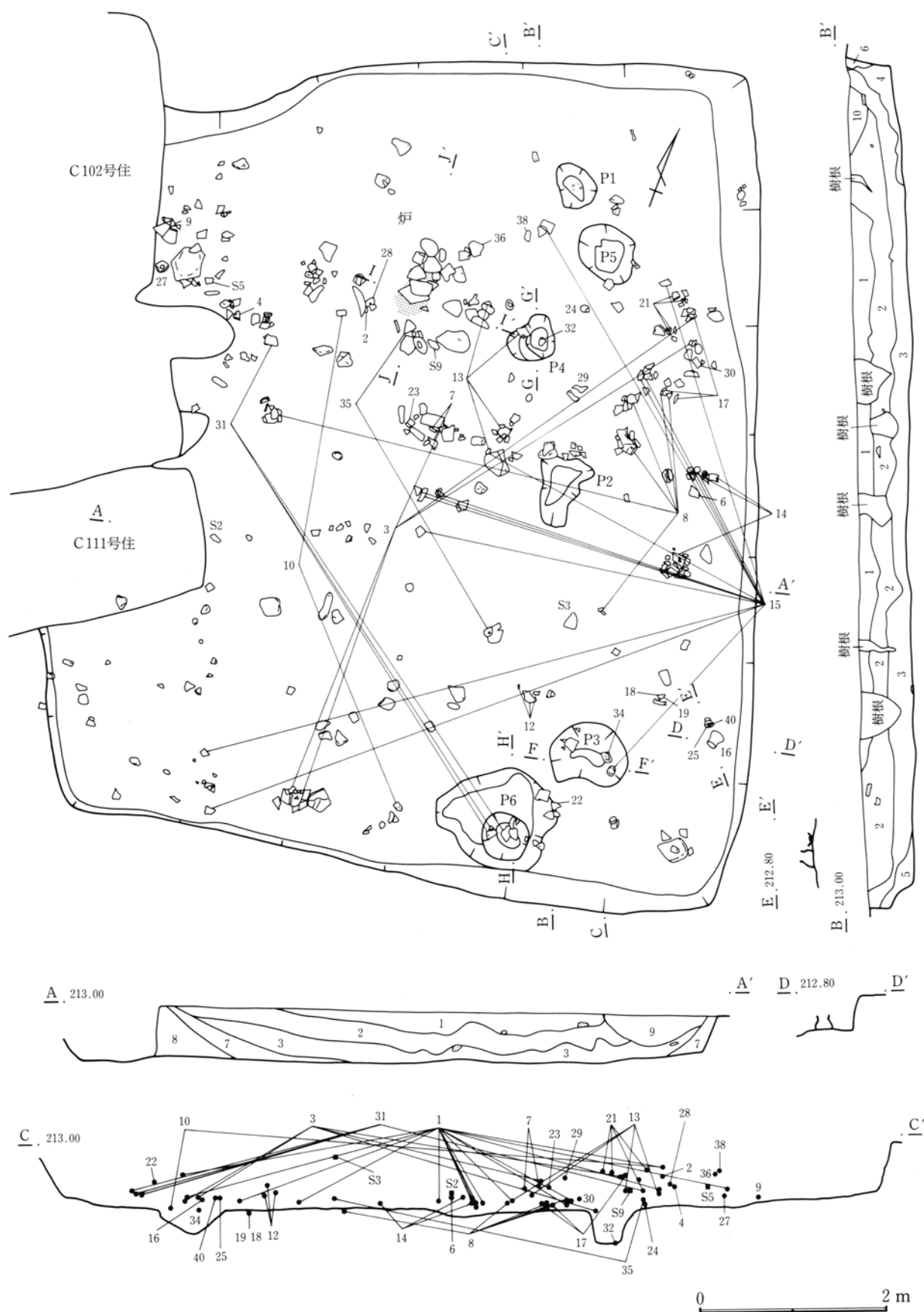
**床面** やや凹凸を持ち、部分的に地山土が露出している。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 4本と思われるが、東側列は削平されている。また炉の位置する中央線上に3本のピットが検出されている。

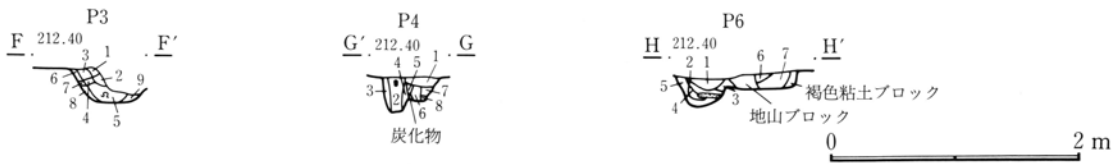
**炉** 中央やや北寄りに作られている。浅い掘り込みを持ち、長さ30cm程の石が据えられている。地山の砂礫層が厚さ10cm程焼土化している。

**出土遺物** 比較的少ない。

**調査所見** 東側半分近くが他の住居に寄って壊されていた。また、西壁は高さ45cmと、比較的残りは良かったが、かなり外側に膨らんでいる。



第112図 C22号住居跡(1)



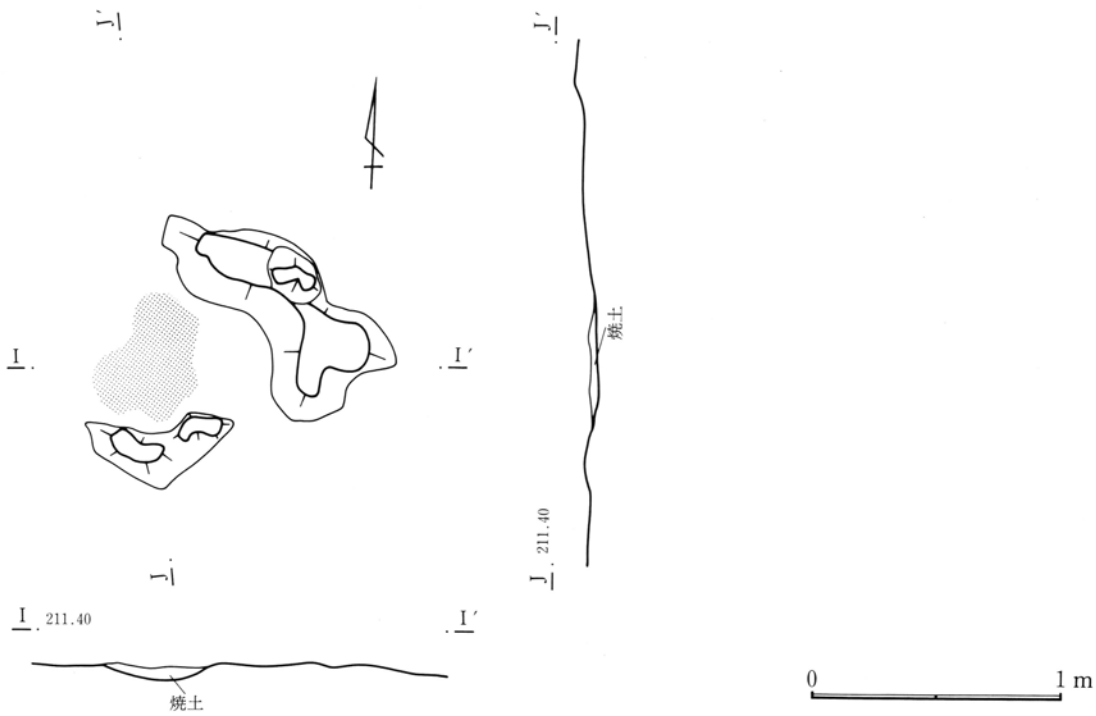
- 1 黒褐色土 締まりよく、粘性わずか。小礫多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を含む。
- 3 褐色土 小礫・炭化物・砂礫質地山土を少し含む。
- 4 褐色土 微小礫含む。やや硬質。
- 5 褐色土 締まりよく、小礫、地山土を多く含む。
- 6 黄褐色土 地山土を多く含む。硬質。
- 7 暗褐色土 締まりよく、硬質。小礫多く含む。
- 8 褐色土 微小礫・地山土少量含む。
- 9 褐色土 締まりよく、小礫含む。
- 10 暗褐色土 小礫、地山土含む。

- P 3
- 1 暗褐色土 白色粒・小礫少し含む。
  - 2 褐色土 粘性なし。白色粒・黄色粒を多く含む。
  - 3 暗褐色土 白色粒、炭化粒を少し含む。
  - 4 褐色土 締まりあり、粘性あり。白色粒を少し含む。
  - 5 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。炭化物・地山土を多く含む。
  - 6 褐色土 締まり弱く、粘性なし。白色粒を含む。
  - 7 暗褐色土 締まりよく、白色粒若干含む。
  - 8 黄褐色土 黄色粒・白色粒（軽石）多く含む。
  - 9 褐色土 白色粒・黄色粒・粘性土ブロック含む。

- P 4
- 1 褐色土 締まり、粘性弱い。白色粒・地山土を含む。
  - 2 暗褐色土 粘性弱い。砂質で炭化物粒・白色粒・微小礫若干含む。
  - 3 暗褐色土 締まりあるがやや砂質。小礫・白色粒含む。
  - 4 褐色土 締まり弱く、粘性あり。地山土少し含む。やや砂質。
  - 5 黄褐色土 地山土主体とし、炭化物わずかに混入。
  - 6 褐色土 締まりあり、粘性なし。やや砂質。
  - 7 黄色粘土ブロック。
  - 8 暗褐色土 ブロック状。締まり、粘性あり。やや砂質。

- P 6
- 1 暗褐色土 締まりなく、粘性わずか。やや砂質。微小礫若干含む。
  - 2 暗褐色土 締まり弱く、粘性弱い。小礫・微小礫を含む。
  - 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性弱い。やや砂質。
  - 4 暗褐色土 締まりあり、黄色角礫・黄色粒を含む。
  - 5 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。微小礫をやや多く含む。
  - 6 褐色土 締まりなくやや砂質。粘土ブロックを含む。
  - 7 暗褐色土 粘土をブロック状に多く含む。白色粒・軽石粒を少し含む。

第113図 C22号住居跡(2)



第114図 C22号住居跡炉

C28号住居跡（第120・121・444～446図 PL. 7・157・158・250）

位置 Cc・d-40・41 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.51m、短辺4.04m、壁高0.23m

重複 北側をC7号住居跡（古墳時代）に、南西隅をC4号住居跡（平安時代）が、また西側にC27号住居跡が重複する。 埋没土 礫を含む粗粒土で、地山の砂質土を混入。

床面 やや凹凸を持ち、全体に締まりはない。 貯蔵穴 南東隅に検出された。径約60cm、深さは約20cmで、掘り鉢状を呈す。 柱穴 北側に2本を検出したが、南側には明確なものは検出できなかった。

炉 2カ所検出した。

1号炉 北よりの柱穴間に作られている。長さ30cm程の砂岩が据えられ、北側がわずかに掘りくぼめられ内部には焼土が10cm程の厚さで認められた。

2号炉 中央やや西に寄った所に検出された地床炉である。長さ40cm、幅30cmの範囲に焼土が広がる。

出土遺物 比較的多くの壺、甕類が出土している。中央東壁寄りに大型の壺が直立した状態で出土している。

調査所見 重複により部分的には壊されているものの、各壁の遺存状態は良かった。また遺物の出土も多く、大型の壺をはじめ、ほぼ完形の土器の出土が目立つ。

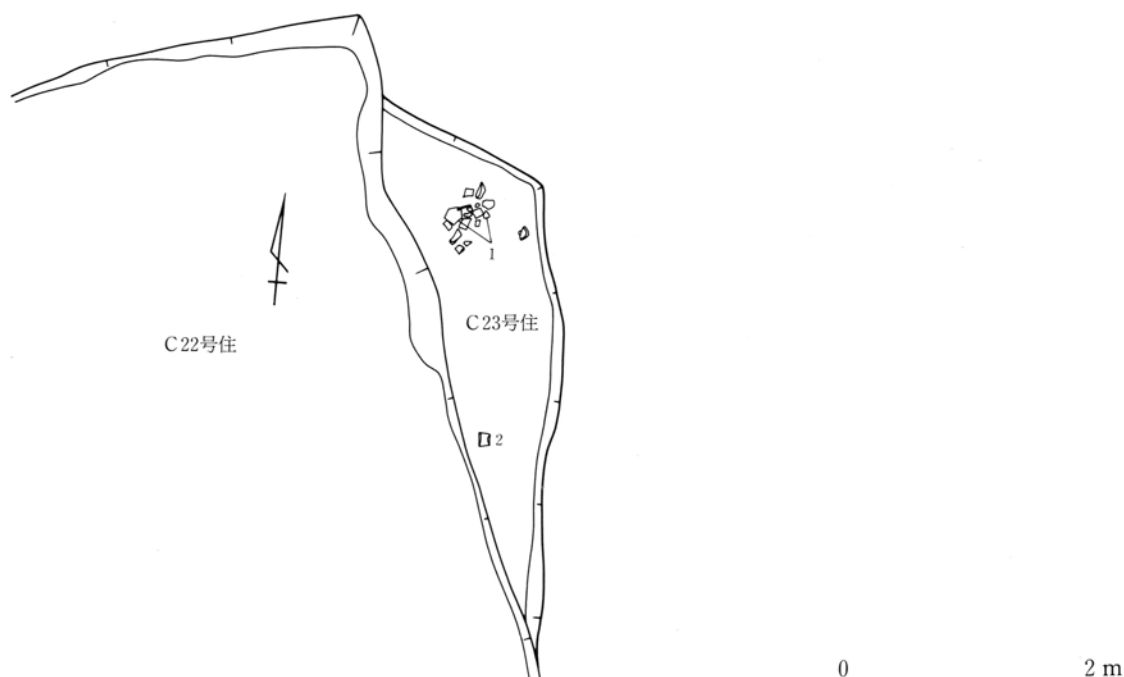
C31号住居跡（第122・123・447図 PL. 8・159・250）

位置 Ce・f-35 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.26m、短辺(4.10)m、壁高0.50m

重複 西側に大きくC12号住居跡（古墳時代）が、東壁部分にC17号住居跡（古墳時代）がそれぞれ重複している。 埋没土 礫を多く含み締まりは良い。 床面 比較的平坦であるが、重複部分は微妙な凹凸が見られる。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ほぼ対角線上に3本を検出した。北西部分のものは径70cmと大きく、深さは約20cmである。他は、径約30cm、深さ10～20cmと比較的浅い。

炉 北側柱穴間に検出された。径50cmに薄い焼土の広がりを持つ地床炉である。



第115図 C23号住居跡

**出土遺物** 遺存部分において、甕、高坏等がわずかに出土している。

**調査所見** 古墳時代の住居に大きく西側を壊されており、遺存状態は良いとは言えなかったが、残りの壁は20～30cmと比較的良好な状態で検出されている。

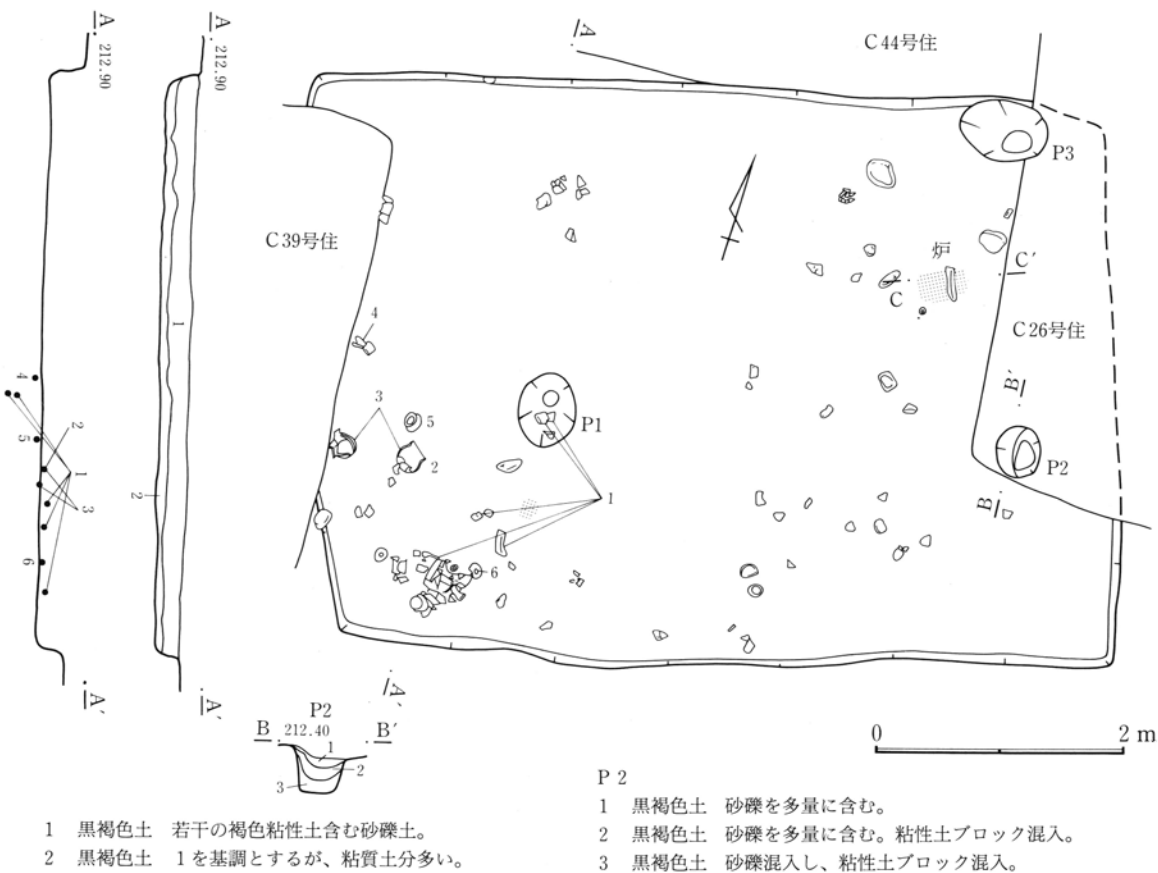
C33号住居跡（第124・125・448図 PL. 8・9・159・250）

**位置** Cb・c—38・39    **形状** 隅丸長方形    **規模** 長辺5.70m、短辺4.58m、壁高0.51m

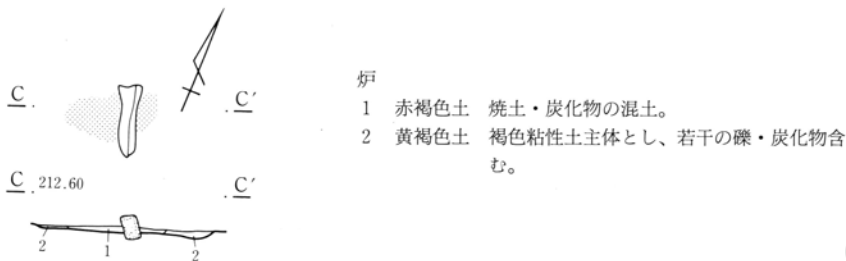
**重複** C39・54（弥生時代）、C89号住居跡（縄文時代）を切って作られる。

**埋没土** 礫を多く含む砂礫土で、黒味が強い。    **床面** 細かな凹凸は見られるものの、平坦で締まりもあるが、掘りすぎた部分もあり、明確な使用面を把握する事はできなかった。    **貯蔵穴** 検出されなかった。

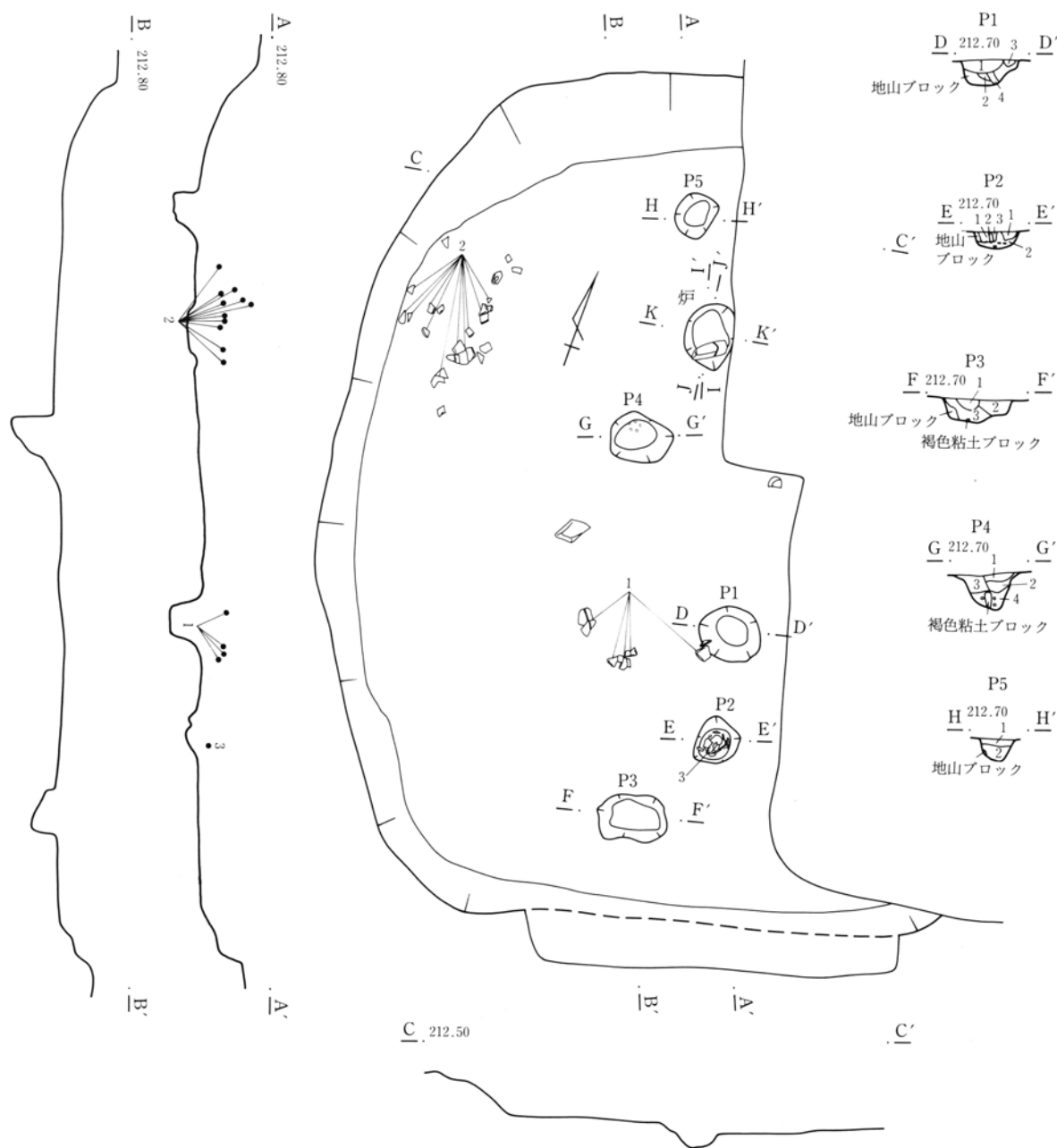
**柱穴** 対角線上に4本を検出した。長径30～50cm、短径20cm程で、深さは30～40cmである。いずれも底面は



第116図 C25号住居跡



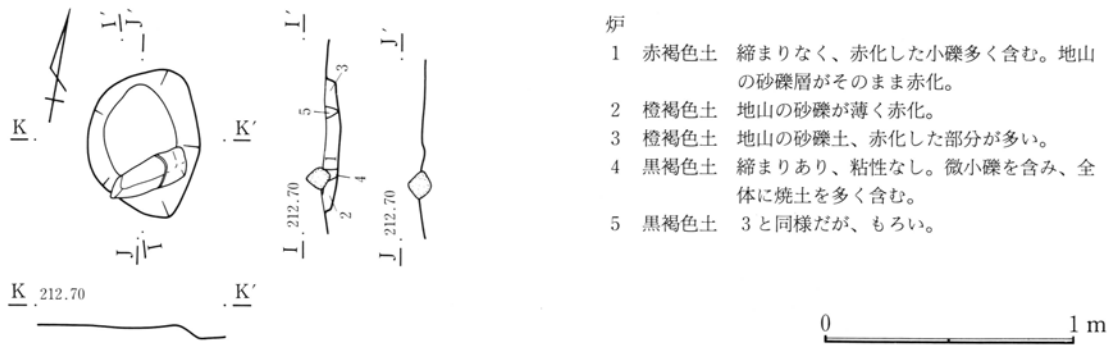
第117図 C25号住居跡炉



- P 1
- 1 暗褐色土 粘性なく粗粒。地山土多く含む。
  - 2 褐色土 1に似るが地山土より多く含む。
  - 3 暗褐色土 やや締まり、微小礫・地山土少量含む。
  - 4 暗褐色土 やや粘性あり。地山土少量含む。樹根か。
- P 2
- 1 暗褐色土 締まりよい。白色粒・地山土含む。
  - 2 黄褐色土 締まりよく、地山土主体、白色粒含む。
  - 3 褐色土 粘性なく。白色粒を含む。
- P 3
- 1 暗褐色土 締まりよく、地山土若干含む。
  - 2 褐色土 締まりよく、小礫・地山土全体に含む。
  - 3 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土多く含む。

- P 4
- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。サラサラ。微小礫・ラミナ質地山土を含む。
  - 2 褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫を全体に含み、ラミナ地山土をブロック状に含む。
  - 3 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・地山土少し含む。
  - 4 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。大小の礫含む。
- P 5
- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫・ラミナ質地山土を少量含む。
  - 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を含む。

第118図 C27号住居跡



第119図 C27号住居跡炉

小さく、長円形を呈す。

炉 2カ所検出した。

1号炉 北側柱穴間に作られている。長さ30cm程の砂岩が据えられ、その北側に若干の焼土が確認されている。また、周辺部に粘土が若干見られた。

2号炉 西壁寄り、南西柱穴近くに径25cm程の範囲に焼土が検出されている。

出土遺物 床面近くより壺、甕類を中心に出土している。

調査所見 各壁もある程度確認でき、炉、柱穴等も確認されている。中型の住居で、主軸をほぼ北方向に取る。粘土塊が住居南側床面より2カ所検出されている。

#### C34号住居跡（第126・127・449～452図 PL. 9・159～161・251）

位置 Ca・b—41・42 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.69m、短辺4.96m、壁高0.35m

重複 西隅をC103号住居跡（平安時代）に切られる。 埋没土 礫を主体とした粗粒土。

床面 やや凹凸が見られ、軟質である。 貯蔵穴 南東隅寄り、壁に接して掘り込まれている。長径60cm、短径40cm、深さ約50cmである。 柱穴 4本と思われるが、南側は3本検出した。

炉 西側柱穴間に作られる。長さ約45cmの河原石が据えられ、西側に厚さ数cmの焼土が見られた。石はかなり火を受けた様子が窺え、中央で二つに割れていた。

出土遺物 比較的多くの出土があり、ほぼ完形の壺、甕類が中央部分を中心に検出されている。

調査所見 調査工程上、住居中央部分をほぼ斜めに、2回に分けて調査をせざるを得なかった。主軸が大きく西に振れている住居である。

#### C38号住居跡（第128～130・453・454図 PL. 10・162・251）

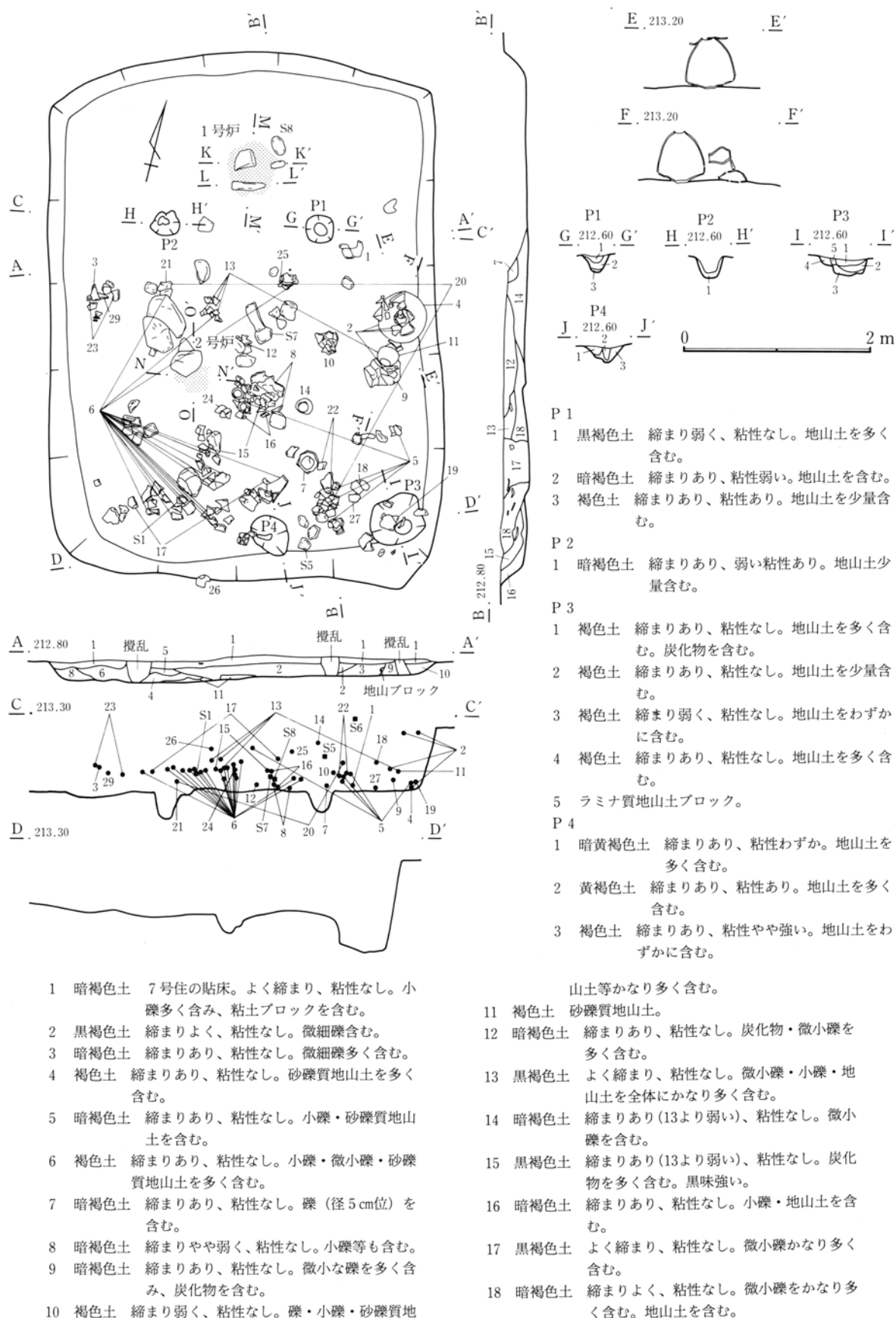
位置 Ce・f—42・43 形状 隅丸長方形 規模 長辺7.84m、短辺5.28m、壁高0.56m

重複 北東隅をC190号住居跡（平安時代）に北西隅をC171号住居跡（奈良時代）が重複する。

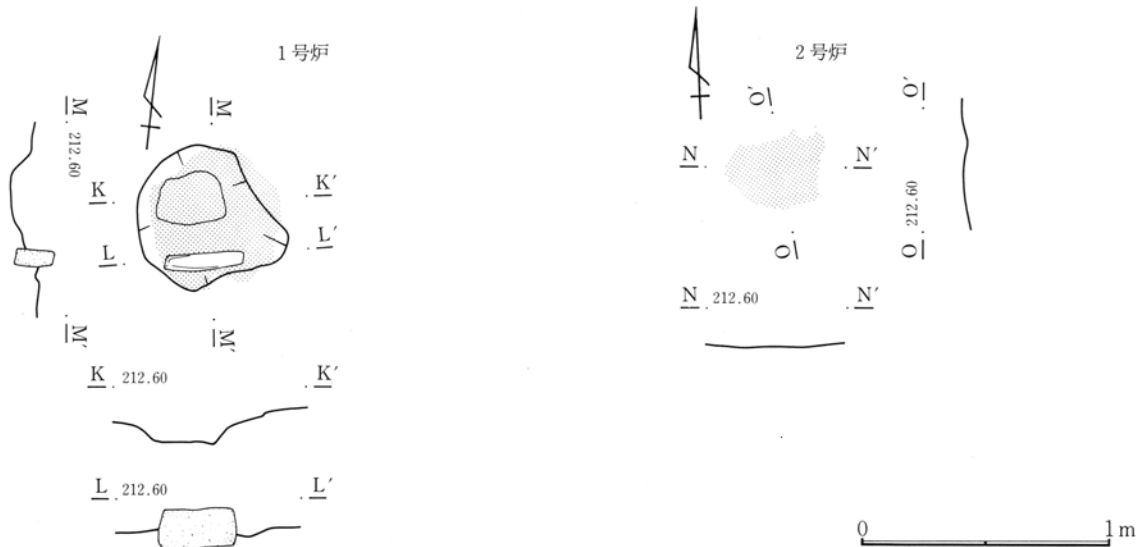
埋没土 礫を多く含み、粗粒な土で埋まる。 床面 比較的平坦で、部分的に厚さ1～2cmの黒褐色土の硬化面が見られるが、地山の礫が露出している部分が多い。 貯蔵穴 南東隅に検出されている。長径80cm、短径70cmで深さは約50cmである。 柱穴 6本柱と思われるが、西側列、東側列ともに間隔が不規則である。いずれも径40～50cmで、底部は小さく、深さ40～50cmである。

炉 3カ所検出した。

1号炉 北側柱穴間に作られる。長さ30cm程の砂岩を据え、焼土を伴う。



第120図 C28号住居跡



第121図 C28号住居跡炉

2号炉 中央やや西側に作られる。長さ30cm程の板状の砂岩が据えられ、西側に若干の焼土を検出。

3号炉 1号炉の南側、P14の北に接して焼土の広がりが見出されている。

**出土遺物** 壺、甕、台付き甕等が出土している。

**調査所見** 主軸をやや西に取る比較的大型の住居である。遺存状態も比較的良好で、出土遺物量も多かった。住居南壁寄りに、入り口部の施設に伴うと思われる、溝状の掘り込み、およびピットが検出されている。

#### C39号住居跡 (第131・455・456図 PL. 10・11・162・163・252)

**位置** Ca・b-38・39 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.34m、短辺(4.43)m、壁高0.45m

**重複** C54号住居跡(弥生時代)と大きく重なり、北側にはC33号住居跡・東側にはC25号住居跡(弥生時代)が重複する。このため、壁はやや明確さに欠ける部分がある。 **埋没土** 黒褐色土で礫を多く含む。

**床面** 重複部分については凹凸が見られ、軟質である。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 明確なものは検出されなかった。

**炉** 住居の南西寄りに焼土の広がりを検出、やや高まりを持った焼土塊、および炭化物が不定形な広がりを持つ。

**出土遺物** やや浮いた状態で出土したものが多かったが、床面直上より検出されているものも見られる。

**調査所見** 他の住居と大きく重複しており、壁、床面ともに明確さに欠けるが、形状、規模はおおよそ確認することができた。土器とともに礫が多く出土している。

#### C44号住居跡 (第132・133・457図 PL. 11・163・252・253)

**位置** Cb・c-37 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.50m、短辺4.63m、壁高0.43m

**重複** 南側でC25号住居跡(弥生時代)を切り、南東隅をC26号住居跡(古墳時代)に、北東隅をC35号住居跡(古墳時代)に切られている。 **埋没土** 礫を多く含む粗粒土で、黒味が強い。 **床面** やや凹凸

があるものの比較的平坦で、縮まりもある。 **貯蔵穴** 南東隅の壁寄りに検出された。長径70cm、短径50cmの長円形で、深さは45cmを測る。 **柱穴** 4本を検出。いずれも径が20~30cmで、深さは20~30cmである。南側の2穴は柱間がかなり狭くなっている。

### 第3章 遺 構

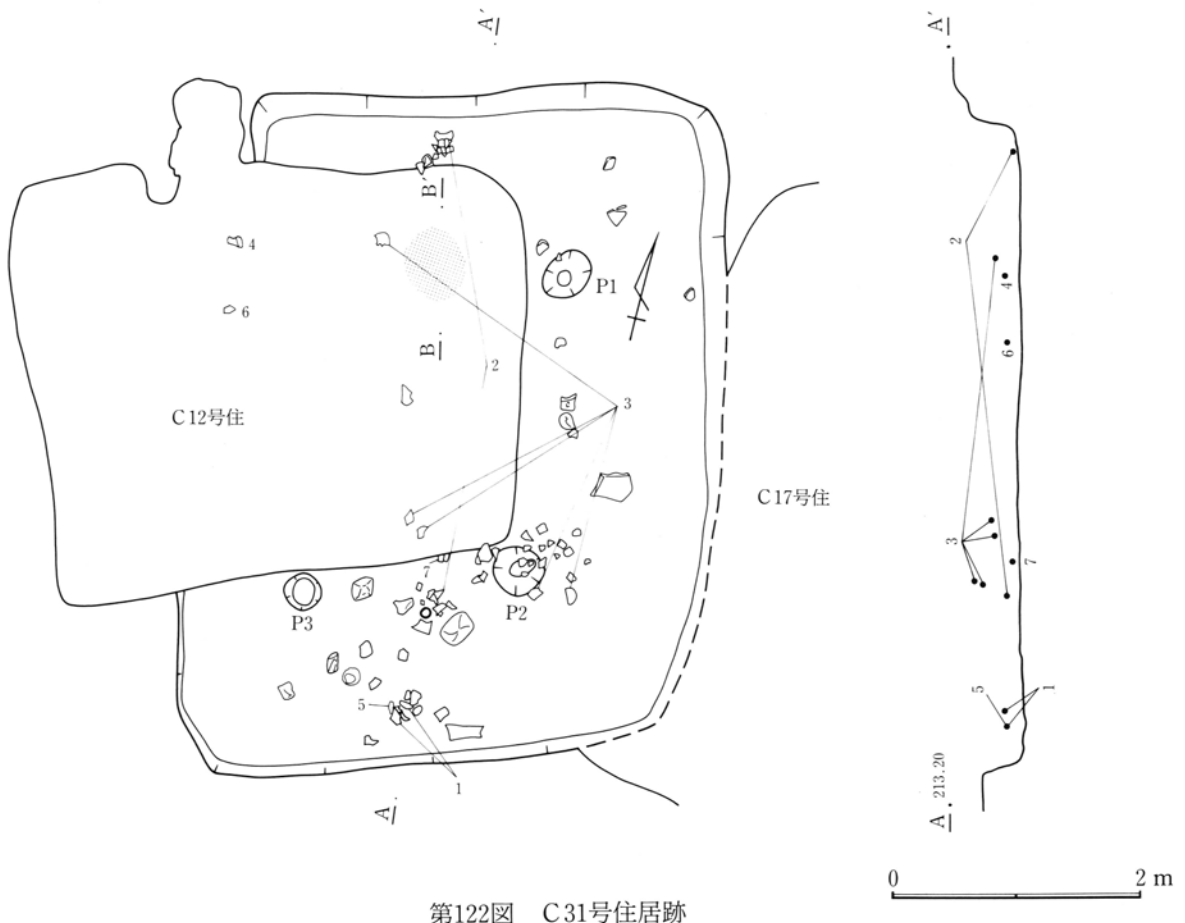
炉 2カ所検出した。

1号炉 中央北側に作られている。長さ40cm、幅15cm程の河原石を据え、周囲を長円形に若干掘りくぼめて使用している。炭化物が多く見られ、下層部分には焼土塊が見られた。

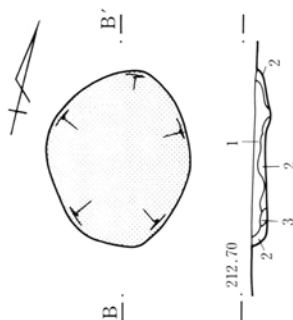
2号炉 中央やや西寄りにあり、長さ20cm、幅10cm程の河原石が据えられ、西側に若干の焼土を認めた。

出土遺物 浮いた状態のものが多く、大型のものはあまり見られなかった。

調査所見 各壁の遺存状態はあまり良くはなかったが、床面の状態はかなり良好であった。南側で重複するC25号住居跡との前後関係は本址のほうが新しいと判断された。



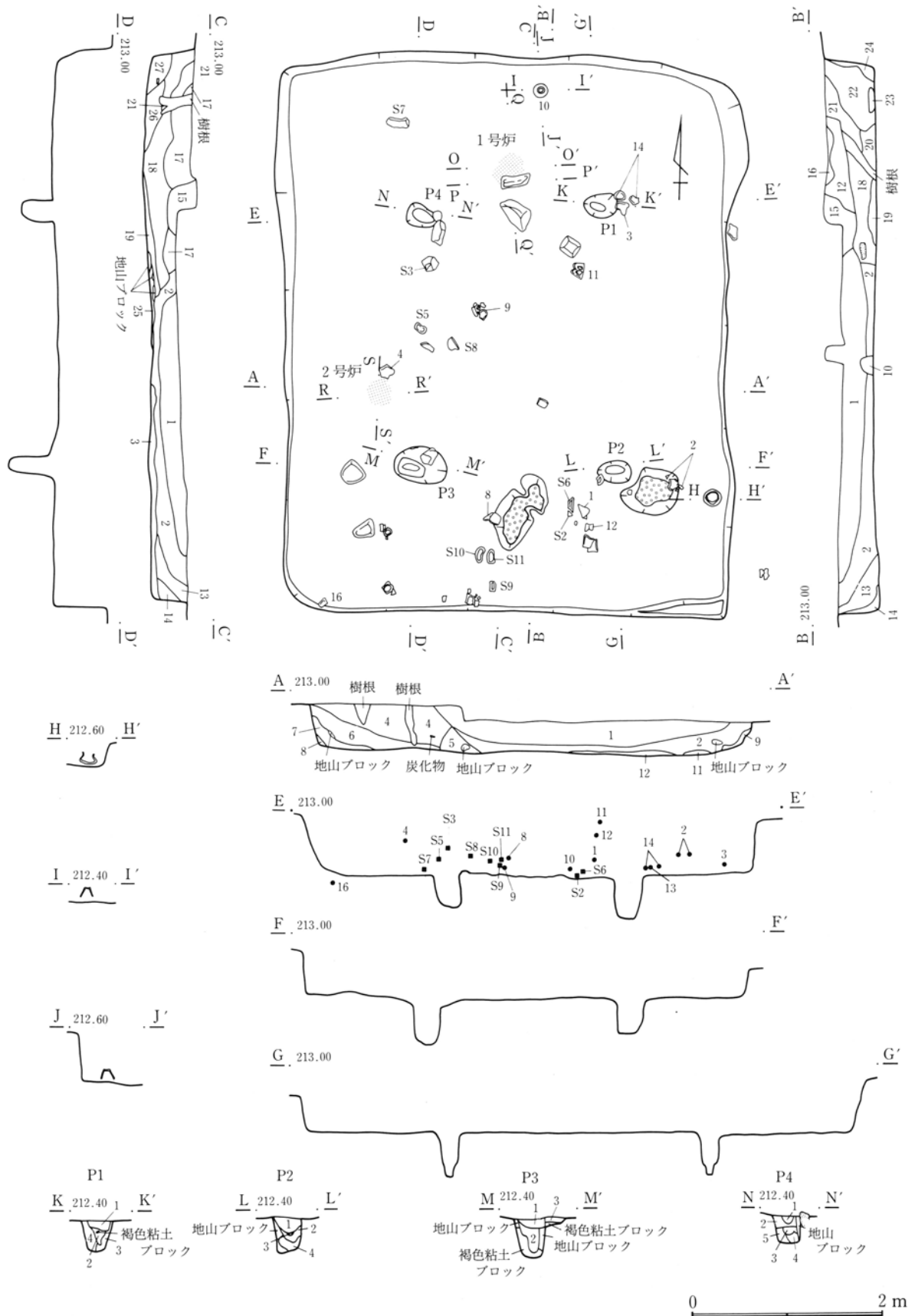
第122図 C31号住居跡



炉

- 1 黒褐色土 細石粒若干含み、やや締まる。
- 2 黄褐色土 細石粒、若干の地山土含み、若干の焼土見られる。
- 3 赤褐色土 焼土塊。

第123図 C31号住居跡炉



第124図 C33号住居跡

### 第3章 遺 構

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・砂礫質地山土（黄色の小粒）を全体に多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりよく粘性なし。1に近似するが混入物少ない。
- 3 暗褐色土 締まりあり、微小礫をわずかに含み、地山土ブロック状に多く含む。33号住の貼床か。
- 4 褐色土 締まりよく、粘性なし。砂礫質地山土と思われる、黄色粒を全体に含む。
- 5 褐色土 やや暗褐色化し、砂礫質地山土ではなく、ラミナ質地山土かなり多く含む。
- 6 褐色土 5より黄色が強い。締まりよく、粘性なし。やや黄色化している。
- 7 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫・ラミナ質地山土を含む。上半は暗色が強い。
- 8 暗黄褐色土 締まりあり、粘性なし。ラミナ質地山土を主体とする。
- 9 暗黄褐色土 締まりあり、地山土を全体にかなり多く含む。微小礫をわずかに含む。
- 10 褐色土 締まりあり、粘性わずか。ラミナ質地山土を非常に多く含む。
- 11 褐色土 地山土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土 小礫を含む。貼床の一部か？
- 13 暗褐色土 締まりあり、粘性わずかあり。微小礫・地山土を少量含む。

#### P 1

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫をわずかに含み、ラミナ質地山土多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。地山土を全体に含む。
- 3 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫をわずか含む。
- 4 暗褐色土 黄色粘土を主体とする。粘性強い。

#### P 2

- 1 暗褐色土 炭化物・微小礫・地山土を含む。
- 2 暗褐色土 微小礫・地山土を含む。
- 3 暗褐色土 粘性があり、混入物少ない。
- 4 暗褐色土 締まり、粘性あり。地山土を少量含む。

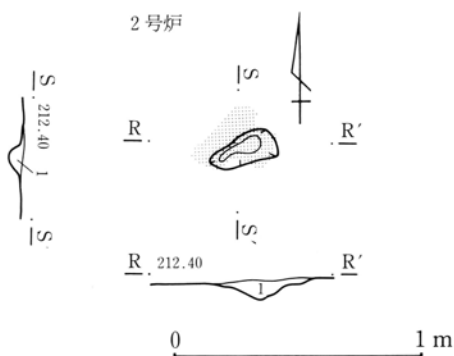
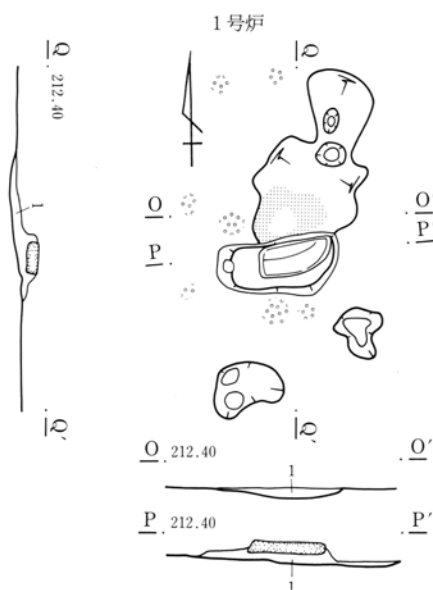
- 14 暗褐色土 締まり、粘性ややあり。微小礫・地山土を少量含む。
- 15 黄褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫・山土多く含む。
- 16 黄褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫・暗褐色土ブロック含む。
- 17 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。礫・地山土を多く含む。
- 18 淡黄褐色土 微小礫、ラミナ質地山土をかなり多く含む。
- 19 黒褐色土 小礫を多く含み、上面にラミナ質地山土層が見られる。
- 20 暗褐色土 締まりはよく、粘性なし。微小礫・ラミナ質地山土を含む。
- 21 褐色土 締まりよく、粘性なし。大小の礫を含み、ラミナ質地山土を多く含む。
- 22 黄褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫を含む。
- 23 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む部分。
- 24 黄褐色土 砂礫質地山土。
- 25 褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土ブロックを水平に帯状に含む。
- 26 褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫を含み、ラミナ質地山土を全体にかなり多く含む。
- 27 黄褐色土 粘性なし。ラミナ質地山土を主体とする。22より礫少ない。

#### P 3

- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫を含み、地山土をかなり多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。微小礫・地山土・粘土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫・地山土ブロックを含む。

#### P 4

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性ややあり。微小礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 1に近似、粘土ブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり。微小礫・地山土を少量含む。
- 4 暗褐色土 締まり、粘性あり。
- 5 暗褐色土 4に近似するが、粘土質。



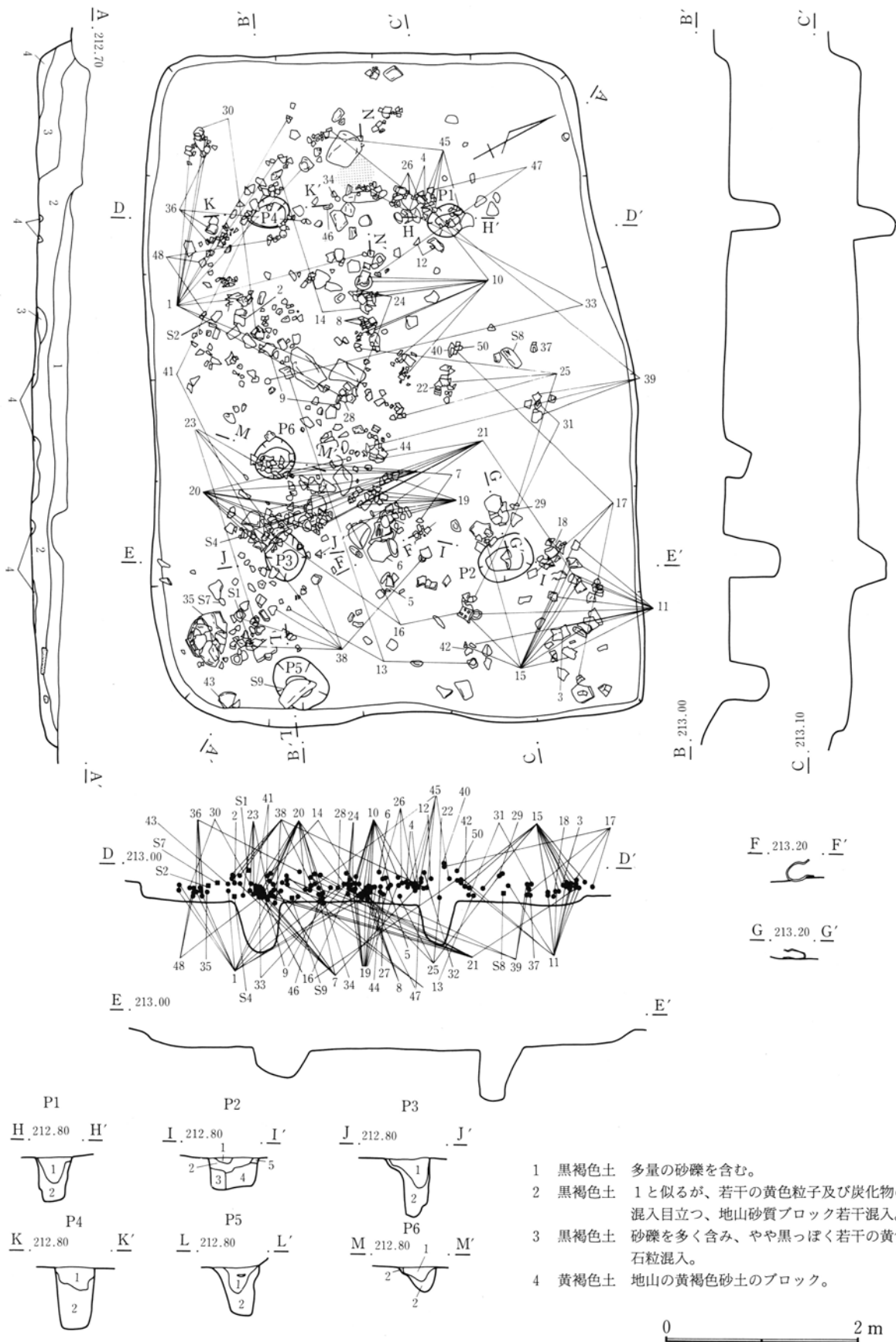
#### 1号炉

- 1 暗赤褐色土 粘性なし。黒褐色土多く含む。石の下部では、黒褐色土主体。焼土・炭化物含む。

#### 2号炉

- 1 赤褐色土 砂礫地山土が焼けて赤化したもの。

第125図 C33号住居跡炉



第126図 C34号住居跡

### 第3章 遺 構

P 1・3～6

- 1 明褐色土 多量の砂礫を含み、地山の黄色砂粒含む。
- 2 黄褐色土 1より黄色味強く、やや細粒。

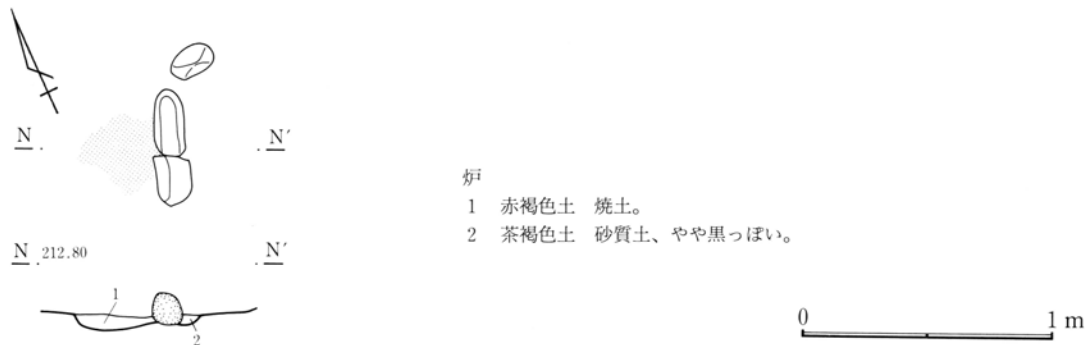
P 2

- 1 褐色土 よく締まり、粘性なし。白色粒・黄色粒・ラミナ質地山土を少し含む。
- 2 暗褐色土 よく締まり、粘性なし。微小礫・ラミナ質地山土を少し含む。

- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫・地山土を多く含む、やや黄色がかる。

- 4 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫・微小礫・地山土を多く含む、黄色がかる。

- 5 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫・地山土を多く含む。



第127図 C34号住居跡炉

C46号住居跡 (第134・135・458図 PL. 11・12・163・253)

位置 Cc-28 形状 隅丸長方形か 規模 長辺(6.30)m、短辺4.84m、壁高0.30m

重複 西側を大きくC80号住居跡(弥生時代)に切られている、また南部分もC51号住居跡(古墳時代)に切られる。埋没土 礫を多く含む粗粒土で、黒味が強い。床面 遺存部分については平坦で比較的締まっている。貯蔵穴 東壁に接して円形の掘り込みが検出された。径約60cmで若干の土器片が出土している。柱穴 部分的な調査であったため、総数は不明であるが、東側の2穴と思われるピットが検出されている。

炉 2カ所検出された。

1号炉 ほぼ中央に作られる。長さ30cmの砂岩が据えられ、北側が僅かにくぼみ、焼土が見られる。

2号炉 住居の南西部に位置し、長さ30cm程の河原石が据えられている。周辺部分がわずかにくぼみ、焼土が検出されている。

出土遺物 多くはなかった。

調査所見 西側を大きく削られていたために、全容は不明である。

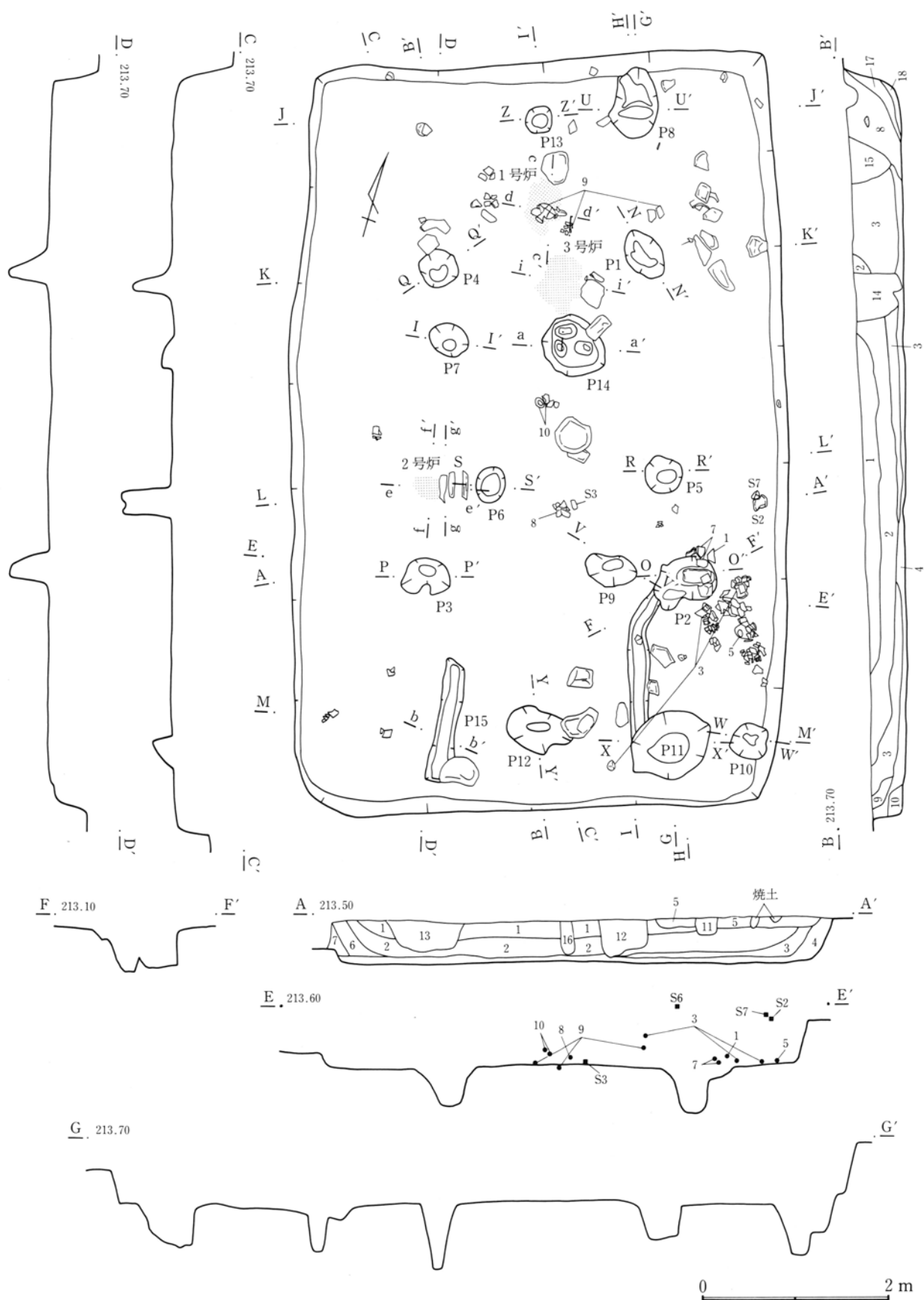
C47号住居跡 (第136・137・459図 PL. 12・164・253)

位置 Cc・d-38・39 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.72m、短辺4.91m、壁高0.53m

重複 北東壁部分にわずかにC53号住居跡(弥生時代)が重複する。また、北西隅にごくわずかであるが、C112号住居跡(平安時代)が接している。

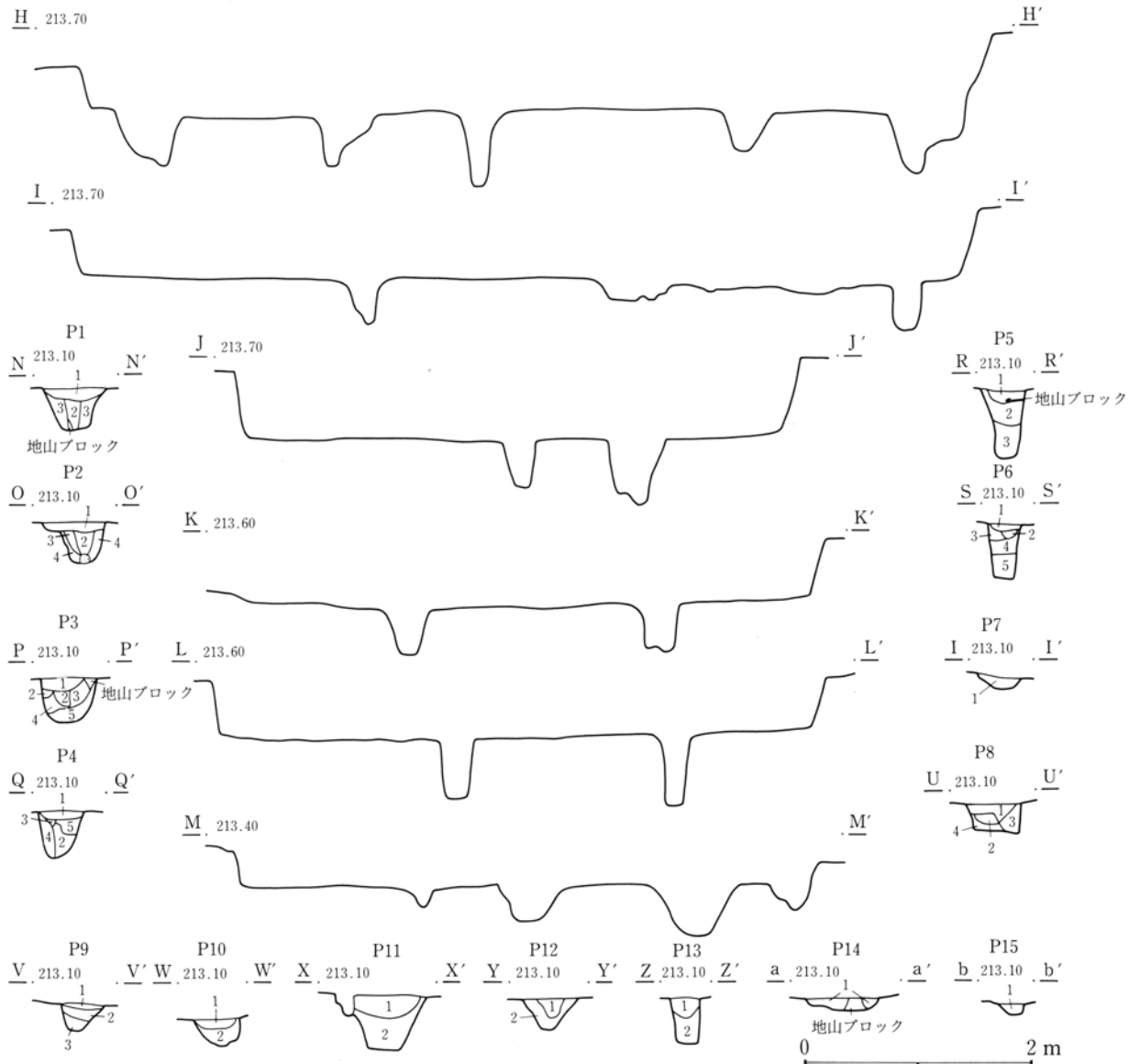
埋没土 礫を多く含む粗粒。床面 やや凹凸があるが、部分的にしっかりとした所も見られる。

貯蔵穴 検出されなかった。柱穴 主柱穴4本を検出した。北東部分のものは径が小さく、不定形で、深さは約20cmである。他のものは、径約80cmで、深さは40～50cmを測る。



第128図 C38号住居跡(1)

### 第3章 遺 構



- 1 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫・微小礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫・微小礫を含み黄色の小粒をかなり多く含む。
- 3 黒褐色土 かなり締まり良く、大小の礫を含むが、2より少ない。
- 4 黒褐色土 締まりよく、小礫をわずかに含み、砂質の地山土全体に含む。
- 5 暗赤褐色土 上位の住居の貼床か。小礫・地山土少量含む。全体に焼土含み、やや赤味がかかる。
- 6 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫を少量含む。黄色粒を含み、やや黄色がかかる。
- 7 暗褐色土 締まりよく、粘性わずかにあり。微小礫・黄色粒を含む。
- 8 黒褐色土 締まりあり、粘性わずかにあり。小礫やや大粒の微小礫・黄色粒をまばらに含む。
- 9 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・黄色粒(北半に多い)を含む。

- 10 暗赤褐色土 微小礫をわずかに含み、ラミナ質地山土(壁面と同じ)を非常に多く含む。
- 11 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫を含み、地山土を全体に含む。
- 12 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫・微小礫・地山土を含む。
- 13 暗褐色土 よく締まり、粘性なし。硬質。炭化物をわずかに含む。微小礫・黄色粒を多く含む。
- 14 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。均質な小礫多く含む。小礫わずかに含む。
- 15 黒褐色土 締まりよく、粘性わずかにあり。微小礫を多く含み、小礫をわずかに含む。
- 16 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫・微小礫・地山土を少し含む。
- 17 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。硬質。小礫・黄色粒をわずかに含む。
- 18 黒褐色土 締まりあり、粘性あり。礫の混入ほとんどなく、地山土を少量含む。

第129図 C38号住居跡(2)

P 1

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。黄色粒・地山土を含む。微小礫を少し含む。
- 2 褐色土 締まりよく、粘性あり。地山土をかなり多く含む。
- 3 黄褐色土 締まり弱く、粘性わずか。地山（細砂）土を主体とする。

P 2

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。地山土を含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱く、粘性少しあり。小礫・微小礫・地山土を少し含む。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性あり。ザラザラ。地山土を少し含む。
- 4 暗褐色土 締まりあり、粘性やや強い。地山土を少し含む。

P 3

- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性弱い。微小礫・黄色粒・地山土を含む。
- 2 黄褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を主体とする。
- 3 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。微小礫を少し含み、地山土を多く含む。
- 4 暗褐色土 締まりなく、粘性わずか。地山土を含む。
- 5 黄褐色土 締まりよく、粘性わずか。地山土を非常に多く含む。住居外か？

P 4

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性ほとんどなし。黄色粒・地山土を少し含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。地山土を多く含む。
- 3 暗褐色土 締まりよい。
- 4 暗褐色土 締まりよく、粘性やや強い。地山土を少し含む。
- 5 黄褐色土 締まりあり、粘性わずか。地山土をかなり多く含む。

P 5

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。微小礫を少し含む。
- 2 暗褐色土 やや砂質。締まりあり、粘性あり。地山土を多く含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。締まり弱く、粘性やや強い。地山土を含む。

P 6

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含む。
- 2 濃い暗褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土をかなり多く含む。
- 3 黄褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を主体とする。
- 4 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を含む。
- 5 暗褐色土 砂質。締まりなく、粘性なし。地山土を非常に多く含む。

P 7

- 1 褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・地山土を多く含む。

P 8

- 1 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫・微小礫・地山土を少し含む。
- 2 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を多く含む。微小礫を含む。
- 3 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。礫・小礫・微小礫を少し含み、地山土を多く含む。
- 4 黄褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土をかなり多く含む。

P 9

- 1 黒褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を含む。
- 2 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を含む。地山土を少し含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。締まりよく、粘性なし。地山土を少し含む。

P 10

- 1 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。やや砂質。地山土を多く含む。

P 11

- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性わずか。微小礫・地山土を少し含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱く、粘性やや強い。ザラザラする。微小礫・地山土を少し含みやや砂質。

P 12

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性少しあり。黄色粒・地山土を含む。
- 2 暗褐色土 締まりよく、粘性少しあり。地山土を多く含む。黄色粒を少し含む。

P 13

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を含む。上端に微小礫・小礫を含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土をかなり多く含む。

P 14

- 1 暗黄褐色土 締まりなく、地山土主体とする。

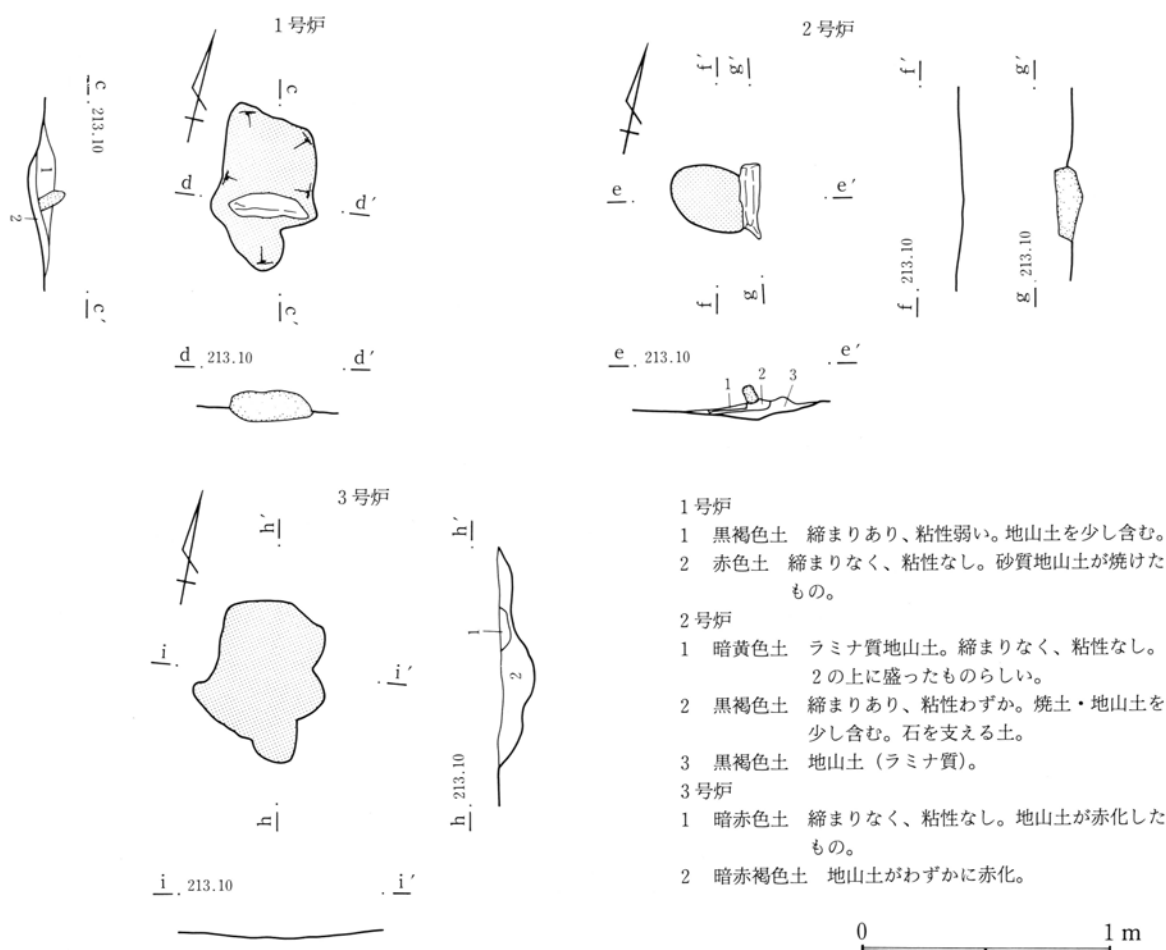
P 15

- 1 黒褐色土 締まり弱く、地山土・小礫含む。

炉 北側柱穴間に検出。長さ40cm、厚さ5cm程の板状の砂岩が横向きに10cm程埋まった状態で据えられ、その北側は、ほぼ円形にわずかにくぼみ、焼土が認められた。

出土遺物 炉の周辺部において検出されている。壺、甕、台付き甕、高坏等見られたが点数は少ない。

調査所見 比較的遺存状態は良好で、壁も高いところでは50cmを測る。出土遺物は少ない。



第130図 C38号住居跡炉

C50号住居跡（第138～140・460・461図 PL. 12・13・164・254）

位置 Ca・b-34・35 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.48m、短辺5.55m、壁高0.75m

重複 住居の北側部分に、ほとんど収まる形でC49号住居跡（古墳時代）が切る。またC20号住居跡（弥生時代）が西側に重複する。埋没土 礫主体の粗粒土に、地山粘質土塊が多く含まれる。

床面 かなりの部分をC49号住居跡により削られている。地山の粘質土を掘り込んで床としている。部分的に小礫、黒色土ブロックが認められる。重複部分を除き、平坦で締まっている。

貯蔵穴 南西隅寄りの南壁に接して掘り込まれている。半円形で、径75cm、深さは約30cmである。

柱穴 4本柱と思われる。壁柱穴と思われる小ピットが、長辺壁に沿って検出されている。

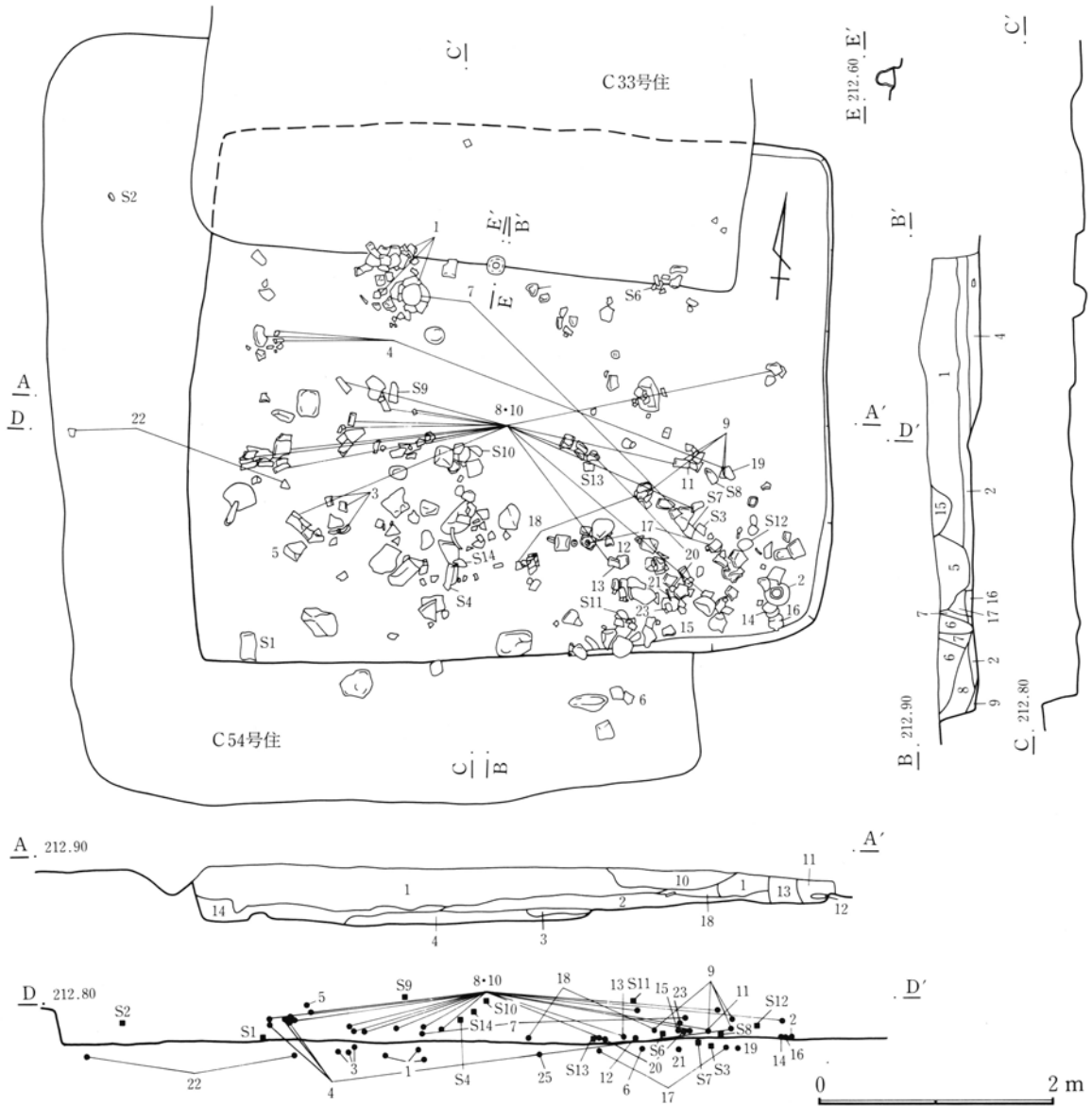
炉 2カ所検出された。

1号炉 中央北寄りに作られている。長円形の落ち込みに焼土を伴う。

2号炉 住居南東寄り、P2の北に位置する。わずかな掘り込みと焼土が確認されている。

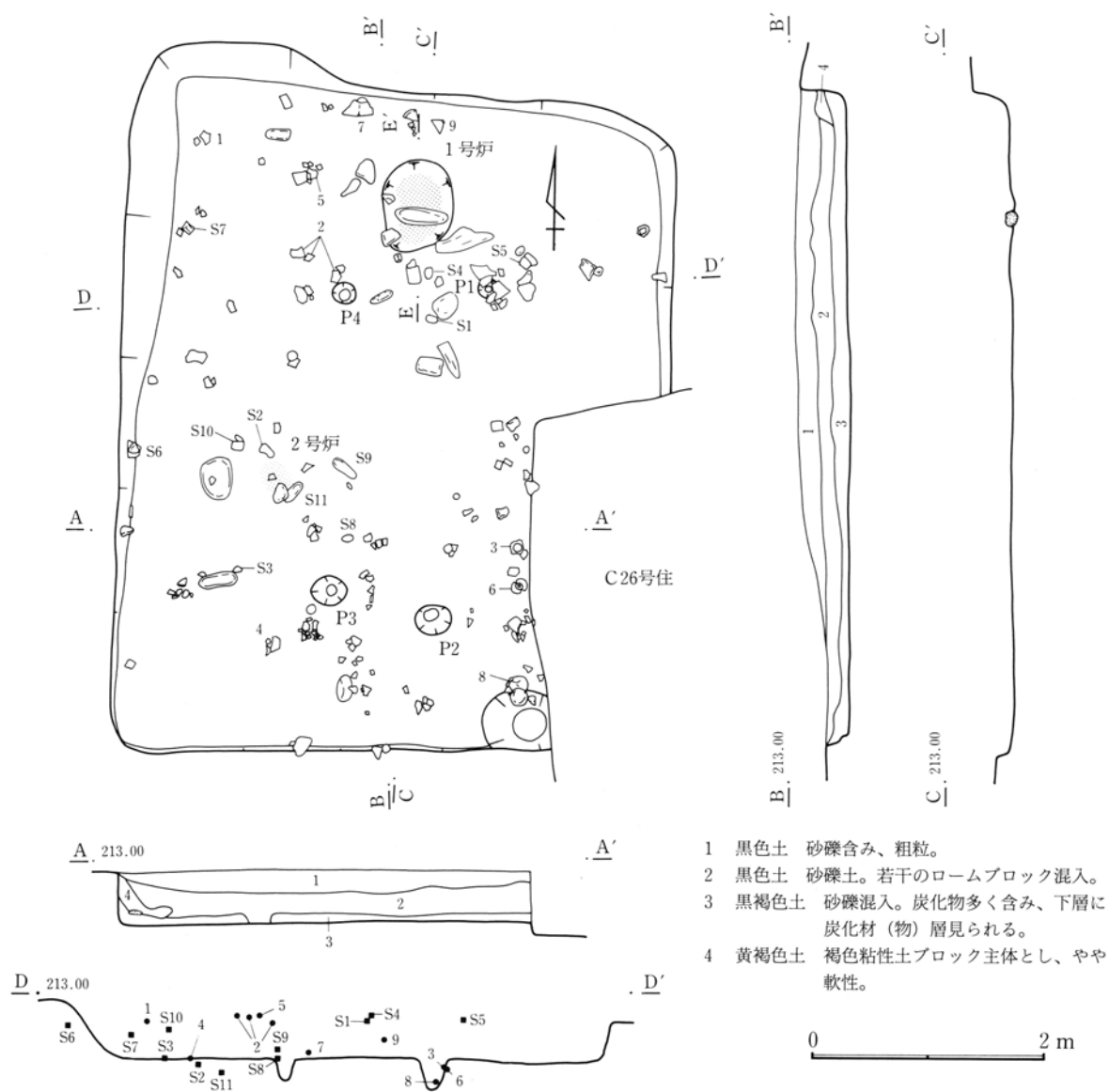
出土遺物 遺存部分が少なく出土点数はあまり多くはない。

調査所見 大きく重複により失われた部分が多いが、掘り込みは深く、壁高は最大で60cmを測る。壁もほぼ直に立ち上がり掘り方はしっかりしている。主軸方向をほぼ北にとる。



- |   |  |
|---|--|
| 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。大小の礫・炭化物を多く含む。やや黄色がかる。  | 10 暗褐色土 締まりよく粘性ややあり。黄色粘性土ブロック多く含む。         |
| 2 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。1より暗色が強く、礫の混入が少ない。      | 11 暗褐色土 締まり弱く、粘性わずかり。微小礫・白色粒をわずかに含む。       |
| 3 白灰色土 粘性ほとんどなし。住居貼床。白色がかった砂粒を主体とする。      | 12 黄褐色土 締まりなく、粘性あり。粘性をもったラミナ質地山土の貼床か。      |
| 4 暗褐色土 締まりあり、粘性少しあり。炭化物・黄色粒・粘質土ブロックを少量含む。 | 13 暗褐色土 締まり弱く、粘性わずかり。微小礫をわずかに含む。           |
| 5 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。大小の礫を含み、黄色の小粒・炭化物も含む。   | 14 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫・黄色粒を多く含み、地山土を全体に含む。 |
| 6 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。黄色粒多く含み、全体に黄色がかる。       | 15 褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・白・黄色粒をかなり多く含む。       |
| 7 暗褐色土 締まりあり。礫・黄色粒の混入少ない。                 | 16 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。粘性のあるラミナ質地山土、黄色粒を多く含む。  |
| 8 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・黄色粒を少量含む。           | 17 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。黄色粒若干含む。                |
| 9 暗褐色土 締まりあるが8より脆弱、粘性なし。礫をわずかに含む。         | 18 暗褐色土 締まりあり、粘性ややあり。微小礫・黄色粒を少量含む。         |

第131図 C39号住居跡



第132図 C44号住居跡



第133図 C44号住居跡炉

## C52号住居跡 (第141・142・462図 PL. 13・254・255)

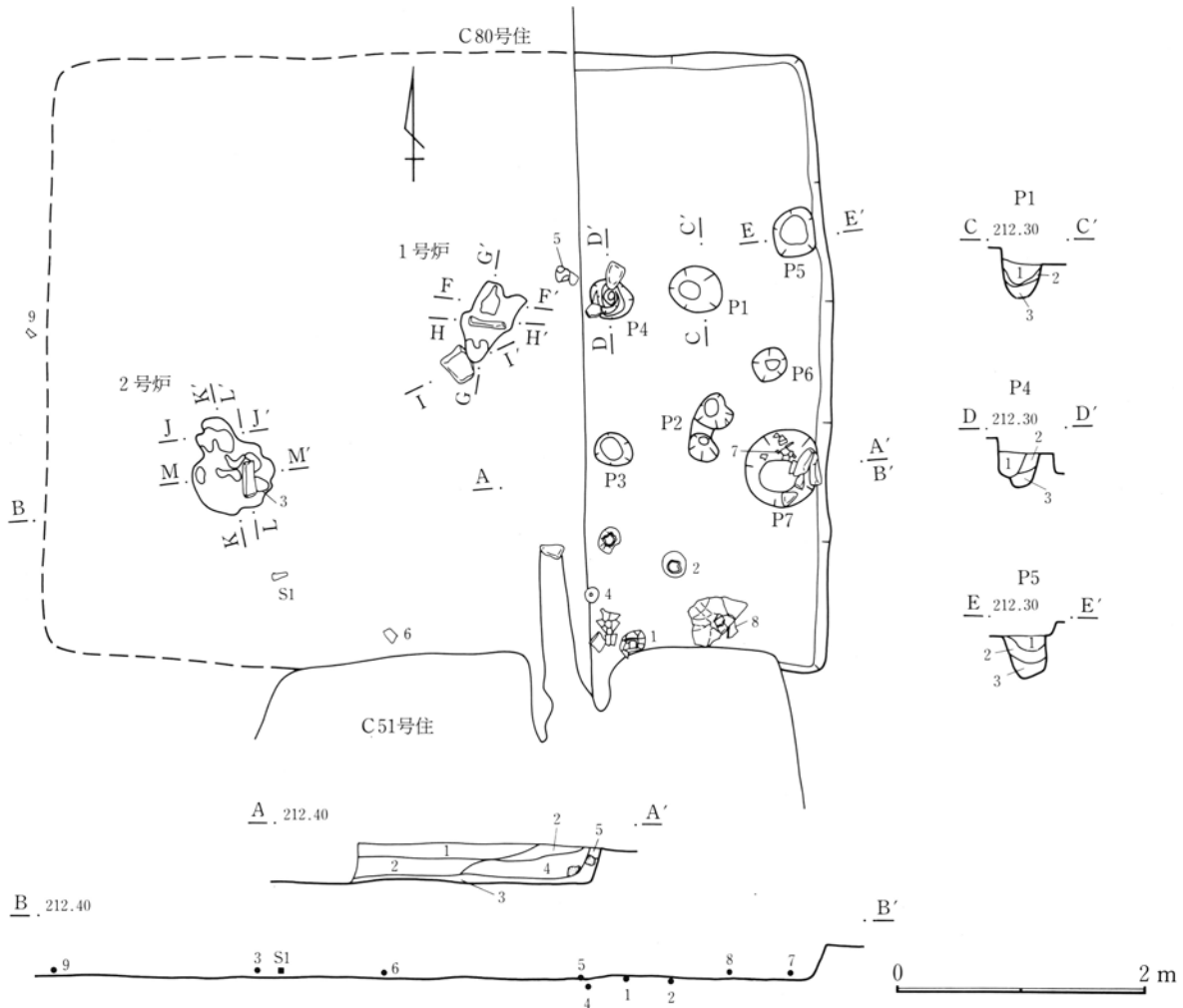
位置 Bt・Ca-33・34 形状 隅丸長方形 規模 長辺(5.15)m、短辺5.56m、壁高0.36m

重複 北西隅部分にC50号住居跡(弥生時代)が重複する。南側部分は調査区外となる。

埋没土 礫を含む黒褐色土。 床面 平坦で比較的締まる。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4本主柱穴と思われるが、建て替えが行われたものと考えられる。それぞれ北側の2本を検出した。

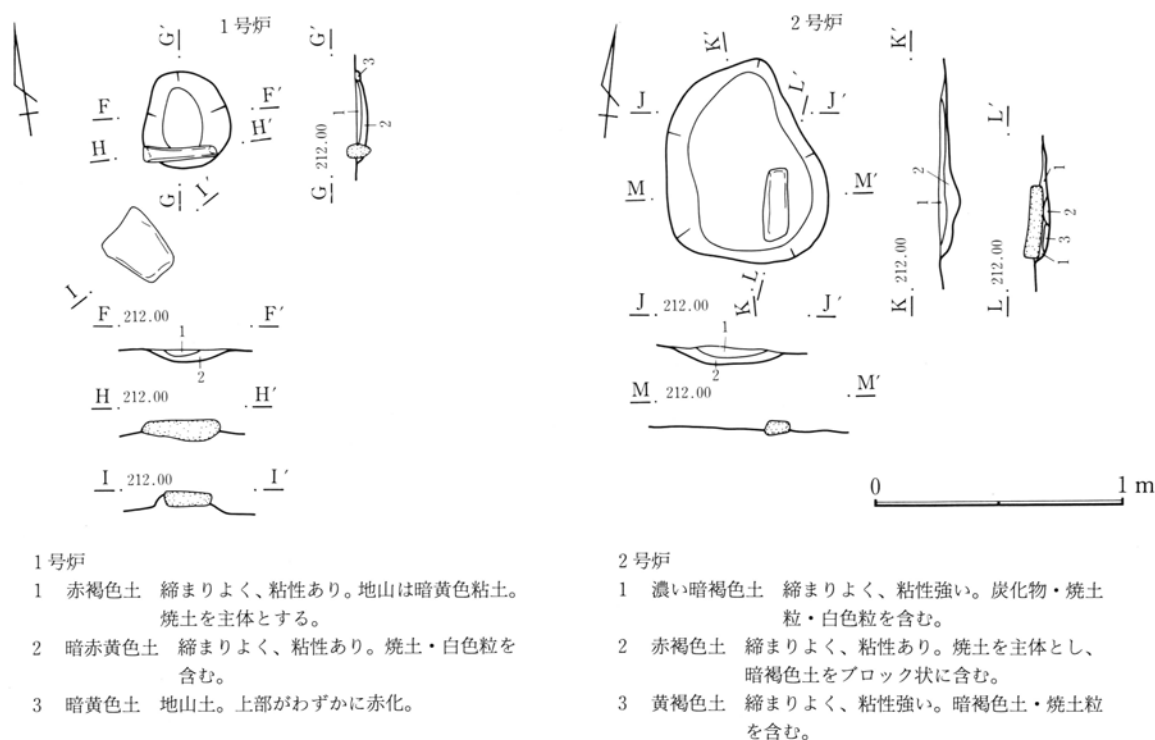
古い住居に伴うものとしてP4とP5が、新しい住居に伴うものとしてP1とP3を検出した。



- 1 褐色土 よく締まり、粘性あり。硬質。白色粒をかなり多く含む。炭化物を少し含む。
  - 2 褐色土 よく締まり、粘性強い。大粒の白色粒を多く含む。黄色粘土ブロック含む。
  - 3 暗褐色土 締まりよく、粘土かなり強い。やや軟。白色粒を少し含む。暗色が強い。
  - 4 暗褐色土 よく締まり、やや硬質。白色粒を多く含む。炭化物・微小礫をわずかに含む。
  - 5 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。白色粒を多く含む。
- P 1
- 1 暗褐色土 よく締まり、粘性あり。白・黄色粒(やや大粒あり)を多く含む。
  - 2 暗褐色土 よく締まり、粘性強い。白・黄色粒・粘土ブロック多く含む。

- 3 暗褐色土 よく締まり、粘性強い。白・黄色粒・粘土ブロックを少し含む。
- P 4
- 1 暗褐色土 よく締まり、粘性強い。白・黄色粒をかなり多く含む。大粒あり。
  - 2 暗褐色土 よく締まり、粘性あり。白・黄色粒を多く含む。大粒もあり。
  - 3 暗褐色土 締まりよく、粘性かなり強い。白・黄色粒を少し含む。
- P 5
- 1 黒褐色土 よく締まり、粘性なし。硬質。白色粒を多く含む。粘土ブロック含む。
  - 2 黒褐色土 よく締まり、粘性あり。白・黄色粒・粘土ブロック含む。
  - 3 暗褐色土 よく締まり、粘性あり。白・黄色粒を少し含む。

第134図 C46号住居跡



第135図 C46号住居跡炉

柱穴はいずれも長円形を呈し、旧いほうが長径約40～50cm、短径20～30cmで、深さは約40cmを測る。新しいほうは、長径約60cm、短径約40cmで深さは60～70cmを測る。

**炉** 柱穴間に2カ所検出した。作り替えと思われる。

**1号炉** 長さ35cmの河原石を東西方向に据えている。石の北側には焼土、周辺部に若干の炭が見られる。焼土の厚さは約5cmで赤く良く焼けている。

**2号炉** 1号炉の東に接して検出された。焼土、炭がやや乱雑な広がりを見せ、その中央やや南に寄った所に、長さ約25cm、幅10cm程の長円形の凹んだ部分があり、炉石の抜き取り痕と思われる。

**出土遺物** 中央部分にややまとまった状況で出土している。多くはなかった。

**調査所見** 南側3分の1程が調査区外にあるため未調査である。遺存状態は比較的良く、壁高も最大で40cmを測る。検出された2カ所の炉は2号炉→1号炉の順で作り替えがなされたものと思われ、1号炉に伴う柱穴としてP1・3が、2号炉に伴う柱穴としてP4・P5が想定される。

#### C53号住居跡 (第143・144・463図 PL. 13・164・255)

**位置** Cd-38 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.80m、短辺4.75m、壁高0.35m

**重複** 南東隅をC32号住居跡(古墳時代)に切られ、西側でC47号住居跡(弥生時代)と重複する。

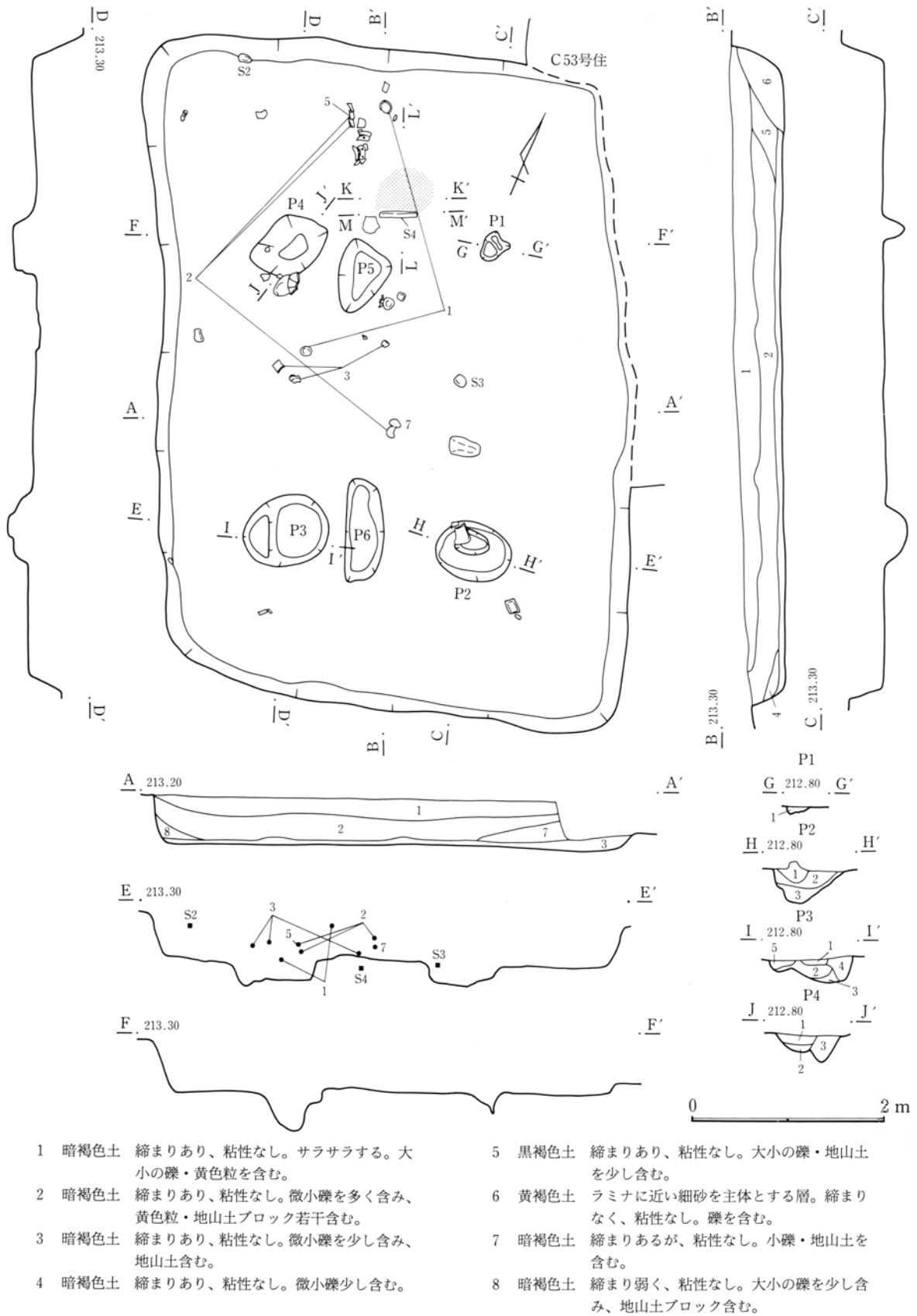
**埋没土** 礫を多く含み粗粒。 **床面** 全体に緩やかな凹凸を持ち、締まった部分は少なかった。

**貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 対角線上に4本検出した。東側列が西側列に比べ径、深さに大きい。

**炉** 北側柱穴間に作られている。長さ35cmの板状の砂岩を半分程横向きに埋め込み、北側に焼土を伴う。

**出土遺物** 少なかった。甕の小破片、高坏等が出土している。

**調査所見** 遺存状態は比較的良好であるが、壁はかなり崩れた状況で斜めに立ち上がる。



第136図 C47号住居跡

### 第3章 遺 構

#### P 1

- 1 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。サラサラ。地山土を少し含み、大小の礫をわずかに含む。

#### P 2

- 1 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を多く含み、微小礫・炭化物を少し含む。
- 2 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含む。小礫・微小礫を含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土をかなり多く含み、小礫・微小礫をわずかに含む。

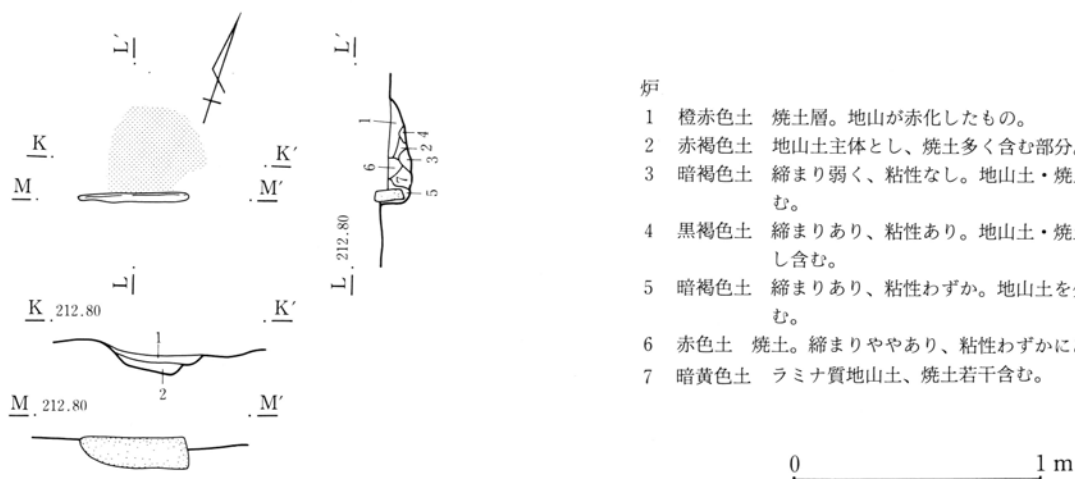
#### P 3

- 1 黄褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土をかなり多く含む。

- 2 褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土をかなり多く含み、微小礫を少し含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を多く含む。
- 4 褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含む。
- 5 暗褐色土 締まりなし、粘性なし。地山土・微小礫を多く含む。

#### P 4

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を含む。微小礫を含む。
- 2 暗褐色土 締まりなし、粘性なし。地山土を多く含む。微小礫を少し含む。
- 3 暗褐色土 締まりなし、微小礫を少し含む。



#### 炉

- 1 橙赤色土 焼土層。地山が赤化したもの。
- 2 赤褐色土 地山土主体とし、焼土多く含む部分。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土・焼土を含む。
- 4 黒褐色土 締まりあり、粘性あり。地山土・焼土を少し含む。
- 5 暗褐色土 締まりあり、粘性わずか。地山土を少し含む。
- 6 赤色土 焼土。締まりややあり、粘性わずかにあり。
- 7 暗黄色土 ラミナ質地山土、焼土若干含む。

第137図 C47号住居跡炉

#### C54号住居跡 (第145・146・464図 PL. 13・14・255)

位置 Ca・b-38・39 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.34m、短辺5.23m、壁高0.45m

重複 C39号住居跡(弥生時代)と大きく重複し、北側部分にC33号住居跡(弥生時代)が重複する。

埋没土 礫を多く含み、粗粒で粘性はない。下層には地山の黄褐色の砂礫土をブロック状に混入する。

床面 平坦で地山の砂礫土がかなりの部分で露出している。客土した様子は見られなかった。

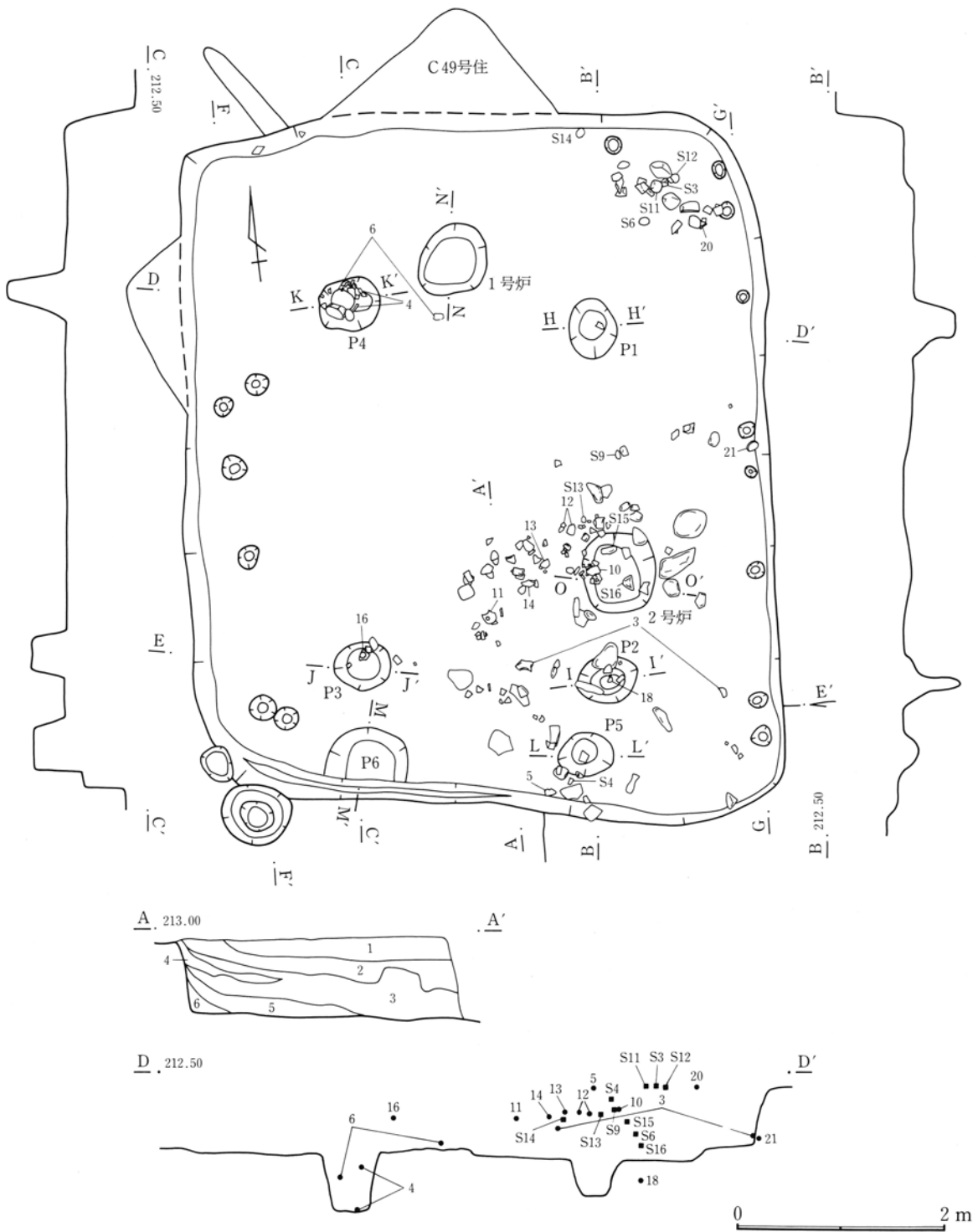
貯蔵穴 明確なものは検出されなかった。

柱穴 支柱穴4本を検出。ほぼ対角線上に配されている。いずれも径30~40cmの円形または楕円形で、深さは20~40cmである。

炉 北側柱穴間に作られている。

出土遺物 わずかに小片が出土しているのみである。

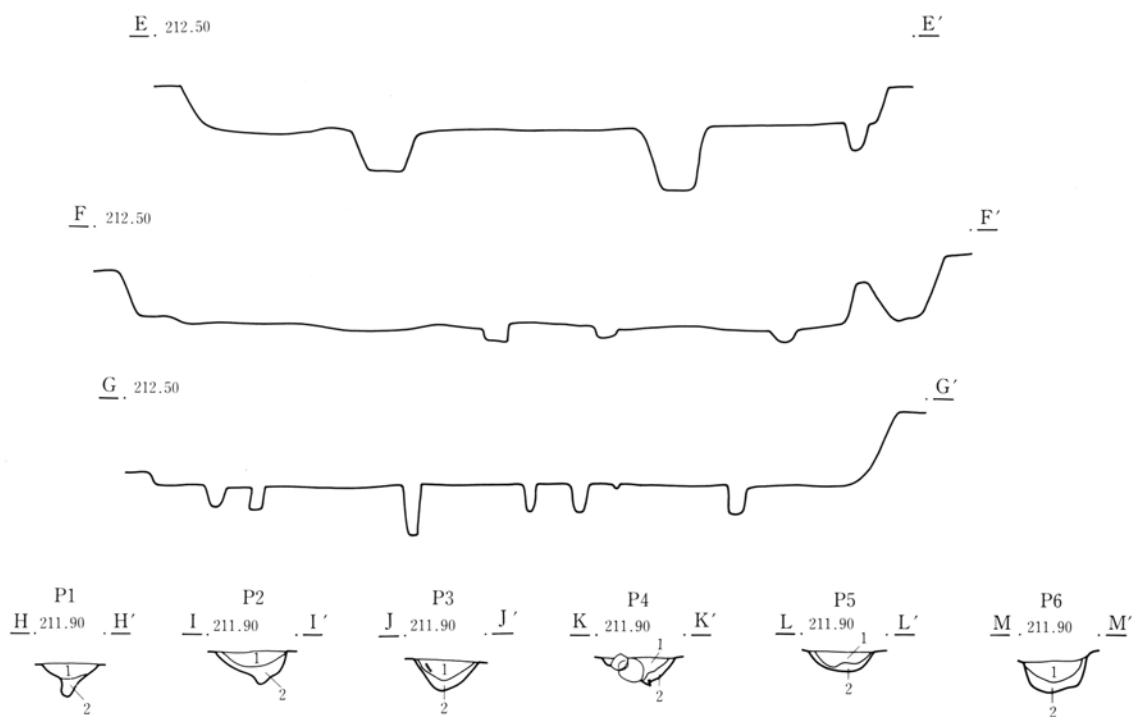
調査所見 北側部分は重複により削られているが、その他の部分に関しては比較的遺存状態は良好である。



- |        |                             |        |                                      |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 小礫、灰白色・褐色粒子多く含む。全体にざらついている。 | 4 濃褐色土 | 色は2より若干濃い。大きめの角礫の混入も見られる。            |
| 2 黒褐色土 | 1と近似するが、やや締まりがある。           | 5 暗褐色土 | 灰白色・褐色等の粒子、細礫若干混入。全体に粒子は細かく、やや締まりあり。 |
| 3 濃褐色土 | 褐色土と黒褐色土の混土。混入物は1とほぼ同様。     | 6 暗褐色土 | 灰白色・褐色粒子、細礫やや混入。3以上に粒子は細かく締まりある。     |

第138図 C50号住居跡(1)

## 第3章 遺 構

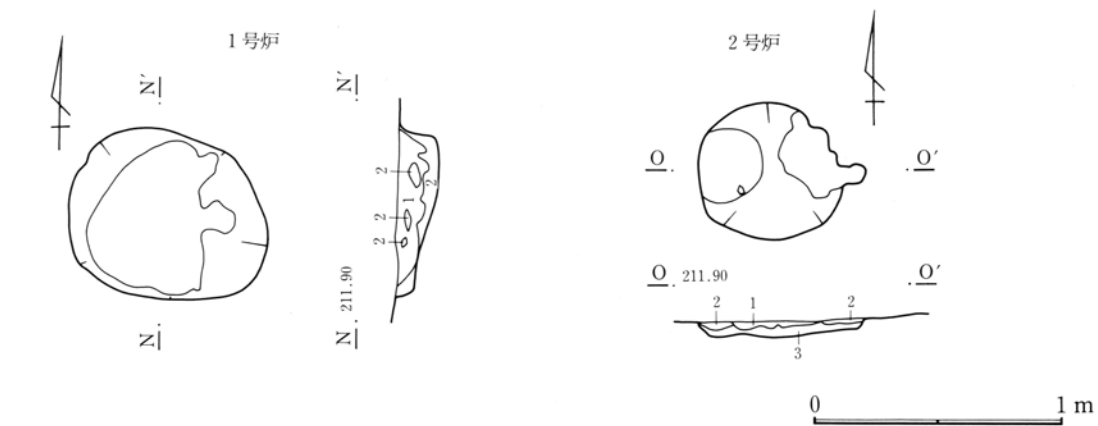


P 1 ~ 6

- 1 黒褐色土 砂礫、褐色・灰白色粒子、褐色土粒等が多く混入。ややざらついた感じ。
- 2 黒褐色土 砂礫の混入あまりない。褐色土粒・土塊(やや粘性あり)若干混入。

A horizontal line representing a beam of length 2 m. The left end is labeled '0' and the right end is labeled '2 m'.

第139図 C50号住居跡(2)



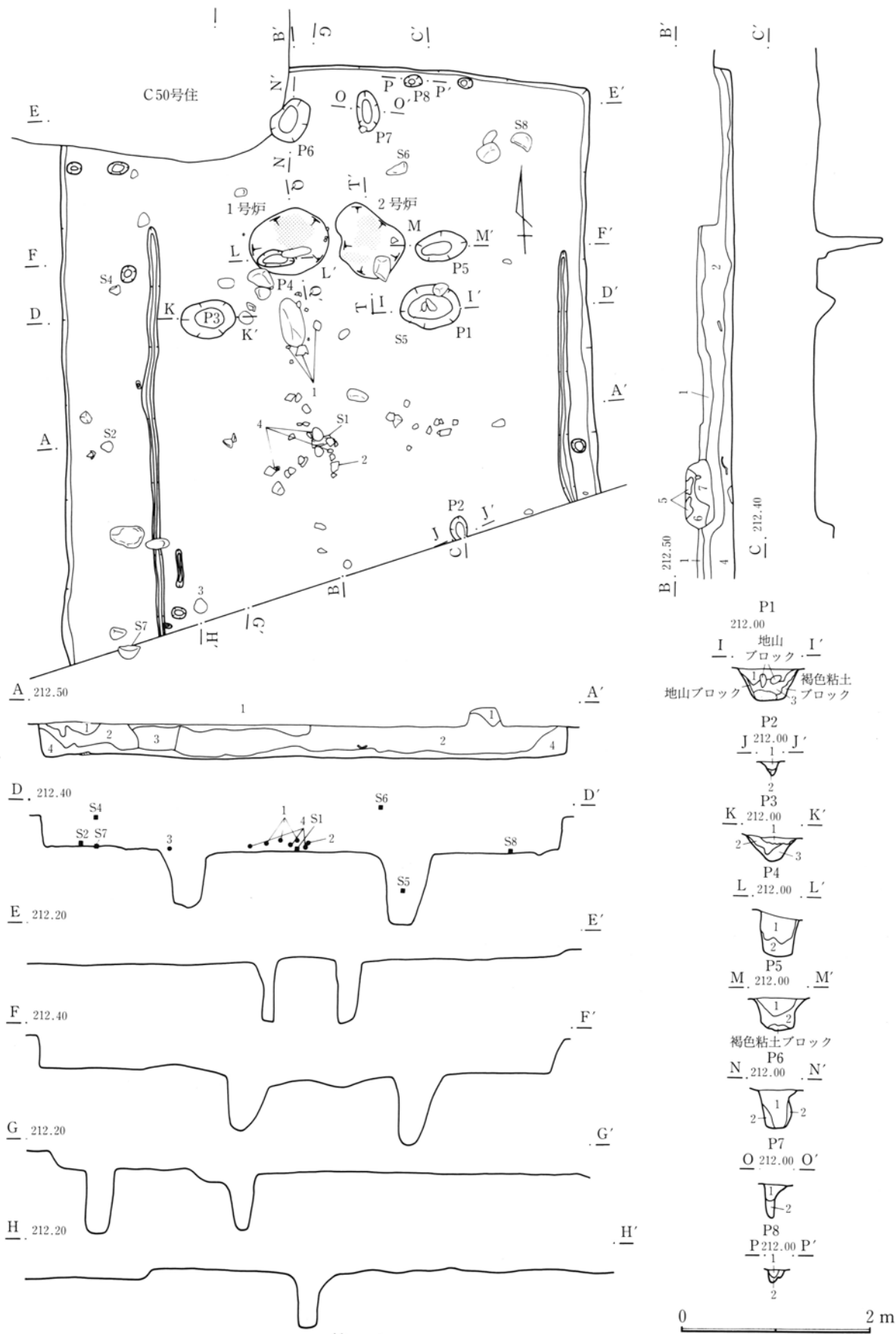
- 1 号炉

- 1 黒褐色土 砂礫、褐色・灰白色粒子混入。やや締まりあり。粘性焼土塊若干混入。
- 2 暗褐色土 粘性土。地山か。

- 2 号炉

- 1 赤褐色土 焼けている。砂利・細礫を含む。
- 2 黒褐色土 砂礫質、褐色・灰白色粒子多く含み粗粒、褐色粘性土若干混入。
- 3 褐色土 粘性土。赤褐色の粘性土塊が若干混入。

第140図 C50号住居跡炉



第141図 C52号住居跡

### 第3章 遺 構

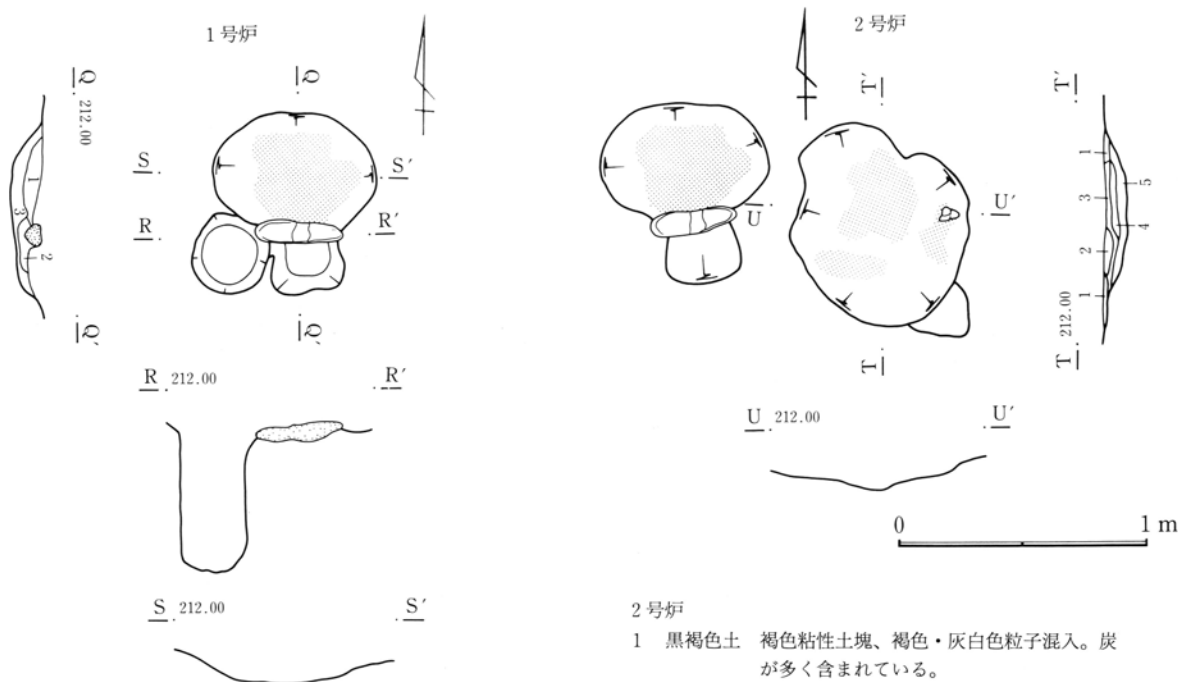
- 1 黒褐色土 小礫を多量に含み、褐色灰白色粒子も多い。粒子は細かめで、固い。
- 2 暗褐色土 小礫を多量に含む。褐色・灰白色粒子も多量に含まれる。固い。
- 3 暗褐色土 2と近似するが、褐色土の混入少ない。
- 4 黒褐色土 褐色・灰白色粒子が含まれる。粒は細かく一様で、縮まりがある。
- 5 明褐色土 火熱を受けた粘性土。赤く焼けている。
- 6 黒褐色土 米粒大の小礫・灰白色粒子を多く含む。5が塊で若干混入。
- 7 黒褐色土 褐色土塊。大小の礫、褐色・灰白色粒子が含まれ縮まる。

#### P 1・3

- 1 黒褐色土 細礫の他、褐色・灰白色・白色粒子、褐色土塊等混入。粒子は不均一で縮まりない。
- 2 黒褐色土 1とほぼ同様だが、含入物はやや少なめ。やや縮まりがある。
- 3 黒褐色土 灰白色細礫、褐色・灰白色粒子が若干含まれる。粒子は不均一。

#### P 2・4～8

- 1 黒褐色土 小豆大の砂礫、灰白色土粒等、雑多に混入。固く、褐色粘性土も混入。
- 2 黒褐色土 砂礫等の混入は少ない。褐色土粒、褐色粘性土が若干混入。粒は細かく、縮まりあり。



#### 1号炉

- 1 赤褐色土 粘性土。赤く焼けている。
- 2 褐色土 やや粘性あり。黒褐色土塊、炭等混入。
- 3 褐色土 地山土。

#### 2号炉

- 1 黒褐色土 褐色粘性土塊、褐色・灰白色粒子混入。炭が多く含まれている。
- 2 褐色土 粘性土。黒褐色土塊、灰白色粒子等若干混入。
- 3 黒褐色土 褐色粘性土塊、褐色・灰白色粒子等混入。褐色土粒下層に見られる。やや縮まりあり。
- 4 赤褐色土 粘性土。赤く焼けている。
- 5 褐色土 細粒で均一。やや粘性を帯びる。地山土主体。

第142図 C52号住居跡炉

#### C56号住居跡 (第147～149・465図 PL. 14・255)

位置 Cc・d・e—35 形状 隅丸長方形 規模 長辺7.15m、短辺4.81m、壁高0.46m

重複 南壁にC 2号配石及びC 8号土坑 (平安時代) が重複、さらに東側部分は、C105.106号住居跡 (古墳時代) に切られる。また、北西隅に、わずかであるがC162号住居跡 (古墳時代) が掛かる。

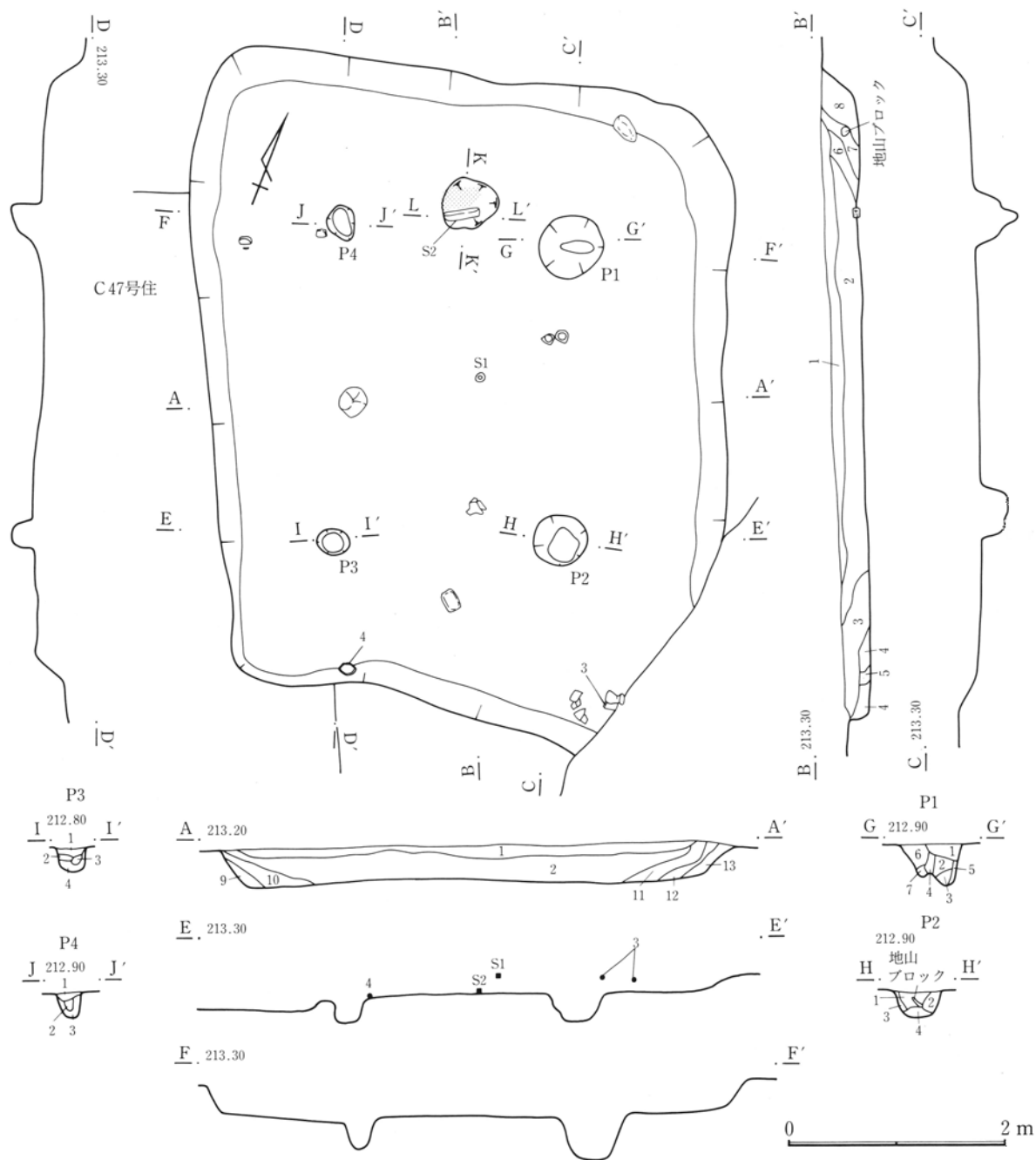
埋没土 礫を多く含む黒褐色土で、かなり粘質土ブロックを混入する。

床面 平坦で中央部分は比較的締まった感じを与える。

貯蔵穴 南壁の東寄りに掘り込まれている。径60cmの不定形で、深さは約30cmである。

柱穴 主柱穴は4本と思われるが、補助的なP 2・P 5が検出されている。

炉 中央北よりに不定形な焼土の広がりを持つ地床炉が検出されている。表面はかなり硬化しており長期の使用が想定され、南寄りに長円形の落ち込みがあり、炉石の抜き取り痕と考えられる。



- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫、微小礫、黄色粒を少し含む。       | 8 黒褐色土 締まりよく粘性なし。微小礫、地山土を少し含む。             |
| 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫、微小礫を含む。地山土砂礫を全体に含む。 | 9 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を少し含み、地山土を含む。         |
| 3 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫、黄色粒を少し含み、微小礫を含む。    | 10 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫、微小礫を少し含み、地山土、黄色粒を含む。 |
| 4 褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土多く含む。                | 11 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫、地山土を少し含む。           |
| 5 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。小礫、微小礫を多く含む。樹根か？       | 12 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫、微小礫を少し含み、地山土を含む。     |
| 6 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫、微小礫、地山土を多く含む。       | 13 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫を含み、地山土を多く含む。        |
| 7 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。小礫を多く含む。地山土を少し含む。      |  |

第143図 C53号住居跡

### 第3章 遺 構

#### P 1

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を少し含み、地山土を含む。
- 2 褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を少し含み、地山土を多く含む。
- 3 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含む。
- 4 褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土を含む。
- 5 黒褐色土 締まりよく、粘性強い。地山土をわずかに含むのみ。樹根か？
- 6 褐色土 締まり弱く、粘性なし。微小礫、地山土を少し含む。
- 7 黄褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土をかなり多く含む。

#### P 2

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性わずか。大小の礫を少し含む。地山土を含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。小礫、地山土を含む。

- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を含む。
- 4 褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土をかなり多く含む。

#### P 3

- 1 暗褐色土 締まりなく、粘性なし。微小礫、地山土を少し含む。
- 2 暗褐色土 地山土を主体とし締まり、粘性なし。
- 3 黒褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を含む。
- 4 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土をかなり多く含み、やや黄色がかる。

#### P 4

- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫、地山土を含む。
- 2 褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土を多く含む。上部に微小礫多い。
- 3 黄褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を非常に多く含む。

#### 炉

- 1 暗褐色土 締まりややあり、粘性なし。地山土若干含む。
- 2 赤褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土が焼けて赤化したもの。
- 3 褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を主体とし、赤土を少し含む。
- 4 褐色土 砂礫の地山土。締まりややあり。
- 5 褐色土 地山土、直下に暗褐色土の薄い層があり、盛ったものか。



第144図 C53号住居跡炉

**出土遺物** 規模、遺存状態に反して少なく、破片がわずかに見られたにすぎない。

**調査所見** 住居の南西部分に幅約2m、長さ1m程の長方形の張り出し部が付く。ちょうどC2号配石が重複した部分でもあり、当初は他の遺構と考えたが、西壁および床面が連続する事から同一遺構と判明した。このような張り出し部は、C80号住居跡にもみられる。

**C57号住居跡** (第150～153・467～470図 PL. 14・15・16・165～167・256～258)

**位置** Cb・c—31・32 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺6.38m、短辺4.87m、壁高0.67m

**重複** 南東部分にC41号住居跡(平安時代)が重複し、C2号方形周溝墓の一部が、北東部分にL字形に重なる。

**埋没土** 礫、褐色粘性土ブロックを多く含み、多量の土器が混在していた。

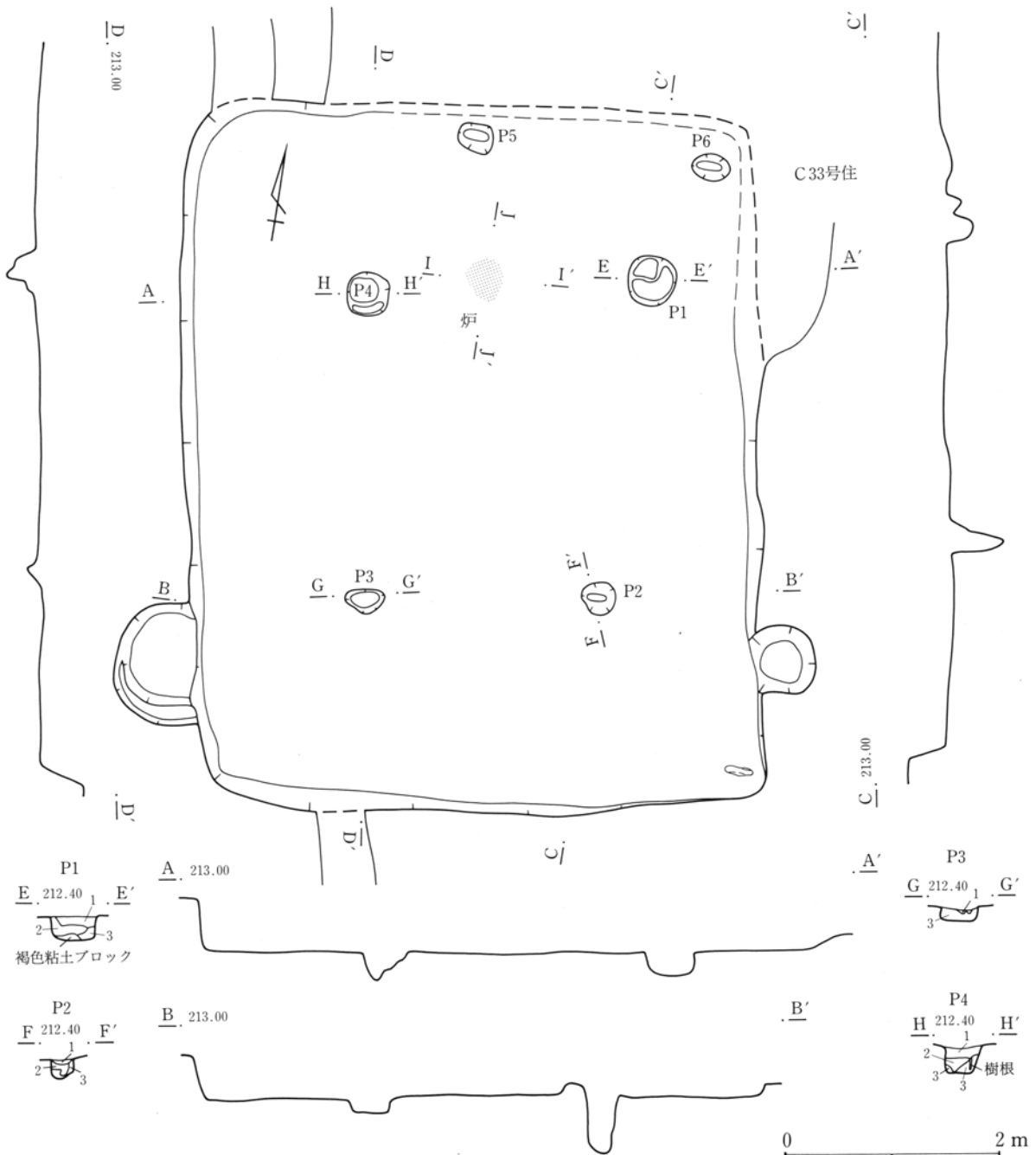
**床面** 地山粘質土を掘り込んで、床としている。平坦で比較的硬く踏みしめられている。

**貯蔵穴** 南西隅、および南東隅にそれぞれP12、P9を検出した。P12は長円形で、底は平坦、甕型土器が横倒しの状態で出土している。また、覆土中に若干の炭化物が検出されている。P9は径50cm程で円形を呈す、深さは30cmで、下層より土器片が出土している。

**柱穴** 本住居跡は建て替えが行われていると思われ、4本主柱穴のうち北側の2本が作り替えられている。

**炉** 2カ所検出されている。2号炉→1号炉の順で作り替えがなされたものと思われる。

1号炉 長さ40cm、幅25cm程のやや扁平な河原石が据えられている。石の北側が掘り鉢状にやや窪み、



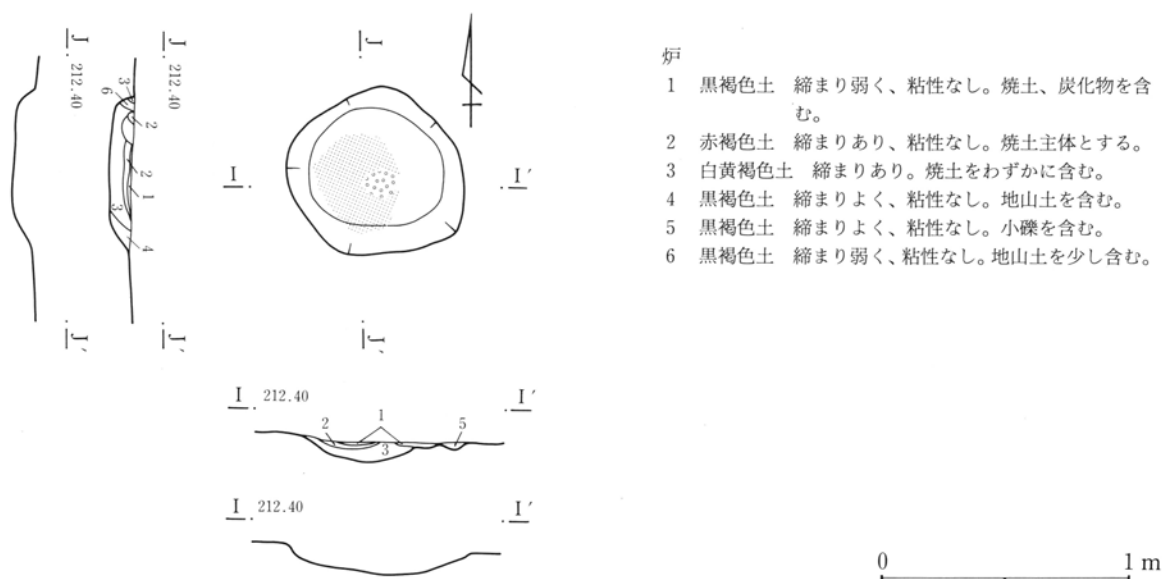
- P 1
- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫・白色粒・地山土を含む。
  - 2 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫・白色粒を含む。地山土を多く含む。
  - 3 暗黄褐色土 締まりあり、粘性強い。暗黄褐色粘土ブロックをかなり多く含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 締まりあり。白色粒を少し含む。地山土ブロック多く含む。
  - 2 暗褐色土 締まり弱く、粘性あり。地山土を少し含む。

- 3 褐色土 締まりあり、粘性強い。粘土質地山土をかなり多く含む。

- P 3
- 1 褐色土 締まり、粘性なし。地山土多く含む。
  - 2 黄褐色土 粘質土。

- P 4
- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫、微小礫、地山土を含む。
  - 2 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。微小礫、地山土を少し含む。
  - 3 暗黄褐色粘土。

第145図 C54号住居跡



- 炉
- 1 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。焼土、炭化物を含む。
  - 2 赤褐色土 締まりあり、粘性なし。焼土主体とする。
  - 3 白黄褐色土 締まりあり。焼土をわずかに含む。
  - 4 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を含む。
  - 5 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。小礫を含む。
  - 6 黒褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土を少し含む。

焼土、炭化物が検出されている。

2号炉 1号炉の南側に作られた地床炉である。径40cm程の浅い窪みに硬く締まった焼土が詰まった状況である。穴の南部分がわずかに窪み、炉石を抜き取った痕跡と思われる。

出土遺物 覆土上層から下層に至るまで、多量の土器類が出土している。完形品も多く、中央部分を中心に多量の土器が住居廃絶後投げ込まれたものと考えられる。

調査所見 遺存状態は良好で、遺物の出土量が極めて多い住居である。C2号方形周溝墓が一部分重複しているが、調査時には認識できずに調査を進めてしまったため、若干の遺物の混乱を生じてしまった。

本住居跡は柱穴、炉の検出状況から建て替えが行われたものと判断される。

#### C59号住居跡（第154～156・471～474図 PL. 16・168・170・258・259）

位置 Ci・j-34・35 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.68m、短辺4.56m、壁高0.52m

重複 南側部分にC1号方形周溝墓が重複するが、調査時には確認できなかった。

埋没土 礫多く含み粗粒。中位以下には炭化物の混入が目立ち、地山の礫も多く含まれる。

床面 比較的平坦で締まりはあまりなかった。炭化材がかなり分布しており、特に南側では、ブロック状に点在して検出されている。 貯蔵穴 明確なものは検出されなかった。

柱穴 主柱穴4本を検出した。ほぼ対角線上に位置し、それぞれ径40cm、深さは40～45cmである。いずれも底は平坦で、掘り込みは比較的垂直に掘られている。

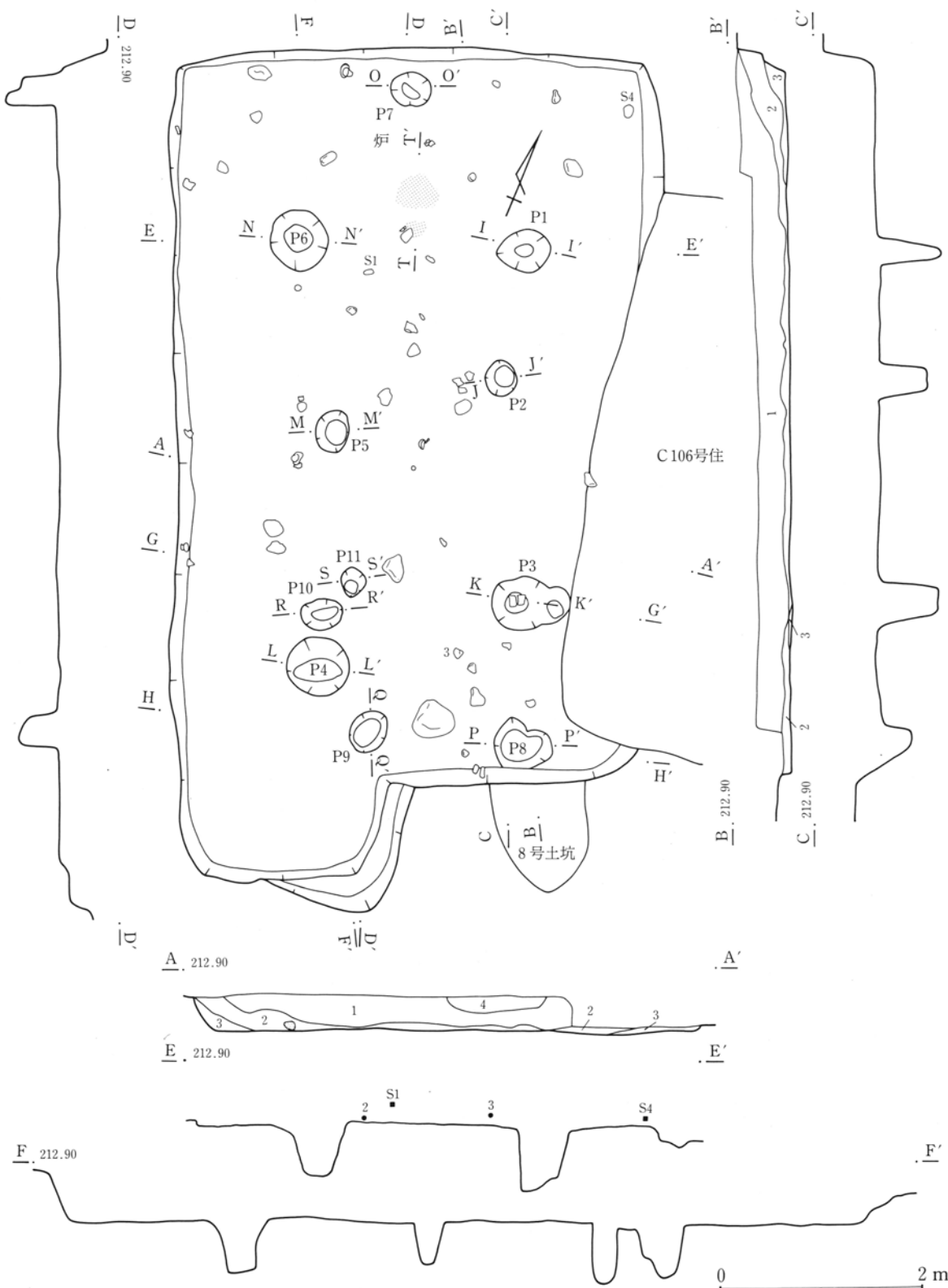
炉 2カ所検出されている。

1号炉 中央北寄りに作られる。長さ30cm弱の石と、長さ15cm程の棒状の石が大きくハの字状に据えられ、その北側にはかなり硬化した焼土が検出されている。

2号炉 東側の柱穴間に検出された地床炉である。小範囲ではあるが、焼土が検出されている。

出土遺物 比較的多い。完形品を含むかなりの土器類が覆土中および床面より出土している。

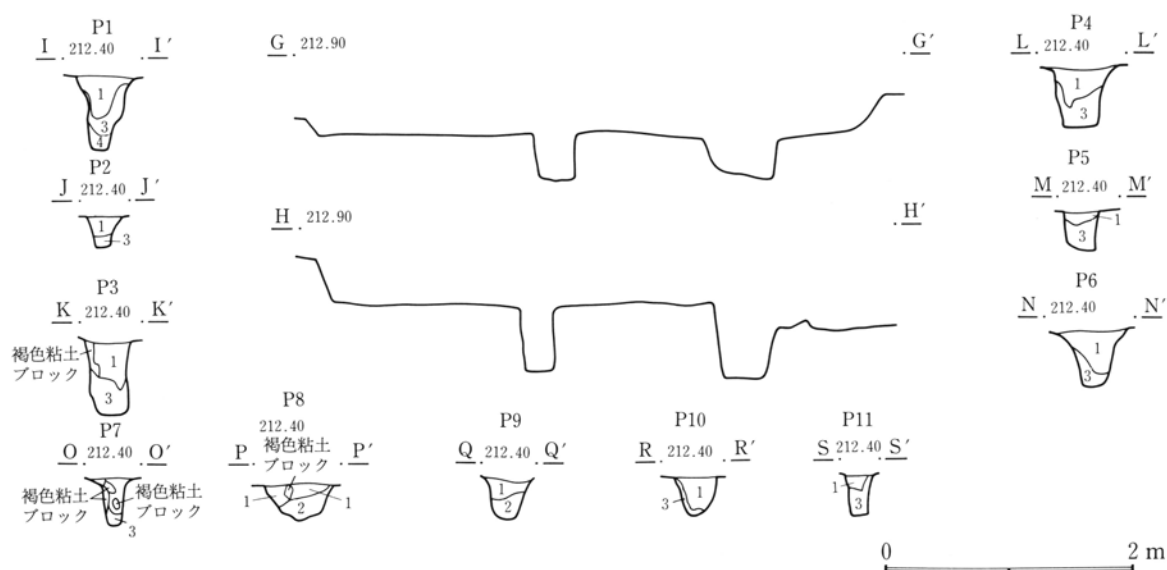
調査所見 C1号方形周溝墓と重複するものの、住居の遺存状態はかなり良好で、遺物の出土量も多かった。また、かなりの炭化材が床面上に見られたことから、火を受けたものと考えられる。



- |        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 1 暗褐色土 | 小礫、褐色土粒、褐色灰白色粒子多量に混入。黒褐色土と褐色土とがまだらをなす。      | 3 暗褐色土 | 小礫若干混入。褐色土及び褐色粘性土塊混入。あまり締まりはないが、床面近くは硬い。 |
| 2 黒褐色土 | 小礫混入するが、1ほど顕著ではない。褐色土粒、褐色・灰白色粒子等も混入。締まりはない。 | 4 黒褐色土 | 砂利、褐色土塊がところどころ混入。粒はやや細かい。                |

第147図 C56号住居跡(1)

### 第3章 遺 構

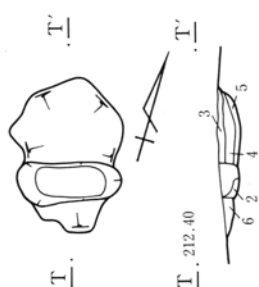


P 1～11

- 1 黒褐色土 砂礫、褐色粘性土粒、灰白色粒子等混入。  
淡褐色、褐色粘性土塊も若干含む。
- 2 黒褐色土 1と近似する、褐色土粒、褐色ローム土塊  
の混入やや顕著である。

- 3 黒褐色土 砂利、褐色土多量に混入。黒褐色土とまだ  
らをなす。
- 4 褐色土 3よりも褐色粘性土。褐色土の割合が多い。  
やや粘性を帯びる。

第148図 C56号住居跡(2)



炉

- 1 黒褐色土 小礫まれに含む。焼土粒及び微細炭化物若  
干含む。
- 2 暗黄褐色土 褐色粘質土ブロック多量に含む。微細炭  
化物わずかに含む。
- 3 明褐色土 均質で硬く、よく締まる。焼土層。
- 4 赤褐色土 均質でさらさらした土。焼土層。
- 5 暗黄褐色土 均質でさらさらした土。
- 6 暗赤褐色土 焼土を多量に含み、微細炭化物ごくわず  
か混入。

0 1 m

第149図 C56号住居跡炉

C60号住居跡 (第157・158・466図 PL. 16・17・170・260)

位置 Ci-33 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.70m、短辺3.29m、壁高0.11m

重複 北西隅にC1号方形周溝墓が接する。

埋没土 削平で上層部分はかなり失われていた。比較的締まった砂粒土で埋まる。

床面 平坦であるが、東側半分は削られた状況である。遺存部分もあり締まっていた。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。

炉 中央西寄りに作られている。長径60cm程、楕円形に浅く掘り窪められ、ほぼ中央に長さ約30cmの河原石が南北方向に据えられていた。石の西側部分で若干の焼土が検出されている。 出土遺物 削平を免れた西側部分で出土しているが、多くはなかった。台石と思われる大型の礫が炉の北東において、床面に据えられた状態で出土している。

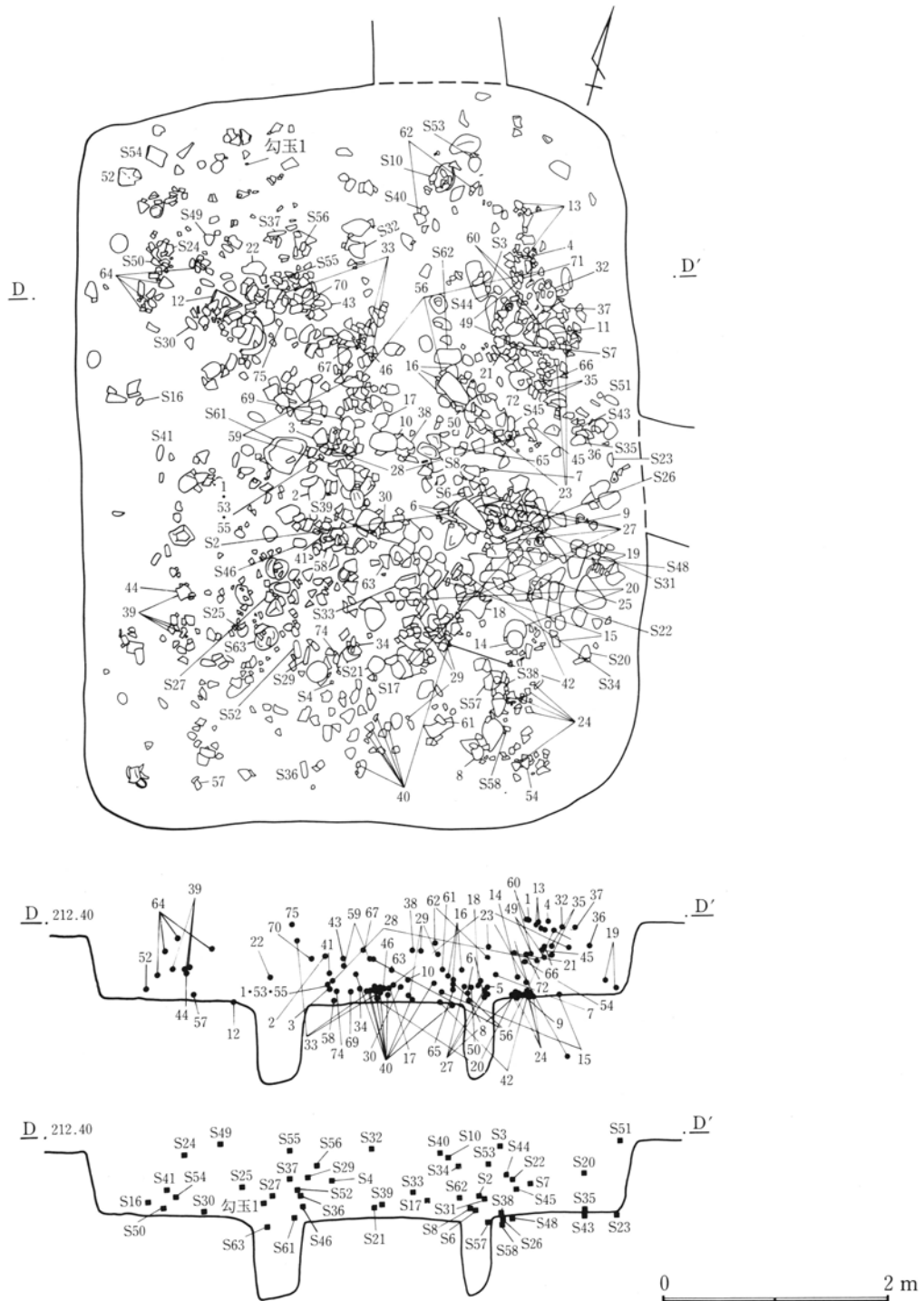
調査所見 主軸方向を東西方向にとる、やや小型の住居跡である。東側部分は壁、床が失われている。

## C 64号住居跡 (第159・160・475図 PL. 17・170・260)

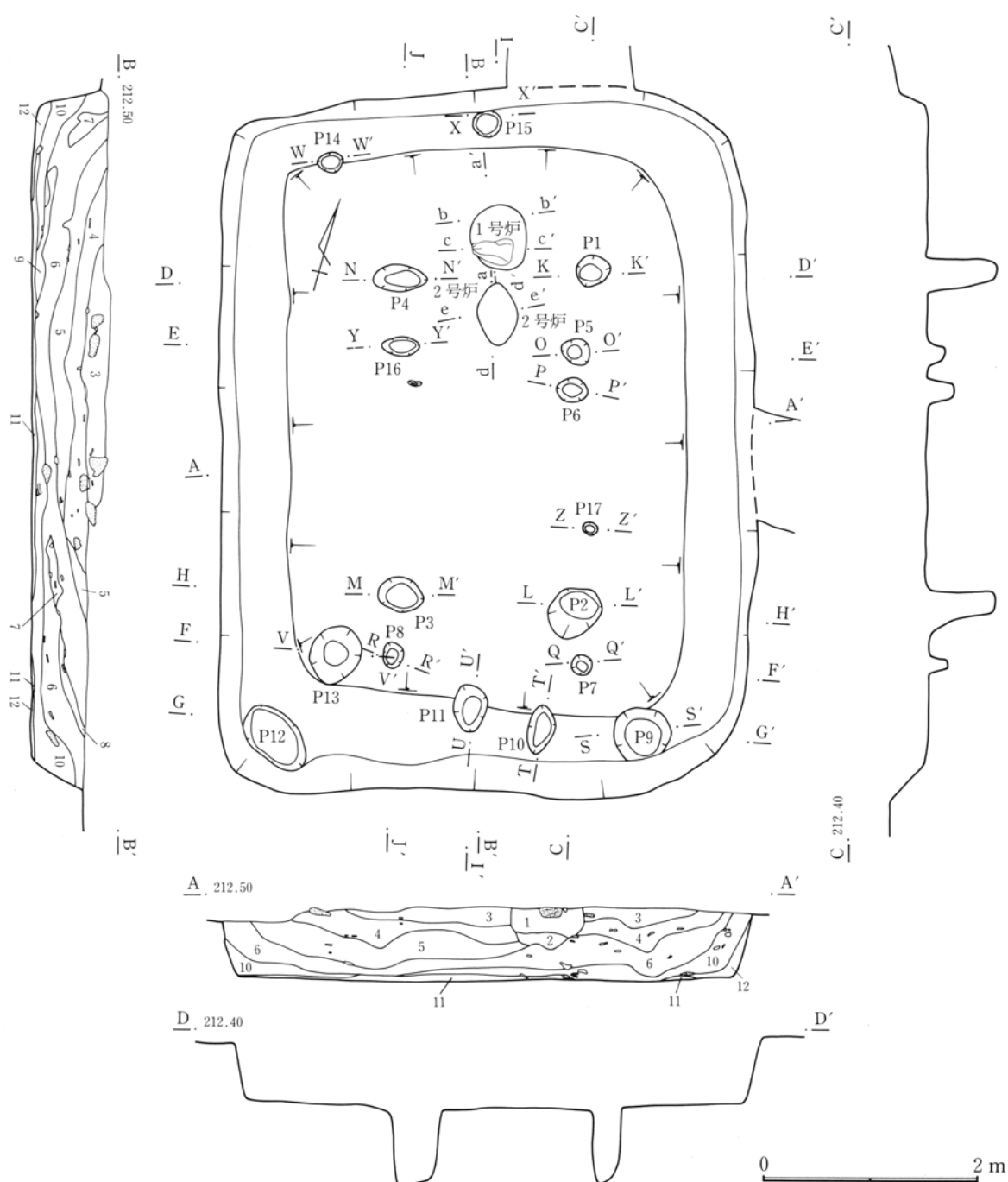
位置 Cg・h-33 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.70m、短辺4.55m、壁高0.33m

重複 西側に大きくC18号住居跡(弥生時代)が重複し、南西隅にC67号住居跡(古墳時代)が、南東隅にはC164号住居跡(弥生時代)が重複する。 埋没土 小礫多く含む粗粒土で埋まる。西側部分は重複のために不明瞭。 床面 重複部分はかなり荒れた状態で、失われた部分が多い。

貯蔵穴 南壁東隅寄りに半円形に掘り込まれる。



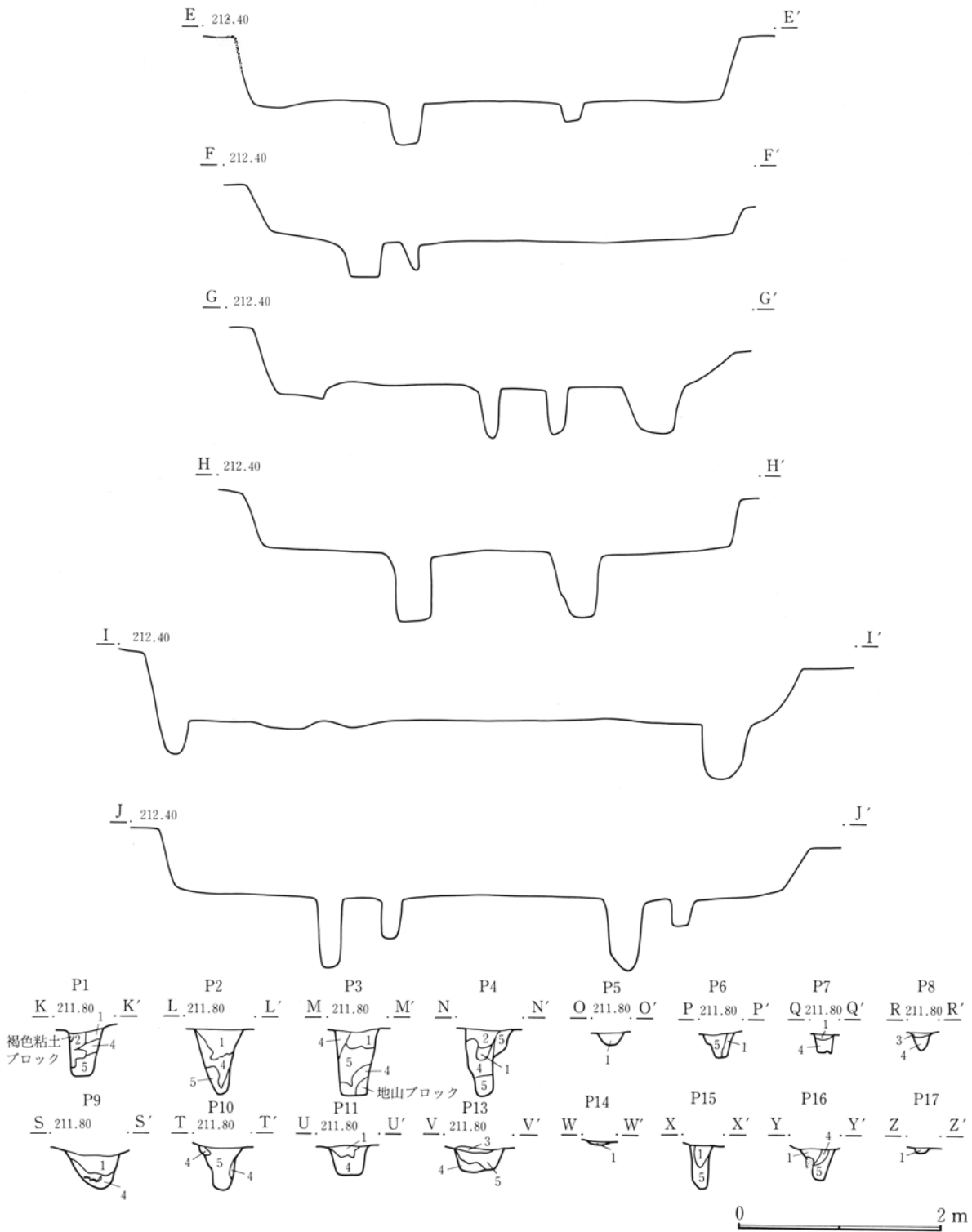
第150図 C 57号住居跡(1)



- 1 黒褐色土 締り弱く、褐色・灰白色粒子混入するほか、小礫が点々と見られる。
- 2 黒褐色土 混入物は1と同様。また褐色土が混入しており、1よりやや淡い色調である。
- 3 黒褐色土 褐色・灰白色粒子、小礫含む。わずかに炭化物混入。
- 4 黒褐色土 灰白色・褐色粒子、小礫も多く、特に径1 cm程の小礫が目立つ。褐色土、黒褐色土がまだらをなす。
- 5 黒褐色土 混入物は4と同様、角礫は2ほど多くなく、また、褐色土の混入も少ない。
- 6 褐色土 小礫、褐色・灰白色粒子等多量に混入。また、

- 褐色粘性土塊やや混入やや粘性を帯びる部分あり。所どころ黒褐色土とまだらをなす。
- 7 黒褐色土 混入物は6と同様、粒子は粗い。
  - 8 黒褐色土 7と近似、炭塊が点在。
  - 9 黒褐色土 7と近似するが、褐色土塊若干混入しまだらをなす。
  - 10 褐色土 小礫、褐色土粒・土塊等が雑多に混入。やや締まりあり。炭が所どころ混入。
  - 11 黒褐色土 褐色・灰白色粒子、小礫が若干含まれるほかは、粒子均一でやや締まりあり。
  - 12 暗褐色土 褐色・灰白色粒子混入するが、あまり多くない。粒子は細かく均一で締まりあり。

第151図 C57号住居跡(2)

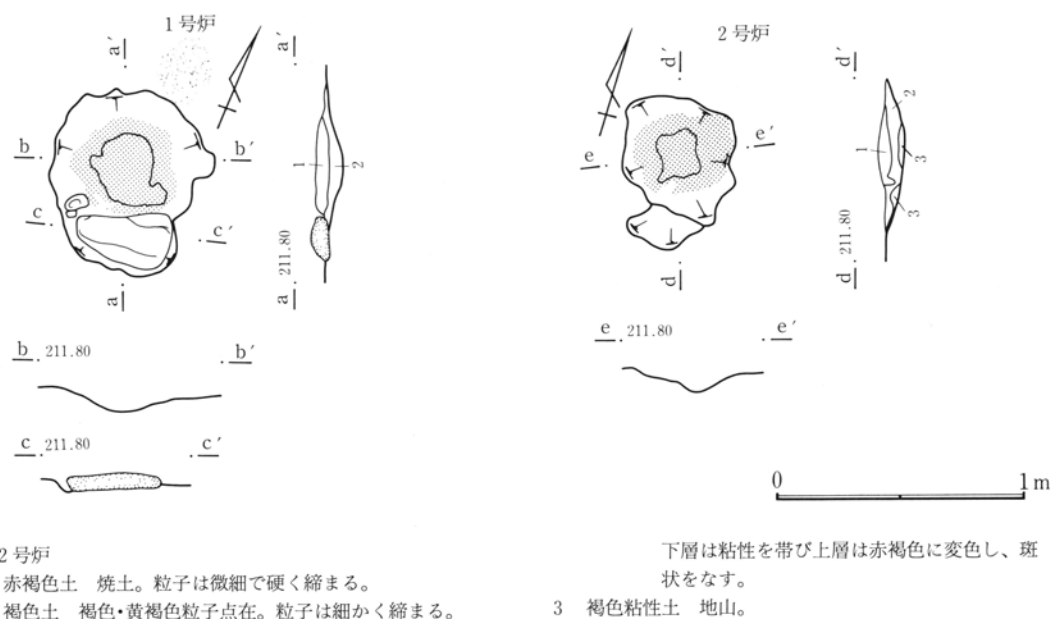


P 1 ~ 11・13 ~ 17

- 1 黒褐色土 褐色・灰白色粒子点々と混入。褐色粘性土塊若干混入。やや締まりあり。
- 2 黒褐色土 褐色土粒・土塊、多く混入し、まだら状をなす。ザラザラとした部分多い。
- 3 黒褐色土 褐色・灰白色粒子、砂利が雑多に混入。硬

- 4 黒褐色土 褐色・灰白色粒子が若干混入。褐色粘性土塊の混入顕著で、黒褐色土とまだらをなす。粒子細かくよく締まる。
- 5 暗褐色土 褐色・灰白色粒子わずかに混入。褐色粘性土の割合が多く、暗褐色土が若干混入。

第152図 C57号住居跡(3)



第153図 C57号住居跡炉

**柱穴** 3本が検出されたが、南東に位置するものを除き、位置的に柱穴とは認定し難い。

**炉** 中央北寄りに検出された。長さ25cm程の磨製石斧を再利用したものを据えている。石の周囲はわずかにくぼみ、北側を中心に焼土、炭化物が見られる。

**出土遺物** あまり多くはなかったが、床面上で壺、甕類が出土している。

**調査所見** 西側、南側に住居が重複しているために、この部分については壁、床面ともに遺存状態はあまり良くない。比較的規模は大きく、北辺に比べ南辺がかなり長く、縦長のやや台形状を呈す。

#### C65号住居跡 (第161・162・476図 PL. 17・18・170・259・261)

**位置** Ca-31・32 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(5.6)m、短辺4.01m、壁高0.38m

**重複** 北側部分にC58号住居跡(古墳時代)が重複し、南側にはC82号住居跡(弥生時代)が重複する。また南端は道路により壊されている。 **埋没土** 礫、粘質土ブロックの混土で粘性がある。

**床面** 平坦で比較的締まりが良い。部分的に凹凸が見られる。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 主柱穴と思われるピット4本を検出した。また北壁および東壁下に小ピットが見られる。

**炉** 2カ所検出した。

1号炉 中央北寄りに検出した。長さ40cmの砂岩を据え、その北側に焼土を伴う掘り込みが見られる。また、石の南には若干の炭化物が認められた。周辺部の床面はかなり硬化している。

2号炉 中央東寄りに検出した。地床炉である。径30cm程の焼土が認められた。

**出土遺物** 甕の破片がわずかに出土している。

**調査所見** 南側は住居跡に切られ、さらに調査区外となる。遺存部分については比較的状态は良く、壁もほぼ垂直に掘り込まれている。

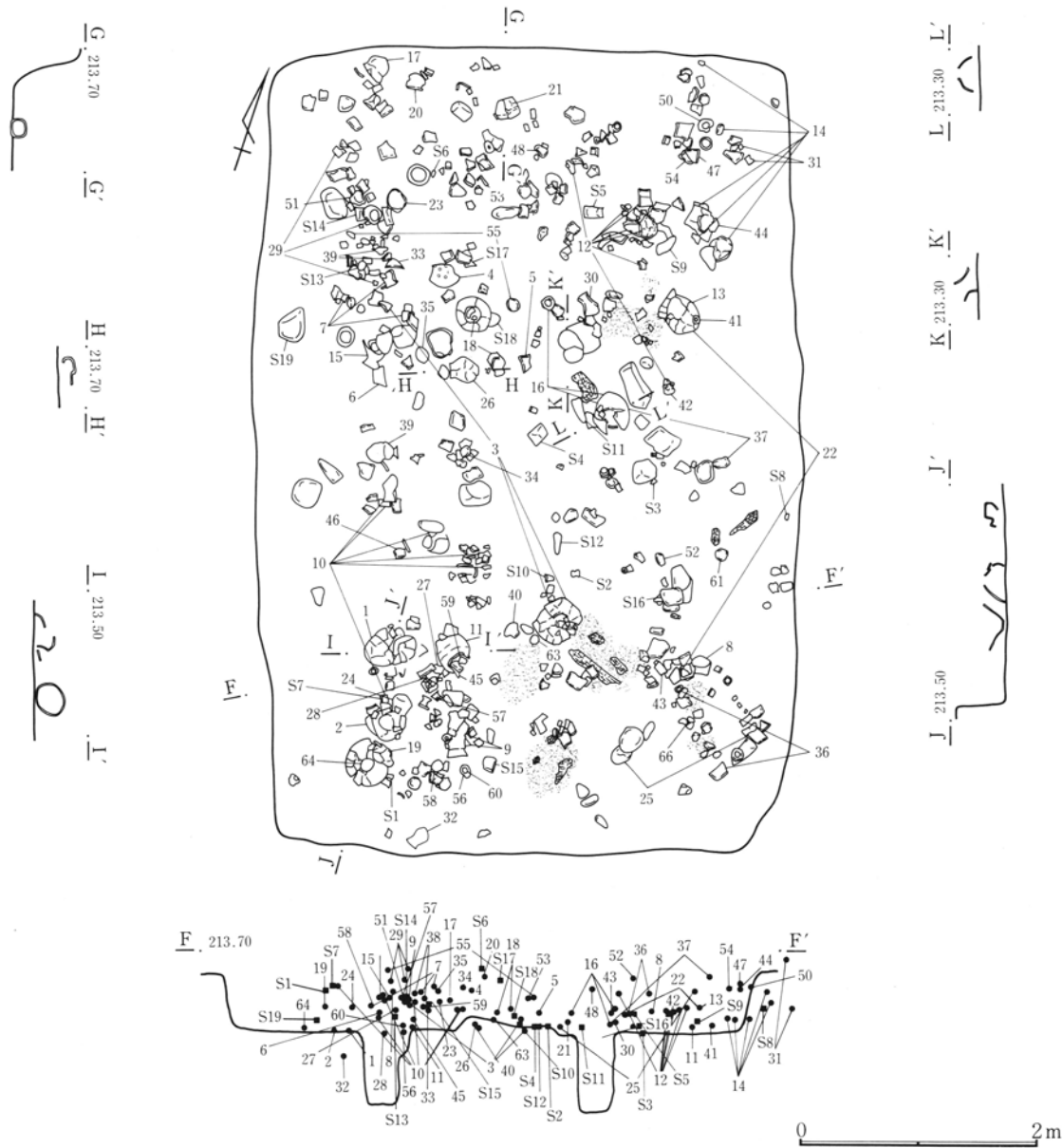
C68号住居跡 (第163・164・477図 PL. 18・261)

位置 Cg・h—31・32 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.5m、短辺5.81m、壁高0.37m

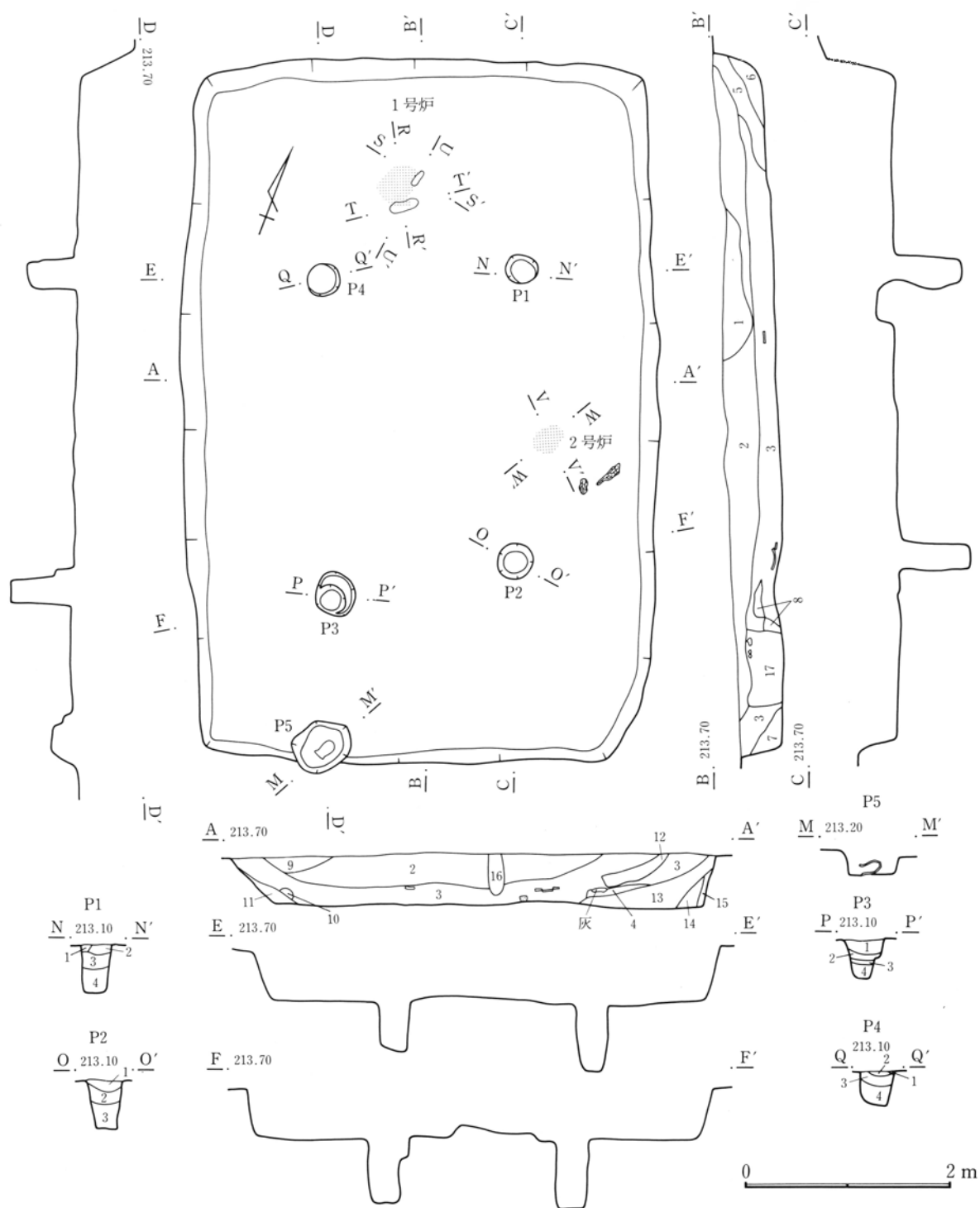
重複 東側にC63号住居跡(古墳時代)が、西側部分にはC61号住居跡(古墳時代)が掛かり、さらに南西隅にC69号住居跡(平安時代)が重複している。また住居内には小形のC99号住居跡(古墳時代)がすっぽり収まる形で重複している。 埋没土 遺構の重複が著しく、堆積土の厚さもあまりなかった。礫を多く含む砂礫土主体で、あまり締まりはなかった。 床面 比較的平坦であるが、南部分については重複により、凹凸が見られる。炉周辺部分はやや締まっているが、全体的には軟質である。

貯蔵穴 南壁のほぼ中央に掘り込まれていた。径約70cm、深さは20cm程である。中から壺、甕の破片などが出土している。

柱穴 6本検出したが、規模、位置が規格性に欠ける。特にP2・3は小さく、位置的にもやや内側に偏して掘り込まれている。また南側ほぼ中央にP8があり、補助的なものであろうか。



第154図 C59号住居跡(1)



- |   |  |
|---|--|
| 1 暗褐色土 粘性なし。小礫、白色粒子含む。黄色味が<br>かる。C 1号方形周溝基覆土。 | 6 褐色土 締まりあり。小礫、炭化物を含み、地山土を<br>多く含む。        |
| 2 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。微小礫、白色粒を<br>多く含む、炭化物を含む。    | 7 暗褐色土 締まり弱く、粘性なし。黄色がかる。微小<br>礫、地山土を含む。    |
| 3 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。微小礫、白色粒、<br>炭化物を含む。         | 8 暗黄色土 締まり粘性なし。地山土主体とする。                   |
| 4 暗褐色土 3の黒色の強い部分。                             | 9 暗褐色土 締まりあり、粘性なし。微小礫を含む。                  |
| 5 褐色土 締まりあり、粘性弱い。微小礫、白色粒、地<br>山土を多く含む。        | 10 地山土ブロック。                                |
|   | 11 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。微小礫を少し含む、<br>地山砂質土多く含む。 |

第155図 C59号住居跡(2)

- 12 褐色土 締まりあり、小礫、炭化物をわずかに含む。
- 13 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。微小礫、炭化物を少し含む。
- 14 暗褐色土 やや軟質。地山土をわずかに含む。黒色強い。
- 15 暗黄色土 締まり弱く、粘性弱い。地山土をかなり多く含む。
- 16 褐色土 締まりよく、粘性強い。微小礫をわずかに含む。樹根か？
- 17 暗褐色土 締まりあり。小礫を含み、炭化物多く含む部分。黄色粒多い。

P 1

- 1 褐色土 締まりあり、粘性弱い。地山土を含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。地山土、微小礫をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性やや強い。地山土を少し含む。
- 4 暗褐色土 締まりよく、粘性やや強い。地山土含む。

P 2

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性強い。地山土、微小礫、炭化物を少し含む。

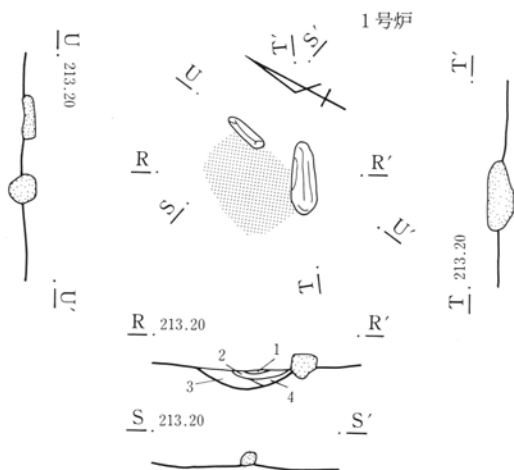
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性あり。かなり軟質。地山土、小礫、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性やや強い。やや軟質。地山土をわずかに含む。

P 3

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性わずか。微小礫、地山土を多く含む。
- 2 暗褐色土 締まりあり、粘性やや強い。地山土を多く含む。やや黄色化。
- 3 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。地山土、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 締まりあり、粘性やや強いがザラつく。地山土を少し含む。

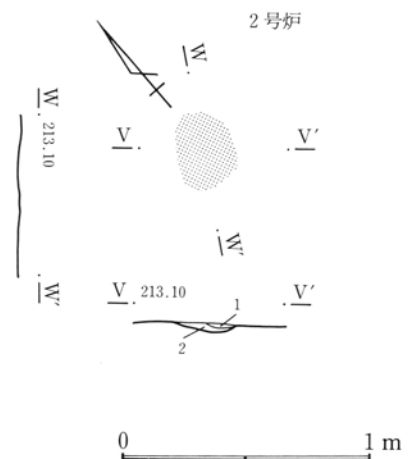
P 4

- 1 褐色土 締まりなく、粘性なし。地山土を主体とする。
- 2 暗褐色土 締まりよく、粘性わずか。地山土を多く含む。
- 3 褐色土 締まり弱く、粘性わずか。地山土をかなり多く含む。
- 4 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。地山土を多く含む。



1号炉

- 1 黒褐色土 締まり弱く、粘性弱い。焼土多く含む。
- 2 赤褐色土 締まりあり、粘性なし。焼土をかなり多く含む。白黄色化する。
- 3 黒褐色土 締まりあり、粘性弱い。焼土、地山土を少し含む。
- 4 黒褐色土 地山土を主体。締まりあり、粘性なし。焼土含む。



2号炉

- 1 赤褐色土 締まりあり、粘性なし。焼土を主体とする。
- 2 暗黄褐色土 締まりあり、粘性弱い。地山土主体。部分的に焼土が混入。

第156図 C59号住居跡炉

炉 2カ所検出した。

1号炉 北側壁に寄ったところにあり、やや不定形な掘り込みと、石を伴う。石は扁平な砂岩で、一度折れたものを一部前後に重ね合わせて据えられている。

2号炉 1号炉の直ぐ北に位置する。やはりやや不定形な掘り込みに、長さ40cm程の河原石が据えられている。

出土遺物 破片が散在して検出されている。甕、台付き鉢、高坏等が見られる。

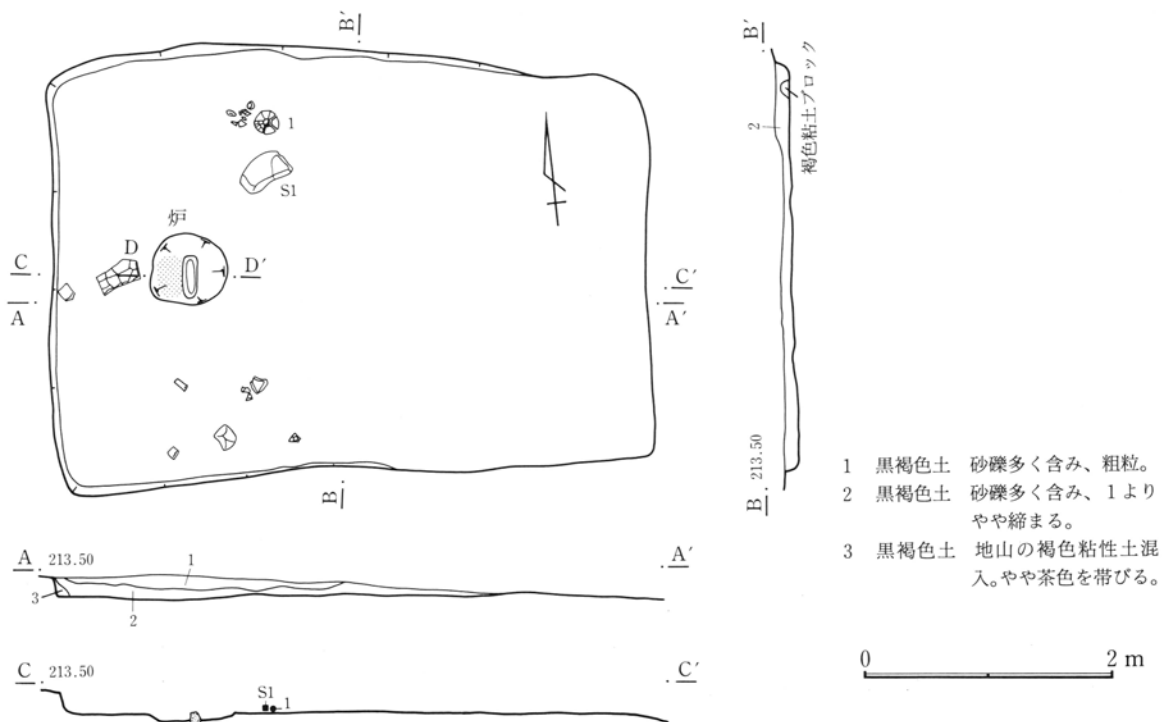
**調査所見** 近接して2基の炉が検出されたことから、建て替えを考えたが明確な確証は得られなかった。炉の新旧については、2号炉のほうが後から作られたと思われるが、2基同時に使われていた可能性がある。

C71号住居跡 (第165～167・478～480図 PL. 18・19・171・172・262・263)

**位置** Ce・f-30 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺6.64m、短辺4.23m、壁高0.43m

**重複** 北西隅部分にC42号住居跡(古墳時代)、北東部分にはC70号住居跡(古墳時代)が重複し、西辺にはC108号住居跡(弥生時代末)が接している。さらに南壁部分にはC2号方形周溝墓が重複している。

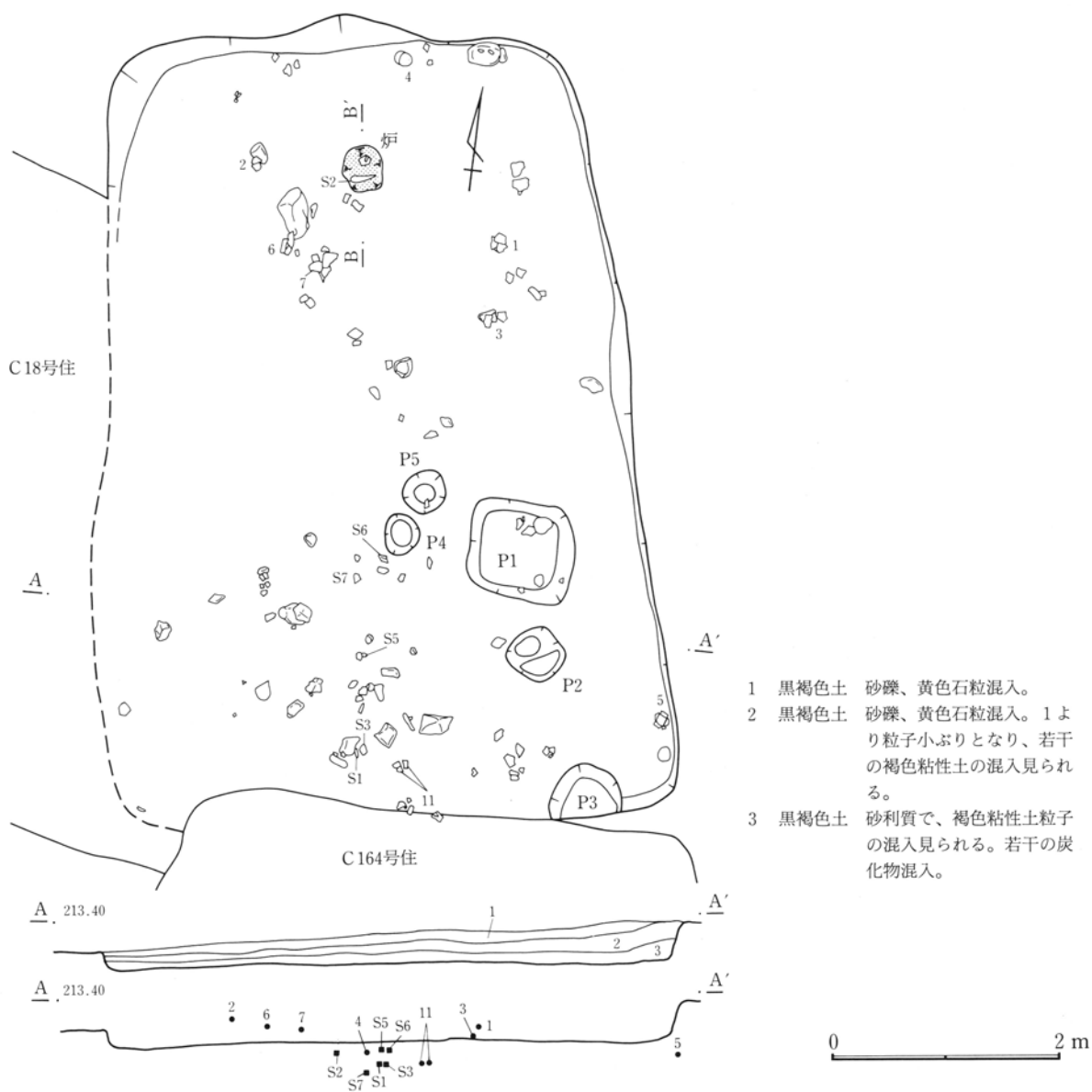
**埋没土** 礫を含む粗粒土。 **床面** やや凹凸が見られるものの、比較的平坦で、中央部分はかなり締まっている。方形周溝墓が重複する南端部分はかなりの凹凸が見られる。 **貯蔵穴** 南東隅に検出した。径約80cm、深さは30cm程である。 **柱穴** 6本と思われるが、検出したのは5本で、南西部分のものが検出できなかった。また、中央部の2本はかなり北に寄っており、不均一な配置をとる。



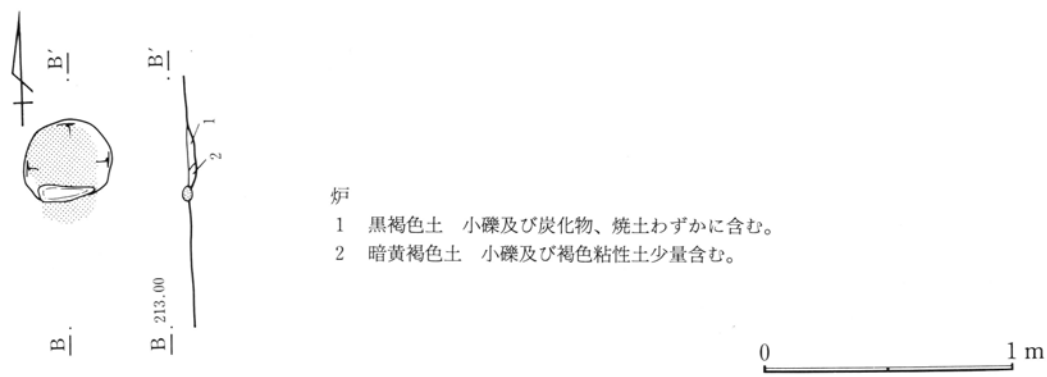
第157図 C60号住居跡



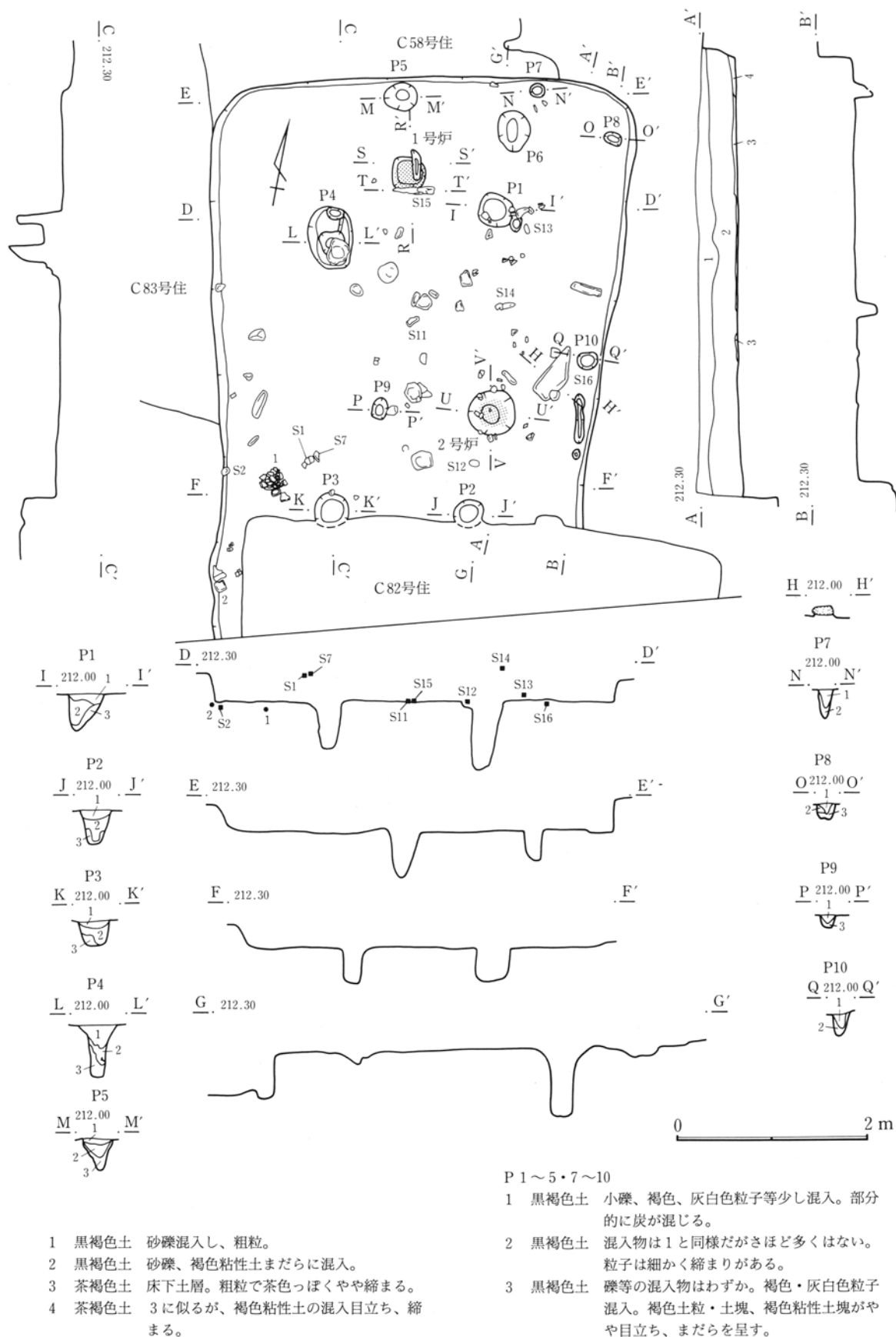
第158図 C60号住居跡炉



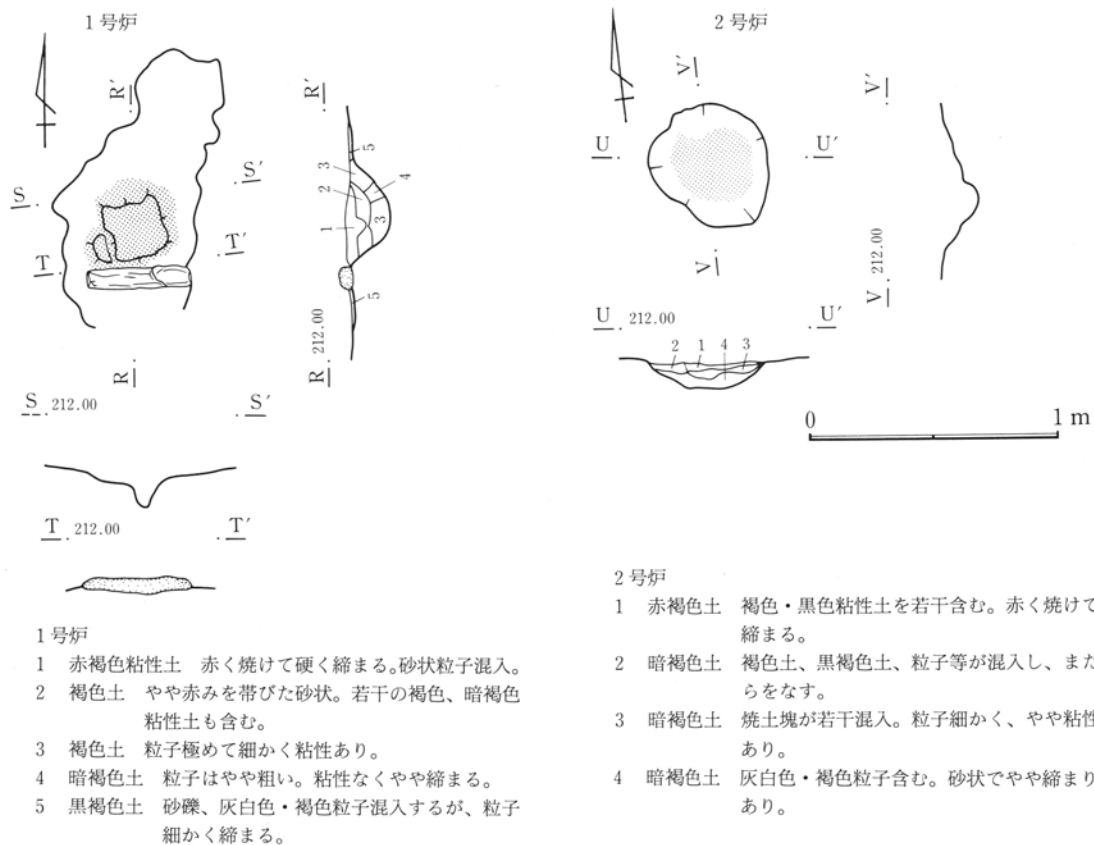
第159図 C64号住居跡



第160図 C64号住居跡炉



第161図 C65号住居跡



第162図 C65号住居跡炉

炉 2カ所検出した。

1号炉 中央北寄りに作られる。長さ35cm程の石が据えられ、その北側、南側がわずかに掘り窪められている。北側に若干の焼土が見られた。石はほぼ中央で二つに割れて検出されている。

2号炉 P4の南側、約1mのところに作られた地床炉である。30cm程の範囲がわずかに窪み、中央部分に焼土が検出されている。

出土遺物 比較的多くの土器が、やや大形の礫とともに検出されている。完形に近い土器も床面直上より検出されている。

調査所見 南端にC2号方形周溝墓が掛かり、床面まで削平が及んでいる。さらに、北壁部分も失われているものの、遺存状態は比較的良好である。

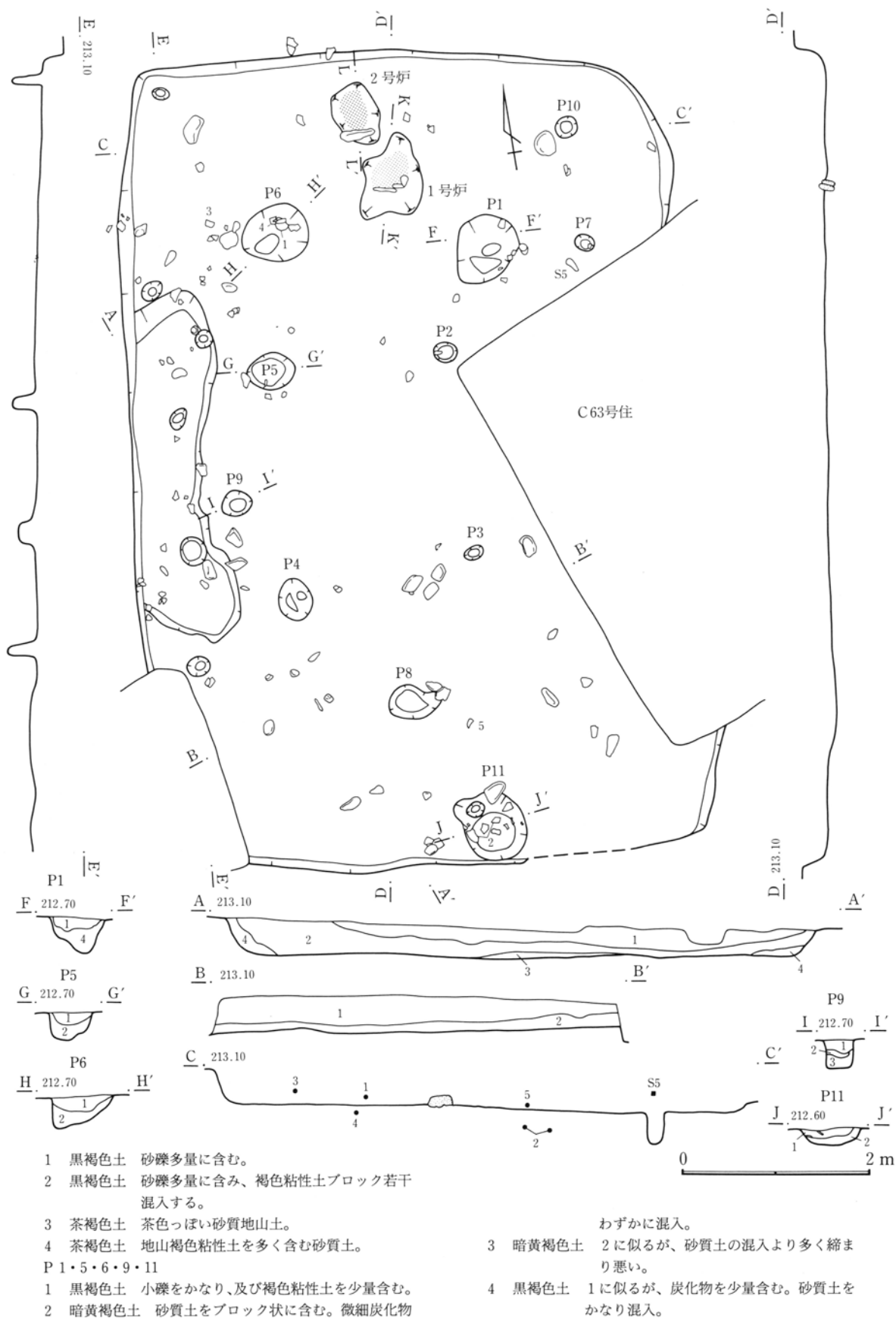
C72号住居跡 (第168～170・481図 PL. 19・172・263)

位置 Cj・k—33・34 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.00m、短辺6.74m、壁高0.30m

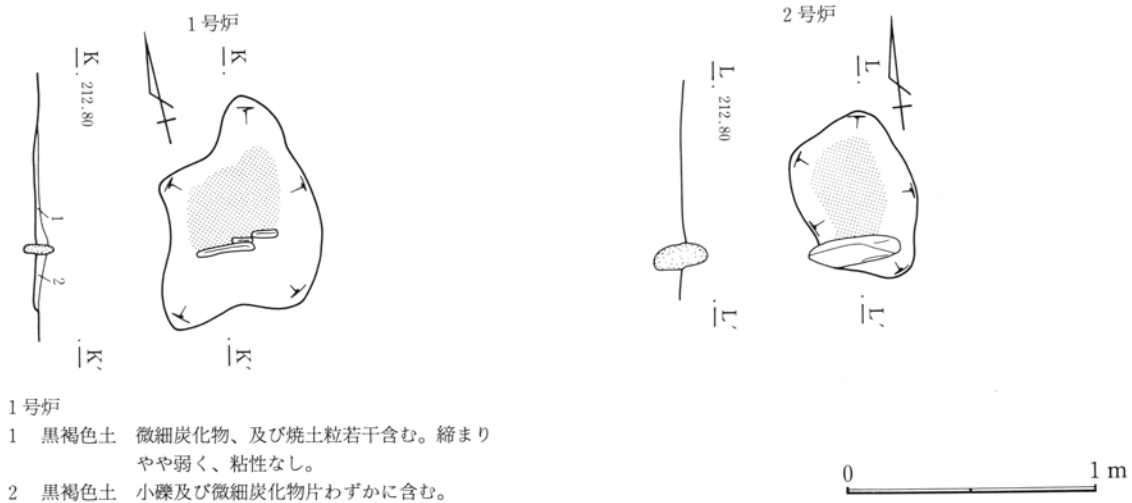
重複 南西隅をC1号方形周溝墓に切られる。 埋没土 上面をかなり削平されており、全体的に薄く、南部分についてはほとんど残っていなかった。黒味のある砂礫土で、比較的締まっている。

床面 北側半分については、比較的状态も良く平坦で、締まっていたが、南側はやや凹凸が見られた。また西および東壁の北側に沿って幅70～80cmの溝状の落ち込みを確認した。 貯蔵穴 明確なものは検出されなかった。 柱穴 P1～8を検出したが、明確に支柱穴と判断されたものはなかった。

炉 中央北寄りに作られている。長さ40cm、厚さ10cm程の砂岩を据え、やや窪んだ周囲に焼土が検出されている。



第163図 C68号住居跡



第164図 C68号住居跡炉

**出土遺物** 点数は少なく、炉部分より3・4が出土している。

**調査所見** 南半分は遺存状態が悪く、壁も残っていなかった。かなり横幅を持つ、比較的大型の住居である。

#### C73号住居跡 (第171～173・482図 PL. 19・20・172・263)

**位置** Ce・f—32・33 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(8.60)m、短辺5.88m、壁高0.20m

**重複** 南側にC166号住居跡(弥生時代)、C92号住居跡(古墳時代)が重複し、東壁部分はC108号住居跡(古墳時代初頭)によって壊されている。 **埋没土** 砂礫多く含み粗粒。黒味を持ち、粘性は少ない。

**床面** 細かな凹凸が見られ、中央部分がややくぼむ。炉周辺はかなり締まる。

**貯蔵穴** 南東隅、C92号住居跡との重複部分で検出されている、上部部分は壊されており下位部分のみ残存。

**柱穴** 4本または6本と思われるが、東側列については北側のみ検出されている。

**炉** 2カ所検出した。

1号炉 中央北よりに検出。長さ25cm程の砂岩を据え、北側が僅かにくぼむ。中央部底面には焼土が確認されている。

2号炉 中央やや西に寄った所に作られ、P7に近接する。径25cm程の浅い掘り込みの東寄りに、長さ20cm程の河原石が南北方向に据えられている。掘り込み部分には焼土が検出されている。

**出土遺物** 遺物は比較的遺存状態の良かった北側に集中して検出された。また貯蔵穴内より赤彩の蓋が出土している。

**調査所見** 比較的大形の住居である。南側および東側は重複により壊されている。住居北側部分に大形の礫が多く検出されている。

C75号住居跡 (第174・175・483図 PL. 20・264)

位置 Ca・b—29・30 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.89m、短辺4.84m、壁高0.42m

重複 西壁はC48号住居跡(古墳時代)に切られ、東壁にはC51号住居跡(古墳時代)、C74号住居跡(古墳時代)が重複する。また、南東部分は一部調査区外となる。

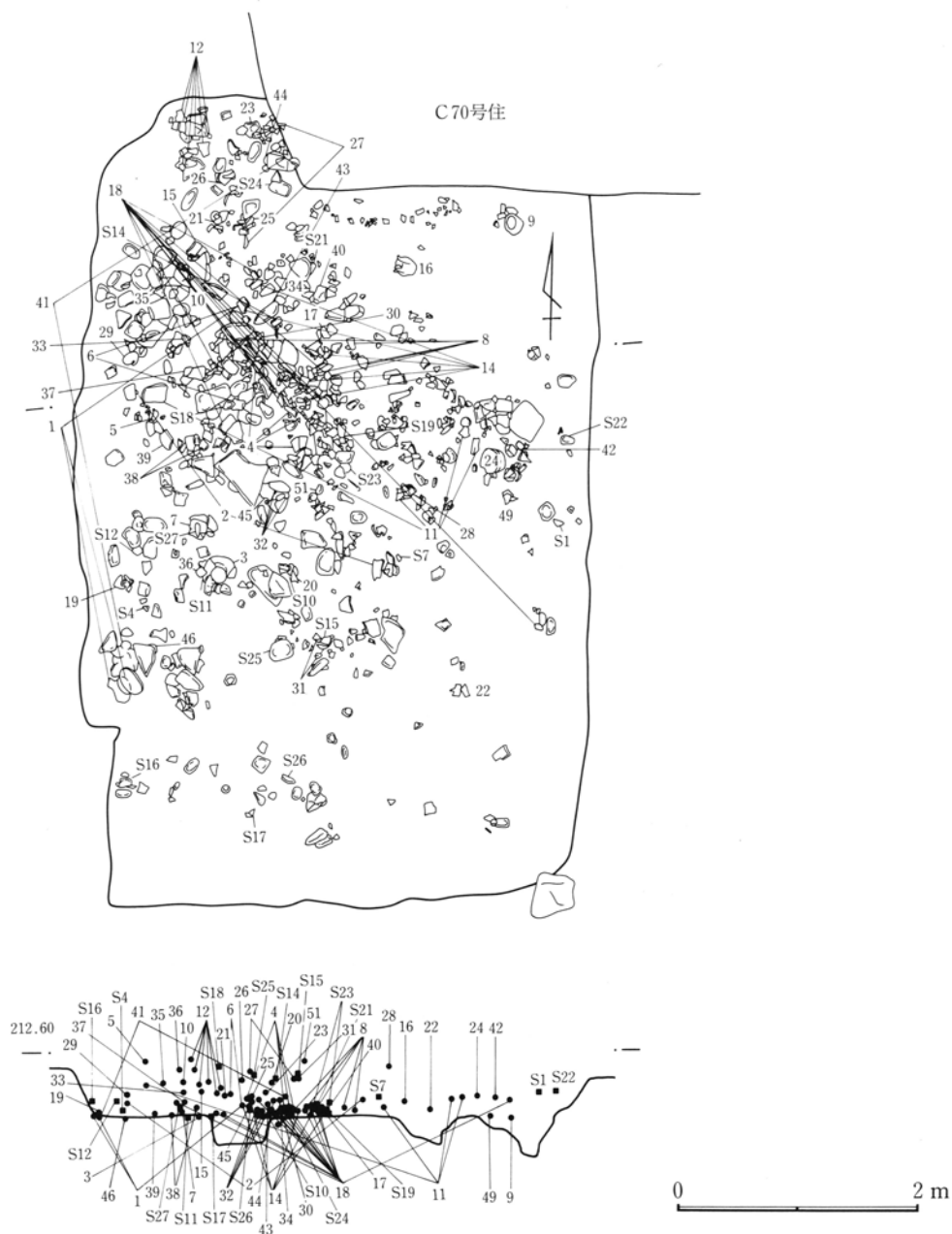
埋没土 礫を含み比較的締まる。また、下層には炭化物が若干混入する。

床面 かなりの凹凸が見られ、明確な使用面がはっきりしない。

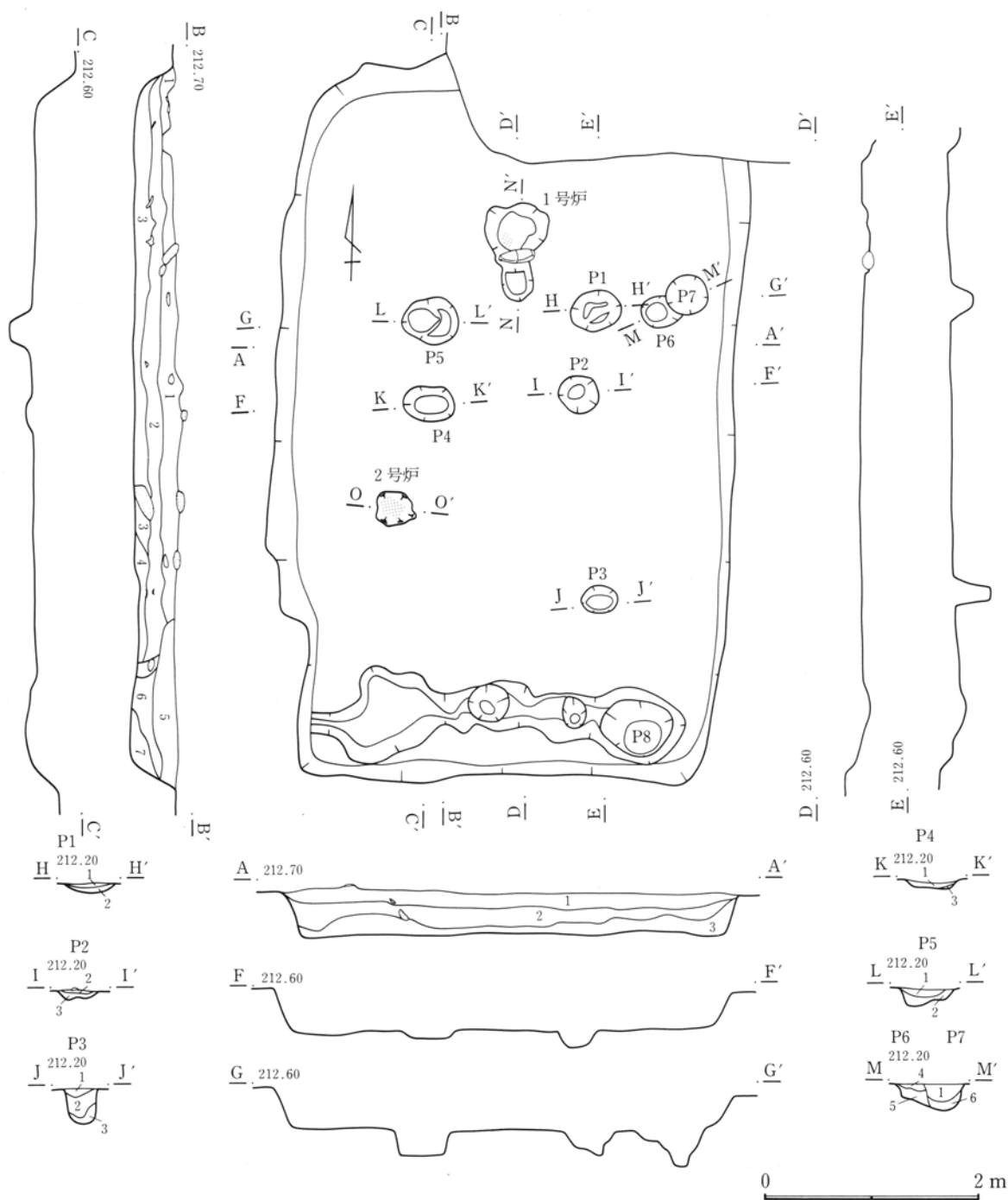
貯蔵穴 東壁際に検出された、径90cm、深さは約30cmである。

柱穴 6本柱穴と思われるが、南側列の東より2本は検出されなかった。

炉 西側柱穴間に作られる。やや細長い河原石2個を間を空けて据え、その部分を塞ぐ様に東側に細長い河



第165図 C71号住居跡(1)

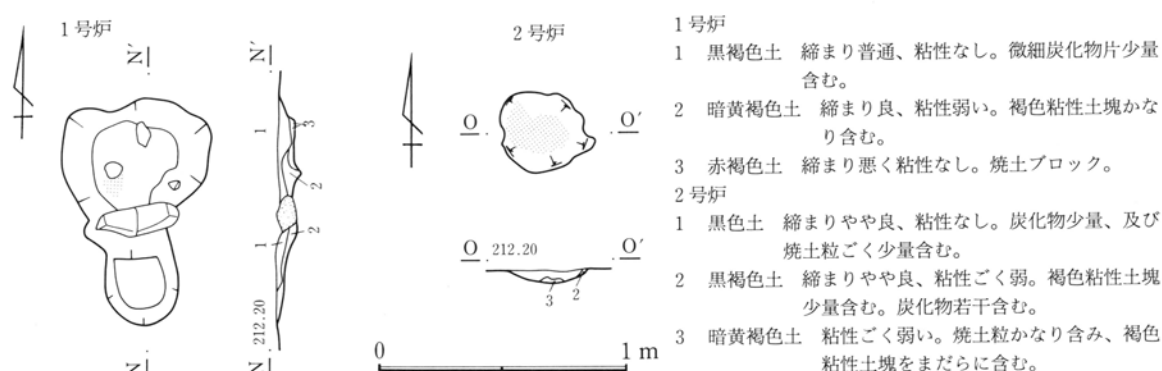


- 1 黒色土 締まりやや弱く、粘性なし。小礫かなり含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱く、粘性なし。小礫少量、及び炭化物若干含む。
- 3 黒褐色土 締まりやや弱く、粘性なし。炭化物少量含む。小岩片若干含む。
- 4 暗黄褐色土 締まりやや良く、粘性なし。微小岩片少量、及び褐色粘性土塊、炭化物少量含む。
- 5 黒色土 締まりよく、粘性なし。小礫かなり含む。1に比べ、黒味強い。
- 6 黒色土 締まりよく、粘性なし。小礫及び微細炭化物ごくわずか含む。
- 7 暗褐色土 粘性なし。微細炭化物及び褐色粘性土塊若干含む。

P 1～7

- 1 黒色土 粘性なし。小礫を少量、及び炭化物若干含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや強く、粘性なし。褐色粘性土塊若干含む。
- 3 暗黄褐色土 締まりやや強く、粘性なし。地山褐色粘性土をブロック状に含む。
- 4 黒褐色土 締まりやや強く、粘性なし。岩片を少量、及び炭化物若干含む。
- 5 暗灰色 締まり弱く、粘性なし。砂を多量に含む。
- 6 黒色土 締まりやや強く、粘性なし。微細炭化物片ごくわずか含む。1に比べ黒味強い。

第166図 C71号住居跡(2)



第167図 C71号住居跡炉

原石を置いている。西側には焼土の広がりが見られた。さらに、これらの石を取り除いたところ、下からほとんど同じ位置に据えられた扁平な砂岩が検出された。このことから、この炉は上に作り足されたものと考えられる。本住居の下位には縄文の住居があり、床の沈下により客土した結果、炉石のかさ上げが行われたものと推定される。

**出土遺物** 少ない。わずかに甕、壺の口縁部、底部片が見られたにすぎない。

**調査所見** 住居は東西に主軸を持つ形である。重複および、一部調査区外である。下位に縄文の住居があるために床面の状態はあまり良くなかった。炉の作り替えがなされたものと思われ、一部ピットも追加されたものもあると思われる。

#### C76号住居跡 (第176・177・484図 PL. 21・264)

**位置** Bt・Ca—33 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(3.25)m、短辺3.98m、壁高0.85m

**重複** 南側半分は調査区外となる。 **埋没土** 礫を混入するが細かい。下層は粘質度が増し、混入物はなくなる。 **床面** 比較的平坦で良く締まる。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 北側の2本を検出した。やや東西に長い長円形で長径約50cm、深さは20～30cmである。P1の中より土器の出土がみられた。また、壁柱穴6本、東壁下には壁溝を検出している。

**炉** 中央北より検出、不定形に焼土が広がる地床炉である。焼土の広がりがかなり見られ、炭化物もブロック状に認められた。

**出土遺物** 床面上より壺、甕類が出土している。

**調査所見** 北側約半分のための調査である。粘土質の地山を掘って作られた住居で、壁の立ち上がりはしっかりしている。

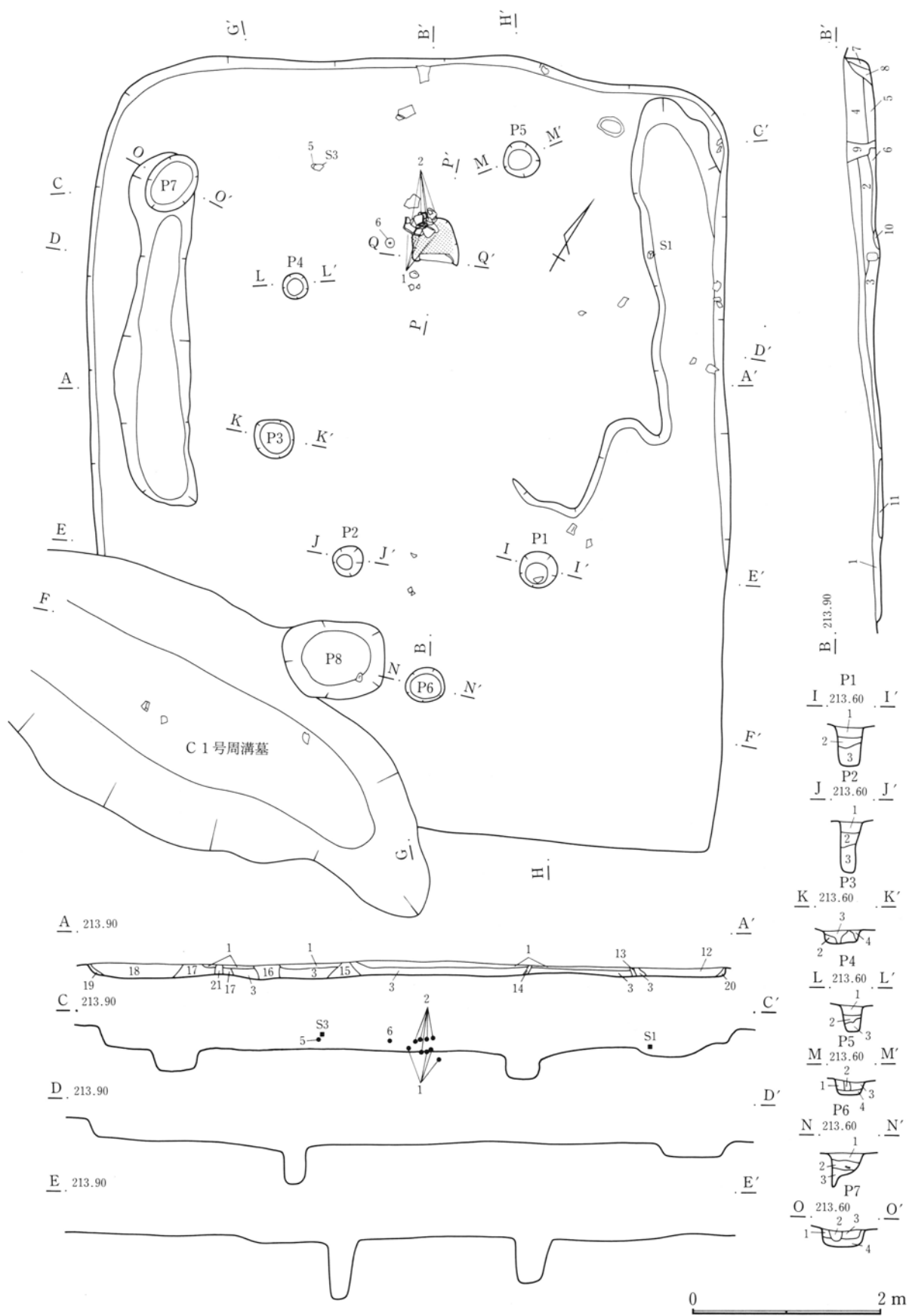
#### C80号住居跡 (第178～180・485・486図 PL. 22・23・173・174・265～267)

**位置** Cb・c・d—29・30 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺9.18m、短辺8.15m、壁高0.61m

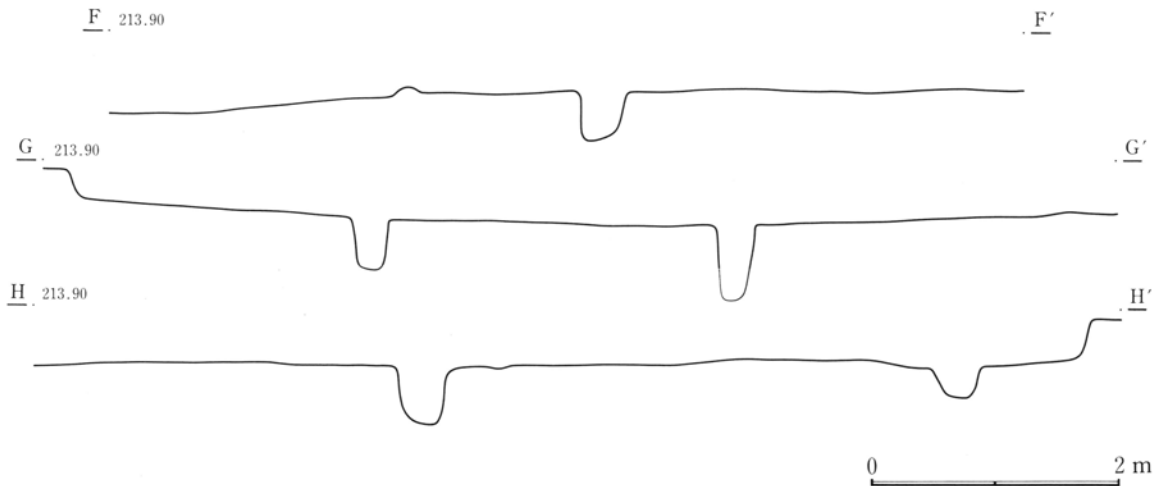
**重複** 南部分にはC78号住居跡(古墳時代)および、C51号住居跡(古墳時代)が重複し、北東部分にはC94号住居跡(弥生時代)が重複している。さらに、西側には、L字型にC2号方形周溝墓が覆土上層部分に重複している。

**埋没土** 全体に砂礫を混入し、部分的に褐色粘性土ブロックを含む。また、下層には若干の炭化物を認めた。

**床面** 地山粘質土を踏み固めている、比較的平坦で中央部分はかなり締まっていた。西壁寄りに不定形な落



### 第3章 遺 構



- 1 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。微小礫、地山土を少し含む。
- 2 暗褐色土 1の礫のさらに少ない部分。
- 3 褐色土 締まりあり、粘性わずかあり。地山土、小礫を多く含む。
- 4 暗褐色土 締まりあり、粘性弱い。地山土を含む。1より黄色がやや強い。
- 5 褐色土 締まりあり、粘性わずか。地山土をかなり多く含む黄色味強い。
- 6 暗褐色土 締まりよく、粘性弱い。微小礫、地山土を含む。
- 7 暗黄褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土を非常に多く含む。
- 8 暗褐色土 締まりよく、粘性弱い。地山土をわずかに含む。
- 9 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。微小礫を含み、地山土をわずかに含む。
- 10 暗褐色土 締まりよく、粘性弱い。焼土、地山土を少し含む。
- 11 黄褐色土 締まりあり、粘性わずか。地山土非常に多く含む。
- 12 黒褐色土 締まりよく、粘性やや強い。地山土をわずか含む。溝状遺構か？
- 13 黒褐色土 締まりよく、粘性わずか。樹根か？
- 14 黒褐色土 締まりよく、粘性わずか。樹根か？地山土をわずか含む。
- 15 褐色土 よく締まり、粘性なし。地山土、微小礫を多く含む。
- 16 暗褐色土 締まりよく、粘性あり。地山土、微小礫を含む。樹根か？
- 17 褐色土 締まり弱く、粘性なし。地山土を多く含む。
- 18 黒褐色土 締まりよく、粘性弱い。微小礫、地山土を多く含む。溝状遺構か？
- 19 褐色土 締まり弱く、粘性わずか。地山土を非常に多く含む。
- 20 褐色土 締まり弱く、粘性あり、地山土をかなり多く含む。
- 21 黒褐色土 締まり良く、粘性わずか。

#### P 1

- 1 黒褐色土 締まりよく、地山土を多く含む。
- 2 褐色土 地山土をかなり多く含む。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性あり。地山土をかなり多く含む。

#### P 2

- 1 黒褐色土 締まりよく、粘性わずか。地山土を含む。
- 2 黒褐色土 締まりあり、地山土を多く含む暗黄色化する。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性あり。地山土を多く含む。

#### P 3

- 1 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含む、暗黄色がかる。
- 2 褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を主体とする。
- 3 褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土、微小礫を少し含む。
- 4 暗褐色土 締まりよく、粘性わずか。微小礫を少し含む。

#### P 4

- 1 黒褐色土 締まりよく、粘性あり。微小礫、白色粒を含む。
- 2 黒褐色土 締まりあり、粘性やや強い。地山土を含む。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性強い。地山土を含む。

#### P 5

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫、地山土を少し含む。
- 2 黄褐色土 締まりあり、粘性なし。地山土を多く含む。
- 3 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫、地山土を含む。
- 4 褐色土 締まり弱く、粘性なし。もろい。地山土を主体とする。

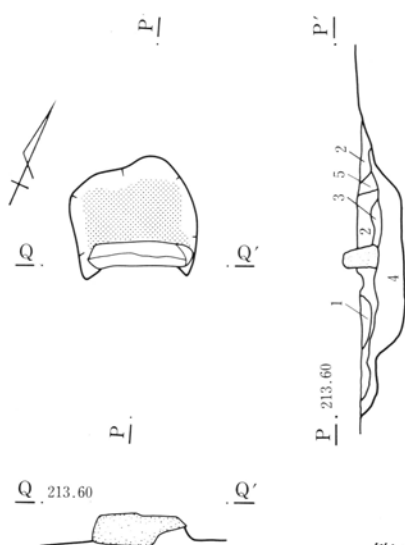
#### P 6

- 1 黒褐色土 締まりよく、白色粒をかなり多く含む。
- 2 黒褐色土 締まりよく、粘性あり。白色粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 締まり弱く、粘性あり。地山土を多く含む。

#### P 7

- 1 暗褐色土 締まりよく、粘性わずか。微小礫を少し含む。
- 2 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土をかなり多く含む。
- 3 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。微小礫を多く含む。
- 4 黒褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土多く含む。

第169図 C72号住居跡(2)



第170図 C72号住居跡炉

炉

- 1 黒褐色土 締まりなく、粘性なし。白色粒、焼土、炭化物を含む。
- 2 褐色土 締まりよく、粘性なし。地山土を多く含み、炭化物、焼土を少し含む。
- 3 黒褐色土 締まりよく、粘性弱い。白色粒、小礫を少し含む。
- 4 褐色土 よく締まり、粘性なし。地山土主体とし、微小礫を多く含む。
- 5 暗褐色土 締まりよく、粘性わずか。地山土を含む。樹根か。

ち込み、及び東壁寄りに幅15cm程で、長さ6m程の間仕切り溝が検出されている。

**貯蔵穴** 明確なものは検出されなかった。

**柱穴** 柱穴と思われる掘り込みは、8本を確認した。P 1・2・3・4 と、対角線上内側に寄って P 5・6・7・8 が掘り込まれている。住居の拡張も考えられる。

**炉** 3カ所作られる。

1号炉 中央北壁寄りに作られている。長さ約110cm、幅約70cmに長円形の浅い掘り込みと、焼土を検出した。

2号炉 住居のほぼ中央に検出した。円形の掘り込みと、焼土を検出した。

3号炉 南東寄りに作られる。長さ30cm、幅15cm程の河原石を据え、東側が浅く掘り込まれている。

**出土遺物** 破片類が中心で、やや西側に集中している。甕、壺、高坏、鉢、甗、ミニチュア土器などの土器類と共に匙形土製品、勾玉などが出土している。

**調査所見** 調査区内中最も大形の住居である。ほぼ方形で、南東部分に幅約3m、長さ約2mの張り出し部が付く(C56号住居跡に同様の施設が見られる)。住居中央と北寄り、さらには南東部分に炉が検出されており、柱穴の状況などから、拡張が考えられる。

#### C81号住居跡 (第181・182・487図 PL. 23・174・267)

**位置** Cb-27・28 **形状** 不明 **規模** 長辺(2.85)m、短辺5.30m、壁高0.97m

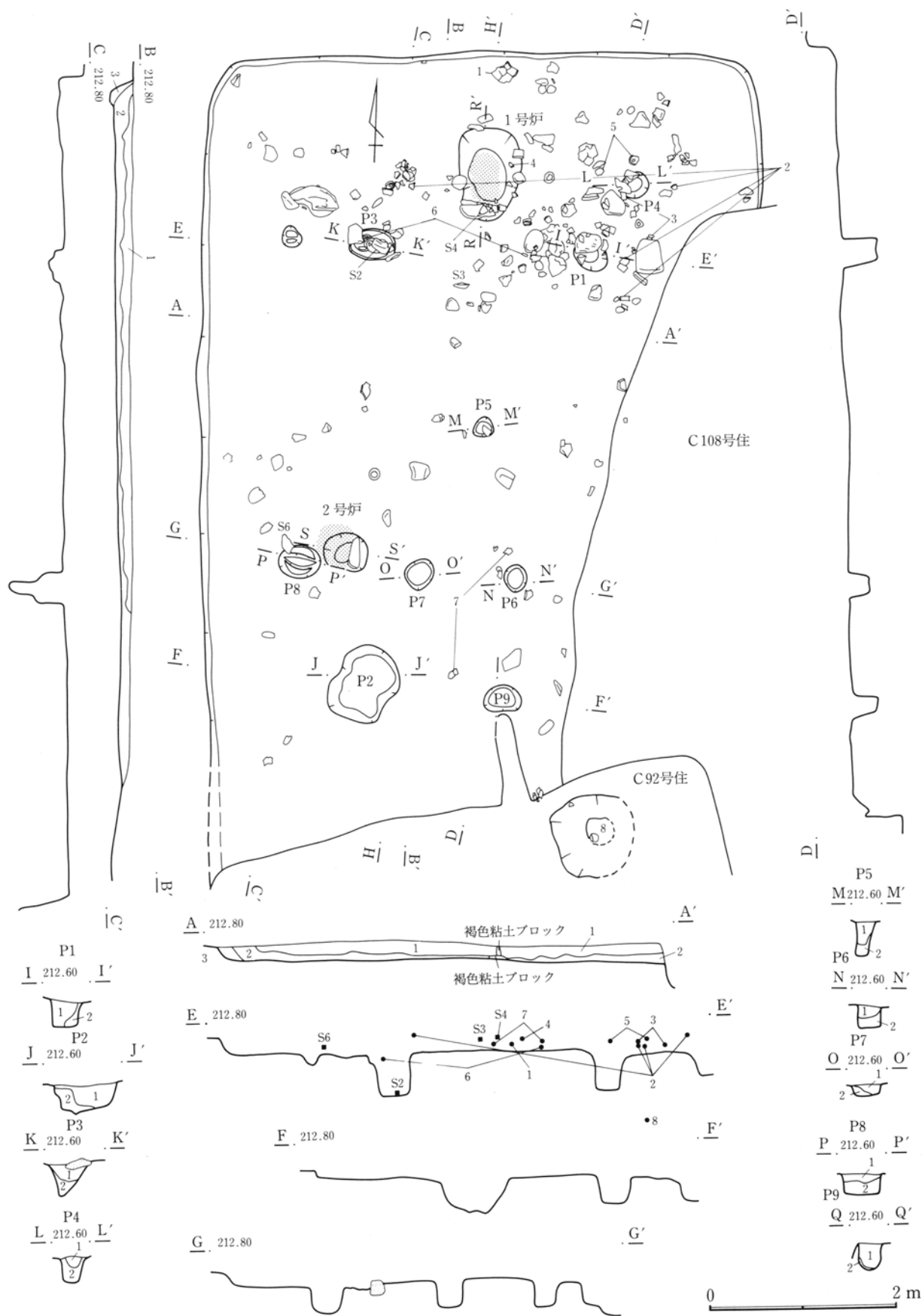
**重複** 調査区の南東隅において検出した。南側半分以上は調査区外であるために未調査である。また、西側にはC74号住居跡(古墳時代)が僅かに掛かる。 **埋没土** 大形の礫を含むやや粘性を持つ褐色土で埋まる。下層に行くほど粘性が強く、若干の炭化物を混入する。 **床面** 平坦で良く締まる。

**貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 壁際において、北東側の1本のみ確認された。

**炉** 長さ30cm程の砂岩が据えられ、北側部分は僅かに窪み、焼土および炭化物が広がる。

**出土遺物** 多くはないが、壺、甕、赤彩の鉢、甗等が出土している。

**調査所見** 調査部分は全体の3分の1程であるために、全容は不明である。壁は比較的遺存状態が良く、立ち上がりもしっかりしている。



第171図 C73号住居跡(1)

H 212.80

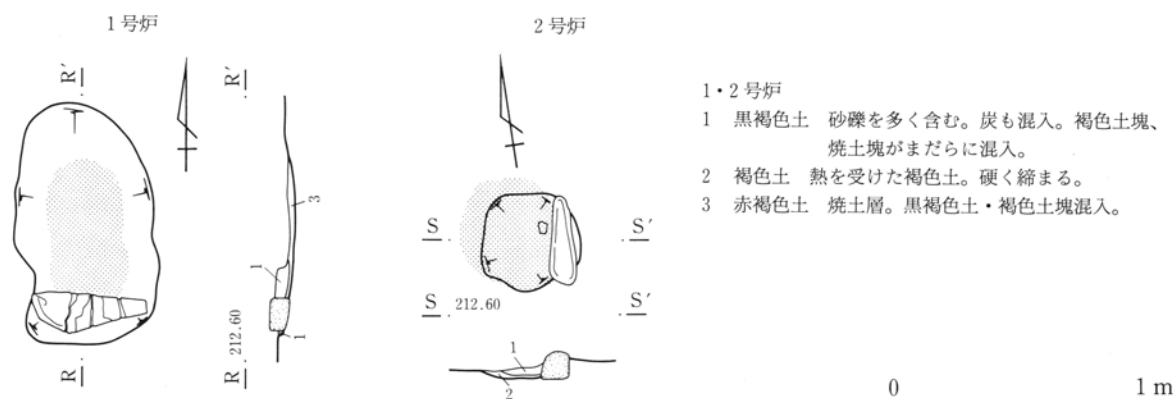


- 1 暗褐色土 小礫、褐色・灰白色粒子等多く混入。粗粒でざらつく。  
 2 黒褐色土 小礫、褐色・灰白色粒子含まれるが1程ではない。細粒で若干の炭が見られる。  
 3 暗褐色土 褐色粘性土粒が多く混入。粒はやや細かく、サラサラした感じ。

P 1～9

- 1 黒褐色土 若干の砂礫を混入。黒色土混入多し。  
 2 明黄褐色土 地山褐色粘性土を主体とし、混入物少ない。

第172図 C73号住居跡(2)



1・2号炉

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。炭も混入。褐色土塊、焼土塊がまだらに混入。  
 2 褐色土 熱を受けた褐色土。硬く締まる。  
 3 赤褐色土 焼土層。黒褐色土・褐色土塊混入。

第173図 C73号住居跡炉

## C82号住居跡 (第183図 PL. 23)

位置 Bt-31・32 形状 不明 規模 長辺(1.13)m、短辺4.85m、壁高0.85m

重複 北端のわずかな部分のみの調査である。ほとんどが調査区外となる。

埋没土 小礫含むやや締まりの良い土で埋まる。床面 平坦である。貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。炉 検出されなかった。出土遺物 少ない、図示し得たものはなかった。

調査所見 北側ごく一部分のみの調査である。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、掘り方はしっかりとしている。

## C83号住居跡 (第184・185・488図 PL. 23・24・172・267)

位置 Bt-32 形状 不明 規模 長辺(2.43)m、短辺(2.40)m、壁高0.31m

重複 南側は調査区外のために未調査である。また、西側はC76号住居跡(弥生時代)に、東側にはC65号住居跡(弥生時代)が重複する。また上層ではあるが、C2号溝が縦断する。

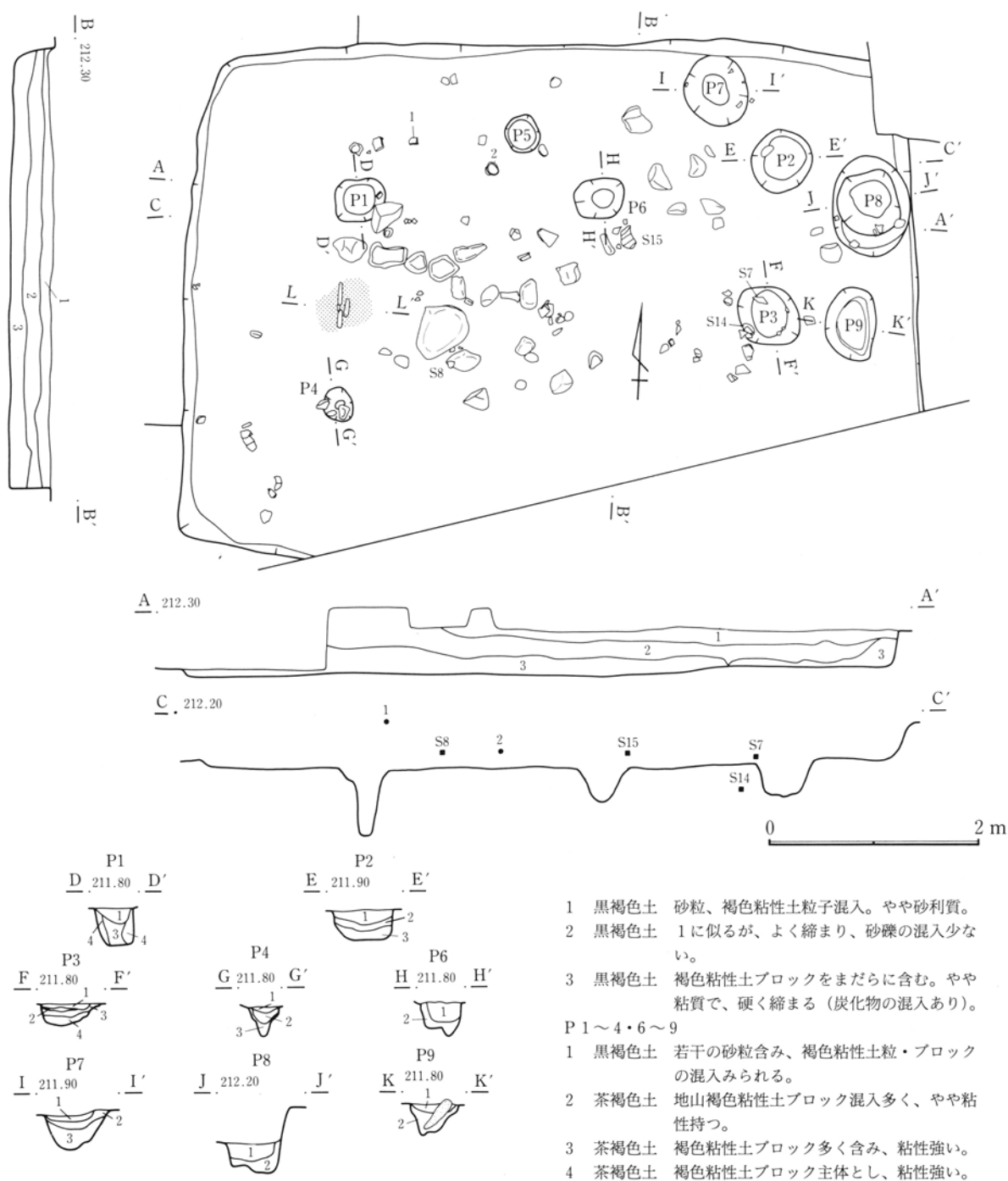
埋没土 礫を含み、粘質土主体とする。床面 ほぼ平坦で締まる。貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 主柱穴と思われる北西の1本、および北壁際に1本を検出した。

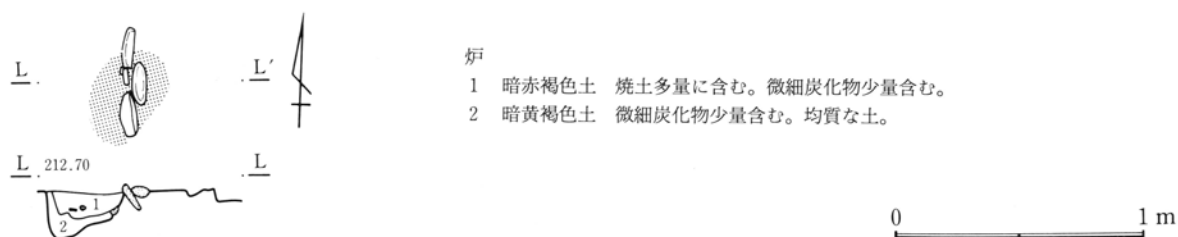
炉 北壁から1.5m程離れて作られている。長さ約30cm程の河原石が据えられ、その北側に焼土、炭化物の広がりを見た。また、周辺部分はかなり凹凸が見られた。

出土遺物 甕、壺、高坏等が見られた。いずれも床面近くより出土している。

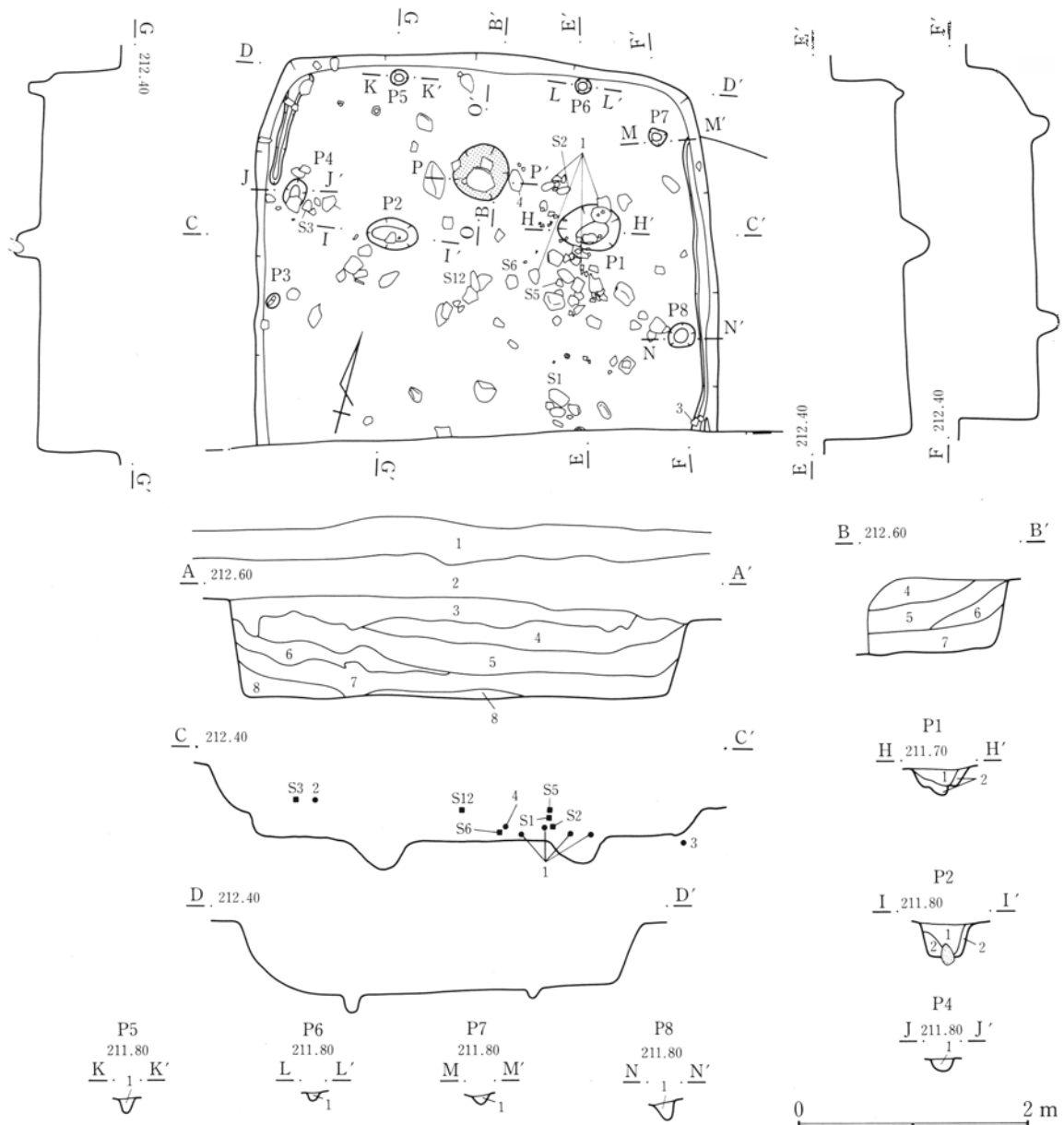
調査所見 検出された部分は住居北側の一部分であったため、全容は不明である。柱穴、炉の位置等から主軸を北にとり、比較的大型の住居であると推定される。



第174図 C75号住居跡

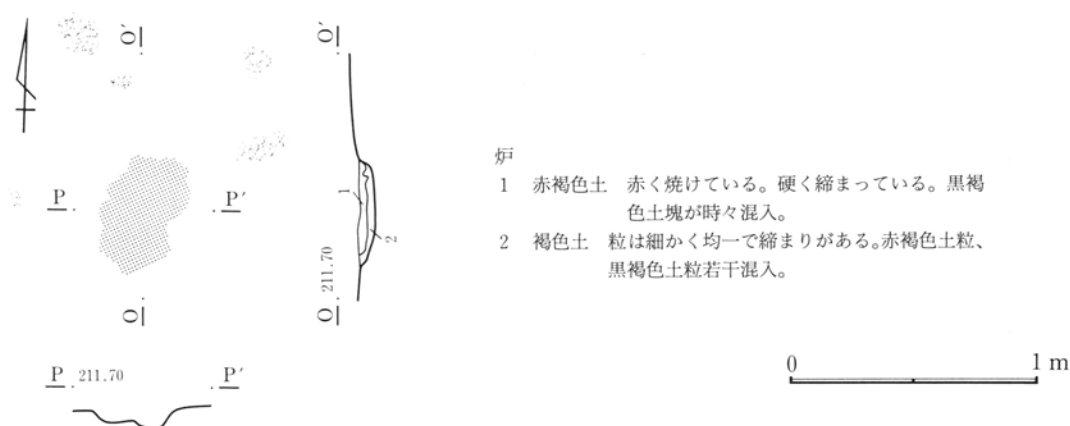


第175図 C75号住居跡炉



- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色土 耕作土。細礫多く含み、全体に粒子は粗く、ざらついた感じ。                        | 7 暗褐色土 灰白色・褐色粒子が含まれる。粒は細かく、締まりがある。             |
| 2 黒褐色土 1と近似。灰白色・褐色土粒も若干見られる。旧耕作土。                          | 8 暗褐色土 7に見られる混入物は少なくなる。粒は細かく、かなり締まりがある。        |
| 3 黒褐色土 2に比べて、褐色の小礫がかなり多くなる。やや締まりあり。                        | P1・2   |
| 4 淡褐色土 粒は細かく、締まりがある。細礫、灰白色・褐色粒子多数。褐色土塊も見られる。締まりあり。炭粒も若干含む。 | 1 暗褐色土 粒は細かく、締まりがある。褐色・灰白色細礫をやや含む。褐色粘性土塊も若干混入。 |
| 5 暗褐色土 細礫が多く混入。炭が若干見られる。褐色粘性土塊が混入し、やや締まりあり。                | 2 暗褐色土 粒は細かく、締まりがある。混入物はあまり見られない。              |
| 6 褐色土 5の暗褐色土とともに褐色粘性土が混ざりあう。かなり粘質。                         | P4～8   |
|  | 1 黒褐色土 砂礫、褐色土粒等が若干混じる。粒は細かく、やや締まりあり。           |

第176図 C76号住居跡



第177図 C76号住居跡炉

C86号住居跡 (第186～189・489図 PL. 24・25・174・268)

位置 Ca・b-32・33 形状 隅丸長方形 規模 長辺7.52m、短辺5.72m、壁高0.51m

重複 北東部分にC85号住居跡 (古墳時代) が重複するが、本址よりも掘り込みは浅い。

埋没土 礫を含みやや粘性のある黒褐色土で埋まる。

床面 比較的良く締まり、ほぼ平坦である。拡張が行われたものと思われ、壁際に幅60～80cmでやや高まった部分が全周している。 貯蔵穴 新旧2カ所が検出された。旧がP10、新がP15である。

柱穴 拡張前の住居に対応する主柱穴はP5・6・7・8である。また拡張後のものはP1・2・3・4と考えられる。その他、棟持ち柱、入り口部分、壁柱穴が確認されている。

炉 新旧併せて3カ所検出された。

1号炉 中央やや北寄りに作られている。拡張前の炉である。浅い不定形な掘り込みに焼土、炭化物が伴う地床炉である。

2号炉 1号炉の北側約1mに位置する。長さ約30cmの砂岩が据えられ、その北側が長円形に掘り窪められている。内部には焼土がレンズ状に堆積し、周囲には炭化物が広がる。

3号炉 中央やや東よりに作られる。長さ約30cmの河原石が南北向きに据えられ、東側に不定形な焼土の広がりが見られる。

出土遺物 規模の大きな割に少なかった。壺、甕、台付き甕、鉢等が見られる。また、床面に置かれた状態で、台石と思われる大きな石が3点検出されている。

調査所見 北東部分に古墳時代の住居跡が重複しているが、遺存状態は比較的良く、壁の立ち上がりもほぼ垂直である。拡張したものと思われ、炉、柱穴等は作り替えがなされている。土器の出土は極めて少なかった。

C87号住居跡 (第190図 PL. 25)

位置 Cb-28 形状 不明 規模 長辺(2.45)m、短辺(2.45)m、壁高0.21m

重複 北側にC51号住居跡が、上にC74号住居跡 (古墳時代) が載った形で重複する。

埋没土 粘質で小礫を含む土で埋まる。 床面 平坦で比較的踏みしめられた状態である。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 少なく、図示し得たものはなかった。



第178図 C80号住居跡(1)

### 第3章 遺 構

- 1 黒褐色土 多量の砂礫含み粗粒。
- 2 黒褐色土 若干の炭化物含み、褐色粘性土小ブロックの混入見られる。
- 3 黒褐色土 褐色粘性土ブロック、炭化物やや多く含む。
- 4 黄褐色土 褐色粘性土ブロック多く含む。
- 5 黒色土 砂粒多く含む。やや粒子粗く、軟質。
- 6 黒色土 5と似るが、粘性土若干含む。
- 7 黒褐色土 粘土ブロック若干含み、やや粘性を持つ。
- 8 茶褐色土 粘土ブロック多く含み、よく締まる。
- 9 暗褐色土 炭化物粒を含み、細粒。

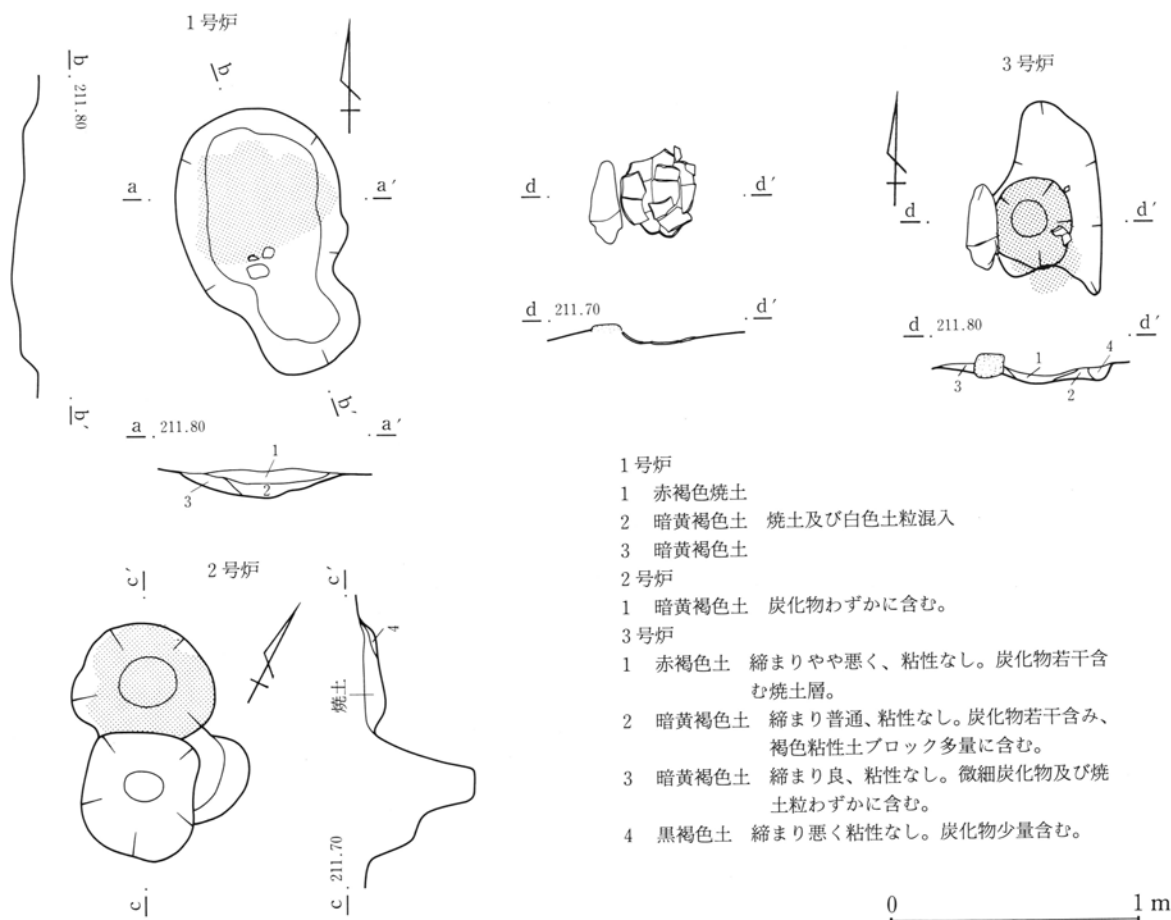
P1～9・13～16

- 1 黒色土 締まりやや良、粘性なし。岩片少量含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや良、粘性なし。岩片をかなり含み、褐色粘性土塊を斑に含む。
- 3 黒色土 締まりやや良、粘性なし。微細炭化物及び焼土粒若干含む。
- 4 黒色土 炭化物若干含む。粘性なし。
- 5 黒色土 締まりやや良、粘性なし。微細炭化物ごくわずかに含む。4に比べやや黄色味帯びる。
- 6 暗黄褐色土 締まりやや良、粘性なし。褐色粘性土塊斑状に含む。
- 7 暗黄褐色土 締まり普通、粘性なし。岩片わずかに含む。
- 8 黄褐色土 締まりやや良、地山褐色粘性土を多量に含む。

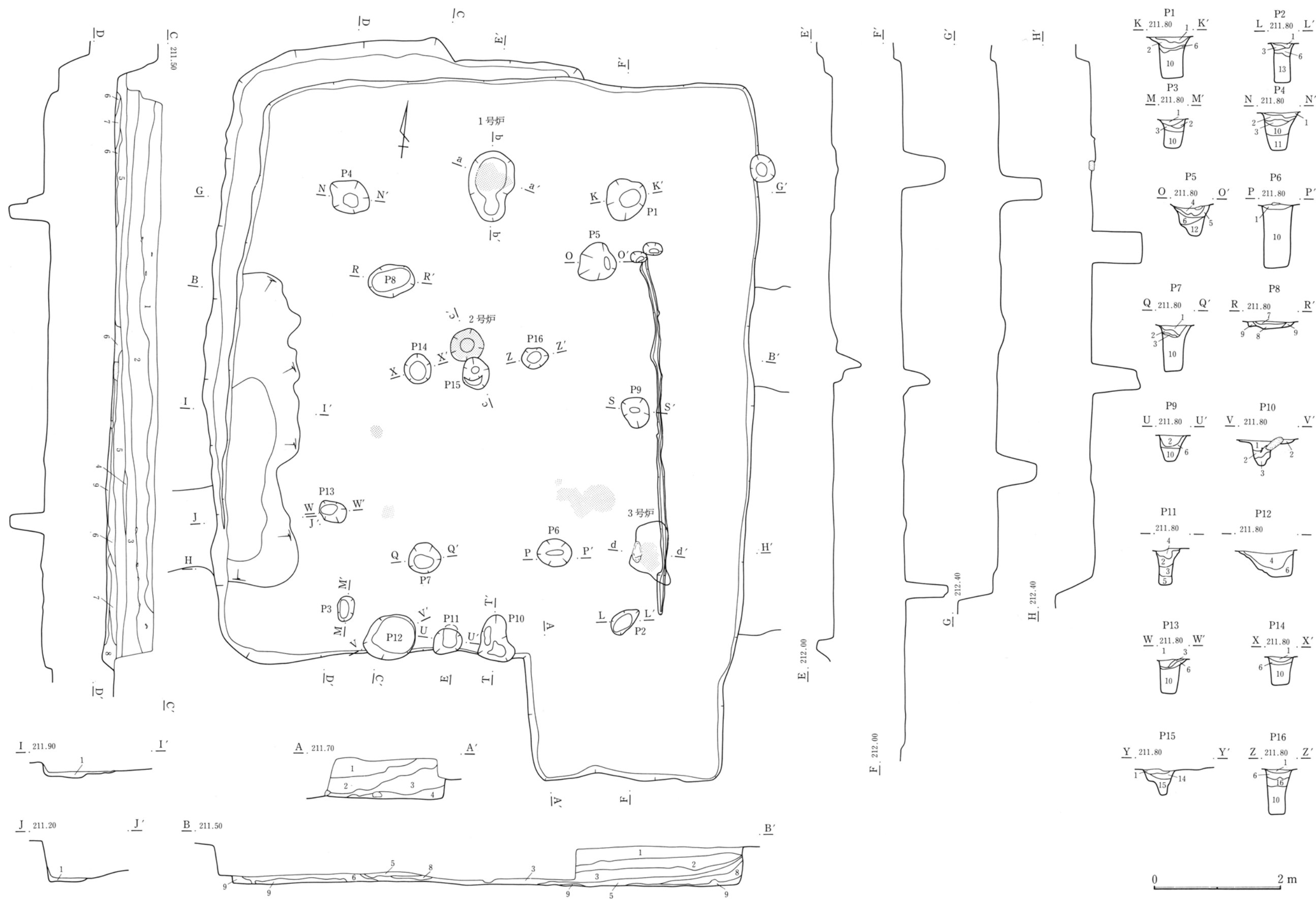
- 9 暗黄褐色土 7に似るが黒味強い。
- 10 暗黄褐色土 小礫少量含む。褐色粘性土塊斑状に含む。6に似るが褐色粘性土の混入より多い。
- 11 黒褐色土 締まりやや良、粘性なし。ざらついた砂質土、褐色粘性土塊を斑状に含む。
- 12 茶褐色土 締まり良、粘性やや弱。微細炭化物及び焼土粒少量含む。
- 13 茶褐色土 締まり普通、粘性ごく弱。微細炭化物及び褐色粘性土塊少量含む。
- 14 黒褐色土 締まりやや良、粘性なし。炭化物粒わずかに含む。焼土粒を若干含む。
- 15 暗黄褐色土 炭化物及び焼土粒をごくわずかに含む。地山褐色粘性土を多量に含む。焼土含む。
- 16 黒褐色土 締まり悪く粘性なし。炭化物少量含む。褐色粘性土塊わずかに含み、部分的に砂質土含む。

P10～12

- 1 黒褐色土 炭化物及び焼土粒少量含み、褐色粘性土斑状に含む。
- 2 黒褐色土 炭化物少量、及び褐色粘性土塊少量含む。
- 3 暗黄褐色土 褐色粘性土塊斑状に含む。粘性弱い。
- 4 黒褐色土 炭化物及び焼土粒若干含む。
- 5 暗黄褐色土 3によく似るが、より黒味が強く粘性強。
- 6 黒褐色土 4に似るが、焼土粒の混入少なく、炭化物少量含む。



第179図 C80号住居跡炉



第180图 C80号住居跡(2)



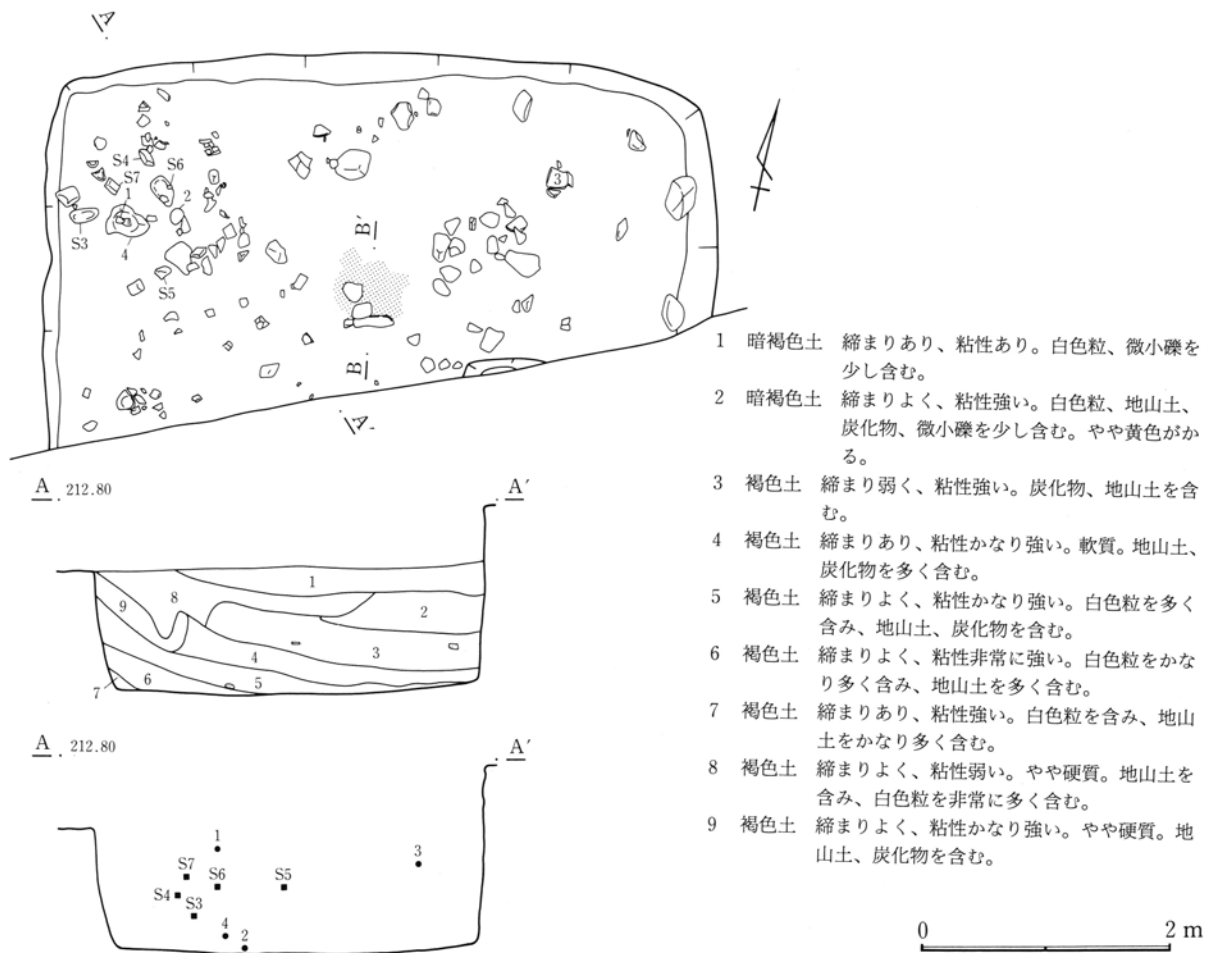
**調査所見** 調査区の南端に掛かり、また重複により住居の北西部分のみの調査であった。このため全容は不明である。

C91号住居跡 (第191・192・490図 PL. 25・26・172・269)

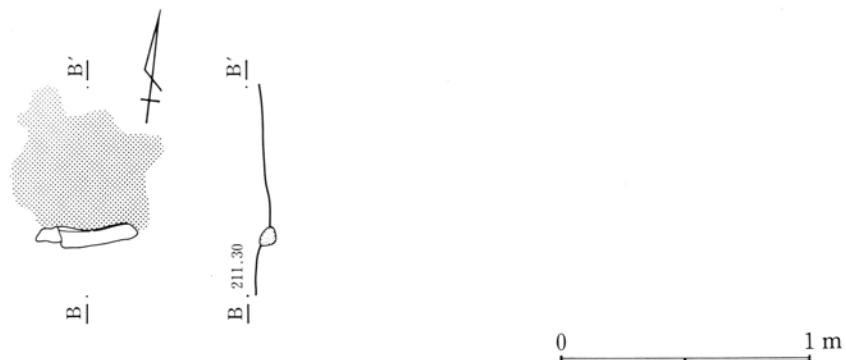
**位置** Cc・d-33 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺4.42m、短辺3.80m、壁高0.42m

**重複** C2号溝がほぼ中央を縦断している。また、C166号住居跡(弥生時代)の西側を切る。

**埋没土** 礫を含む。 **床面** ほぼ平坦で、良く締まる。



第181図 C81号住居跡



第182図 C81号住居跡炉

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 各コーナー寄りに小ピットが確認されているが、位置が一定せず、不確定である。 炉 中央西寄りに作られる。長さ約30cmの石が据えられ、その西側部分を中心に灰、炭化物がほぼ円形に広がる。

出土遺物 土器類は東部分に集中しており、壺、甕、高坏等が見られた。

調査所見 近世の溝が複数条南北に縦断するが床面までは達していなかった。各壁も比較的遺存状態が良かった。小形の住居である。

#### C93号住居跡 (第193・491図 PL. 26・174・269)

位置 Cb・c-27・28 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.47m、短辺3.62m、壁高0.31m

重複 調査区南東隅において検出された。南隅をC81号住居跡(弥生時代)に切られ、東隅をC8号溝に切られる。 埋没土 粘性のある砂礫土で埋まる。 床面 平坦で比較的締まりが良い。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 ピット3本が確認されたが、位置的に偏った配置である。

炉 ほぼ中央に地床炉が確認された。

出土遺物 礫に混じり土器類が検出されているが、点数は少ない、高坏、甕が見られる。

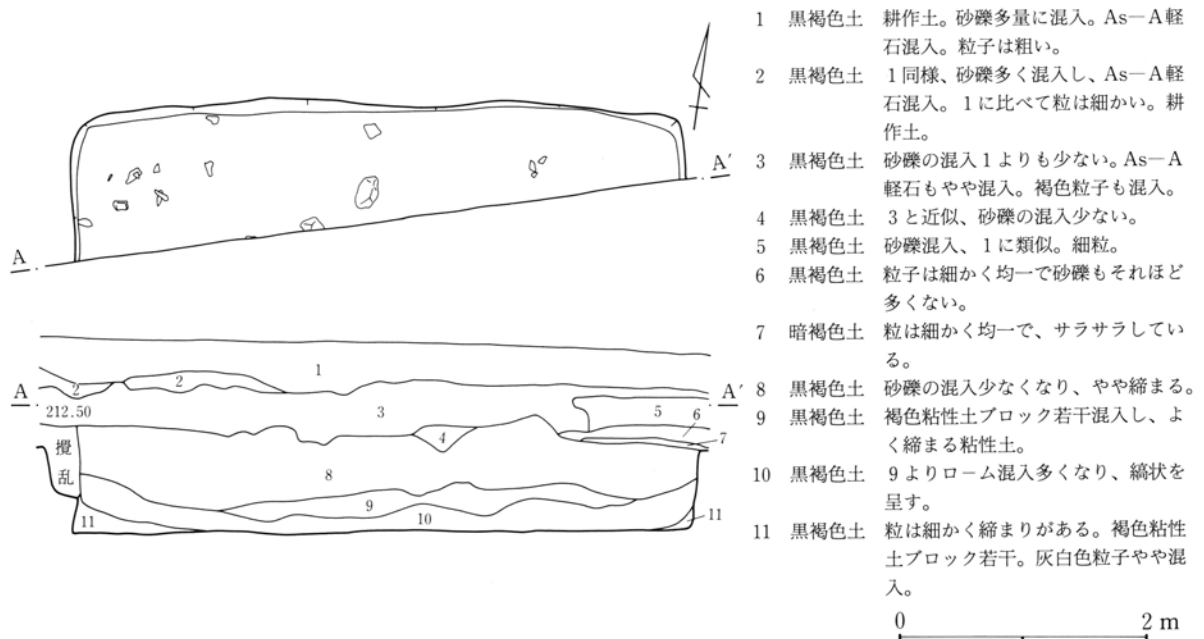
調査所見 コーナーを切られているものの、遺存状態は比較的良好であった。主軸方向をほぼ東西にとる小形の住居である。

#### C94号住居跡 (第194・195・492・493図 PL. 26・27・175・269・270)

位置 Cd・e-28・29 形状 隅丸方形 規模 長辺6.30m、短辺5.74m、壁高0.57m

重複 C80号住居跡(弥生時代)の北東隅部分に重複している。また北東隅部分はC208号住居跡(弥生時代)と重複する。 埋没土 小礫含む砂礫土。 床面 やや凹凸が見られるものの比較的平坦で、締まりも良い。また床面に炭化材が検出されている。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 主柱穴4本を検出、ほぼ対角線上に位置する。



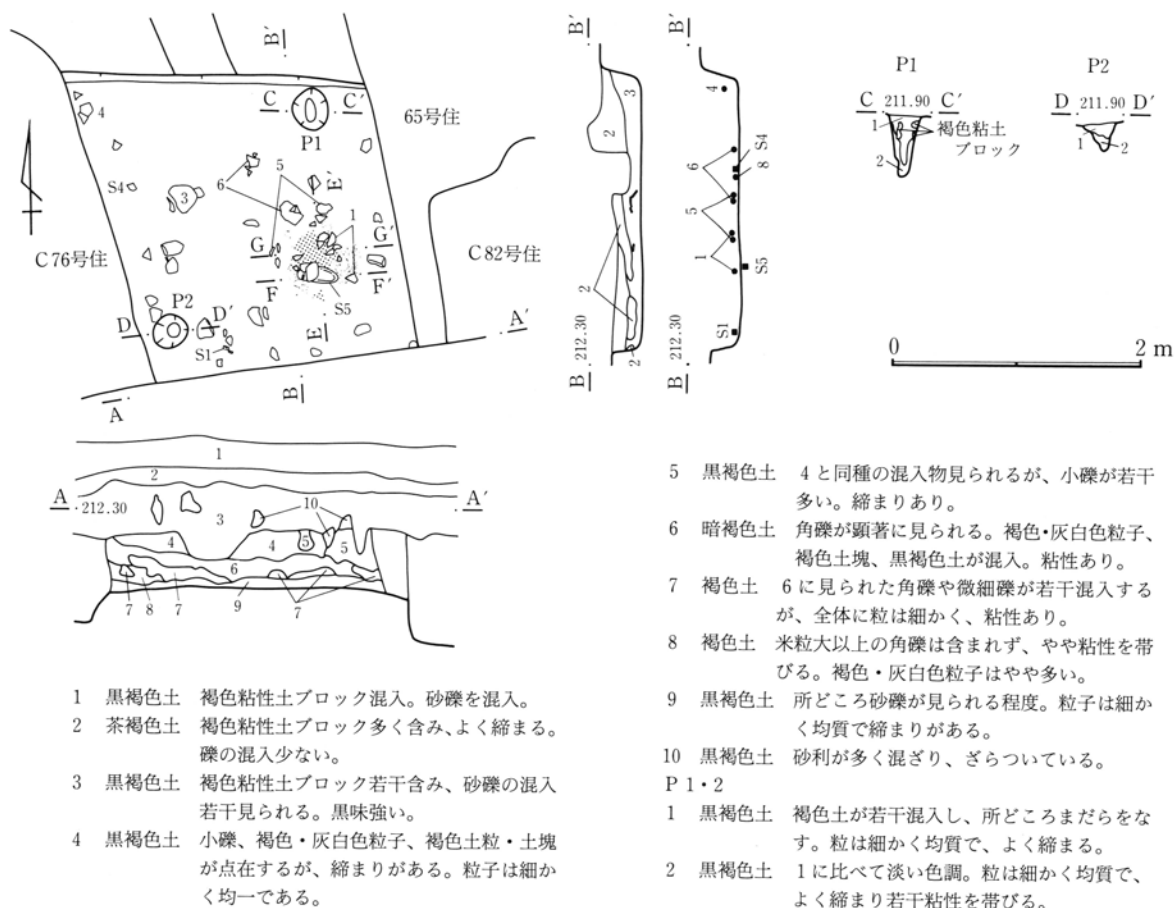
第183図 C82号住居跡

炉 中央の東寄りと西寄りに2カ所検出された。

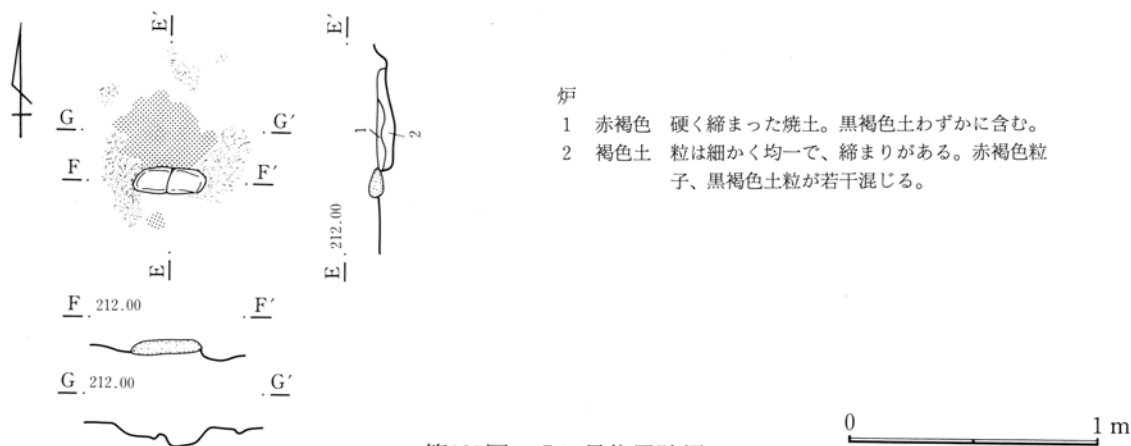
1号炉 東壁寄り、P1と4の中央に作られている。楕円形に焼土の広がりが見られ、やや窪んだ中央に長さ25cm程の板状の砂岩と15cmの角礫状の砂岩が据えられている。

2号炉 1号炉と対を為すように西壁寄りに作られている。卵形に掘り込まれたところに板状の長さ40cm程の砂岩が据えられている。

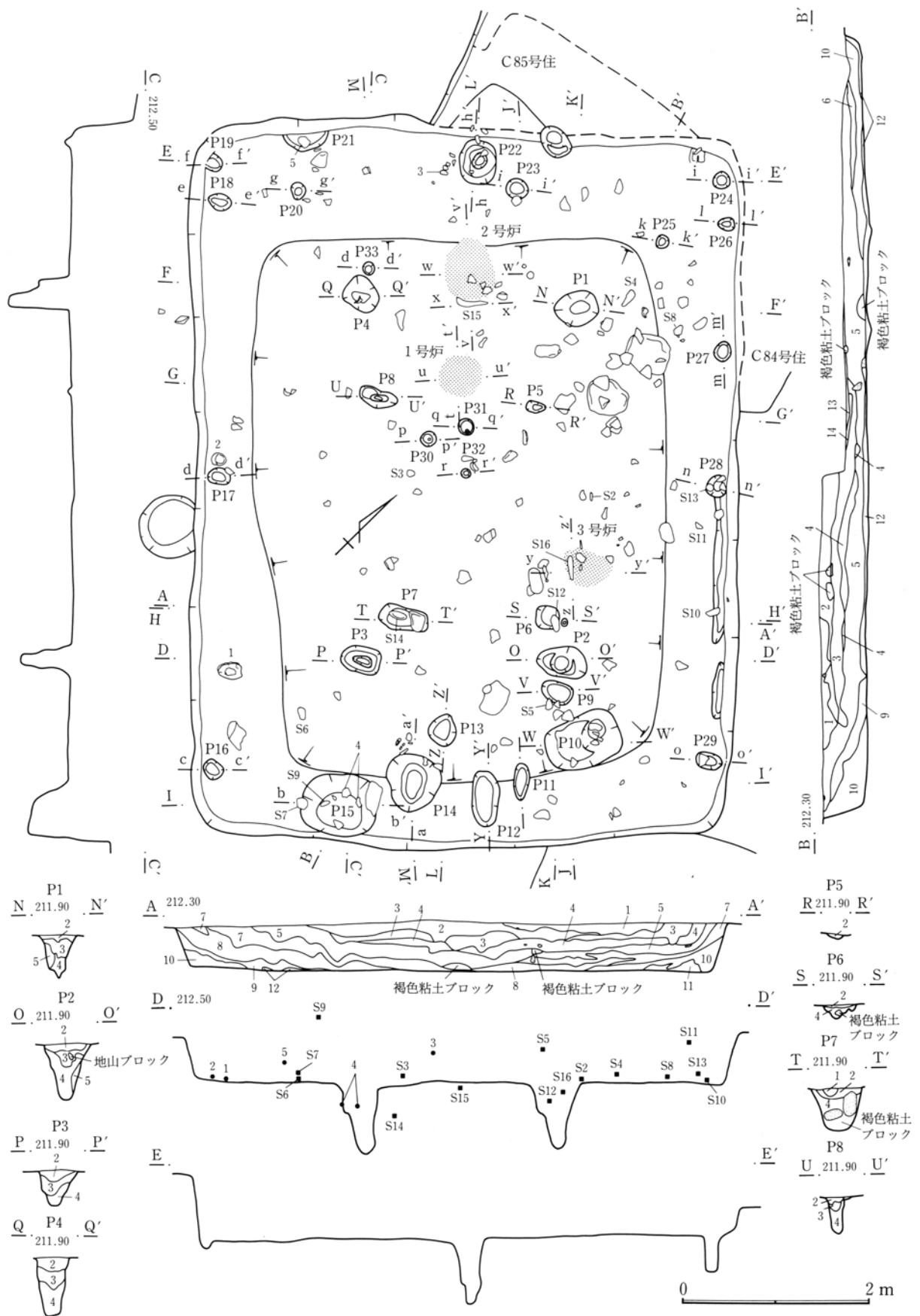
出土遺物 礫が多く、特に北西部分に集中して見られる。土器は壺、甕、高坏、甗類が出土している。また欠損品ではあるが、土製の紡錘車が1点出土している。



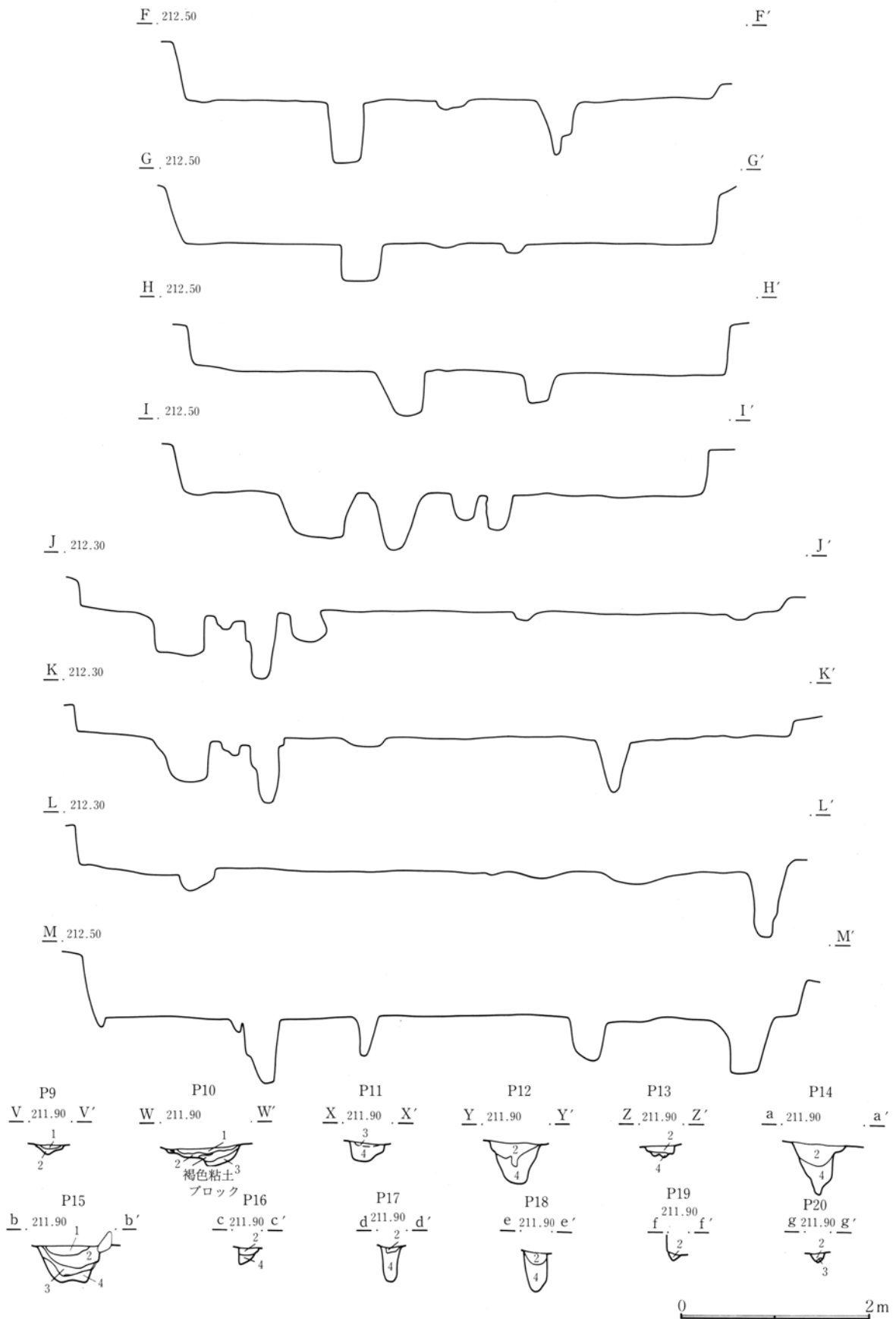
第184図 C83号住居跡



第185図 C83号住居跡炉

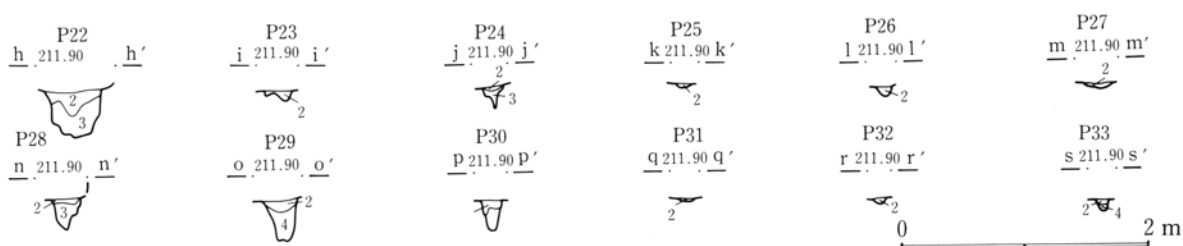


第186図 C86号住居跡(1)



第187図 C86号住居跡(2)

### 第3章 遺 構



- |         |  |                    |  |
|---------|--|--------------------|--|
| 1 黒褐色土  | 褐色の土塊・土粒・粘性土塊、砂礫等含まれる。粒子不均一で、締まりは弱い。   | 13 黒褐色土            | 褐色土塊・粒子、砂礫等を含む。締まりあり。85住床直上の埋土。                          |
| 2 黒褐色土  | 含入物は1と同様だが、やや少ない。                      | 14 褐色土             | 粘性土。砂利等も含む部分あり。85住の張り床と思われる。                             |
| 3 黒褐色土  | 褐色粘性土塊が多量に見られ、黒褐色土とまだらをなす。かなり締まりがある。   | P 1～14・16～20・22～33 |  |
| 4 黒褐色土  | 褐色土塊・土粒・粘性土塊、灰白色粒子が多く含まれる。やや軟質。        | 1 黒褐色土             | 砂礫、灰白色・褐色粒子が多く混ざる。褐色～黒褐色のまだらをなす。やや硬い。                    |
| 5 褐色土   | 褐色粘性土主体。砂礫多く混入。粘性土部分締まるが、他はやや締まりがある程度。 | 2 黒褐色土             | 砂礫多く含まれ、褐色・灰白色粒子、土粒も多量に見られる。堆積状態は均一でない。                  |
| 6 黒褐色土  | 5 とほぼ同様だが、黒褐色土部分が多く、まだらをなす。            | 3 黒褐色土             | 砂礫、褐色・灰白色土粒・粒子等含むが2ほどではない。砂礫少なく、締まりあり。                   |
| 7 黒褐色土  | 褐色土塊・粒子、灰白色粒子を所どころに含む。褐色土塊がやや多い。       | 4 暗褐色土             | 砂礫、褐色・灰白色土粒・粒子等散在。やや粘性を帯び、褐色粘性土、黒褐色土混入。                  |
| 8 褐色土   | 5 同様の組成をなすが、褐色粘性土塊はさほど目立たず、締まりがある。     | 5 暗褐色土             | 砂礫、灰白色粒子が若干混入。かなり締まりあり、壁際は粘性あり。                          |
| 9 黒褐色土  | 褐色土塊・粒子、砂利、灰白色粒子を所どころ含む、色調も7よりやや濃い。    | P 15               |  |
| 10 暗褐色土 | 褐色土塊・粒子を多く含む。砂利塊も若干見られる。さほど締まりはない。     | 1 黒褐色土             | 砂礫、褐色・灰白色粒子を含む。砂礫及び粒の大きな土粒等混入。                           |
| 11 暗褐色土 | 褐色土塊・粒子、灰白色粒子を少し含む。砂粒状の部分多い。           | 2 黒褐色土             | 礫、褐色・灰白色土粒・粒子が雑多に含まれる。堆積状況は一様ではない。                       |
| 12 黒褐色土 | 褐色粒子、褐色土塊、灰白色粒子が若干見られる程度。粒は細かく締まりがある。  | 3 黒褐色土             | 砂礫の混入少なく、壁際に近付くにつれて、褐色或は黒褐色の粘性質土の混入が見られるようになる。あまり締まりはない。 |
|         |  | 4 黒褐色土             | 砂粒、小礫若干含みやや締まりあり。  |

第188図 C86号住居跡(3)

**調査所見** 南壁部分は重複のため明確には検出し得なかったところがある。全体的に遺存状態は良好で、壁高も40cmを測る。焼失住居と思われ、炭化材、および若干の焼土が床面で検出されている。出土土器はそれほど多くはなかった。かなり新しい様相を呈す。

#### C95号住居跡(第196・197・494図 PL. 27・175・270)

**位置** Cf・g-30 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(6.45)m、短辺5.32m、壁高0.37m

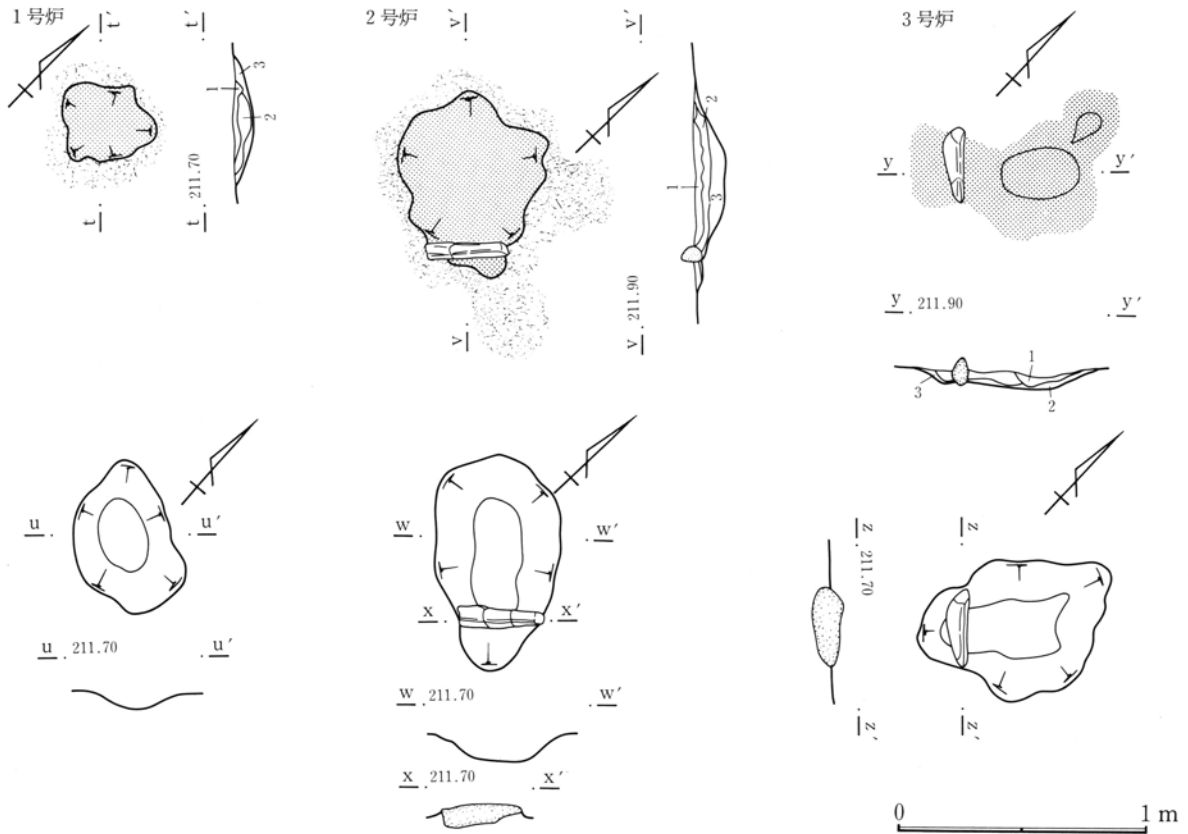
**重複** 北側をC63号住居跡(古墳時代)およびC183号住居跡(平安時代)に切られている。また南側を大きくC70号住居跡(古墳時代)に切られている。 **埋没土** 礫を混入した砂礫土で埋まる。

**床面** 平坦でかなり踏みしめられている。 **貯蔵穴** 南寄りに2カ所のピットを認めたが確定できなかった。 **柱穴** 北側の2本を検出。また南側に1本を検出した。

**炉** P1と2の間に作られる。長さ約22cm、幅約10cmの俵状の河原石が据えられ、北側がかなり掘り込まれた状態で焼土層が認められる。

**出土遺物** 後世の遺構に大きく切られていたためにあまり多くはなかった。壺、甕、鉢、甗等の他に紡錘車が1点見られる。

**調査所見** 比較的大型の住居であるが、古墳時代の住居に切られているために、遺存状態は良くない。北側約3分の1と南側がわずかに確認されたにすぎない。



1号炉

- 1 赤褐色土 赤く焼けて、硬く締まっている。炭を含んだ黒色土が若干混入。
- 2 褐色土 黒褐色土が若干混入。粒は細かく締まりあり。
- 3 暗褐色粘性質土 地山。

2号炉

- 1 赤褐色土 赤く焼けている。粒子は細かく硬い。炭、黒色土がまだらに点在。

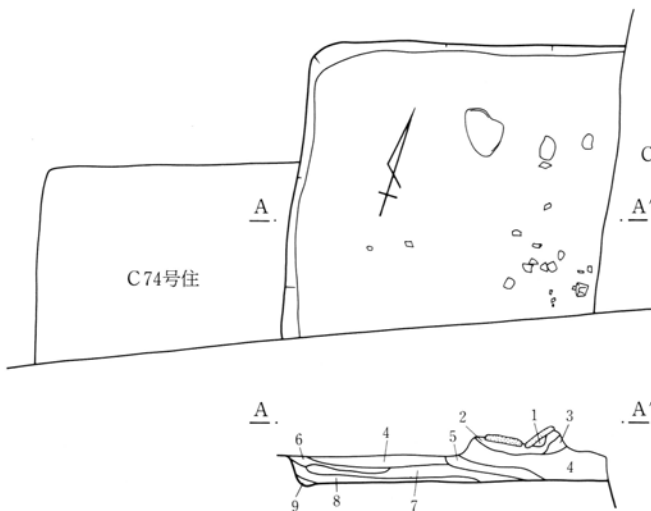
- 2 赤褐色土 若干の焼土、灰褐色粒子混入。黒色土が若干混じるが、炭は含まれない。やや粘性あり。

- 3 褐色土 粒子細かくやや粘性あり。下層はかなり粘質。

3号炉

- 1 赤褐色土 赤く焼けている。黒褐色土も若干混入。粘性あり。
- 2 赤褐色土 焼土が含まれ、所どころまだらをなす。粒子は細かく均一で、かなり締まりがある。
- 3 褐色土 地山粘性質土。

第189図 C86号住居跡炉



第190図 C87号住居跡

- 1 橙褐色 焼土塊。
- 2 橙褐色 焼土多量に含む粘質土。
- 3 黄橙色 褐色粘性土主体とし、若干の焼土混入。
- C81号住 4 黒褐色土 白色粒、炭化粒、及び褐色粘性土ブロック含む粘性土。
- 5 黄褐色土 褐色粘性土を多く含み、粘性持つ。
- 6 黒褐色土 4と似るが、褐色粘性土混入目立つ。
- 7 黒褐色土 褐色粘性土ブロック、若干の炭化物含み、やや黒味を帯びる。
- 8 灰褐色土 細粒で砂質土よく締まる。若干の炭化物含む。
- 9 灰褐色土 8を基調とするが、褐色粘性土ブロック含みやや粘性あり。

## 第2節 弥生時代

C97号住居跡（第198・199・495図 PL. 28・176・270）

位置 Cd-31 形状 隅丸長方形 規模 長辺(4.31)m、短辺3.09m、壁高0.23m

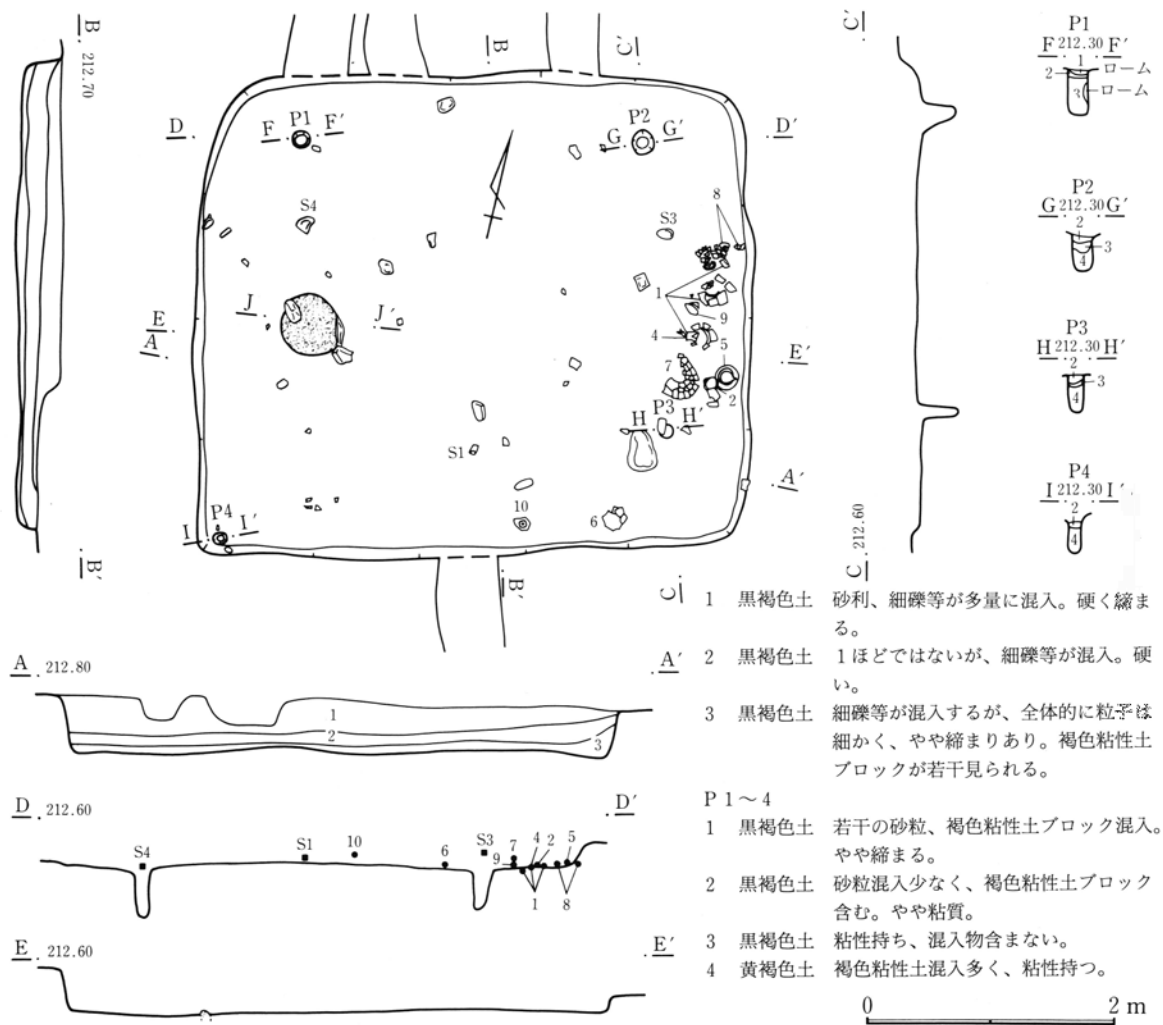
重複 西側をC2号方形周溝墓、C92号住居跡（古墳時代）に切られる。

埋没土 小砂礫、褐色の粒子を多く混入する砂礫質の土で埋まる。

床面 細かな凹凸が見られるものの、中央部分はほぼ平坦で締まる。

貯蔵穴 東壁に接して掘り込まれたP2が相当するものと思われる。

柱穴 西側の2本と東壁に接して3本を検出したが、P2に関しては貯蔵穴と考えられる。



第191図 C91号住居跡



第192図 C91号住居跡炉

**炉** 中央西より柱穴間に作られている。長さ30cm程の曲がった河原石を据え、その東側を中心に焼土が検出されている。炉床部分には細かな凹凸が見られた。

**出土遺物** 住居北側を中心に土器類が検出されている。比較的床面に近い所から出土したものが多く壺、甕、赤彩の鉢、高坏および紡錘車が見られる。

**調査所見** 西側を方形周溝墓等により切られているものの、比較的遺存状況は良好である。規模はやや小型の住居で、主軸方向を東西にとる。

C 104号住居跡 (第200～202・496～499図 PL. 29・176・177・270・271)

**位置** Br・s—40 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺7.30m、短辺5.19m、壁高0.72m

**重複** 調査区の南西隅にあり、他遺構との重複は見られなかった。

**埋没土** 礫を多く含み、地山の褐色粘性土ブロックを混入している。

**床面** やや凹凸が見られ、部分的に不明瞭な部分が認められた。特に南側部分では浅い落ち込みが見られ、他の遺構と重複していた可能性があるが、あきらかにできなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

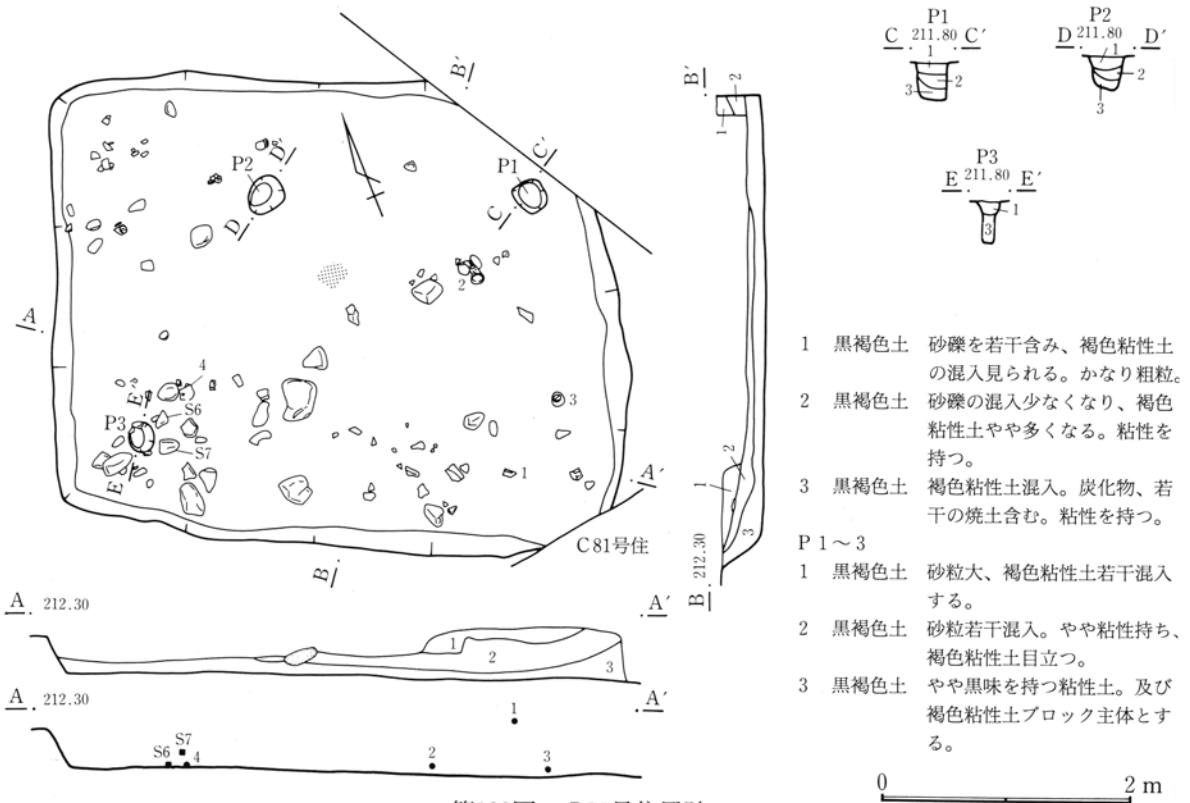
**柱穴** ほぼ対角線上に4本を検出した。いずれもほぼ垂直に掘られており、P 1・2はP 3・4に比べ、深く掘り込まれていた。

**炉** 2カ所検出した。

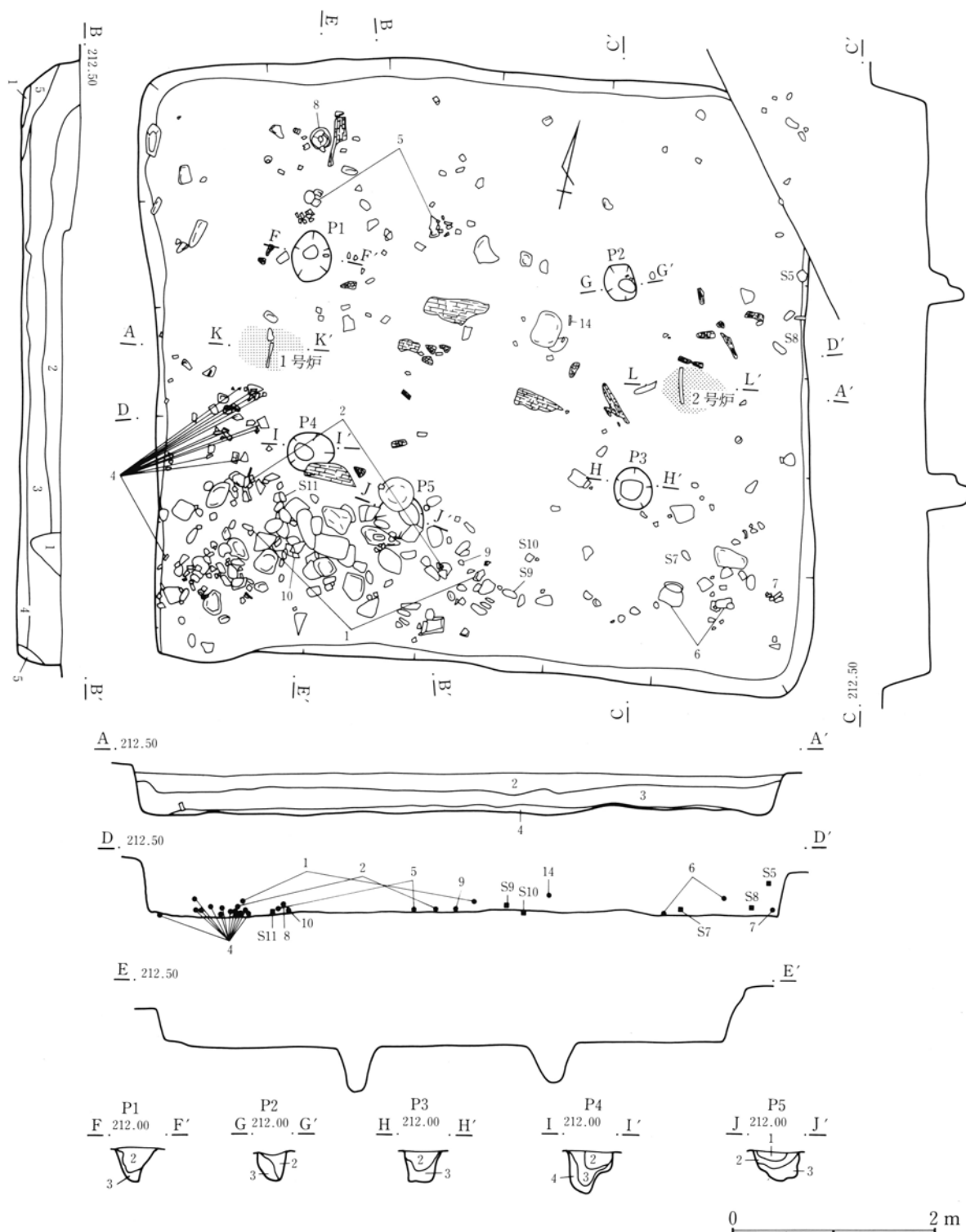
1号炉 北側、柱穴間に作られていた。地床炉で楕円形に焼土の広がりを認めた。

2号炉 南東部分、P 2の北側に北に検出された。長さ30cmのやや扁平な石が据えられ、周辺部に焼土が検出されている。

**出土遺物** 多量の土器と礫が検出されている。壺、甕、鉢、高坏等が見られ、他に管玉も検出されている。



第193図 C 93号住居跡

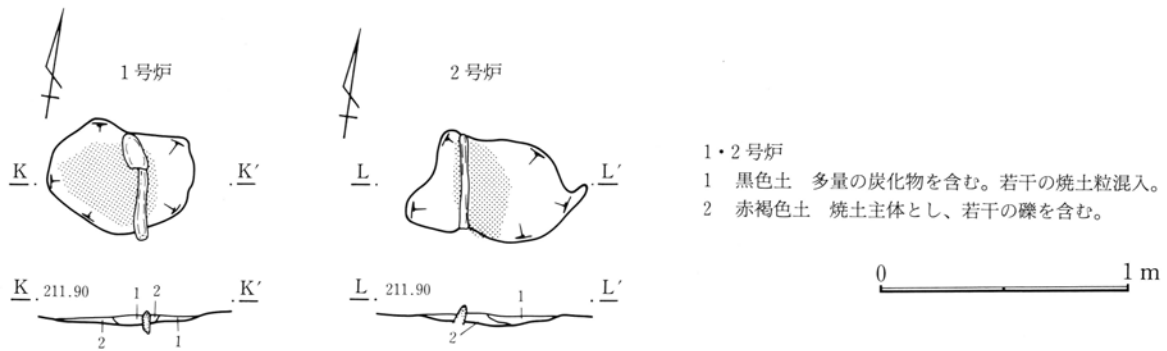


- 1 黒褐色土 黒味強く、砂礫の混入やや少ない。
- 2 黒褐色土 砂礫多く含み、粗粒。
- 3 黒褐色土 2と似るが、やや褐色粘性土粒子多く含み、色調は明るい。
- 4 黒色土 多量の炭化材を含み、若干の焼土粒を混入。
- 5 茶褐色土 地山の砂粒土を多く含み粗粒。
- 6 茶褐色土 5と似るが、地山土をより多く混入する。

P 1 ~ 5

- 1 黄褐色土 若干の砂礫を含む褐色粘性土。
- 2 茶褐色土 砂礫を含み、かなり粗粒。
- 3 黄褐色土 2と似るが、砂粒ほとんど含まず、やや粘性を持つ。
- 4 黄褐色土 褐色粘性土主体とし混入物少ない。粘性もつ。

第194図 C94号住居跡



第195図 C94号住居跡炉

**調査所見** 調査区の最も南西部分で検出されている。遺存状態は良好で壁高も70cmを測る。出土遺物も多く覆土上層から下層にかけて、礫と共に多くの土器類が出土している。

**C108号住居跡** (第203・206・500・501図 PL. 29・30・178・179・271・272)

**位置** Cd・e—31・32 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺6.28m、短辺6.11m、壁高0.45m

**重複** 北壁部分にC42号住居跡(古墳時代)が、南西隅にC92号住居跡(古墳時代)がわずかであるが重複する。さらに、C2号方形周溝墓が南側部分を横断する形で切っている。

**埋没土** 小礫を含む粘性のない土で埋まり、下層には炭化物が混入している。

**床面** 方形周溝墓が重複している南側部分を除き、比較的平坦でしっかりとした面として確認されている。

**貯蔵穴** 明確なものは確認されていないが、北壁に接して掘り込まれたP8が相当するかもしれない。

**柱穴** 明確なものは6本を検出している。立て替えないしは拡張が行われたものと思われる。北側のP1・4は拡張後の柱穴と思われる。

**炉** 北側の柱穴間に2カ所検出したが、ほとんど接して作られている。1号炉→2号炉の順に作り替えがなされたものと思われる検出時には、1号炉については炉石もほとんど覆われた状態であった。

1号炉 長さ20cm程の扁平な河原石が据えられ、北側に焼土の広がりやが2カ所並んで認められた。

2号炉 長さ35cm、幅12cmの角柱状の河原石を据え、北側にわずかな落ち込みと焼土が検出されている。

**出土遺物** 完形品を含む、壺、甕、高坏、蓋、甗等がいずれも床面直上で出土している。土器は新しい様相を呈し、球胴で刷目を持つものが多い。

**調査所見** 一部重複で壊されていたものの、全体的には遺存状態は良好である。ほぼ正方形を呈し、比較的大型の住居である。床面に炭化材が見られ、焼失住居と思われる。

**C114号住居跡** (第207・208・502図 PL. 30・31・179・272)

**位置** Ce—34・35 **形状** 不明 **規模** 長辺(3.40)m、短辺4.93m、壁高0.31m

**重複** 南側半分以上をC106号住居跡(古墳時代)に切られる。 **埋没土** 礫を含む粗粒土。

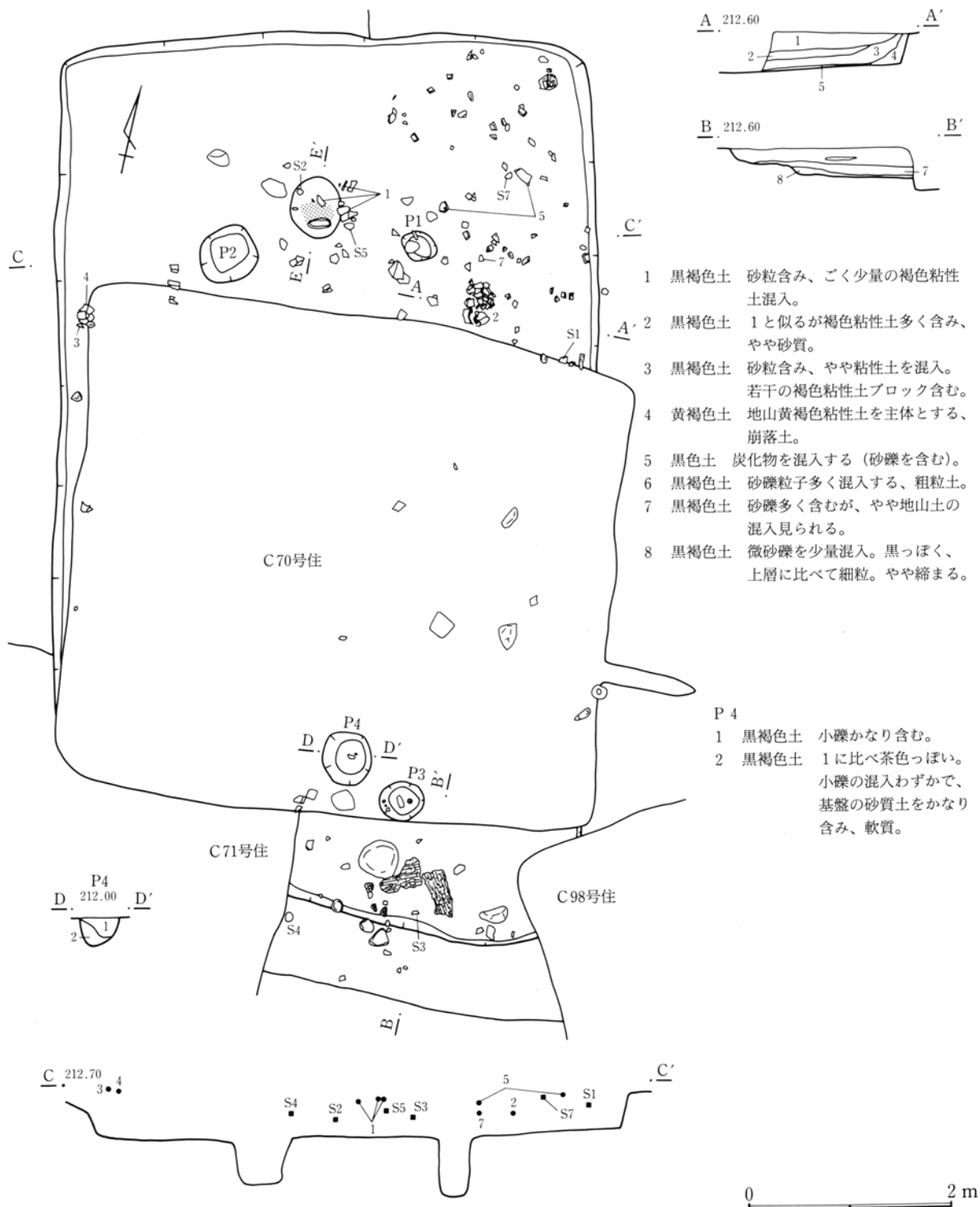
**床面** 平坦で締まり良い。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 北側2本を確認した。底部は細くなる。

**炉** 柱穴間、北壁に寄った所に作られる。長さ30cm程の河原石を据え、北側が不定形に掘り下げられ、若干の焼土が見られる。

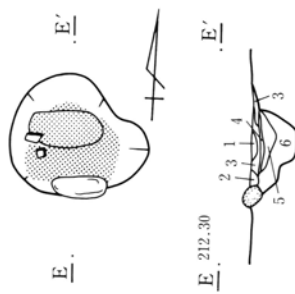
**出土遺物** P2周辺で礫の出土が目立ち、土器類はあまり多くはなかった。P1内より甕の口縁部が倒立し

て出土している。その他、壺、高坏、ミニチュア土器、紡錘車が見られる。

**調査所見** 南側が大きく切られているために、全容は不明であるが、検出した柱穴の位置等から推定して隅丸長方形で比較的大型の住居であったと思われる。出土土器は破片類が多く、量的には少ない。



第196図 C95号住居跡



- 炉
- 1 黒褐色土 炭化物若干含む。
  - 2 暗褐色土 炭化物及び焼土若干含む。小礫わずかに混入。
  - 3 暗褐色土 褐色粘性土若干混ざり、2に比べ、黄色味強い。焼土塊若干混入。
  - 4 赤褐色土 焼土。
  - 5 黄褐色土 黒味強く、微細炭化物及び焼土若干含む。
  - 6 黄褐色土 地山土を多量に含み、締まり悪く崩れ易い。炭化物及び焼土わずか含む。

第197図 C95号住居跡炉

0 1 m

C116号住居跡（第209・212・503～510図 PL. 31・32・180～185・272～274）

位置 Cd・e—44 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.51m、短辺(4.10)m、壁高0.63m

重複 西側半分は調査区外となる。また北側にはC160号住居跡（古墳時代）が重複する。

埋没土 小礫が多く混入し、覆土全体に多量の礫および土器片が混入していた。

床面 比較的硬く締まった部分とやや軟質な部分が見られ、やや凹凸がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 北壁寄りに2本を検出。また西壁寄りに南東部ピットの一部を検出した。ほぼ円形で垂直に掘り込まれる。

炉 2カ所検出した。

1号炉 北側柱穴間にあり、長さ35cm程の板状の砂岩が据えられ、北側に若干の焼土が見られる。

2号炉 中央やや東壁寄りに作られる。やはり、長さ30cm程の板状の砂岩を、南北に据えている。焼土はほとんど見られなかった。

出土遺物 上層から下層に至るまで、大型の礫とともに多くの土器類が出土している。遺物は中央寄りに集中して出土しており、西壁際で折り重なるような状況であった。器形復元可能な壺、甕、をはじめ台付き甕、高坏、鉢類さらには土製勾玉、紡錘車等が見られた。

調査所見 本址は、全体の半分程の調査にもかかわらず、C区中最も多くの土器を出土した住居である。これらの遺物は投げ込まれたような状況で、最大で70cm程もある多量の礫とともに出土している。礫は比較的上層で住居北部分を中心に、中央に集中する土器を取り囲むような状況が観察された。このことから土器埋没後礫の投げ込みが行われたものと思われる。

C148号住居跡（第213・214・511・512図 PL. 33・186・274）

位置 Cm・n—49 形状 隅丸長方形 規模 長辺(0.82)m、短辺(3.30)m、壁高0.40m

重複 調査区の西壁に掛かって検出された。北側にC125号住居跡（平安時代）が、南部分にC138号住居跡（古墳時代）、C123号住居跡（平安時代）が重複している。また、東には不明確ながらC142号住居跡（平安時代）が重複する。

埋没土 砂礫、黄褐色粒子を多く含んだ粗粒土で埋まる。

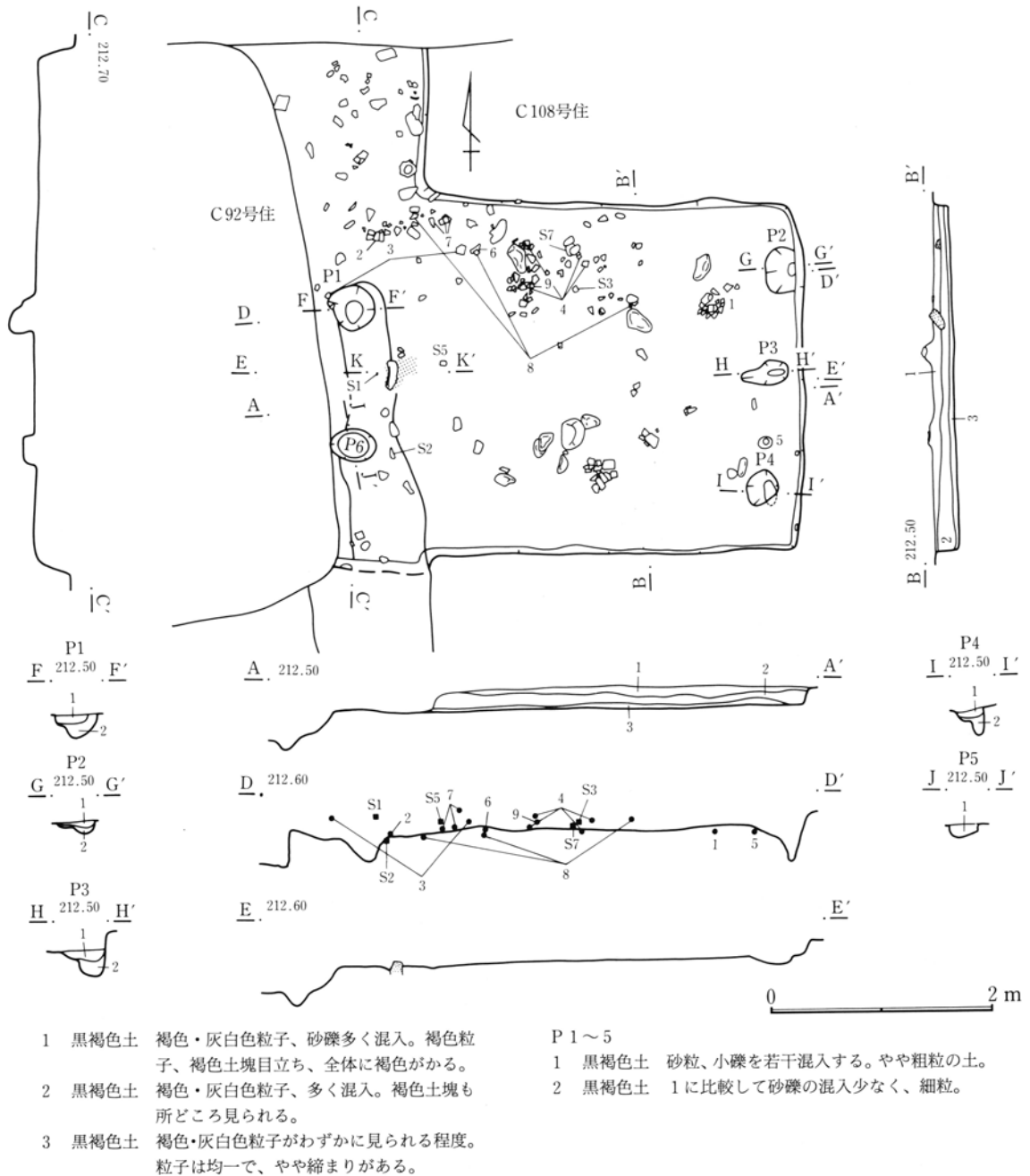
床面 はっきりとした生活面は確認できず、地山の礫層がほとんど露出した状態であった。

貯蔵穴 明確なものは検出できなかった。 柱穴 北東隅寄りにP1を検出した他には検出されなかった。

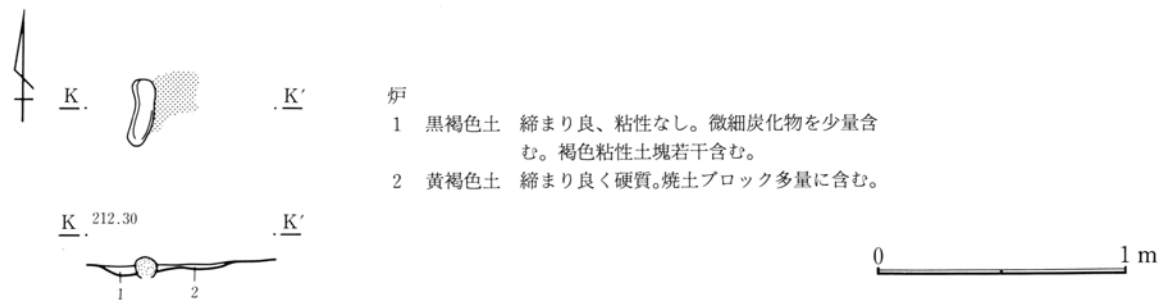
炉 検出されなかった。

出土遺物 土器とともに多量の礫が混入する。遺物は北よりに集中する傾向が見られた。

調査所見 西側半分は調査区外となる。後世の遺構による削平が著しく、壁の残りは良くない。床面は地山礫層をそのまま生活面とし、貼り床等も確認されなかった。なお、南東部にC191号土坑（縄文）が重複する。



第198図 C97号住居跡



第199図 C97号住居跡炉

## C149号住居跡 (第215・216・513~515図 PL. 33・187・274・275)

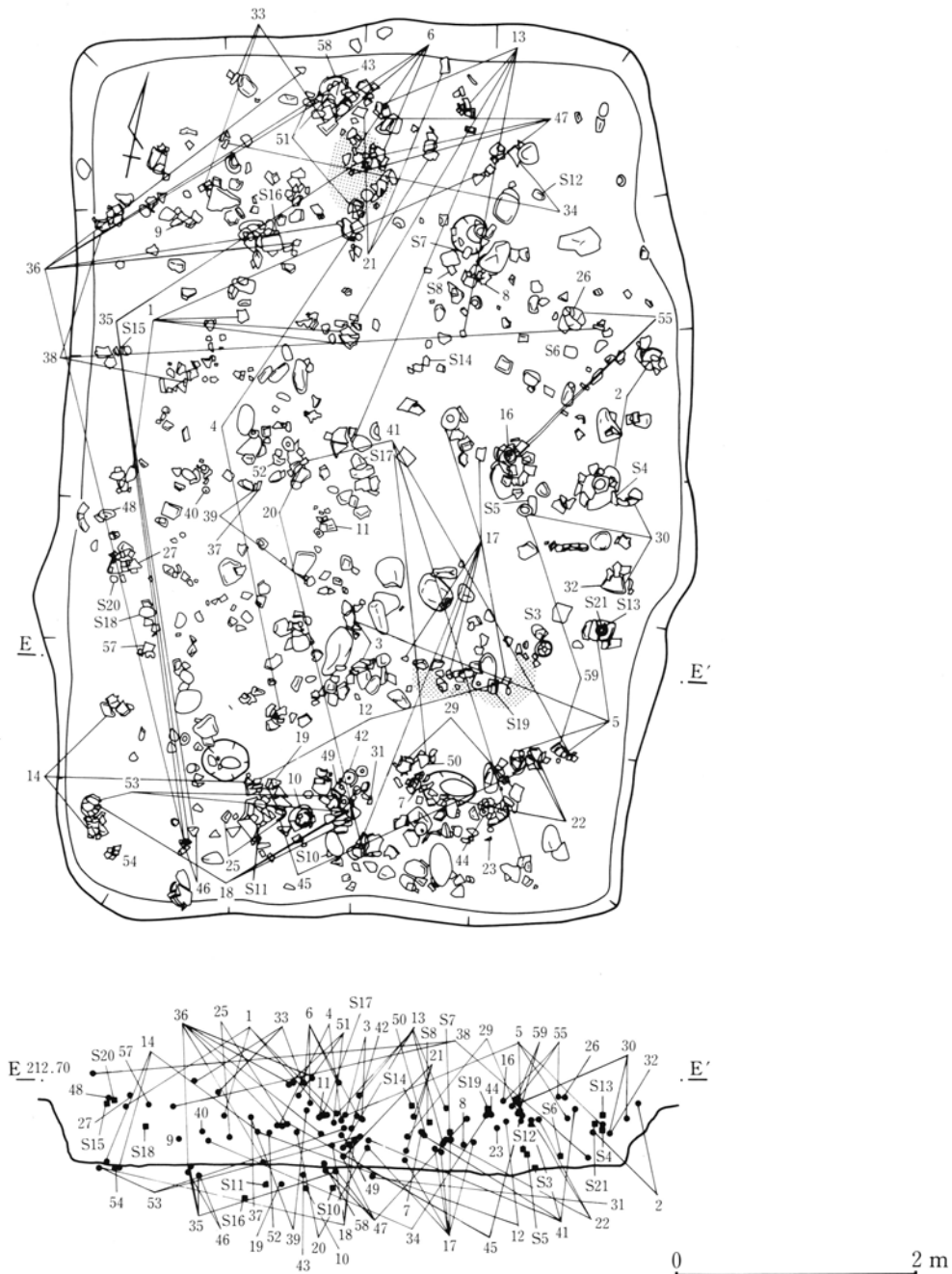
位置 Ct・Da—51・52 形状 隅丸長方形 規模 長辺(4.40)m、短辺3.95m、壁高0.23m

重複 調査区北端に検出された。北側は調査区外となる。(実際には中世の大溝によって切られる)

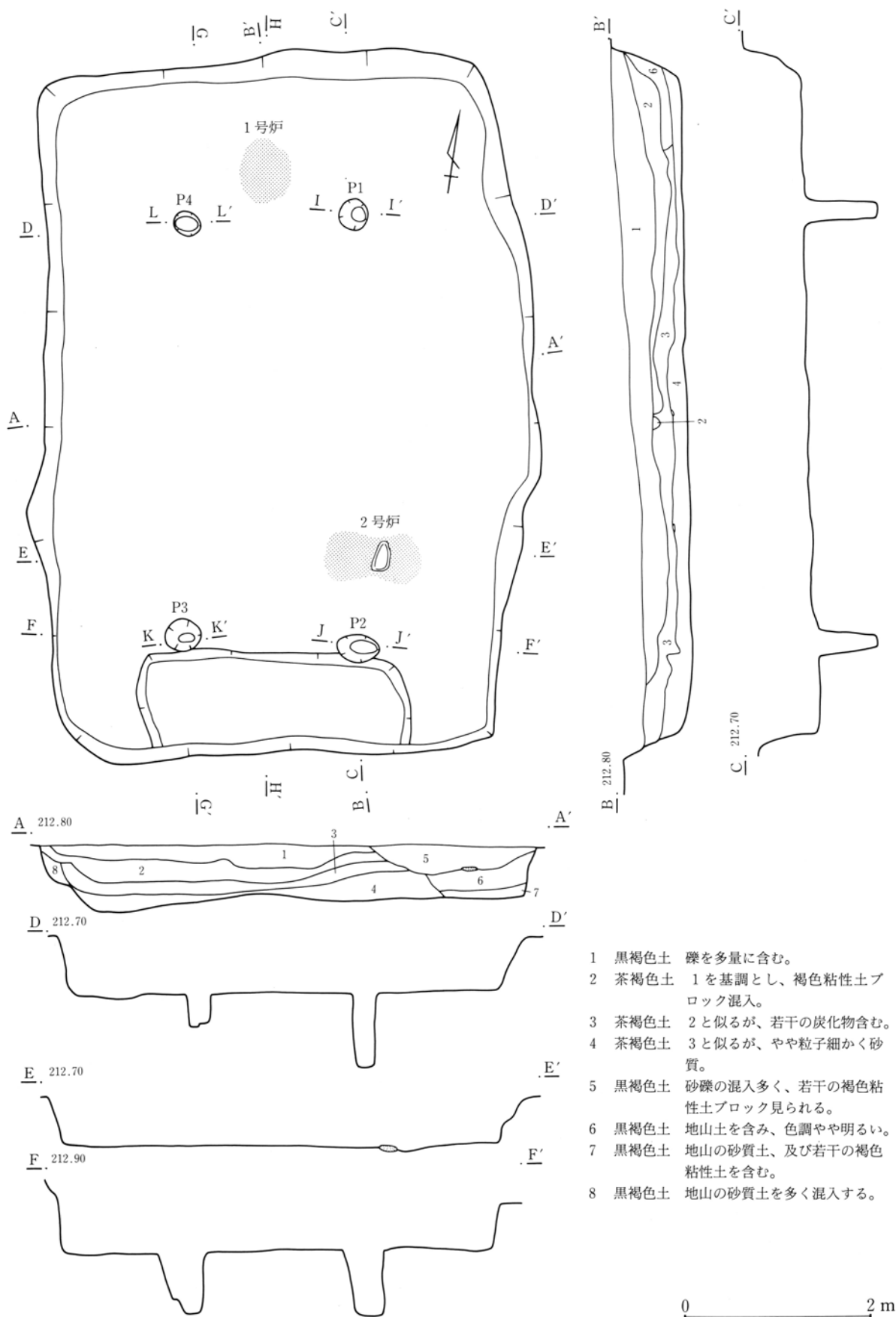
埋没土 極めて浅く、砂礫を多量に含み、締まりがよい。 床面 凹凸が著しく、やや軟質である。

貯蔵穴 南西隅に検出された。不定形で深さ約20cmを測る。 柱穴 ピットは10本程確認されたが、位置的に規則性がみられない。また、後世の掘り込みも含まれるものと思われる。

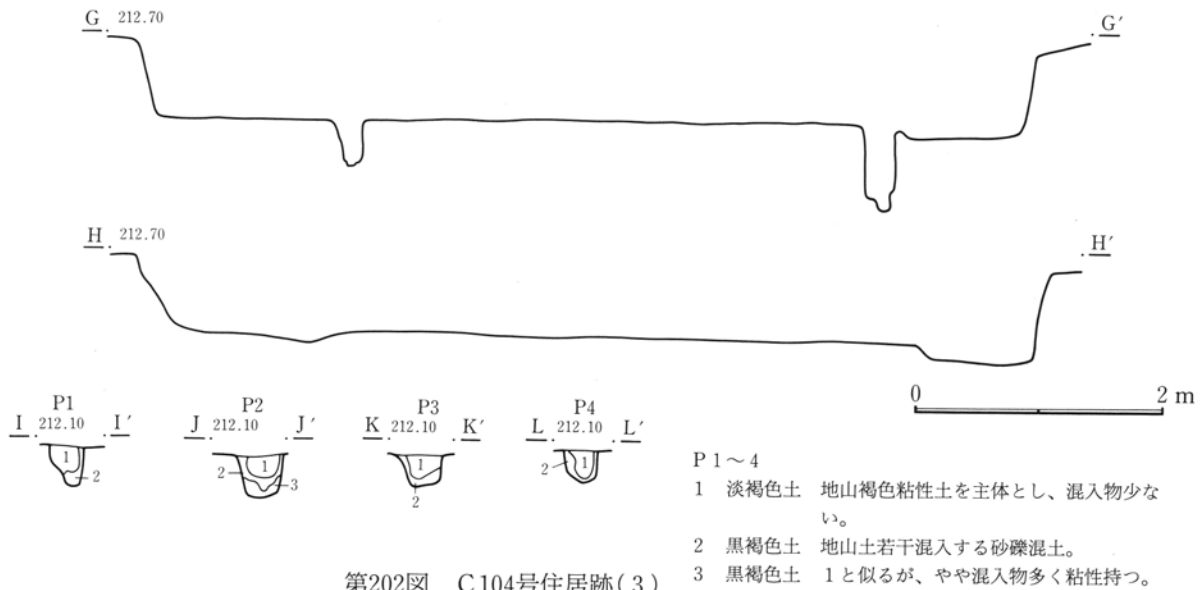
炉 中央やや北に寄ったところに作られる。長円形の浅い落ち込みの南部分に、砂岩の角礫が2つに割れた状態で検出されている。北側に若干の焼土が見られた。



第200図 C104号住居跡(1)



第201図 C104号住居跡(2)



**出土遺物** 遺物はややまばらな状態で、礫を伴っていた。南西隅には壺下半部が置かれた状態で検出された他、ほぼ床面上で鉢類が出土している。また、紡錘車が4点出土しており注目される。

**調査所見** 北側は失われており、遺存状態もあまり良くない。床面もかなり荒れており、柱穴も明確でない。

#### C150号住居跡 (第217・516図 PL. 34・187)

**位置** Cn-34 **形状** 不明 **規模** 長辺(4.10)m、短辺(1.10)m、壁高0.45m

**重複** 調査区東端にて検出された。当初C245号住居跡(古墳時代)として調査を行ったが、検討の結果本址の西側部分がわずかに残っており、若干の遺物も確認された。

**埋没土** 覆土は西壁際がわずかに残っているにすぎない。小礫を含む砂礫層主体で、下層には焼土層が認められた。 **床面** 比較的しっかりしているが検出面積は極めてわずかである。

**貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。

**出土遺物** 壺および台付き甕が出土している。

**調査所見** 西壁のわずかな部分のみの調査であり、全容は不明である。床面に若干の焼土が見られることから、焼失住居の可能性もある。

#### C163号住居跡 (第218～220・519～521図 PL. 34・35・188・189・275・276)

**位置** Ce-36・37 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.82m、短辺4.43m、壁高0.44m

**重複** 南東部分をC162号住居跡(古墳時代)に切られるが、かろうじて床面は残る。

**埋没土** 砂礫を多く含みやや粘性を持つ、炭化物が若干混入。 **床面** ほぼ平坦であるが、やや南に緩く傾斜する。締まりはあまりないが、炉周辺は比較的踏みしめられている。

**貯蔵穴** 南西隅にあり、深さは25cm程で、底は平らである。

**柱穴** 主柱穴は4本で、ほぼ対角線上に位置する。径50～40cmで深さは40～60cmを測る。

**炉** 北側柱穴間に作られる。長円形の浅い落ち込み部分ほぼ中央に、長さ35cm程の2つに割れた河原石が据えられ、北側には焼土が見られる。

**出土遺物** 住居全体から、壺、甕、高坏、鉢類等比較的多くの土器が床面近くから出土している。炉周辺および、南西部分に集中している。

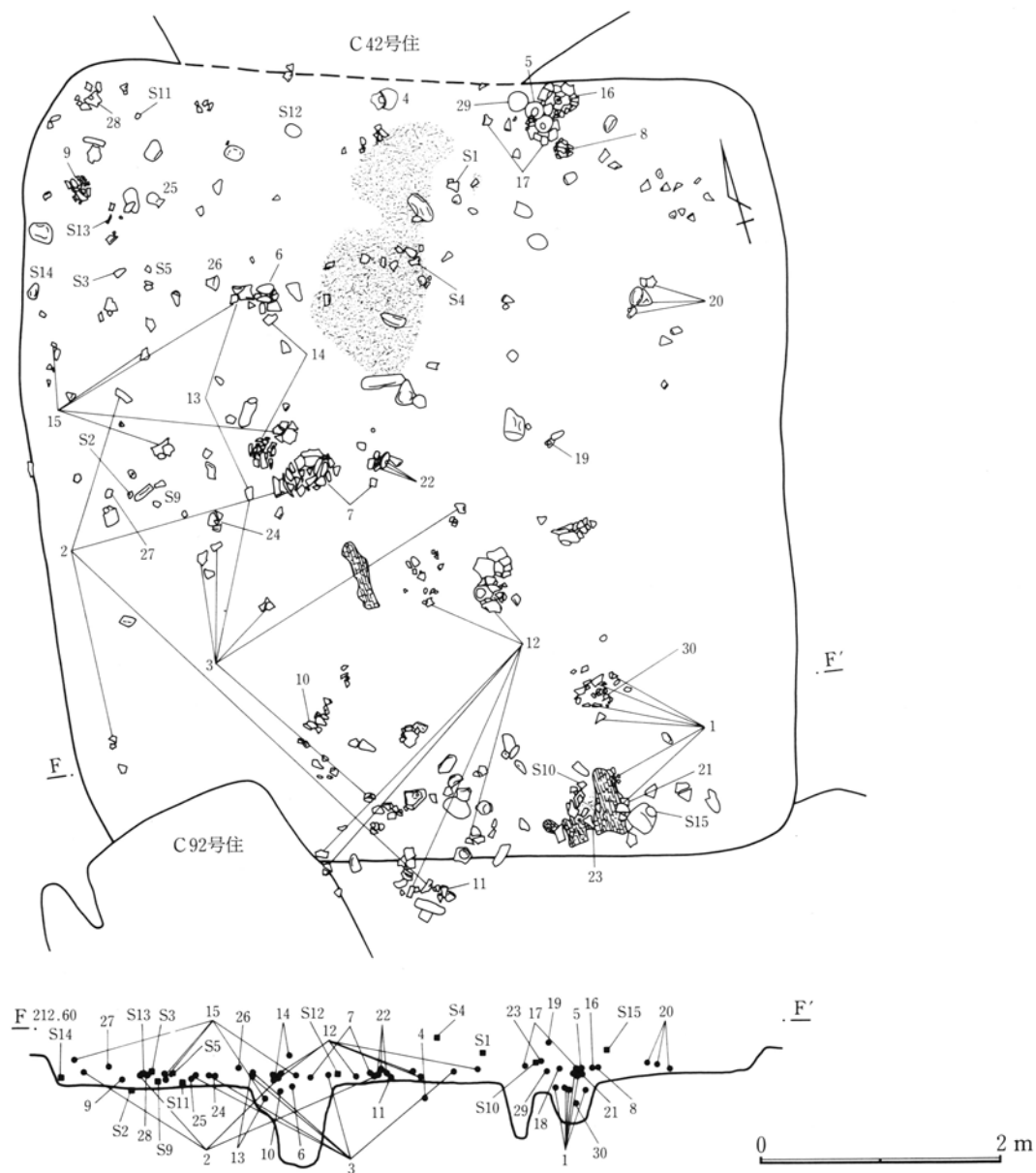
**調査所見** 南東部分を切られてはいるが遺存状態はかなり良好で、出土遺物も多い。遺物は床面で潰れた状態のものや、ピット覆土中から出土したものも見られる。

#### C164号住居跡 (第221・222・517図 PL. 35)

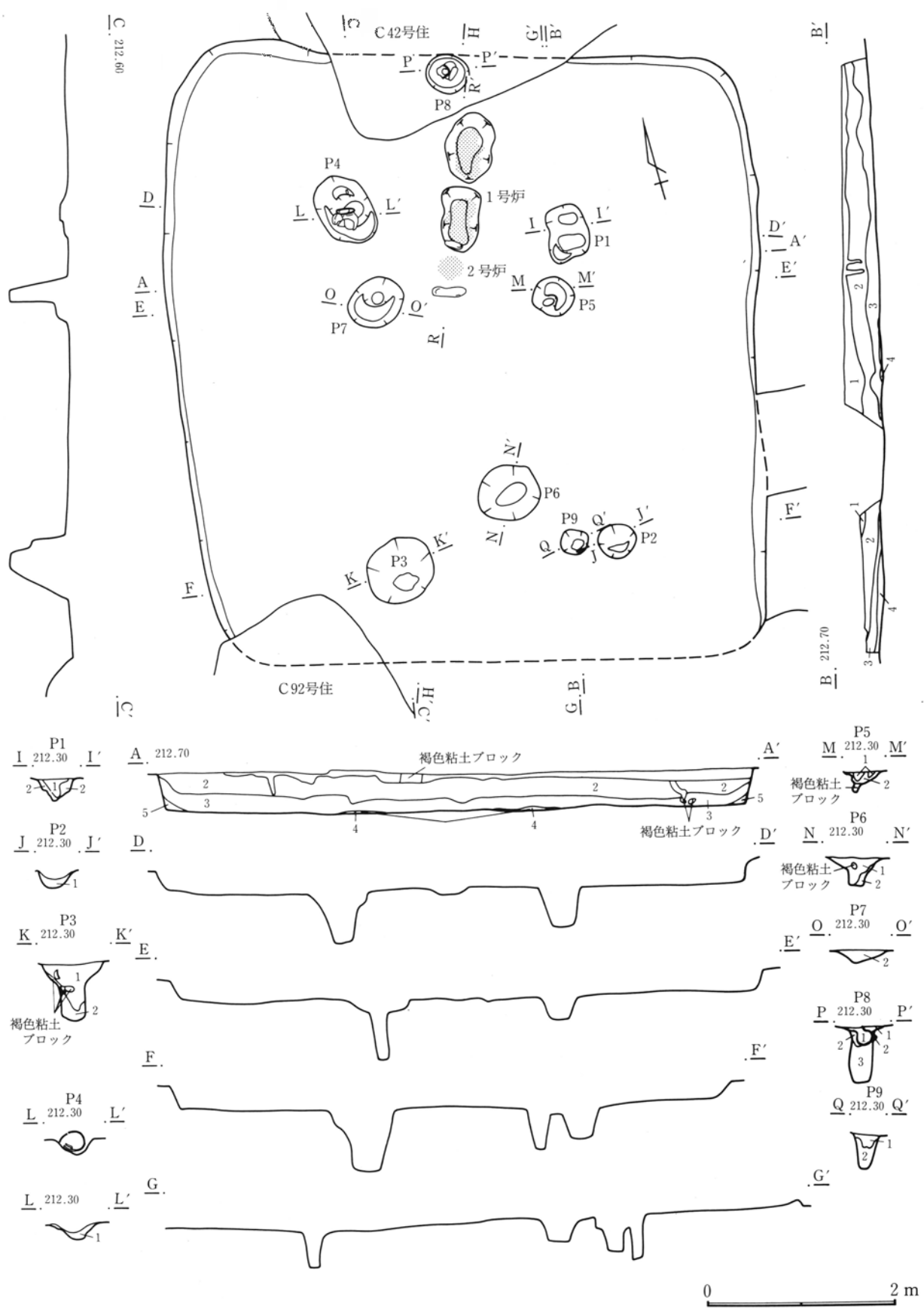
**位置** Cf・g—33・34 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(8.52)m、短辺(5.35)m、壁高0.23m

**重複** 南側を大きくC16号住居跡(古墳時代)、C24号住居跡(平安時代)に切られ、東壁部分にはC67号住居跡(古墳時代)が重複する。また北壁部分にはC18号住居跡(弥生時代)が重複しており本址よりも新しいものと判断された。 **埋没土** 小礫含み、若干の粘性土混入、また炭化物が少量混入する。

**床面** 緩やかな起伏があるものの、全体的には平坦である。締まりは炉の周辺部分を除きあまりない。



第203図 C108号住居跡(1)



第204図 C108号住居跡(2)

H. 212.60

H'



- 1 黒褐色土 小礫、褐色・灰白色粒子、褐色土粒等混入。あまり締まりはない。
- 2 褐色土 小礫、褐色・灰白色粒子等混入、褐色土粒全体に含む。やや締まり南側部分若干の炭が含まれる。
- 3 暗褐色土 小礫かなり点在。褐色・灰白色粒子、褐色土塊混入。若干の炭化物含む。
- 4 褐色土 小礫少なく、褐色土粒が主流をなし、灰白色粒子点在。締まりあり、粘性を帯びる。
- 5 褐色土 褐色土粒主体の粘性土。

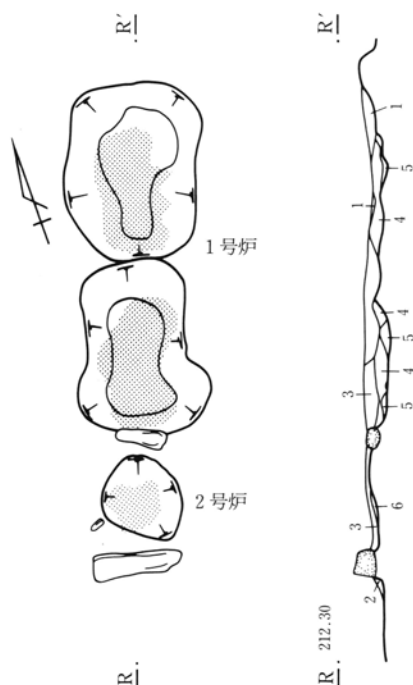
P 1～7・9

- 1 黒褐色土 小礫を含む。褐色・灰白色粒子混入。褐色土粒やや混入。やや硬く締まる。
- 2 黒褐色土 小礫を若干含む。褐色土粒多く混入。黒褐色土と褐色土が斑に混在する。

P 8

- 1 黒褐色土 炭化物若干含み、砂質土を少量含む。小礫若干混入。
- 2 黒褐色土 砂質土かなり含み、締まり悪い。褐色粘性土塊わずかに混入。
- 3 茶褐色土 砂質土。若干の炭化物及び粘土塊少量混入。

第205図 C108号住居跡(3)



1・2号炉

- 1 黒色土 炭化物片かなり含み、焼土粒少量混入。
- 2 黒褐色土 褐色粘性土塊を斑状に含む。
- 3 黒色土 焼土かなり含み、微細な炭化物を少量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土層。炭化物及び白色土粒若干含む。
- 5 暗黄褐色土 焼土少量含み、均質でさらさらした土。
- 6 暗褐色土 焼土及び炭化物かなり含む。

第206図 C108号住居跡炉

**貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 4本検出した。おそらく6本と思われるが、南側の2本については確認できなかった。 **炉** 北壁寄り、柱穴間に作られる。長さ45cmの角柱状の砂岩が据えられ、北側がわずかに窪み、焼土が検出されている。

**出土遺物** 後世の遺構による削平が著しいこともあり、ほとんど見られなかった。図示し得たのは1点のみである。

**調査所見** 比較的大型の住居と思われるが、重複が著しく北側部分を除き、遺存状態は悪い。また北側部分に重複するC18号住居跡とC64号住居跡に関しては、本址よりも後出するものと思われる。

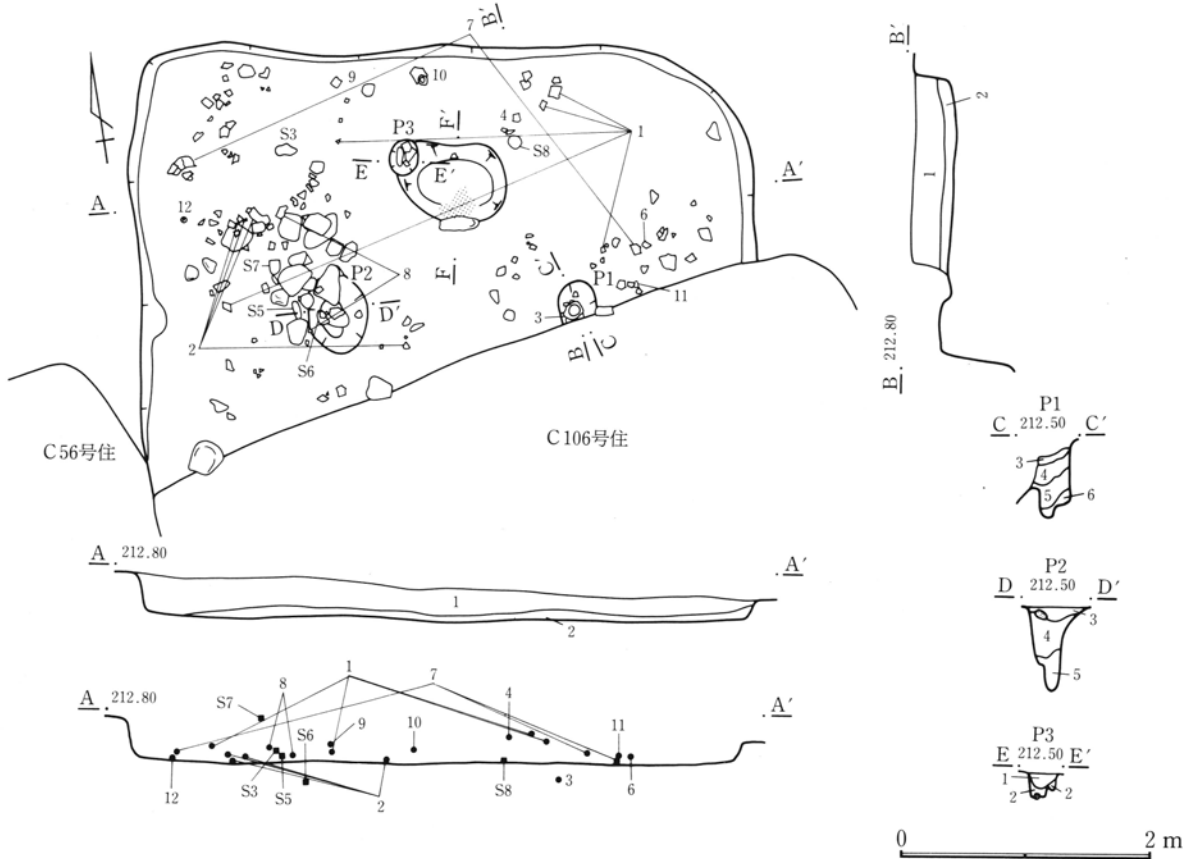
C166号住居跡 (第223図 PL. 36・276)

位置 Cd-32・33 形状 隅丸長方形 規模 長辺(4.60)m、短辺2.83m、壁高0.14m

重複 南側部分を大きくC91号住居跡(弥生時代)、C92号住居跡(古墳時代)に切られ遺存部分は少ない。

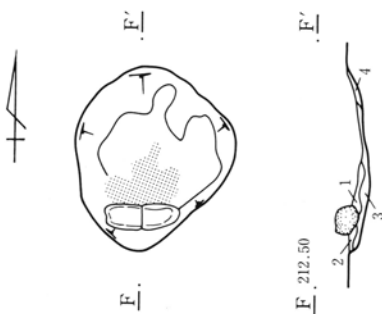
埋没土 礫を含み、若干の炭化物を含む。 床面 やや凹凸が見られ、全体的に軟質である。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 ピット8本を検出したが、明確な柱穴は認定できなかった。



- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色土 小礫多量に含み、締まり悪い。          | 3 黒褐色土 小礫少量及び炭化物若干含む。            |
| 2 黒色土 小礫少量含む。炭化物若干混入。          | 4 黒褐色土 小礫若干混入。褐色粘性土をブロック状に含む。    |
| P1～3                           | 5 暗黄褐色土 褐色粘性土をブロック状に含み、砂質土多量に混入。 |
| 1 黒色土 小礫少量含む。硬くよく締まる。          | 6 暗黄褐色土 5に似るが砂質土の混入より多い。         |
| 2 黒色土 1に似るが礫の混入少なく、褐色粘性土若干混じる。 |                                  |

第207図 C114号住居跡



炉

- 1 赤褐色土 黒褐色土混じり、焼けている。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒が混入。
- 3 褐色土 灰白色・褐色粒子を含む。粒子細かく締まりあり。
- 4 褐色土 砂礫混じり、やや締まりあり。

第208図 C114号住居跡炉

炉 検出されなかった。 出土遺物 極めて少なく、図示し得たものはなかった。

調査所見 主軸方向を東西にとる小型の住居である。遺存状態は悪く、出土遺物もほとんど検出されなかった。

# C 173号住居跡 (第224・225・518図 PL. 38・276)

位置 Cf-44・45 形状 隅丸長方形 規模 長辺(5.20)m、短辺(4.40)m、壁高0.30m

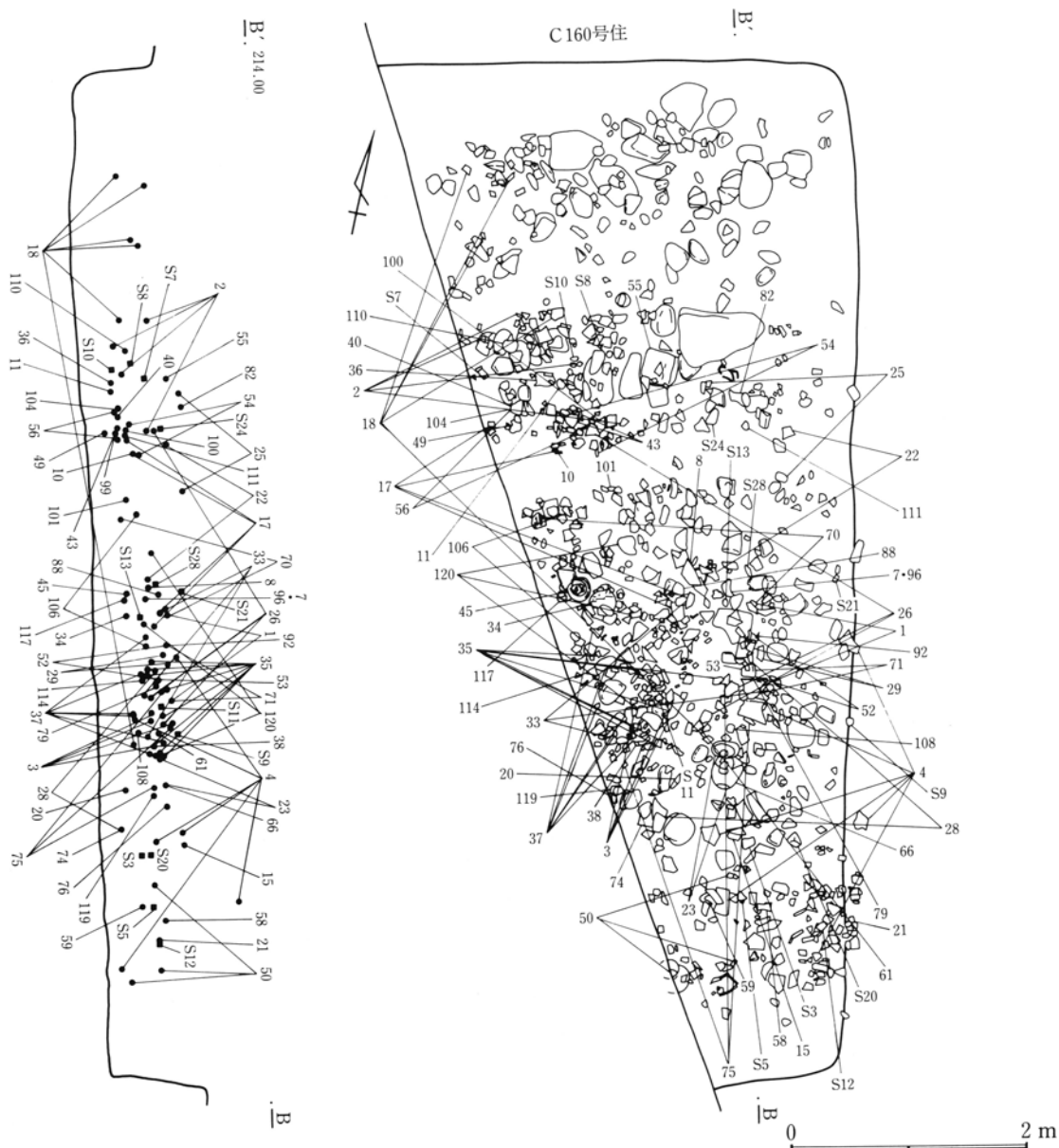
重複 調査区の西寄りで検出した。南端をC 160号住居跡(古墳時代)により切られる。

埋没土 覆土は極めて浅く、礫を多く混入した粗粒土で埋まる。

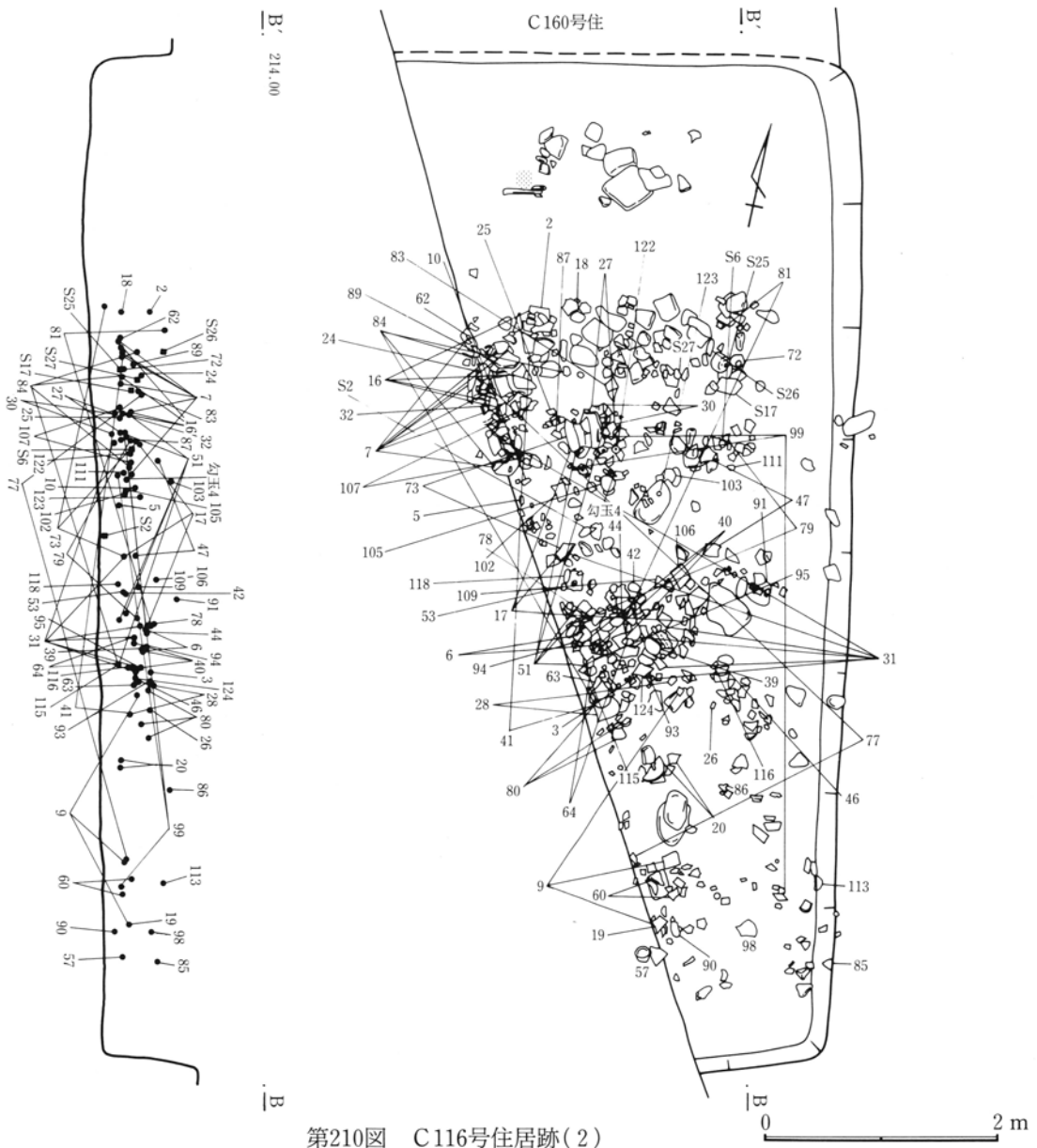
床面 南に緩く傾斜しわずかに凹凸を持つ。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 支柱穴は4本と思われるが、南東部のものは検出されなかった。

炉 中央北寄りに作られる。棒状の長さ30cm程の河原石が据えられ、北側に薄く焼土が検出されている。



第209図 C 116号住居跡(1)



第210図 C116号住居跡(2)

**出土遺物** 少ない。台付き甕の底部片、壺の破片がわずかに検出されたにすぎない。

**調査所見** 壁の立ち上がりは浅く、遺存状態は悪い。また、下にC170号住居跡(敷石住居)が作られている。

**C180号住居跡** (第226～228・522図 PL. 39・40・190・276・277)

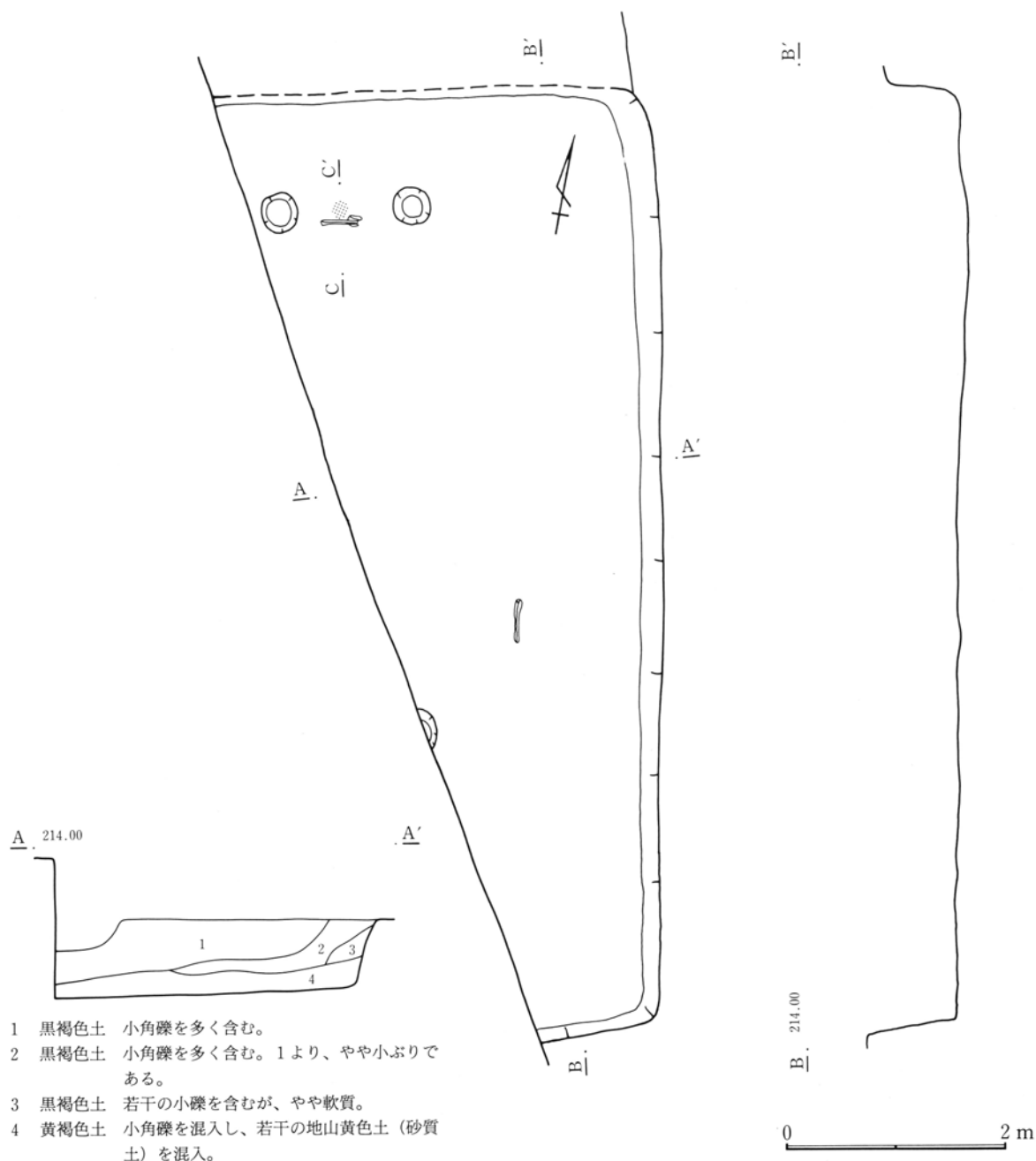
**位置** Cd・e—27・28 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺8.86m、短辺(6.40)m、壁高0.39m

**重複** 調査区の南東隅に位置する。東側は調査区外となり未調査である。また各壁部分は後世の住居により切られ、遺存状態は悪い。 **埋没土** 礫を含み部分的に、礫を多く含み粘性の強い土がブロック状に含まれる。

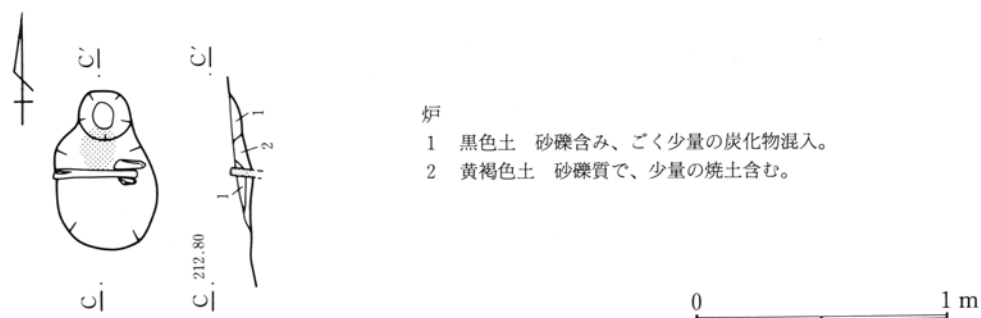
**床面** 部分的に軟質でやや凹凸が目立つ、西壁から南西隅、さらには東部分にかけて幅10cm程の周溝が見られる。 **貯蔵穴** 明確には判断できなかったが、P14が相当するか。

**柱穴** 主柱穴は4ないしは6本と思われるが、位置的にかなり不規則な位置にある。

**炉** 3カ所検出した。



第211図 C116号住居跡(3)



第212図 C116号住居跡炉

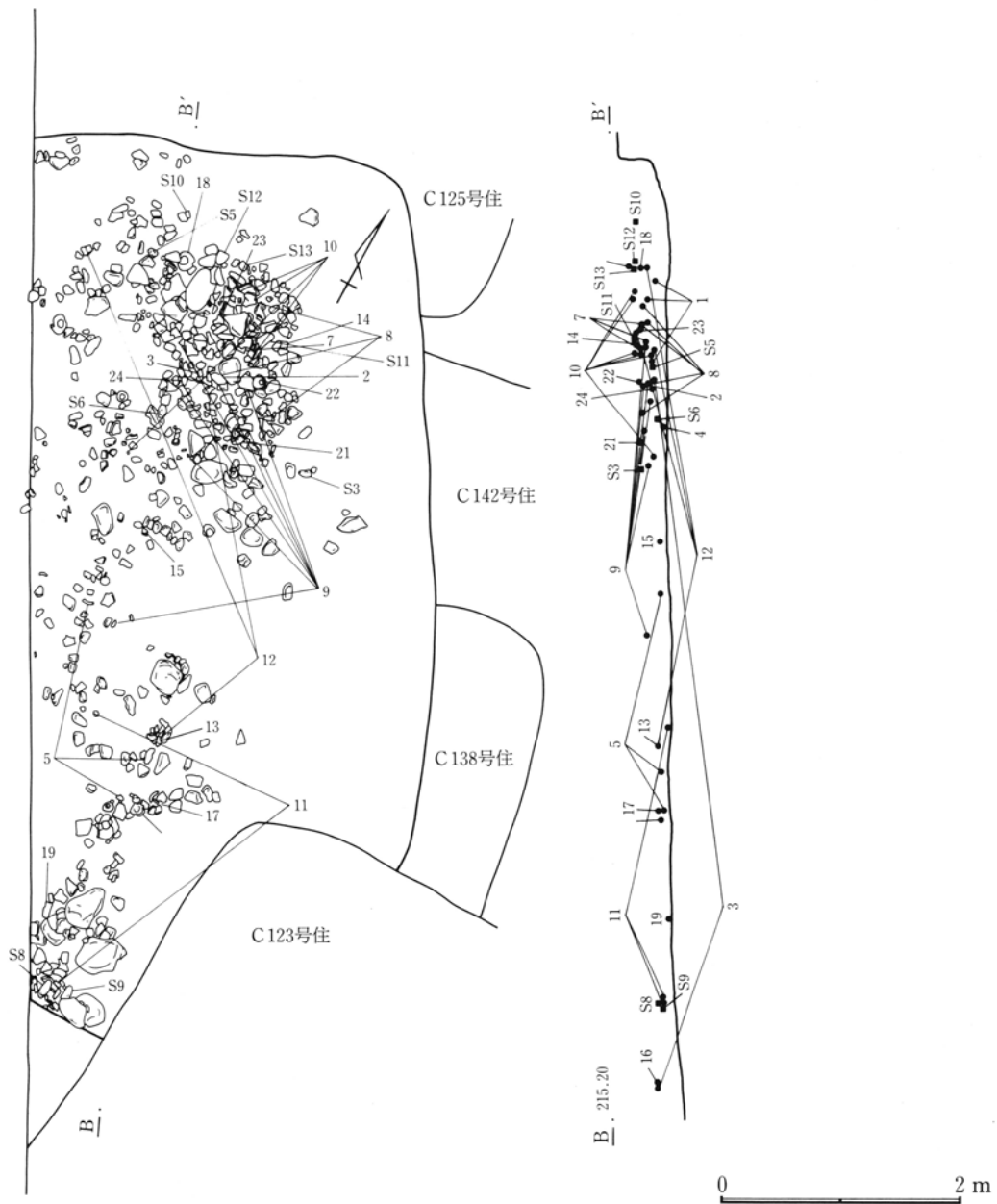
1号炉 中央やや北寄りに位置する。長さ30cmの河原石が据られ、北側に円形に焼土が広がる。

2号炉 中央やや西寄りに作られた地床炉である。長円形のわずかな窪みに焼土が残る。

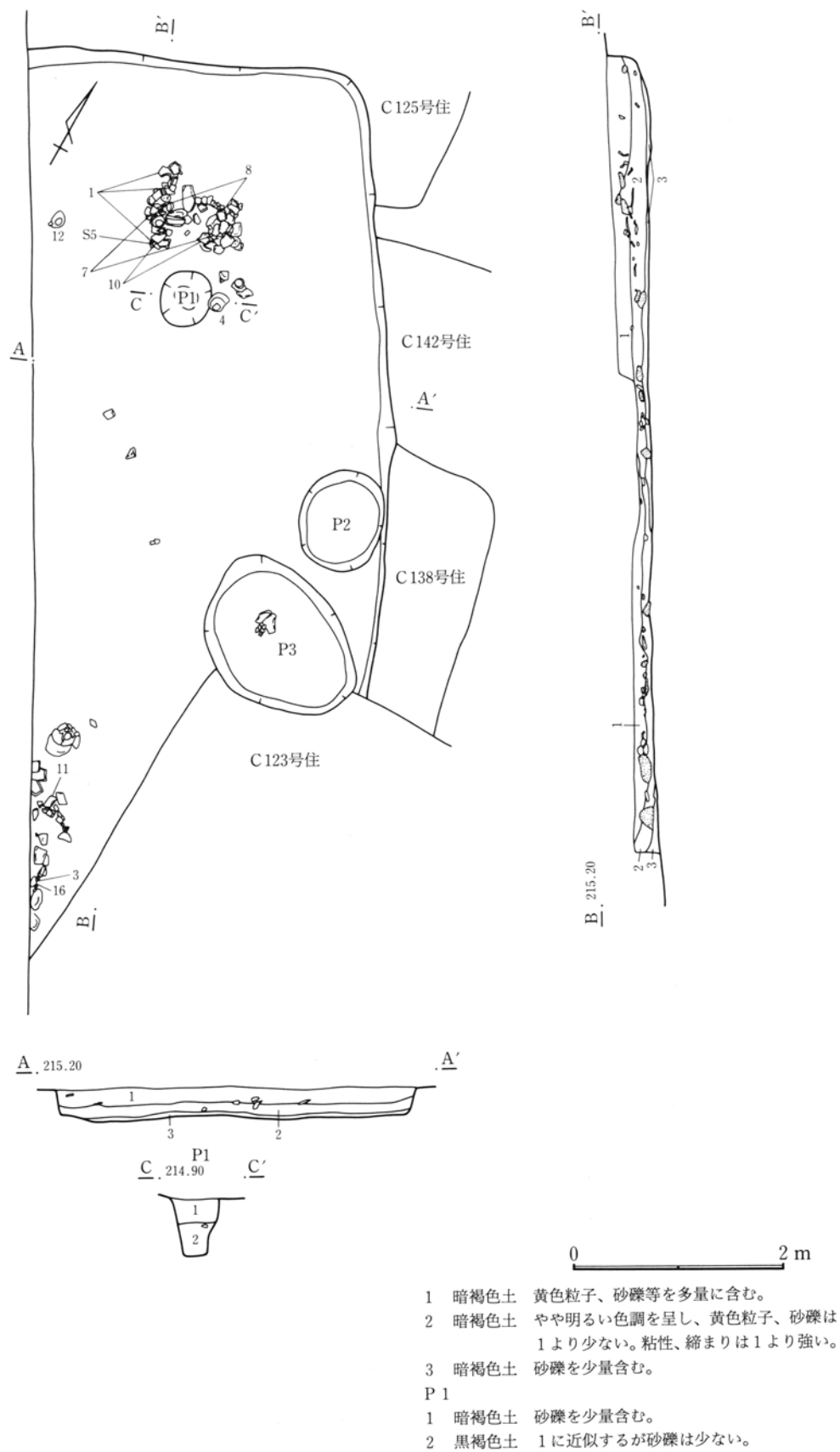
3号炉 P 1 の北側に作られる。径40cm程の落ち込みに焼土が伴う。

**出土遺物** 比較的大型の住居であるが、土器の点数は少ない。1が潰れた状態で南西コーナーで出土している。

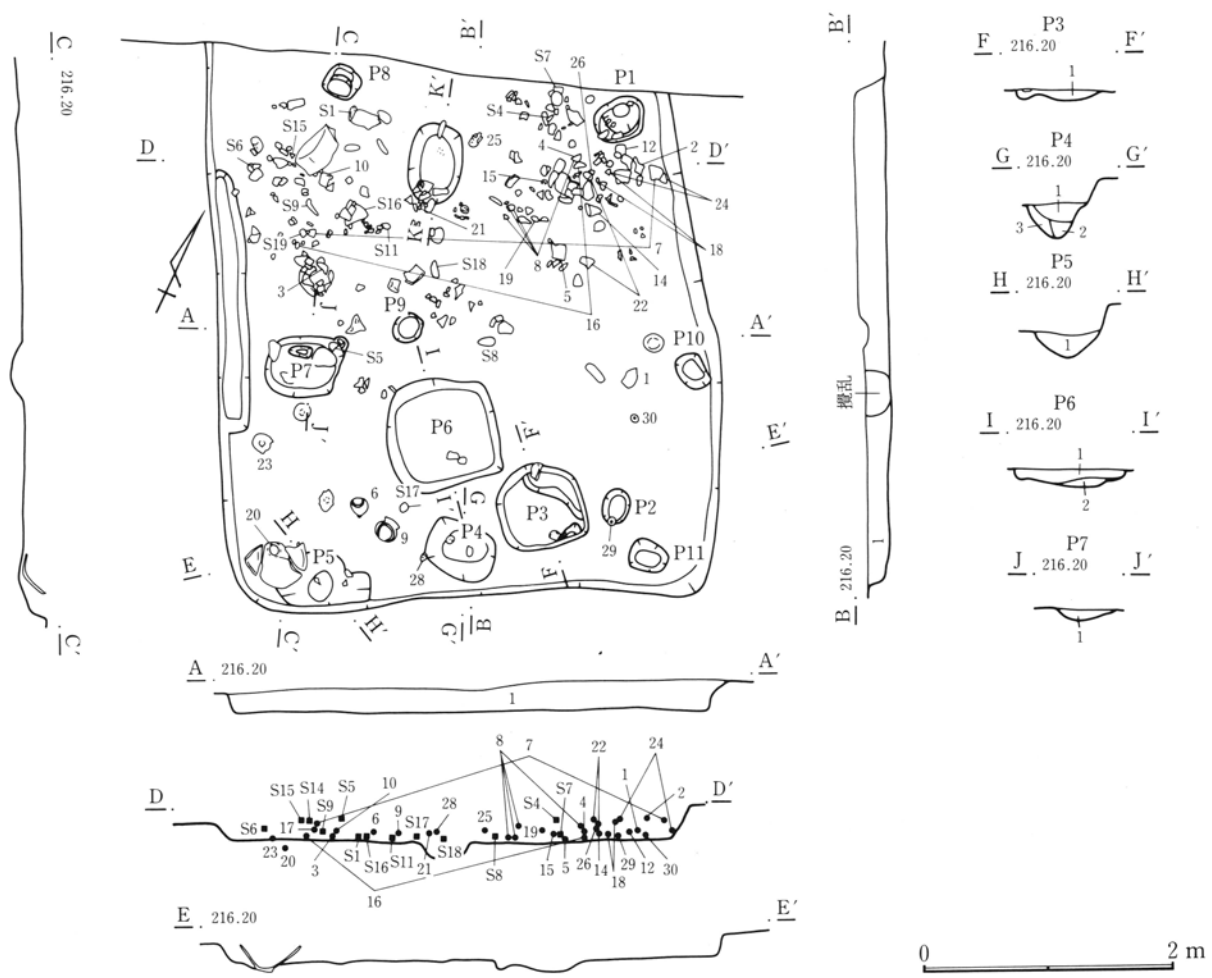
**調査所見** 一部東側部分は調査区外であり、また重複により壊された部分が多く、遺存状態はあまり良くない。規模の割に出土遺物は少なかった。



第213図 C148号住居跡(1)

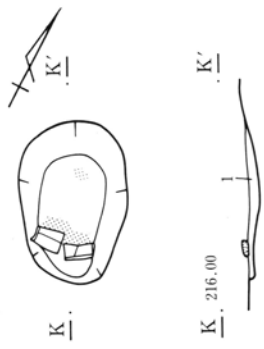


第214図 C148号住居跡(2)



- 1 暗褐色土 黄色粒子、砂礫を多量に含む。粘性弱いが、縮まりがある。
- P 3  
1 黒褐色土 砂礫、褐色土ブロックを微量含む。
- P 4  
1 黒褐色土 砂礫、褐色土ブロックを少量含む。  
2 黒色土 砂礫微量、褐色土ブロックを含む。  
3 黒褐色土 褐色土ブロックを多く含む。
- P 5  
1 黒色土 砂礫を少量含む。
- P 6  
1 黒褐色土 砂礫を微量、褐色土ブロックを多く含む。  
2 褐色土 砂礫を微量、黒褐色土ブロックを少量含む。
- P 7  
1 黒褐色土 砂礫を少量含む。

第215図 C149号住居跡



- 炉
- 1 黒褐色土 暗褐色土ブロックを多量、焼土粒子を微量。砂礫少量含む。

第216図 C149号住居跡炉

C185号住居跡 (第229～231・523・524図 PL. 40・190・277～279)

位置 Cd-27 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.18m、短辺5.05m、壁高0.47m

重複 調査区の南東隅に検出した。南壁をC181号住居跡(古墳時代)に切られる。また東側部分にC194号住居跡(弥生時代)が重なっているが、壁、床面ともにはっきりしなかった。

埋没土 粘性を持ち小礫含む。若干の炭化物粒、焼土粒が見られる。

床面 やや凹凸が見られるものの、全体には平坦である。中央部分はかなり締まっている。

貯蔵穴 南東隅に検出された。南側を切られているが、径50cm程で深さは25cmである。

柱穴 4本主柱穴である。また、中央、北および南側壁より中央に棟持ち柱と思われるピットが見られる。

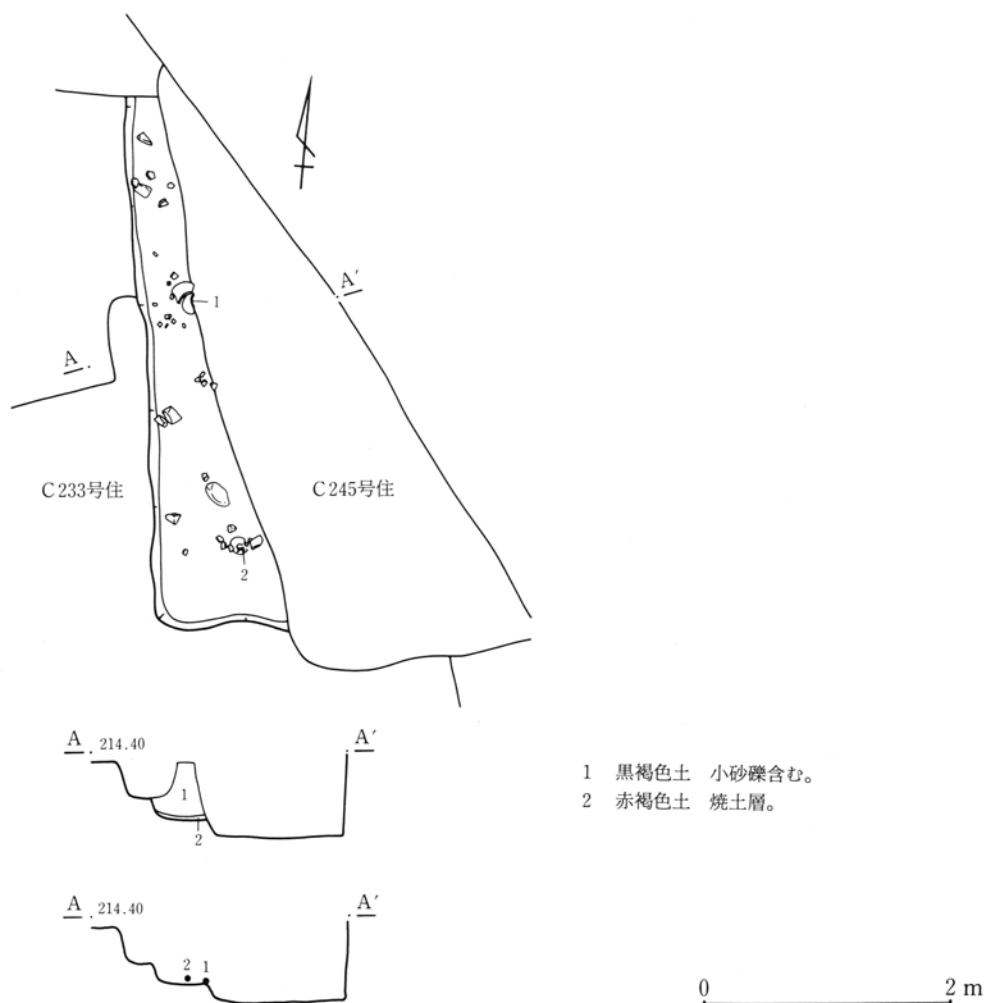
炉 3カ所検出した。

1号炉 中央北よりに作られる。円形の掘り込みと割れた砂岩が据えられる。

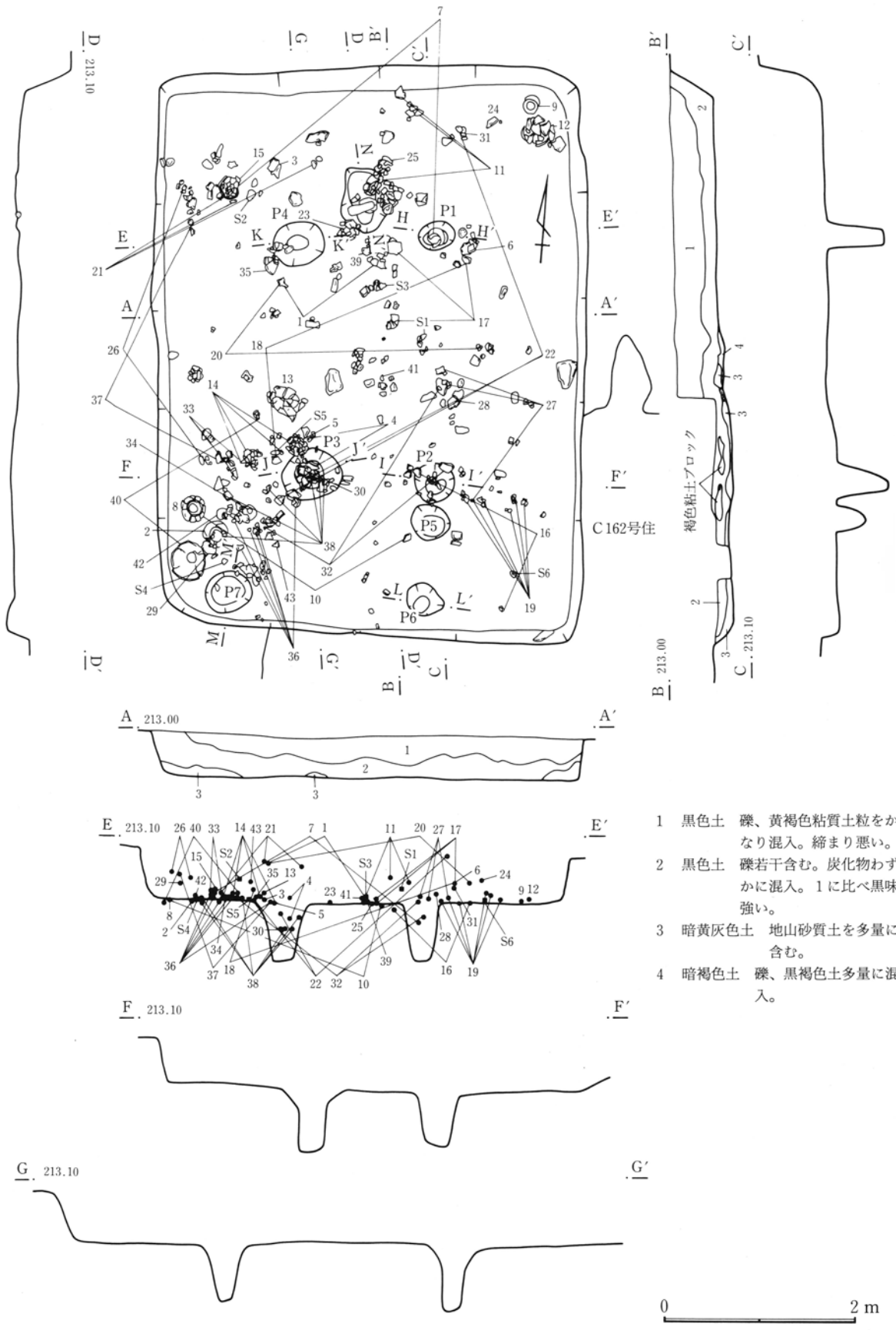
2号炉 1号炉の南に近接して検出された。浅い掘り込みと、扁平な砂岩が伴うが石は据えられた状態ではなかった。

3号炉 中央西寄りに検出された。円形の掘り込みと焼土が見られた。焼土検出面は平坦で硬く締まる。

出土遺物 遺物は住居東より特に南東部分に集中する傾向がある。壺、甕、高坏、鉢類の他紡錘車が1点出土している。

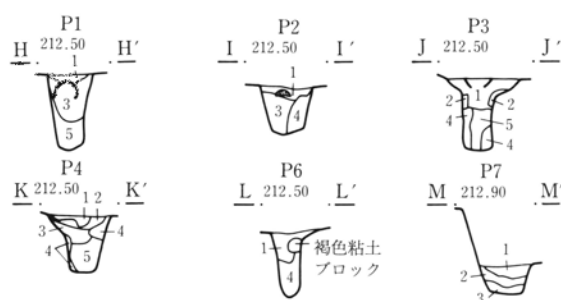


第217図 C150号住居跡



- 1 黒色土 礫、黄褐色粘質土粒をかなり混入。締まり悪い。
- 2 黒色土 礫若干含む。炭化物わずかに混入。1に比べ黒味強い。
- 3 暗黄灰色土 地山砂質土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 礫、黒褐色土多量に混入。

第218図 C163号住居跡(1)

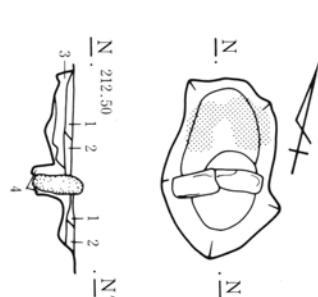


P 1～4・6・7

- 1 黒褐色土 礫を多く含み、若干の炭化物混入。
- 2 黄褐色土 褐色粘性土ブロック多く含み、粘性持つ。
- 3 灰黒褐色土 若干の地山褐色粘性土小ブロック混入。礫の混入少ない。
- 4 黄灰褐色土 地山の黄色土（砂質）を主体とし、粘性土をブロック状に含む。
- 5 黄灰褐色土 3と近似。地山の砂質土を主体とし、混入物少ない。

第219図 C163号住居跡(2)

0 2 m



炉

- 1 黒褐色土 砂礫粒、及び若干の炭化物含む。
- 2 黒褐色土 地山粒子含み、1より締まる。
- 3 黄褐色土 粘性のある褐色粘性土を主体とし、若干の焼土含む。
- 4 黄褐色土 褐色粘性土粒子と黒色土粒との混土。

0 1 m

第220図 C163号住居跡炉

**調査所見** 調査区の最も南東部分に検出されており、東壁は弥生時代の住居が重複しており検出できなかった。遺物は比較的多く、比較的大きな破片類が東壁寄りに集中して検出されている。

#### C186号住居跡 (第232・525図 PL. 40・190・279)

**位置** Cj・k-32 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(3.40)m、短辺3.82m、壁高0.41m

**重複** 調査区東壁に掛かって検出された。このため、東側半分は調査区外となる。

**埋没土** 若干の焼土粒子、炭化物粒子が見られやや軟質である。 **床面** 平坦で締まり良い。

**貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** 西側2本が検出された。いずれも円形でP1が径40cm、P2は50cmである。

**炉** 検出されなかった。 **出土遺物** 礫と若干の土器片が出土している。

**調査所見** 東側は調査区外のため未調査である。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。炉なども検出されず全容ははっきりしないが、比較的小型で主軸を東西にとるものと思われる。また本址はC200号住居跡(弥生時代)の南側を切る。

#### C187号住居跡 (第233図 PL. 41・279)

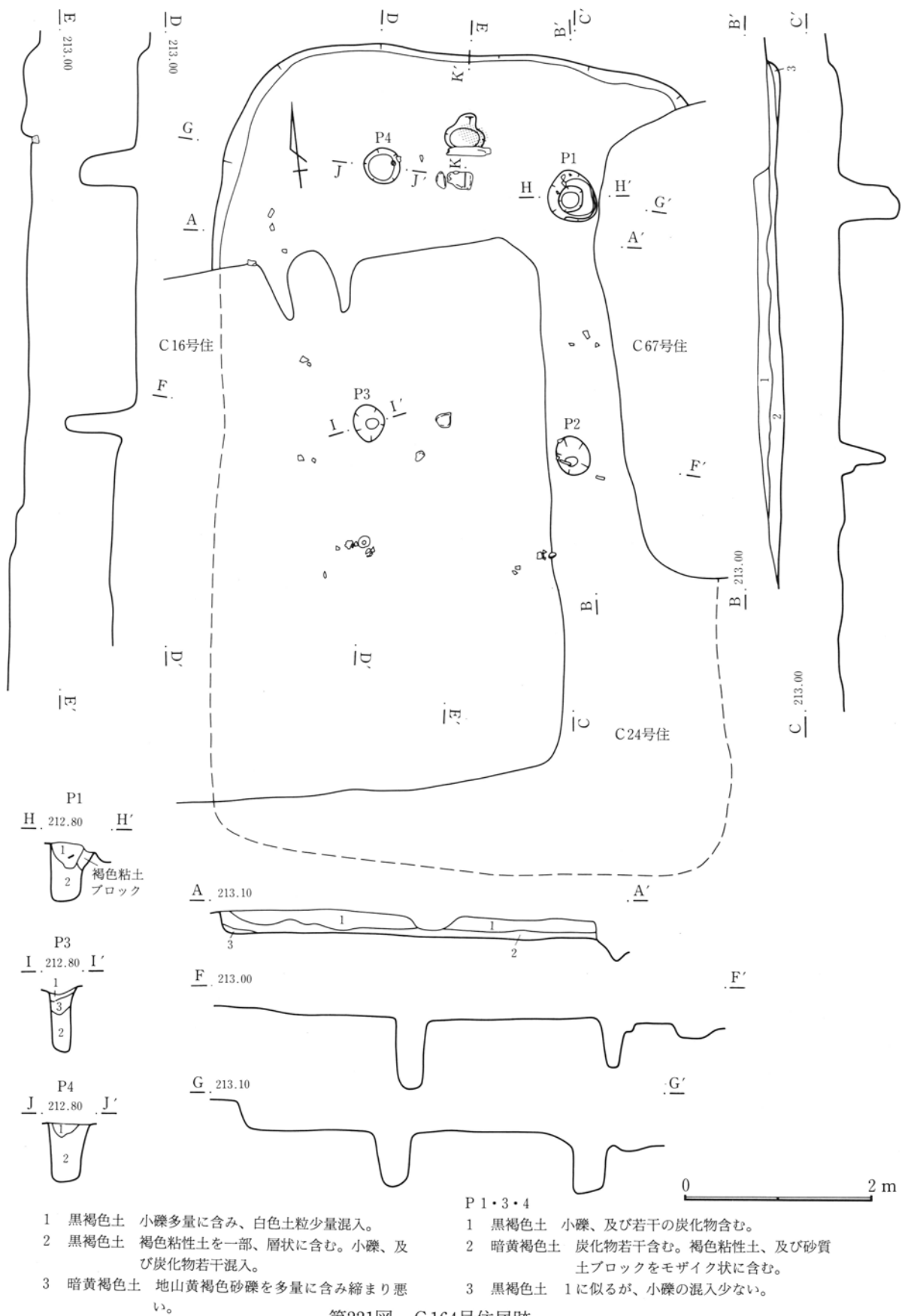
**位置** Cf-28・29 **形状** 不明 **規模** 長辺不明、短辺不明、壁高0.05m

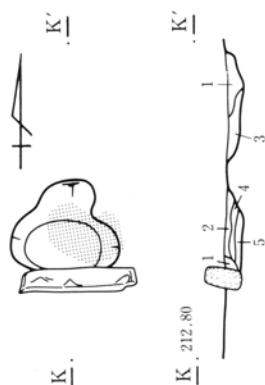
**重複** 北側は大きくC182号住居跡(平安時代)に切られ、東側は調査区外であり、検出されたのは南西のわずかな部分のみである。 **埋没土** 極めて浅く、小礫を含む黒褐色土で埋まる。

**床面** 平坦であるが、やや軟質である。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** ピット1本を検出した。

**炉** 検出されなかった。 **出土遺物** 小破片がわずかに見られたのみである。

**調査所見** ほとんど切られており遺存状態は極めて悪い。出土遺物もほとんど残っていなかった。



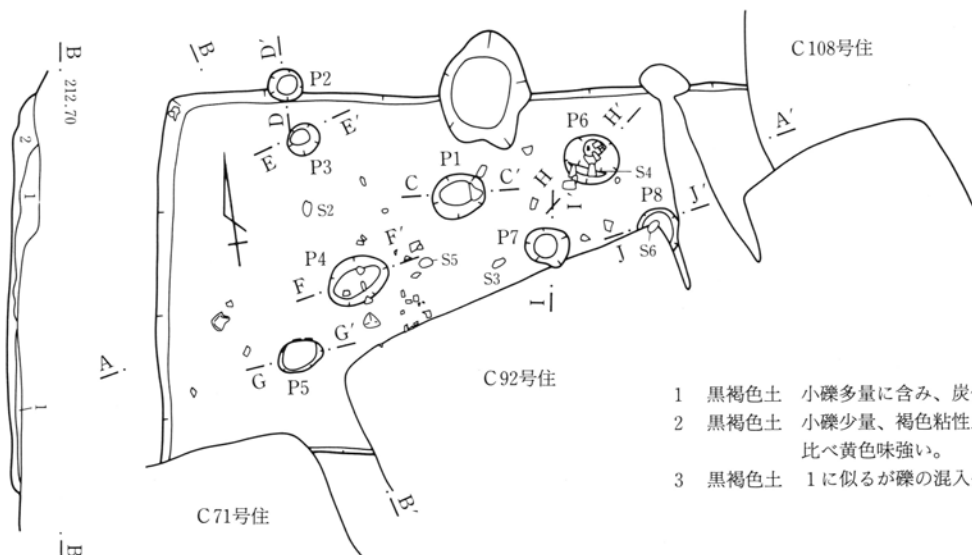


炉

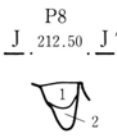
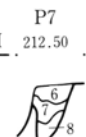
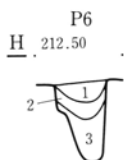
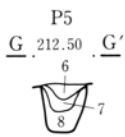
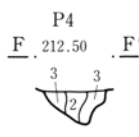
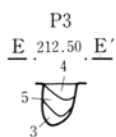
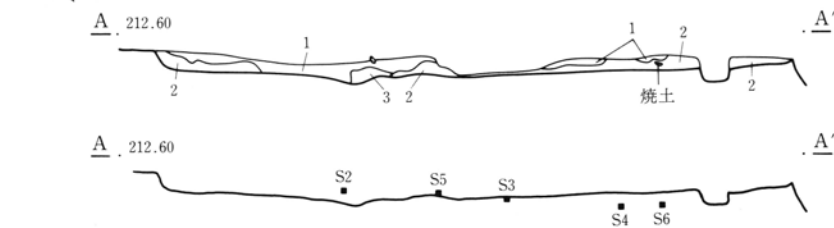
- 1 黒褐色土 小礫含み、締まり悪く、まれに径2cm程の礫混入。炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土、及び褐色粘性土粒をかなり含む。
- 3 黒褐色土 褐色粘性土をブロック状に含む。1に比べ黄色味強い。
- 4 暗褐色土 焼土かなり含み、小礫若干混入。
- 5 暗黄褐色土 地山砂質土多量に含み、締まり悪い。

0 1 m

第222図 C164号住居跡炉



- 1 黒褐色土 小礫多量に含み、炭化物若干含む。
- 2 黒褐色土 小礫少量、褐色粘性土塊を斑に含む。1に比べ黄色味強い。
- 3 黒褐色土 1に似るが礫の混入少なく、締まり良い。



P1~8

- 1 黒褐色土 小礫をかなり含む。褐色粘性土、炭化物わずかに混入。
- 2 暗黄褐色土 炭化物わずかに含み均質。
- 3 暗黄褐色土 砂質土、及び褐色粘性土をブロック状に含み炭化物わずかに混入。
- 4 暗灰色土 小礫、褐色粘性土塊わずかに混入。
- 5 暗灰色土 4に似るが、礫の混入少なく、砂質。
- 6 黒褐色土 小礫わずかに含む。褐色粘性土少量、ブロック状に混入。
- 7 黒褐色土 6に似るが礫の混入少なく、褐色粘性土、砂質土を含む。
- 8 黒褐色土 褐色粘性土及び砂質土の混入多く、7に比べ黄色味強い。

0 2 m

第223図 C166号住居跡

C192号住居跡（第234・526・527図 PL. 41・191・280）

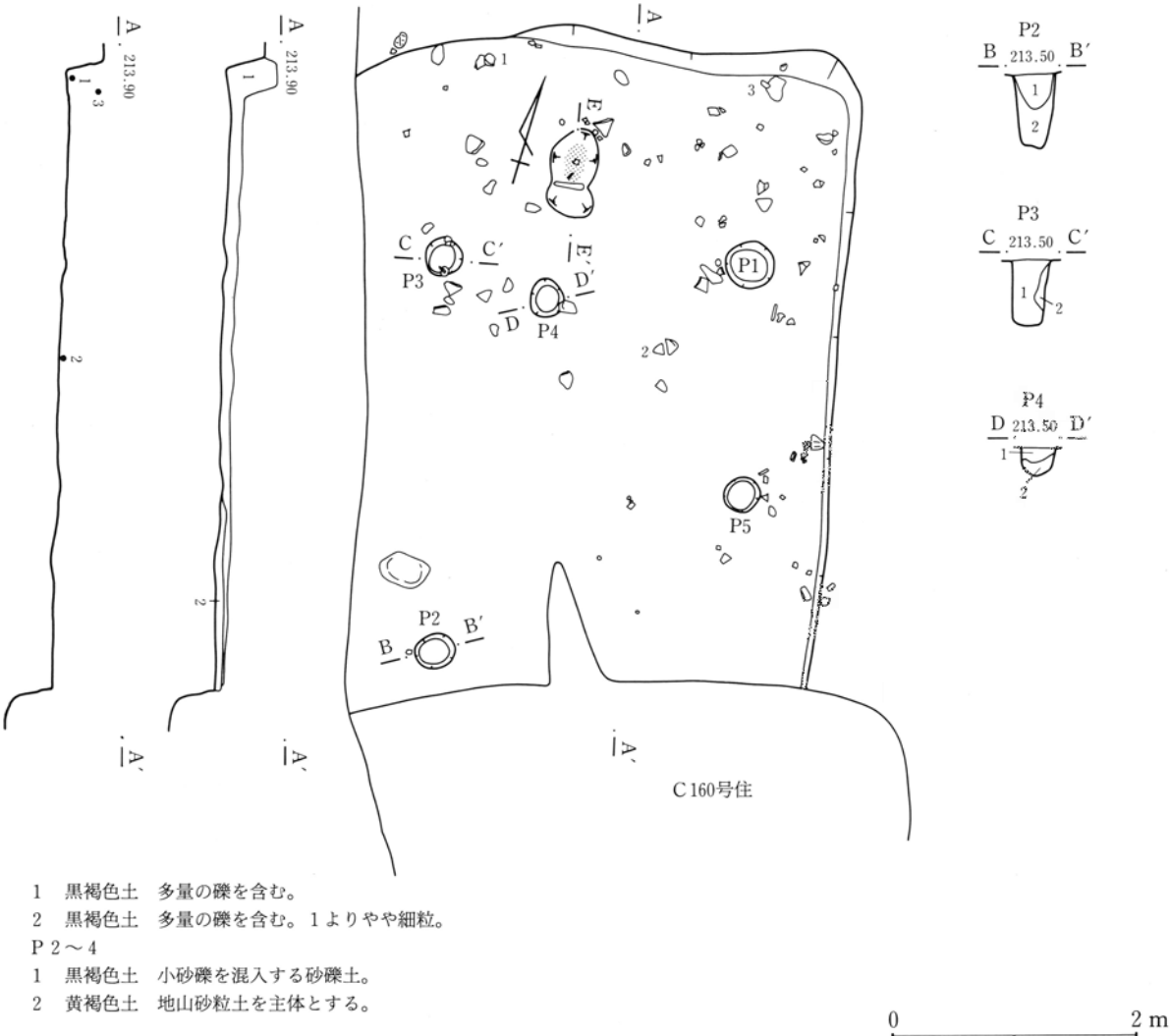
位置 Cf—41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.09m、短辺4.64m、壁高0.23m

重複 南西部分をC36号住居跡（奈良時代）に、北東をC189号住居跡（古墳時代）に切られる。

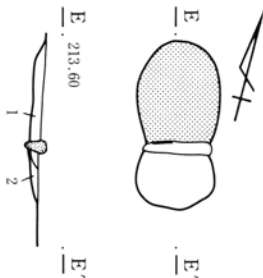
埋没土 小礫、褐色粒子多く含む。 床面 中央部がわずかに下がっているが、ほぼ平坦である。締まりはあまりない。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4本と考えられるが、南西に位置するものについては壊されていたために確認できなかった。

炉 中央東寄りに検出された。長さ25cmの河原石が据えられ、焼土が長円形に広がる。



第224図 C173号住居跡



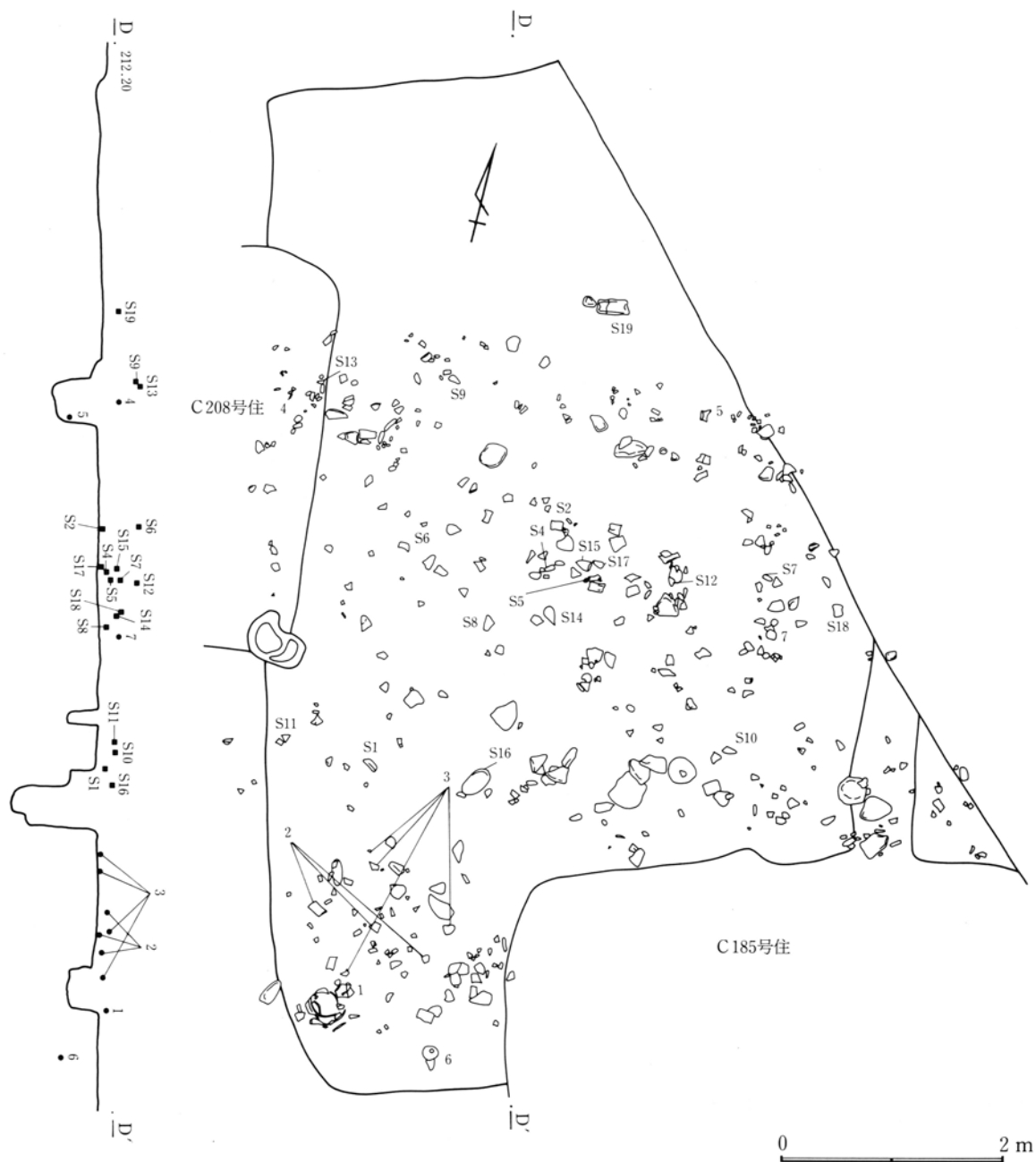
第225図 C173号住居跡炉



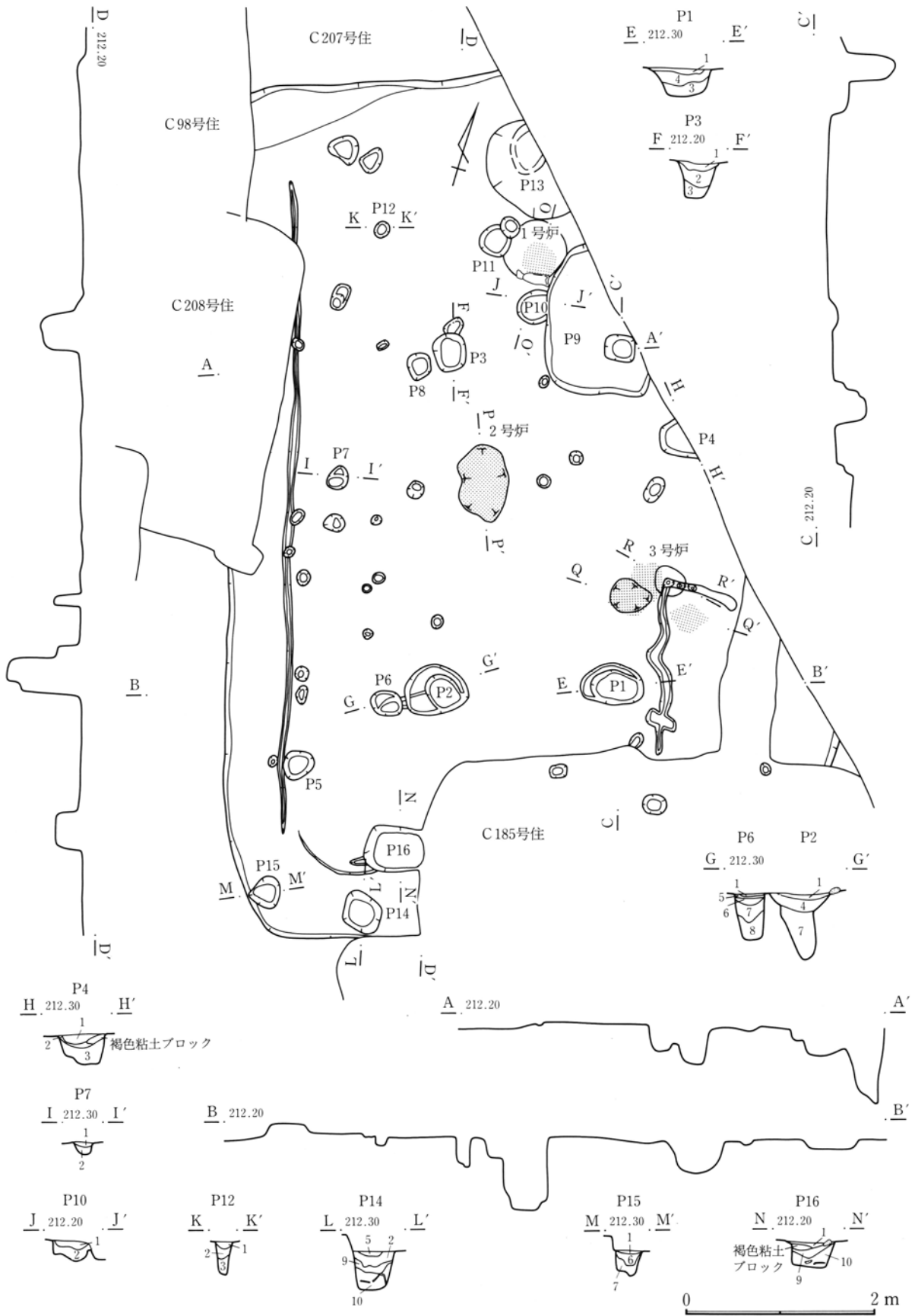
### 第3章 遺 構

**出土遺物** かなり上層から遺物の出土が見られ、完形に近い壺、甕、高坏、ミニチュア土器等の他紡錘車が2点出土している。

**調査所見** 隅丸正方形で切られている部分を除き、遺存状態は良い。炉が東寄りに作られており、やや稀な例である。



第226図 C180号住居跡(1)



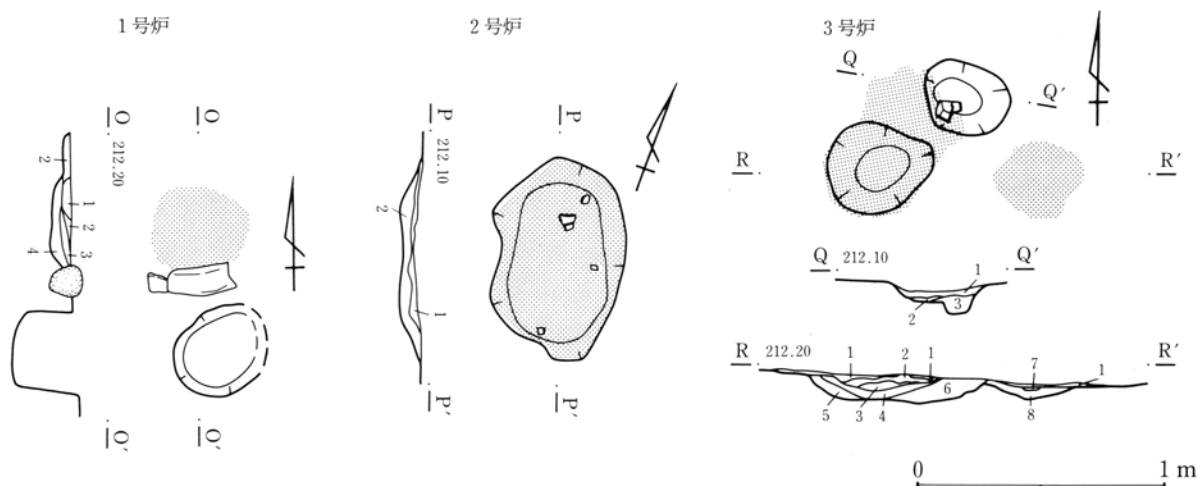
第227図 C180号住居跡(2)

### 第3章 遺 構

P 1～4・6・7・12・14～16

- 1 黒褐色土 砂礫かなり含み、硬く締まる。若干の微細炭化物混入。
- 2 暗褐色土 炭化物わずかに含む。礫をほとんど含まず、比較的均質。
- 3 暗褐色土 砂質土かなり含み、もろく崩れ易い。炭化物若干混入。
- 4 黒褐色土 若干の小礫と褐色粘性土含む。炭化物及び焼土少量含む。
- 5 黄褐色土 褐色粘性土主体とする。均質でよく締まる。
- 6 暗褐色土 白色土粒わずかに混入。微細炭化物少量含む。

- 7 暗褐色土 6に似るが、より黄色味強く均質。砂質土少量含む。
  - 8 暗褐色土 7に似るが、砂質土の混入少なく、弱い粘性持つ。
  - 9 暗褐色土 褐色粘性土、及びわずかな炭化物含む。弱い粘性あり。
  - 10 黒褐色土 比較的均質でよく締まり、やや粘性あり。
- P10
- 1 黒褐色土 砂礫少量含み、硬く締まる。若干の微細炭化物混入。
  - 2 黒褐色土 1に比べ砂礫の混入多く、褐色粘性土若干含み不均質で、軟質。



1号炉

- 1 暗褐色土 砂礫ほとんど含まず、比較的均質。褐色粘性土若干含む。
- 2 黒褐色土 炭化物多量に含む。焼土わずかに混入。
- 3 赤褐色焼土 均質で硬く締まる。
- 4 赤褐色焼土 粗粒で、崩れ易い。

2号炉

- 1 黒色土 多量の炭化物、及び少量の焼土粒含む。
- 2 赤褐色土 焼土層。

3号炉 R-R'

- 1 暗褐色土 褐色粘性土と微細炭化物を若干含む。均質でさらさらした土。
- 2 黄褐色土 褐色粘性土主体とし、下部に多量の焼土含む。硬く締まる。
- 3 黒褐色土 炭化物少量、及び褐色粘性土含む。やや軟質。
- 4 赤褐色焼土 均質だが、軟らかく崩れ易い。
- 5 暗褐色土 砂質で軟らかく、崩れ易い。
- 6 暗褐色土 若干の焼土と斑状の褐色粘性土含む。
- 7 明赤褐色焼土 均質で締まる。
- 8 赤褐色焼土 砂質で細粒で軟らかい。

3号炉 Q-Q'

- 1 暗褐色土 かなりの焼土粒と少量の炭化物含む。きめ細かく、締まり良。
- 2 黒色炭化物層 若干の小礫含む。
- 3 黄褐色土 褐色粘性土。

第228図 C180号住居跡炉

## C194号住居跡（第235・528図 PL. 41・192）

位置 Cd-26 形状 不明 規模 長辺(4.40)m、短辺(3.0)m、壁高0m

重複 調査区の南東隅に位置する。C185号住居跡(弥生時代)の上位に重複するが、調査時には、はっきりと認識できずに、炉、わずかに床面らしき面をかりうじて認めたにすぎない。

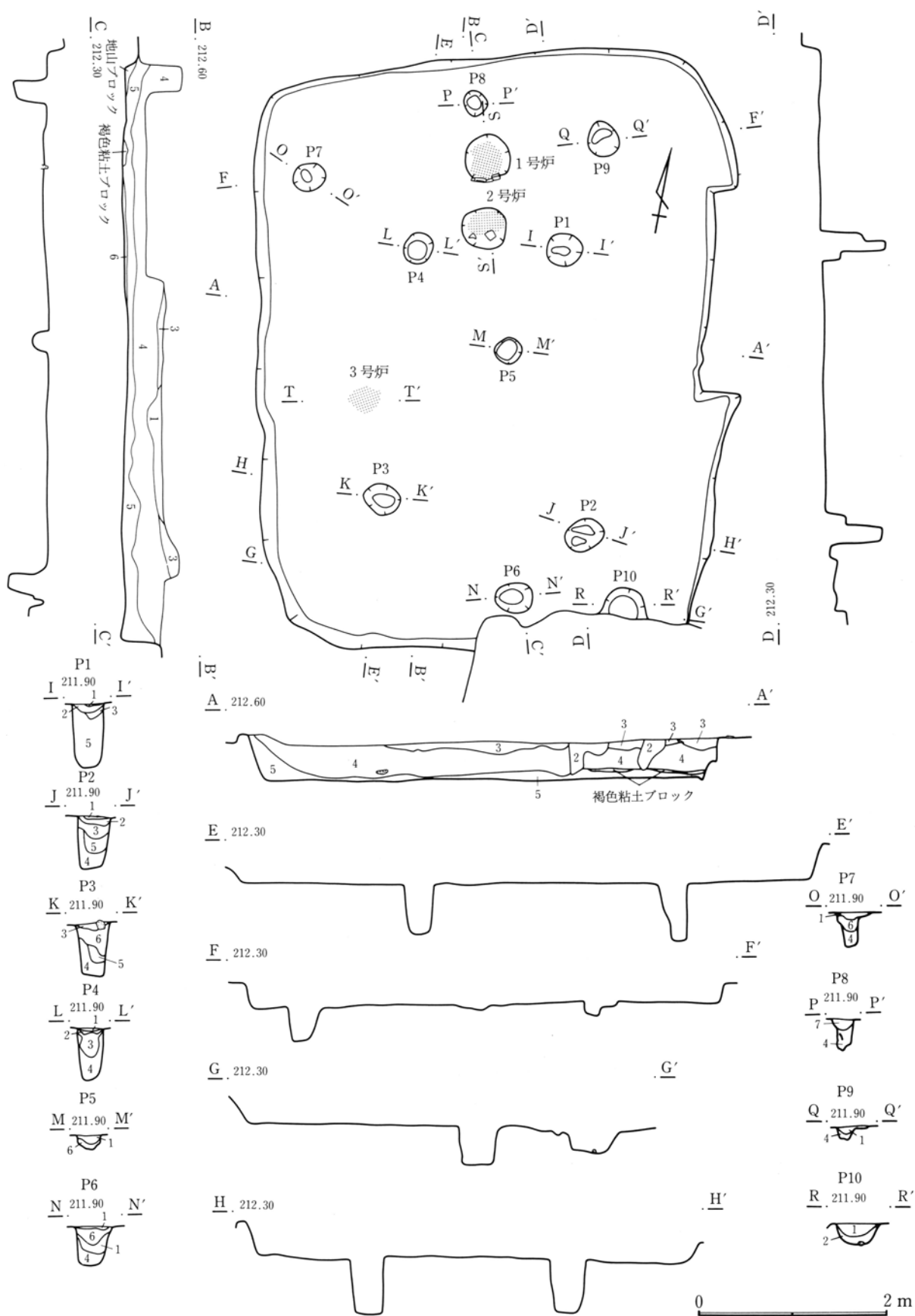
埋没土 黒味を帯びた粘質土で埋まるが、範囲は明確でない。 床面 炉のある部分にわずかに締まった面を検出したにとどまった。 貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 炉 長さ約30cm、幅10cmの河原石が据えられ、北側に焼土が認められた。

出土遺物 東壁際で若干の土器片の集中が見られた。

調査所見 他住居の覆土中に作られており、壁の立ち上がり、範囲は確認することができなかった。また、ほとんどが調査区外となるために規模をはじめ全容は不明である。



第229図 C185号住居跡(1)



第230図 C185号住居跡(2)

- 1 黒褐色土 小礫及び As-A を多量に含む。耕作土。
- 2 黒褐色土 小礫、灰白色粒子、褐色粒子多く含まれる。
- 3 黒褐色土 小礫多く含まれる。褐色土粒多く、全体にやや淡い色調。
- 4 黒褐色土 小礫多く含まれる。褐色、灰白色粒子多量。
- 5 黒褐色土 小礫やや多く含まれ、やや粘性のある褐色土塊が見られる。ただし、壁際に近付くにつれて小礫の含入多い。
- 6 黒褐色土 炭を多く含み、殆ど黒色に近い。締まりがあり、やや粘性のある部分もある。

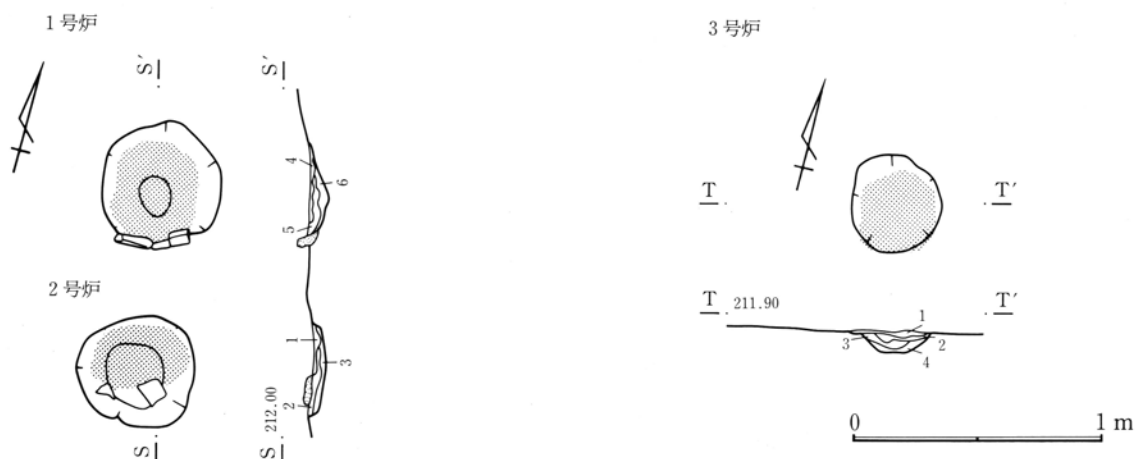
P 1 ~ 9

- 1 黒褐色土 小礫かなり含み、硬く締まる。炭化物少量混入。

- 2 黄褐色土 褐色粘性土ブロック主体とする。若干の炭化物含み粘性あり。
- 3 暗褐色土 礫の混入少なく、比較的均質。白色土粒、及び微細炭化物わずかに含む。
- 4 暗褐色土 かなり粘性あり、微細炭化物わずかに含むが、均質でよく締まる。
- 5 黄褐色土 褐色粘性土主体。粘性あり。
- 6 暗褐色土 3 に似るが、褐色粘性土を斑状に含み、より粘性強い。
- 7 暗褐色土 砂礫少量含む。微細炭化物混入。

P 10

- 1 黒褐色土 少量の小礫含み、炭化物混入。
- 2 黒褐色土 砂礫の混入少なく、地山褐色粘土ブロック、炭化物多く含み、粘性強い。



1・2号炉

- 1 黒褐色土 焼土、微細炭化物少量含む。砂質でさらさらした土。
- 2 明赤褐色焼土 粗粒で粘性なし。
- 3 暗褐色土 焼土と微細炭化物を少量含む。やや粘性があり。均質でよく締まる。
- 4 黒褐色土 1 に似るが炭化物の混入より多い。
- 5 明赤褐色焼土 砂礫を少量含む。褐色粘性土ブロックわずかに混入。
- 6 暗褐色土 3 に近似。

3号炉

- 1 黒褐色土 炭化物、及び小礫少量含む。焼土の混入わずか。
- 2 明赤褐色土 焼土層、硬く締まる。
- 3 赤褐色土 焼土を主体とするが、若干の褐色粘性土、砂礫を含み締まる。
- 4 黄褐色土 褐色粘性土を主体とする。若干の砂礫及びわずかな微細炭化物混入。

第231図 C185号住居跡炉

## C197号住居跡 (第236・529図 PL. 41・42・192)

位置 Ch・i-31 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.20m、短辺3.65m、壁高0.25m

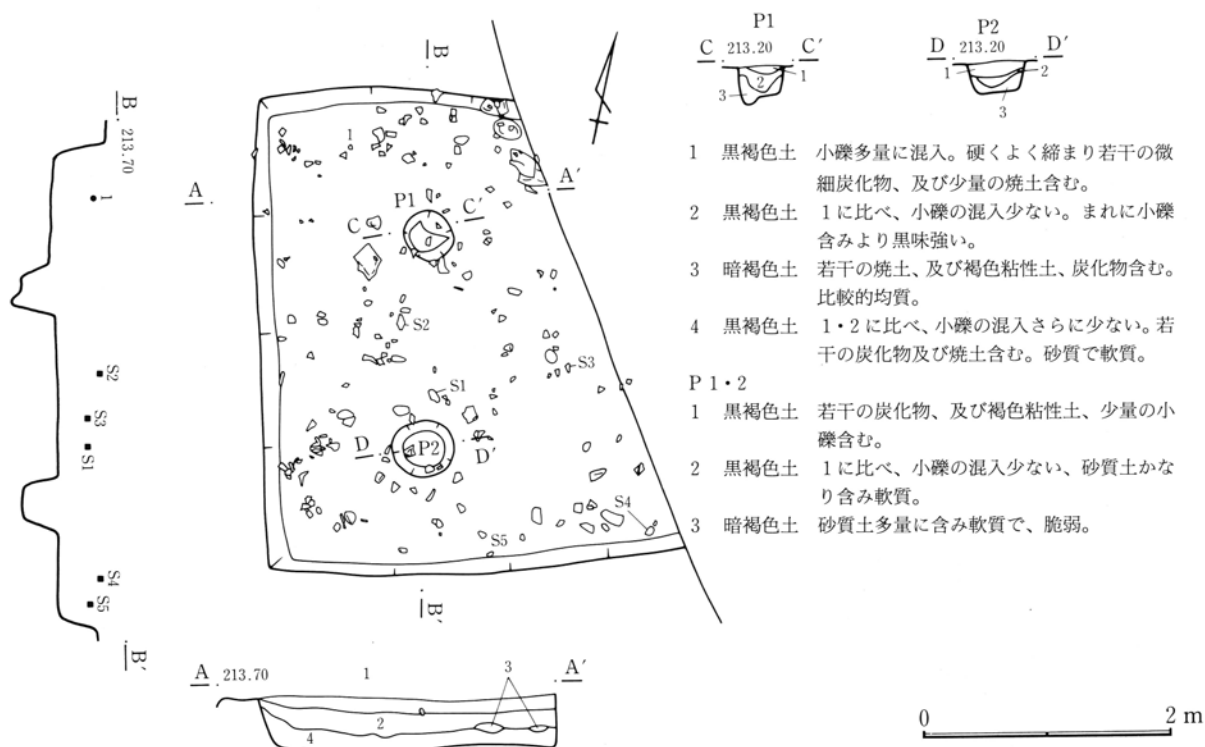
重複 西側半分をC62号住居跡(古墳時代)に切られる。また北東隅は調査区外となる。

埋没土 砂礫土で、若干の炭化物が混入する。床面 平坦であるが軟質で地山土が露出した状態である。

貯蔵穴 明確には検出できなかった。柱穴 ピット4本を検出したが柱穴として判断できなかった。

炉 検出されなかった。出土遺物 P4内において高坏の坏部が伏せられた状態で出土している。その他には土器類はほとんど見られなかった。

調査所見 重複により壊された部分が多く、遺存状態は悪い。土器の出土も少なく炉も検出されなかった。



C198号住居跡 (第237図 PL. 42)

位置 Cf-29 形状 隅丸長方形 規模 長辺不明、短辺3.63m、壁高0.20m

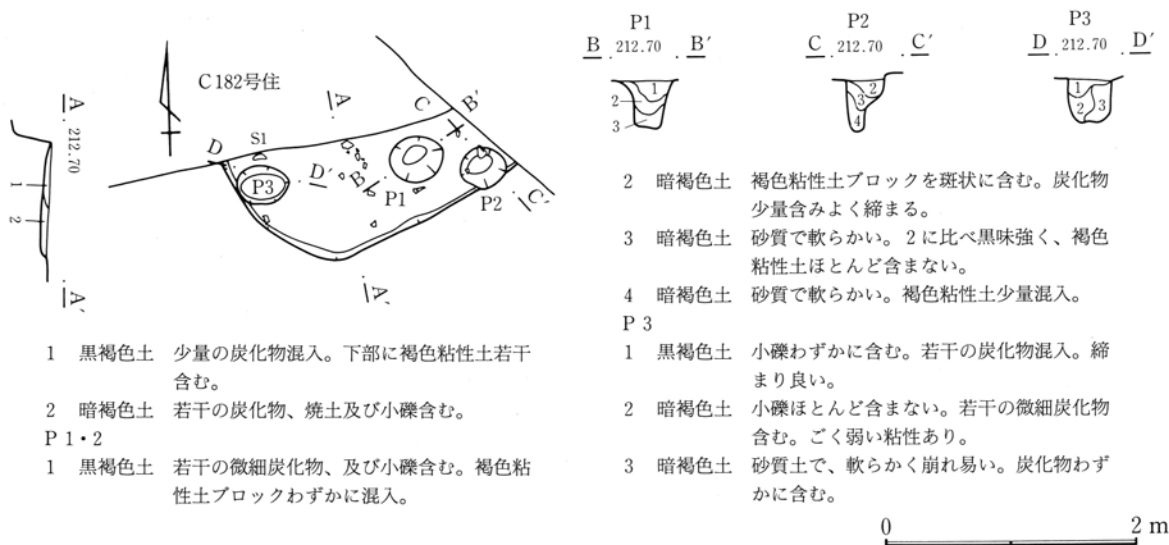
重複 西側をC70号住居跡（古墳時代）、C184号住居跡（平安時代）に、東側はC98号住居跡（古墳時代）によって大きく切られている。 埋没土 礫を混入する砂礫土で埋まる。

床面 部分的に残った面は平坦で、比較的締まる。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 P1が北壁寄りに検出されているのみである。 炉 検出されなかった。

出土遺物 わずかに依存する北東部分で小片がわずかに見られたのみである。

調査所見 重複による削平が著しく、遺存状態は極めて悪い。主軸を東西方向にとる小型の住居である。



C 199号住居跡 (第238・530図 PL. 42)

位置 Ci-30 形状 不明 規模 長辺不明、短辺不明、壁高0 m

重複 東側は調査区外であり、西側はC 197号住居跡 (弥生時代) に切られ、わずかに残った三角形の部分を  
検出した。 埋没土 小礫含む黒褐色土で埋まる。 床面 平坦で締まりは良い。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 壺の口縁部片が出土している。

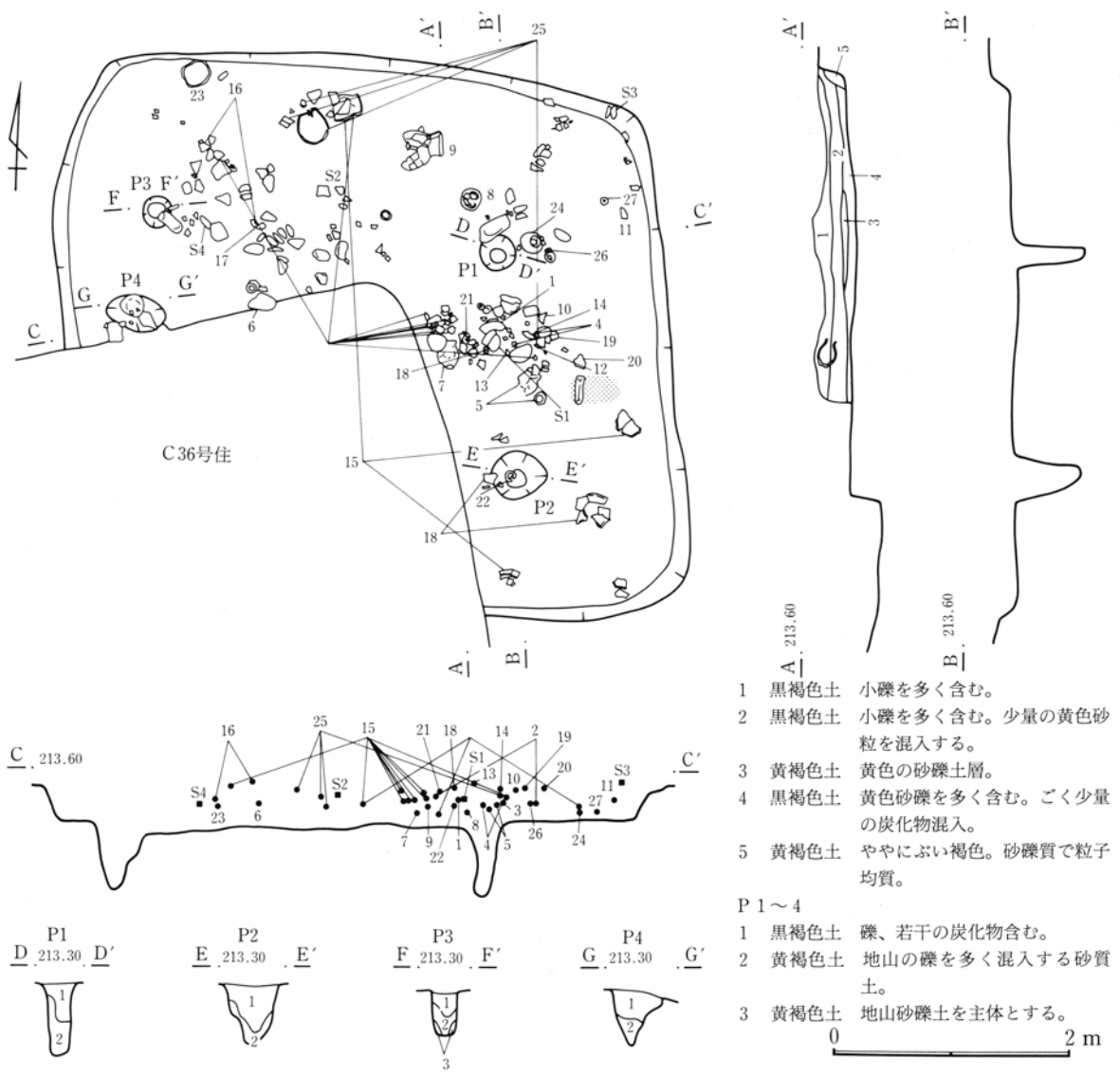
調査所見 検出されたのは南壁側の三角形部分のみで、住居の全容は不明である。

C 200号住居跡 (第239~241・531・532図 PL. 42・192・193・280)

位置 Ck-32・33 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.39m、短辺(5.0)m、壁高0.41m

重複 調査区東壁に掛かり、東側約半分は未調査である。また、南東部分にC 186号住居跡 (弥生時代) が重  
複する。 埋没土 砂礫、若干の炭化物が含まれる。 床面 平坦で締まりよい。

貯蔵穴 検出されなかった。



第234図 C 192号住居跡

**柱穴** 近接して3本のピットが検出されたが、主柱穴と判断されるのは南西部分に位置する。

**炉** 住居の南西部に位置する。P 1とP 2の間にあり、長さ35cmの河原石が据えられ、西側がわずかに窪み、東側に径30cm程の焼土の広がりが見られる。

**出土遺物** 壺、甕、高坏、鉢等がかなり上層で出土している。

**調査所見** 調査区の東端にあり東側半分は未調査である。壁高は60cm以上を測り、遺存状態は比較的良好。遺物は住居中央部分に多く見られ、上層から出土するものが多かった。

#### C 201号住居跡 (第242・243・533図 PL. 42・281)

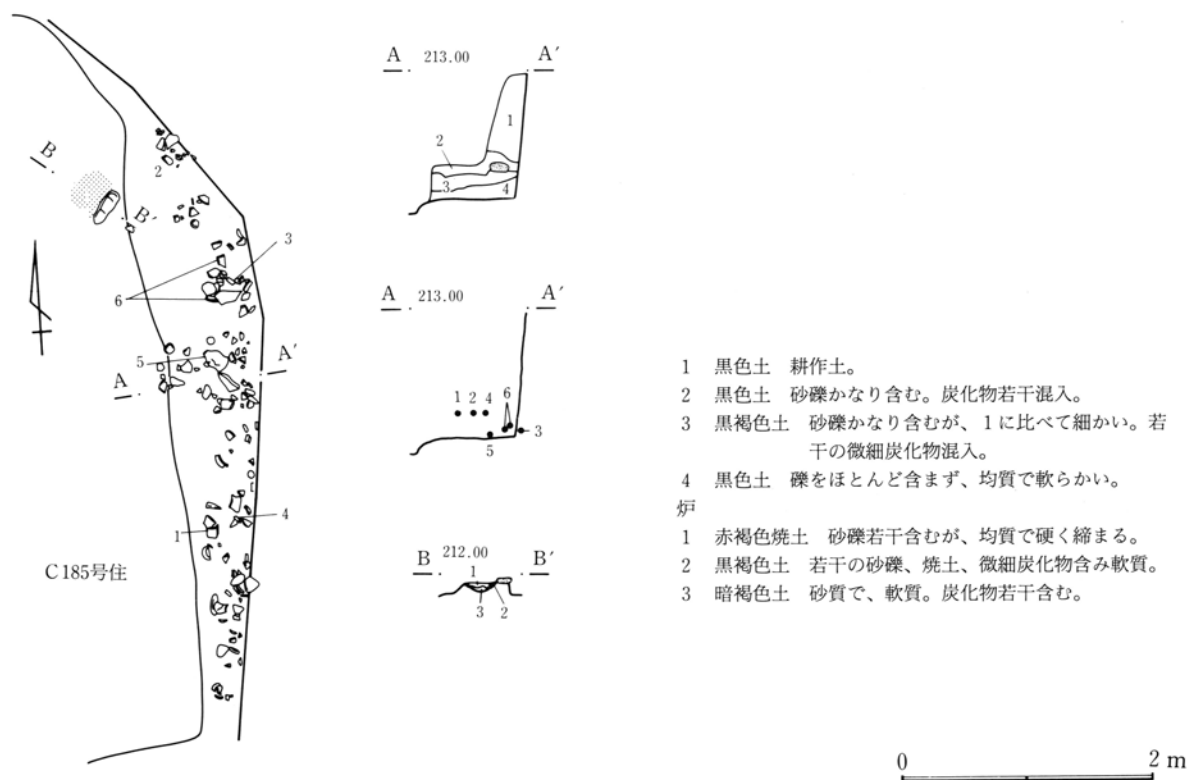
**位置** Cg-29 **形状** 不明 **規模** 長辺(4.20)m、短辺不明、壁高 0 m

**重複** 調査区の東壁に掛かる。西側部分にC 183号住居跡(平安時代)、C 95号住居跡(弥生時代)が重複し、南にはC 182号住居跡(平安時代)が重複する。 **埋没土** 小礫、炭化物の混入が見られる。

**床面** 平坦であるが、あまり締まりは良くない。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 南壁寄りP 1が検出されたのみである。 **炉** ほぼ中央に、円形に落ち込んだ焼土の堆積が確認されている。 **出土遺物** 炉およびピット周辺部分で若干の土器片が出土している。

**調査所見** 東側が未調査であり、さらに西側も切られているために遺存状態は極めて悪く、全容は不明である。



第235図 C 194号住居跡

## C 204号住居跡 (第244・534図 PL. 43・281)

位置 Cj-31・32 形状 不明 規模 長辺不明、短辺不明、壁高0.22m

重複 調査区の東壁に掛かり、南側は大きくC62号住居跡(古墳時代)に切られている。

埋没土 砂礫、微細炭化物、砂質土ブロックを混入する。 床面 平坦であるが締まりは弱い。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 北西にP1のみを検出。 炉 検出されなかった。

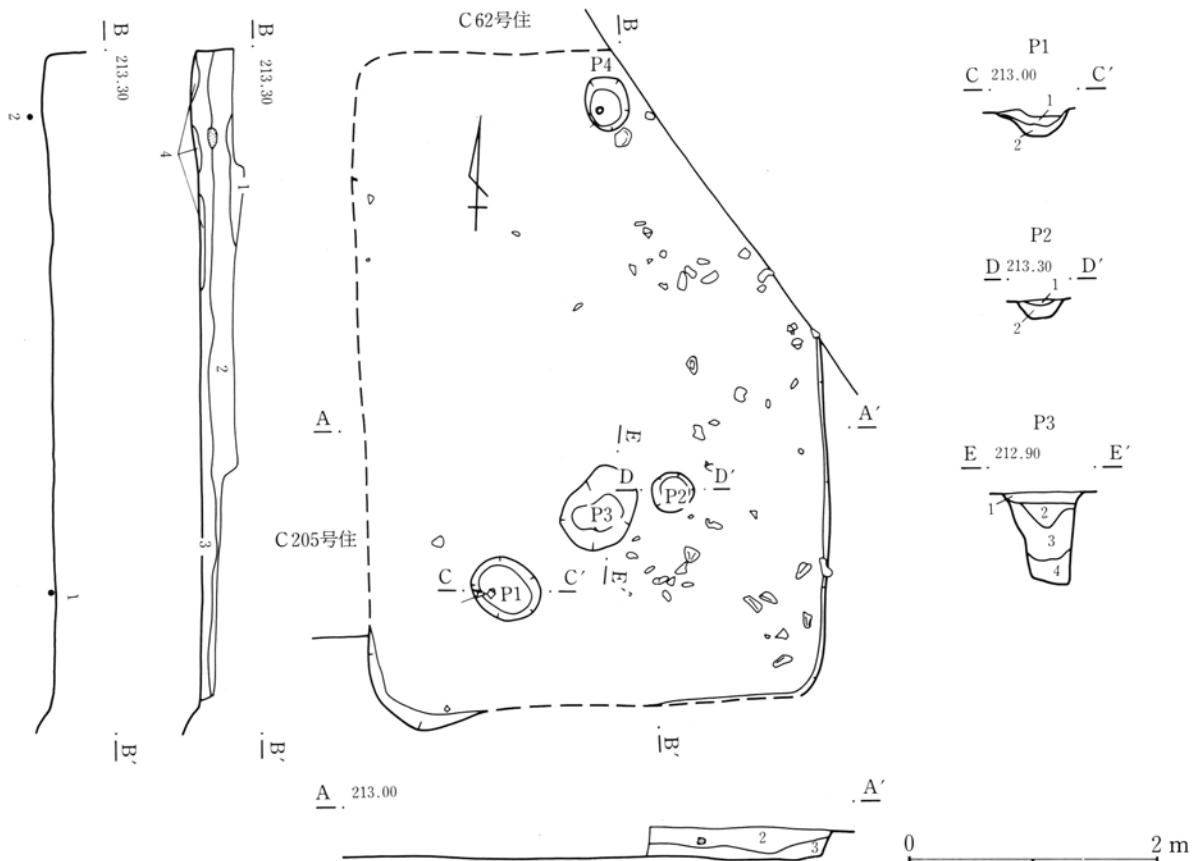
出土遺物 土器はほとんど検出されなかった。

調査所見 住居の北西隅部分のみの調査であり、出土遺物もほとんど無く、全容は不明である。

## C 205号住居跡 (第245・246図 PL. 43・281)

位置 Ci-31・32 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.47m、短辺4.80m、壁高0.21m

重複 C62号住居跡(古墳時代)の下に収まる形で検出した。このため、壁の立ち上がりはほとんど残っていない状況である。 埋没土 わずかに砂礫含む粗粒土が認められる。



- 1 黒色土 砂礫多量に含み、硬く締まる。
- 2 黒色土 1に比べ、黒味強く、砂礫の混入少ない。
- 3 黒褐色土 砂礫の混入さらに少なく、軟らかい。炭化物、及び褐色粘性土若干混入。
- 4 灰黄色土 基盤砂質土主体とし、軟らかく崩れ易い。

## P1・2

- 1 黒褐色土 若干の炭化物含む。礫あまり含まず、比較的均質で締まり良い。
- 2 黒褐色土 1に比べ黄色味強い。基盤の砂質土をブロック状に含み、締まり悪く、崩れ易い。

## P3

- 1 黒褐色土 砂礫かなり含む。やや締まり悪く崩れ易い。微細炭化物若干混入。
- 2 暗褐色土 黄褐色砂質土のブロックを少量含む。砂礫かなり含む。
- 3 暗褐色土 2に比べ、砂質土ブロックの混入少なく、砂礫を少量含む。若干の微細炭化物混入。
- 4 暗褐色土 砂質土主体とし、褐色粘性土若干含む。比較的均質で軟らかく崩れ易い。

第236図 C197号住居跡

第3章 遺 構

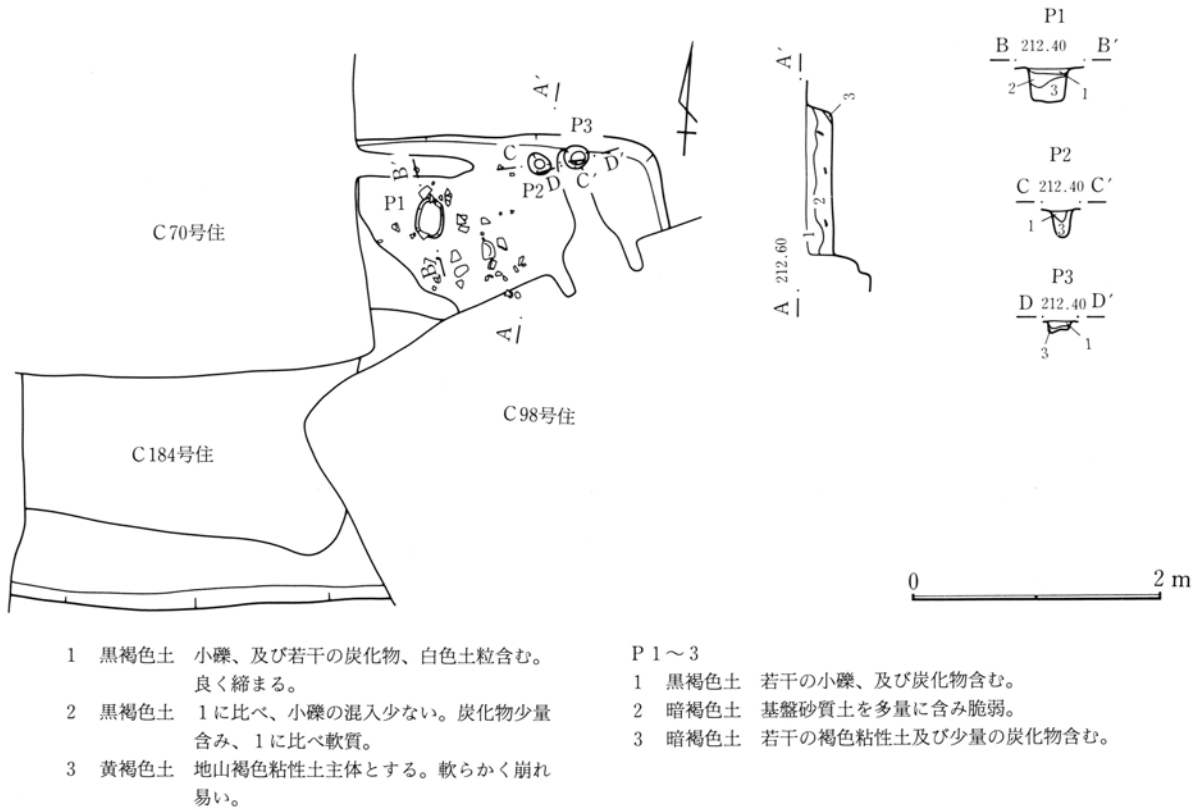
床面 やや凹凸が見られ、あまり踏みしめられた状況ではなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 対角線上に4本を検出した。

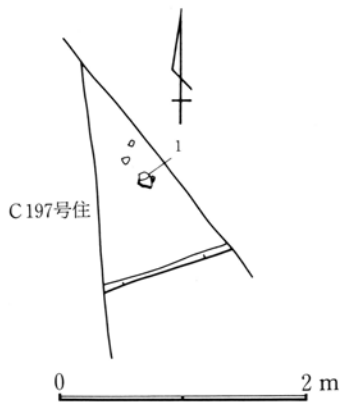
炉 北壁寄りに検出した。やや不定形な焼土の広がりをも認めた。

出土遺物 ほとんど検出されなかった。

調査所見 上部をほとんど削られており、遺存状況は良くない。



第237図 C198号住居跡



第238図 C199号住居跡

C 207号住居跡 (第247・248・535図 PL. 44・193・281)

位置 Cf-28 形状 不明 規模 長辺不明、短辺不明、壁高0.31m

重複 調査区の南東部分にある。西側にC 98号住居跡(古墳時代)が、北側にC 179号住居跡(古墳時代)が重複し、南側はC 180号住居跡(弥生時代) C 208号住居跡(弥生時代)が重複している。

埋没土 砂礫多く含み、粘性土のブロックを混入する。 床面 平坦で締まりはない。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 中央南北に2本を検出した。

炉 中央やや西寄りに作られる。長さ約20cmの河原石が据えられ、円形の浅い掘り込みに焼土を伴っている。

出土遺物 少ないが、壺の口縁部片、高坏、ミニチュア土器が出土している。

調査所見 切り合いのために遺存状態は良くない。主軸方向を東西にとるやや小型の住居である。

C 208号住居跡 (第249・250・536図 PL. 44)

位置 Ce-28・29 形状 隅丸長方形 規模 長辺(3.37)m、短辺2.82m、壁高0.33m

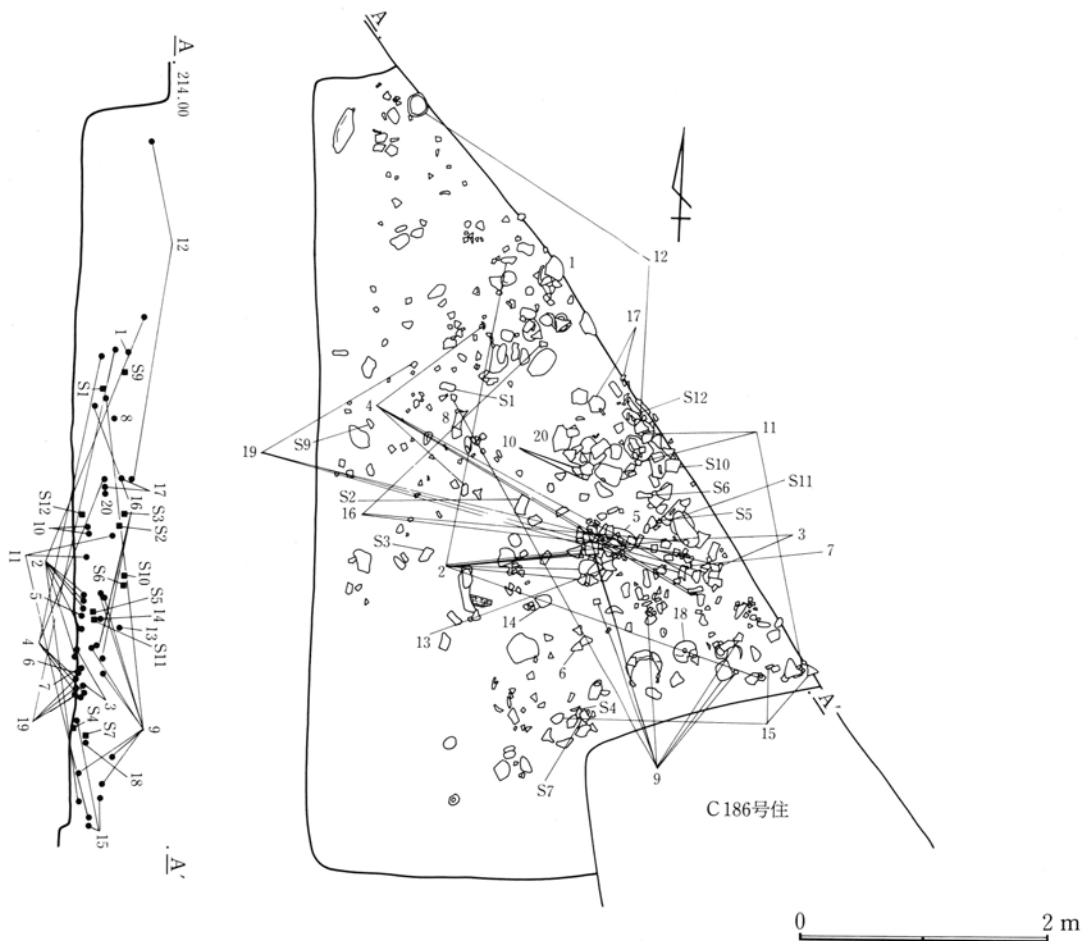
重複 北西部分にC 98号住居跡(古墳時代)が重複する。

埋没土 砂礫と粘性土の混土層主体。 床面 凹凸が見られ締まりはない。

貯蔵穴 南東隅に検出された。やや壁外にオーバーハングしており、甕の胴下半部が出土している。

柱穴 明確なものは検出されなかった。

炉 中央やや北寄りに作られる。楕円形に焼土が確認されている。



第239図 C 200号住居跡(1)

**出土遺物** 貯蔵穴内で出土した1点のみで、他にはほとんど見られなかった。

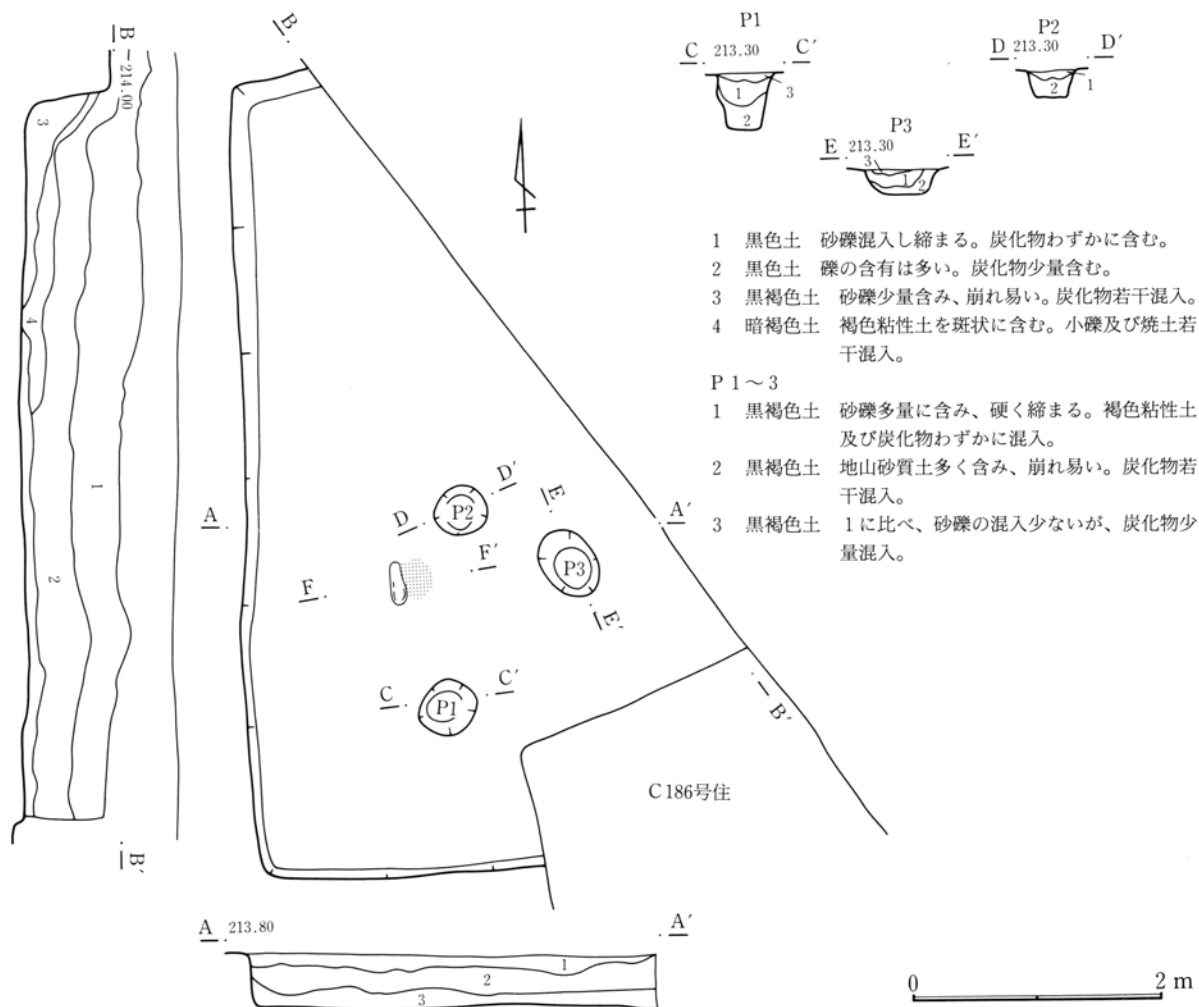
**調査所見** 重複で遺存状態は悪い。小型の住居で南辺がやや広がる台形を呈す。

# C213号住居跡 (第251図 PL. 44・282)

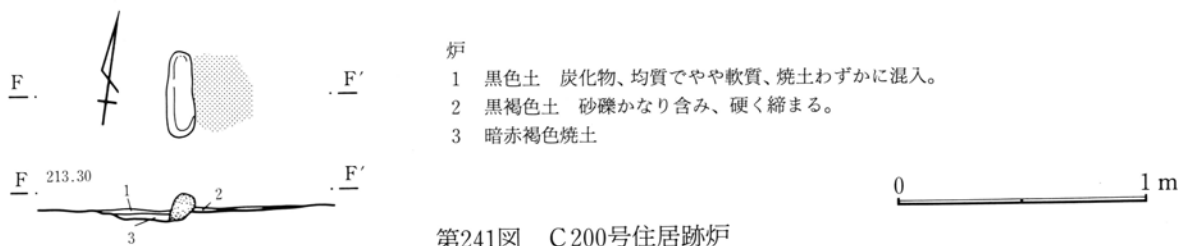
**位置** Ch-44 **形状** 不明 **規模** 長辺不明、短辺不明、壁高0.15m

**重複** 南側をC167号住居跡(平安時代)、C177号住居跡(奈良時代)に切られており、西側部分に関しては削平されている。 **埋没土** 細砂粒、黄色粒子の混入目立つ。

**床面** 確認できたのは東部分のみである。若干の凹凸があり、地山が露出する。



第240図 C200号住居跡(2)



第241図 C200号住居跡炉

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。

出土遺物 ほとんど見られない。

調査所見 北東の隅部分のみを検出。炉、柱穴等の検出もなかった。住居とするにはやや疑問も残る。

C218号住居跡 (第252図 PL. 44)

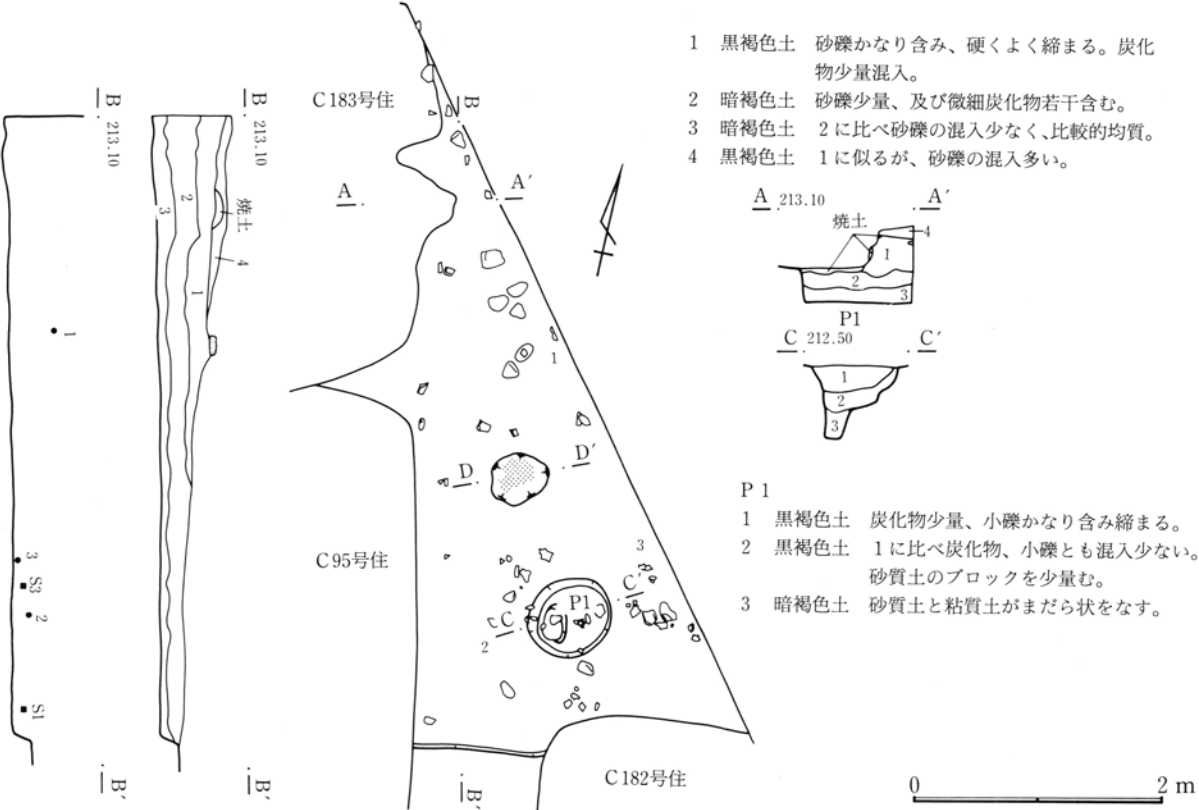
位置 Ck・1—35 形状 不明 規模 長辺不明、短辺2.61m、壁高0.11m

重複 東にC217号住居跡(平安時代)が重複している。

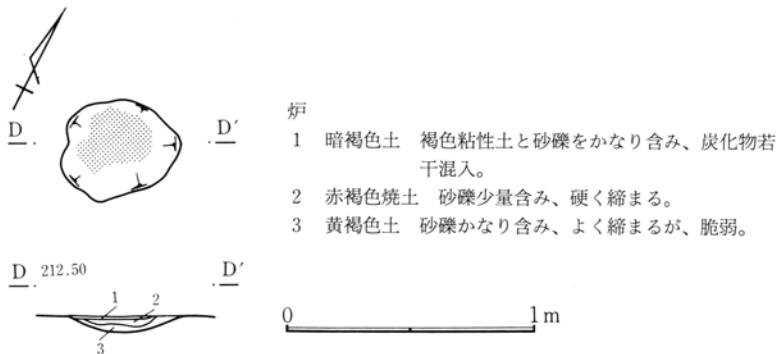
埋没土 礫を多く含む粗粒土で埋まる。

床面 比較的平坦であるが、踏みしめられた状況はみられなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。



第242図 C201号住居跡



第243図 C201号住居跡炉

**出土遺物** 検出されなかった。

**調査所見** 小型の住居で、東側は平安時代の住居で切られる。柱穴、炉等は検出されず住居としたが土坑の可能性もある。

#### C224号住居跡（第253・254図 PL. 45・282）

**位置** Ci-39・40 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(5.63)m、短辺4.28m、壁高0.09m

**重複** 北側にC196号住居跡（奈良時代）が、南西部分にC215号住居跡（古墳時代）が重複する。

**埋没土** 黄色小礫多く含まれる。 **床面** やや南に傾斜し、中央部分は比較的良く残るが、北側重複部分はかなり荒れている。 **貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 炉周辺に4本を検出したが、位置的にずれている。

**炉** 中央北寄りに作られる。楕円形に窪み、中央に割れた河原石が据えられている。北側に焼土が見られる。

**出土遺物** きわめて少ない。

**調査所見** 北側と南側を重複により削られており遺存状態は悪い。北側部分は壁の立ち上がりも確認できなかった。

#### C225号住居跡（第255・256・537図 PL. 45・282）

**位置** Ck-1-43・44 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺5.60m、短辺5.41m、壁高0.22m

**重複** 北側3分の1程の部分にC243号住居跡（古墳時代）が重複する。

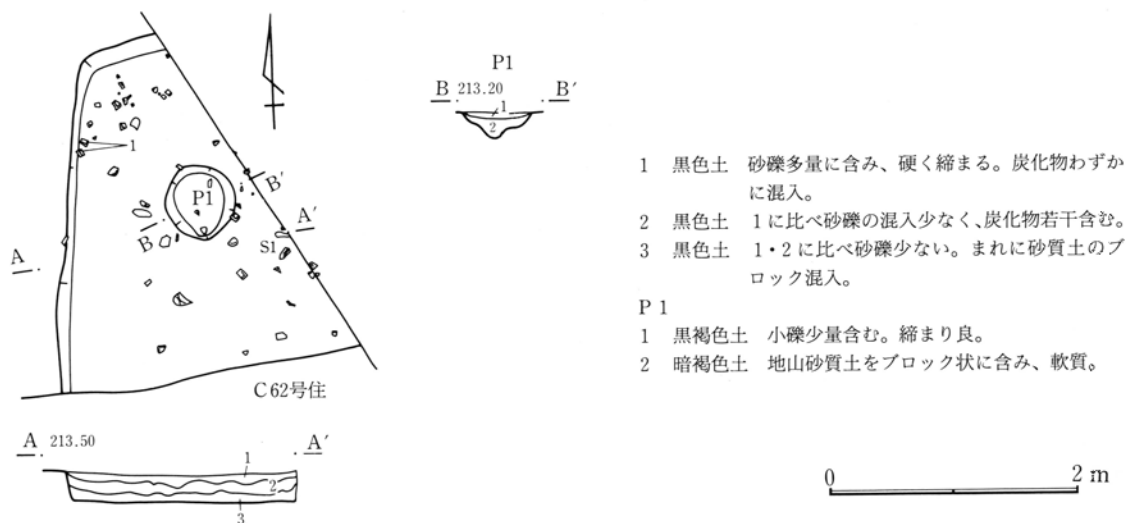
**埋没土** 礫を多く含む粗粒土。 **床面** やや軟質であるが比較的平坦で、面としては、はっきりとしている。 **貯蔵穴** 南壁中央に位置するP8が相当すると思われるが、断定しがたい。

**柱穴** 対角線に位置するP1～4を検出した。

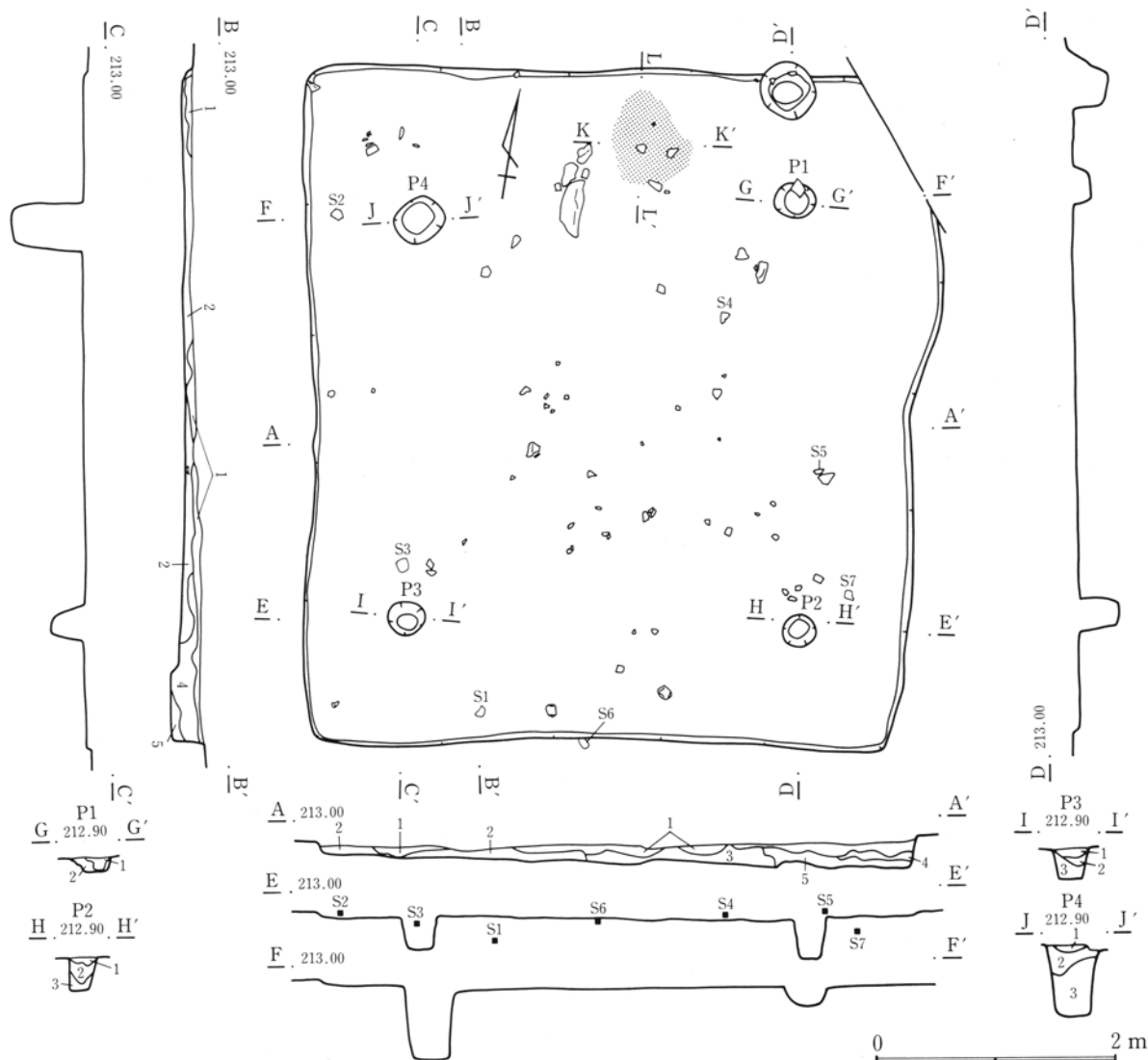
**炉** 2カ所検出した。

1号炉 住居北寄りに作られる。長さ約30cmの河原石を据え、北側に落ち込みと焼土を認めた。石は熱のためか2つに割れている。

2号炉 中央西よりに作られる。1号炉と同様に長さ約30cm程の河原石を据えた地床炉である。石の西側に焼土を伴った落ち込みが見られる。



第244図 C204号住居跡

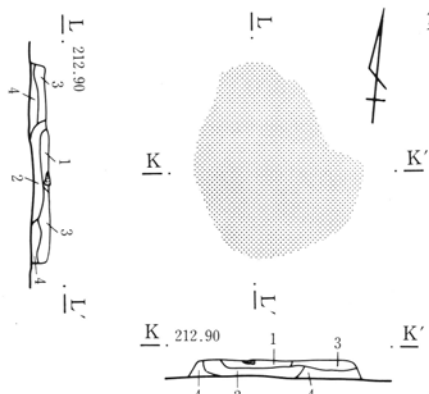


- 1 黒褐色土 砂礫を主体とし、もろく崩れ易い。黒色土ブロック斑状に含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を主体とし、もろく崩れ易い。黒色土塊わずかに含む。
- 3 暗褐色土 2に似るが、黒色土をより多く含む。
- 4 黒褐色土 砂礫少量含み、ややもろい。微細炭化物若干含む。1に比べ黒味強い。

- 5 暗褐色土 砂礫多量に含みもろいが、褐色粘性土ブロックをわずかに混入。

P1～4

- 1 黒褐色土 砂礫かなり含み、硬く締まる。
- 2 暗褐色土 基盤砂質土をブロック状に含み、不均質で締まり悪い。
- 3 暗褐色土 基盤砂質土を多量に含み、軟らかく崩れ易い。

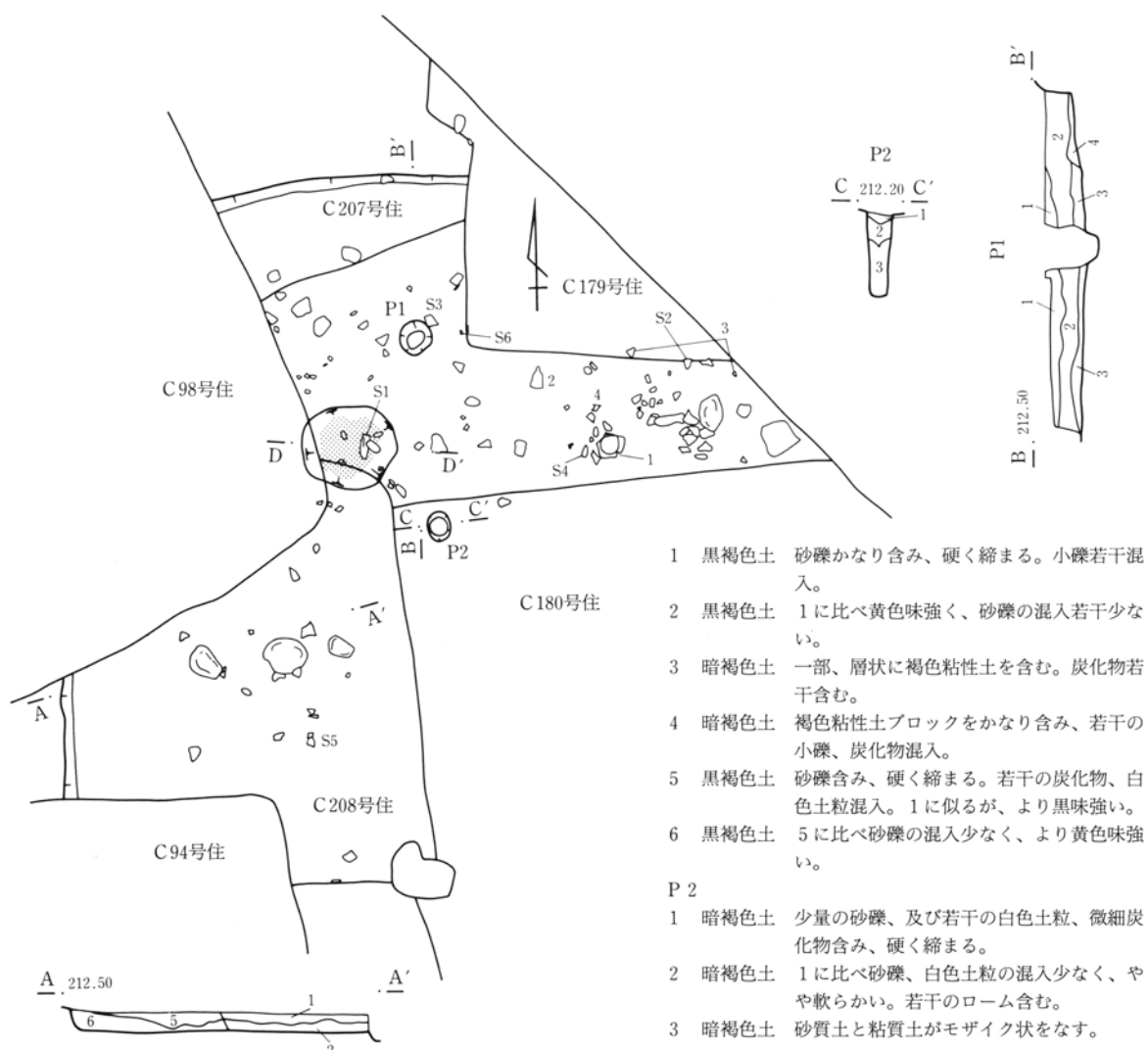


第245図 C205号住居跡

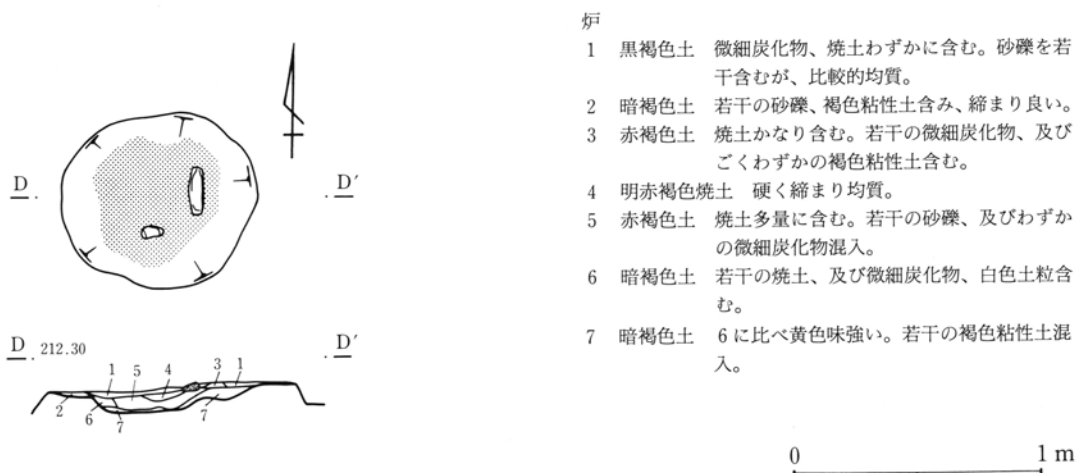
炉

- 1 明赤褐色焼土 まれに径1～2cmの小礫含む。
- 2 赤褐色焼土 比較的均質。粗粒で崩れ易い。
- 3 黒褐色土 若干の焼土、及び炭化物含む。
- 4 暗褐色土 砂礫かなり含む。不均質でもろい。

第246図 C205号住居跡炉



第247図 C207号住居跡



第248図 C207号住居跡炉

**出土遺物** わずかに壺、甕、高坏等の破片が出土している。

**調査所見** 北側に古墳時代の住居が重複しているが、重複部分もかろうじて炉周辺の床面が部分的に残る。

4本柱穴を有し、ほぼ正方形を呈す住居である。遺物は少なく、破片類がわずかに散見されたのみである。

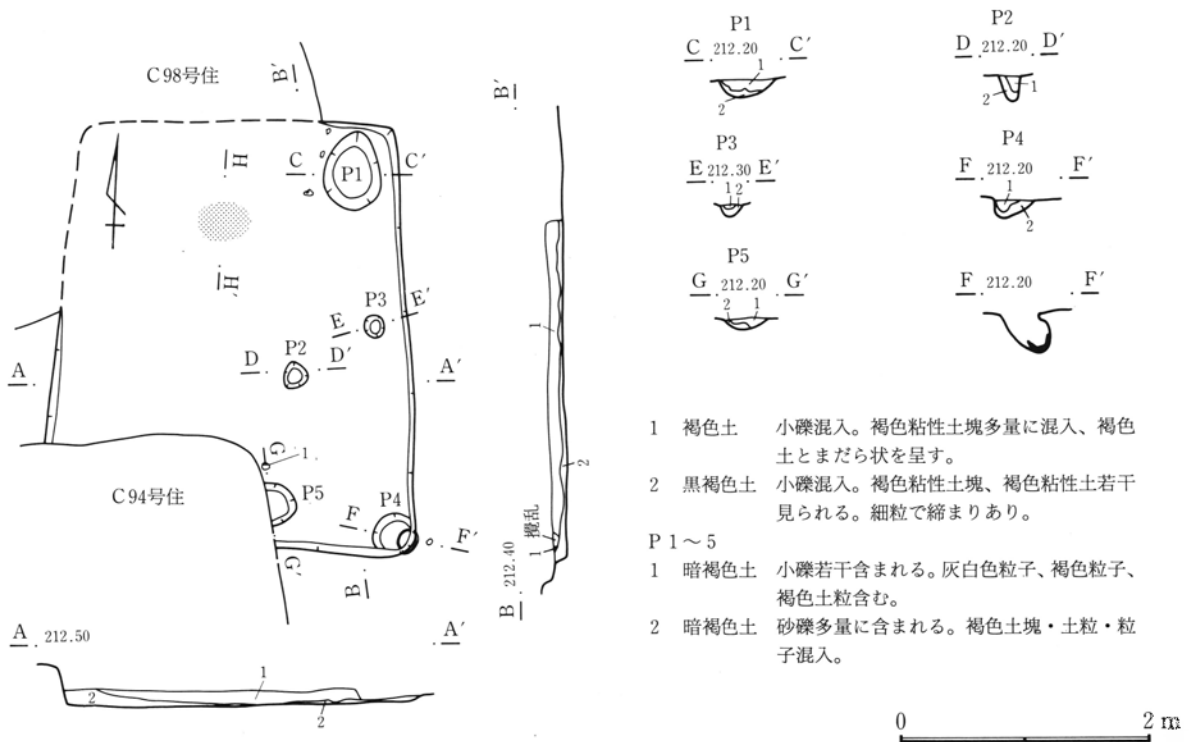
#### C227号住居跡（第257・258・538・539図 PL. 45・193・194・282・283）

**位置** Cn-40・41 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺(4.85)m、短辺4.18m、壁高0.39m

**重複** 調査区のほぼ中央にあり、南壁にはC241号住居跡（古墳時代）が掛かり、東壁北側部分にはC255号住居跡（古墳時代）が重複する。 **埋没土** 礫を多く含み、下層には焼土、炭化物の混入が見られた。

**床面** およそ平坦であるが、地山の礫を含む粘質土層が露出しており、明確に作られたような面は認められなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **柱穴** P1～4を検出、全体にわずかに東に偏して掘り込まれている。P3を除く3本は長軸方向が東西の楕円形を呈す。

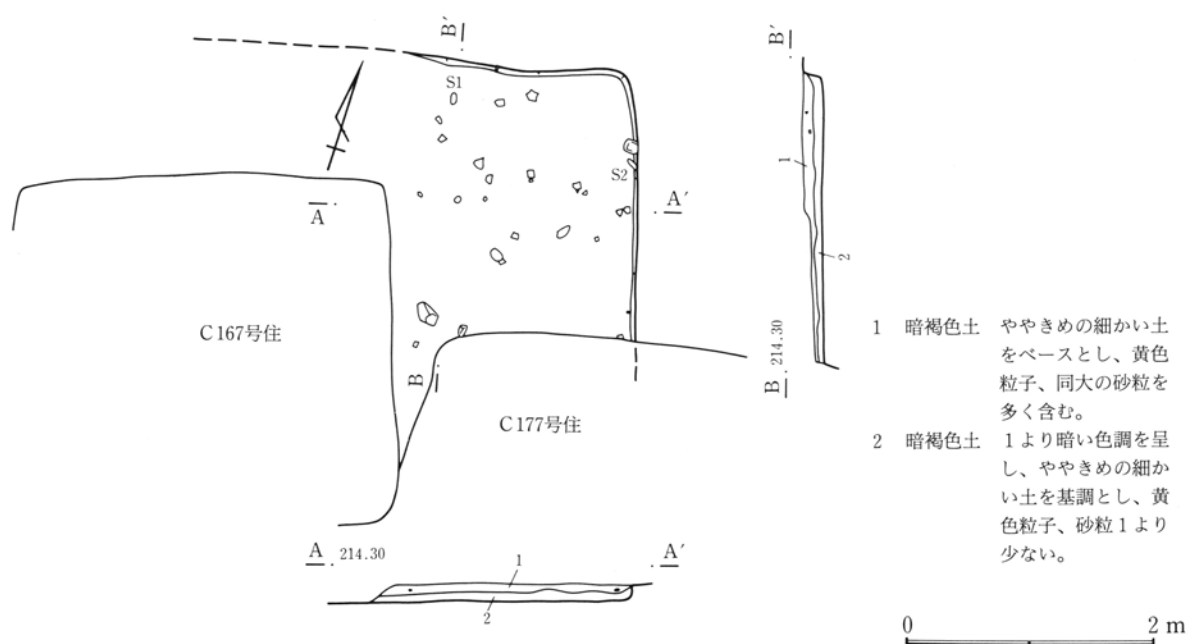
**炉** 住居の北寄り、P1と4の間に作られる。南北に掘られた不定型な落ち込みの南よりに、長さ25cm程の河原石が据えられる。石の北側に若干の焼土、炭の広がりが見られた。



第249図 C208号住居跡



第250図 C208号住居跡炉



**出土遺物** 炉の周辺部および南西壁際で比較的完形に近い状態の甕、壺、高坏、片口等が出土している。

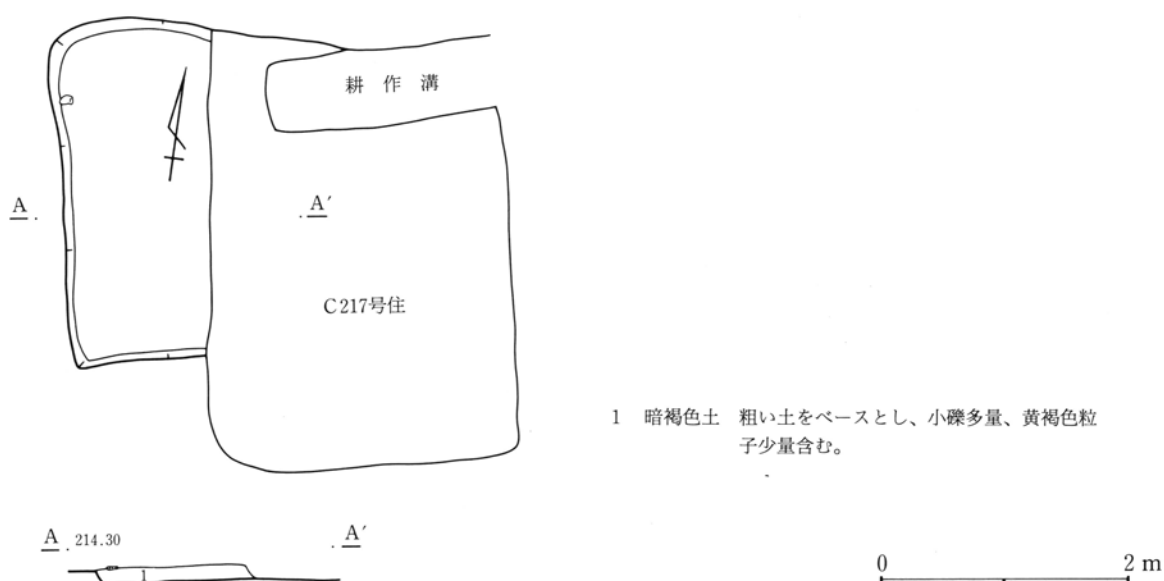
**調査所見** 南壁、東壁部分は重複があったものの全体的に遺存状態は良く、遺物の量も比較的多い。覆土床面等の状況から火を受けた可能性もある。

C231号住居跡（第259・260・540図 PL. 46・194・283）

**位置** Cl・m—35・36 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.88m、短辺5.20m、壁高0.42m

**重複** 調査区中央やや東寄りに検出した。北東隅をC219号住居跡（平安時代）に切られるが、そのほかは土坑等の重複はあるものの遺存状態は良い。 **埋没土** 小礫が多く含まれ、かなり地山土がブロック状に混入する。

**床面** 平坦で締まりが良い。礫を含む黒褐色土が中央部分を中心に貼り込まれた状況であった。

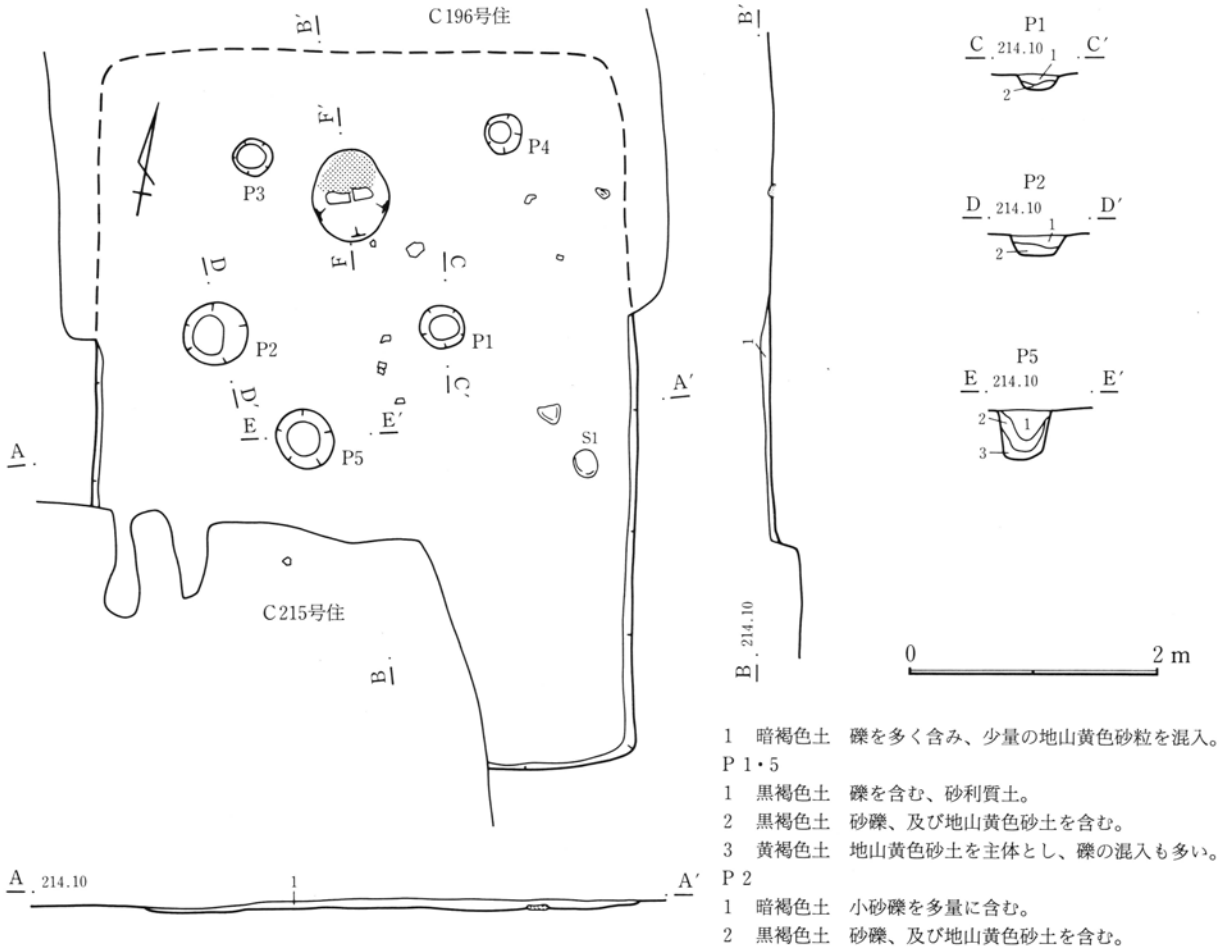


**貯蔵穴** 南壁際のやや西に寄った所に掘り込まれている。平面形は隅丸正方形を呈し、底部は狭くなる。深さは約30cmである。  
**柱穴** ほぼ対角線上に4本を検出した。径は約40cmで、深さはいずれも50cm程である。

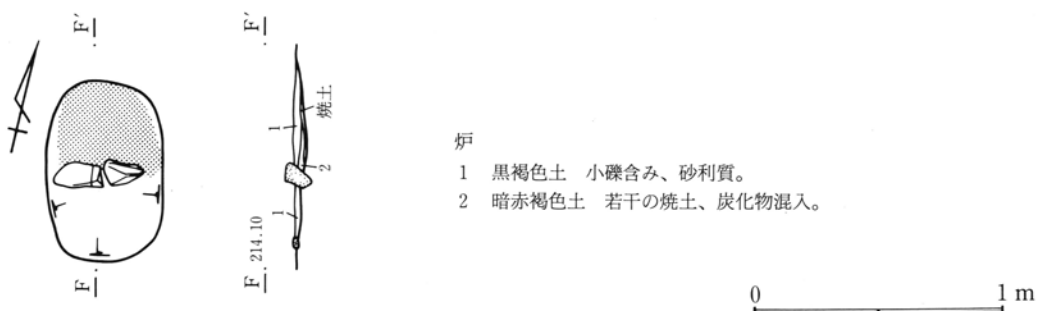
**炉** 北壁寄り、P1と4の間に作られる。楕円形に掘り下げられ長さ35cm程の扁平な砂岩が据えられ、北側に焼土が認められた。

**出土遺物** 散在していたが、南西部分にやや集中して検出されている。

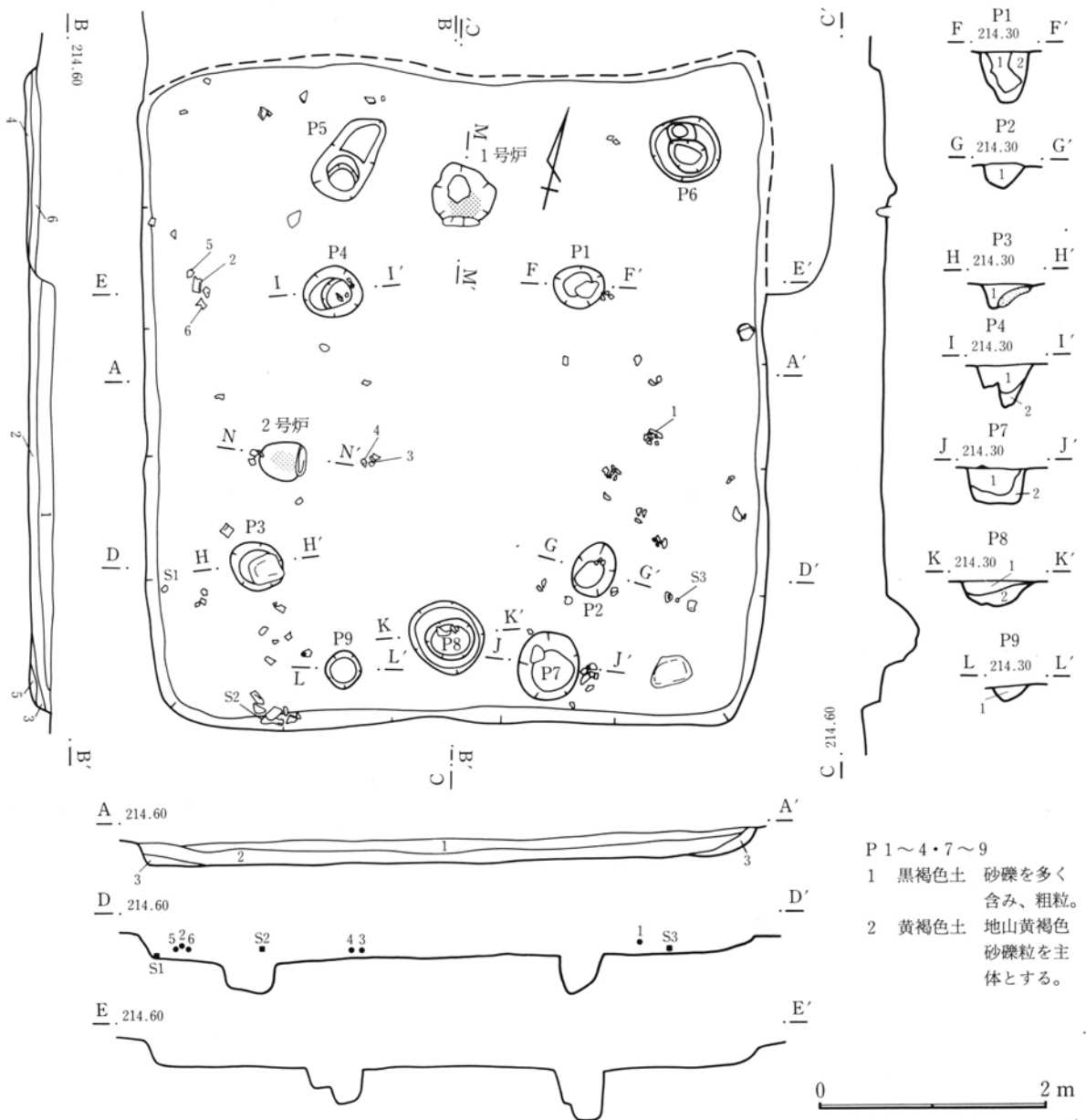
**調査所見** 遺存状態は良好で壁高も40cmを測る。平面形は正方形に近く、主軸を北にとる。



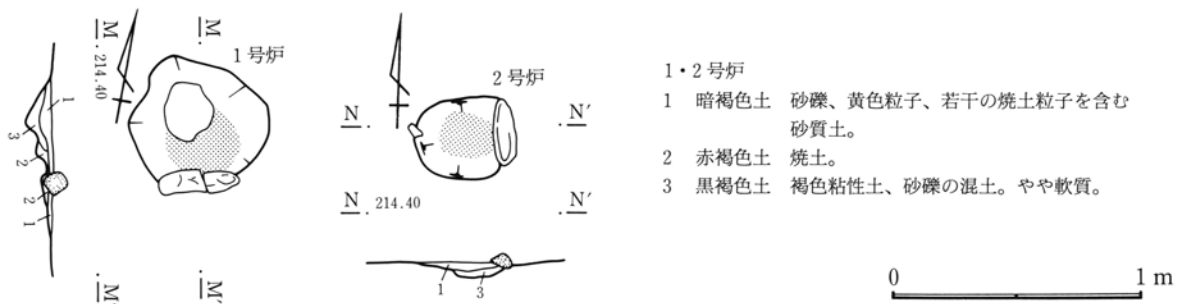
第253図 C224号住居跡



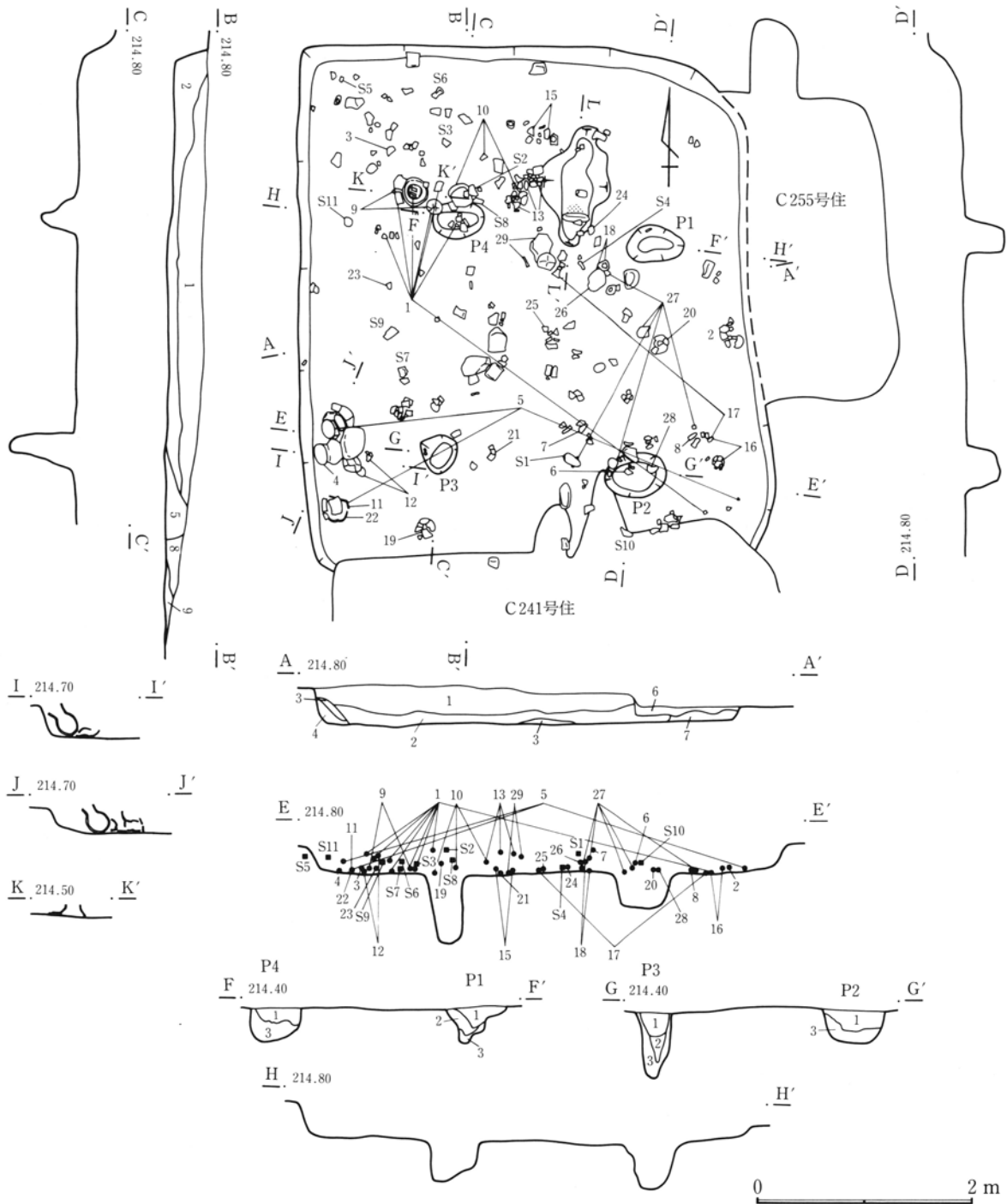
第254図 C224号住居跡炉



第255図 C225号住居跡



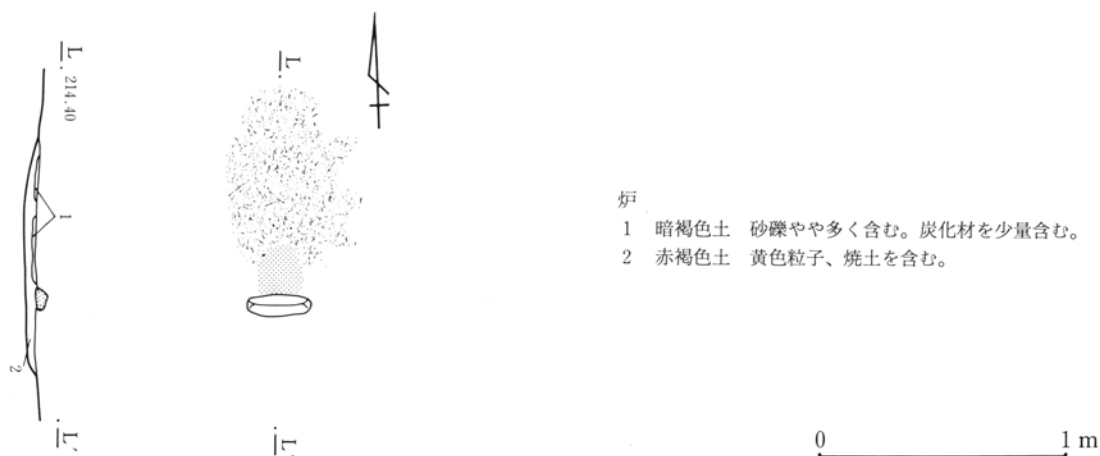
第256図 C225号住居跡炉



- 1 黒褐色土 角礫（1～3 cm）を多く含む。
- 2 黒褐色土 小礫含み、若干黄褐色の砂粒を混入。
- 3 淡褐色土 砂粒（黄色）を多く含む。
- 4 黒褐色土 砂粒（黄色）を若干含み、やや細粒。
- 5 黒褐色土 2 に似るが黒味強い。
- 6 黒褐色土 砂礫、褐色粘性土を含みやや締まる。
- 7 暗黄褐色土 砂礫、褐色粘性土を多く含む。
- 8 黄褐色土 褐色粘性土ブロック、焼土の混入。
- 9 黒褐色土 若干の褐色粘性土ブロック含む。少量の炭化物混入。

- P 1～4
- 1 黒褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。黄褐色粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 細かい土をベースとし、砂礫、黄褐色粒子を若干含む。
- 3 黄褐色土 やや砂質。黄褐色粒子多く含む。

第257図 C227号住居跡



第258図 C227号住居跡炉

C232号住居跡 (第261・262・541図 PL. 46)

位置 Cl-34 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.38m、短辺3.83m、壁高0.23m

重複 北西部分にC216号住居跡(平安時代)が重複し、中央を東西に幅約50cmの耕作溝が走る。

埋没土 小礫を多く含む粗粒土で埋まる。

床面 やや凹凸が見られるが、炉の周辺部分を中心に締まっている。

貯蔵穴 南西のコーナー近くに掘り込まれている。径は30cmとあまり大きくはない。

柱穴 P1～4を検出したが、P3は外側にずれて位置している。

炉 中央やや東よりに作られる。楕円形に浅く掘り下げられた中央部に長さ45cmの不定形に整形された砂岩が南北方向に据えられていた。

出土遺物 点数は少ない。壺、甕等の口縁部片が貯蔵穴周辺で出土している。

調査所見 遺存状態は比較的良かった。規模はやや小型で、主軸方向をほぼ東西にとる。

C234号住居跡 (第263・264・542図 PL. 46・195)

位置 Co-35・36・Cp-36 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.65m、短辺(4.0)m、壁高0.40m

重複 調査区の東端に検出されたが、東側の一部は調査区外となる。また、南東部分にはC238号住居跡(平安時代)が重複している。埋没土 礫を混入した粗粒土で焼土、若干の粘土ブロックを混入する。

床面 比較的細かな凹凸が全体に見られ、北側がやや上がっている。

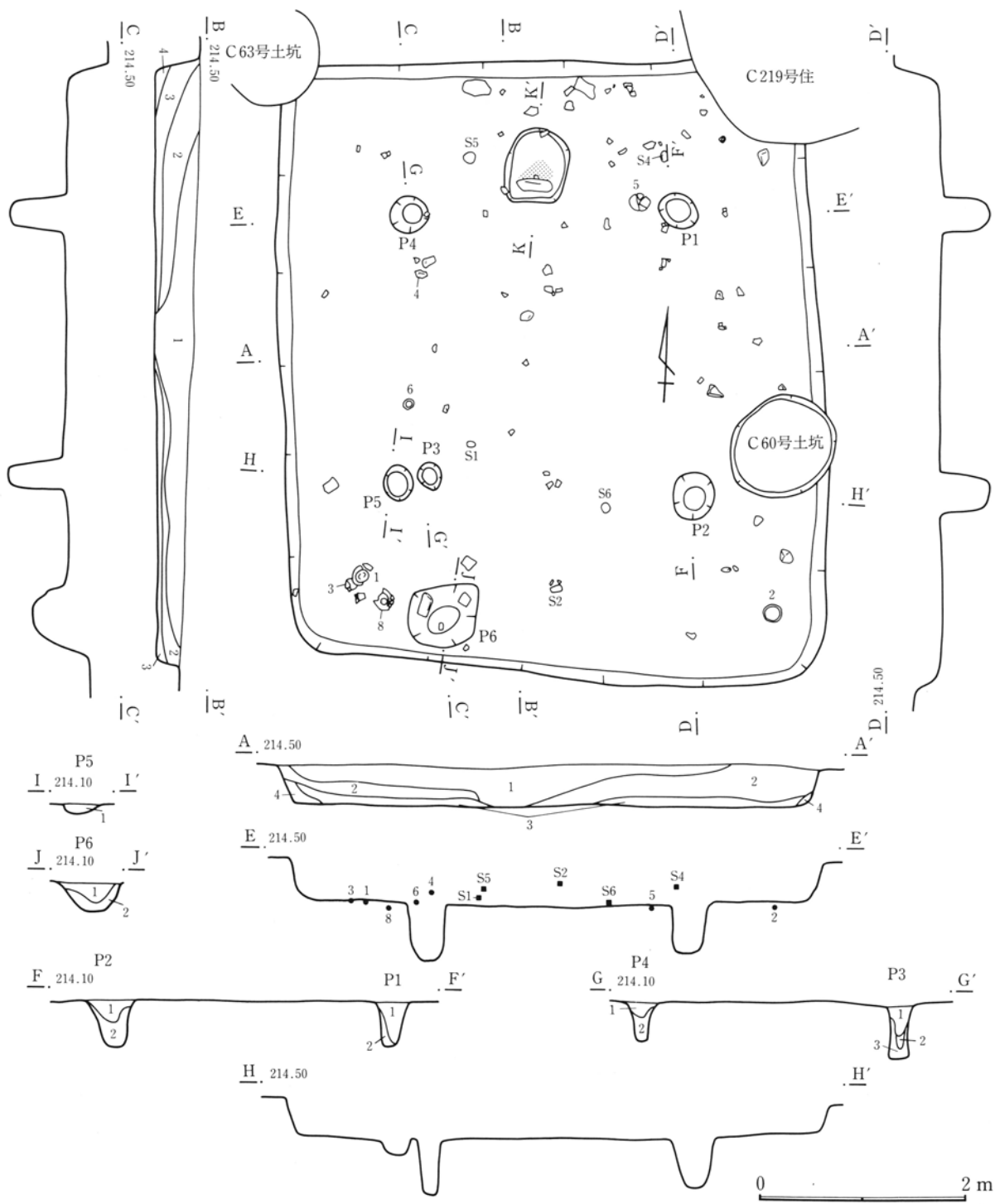
貯蔵穴 南壁際に掘り込まれたP12が相当すると思われる。

柱穴 P1～4の4本が比較的規格に沿った配列であるが、他にも多くのピットが検出されており6本柱、あるいは拡張等が行われたことも考えられる。

炉 中央北寄りに作られる。石は伴わない地床炉で南に径30cm、深さ20cmのピットが掘り込まれている。

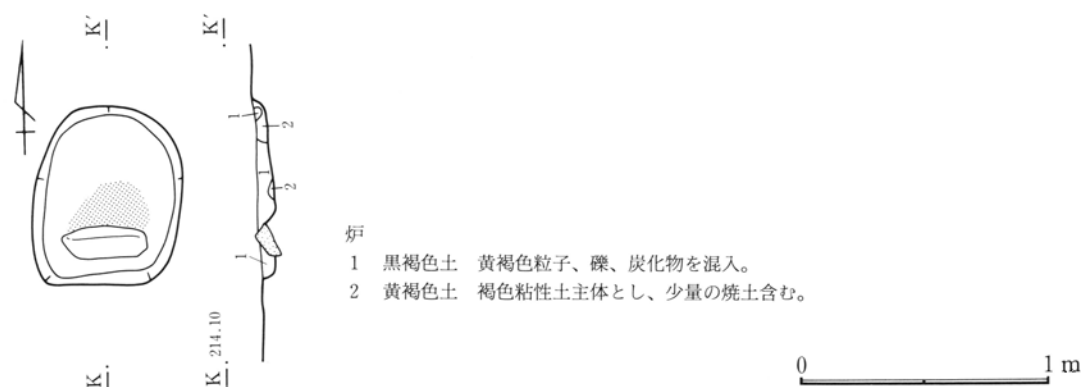
出土遺物 それ程多くはないが、壺、甕、高坏、鉢等が炉の周辺部分を中心に検出されている。

調査所見 東側の一部が調査区外であるために、全容を把握するには至らなかった。柱穴の状況や西壁が部分的に段差を持つことなどから、拡張が行われたことが考えられる。



- |                                     |                                  |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色土 砂礫多く含み、少量の黄色粒子混入。            | 2 暗褐色土 地山褐色粘性土ブロック多く含む砂礫土。       |
| 2 黒褐色土 砂礫多く含み、少量の黄色粒子混入。1より黄色粒子目立つ。 | 3 暗褐色土 地山砂礫多量に混入。若干の褐色粘性土ブロック含む。 |
| 3 黒褐色土 地山黄色礫を含み、上層より色調やや明るい。        | P 5                              |
| 4 暗褐色土 地山黄色礫を多く含み、黄色粘土ブロック若干混入。     | 1 黄褐色土 砂礫、小石を多く含む。               |
| P 1～4                               | P 6                              |
| 1 黒褐色土 砂礫、ローム粒子含む。                  | 1 黒褐色土 小石、黄褐色粒子を少量含む。            |
|                                     | 2 暗褐色土 微砂礫を少量含む。                 |

第259図 C231号住居跡



第260図 C231号住居跡炉

C240号住居跡（第265・266・543図 PL. 47・195）

位置 Cl-41 形状 隅丸方形 規模 長辺3.29m、短辺3.10m、壁高0.43m

重複 北東隅にC241号住居跡（古墳時代）が接する。また、方形のC87号土坑（弥生時代）が北東隅に、C79号土坑（弥生時代）が南東隅部分に重複する。 埋没土 礫を多く含む粗粒土で埋まる。

床面 平坦であるがあまり硬くはなかった。部分的にかなり軟質な部分もある。

貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。

炉 中央西寄りに作られている。長径75cm、短径55cm程の浅い落ち込み中央に長さ28cmの砂岩が据えられ、西側に若干の焼土を検出した。

出土遺物 壺、甕の小破片、鉢が見られたが少ない。

調査所見 小型の隅丸正方形住居である。遺存状態は良好で、壁高も40cm以上を測る。柱穴、貯蔵穴は検出されず、出土遺物も少なかった。

C246号住居跡（第267・544図 PL. 47・195・283）

位置 Cj・k-37・38 形状 隅丸長方形 規模 長辺6.43m、短辺5.41m、壁高0.16m

重複 中央ほとんどの部分をC260号住居跡（古墳時代）に切られており、遺存状態は極めて悪い。

埋没土 埋土はほとんど残っておらず、わずかに小礫と黒褐色土の混土が残る。

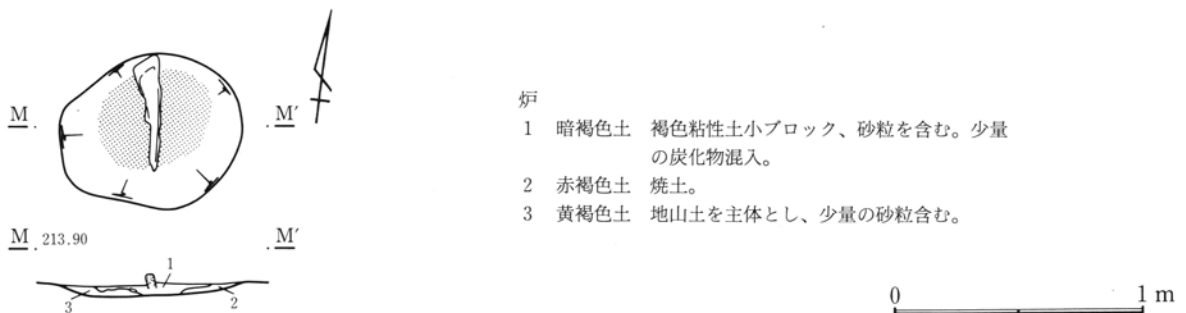
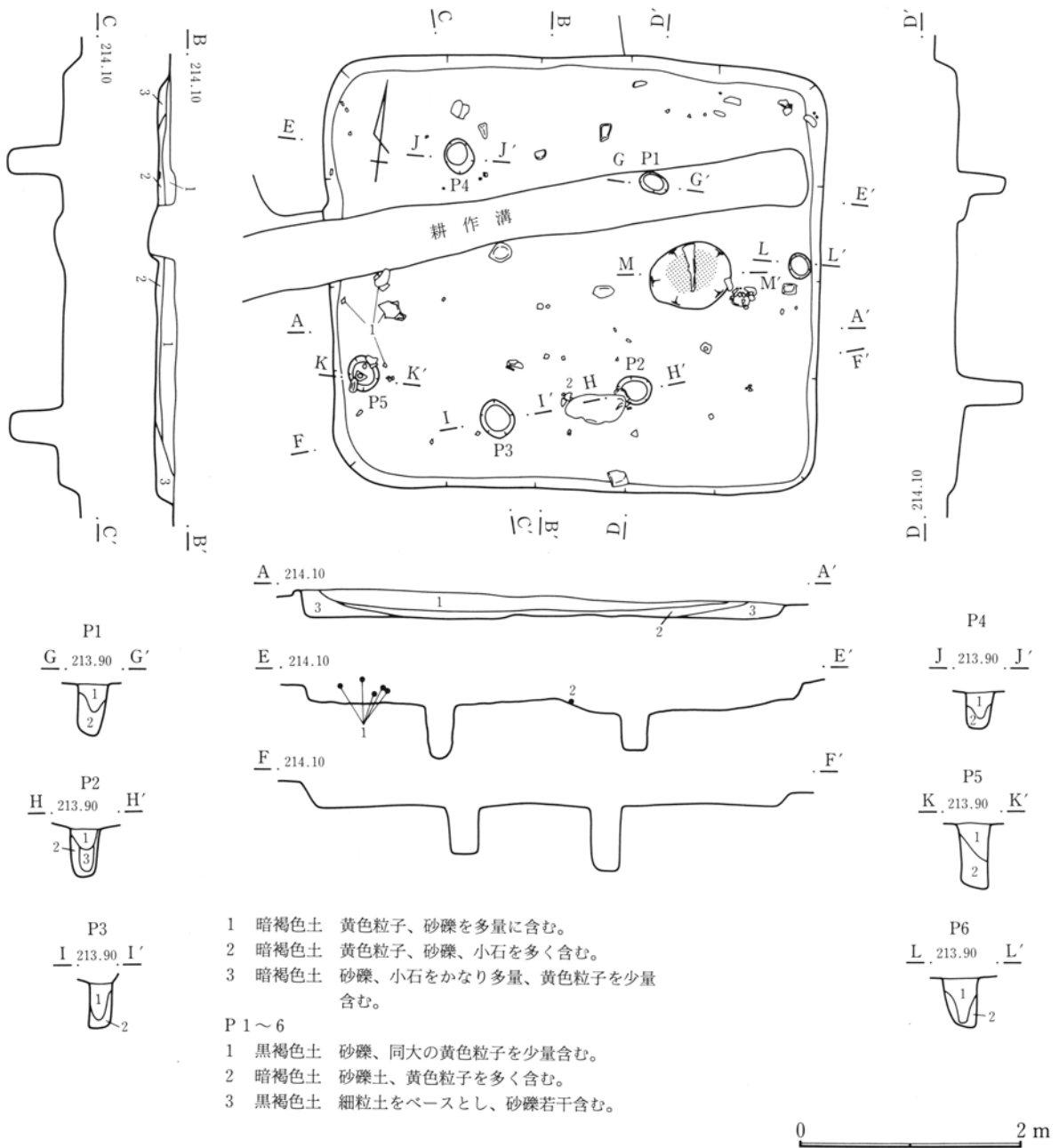
床面 わずかに残った部分で検出したが明瞭な生活面としては捉えられなかった。

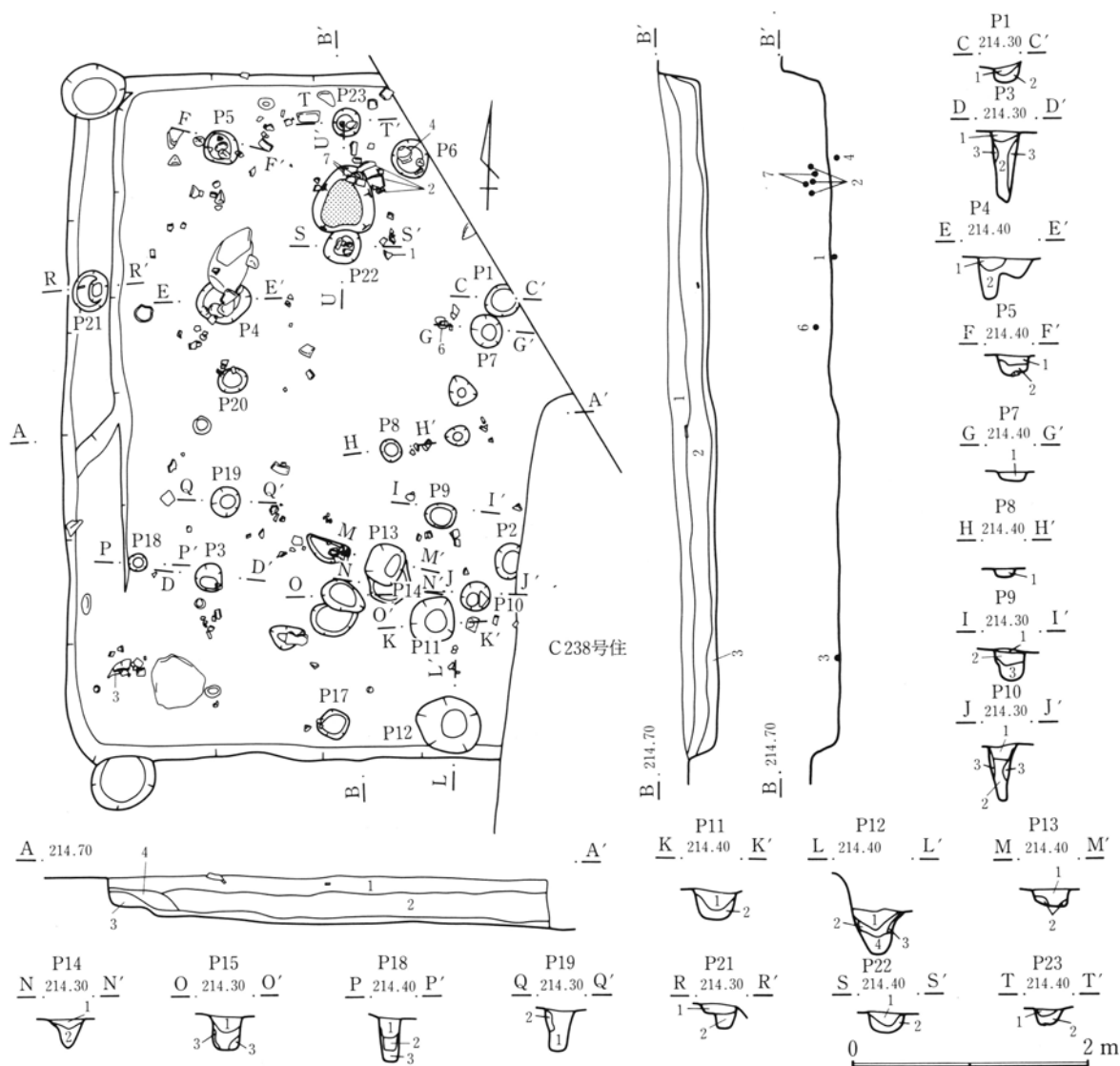
貯蔵穴 検出されなかった。 柱穴 明確に柱穴と判断されたものは確認されなかった。

炉 検出されなかった。

出土遺物 少なかったが壺、甕、台付き甕、高坏等の小破片と土製紡錘車が1点出土している。

調査所見 重複により遺存状態は極めて悪かったが、壁は北壁を除き検出した。炉は削平されている。





C234号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫、やや多く含み、焼土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 明るい色調を呈し、砂礫、やや多く含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、小石をやや多く含み、黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 2に近似するが、粘性あり。

P1

- 1 暗褐色土 粘土ブロック含む砂質土。
- 2 暗褐色土 地山砂粒多く含む。

P3・10・15・19

- 1 黒褐色土 砂粒若干含む。
- 2 黒褐色土 黄色粒子混入。
- 3 暗褐色土 2より黄色粒子の混入多い。

P4

- 1 黒褐色土 粘性持つ黒色土主体。
- 2 黒褐色土 地山粘性土を多く含む。

P5～8・13・22・23

- 1 黒褐色土 砂粒を含み、やや締まる。
- 2 黒褐色土 地山粘性土を主体とし、少量の砂礫を含む。

P9

- 1 黒褐色土 砂礫、小石を少量含む。
- 2 黄褐色土 砂礫を少量含む。

- 3 黄褐色土 やや粘質。微細砂礫を少量含む。

P11

- 1 黒褐色土 砂粒、少量の炭化物混入。
- 2 暗褐色土 小礫を含む。

P12

- 1 黒色土 砂粒多く含む。
- 2 黒褐色土 砂粒多く含む。少量の粘土ブロック含む。
- 3 黒褐色土 地山黄褐色粘土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 地山黄褐色粘土ブロック含む。3より黒味強い。

P14

- 1 黒褐色土 砂礫を含む。
- 2 暗黄褐色土 砂礫を少量含む。

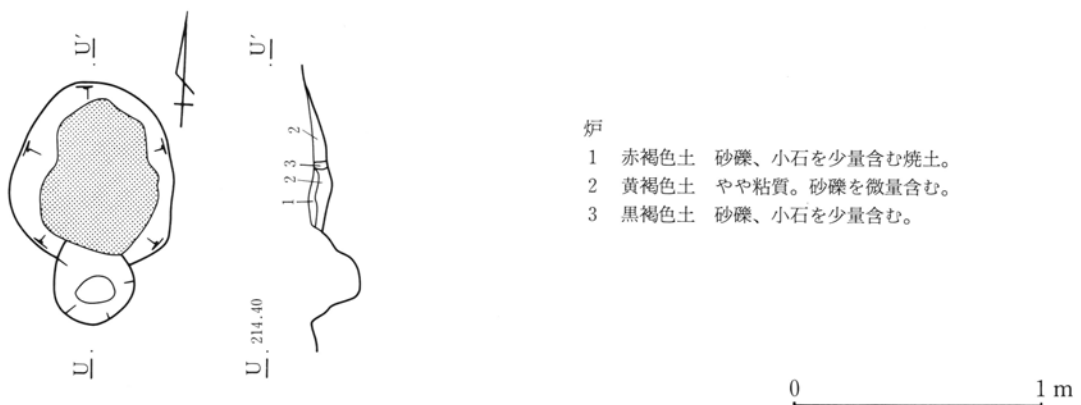
P18

- 1 黒褐色土 砂礫を若干含み、黒味強い。
- 2 黒褐色土 砂礫を若干含み、黒味強い。
- 3 黒褐色土 地山褐色粘性土をブロック状に少量混入。

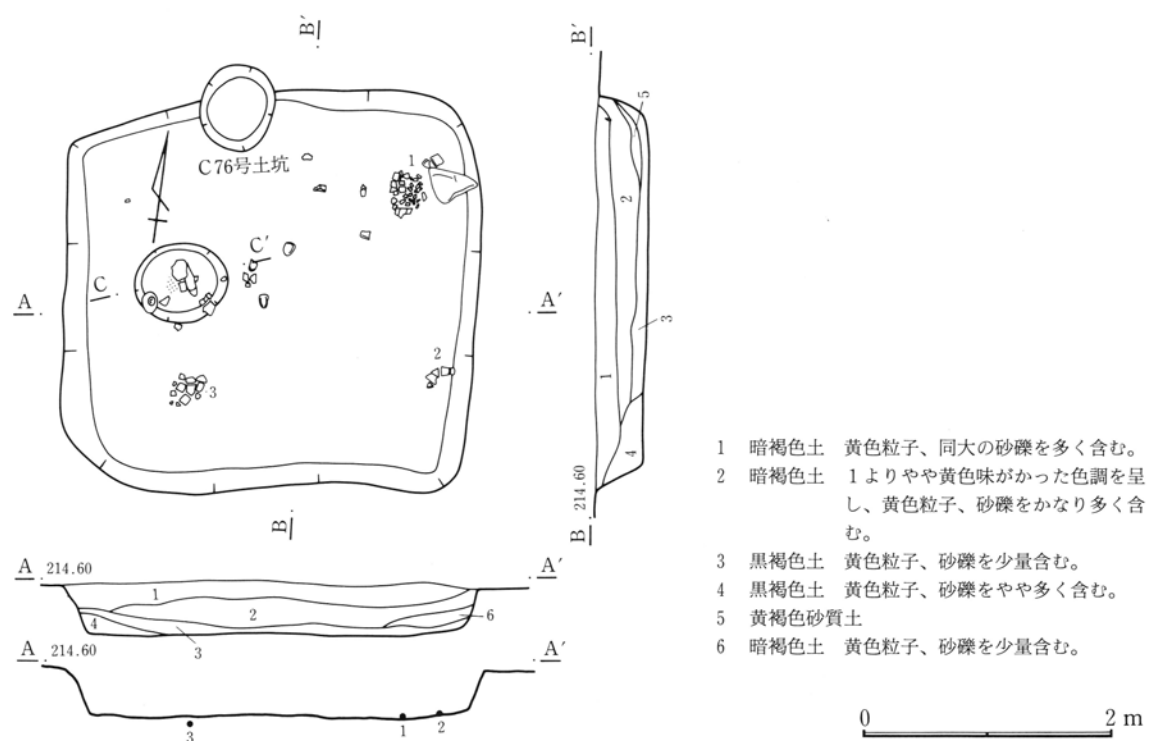
P21

- 1 黒褐色土 砂粒、少量の褐色粘性土粒を混入。
- 2 黒褐色土 砂粒、褐色粘性土多く含む。

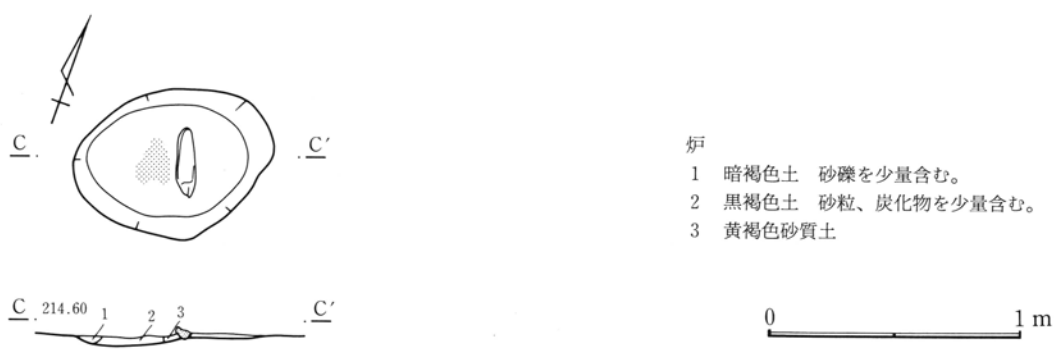
第263図 C234号住居跡



第264図 C234号住居跡炉



第265図 C240号住居跡



第266図 C240号住居跡炉

C 261号住居跡 (第268～270・545・546図 PL. 47・196・283)

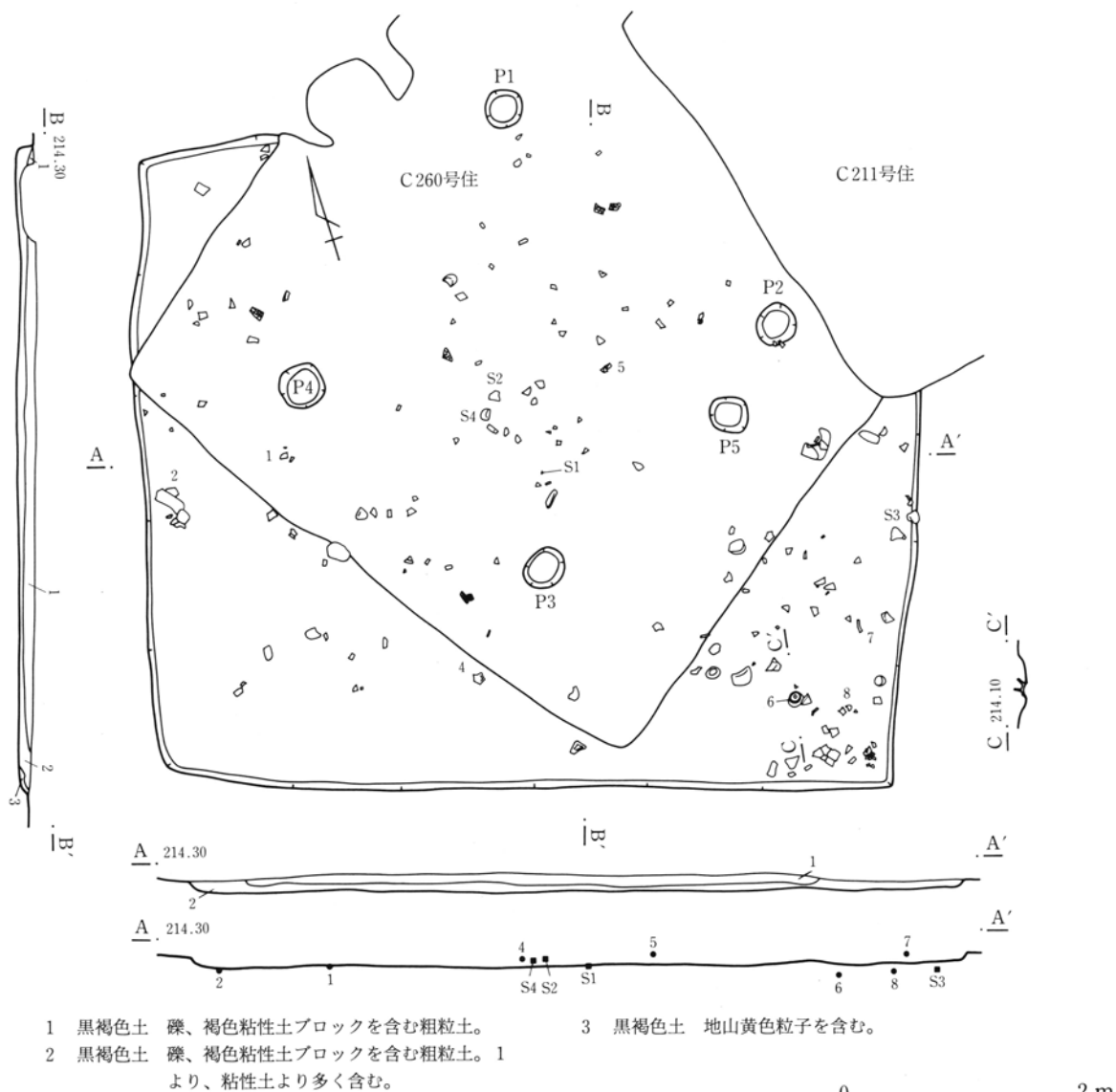
位置 Ch-42・43 形状 隅丸長方形 規模 長辺8.39m、短辺不明、壁高0.34m

重複 長軸方向を東西にとる住居で、南側にC 177号住居跡(奈良時代)、C 222号住居跡(古墳時代)、C 193号住居跡(平安時代)、およびC 195号住居跡(古墳時代)が重複している。埋没土 礫を多く含む粗粒土で埋まるが、礫の混入が特に目立つ。床面 礫を含む地山土が露出している。貯蔵穴 北東隅に検出されている。深さは10cmと極めて浅い。柱穴 北側列の2本が検出されている。いずれも径50cm程で、深さは約30cmである。

炉 住居北寄りP 1の西に接して作られている。長径70cmの浅い落ち込みの中央に長さ40cmの河原石が据えられており、周辺に若干の焼土、炭化物が検出されている。

出土遺物 土器、礫が多く出土している。土器は壺、甕、高坏、鉢等の他に土製紡錘車が1点出土している。

調査所見 比較的大型の住居で、主軸を東西に持つ。南側が大きく削られている。床面は地山が露出しており凹凸が著しい。



第267図 C 246号住居跡

C 262号住居跡（第271・272・547・548図 PL. 47・48・195・283・284）

位置 Cj-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺(5.58)m、短辺5.30m、壁高0.32m

重複 南部分にC 230号住居跡・C 273号住居跡（古墳時代）が重複している。

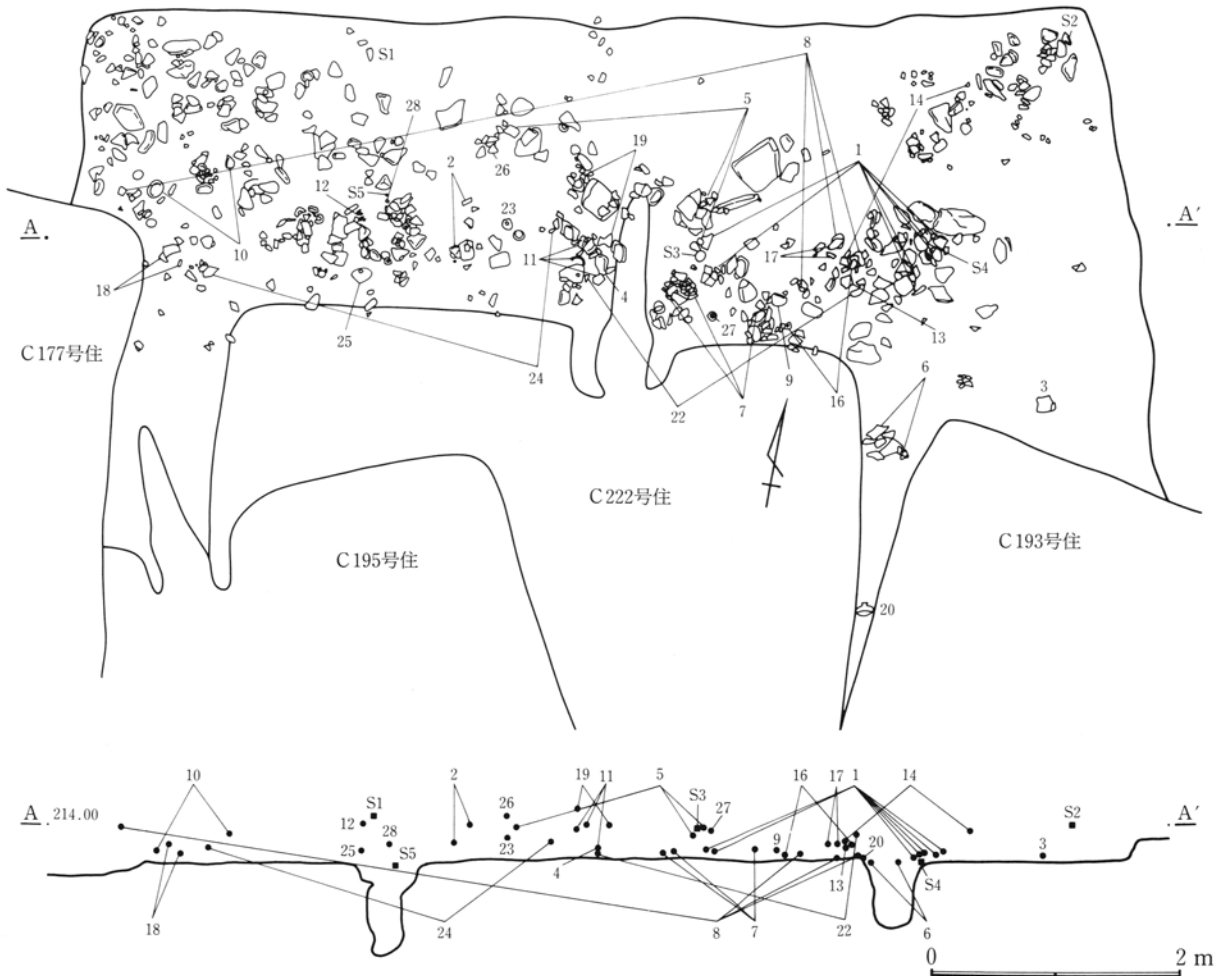
埋没土 小礫多く含む粗粒土で埋まる。 床面 平坦であるが部分的に荒れている。また、炉周辺部分は地山土中の礫の露出が顕著であった。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ほぼ対角線上に4本が検出されている。いずれも径が40cmで、深さは10～15cmとかなり浅い。

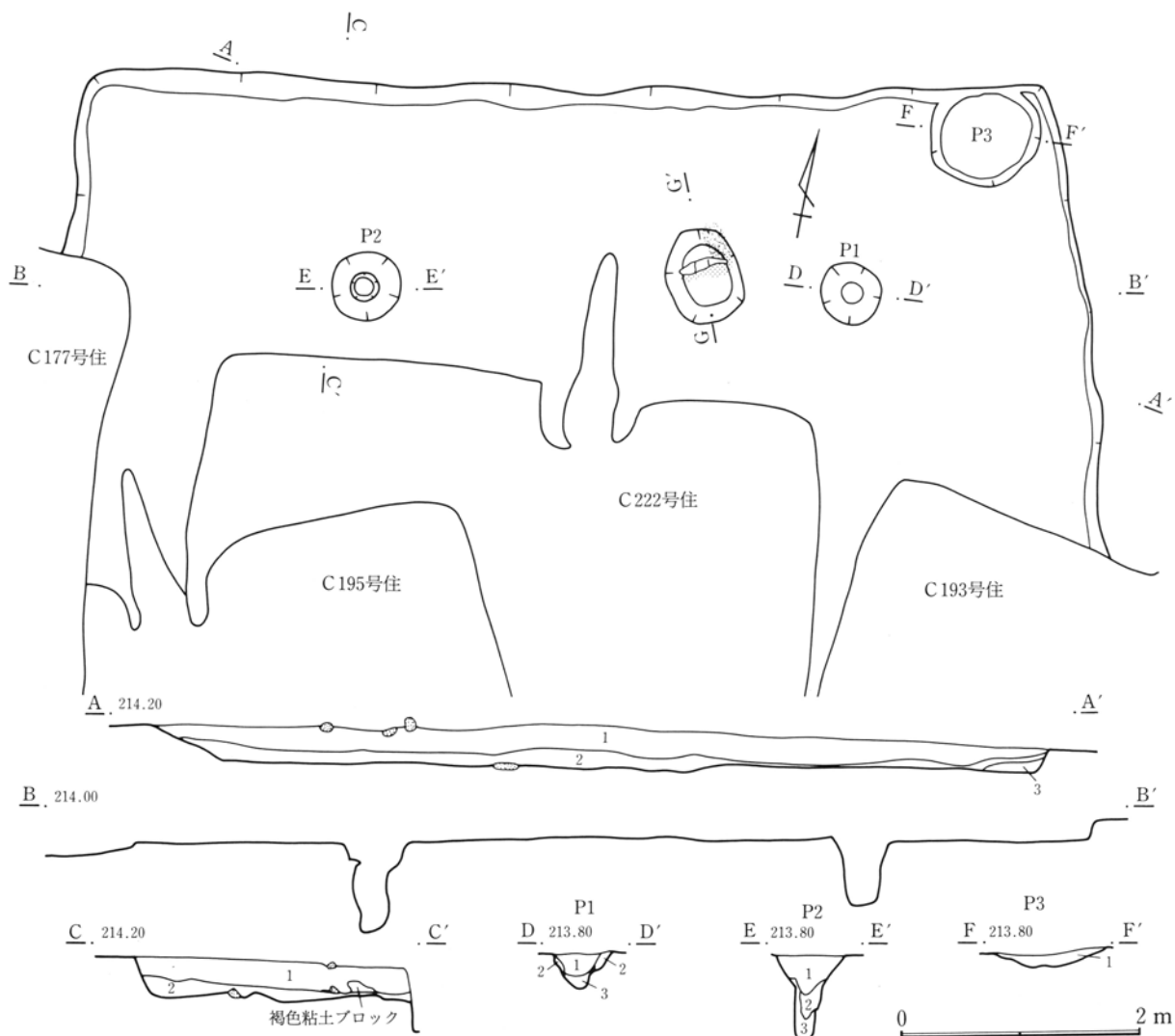
炉 中央北寄りに作られている。わずかに掘り下げられた中央部分に長さ20cmの河原石と長さ15cm程の砂岩をつなぎ合わせたように据えている。炉石の北側を中心に焼土が検出されている。

出土遺物 中央部分に集中する様に、礫と壺、甕、高坏等の土器が検出されている。

調査所見 隅丸正方形を呈す住居で、一部南西部分が壊されてはいたものの遺存状態は比較的良好であった。住居の造られた部分の地山中には礫の混入が多く、柱穴を深く掘り込むことは困難で、柱穴は浅く作られている。



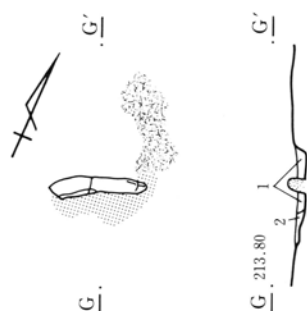
第268図 C 261号住居跡(1)



- 1 黒褐色土 小礫を多く含み、地山黄色粒子の混入も目立つ。  
 2 黒褐色土 1を基調とするが、礫は小さく、地山黄色粒多く含む。  
 3 暗黄褐色土 礫は含まず、地山黄色砂粒多く含む。
- P 1  
 1 暗褐色土 砂礫を多く含み、少量の褐色粘性土混入。  
 2 暗黄褐色土 地山黄褐色粘土ブロック主体とし、礫を含む。

- 3 暗褐色土 1に似るが、粒子均質でやや軟質。
- P 2  
 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。  
 2 黒褐色土 砂礫を多く含む。  
 3 暗黄褐色土 黄褐色砂礫を多く含む。
- P 3  
 1 暗褐色土 砂粒を多量に含む。

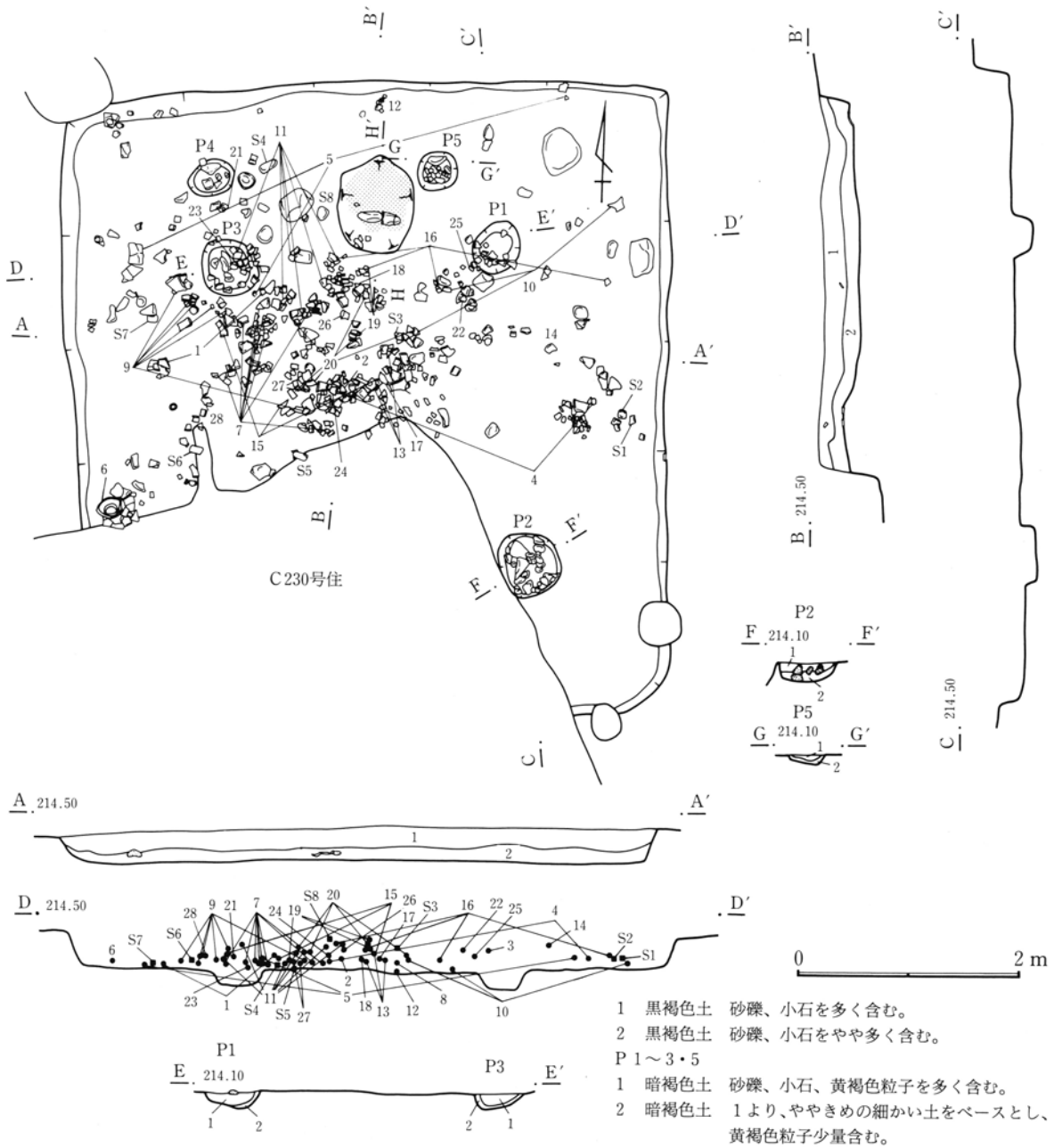
第269図 C261号住居跡(2)



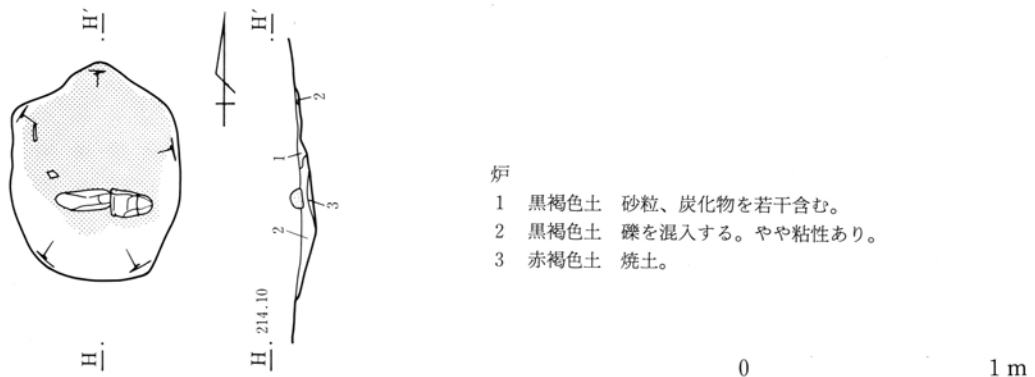
- 炉  
 1 黒褐色土 砂粒含む粗粒土。  
 2 暗赤褐色土 焼土、褐色粘性土の混土。

0 1 m

第270図 C261号住居跡炉



第271図 C262号住居跡



第272図 C262号住居跡炉

C263号住居跡 (第273図 PL. 48・284)

位置 Cn-39 形状 隅丸方形 規模 長辺(3.40)m、短辺3.20m、壁高0.15m

重複 北側をC254号住居跡(古墳時代)によって壊されている。 埋没土 礫を含む砂礫土である。

床面 平坦であるが踏み固められた状況は見られなかった。 貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。 炉 検出されなかった。 出土遺物 ほとんどなかった。

調査所見 隅丸正方形を呈し掘り込みは浅い。炉、柱穴等の住居内施設も検出されず、住居とするにはやや疑問のある遺構である。

C267号住居跡 (第274～277・549・550図 PL. 48・197・284)

位置 Cp・q-37 形状 隅丸長方形 規模 長辺7.48m、短辺5.43m、壁高0.70m

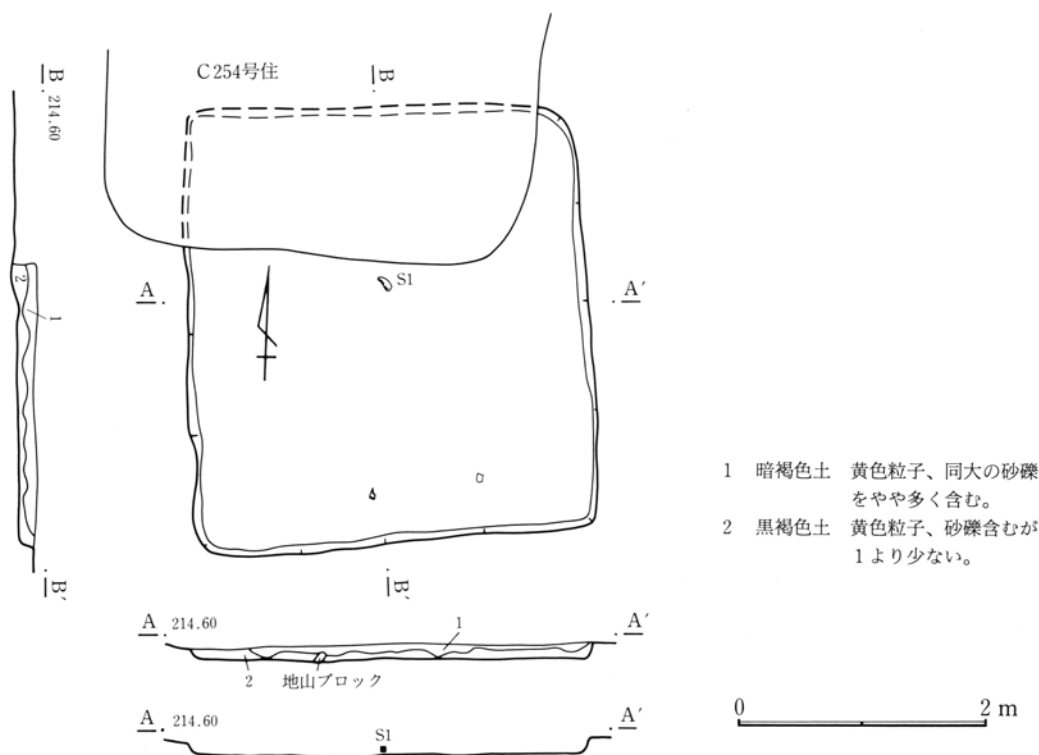
重複 北東隅が調査区の東壁にあたり調査区外となる。またC266号住居跡(古墳時代)が北東部、覆土上面に重複するが不明瞭である。 埋没土 礫を含み、褐色、黄褐色の粒子が多く混入する。

床面 平坦であるが、掘り込んだ地山面を、そのまま生活面として使用していたものと思われるが、地山土坑中の礫の露出が目立つ。 貯蔵穴 南壁のやや西よりに掘り込まれる。五角形を呈し、深さは約30cmである。掘り込み面に地山の礫が顕著に見られる。

柱穴 4本主柱穴と思われるが、中央にも1本の柱穴が検出されている。また、北及び西壁下には1～2mの間隔で壁柱穴が巡る。

炉 炉と判断された施設が計4カ所検出された。

1号炉 北よりP1とP4の間に検出された。瓢箪状の浅い掘り込みのくびれ部分に、長さ27cmの砂岩が据えられている。火床面には礫の露出が目立つ。



第273図 C263号住居跡